

志木市の文化財 第97集

埼玉県志木市

# 埋蔵文化財調査報告書 11

西原大塚遺跡第35地点

2024

埼玉県志木市教育委員会







108号住居跡出土人面把手付土器







108号住居跡出土遺物・展開写真







102J-5



112J-2



112J-3



112J-7



118J-5





# はじめに

志木市教育委員会

教育長 柚木 博

ここに刊行する『埋蔵文化財調査報告書 11』は、志木市遺跡調査会が実施した発掘調査事業の調査成果を志木市教育委員会がまとめたものです。今回は、西原大塚遺跡第 35 地点を掲載しています。

現在、市内には、15 か所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

西原大塚遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

特に、縄文時代中期では、200 軒以上の住居跡が土坑域を囲むように分布しており、「環状集落」と呼ばれる縄文時代特有の集落が形成されていたことが分かっています。また、弥生時代後期から古墳時代前期では、今回の検出例を含め 670 軒を超える住居跡が発見されており、県内屈指の集落跡として知られています。

さて、今回の第 35 地点では、縄文時代中期の住居跡 20 軒・土坑 26 基、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡 5 軒・方形周溝墓 2 基、平安時代の住居跡 2 軒、中世以降の溝跡 2 本などの遺構が見つかりました。また、遺物では、108 号住居跡から縄文時代中期の人面把手付土器が出土しており、貴重な発見となっております。

今後、この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。



# 例 言

1. 本書は、埼玉県志木市に所在する西原大塚遺跡（県№.09－007）の第35地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、志木市教育委員会の斡旋により、事業者から志木市遺跡調査会（会長 秋山太蔵）が委託を受け、佐々木保俊が調査担当者を務めて実施した。整理作業及び報告書刊行作業は、志木市教育委員会を調査主体者とし、有限会社アルケアーリサーチに調査支援業務を委託した。
3. 本書の作成において、編集は中村真理・松木綾子が行い、徳留彰紀が監修した。執筆分担は下記のとおり。なお、西原大塚遺跡108号住居跡出土人面把手付土器について、人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授中村耕作氏に玉稿を賜った。記して御礼申し上げる。

尾形則敏 第1章第1節

徳留彰紀 第1章第2節、第2章、第4章第1・2節

松木綾子 第3章第1・3・4・5節

中村真理 第3章第2節

新海達也 第3章第1～5節（石器部分）

藤波啓容 第4章第3節

4. 遺物の実測は、中村真理・松木綾子・大賀秀実・新海達也・田中 歩・本望礼子・山崎芳春が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは田中 歩・岩澤朋子が行った。写真撮影は松本和延が行った。
5. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。
6. 調査組織

【志木市遺跡調査会】（平成8年度）

## ○発掘作業

担 当 者 佐々木保俊

調 査 員 内野美津江

参 加 者 朝 香 輝 郎・足 立 裕 子・阿 部 公 子・伊野部三千子・大平祐子・岸田純一  
金野照子・鈴木美佐江・鈴木百合香・砂川春子・高倉光代・高橋恭子  
竹内美代子・塚田和枝・土屋富子・永井真理・東浦久美子・久留浪子  
成田しのぶ・二階堂美知子・松崎陽子・広沢奈津子・宮川幸佳・柳沢美子  
矢野恵子・油橋由美・吉谷顕子

【志木市教育委員会】（令和5年度）

教 育 長 柚木 博

教 育 政 策 部 長 今野美香

生 涯 学 習 課 長 土崎健太

生 涯 学 習 課 副 課 長 吉成和重

生 涯 学 習 課 主 査 徳留彰紀

〃 大久保 聡



|             |               |
|-------------|---------------|
| 生涯学習課主任     | 尾形則敏          |
| 〃           | 石川千尋          |
| 〃           | 塚原会理（～令和5年6月） |
| 生涯学習課主事     | 木村結香          |
| 生涯学習課主事補    | 吉田優奈（令和5年8月～） |
| 志木市文化財保護審議会 | 井上國夫（会長）      |
| 〃           | 深瀬 克（委員）      |
| 〃           | 上野守嘉（委員）      |
| 〃           | 新田泰男（委員）      |
| 〃           | 大木雄平（委員）      |

○整理作業

|       |   |
|-------|---|
| 担当者   | 徳留彰紀・大久保 聡・尾形則敏・木村結香                                |
| 調査員   | 深井恵子・青木 修   |
| 調査補助員 | 星野恵美子   |
| 整理作業員 | 池野谷有紀・小林詠美子・片山 望・二階堂美知子・松浦恵子・山口優子<br>秋山良友・福田浩明・田中弥緒 |

【有限会社アルケアーサーチ】

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 調査員   | 藤波啓容                     |
| 調査補助員 | 中村真理・松木綾子・大賀秀実・新海達也・山崎芳春 |
| 整理作業員 | 田中 歩・松本和延・岩澤朋子・本望礼子      |

7. 各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館  
五十嵐 睦・江原 順・照林敏郎・野沢 均・早坂廣人・宮田圭祐・山本典幸

## 凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1：10,000「志木市全図」株式会社パスコ調製

第2図 1：2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行  
株式会社ゼンリン

2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。
3. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
4. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。
5. ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。
6. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
7. 挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。
8. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は〔 〕、推定値は（ ）を付した。

高：器高 口：口径 底：底径 厚：器厚

9. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

J = 縄文時代の住居跡 Y = 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡

方 = 弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓 H = 奈良・平安時代の住居跡 M = 溝跡

柵 = 柵列 D = 土坑 S = 集石 P = ピット

# 目 次

巻頭図版

はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿 図 目 次／表 目 次／図 版 目 次

|                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| 第1章 遺跡の立地と環境                       | 1   |
| 第1節 市域の地形と遺跡                       | 1   |
| 第2節 遺跡の概要                          | 12  |
| 第2章 発掘調査の概要                        | 17  |
| 第1節 調査に至る経緯                        | 17  |
| 第2節 発掘調査の経過                        | 17  |
| 第3章 検出された遺構・遺物                     | 22  |
| 第1節 縄文時代の遺構・遺物                     | 22  |
| 第2節 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構・遺物           | 252 |
| 第3節 奈良・平安時代の遺構・遺物                  | 267 |
| 第4節 中世以降の遺構・遺物                     | 279 |
| 第5節 遺構外出土遺物                        | 286 |
| 第4章 調査のまとめ                         | 301 |
| 第1節 西原大塚遺跡第35地点出土の縄文時代中期の土器について    | 301 |
| 第2節 西原大塚遺跡の縄文時代中期集落の変遷について         | 309 |
| 第3節 西原大塚遺跡出土の記号土器について              | 313 |
| 付 編                                | 317 |
| I. 勝坂式土器の複雑化と西原大塚遺跡出土の顔面把手・蛇体把手付土器 | 319 |
| II. ガラス小玉蛍光X線分析                    | 333 |

図 版

報告書抄録

# 挿図目次

|        |                                   |    |        |                                |     |
|--------|-----------------------------------|----|--------|--------------------------------|-----|
| 第 1 図  | 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000) ……………       | 2  | 第 37 図 | 105 号住居跡出土遺物 6 (1/3) ……………     | 64  |
| 第 2 図  | 西原大塚遺跡の調査地点 (1/5,000) ……………       | 13 | 第 38 図 | 106 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………   | 68  |
| 第 3 図  | 遺構分布図 (1/300) ……………               | 21 | 第 39 図 | 106 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………    | 69  |
| 第 4 図  | 縄文時代遺構全体図 (1/400) ……………           | 22 | 第 40 図 | 106 号住居跡出土遺物 1 (1/4・1/3) …………… | 69  |
| 第 5 図  | 101 号住居跡 (1/60) ……………             | 23 | 第 41 図 | 106 号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………     | 70  |
| 第 6 図  | 101 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………       | 24 | 第 42 図 | 106 号住居跡出土遺物 3 (1/3・2/3) …………… | 71  |
| 第 7 図  | 101 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………        | 24 | 第 43 図 | 106 号住居跡出土遺物 4 (1/3) ……………     | 72  |
| 第 8 図  | 101 号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………        | 25 | 第 44 図 | 106 号住居跡出土遺物 5 (1/3) ……………     | 73  |
| 第 9 図  | 102 号住居跡・102 号住居跡遺物出土状態 (1/60) …… | 28 | 第 45 図 | 107 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………   | 76  |
| 第 10 図 | 102 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………        | 29 | 第 46 図 | 107 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………    | 77  |
| 第 11 図 | 102 号住居跡出土遺物 2 (1/4) ……………        | 30 | 第 47 図 | 107 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………     | 77  |
| 第 12 図 | 102 号住居跡出土遺物 3 (1/4・1/3) ……………    | 31 | 第 48 図 | 107 号住居跡出土遺物 2 (1/4・1/3) …………… | 78  |
| 第 13 図 | 102 号住居跡出土遺物 4 (1/3) ……………        | 32 | 第 49 図 | 107 号住居跡出土遺物 3 (1/3) ……………     | 79  |
| 第 14 図 | 102 号住居跡出土遺物 5 (1/3) ……………        | 33 | 第 50 図 | 107 号住居跡出土遺物 4 (1/3) ……………     | 80  |
| 第 15 図 | 103 号住居跡・炉・埋嚢 (1/60・1/30) ……………   | 37 | 第 51 図 | 107 号住居跡出土遺物 5 (1/3) ……………     | 81  |
| 第 16 図 | 103 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………       | 38 | 第 52 図 | 108 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………   | 85  |
| 第 17 図 | 103 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………        | 38 | 第 53 図 | 108 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………    | 86  |
| 第 18 図 | 103 号住居跡出土遺物 2 (1/4) ……………        | 39 | 第 54 図 | 108 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………     | 88  |
| 第 19 図 | 103 号住居跡出土遺物 3 (1/4・1/3) ……………    | 40 | 第 55 図 | 108 号住居跡出土遺物 2 (1/4) ……………     | 89  |
| 第 20 図 | 103 号住居跡出土遺物 4 (1/3) ……………        | 41 | 第 56 図 | 108 号住居跡出土遺物 3 (1/4) ……………     | 90  |
| 第 21 図 | 103 号住居跡出土遺物 5 (1/3) ……………        | 42 | 第 57 図 | 108 号住居跡出土遺物 4 (1/4) ……………     | 91  |
| 第 22 図 | 103 号住居跡出土遺物 6 (1/3・2/3) ……………    | 43 | 第 58 図 | 108 号住居跡出土遺物 5 (1/4) ……………     | 92  |
| 第 23 図 | 103 号住居跡出土遺物 7 (1/3・2/3) ……………    | 44 | 第 59 図 | 108 号住居跡出土遺物 6 (1/4) ……………     | 93  |
| 第 24 図 | 104 号住居跡・炉・埋嚢 (1/60・1/30) ……………   | 50 | 第 60 図 | 108 号住居跡出土遺物 7 (1/4) ……………     | 94  |
| 第 25 図 | 104 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………       | 51 | 第 61 図 | 108 号住居跡出土遺物 8 (1/4) ……………     | 95  |
| 第 26 図 | 104 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………        | 51 | 第 62 図 | 108 号住居跡出土遺物 9 (1/4) ……………     | 96  |
| 第 27 図 | 104 号住居跡出土遺物 2 (1/4・1/3) ……………    | 52 | 第 63 図 | 108 号住居跡出土遺物 10 (1/4) ……………    | 97  |
| 第 28 図 | 104 号住居跡出土遺物 3 (1/3・2/3) ……………    | 53 | 第 64 図 | 108 号住居跡出土遺物 11 (1/4) ……………    | 98  |
| 第 29 図 | 104 号住居跡出土遺物 4 (1/4・1/3・2/3) ……   | 54 | 第 65 図 | 108 号住居跡出土遺物 12 (1/4) ……………    | 99  |
| 第 30 図 | 105 号住居跡 (1/60) ……………             | 58 | 第 66 図 | 108 号住居跡出土遺物 13 (1/4) ……………    | 100 |
| 第 31 図 | 105 号住居跡炉・遺物出土状態 (1/30・1/60) ……   | 59 | 第 67 図 | 108 号住居跡出土遺物 14 (1/4) ……………    | 101 |
| 第 32 図 | 105 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………        | 59 | 第 68 図 | 108 号住居跡出土遺物 15 (1/4) ……………    | 102 |
| 第 33 図 | 105 号住居跡出土遺物 2 (1/4) ……………        | 60 | 第 69 図 | 108 号住居跡出土遺物 16 (1/4) ……………    | 103 |
| 第 34 図 | 105 号住居跡出土遺物 3 (1/4・1/3) ……………    | 61 | 第 70 図 | 108 号住居跡出土遺物 17 (1/4・1/3) ……   | 104 |
| 第 35 図 | 105 号住居跡出土遺物 4 (1/3・2/3) ……………    | 62 | 第 71 図 | 108 号住居跡出土遺物 18 (1/3) ……………    | 105 |
| 第 36 図 | 105 号住居跡出土遺物 5 (1/3・2/3) ……………    | 63 | 第 72 図 | 108 号住居跡出土遺物 19 (1/3) ……………    | 106 |

|        |                                  |     |        |                                 |     |
|--------|----------------------------------|-----|--------|---------------------------------|-----|
| 第73 图  | 108号住居跡出土遺物 20 (1/3) ……………       | 107 | 第111 图 | 114号住居跡出土遺物 4 (1/3·2/3) ………     | 163 |
| 第74 图  | 108号住居跡出土遺物 21 (1/3·2/3) ……      | 108 | 第112 图 | 114号住居跡出土遺物 5 (1/3·2/3) ………     | 164 |
| 第75 图  | 108号住居跡出土遺物 22 (1/3·2/3) ……      | 109 | 第113 图 | 115号住居跡· 炉 (1/60·1/30) ……………    | 167 |
| 第76 图  | 109号住居跡 (1/60·1/30) ……………        | 118 | 第114 图 | 115号住居跡出土遺物 (1/3) ……………         | 168 |
| 第77 图  | 109号住居跡遺物出土狀態 (1/60) ………         | 119 | 第115 图 | 116号住居跡· 炉 (1/60·1/30) ……………    | 170 |
| 第78 图  | 109号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………        | 119 | 第116 图 | 116号住居跡出土狀態 (1/60) ……………        | 171 |
| 第79 图  | 109号住居跡出土遺物 2 (1/4·1/3) ………      | 120 | 第117 图 | 116号住居跡出土遺物 1 (1/4·1/3) ………     | 172 |
| 第80 图  | 109号住居跡出土遺物 3 (1/3) ……………        | 121 | 第118 图 | 116号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………       | 173 |
| 第81 图  | 109号住居跡出土遺物 4 (1/3) ……………        | 122 | 第119 图 | 116号住居跡出土遺物 3 (1/3·2/3) ………     | 174 |
| 第82 图  | 109号住居跡出土遺物 5 (1/3·2/3) ………      | 123 | 第120 图 | 117号住居跡· 炉 (1/60·1/30) ……………    | 177 |
| 第83 图  | 109号住居跡出土遺物 6 (1/3·2/3) ………      | 124 | 第121 图 | 117号住居跡出土遺物 1 (1/4·1/3) ………     | 178 |
| 第84 图  | 109号住居跡出土遺物 7 (1/3) ……………        | 125 | 第122 图 | 117号住居跡出土遺物 2 (1/3·2/3) ………     | 179 |
| 第85 图  | 110号住居跡· 炉· 遺物出土狀態 (1/60·1/30) … | 130 | 第123 图 | 118号住居跡 1 (1/60) ……………          | 183 |
| 第86 图  | 110号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………        | 131 | 第124 图 | 118号住居跡 2 (1/60) ……………          | 184 |
| 第87 图  | 110号住居跡出土遺物 2 (1/4·1/3) ………      | 132 | 第125 图 | 118号住居跡· 炉 (1/30·1/150) ………     | 185 |
| 第88 图  | 110号住居跡出土遺物 3 (1/3·2/3) ………      | 133 | 第126 图 | 118号住居跡遺物出土狀態 (1/60) ………        | 186 |
| 第89 图  | 110号住居跡出土遺物 4 (1/3·2/3) ………      | 134 | 第127 图 | 118号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………       | 187 |
| 第90 图  | 111号住居跡· 遺物出土狀態 (1/60) ………       | 137 | 第128 图 | 118号住居跡出土遺物 2 (1/4) ……………       | 188 |
| 第91 图  | 111号住居跡出土遺物 1 (1/4·1/3) ………      | 138 | 第129 图 | 118号住居跡出土遺物 3 (1/4) ……………       | 189 |
| 第92 图  | 111号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………        | 139 | 第130 图 | 118号住居跡出土遺物 4 (1/4·1/3) ………     | 190 |
| 第93 图  | 111号住居跡出土遺物 3 (1/3) ……………        | 140 | 第131 图 | 118号住居跡出土遺物 5 (1/3) ……………       | 191 |
| 第94 图  | 112号住居跡· 炉 (1/60·1/30) ……………     | 143 | 第132 图 | 118号住居跡出土遺物 6 (1/3) ……………       | 192 |
| 第95 图  | 112号住居跡遺物出土狀態 (1/60) ………         | 144 | 第133 图 | 118号住居跡出土遺物 7 (1/3) ……………       | 193 |
| 第96 图  | 112号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………        | 145 | 第134 图 | 118号住居跡出土遺物 8 (1/3) ……………       | 194 |
| 第97 图  | 112号住居跡出土遺物 2 (1/4) ……………        | 146 | 第135 图 | 118号住居跡出土遺物 9 (1/3·2/3) ………     | 195 |
| 第98 图  | 112号住居跡出土遺物 3 (1/4·1/3) ………      | 147 | 第136 图 | 118号住居跡出土遺物 10 (1/3) ………        | 196 |
| 第99 图  | 112号住居跡出土遺物 4 (1/3) ……………        | 148 | 第137 图 | 118号住居跡出土遺物 11 (1/5·1/3·2/3) …… | 197 |
| 第100 图 | 112号住居跡出土遺物 5 (1/3·2/3) ………      | 149 | 第138 图 | 119号住居跡· 炉 (1/30·1/60) ……………    | 205 |
| 第101 图 | 112号住居跡出土遺物 6 (1/4·1/3·2/3) …    | 150 | 第139 图 | 119号住居跡出土遺物 1 (1/4·1/3) ………     | 206 |
| 第102 图 | 113号住居跡· 炉 (1/60·1/30) ……………     | 154 | 第140 图 | 119号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………       | 207 |
| 第103 图 | 113号住居跡出土遺物 1 (1/3·2/3) ………      | 155 | 第141 图 | 119号住居跡出土遺物 3 (1/4·1/3·2/3) …   | 208 |
| 第104 图 | 113号住居跡出土遺物 2 (1/4·1/3) ………      | 156 | 第142 图 | 120号住居跡· 炉 (1/60·1/30) ……………    | 211 |
| 第105 图 | 114号住居跡 1 (1/60) ……………           | 158 | 第143 图 | 120号住居跡出土遺物 1 (1/4·1/3) ………     | 212 |
| 第106 图 | 114号住居跡 2· 炉· 埋甕 (1/60·1/30) …   | 159 | 第144 图 | 120号住居跡出土遺物 2 (1/3·2/3) ………     | 213 |
| 第107 图 | 114号住居跡遺物出土狀態 (1/60) ………         | 160 | 第145 图 | 120号住居跡出土遺物 3 (1/3) ……………       | 214 |
| 第108 图 | 114号住居跡出土遺物 1 (1/4·1/3) ………      | 160 | 第146 图 | 2号埋甕 (1/30) ……………               | 216 |
| 第109 图 | 114号住居跡出土遺物 2 (1/4·1/3) ………      | 161 | 第147 图 | 2号埋甕出土遺物 1 (1/4·1/3) ………        | 216 |
| 第110 图 | 114号住居跡出土遺物 3 (1/3) ……………        | 162 | 第148 图 | 2号埋甕出土遺物 2 (1/3) ……………          | 217 |

|   |     |   |     |
|---|-----|---|-----|
| 第149図 縄文時代土坑1 (1/60) ……………              | 227 | 第187図 9号住居跡出土遺物3 (1/4・1/3) ……………              | 272 |
| 第150図 縄文時代土坑2 (1/60) ……………              | 228 | 第188図 10号住居跡・カマド (1/60・1/30) ……………            | 275 |
| 第151図 縄文時代土坑3 (1/60) ……………              | 229 | 第189図 10号住居跡出土遺物1 (1/4) ……………                 | 275 |
| 第152図 縄文時代土坑出土遺物1 (1/3) ……………           | 231 | 第190図 10号住居跡出土遺物2 (1/4) ……………                 | 276 |
| 第153図 縄文時代土坑出土遺物2 (1/4・1/3) ……………       | 232 | 第191図 12号溝跡 (1/60) ……………                      | 277 |
| 第154図 縄文時代土坑出土遺物3 (1/4・1/3) ……………       | 233 | 第192図 13号溝跡 (1/60・1/150) ……………                | 278 |
| 第155図 縄文時代土坑出土遺物4 (1/4・1/3) ……………       | 234 | 第193図 13号溝跡出土遺物 (1/3) ……………                   | 278 |
| 第156図 縄文時代土坑出土遺物5 (1/3) ……………           | 235 | 第194図 中世以降遺構全体図 (1/400) ……………                 | 279 |
| 第157図 縄文時代土坑出土遺物6 (1/4・1/3) ……………       | 236 | 第195図 7号柵列1 (1/60・1/300) ……………                | 280 |
| 第158図 縄文時代土坑出土遺物7 (1/3) ……………           | 237 | 第196図 7号柵列2 (1/60・1/300) ……………                | 281 |
| 第159図 縄文時代土坑出土遺物8 (1/4・1/3) ……………       | 238 | 第197図 7号柵列3 (1/60・1/300) ……………                | 282 |
| 第160図 縄文時代土坑出土遺物9 (1/3) ……………           | 239 | 第198図 7号柵列出土遺物 (1/3) ……………                    | 283 |
| 第161図 縄文時代土坑出土遺物10 (1/4・1/3) ……………      | 240 | 第199図 6～10号集石 (1/30) ……………                    | 285 |
| 第162図 縄文時代土坑出土遺物11 (1/3) ……………          | 241 | 第200図 縄文時代遺構外出土遺物1 (1/4・1/3) ……………            | 287 |
| 第163図 縄文時代土坑出土遺物12 (1/3) ……………          | 242 | 第201図 縄文時代遺構外出土遺物2 (1/3) ……………                | 288 |
| 第164図 縄文時代集石 (1/30) ……………               | 249 | 第202図 縄文時代遺構外出土遺物3 (1/3) ……………                | 289 |
| 第165図 縄文時代集石出土遺物1 (1/3) ……………           | 250 | 第203図 縄文時代遺構外出土遺物4 (1/3) ……………                | 290 |
| 第166図 縄文時代集石出土遺物2 (1/3) ……………           | 251 | 第204図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土遺物(1/4・1/3) ……………     | 291 |
| 第167図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構全体図(1/400) ……………   | 252 | 第205図 奈良・平安時代遺構外出土遺物 (1/4・1/3) ……………          | 291 |
| 第168図 106号住居跡 (1/60) ……………              | 253 | 第206図 中世以降遺構外出土遺物 (1/3) ……………                 | 291 |
| 第169図 106号住居跡出土遺物 (1/4・1/3) ……………       | 254 | 第207図 遺構外出土石器1 (1/3・2/3) ……………                | 292 |
| 第170図 145号住居跡 (1/60) ……………              | 256 | 第208図 遺構外出土石器2 (1/3) ……………                    | 293 |
| 第171図 145号住居跡出土遺物 (1/4・1/3) ……………       | 256 | 第209図 遺構外出土石器3 (1/3・2/3) ……………                | 294 |
| 第172図 146号住居跡 (1/60) ……………              | 258 | 第210図 西原大塚遺跡第35地点出土土器編年図①(1/12) ……………         | 304 |
| 第173図 146号住居跡出土遺物 (1/4) ……………           | 258 | 第211図 西原大塚遺跡第35地点出土土器編年図②(1/12) ……………         | 305 |
| 第174図 147号住居跡 (1/60) ……………              | 259 | 第212図 西原大塚遺跡第35地点出土土器編年図③(1/12) ……………         | 306 |
| 第175図 148号住居跡 (1/60) ……………              | 260 | 第213図 西原大塚遺跡縄文時代遺構分布図 (1/1500) ……………          | 310 |
| 第176図 148号住居跡出土遺物 (1/4・1/3) ……………       | 261 | 第214図 弥生土器記号形式分類図 ……………                       | 314 |
| 第177図 5号方形周溝墓 (1/60) ……………              | 262 | 第215図 遺跡内及び周辺遺跡出土の絵画土器・記号土器 ……………             | 315 |
| 第178図 5号方形周溝墓出土遺物 (1/4・1/3) ……………       | 263 | 第216図 顔面把手付深鉢・関連土器の器形 (S=1:20) ……………          | 320 |
| 第179図 6号方形周溝墓 (1/60) ……………              | 264 | 第217図 各種の「腕」(S=1:15) ……………                    | 322 |
| 第180図 6号方形周溝墓主体部 (1/30) ……………           | 265 | 第218図 「多喜窪重文タイプ」関連資料 (S=1:15) ……………           | 324 |
| 第181図 6号方形周溝墓出土遺物 (1/4・1/3・1/2) ……………   | 265 | 第219図 関連資料 (S=1:12) ……………                     | 325 |
| 第182図 奈良・平安時代遺構全体図 (1/400) ……………        | 267 | 第220図 今福利恵による「勝坂式土器の型式分岐」概念図 ……………            | 326 |
| 第183図 9号住居跡 (1/60) ……………                | 268 | 第221図 土偶裝飾付土器・抽象ヘビ文・カエル文の関係性試案 (S=1:12) …………… | 327 |
| 第184図 9号住居跡カマド・遺物出土状態 (1/30・1/60) …………… | 269 | 第222図 今福利恵による動物表現変遷図 ……………                    | 328 |
| 第185図 9号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3) ……………        | 270 | 第223図 顔面・動物表現の消長 ……………                        | 328 |
| 第186図 9号住居跡出土遺物2 (1/4) ……………            | 271 | 第224図 後期中葉～後葉の儀礼用土器の複雑化 (S=1:12) ……………        | 329 |
|   |     | 第225図 蛍光X線スペクトル ……………                         | 334 |

# 目 次

|        |                           |    |        |                  |     |
|--------|---------------------------|----|--------|------------------|-----|
| 第 1 表  | 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧             | 1  | 第 21 表 | 106 号住居跡出土土製品一覧  | 74  |
| 第 2 表  | 志木市の発掘調査報告書一覧 (1)         | 8  | 第 22 表 | 106 号住居跡出土石器一覧   | 75  |
|        | 志木市の発掘調査報告書一覧 (2)         | 9  | 第 23 表 | 107 号住居跡出土土器一覧 1 | 82  |
|        | 志木市の発掘調査報告書一覧 (3)         | 10 |        | 107 号住居跡出土土器一覧 2 | 83  |
|        | 志木市の発掘調査報告書一覧 (4)         | 11 | 第 24 表 | 107 号住居跡出土土製品一覧  | 83  |
| 第 3 表  | 西原大塚遺跡発掘調査一覧 (1)          | 14 | 第 25 表 | 107 号住居跡出土石器一覧   | 84  |
|        | 西原大塚遺跡発掘調査一覧 (2)          | 15 | 第 26 表 | 108 号住居跡出土土器一覧 1 | 109 |
|        | 西原大塚遺跡発掘調査一覧 (3)          | 16 |        | 108 号住居跡出土土器一覧 2 | 110 |
| 第 4 表  | 西原大塚遺跡第 35 地点の発掘調査工程表 (1) | 19 |        | 108 号住居跡出土土器一覧 3 | 111 |
|        | 西原大塚遺跡第 35 地点の発掘調査工程表 (2) | 20 |        | 108 号住居跡出土土器一覧 4 | 112 |
| 第 5 表  | 101 号住居跡出土土器一覧 1          | 26 |        | 108 号住居跡出土土器一覧 5 | 113 |
|        | 101 号住居跡出土土器一覧 2          | 27 |        | 108 号住居跡出土土器一覧 6 | 114 |
| 第 6 表  | 101 号住居跡出土土製品一覧           | 27 | 第 27 表 | 108 号住居跡出土土製品一覧  | 115 |
| 第 7 表  | 101 号住居跡出土石器一覧            | 27 | 第 28 表 | 108 号住居跡出土石器一覧   | 116 |
| 第 8 表  | 102 号住居跡出土土器一覧 1          | 34 | 第 29 表 | 109 号住居跡出土土器一覧 1 | 126 |
|        | 102 号住居跡出土土器一覧 2          | 35 |        | 109 号住居跡出土土器一覧 2 | 127 |
| 第 9 表  | 102 号住居跡出土土製品一覧           | 35 | 第 30 表 | 109 号住居跡出土土製品一覧  | 128 |
| 第 10 表 | 102 号住居跡出土石器一覧            | 36 | 第 31 表 | 109 号住居跡出土石器一覧 1 | 128 |
| 第 11 表 | 103 号住居跡出土遺物一覧 1          | 45 |        | 109 号住居跡出土石器一覧 2 | 129 |
|        | 103 号住居跡出土土器一覧 2          | 46 | 第 32 表 | 110 号住居跡出土土器一覧 1 | 134 |
|        | 103 号住居跡出土土器一覧 3          | 47 |        | 110 号住居跡出土土器一覧 2 | 135 |
| 第 12 表 | 103 号住居跡出土土製品一覧           | 47 | 第 33 表 | 110 号住居跡出土土製品一覧  | 135 |
| 第 13 表 | 103 号住居跡出土石器一覧            | 48 | 第 34 表 | 110 号住居跡出土石器一覧   | 136 |
| 第 14 表 | 104 号住居跡出土土器一覧 1          | 55 | 第 35 表 | 111 号住居跡出土土器一覧 1 | 140 |
|        | 104 号住居跡出土土器一覧 2          | 56 |        | 111 号住居跡出土土器一覧 2 | 141 |
| 第 15 表 | 104 号住居跡出土土製品一覧           | 56 | 第 36 表 | 111 号住居跡出土土製品一覧  | 141 |
| 第 16 表 | 104 号住居跡出土石器一覧 1          | 56 | 第 37 表 | 111 号住居跡出土石器一覧   | 142 |
|        | 104 号住居跡出土石器一覧 2          | 57 | 第 38 表 | 112 号住居跡出土土器一覧 1 | 151 |
| 第 17 表 | 105 号住居跡出土土器一覧 1          | 64 |        | 112 号住居跡出土土器一覧 2 | 152 |
|        | 105 号住居跡出土土器一覧 2          | 65 | 第 39 表 | 112 号住居跡出土土製品一覧  | 152 |
|        | 105 号住居跡出土土器一覧 3          | 66 | 第 40 表 | 112 号住居跡出土石器一覧   | 153 |
| 第 18 表 | 105 号住居跡出土土製品一覧           | 66 | 第 41 表 | 113 号住居跡出土土器一覧   | 156 |
| 第 19 表 | 105 号住居跡出土石器一覧 1          | 66 | 第 42 表 | 113 号住居跡出土石器一覧   | 157 |
|        | 105 号住居跡出土石器一覧 2          | 67 | 第 43 表 | 114 号住居跡出土土器一覧 1 | 164 |
| 第 20 表 | 106 号住居跡出土土器一覧 1          | 73 |        | 114 号住居跡出土土器一覧 2 | 165 |
|        | 106 号住居跡出土土器一覧 2          | 74 | 第 44 表 | 114 号住居跡出土土製品一覧  | 165 |

|        |                   |     |        |                        |     |
|--------|-------------------|-----|--------|------------------------|-----|
| 第 45 表 | 114 号住居跡出土石器一覧    | 166 | 第 68 表 | 縄文時代土坑出土石器一覧           | 247 |
| 第 46 表 | 115 号住居跡出土石器一覧    | 169 | 第 69 表 | 縄文時代集石出土石器一覧           | 251 |
| 第 47 表 | 115 号住居跡出土土製品一覧   | 169 | 第 70 表 | 縄文時代集石出土土製品一覧          | 251 |
| 第 48 表 | 115 号住居跡出土石器一覧    | 169 | 第 71 表 | 縄文時代集石出土石器一覧           | 251 |
| 第 49 表 | 116 号住居跡出土石器一覧 1  | 175 | 第 72 表 | 106 号住居跡出土石器一覧 1       | 254 |
|        | 116 号住居跡出土石器一覧 2  | 176 |        | 106 号住居跡出土石器一覧 2       | 255 |
| 第 50 表 | 116 号住居跡出土土製品一覧   | 176 | 第 73 表 | 145 号住居跡出土石器一覧         | 257 |
| 第 51 表 | 116 号住居跡出土石器一覧    | 176 | 第 74 表 | 146 号住居跡出土石器一覧         | 258 |
| 第 52 表 | 117 号住居跡出土石器一覧    | 180 | 第 75 表 | 148 号住居跡出土石器一覧         | 261 |
| 第 53 表 | 117 号住居跡出土土製品一覧   | 181 | 第 76 表 | 5 号方形周溝墓出土石器一覧         | 263 |
| 第 54 表 | 117 号住居跡出土石器一覧    | 181 | 第 77 表 | 6 号方形周溝墓出土石器一覧         | 266 |
| 第 55 表 | 118 号住居跡出土石器一覧 1  | 198 | 第 78 表 | 6 号方形周溝墓出土石製品・ガラス製品一覧  | 266 |
|        | 118 号住居跡出土石器一覧 2  | 199 | 第 79 表 | 9 号住居跡出土石器一覧 1         | 272 |
|        | 118 号住居跡出土石器一覧 3  | 200 |        | 9 号住居跡出土石器一覧 2         | 273 |
|        | 118 号住居跡出土石器一覧 4  | 201 |        | 9 号住居跡出土石器一覧 3         | 274 |
|        | 118 号住居跡出土石器一覧 5  | 202 | 第 80 表 | 9 号住居跡出土土製品一覧          | 274 |
| 第 56 表 | 118 号住居跡出土土製品一覧 1 | 202 | 第 81 表 | 9 号住居跡出土鉄製品一覧          | 274 |
|        | 118 号住居跡出土土製品一覧 2 | 203 | 第 82 表 | 10 号住居跡出土石器一覧          | 276 |
| 第 57 表 | 118 号住居跡出土石器一覧 1  | 203 | 第 83 表 | 13 号溝跡出土石器一覧           | 277 |
|        | 118 号住居跡出土石器一覧 2  | 204 | 第 84 表 | 7 号柵列出土石器一覧            | 283 |
| 第 58 表 | 119 号住居跡出土石器一覧    | 209 | 第 85 表 | 7 号柵列出土鉄製品一覧           | 283 |
| 第 59 表 | 119 号住居跡出土土製品一覧   | 209 | 第 86 表 | 縄文時代遺構外出土石器一覧 1        | 294 |
| 第 60 表 | 119 号住居跡出土石器一覧    | 210 |        | 縄文時代遺構外出土石器一覧 2        | 295 |
| 第 61 表 | 120 号住居跡出土石器一覧 1  | 214 |        | 縄文時代遺構外出土石器一覧 3        | 296 |
|        | 120 号住居跡出土石器一覧 2  | 215 |        | 縄文時代遺構外出土石器一覧 4        | 297 |
| 第 62 表 | 120 号住居跡出土土製品一覧   | 215 |        | 縄文時代遺構外出土石器一覧 5        | 298 |
| 第 63 表 | 120 号住居跡出土石器一覧    | 215 | 第 87 表 | 縄文時代遺構外出土土製品一覧 1       | 298 |
| 第 64 表 | 2 号埋甕出土石器一覧       | 217 |        | 縄文時代遺構外出土土製品一覧 2       | 299 |
| 第 65 表 | 縄文時代土坑一覧          | 230 | 第 88 表 | 弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土石器一覧 | 299 |
| 第 66 表 | 縄文時代土坑出土石器一覧 1    | 242 | 第 89 表 | 奈良・平安時代遺構外出土石器一覧       | 299 |
|        | 縄文時代土坑出土石器一覧 2    | 243 | 第 90 表 | 中世以降遺構外出土石器一覧          | 299 |
|        | 縄文時代土坑出土石器一覧 3    | 244 | 第 91 表 | 縄文時代遺構外出土石器一覧 1        | 299 |
|        | 縄文時代土坑出土石器一覧 4    | 245 |        | 縄文時代遺構外出土石器一覧 2        | 300 |
|        | 縄文時代土坑出土石器一覧 5    | 246 | 第 92 表 | 西原大塚遺跡縄文時代住居跡一覧        | 311 |
|        | 縄文時代土坑出土石器一覧 6    | 247 | 第 93 表 | ガラス製小玉の FP 定量結果        | 335 |
| 第 67 表 | 縄文時代土坑出土土製品一覧     | 247 |        |                        |     |



# 图版目次

- 卷頭图版 1 108 号住居跡出土人面把手付土器  
卷頭图版 2 108 号住居跡出土遺物・展開写真  
卷頭图版 3 102・112・118 号住居跡出土遺物展開写真
- 图版 1 1. 調査前風景  
2. 調査区全景  
3. 101 号住居跡  
4. 102 号住居跡遺物出土狀態  
5. 102 号住居跡  
6. 102 号住居跡  
7. 103 号住居跡遺物出土狀態  
8. 103 号住居跡遺物出土狀態
- 图版 2 1. 103 号住居跡遺物出土狀態  
2. 103 号住居跡・207 号土坑  
3. 103 号住居跡炉  
4. 103 号住居跡炉  
5. 103 号住居跡埋甕  
6. 103 号住居跡埋甕  
7. 104 号住居跡・209 号土坑遺物出土狀態  
8. 104 号住居跡遺物出土狀態
- 图版 3 1. 104 号住居跡・209 号土坑  
2. 104・107・108・111 号住居跡  
3. 104 号住居跡炉  
4. 104 号住居跡炉体土器  
5. 104 号住居跡埋甕  
6. 104 号住居跡埋甕  
7. 105 号住居跡遺物出土狀態  
8. 105 号住居跡遺物出土狀態
- 图版 4 1. 105 号住居跡遺物出土狀態  
2. 105 号住居跡  
3. 105 号住居跡  
4. 105 号住居跡炉  
5. 106 号住居跡遺物出土狀態  
6. 106 号住居跡遺物出土狀態  
7. 106 号住居跡炉  
8. 106 号住居跡炉
- 图版 5 1. 107 号住居跡遺物出土狀態  
2. 107 号住居跡炉  
3. 108 号住居跡遺物出土狀態  
4. 108 号住居跡遺物出土狀態  
5. 108 号住居跡遺物出土狀態  
6. 108 号住居跡遺物出土狀態  
7. 108 号住居跡遺物出土狀態  
8. 108 号住居跡遺物出土狀態
- 图版 6 1. 108 号住居跡遺物出土狀態  
2. 108 号住居跡遺物出土狀態  
3. 108,・111 号住居跡  
4. 108 号住居跡炉  
5. 108 号住居跡炉  
6. 108 号住居跡炉  
7. 109 号住居跡遺物出土狀態  
8. 109 号住居跡遺物出土狀態
- 图版 7 1. 109 号住居跡遺物出土狀態  
2. 109 号住居跡  
3. 109 号住居跡炉  
4. 109 号住居跡炉  
5. 110 号住居跡遺物出土狀態  
6. 110 号住居跡遺物出土狀態  
7. 110 号住居跡遺物出土狀態  
8. 110 号住居跡
- 图版 8 1. 110 号住居跡炉  
2. 112 号住居跡遺物出土狀態  
3. 112 号住居跡遺物出土狀態  
4. 112 号住居跡遺物出土狀態  
5. 112 号住居跡遺物出土狀態  
6. 112 号住居跡  
7. 112 号住居跡炉  
8. 112 号住居跡炉
- 图版 9 1. 113 号住居跡  
2. 113 号住居跡炉  
3. 114 号住居跡  
4. 114 号住居跡遺物出土狀態  
5. 114 号住居跡炉

- |      |                   |      |                       |
|------|-------------------|------|-----------------------|
|      | 6. 114 号住居跡炉      |      | 6. 209 号土坑            |
|      | 7. 114 号住居跡埋甕     |      | 7. 210 号土坑            |
|      | 8. 114 号住居跡埋甕     |      | 8. 211 号土坑            |
| 図版10 | 1. 115 号住居跡       | 図版15 | 1. 212 号土坑            |
|      | 2. 115 号住居跡炉      |      | 2. 213 号土坑            |
|      | 3. 116 号住居跡遺物出土状態 |      | 3. 214 号土坑            |
|      | 4. 116 号住居跡遺物出土状態 |      | 4. 215 号土坑            |
|      | 5. 116 号住居跡       |      | 5. 216 号土坑            |
|      | 6. 116 号住居跡炉      |      | 6. 217 号土坑            |
|      | 7. 117 号住居跡       |      | 7. 218 号土坑            |
|      | 8. 117 号住居跡炉      |      | 8. 222 号土坑            |
| 図版11 | 1. 118 号住居跡遺物出土状態 | 図版16 | 1. 222 号土坑遺物出土状態      |
|      | 2. 118 号住居跡遺物出土状態 |      | 2. 222 号土坑遺物出土状態      |
|      | 3. 118 号住居跡遺物出土状態 |      | 3. 223・217 号土坑・11 号集石 |
|      | 4. 118 号住居跡遺物出土状態 |      | 4. 225 号土坑            |
|      | 5. 118 号住居跡遺物出土状態 |      | 5. 226 号土坑            |
|      | 6. 118 号住居跡       |      | 6. 228 号土坑            |
|      | 7. 118 号住居跡       |      | 7. 1 号集石              |
|      | 8. 118 号住居跡炉      |      | 8. 2 号集石              |
| 図版12 | 1. 118 号住居跡炉      | 図版17 | 1. 2 号集石              |
|      | 2. 119 号住居跡       |      | 2. 2 号集石掘り方           |
|      | 3. 119 号住居跡炉      |      | 3. 3 号集石遺物出土状態        |
|      | 4. 119 号住居跡炉      |      | 4. 3 号集石掘り方           |
|      | 5. 119 号住居跡炉      |      | 5. 5 号集石              |
|      | 6. 120 号住居跡       |      | 6. 5 号集石掘り方           |
|      | 7. 120 号住居跡炉      |      | 7. 11 号集石             |
|      | 8. 120 号住居跡炉      |      | 8. 11 号集石掘り方          |
| 図版13 | 1. 2 号埋甕          | 図版18 | 1. 106 号住居跡           |
|      | 2. 2 号埋甕          |      | 2. 106 号住居跡貯蔵穴        |
|      | 3. 201 号土坑        |      | 3. 145 号住居跡           |
|      | 4. 202 号土坑        |      | 4. 145 号住居跡           |
|      | 5. 203 号土坑        |      | 5. 146 号住居跡           |
|      | 6. 204 号土坑        |      | 6. 147 号住居跡           |
|      | 7. 204 号土坑遺物出土状態  |      | 7. 148 号住居跡           |
|      | 8. 205 号土坑        |      | 8. 148 号住居跡入口施設       |
| 図版14 | 1. 206 号土坑        | 図版19 | 1. 148 号住居跡炉出土状態      |
|      | 2. 206 号土坑遺物出土状態  |      | 2. 5 号方形周溝墓           |
|      | 3. 207 号土坑        |      | 3. 5 号方形周溝墓           |
|      | 4. 208 号土坑        |      | 4. 6 号方形周溝墓           |
|      | 5. 209 号土坑        |      | 5. 6 号方形周溝墓           |

|      |                        |      |                 |
|------|------------------------|------|-----------------|
|      | 6. 6号方形周溝墓             | 図版31 | 103号住居跡出土遺物3    |
|      | 7. 6号方形周溝墓             | 図版32 | 103号住居跡出土遺物4    |
|      | 8. 6号方形周溝墓             | 図版33 | 103号住居跡出土遺物5    |
| 図版20 | 1. 9号住居跡土層断面           | 図版34 | 103号住居跡出土遺物6    |
|      | 2. 9号住居跡遺物出土状態         | 図版35 | 104号住居跡出土遺物1    |
|      | 3. 9号住居跡カマド土層断面・遺物出土状態 | 図版36 | 104号住居跡出土遺物2    |
|      | 4. 9号住居跡カマド土層断面        | 図版37 | 104号住居跡出土遺物3    |
|      | 5. 9号住居跡カマド遺物出土状態      | 図版38 | 105号住居跡出土遺物1    |
|      | 6. 9号住居跡遺物出土状態         | 図版39 | 105号住居跡出土遺物2    |
|      | 7. 9号住居跡遺物出土状態         | 図版40 | 105号住居跡出土遺物3    |
|      | 8. 9号住居跡石製紡錘車出土状態      | 図版41 | 105号住居跡出土遺物4    |
| 図版21 | 1. 9号住居跡炭化材出土状態        | 図版42 | 106号住居跡出土遺物1    |
|      | 2. 9号住居跡炭化材出土状態        | 図版43 | 106号住居跡出土遺物2    |
|      | 3. 9号住居跡               | 図版44 | 106号住居跡出土遺物3    |
|      | 4. 10号住居跡遺物出土状態        | 図版45 | 1. 106号住居跡出土遺物4 |
|      | 5. 10号住居跡カマド遺物出土状態     |      | 2. 107号住居跡出土遺物1 |
|      | 6. 10号住居跡カマド           | 図版46 | 107号住居跡出土遺物2    |
|      | 7. 10号住居跡              | 図版47 | 107号住居跡出土遺物3    |
|      | 8. 12号溝                | 図版48 | 107号住居跡出土遺物4    |
| 図版22 | 1. 13号溝                | 図版49 | 108号住居跡出土遺物1    |
|      | 2. 13号溝                | 図版50 | 108号住居跡出土遺物2    |
|      | 3. 13号溝・7号柵列           | 図版51 | 108号住居跡出土遺物3    |
|      | 4. 7号柵列                | 図版52 | 108号住居跡出土遺物4    |
|      | 5. 7号柵列・9・10号集石        | 図版53 | 108号住居跡出土遺物5    |
| 図版23 | 1. 6号集石                | 図版54 | 108号住居跡出土遺物6    |
|      | 2. 7号集石                | 図版55 | 108号住居跡出土遺物7    |
|      | 3. 8号集石                | 図版56 | 108号住居跡出土遺物8    |
|      | 4. 9号集石                | 図版57 | 108号住居跡出土遺物9    |
|      | 5. 10号集石               | 図版58 | 108号住居跡出土遺物10   |
|      | 6. 発掘調査風景              | 図版59 | 108号住居跡出土遺物11   |
|      | 7. 発掘調査風景              | 図版60 | 108号住居跡出土遺物12   |
|      | 8. 発掘調査風景              | 図版61 | 108号住居跡出土遺物13   |
| 図版24 | 101号住居跡出土遺物1           | 図版62 | 108号住居跡出土遺物14   |
| 図版25 | 1. 101号住居跡出土遺物2        | 図版63 | 108号住居跡出土遺物15   |
|      | 2. 102号住居跡出土遺物1        | 図版64 | 108号住居跡出土遺物16   |
| 図版26 | 102号住居跡出土遺物2           | 図版65 | 108号住居跡出土遺物17   |
| 図版27 | 102号住居跡出土遺物3           | 図版66 | 108号住居跡出土遺物18   |
| 図版28 | 102号住居跡出土遺物4           | 図版67 | 108号住居跡出土遺物19   |
| 図版29 | 103号住居跡出土遺物1           | 図版68 | 108号住居跡出土遺物20   |
| 図版30 | 103号住居跡出土遺物2           | 図版69 | 108号住居跡出土遺物21   |

- 図版70 109号住居跡出土遺物 1
- 図版71 109号住居跡出土遺物 2
- 図版72 109号住居跡出土遺物 3
- 図版73 109号住居跡出土遺物 4
- 図版74 109号住居跡出土遺物 5
- 図版75 109号住居跡出土遺物 6
- 図版76 110号住居跡出土遺物 1
- 図版77 110号住居跡出土遺物 2
- 図版78 1. 110号住居跡出土遺物 3  
2. 111号住居跡出土遺物 1
- 図版79 111号住居跡出土遺物 2
- 図版80 111号住居跡出土遺物 3
- 図版81 112号住居跡出土遺物 1
- 図版82 112号住居跡出土遺物 2
- 図版83 112号住居跡出土遺物 3
- 図版84 112号住居跡出土遺物 4
- 図版85 112号住居跡出土遺物 5
- 図版86 112号住居跡出土遺物 6
- 図版87 112号住居跡出土遺物 7
- 図版88 113号住居跡出土遺物
- 図版89 114号住居跡出土遺物 1
- 図版90 114号住居跡出土遺物 2
- 図版91 114号住居跡出土遺物 3
- 図版92 115号住居跡出土遺物
- 図版93 116号住居跡出土遺物 1
- 図版94 116号住居跡出土遺物 2
- 図版95 116号住居跡出土遺物 3
- 図版96 117号住居跡出土遺物 1
- 図版97 117号住居跡出土遺物 2
- 図版98 118号住居跡出土遺物 1
- 図版99 118号住居跡出土遺物 2
- 図版100 118号住居跡出土遺物 3
- 図版101 118号住居跡出土遺物 4
- 図版102 118号住居跡出土遺物 5
- 図版103 118号住居跡出土遺物 6
- 図版104 118号住居跡出土遺物 7
- 図版105 118号住居跡出土遺物 8
- 図版106 118号住居跡出土遺物 9
- 図版107 118号住居跡出土遺物 10
- 図版108 118号住居跡出土遺物 11
- 図版109 118号住居跡出土遺物 12
- 図版110 1. 118号住居跡出土遺物 13  
2. 119号住居跡出土遺物 1
- 図版111 119号住居跡出土遺物 2
- 図版112 119号住居跡出土遺物 3
- 図版113 120号住居跡出土遺物 1
- 図版114 120号住居跡出土遺物 2
- 図版115 1. 2号埋甕出土遺物  
2. 縄文時代土坑出土遺物 1
- 図版116 縄文時代土坑出土遺物 2
- 図版117 縄文時代土坑出土遺物 3
- 図版118 縄文時代土坑出土遺物 4
- 図版119 縄文時代土坑出土遺物 5
- 図版120 縄文時代土坑出土遺物 6
- 図版121 縄文時代土坑出土遺物 7
- 図版122 縄文時代土坑出土遺物 8
- 図版123 縄文時代土坑出土遺物 9
- 図版124 縄文時代土坑出土遺物 10
- 図版125 縄文時代集石出土遺物
- 図版126 106号住居跡出土遺物
- 図版127 1. 145号住居跡出土遺物  
2. 146号住居跡出土遺物  
3. 148号住居跡出土遺物
- 図版128 5号方形周溝墓出土遺物
- 図版129 6号方形周溝墓出土遺物
- 図版130 9号住居跡出土遺物 1
- 図版131 9号住居跡出土遺物 2
- 図版132 1. 9号住居跡出土遺物 3  
2. 10号住居跡出土遺物 1
- 図版133 1. 10号住居跡出土遺物 2  
2. 13号溝出土遺物  
3. 7号柵列出土遺物
- 図版134 縄文時代遺構外出土遺物 1
- 図版135 縄文時代遺構外出土遺物 2
- 図版136 縄文時代遺構外出土遺物 3
- 図版137 1. 弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土遺物  
2. 奈良・平安時代遺構外出土遺物 2  
3. 中世以降遺構外出土遺物
- 図版138 遺構外出土石器 1
- 図版139 遺構外出土石器 2
- 図版140 西原大塚遺跡縄文時代住居跡の時期別分布図（暫定版）

# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

### (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりを持ち、面積は9.05km<sup>2</sup>、人口約7万6千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拵がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

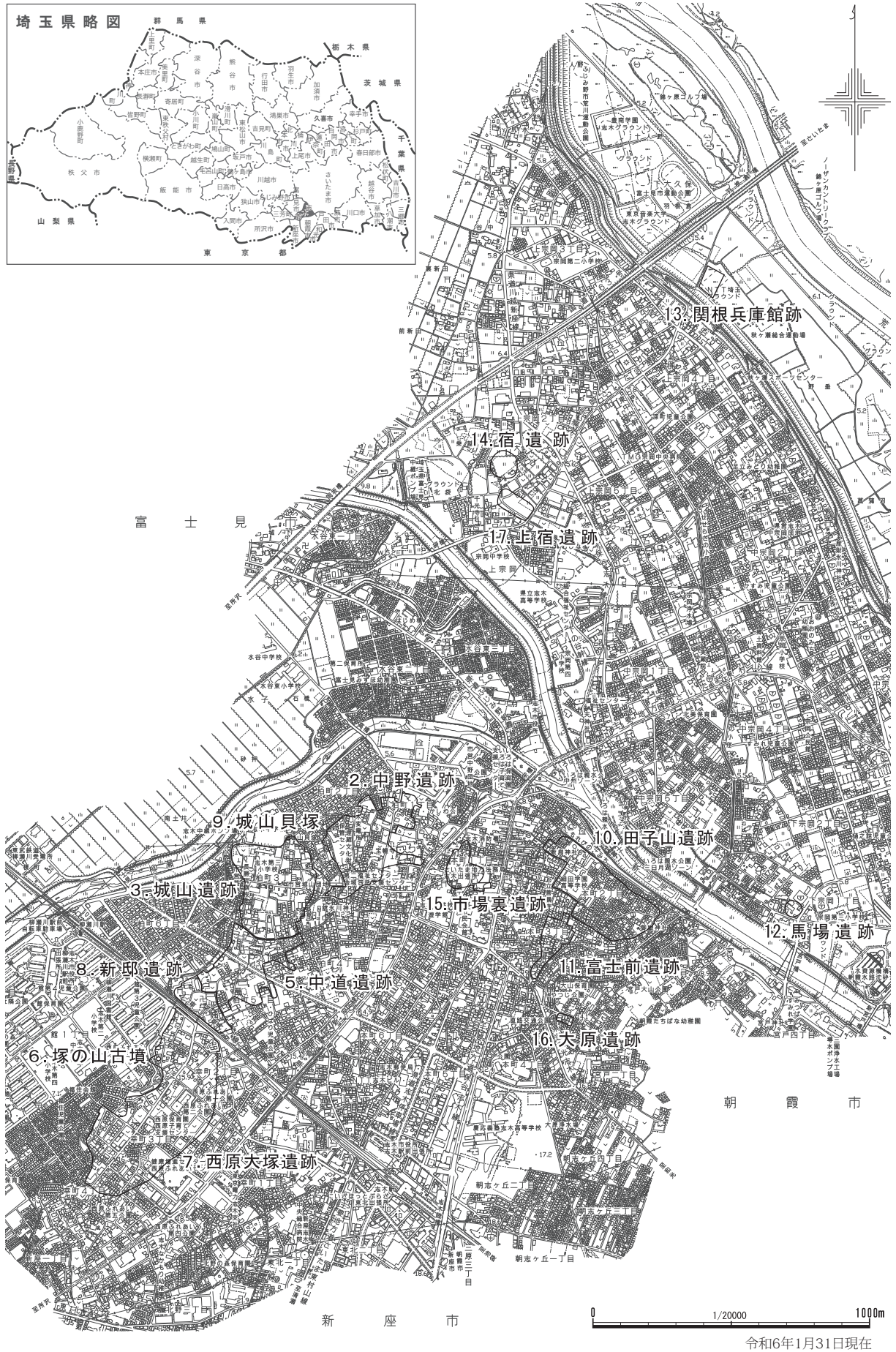
こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた15遺跡である（第1図・第1表）。

| No. | 遺跡名    | 遺跡の規模                  | 地目    | 遺跡の種類         | 遺跡の時代                              | 主な遺構                                     | 主な遺物                                    |
|-----|--------|------------------------|-------|---------------|------------------------------------|--|---|
| 2   | 中野     | 71,220 m <sup>2</sup>  | 畑・宅地  | 集落跡・墓跡        | 旧石器縄（早～晩）弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世      | 石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等         | 石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等                 |
| 3   | 城山     | 82,520 m <sup>2</sup>  | 畑・宅地  | 貝塚・城館跡・集落跡・墓跡 | 旧石器、縄（草創～晩）、弥（中～後）、古（前～後）、奈・平、中・近世 | 石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等 | 石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等 |
| 5   | 中道     | 55,600 m <sup>2</sup>  | 畑・宅地  | 集落跡・墓跡        | 旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世      | 石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等   | 石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等              |
| 6   | 塚の山古墳  | 800 m <sup>2</sup>     | 林     | 古墳？           | 古墳？                                | 古墳？                                      | なし                                      |
| 7   | 西原大塚   | 164,960 m <sup>2</sup> | 畑・宅地  | 集落跡・墓跡        | 旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世    | 石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等   | 石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等              |
| 8   | 新邸     | 18,900 m <sup>2</sup>  | 畑・宅地  | 貝塚・集落跡・墓跡     | 縄（早～中）、古（前～後）、中・近世、近代              | 貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等       | 石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等                |
| 9   | 城山貝塚   | 900 m <sup>2</sup>     | 林     | 貝塚            | 縄（前）                               | 斜面貝塚                                     | 石器、縄文土器、貝                               |
| 10  | 田子山    | 74,030 m <sup>2</sup>  | 畑・宅地  | 集落跡・墓跡        | 縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代      | 住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等              | 縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等               |
| 11  | 富士前    | 14,830 m <sup>2</sup>  | 宅地    | 集落跡           | 縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降               | 住居跡、土坑？、溝跡？                              | 弥生土器、土師器                                |
| 12  | 馬場     | 2,800 m <sup>2</sup>   | 畑     | 集落跡           | 古（前）                               | 住居跡？                                     | 土師器                                     |
| 13  | 関根兵庫館跡 | 4,900 m <sup>2</sup>   | グラウンド | 館跡            | 中世                                 | 不明                                       | なし                                      |
| 14  | 宿      | 7,700 m <sup>2</sup>   | 水田    | 館跡            | 中世                                 | 溝跡、井桁状構築物                                | 木・石製品                                   |
| 15  | 市場裏    | 15,120 m <sup>2</sup>  | 宅地    | 集落跡・墓跡        | 弥（後）～古（前）、中世以降                     | 住居跡、方形周溝墓、土坑                             | 弥生土器、土師器、土師質土器                          |
| 16  | 大原     | 1,700 m <sup>2</sup>   | 宅地    | 集落跡           | 近世以降？                              | 溝跡                                       | なし                                      |
| 17  | 上宿     | 8,600 m <sup>2</sup>   | 水田・宅地 | 集落跡・墓跡        | 平安、中・近世                            | 住居跡、土坑、溝跡、井戸跡                            | 土師器、須恵器、陶磁器、板碑等                         |
| 合計  |        | 524,580 m <sup>2</sup> |       |               |                                    |  |   |

令和6年1月31日現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧





第1図 市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)



## (2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層の第IV層上部・第VI層・第VII層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2か所、平成7(1995)年度には1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。令和元(2019)年には、第224地点で立川ローム層の第IV層下部～第V層上部・第VII層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第IV層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成28(2016)年に発掘調査された中野遺跡第91⑰地点からは、礫群1基が検出された。令和元～2(2019～2020)年にかけて発掘調査された中野遺跡第109地点では、立川ローム層第IV層下部～第V層を中心とする石器集中地点が検出されており、石核調整剥片の良好な接合資料が出土している。

城山遺跡では、平成13(2001)年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第IV層上部と第VII層の2か所で石器集中地点が検出されている。平成20・21(2008・2009)年に発掘調査が実施された第62地点(道路・駐車場部分)でも石器集中地点1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23(2011)年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第IV層下部～第V層上部で石器集中地点2か所、礫群9基が検出された。令和元(2019)年には第96地点で立川ローム層の第IV層下部～第V層上部・第VI層・第VII層で石器集中地点や礫群が検出されている。

### 2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4(1992)年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6(1994)年に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10(1998)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡としては、令和4(2022)年に田子山遺跡第172地点で市内初となる撚糸文期の住居跡が1軒検出された。また、平成18(2006)年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点では、早期末葉(条痕文系)の10号住居跡が検出されている。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。平成23(2011)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層を

もつ住居跡である。令和元(2019)年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点、令和3～4(2021～2022)年に実施された中野遺跡第116①地点では、前期後葉の諸磯a式期の住居跡が検出されている。そのうち、城山遺跡第96地点では貝層を持つ住居跡が3軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で200軒以上の住居跡が環状に分布していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡1軒が確認されているが、平成28(2016)年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曾利EⅣ式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡2軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1か所、平成25(2013)年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居(敷石住居)1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。その他、平成26(2014)年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28(2015・2016)年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期(称名寺式～堀之内式期)の遺物が比較的まとまって出土している。最新資料として、平成30(2018)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第216地点で、堀之内1式期の住居跡が1軒検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されている。また、令和3(2021)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第234地点で、遺構外出土ではあるが、縄文時代晩期～弥生時代初頭に位置づけられる土器片が1点発見されている。以降、市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

### 3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元(2019)年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは壺、甕、高坏、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。なお、これらの資料のうち、土器、石器、土製品計44点の城山遺跡10号住居跡出土遺物は、考古資料として、市指定文化財(令和3年7月1日付け)に指定されている。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27・28(2015・2016)年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子(イネ・アワ・ダイズなど)、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が650軒以上確認されており、市内



最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺形土器が出土している。なお、鳥形土製品1点と壺形土器4点の計5点は、考古資料として、市指定文化財（平成25年3月1日付け）に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

#### 4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後葉から7世紀後葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後葉以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後葉から7世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で265軒、次いで中野遺跡で58軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で17軒、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後葉以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円で2か所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周

溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

## 5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山・富士前遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げるができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶<sup>ふじゆしんぼう</sup>が2枚とその近くからは鉄鎌1点と土錘1点<sup>つちづみ</sup>が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸軛が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

最新では、令和元（2019）年と令和3（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、平安時代の住居跡・土壙・溝跡などが検出され、宗岡地区における自然堤防上に立地する遺跡の存在が明らかになりつつある。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、市指定文化財（平成25年3月1日付け）に指定されている。

## 6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『たてむらきゆうき』<sup>たてむらきゆうき</sup>（註1）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『かいこくざつき』<sup>かいこくざつき</sup>（註2）に登場する「大石信濃守館」<sup>おおいしなののかみのやかた</sup>が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」<sup>おおつかじゆうぎよくぼう</sup>についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鑄造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鑄造関連の捨て場が明らかになった。

この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13(2001)年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6(1994)年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、<sup>よろい きね</sup>鎧の札である鉄製品1点と鉄鍬1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27(2015)年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑45基・井戸跡2基・溝跡1本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑5基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7(1995)年の第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60(1985)年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15(2003)年の第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る<sup>しょうりんざんかんのんじだいじゆいん</sup>「松林山観音寺大受院」関連遺構と考えられる。その後、平成25(2013)年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

最新資料としては、令和2・3年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第234地点の地下式坑(912号土坑)から、人骨(女性2体)と完形品の播鉢が共伴する良好な資料が発見された。人骨は「通常とは異なる状況」で埋葬されたと考えられ(田中 2022)、播鉢は古瀬戸後期IV古～新段階(藤澤 2008)に比定されることから、時期は中世(15世紀中葉～後葉)のものと考えられる。

また、令和元(2019)年と令和3(2021)年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、中・近世の土壇・井戸跡・溝跡などの多くの遺構が検出され、中世における『宗岡宿』の様相や近世における千光寺に関連する墓域群などを知ることができる貴重な成果につながった。

## 7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造(明治2～5年)に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

第1章 遺跡の立地と環境

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

| No. | 報告書名<br>(所収遺跡地点名)   | 刊行年  | シリーズ名           | 発行者                                | 編著者                     |
|-----|---|------|-----------------|------------------------------------|-------------------------|
| 1   | 西原・大塚遺跡発掘調査報告   | 1975 | 志木市の文化財第4集      | 志木市教育委員会                           | 井上國夫・落合静男<br>谷井 彪・宮野和明  |
| 2   | 西原大塚遺跡第3地点 中野遺跡第2地点 発掘調査報告書   | 1985 | 志木市遺跡調査会調査報告第1集 | 志木市遺跡調査会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 3   | 新邸遺跡発掘調査報告書   | 1986 | 志木市遺跡調査会調査報告第2集 | 志木市遺跡調査会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 4   | 新邸遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点発掘調査報告書  | 1987 | 志木市遺跡調査会調査報告第3集 | 志木市遺跡調査会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 5   | 城山遺跡発掘調査報告書   | 1988 | 志木市遺跡調査会調査報告第4集 | 志木市遺跡調査会                           | 佐々木保俊・尾形則敏<br>神山健吉      |
| 6   | 中道遺跡発掘調査報告書<br>(中道遺跡第2地点)   | 1988 | 志木市遺跡調査会調査報告第5集 | 志木市遺跡調査会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 7   | 城山遺跡長勝院地点発掘調査報告書<br>(城山遺跡第3地点)  | 1987 | 志木市の文化財第11集     | 志木市教育委員会<br>志木市遺跡調査会<br>志木ロータリークラブ | 佐々木保俊                   |
| 8   | 志木市遺跡群I<br>(城山遺跡第4地点 中野遺跡第6地点 中道遺跡第6地点<br>西原大塚遺跡第6地点)   | 1989 | 志木市の文化財第13集     | 志木市教育委員会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 9   | 志木市遺跡群II<br>(西原大塚遺跡第8地点 田子山遺跡第1地点 西原大塚遺跡<br>第9地点 西原大塚遺跡第10地点 中野遺跡第9地点)  | 1990 | 志木市の文化財第14集     | 志木市教育委員会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 10  | 西原大塚遺跡第7地点 新邸遺跡第3地点 中野遺跡第7地<br>点<br>中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点 発掘調査報告書   | 1991 | 志木市の文化財第15集     | 志木市教育委員会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 11  | 志木市遺跡群III<br>(西原大塚遺跡第11地点 城山遺跡第7・9地点)   | 1991 | 志木市の文化財第16集     | 志木市教育委員会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 12  | 志木市遺跡群IV<br>(城山遺跡第11地点 中野遺跡第12地点 田子山遺跡第6・7<br>地点)   | 1992 | 志木市の文化財第17集     | 志木市教育委員会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 13  | 中道遺跡第12地点 中道遺跡第13地点 田子山遺跡第4地<br>点 田子山遺跡第5地点 発掘調査報告書   | 1992 | 志木市の文化財第18集     | 志木市教育委員会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 14  | 志木市遺跡群V<br>(市場裏遺跡第3地点 中野遺跡第18地点)  | 1993 | 志木市の文化財第20集     | 志木市教育委員会                           | 尾形則敏                    |
| 15  | 志木市遺跡群VI<br>(中野遺跡第31地点 田子山遺跡第29地点 城山遺跡第20<br>地点)  | 1995 | 志木市の文化財第21集     | 志木市教育委員会                           | 尾形則敏                    |
| 16  | 志木市遺跡群VII<br>(西原大塚遺跡第32地点 中道遺跡第33地点 城山遺跡第<br>25地点 田子山遺跡第32地点 田子山遺跡第37地点)  | 1996 | 志木市の文化財第23集     | 志木市教育委員会                           | 佐々木保俊・尾形則敏<br>深井恵子      |
| 17  | 城山遺跡第12地点 城山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第14<br>地点 中野遺跡第11地点 中野遺跡第16地点 市場裏遺跡<br>第1地点 田子山遺跡第10地点 中道遺跡第21地点 田子<br>山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第21地点 市場裏遺跡第2<br>地点 中道遺跡第26地点 発掘調査報告書 | 1996 | 志木市の文化財第24集     | 志木市教育委員会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 18  | 志木市遺跡群VIII<br>(城山遺跡第29地点 城山遺跡第32地点 田子山遺跡第39<br>地点 田子山遺跡第41地点 田子山遺跡第42地点 中道遺<br>跡第36地点 中道遺跡第37地点 西原大塚遺跡第34地点<br>中野遺跡第41地点)                             | 1997 | 志木市の文化財第25集     | 志木市教育委員会                           | 佐々木保俊・尾形則敏              |
| 19  | 西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概報   | 1998 | —               | 志木市遺跡調査会<br>西原特定土地区画整理組合           | 佐々木保俊                   |
| 20  | 志木市遺跡群9<br>(中野遺跡第43地点 富士前遺跡第15地点 田子山遺跡第<br>47地点 田子山遺跡第48地点 田子山遺跡第49地点 中道<br>遺跡第41地点 城山遺跡第34地点 城山遺跡第35地点<br>西原大塚遺跡第36地点)                               | 1999 | 志木市の文化財第27集     | 志木市教育委員会                           | 尾形則敏・深井恵子               |
| 21  | 志木市遺跡群10<br>(西原大塚遺跡第37地点 西原大塚遺跡第39地点 中道遺跡<br>第44地点)   | 2000 | 志木市の文化財第28集     | 志木市教育委員会                           | 尾形則敏・深井恵子               |
| 22  | 埋蔵文化財調査報告書1<br>(田子山遺跡第19地点 田子山遺跡第21地点 田子山遺跡第<br>25地点 中道遺跡第27地点 大原遺跡第1地点)  | 2000 | 志木市の文化財第29集     | 志木市教育委員会                           | 尾形則敏・深井恵子               |
| 23  | 西原大塚遺跡第45地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2000 | 志木市遺跡調査会調査報告第6集 | 志木市遺跡調査会<br>小松フォークリフト(株)           | 佐々木保俊・内野美津江<br>宮川幸佳・上田寛 |
| 24  | 志木市遺跡群11<br>(中野遺跡第50地点 西原大塚遺跡第43地点)   | 2001 | 志木市の文化財第30集     | 志木市教育委員会                           | 尾形則敏・佐々木保俊<br>内野美津江     |
| 25  | 埋蔵文化財調査報告書2<br>(中野遺跡第25地点)  | 2001 | 志木市の文化財第31集     | 志木市教育委員会                           | 尾形則敏・深井恵子               |

第2表 志木市の発掘調査報告書一覧（1）



| No. | 報告書名<br>(所収遺跡地点名)  | 刊行年  | シリーズ名              | 発刊者      | 編著者  |
|-----|--|------|--------------------|----------|--|
| 26  | 志木市遺跡群 12<br>(田子山遺跡第 69 地点 西原大塚遺跡第 47 地点)                              | 2002 | 志木市の文化財第 32 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・佐々木保俊<br>深井恵子                           |
| 27  | 埋蔵文化財調査報告書 3<br>(城山遺跡第 15 地点 城山遺跡第 16 地点)                              | 2002 | 志木市の文化財第 34 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・佐々木保俊<br>深井恵子・佐々木 潤                     |
| 28  | 志木市遺跡群 13<br>(田子山遺跡第 78 地点 西原大塚遺跡第 54 地点)                              | 2003 | 志木市の文化財第 35 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子                                    |
| 29  | 中野遺跡第 49 地点－東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告－                                     | 2004 | 志木市遺跡調査会調査報告第 7 集  | 志木市遺跡調査会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 30  | 志木市遺跡群 14<br>(田子山遺跡第 81 地点 西原大塚遺跡第 65 地点)                              | 2004 | 志木市の文化財第 36 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 31  | 西原大塚遺跡第 111 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2005 | 志木市遺跡調査会調査報告第 8 集  | 志木市遺跡調査会 | 佐々木保俊・内野美津江<br>宮川幸佳                          |
| 32  | 西原大塚遺跡第 110 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2005 | 志木市遺跡調査会調査報告第 9 集  | 志木市遺跡調査会 | 佐々木保俊・内野美津江<br>宮川幸佳                          |
| 33  | 城山遺跡第 42 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2005 | 志木市遺跡調査会調査報告第 10 集 | 志木市遺跡調査会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 34  | 志木市遺跡群 15<br>(西原大塚遺跡第 67 地点)   | 2006 | 志木市の文化財第 37 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子                                    |
| 35  | 新邸遺跡第 8 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2007 | 志木市遺跡調査会調査報告第 11 集 | 志木市遺跡調査会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 36  | 中道遺跡第 65 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2007 | 志木市遺跡調査会調査報告第 12 集 | 志木市遺跡調査会 | 尾形則敏・藤波啓容<br>青柳美雪                            |
| 37  | 西原大塚遺跡 I～III 西原特定土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書                              | 2009 | 志木市遺跡調査会調査報告第 13 集 | 志木市遺跡調査会 | 佐々木保俊・内野美津江<br>宮川幸佳                          |
| 38  | 志木市遺跡群 16<br>(城山遺跡第 46 地点 城山遺跡第 55 地点)                                 | 2008 | 志木市の文化財第 38 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 39  | 西原大塚遺跡第 138 地点 西原大塚遺跡第 154 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                             | 2008 | 志木市遺跡調査会調査報告第 14 集 | 志木市遺跡調査会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 40  | 西原大塚遺跡第 120 地点 西原大塚遺跡第 131 地点 田子山遺跡第 97 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                | 2008 | 志木市遺跡調査会調査報告第 15 集 | 志木市遺跡調査会 | 佐々木保俊・内野美津江<br>宮川幸佳                          |
| 41  | 志木市遺跡群 17<br>(城山遺跡第 49 地点 城山遺跡第 57 地点 西原大塚遺跡第 113 地点 西原大塚遺跡第 124 地点)   | 2008 | 志木市の文化財第 39 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 42  | 城山遺跡第 61 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2008 | 志木市遺跡調査会調査報告第 16 集 | 志木市遺跡調査会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 43  | 城山遺跡第 58・60 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2008 | 志木市遺跡調査会調査報告第 17 集 | 志木市遺跡調査会 | 尾形則敏・藤波啓容<br>鈴木 徹・中村真理                       |
| 44  | 埋蔵文化財調査報告書 4<br>(城山遺跡第 18 地点 城山遺跡第 19 地点 城山遺跡第 21 地点 城山遺跡第 22 地点)      | 2009 | 志木市の文化財第 40 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 45  | 志木市遺跡群 18<br>(田子山遺跡第 93 地点 田子山遺跡第 96 地点 西原大塚遺跡第 137 地点 西原大塚遺跡第 155 地点) | 2009 | 志木市の文化財第 41 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                            |
| 46  | 西原大塚遺跡第 108 地点埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2009 | 志木市の文化財第 42 集      | 志木市教育委員会 | 佐々木保俊・尾形則敏<br>坂上直嗣・青池紀子<br>高瀬克範・鈴木伸哉<br>能城修一 |
| 47  | 中野遺跡第 71 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2010 | 志木市の文化財第 43 集      | 志木市教育委員会 | 佐々木保俊・内野美津江                                  |
| 48  | 市場裏遺跡第 13 地点埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2011 | 志木市の文化財第 44 集      | 志木市教育委員会 | 徳留彰紀・尾形則敏<br>青木 修                            |
| 49  | 志木市遺跡群 19<br>(城山遺跡第 59 地点)   | 2011 | 志木市の文化財第 45 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>深井恵子・青木 修                       |
| 50  | 城山遺跡第 63 地点埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2011 | 志木市の文化財第 46 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>坂上直嗣・青池紀子<br>鈴木伸哉               |
| 51  | 西原大塚遺跡第 169 地点埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2012 | 志木市の文化財第 47 集      | 志木市教育委員会 | 徳留彰紀・尾形則敏                                    |
| 52  | 城山遺跡第 62 地点埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2012 | 志木市の文化財第 48 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>深井恵子・青木 修                       |
| 53  | 城山遺跡第 72 地点埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2012 | 志木市の文化財第 49 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>村上孝司・青池紀子<br>矢作健二・石岡智武          |
| 54  | 田子山遺跡第 121 地点埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2012 | 志木市の文化財第 50 集      | 志木市教育委員会 | 徳留彰紀・尾形則敏<br>藤波啓容                            |
| 55  | 志木市遺跡群 20<br>(田子山遺跡第 107 地点 新邸遺跡第 10 地点 西原大塚遺跡第 159 地点)                | 2013 | 志木市の文化財第 51 集      | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>深井恵子・青木 修                       |

第2表 志木市の発掘調査報告書一覧(2)

第1章 遺跡の立地と環境

| No. | 報告書名<br>(所収遺跡地点名)   | 刊行年  | シリーズ名       | 発刊者      | 編著者                                  |
|-----|---|------|-------------|----------|--------------------------------------|
| 56  | 城山遺跡第76地点埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2013 | 志木市の文化財第52集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保 聡<br>白崎智隆                   |
| 57  | 城山遺跡第64地点埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2013 | 志木市の文化財第53集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                    |
| 58  | 城山遺跡第71地点埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2013 | 志木市の文化財第54集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>中山哲也・二瓶秀幸<br>稲村太郎・加藤夏姫  |
| 59  | 西原大塚遺跡第174①地点埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2013 | 志木市の文化財第55集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>藤波啓容・松木綾子               |
| 60  | 西原大塚遺跡第179地点埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2014 | 志木市の文化財第56集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>二瓶秀幸・本山直子               |
| 61  | 中野遺跡第78地点埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2014 | 志木市の文化財第57集 | 志木市教育委員会 | 大久保 聡・尾形則敏<br>青木 修                   |
| 62  | 志木市遺跡群21<br>(城山遺跡第62①～④地点 西原大塚遺跡第165地点 西原大塚遺跡第166地点 西原大塚遺跡第171地点) | 2014 | 志木市の文化財第58集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>深井恵子・青木 修               |
| 63  | 埋蔵文化財調査報告書5<br>(城山遺跡第26地点)  | 2014 | 志木市の文化財第59集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>深井恵子・青木 修               |
| 64  | 城山遺跡第82地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2014 | 志木市の文化財第60集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>宮下孝優                    |
| 65  | 田子山遺跡第131地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2015 | 志木市の文化財第61集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>宮下孝優                    |
| 66  | 富士前遺跡第23地点 埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2015 | 志木市の文化財第62集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>清水理史・川田馨秋<br>鎌田 翔       |
| 67  | 埋蔵文化財調査報告書6<br>(城山遺跡第27地点 城山遺跡第28地点 中道遺跡第56地点)                    | 2015 | 志木市の文化財第63集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                    |
| 68  | 志木市遺跡群22<br>(西原大塚遺跡第172①～④地点)                                     | 2015 | 志木市の文化財第64集 | 志木市教育委員会 | 徳留彰紀・尾形則敏<br>深井恵子                    |
| 69  | 田子山遺跡第132①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2016 | 志木市の文化財第65集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>深井恵子                    |
| 70  | 埋蔵文化財調査報告書7<br>(中道遺跡第38地点 中道遺跡第39地点)                              | 2016 | 志木市の文化財第66集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・深井恵子<br>青木 修                    |
| 71  | 中野遺跡第91地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2017 | 志木市の文化財第67集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>宅間清公・田中浩江<br>岩崎岳彦       |
| 72  | 市場裏遺跡第23地点 城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点 中野遺跡第95地点 埋蔵文化財発掘調査報告書          | 2017 | 志木市の文化財第68集 | 志木市教育委員会 | 徳留彰紀・尾形則敏<br>・青木 修                   |
| 73  | 中道遺跡第76地点 城山遺跡第91①地点 西原大塚遺跡第211地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                    | 2018 | 志木市の文化財第69集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>深井恵子・青木 修               |
| 74  | 志木市遺跡群23<br>(西原大塚遺跡第180地点 西原大塚遺跡第182地点 西原大塚遺跡第183地点 西原大塚遺跡第184地点) | 2018 | 志木市の文化財第70集 | 志木市教育委員会 | 大久保聡・尾形則敏<br>深井恵子                    |
| 75  | 埋蔵文化財調査報告書8<br>(田子山遺跡第51地点 中野遺跡第55地点 中野遺跡第57地点)                   | 2018 | 志木市の文化財第71集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>深井恵子                    |
| 76  | 西原大塚遺跡第213地点 中野遺跡第102地点 中野遺跡第104地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                   | 2019 | 志木市の文化財第72集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>深井恵子・青木 修               |
| 77  | 中道遺跡第87地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2020 | 志木市の文化財第73集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>林 邦雄                    |
| 78  | 西原大塚遺跡第224地点 埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2020 | 志木市の文化財第74集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>成島一成・西川忠春               |
| 79  | 西原大塚遺跡第220地点 西原大塚遺跡第222地点 西原大塚遺跡第227地点 埋蔵文化財発掘調査報告書               | 2020 | 志木市の文化財第75集 | 志木市教育委員会 | 大久保聡・尾形則敏                            |
| 80  | 西原大塚遺跡第216地点 埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2020 | 志木市の文化財第76集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>青木 修                    |
| 81  | 田子山遺跡第160地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2020 | 志木市の文化財第77集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>石川安司・小林陽子<br>清水理史       |
| 82  | 城山遺跡第96地点 埋蔵文化財発掘調査報告書  | 2021 | 志木市の文化財第78集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>徳留彰紀・遠竹陽一郎<br>坂下貴則・宅間清公 |
| 83  | 西原大塚遺跡第228地点 埋蔵文化財発掘調査報告書   | 2021 | 志木市の文化財第79集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>大久保聡・宅間清公<br>小森暁生       |

第2表 志木市の発掘調査報告書一覧(3)

| No. | 報告書名<br>(所収遺跡地点名)  | 刊行年  | シリーズ名       | 発刊者      | 編著者   |
|-----|--|------|-------------|----------|---|
| 84  | 西原大塚遺跡第231地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                                | 2021 | 志木市の文化財第80集 | 志木市教育委員会 | 大久保聡・尾形則敏   |
| 85  | 志木市遺跡群24<br>(市場裏遺跡第21地点 西原大塚遺跡第199地点 城山遺跡第79地点)          | 2021 | 志木市の文化財第81集 | 志木市教育委員会 | 大久保聡・尾形則敏<br>徳留彰紀   |
| 86  | 中野遺跡第109地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                                  | 2021 | 志木市の文化財第82集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>大久保聡・市川康弘<br>梶ヶ山真理・植月 学  |
| 87  | 西原大塚遺跡第223地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                                | 2021 | 志木市の文化財第83集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>大久保聡・坂下卓則<br>遠藤知成・小森暁生   |
| 88  | 城山遺跡第99地点 中野遺跡第114地点 中道遺跡第92地点 埋蔵文化財発掘調査報告書              | 2022 | 志木市の文化財第84集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡   |
| 89  | 志木市遺跡群25<br>(西原大塚遺跡第174②～⑤地点)                            | 2022 | 志木市の文化財第85集 | 志木市教育委員会 | 徳留彰紀・尾形則敏<br>大久保聡・木村結香  |
| 90  | 西原大塚遺跡第234地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                                | 2022 | 志木市の文化財第86集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>大久保聡・小林陽子<br>福泉 藍・石川安司   |
| 91  | 中野遺跡第116地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                                  | 2022 | 志木市の文化財第87集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>大久保聡・木村結香<br>石川安司・小林陽子   |
| 92  | 中野遺跡第117地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                                  | 2022 | 志木市の文化財第88集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>大久保聡・木村結香<br>小林陽子・清水理史   |
| 93  | 西原大塚遺跡第235地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                                | 2023 | 志木市の文化財第89集 | 志木市教育委員会 | 徳留彰紀・大久保聡<br>尾形則敏・木村結香<br>市川康弘  |
| 94  | 中野遺跡第121地点 中野遺跡第123地点 中道遺跡第94地点 田子山遺跡第172地点 埋蔵文化財発掘調査報告書 | 2023 | 志木市の文化財第90集 | 志木市教育委員会 | 木村結香・大久保聡<br>徳留彰紀・尾形則敏  |
| 95  | 埋蔵文化財調査報告書9<br>(西原大塚遺跡第70地点)                             | 2023 | 志木市の文化財第91集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・徳留彰紀<br>大久保聡・深井恵子  |
| 96  | 志木市遺跡群26<br>(中野遺跡第87地点 中道遺跡第74地点 田子山遺跡第129地点)            | 2023 | 志木市の文化財第92集 | 志木市教育委員会 | 大久保聡・徳留彰紀<br>尾形則敏   |
| 97  | 城山遺跡第101地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                                  | 2023 | 志木市の文化財第93集 | 志木市教育委員会 | 徳留彰紀・大久保聡<br>尾形則敏 木村結香<br>遠竹陽一郎・坂下貴則<br>遠藤知成  |
| 98  | 中野遺跡第122地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                                  | 2023 | 志木市の文化財第94集 | 志木市教育委員会 | 大久保聡・尾形則敏<br>木村結香・原野真祐<br>石橋佳奈・黒沼保子<br>伊藤 茂・加藤和浩<br>廣田正史・佐藤正教<br>山形秀樹<br>Zaur Lomtadidze<br>辰巳晃司・佐伯史子<br>奈良貴史 |
| 99  | 埋蔵文化財発掘調査報告書10<br>(西原大塚遺跡第72地点)                          | 2024 | 志木市の文化財第95集 | 志木市教育委員会 | 尾形則敏・大久保聡<br>深井恵子   |
| 100 | 中道遺跡第97地点 田子山遺跡第173地点 埋蔵文化財発掘調査報告書                       | 2024 | 志木市の文化財第96集 | 志木市教育委員会 | 木村結香・尾形則敏<br>藤田 尚・伊藤 茂<br>加藤和浩・佐藤正教<br>廣田正史・山形秀樹<br>Zaur Lomtadidze<br>森 将志                                   |
| 101 | 埋蔵文化財発掘調査報告書11<br>(西原大塚遺跡第35地点)                          | 2024 | 志木市の文化財第97集 | 志木市教育委員会 | 徳留彰紀・尾形則敏<br>松木綾子・中村真理<br>新海達也・藤波啓容   |
| 102 | 志木市遺跡群27<br>(中野遺跡第85地点 城山遺跡第102地点)                       | 2024 | 志木市の文化財第98集 | 志木市教育委員会 | 大久保聡・尾形則敏   |

第2表 志木市の発掘調査報告書一覧(4)

## 第2節 遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町2～4丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約1kmに位置している。北東―南西方向に約700m、北西―南東方向に約150mの広がりを持ち、遺跡面積164,960㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で8mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、おおむね緩やかな傾斜をもち台地から低地に移行している。遺跡北西部分の台地下では、今でも小規模な湧水点が確認されている。

昭和48（1973）年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元（1989）年から平成19（2007）年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。

本遺跡は、これまでに245回の調査（令和6年1月31日現在）が実施され、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明している。特に、縄文時代中期では住居跡約200軒以上からなる大規模な環状集落が形成され、また、弥生時代後期～古墳時代前期では、住居跡670軒以上、方形周溝墓38基が調査され、さらに環濠の存在が確認されている。

特に本遺跡から発見された資料として、以下の2件が、平成24年度に市指定文化財に指定され、大きな成果を上げることができた。

- ①西原大塚遺跡出土の動物形土製品
- ②西原大塚遺跡17号方形周溝墓出土遺物

### [註]

註1 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註2 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18（1486）年6月から10か月間、北陸路から関東各地をめぐる、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

### [引用文献]

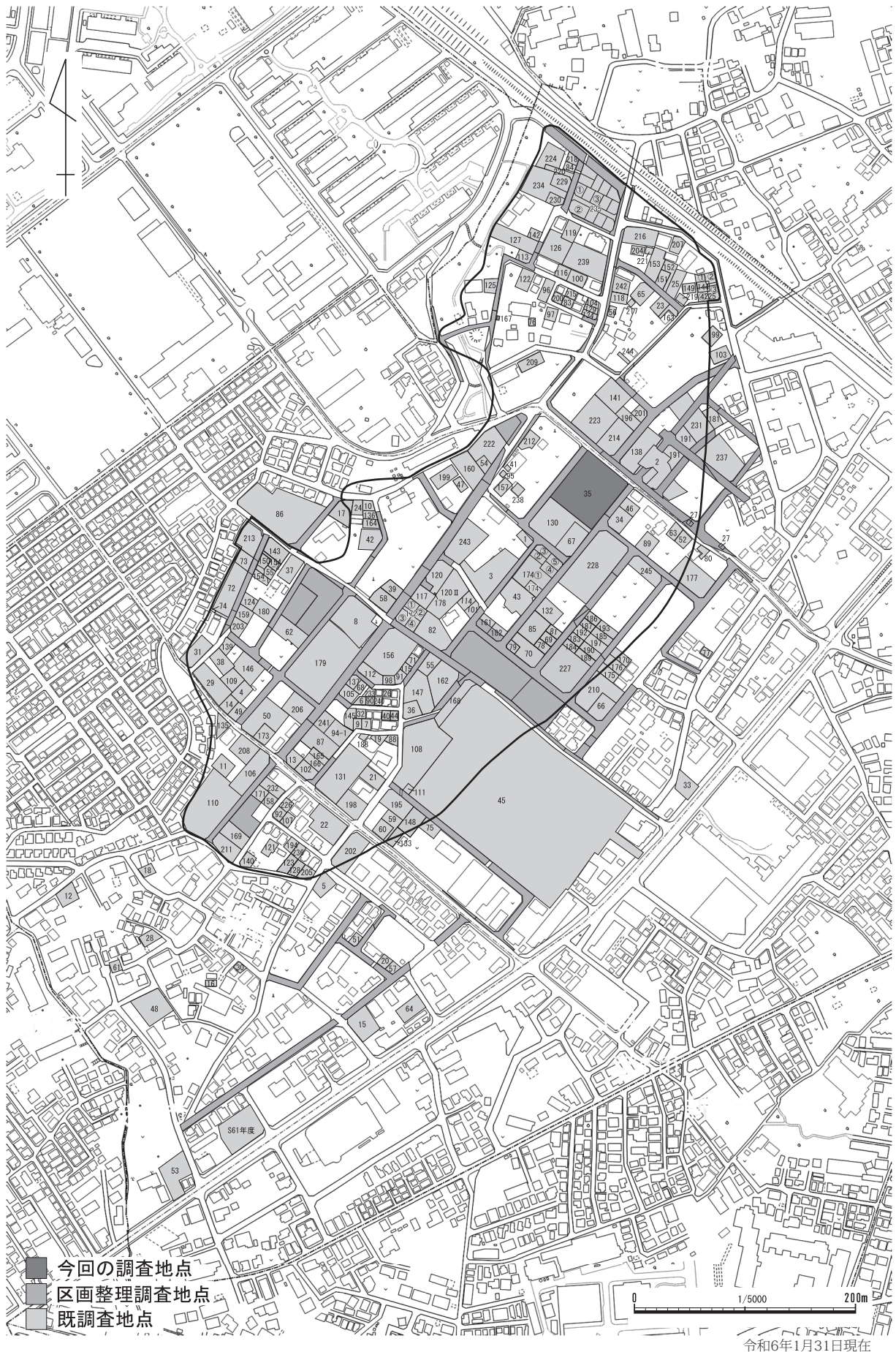
神山健吉 1978 「『廻回雑記』に現れる 大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第7号 志木市郷土史研究会

2002 「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号 志木市郷土史研究会

田中 信 2022 「第4章 調査のまとめ 第3節 中世以降について」『西原大塚遺跡第234地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第86集 埼玉県志木市教育委員会

藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院





第2図 西原大塚遺跡の調査地点 (1 / 5,000)

第1章 遺跡の立地と環境

| 調査地点     | 面積 (㎡)   | 発掘調査期間                     | 調査原因              | 遺 構 の 概 要  | 文献名<br>第2表文献No |
|----------|----------|----------------------------|-------------------|--|----------------|
| 第1地点     | 112.50   | 昭和48年8月3日<br>～12日          | 学術調査              | 縄文中期(住居跡5軒、土坑8基)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)                                    | No.1           |
| 第2地点     | 940.00   | 昭和55年7月.20日<br>～8月21日      | 学術調査              | 弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)   | No.2           |
| 第3地点     | 439.00   | 昭和58年8月23日<br>～9月8日        | 共同住宅              | 縄文中期(住居跡5軒、土坑2基)   | No.3           |
| 第4地点     | 105.00   | 昭和62年1月5日<br>～11日          | 共同住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)   | No.4           |
| 第6地点     | 64.32    | 昭和62年11月18日<br>～20日        | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)   | No.5           |
| 第7地点     | 77.44    | 昭和63年1月20日                 | 共同住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(小竪穴状遺構1基)、時期不詳(土坑1基、溝跡1本)                                  | No.7           |
| 第8地点     | 1,227.00 | 昭和63年3月16日<br>～8月6日        | 個人住宅建設            | 縄文中期(住居跡1軒、土坑24基)、弥生後期～古墳前期(住居跡13軒、方形周溝墓1基、掘立柱建築遺構1棟)                | No.6           |
| 第9地点     | 75.86    | 昭和63年8月18日<br>～9月10日       | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)   |                |
| 第10地点    | 80.54    | 昭和63年8月27日<br>～10月4日       | 個人住宅建設            | 縄文中期(土坑4基、遺物包含層)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)                                    |                |
| 第11地点    | 220.84   | 平成元年5月16日<br>～25日          | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)   | No.8           |
| 第14地点    | 129.00   | 平成2年5月26日<br>～6月11日        | 共同住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)   | No.10          |
| 第21地点    | 265.73   | 平成3年5月28日<br>～29日          | 事務所併用住宅           | 弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)   | No.10          |
| 第32地点    | 60.11    | 平成6年4月7日<br>～14日           | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)   | No.9           |
| 第34地点    | 317.00   | 平成7年8月4日<br>～9月1日          | 個人住宅建設            | 縄文中期(住居跡3軒、土坑6基)、弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)、奈良・平安(住居跡1軒)                       | No.11          |
| 第35地点    | 2,540.00 | 平成8年7月17日<br>～平成9年1月9日     | 共同住宅建設            | 縄文中期(住居跡20軒、土坑25基、埋土1基、集石3基)、弥生後期～古墳前期(住居跡5軒、方形周溝墓3基、溝跡2条)、奈良(住居跡2軒) | 本報告            |
| 第36地点    | 248.05   | 平成8年10月15日<br>～26日         | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)   | No.13          |
| 第37地点    | 220.00   | 平成9年4月8日<br>～6月5日          | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡7軒)、時期不詳(土坑4基)  | No.14          |
| 第39地点    | 63.76    | 平成9年8月5日<br>～28日           | 個人住宅建設            | 縄文中期(住居跡3軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、方形周溝墓1基)                                 | No.14          |
| 第43地点    | 779.60   | 平成12年1月11日<br>～3月24日       | 農地転用              | 縄文中期(住居跡10軒、土坑22基)、弥生後期～古墳前期(住居跡9軒)、古墳(1軒)                           | No.16          |
| 第45地点    | 5,642.42 | 平成11年8月3日<br>～12月24日       | 共同住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡72軒、方形周溝墓1基)、古墳後期(住居跡2軒)                                | No.15          |
| 第47地点    | 86.12    | 平成12年4月3日<br>～4日           | 個人住宅建設            | 縄文中期(土坑1基)、弥生後期～古墳前期(溝跡1本)   | No.17          |
| 第54地点    | 90.74    | 平成13年9月13日<br>～14日         | 物置建設              | 縄文中期～後期(土坑7基)、弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)                                     | No.18          |
| 第65地点    | 115.93   | 平成14年7月25日<br>～8月9日        | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)   | No.19          |
| 第67地点    | 456.20   | 平成14年9月9日<br>～11月29日       | 個人住宅建設            | 縄文中期(住居跡8軒、土坑8基)、弥生後期～古墳前期(住居跡8軒、掘立柱建築遺構1棟、土坑1基)                     | No.22          |
| 第108地点   | 684.60   | 平成21年2月23日<br>～4月14日       | コミュニティ機能を持つ複合施設建設 | 縄文中期(住居跡1軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡15軒)  | No.28          |
| 第110地点   | 500.00   | 平成17年2月7日<br>～3月10日        | 集合住宅建設            | 旧石器(石器集中2か所)、縄文中期(土坑1基、集石1基)、弥生後期～古墳前期(住居跡7軒)                        | No.21          |
| 第111地点   | 80.00    | 平成17年1月17日<br>～1月21日       | 消防車庫建設            | 古墳前期(住居跡1軒)  | No.20          |
| 第113地点   | 119.75   | 平成17年2月4日<br>～15日          | 個人住宅建設            | 縄文早期(炉穴1基)、近世以降(土坑16基)   | No.26          |
| 第120-1地点 | 460.56   | 平成17年6月27日<br>～7月7日        | 保育園建設             | 縄文中期(住居跡1軒、土坑62基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒、方形周溝墓1基)                           | No.25          |
| 第120-2地点 | 566.55   | 平成18年5月30日<br>～6月28日       |                   |  |                |
| 第124地点   | 150.02   | 平成17年12月19日<br>～平成18年1月13日 | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)   | No.26          |
| 第131地点   | 472.21   | 平成18年8月30日<br>～9月20日       | 集合住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡2軒、方形周溝墓5基)   | No.25          |
| 第137地点   | 100.00   | 平成18年11月9日<br>～15日         | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、時期不詳(ピット5本)   | No.27          |
| 第138地点   | 20.00    | 平成19年2月5日                  | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(溝跡1本)  | No.24          |
| 第124地点   | 150.02   | 平成17年12月19日<br>～平成18年1月13日 | 個人住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)   | No.26          |
| 第131地点   | 472.21   | 平成18年8月30日<br>～9月20日       | 集合住宅建設            | 弥生後期～古墳前期(住居跡2軒、方形周溝墓5基)   | No.25          |

第3表 西原大塚遺跡発掘調査一覧(1)



| 調査地点          | 面積 (㎡)    | 発掘調査期間   | 調査原因   | 遺 構 の 概 要   | 文献名<br>第2表文献No. |
|---------------|-----------|--|--------|---|-----------------|
| 第137地点        | 100.00    | 平成18年11月9日<br>～15日                                       | 個人住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1)、時期不詳(ピット5本)   | No.27           |
| 第138地点        | 20.00     | 平成19年2月5日  | 個人住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(溝跡1本)   | No.24           |
| 第154地点        | 120.02    | 平成20年3月17～19日  | 分譲住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、奈良・平安(住居跡1軒、ピット1本)、中世以降(土坑1基)  | No.24           |
| 第155地点        | 120.00    | 平成19年3月18日   | 個人住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1)   | No.27           |
| 区画整理          | 38,242.39 | 平成元年12月20日<br>～平成19年1月12日                                | 区画整理事業 | 旧石器(石器集中12か所)、縄文早期(炉穴13基)、縄文前期(住居跡2軒、土坑1基)、縄文中期(住居跡101軒、土坑233基、集石13基)、縄文後期(住居跡2軒、土坑9基)、弥生後期～古墳前期(住居跡362軒、方形周溝墓22基)、古墳後期(住居跡6軒)、奈良・平安(住居跡7軒)、中近世(土坑155基、井戸跡6基) | No.12<br>No.23  |
| 第169地点        | 90.00     | 平成22年10月4日<br>～13日                                       | 共同住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、掘立柱建築遺構1棟)  | No.29           |
| 第171地点        | 90.00     | 平成22年10月4日<br>～13日                                       | 共同住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、掘立柱建築遺構1棟)  | No.29           |
| 第172①～<br>④地点 | 627.54    | 平成23年10月19日<br>～平成24年1月13日                               | 宅地造成   | 縄文中期(住居跡10軒、屋外炉2基、土坑44基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)   | No.30           |
| 第174①地<br>点   | 627.54    | 平成23年10月19日<br>～平成24年1月13日                               | 宅地造成   | 縄文中期(住居跡10軒、屋外炉2基、土坑44基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)   | No.59           |
| 第174②～<br>⑤地点 | 454.21    | ②～④：平成23年11月3日<br>～平成24年1月13日<br>⑤：平成24年9月10日<br>～10月22日 | 個人住宅建設 | 縄文中期(住居跡17軒、土坑26基)、弥生後期～古墳前期(住居跡(2軒)、中・近世(土坑1基)   | No.86           |
| 第179地点        | 1,380.00  | 平成24年6月18日<br>～平成24年10月5日                                | 集合住宅建設 | 旧石器(石器集中1か所)、縄文(土坑10基)、弥生後期～古墳前期(住居跡13軒、土坑2基)、古墳後期～奈良・平安(溝1本)、中世以降(溝跡4本、土坑1基)   | No.60           |
| 第180地点        | 79.78     | 平成24年6月4日<br>～平成24年8月1日                                  | 個人住宅建設 | 縄文前期(住居跡1軒)、縄文(土坑5基)、弥生後期～古墳前期(住居跡12軒、土坑2基)   | No.74           |
| 第182地点        | 52.76     | 平成24年10月3日<br>～平成24年10月30日                               | 個人住宅建設 | 縄文中期(住居跡1軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)  | No.74           |
| 第183地点        | 74.94     | 平成24年9月24日<br>～平成24年10月3日                                | 個人住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)  | No.74           |
| 第184地点        | 25.06     | 平成24年9月24日<br>～平成24年10月3日                                | 個人住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)  | No.74           |
| 第199地点        | 174.51    | 平成26年2月3日<br>～平成26年2月21日                                 | 個人住宅建設 | 縄文(ピット7本)、中世以降(土坑14基、溝跡1本)  | No.85           |
| 第200地点        | 75.55     | 平成26年11月4日<br>～平成26年11月10日                               | 個人住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)  | 未報告             |
| 第203地点        | 44.00     | 平成26年11月14日<br>～平成26年11月21日                              | 個人住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、中世以降(土坑8基)   | 未報告             |
| 第204地点        | 104.34    | 平成26年11月27日<br>～平成27年1月16日                               | 個人住宅建設 | 縄文後期(土坑7基)、縄文(集石1基)、弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)  | 未報告             |
| 第207地点        | 152.09    | 平成27年10月21日<br>～平成27年11月18日                              | 共同住宅建設 | 縄文(ピット5本)、弥生後期～古墳前期(住居跡3軒、方形周溝墓1基、土坑1基)   | No.72           |
| 第211地点        | 220.00    | 平成29年4月10日<br>～平成29年5月9日                                 | 分譲住宅建設 | 縄文(溝跡1本)、弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)、中世以降(土坑14基、ピット42本)  | No.73           |
| 第213地点        | 635.00    | 平成30年7月4日<br>～平成30年8月26日                                 | 分譲住宅建設 | 中世以降(土坑12基、地下室4基、井戸跡1基、板碑埋納1基、ピット6本)  | No.76           |
| 第216地点        | 373.94    | 平成30年6月19日<br>～平成30年10月6日                                | 共同住宅建設 | 縄文後期(住居跡1軒、土坑31基、ピット104本)、弥生後期～古墳前期(住居跡2軒、掘立柱建築遺構1棟)、中世以降(土坑12基、土坑墓1基)  | No.80           |
| 第220地点        | 119.56    | 平成30年10月31日<br>～平成30年12月1日                               | 道路新設工事 | 旧石器(石器集中1か所、礫群1か所)、縄文(陥穴1基)、中世以降(土坑23基、井戸跡1基、道路状遺構1本、ピット34本)  | No.79           |
| 第222地点        | 94.00     | 平成30年10月18日<br>～平成30年11月7日                               | 分譲住宅建設 | 縄文中期(住居跡7軒、土坑3基)、弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)   | No.79           |
| 第223地点        | 366.93    | 令和2年4月9日<br>～令和2年6月19日                                   | 分譲住宅建設 | 縄文(炉穴1基、土坑6基)、弥生後期～古墳前期(住居跡7軒、溝跡1本)、奈良・平安(住居跡2軒、溝跡1本)   | No.84           |
| 第224地点        | 379.57    | 令和元年5月21日<br>～令和元年7月31日                                  | 分譲住宅建設 | 旧石器(石器集中4か所、礫群4か所)、縄文(土坑2基)、中世以降(段切状遺構1か所、土坑40基、道路状遺構1本、ピット104本)  | No.78           |
| 第225②地<br>点   | 106.61    | 平成31年4月16日<br>～平成31年4月19日                                | 個人住宅建設 | 縄文中期(住居跡1軒)、弥生以降(ピット25本)  | 未報告             |
| 第225③地<br>点   | 122.46    | 令和3年2月24日<br>～令和3年3月15日                                  | 個人住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、弥生以降(ピット49本)、中世以降(土坑1基)  | 未報告             |
| 第225④地<br>点   | 111.54    | 令和3年7月28日<br>～令和3年8月26日                                  | 個人住宅建設 | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、掘立柱建築遺構1棟)、弥生以降(ピット49本)、中世以降(土坑8基、火葬土坑1基)   | 未報告             |

第3表 西原大塚遺跡発掘調査一覧(2)

第1章 遺跡の立地と環境

| 調査地点   | 面積 (㎡)   | 発掘調査期間                   | 調査原因         | 遺構の概要  | 文献名<br>第2表文献No. |
|--------|----------|--------------------------|--------------|--|-----------------|
| 第228地点 | 2,156.00 | 令和元年9月2日<br>～令和2年3月25日   | 分譲住宅建設       | 縄文中期(住居跡14軒、土坑19基)、弥生後期～古墳前期(住居跡26軒)、奈良・平安時代(住居跡3軒)、中世以降(柵列4条、土坑1基)  | No.83           |
| 第231地点 | 564.22   | 令和2年4月21日<br>～令和2年5月30日  | 分譲住宅建設       | 縄文(土坑3基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒、溝跡1本)、古墳後期～平安(住居跡1軒)、中世(柵列状遺構2条、ピット29本)   | No.84           |
| 第234地点 | 222.59   | 令和3年3月3日<br>～令和3年4月18日   | 集合住宅建設       | 古墳後期(住居跡1軒)、中世以降(土坑30基、井戸跡1基、段切状遺構1か所)   | No.90           |
| 第235地点 | 1,542.37 | 令和3年10月25日<br>～令和4年3月31日 | 分譲住宅建設及び道路新設 | 旧石器(石器集中3か所、礫群3か所)、縄文(炉穴1基、ピット1本)、弥生後期～古墳前期(住居跡16軒)、古墳後期(住居跡1軒)、中世以降(掘立柱建築遺構1棟、土坑26基、井戸跡2基、畝状遺構群1か所、ピット112本) | No.93           |
| 第239地点 | 1,542.37 | 令和3年10月25日<br>～令和4年3月31日 | 分譲住宅建設及び道路新設 | 旧石器(石器集中1か所)、縄文(炉穴1基、土坑9基、ピット11本)、弥生後期～古墳前期(住居跡14軒、掘立柱建築遺構1棟、溝跡1本、ピット4本)、中世以降(土坑14基、溝跡1本、ピット22本)             | 未報告             |
| 第241地点 | 230.00   | 令和5年5月22日<br>～令和5年6月1日   | 個人住宅建設       | 弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)   | 未報告             |
| 第242地点 | 254.27   | 令和5年7月3日<br>～令和5年7月11日   | 個人住宅建設       | 縄文(ピット2本)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)   | 未報告             |
| 第243地点 | 816.97   | 令和5年5月30日<br>～令和5年8月2日   | 共同住宅建設       | 縄文(土坑12基、ピット2本)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、方形周溝墓3基)、中世以降(土坑29基、溝跡1本、ピット39本)   | 未報告             |

第3表 西原大塚遺跡発掘調査一覧(3)

## 第2章 発掘調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

#### (1) 調査に至る経過

平成8年4月24～26日、志木市教育委員会（以下、教育委員会）は、志木市幸町3丁目7200、7201、7202、7198、7199（面積2,540.00㎡）における共同住宅建設工事計画に先立ち、当該地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会及び確認調査依頼に基づき、確認調査を実施した。その結果、縄文時代の住居跡をはじめとする多数の遺構が確認された。教育委員会は、土木工事主体者と保存に向けた協議を重ねた結果、土木工事計画地全域（面積2,540.00㎡）を対象に、発掘調査を実施することに決定した。

その後、教育委員会は、土木工事主体者に対し、発掘調査主体者にあたる組織として、志木市遺跡調査会（以下、遺跡調査会）を斡旋した。遺跡調査会ではこれを受け、土木工事主体者と委託契約を締結し、埋蔵文化財発掘調査届を教育委員会に提出した。教育委員会は、これらの届出をすみやかに埼玉県教育委員会経由で文化庁長官に提出した。

これにより、平成8年7月16日から平成9年1月11日まで、遺跡調査会を主体とした発掘調査を実施した。

### 第2節 発掘調査の経過

各遺構の精査経過については、第4表の発掘調査工程表に示し、以下に日付順に説明する。

平成8年

- 4月下旬 確認調査。
- 7月中旬 重機による表土剥ぎ作業開始。
- 7月下旬 表土剥ぎ作業、遺構確認作業開始。
- 8月上旬 201 D確認、精査開始。土層図・平面図・断面図作成、写真撮影。
- 8月中旬 12 M、5方、202 D精査。12 Mと202 Dは写真撮影、平面図・断面図作成。
- 8月下旬 203～205 D、6方精査開始。（C-1）から（D-2）にかけて伸びる溝を13 Mとし、精査開始。引き続き5方精査、住居と重複するため困難を極める。204 Dには大型の深鉢が埋設。
- 9月上旬 102・103 J精査開始。204・205 D写真撮影、平面図・断面図作成。102 Jに焼土の堆積あり。遺物取り上げ後床面確認。
- 9月中旬 104 J、206～208 D、1・2 S精査開始。6方引き続き精査。溝は浅く、南側溝は住居と重複しているため確認困難。主体部から翡翠製の三角形の錘飾品、ガラス玉、碧玉



製管玉出土。主体部断面図作成、レベリング。102 J 写真撮影、平面図・断面図・土層図・断面図作成、レベリング。103 J 遺物出土状況写真撮影、平面図作成。104 J 遺物出土状況、平面図作成。

- 9月下旬 101・105 J、209・210 D、9 H精査開始。103 J 遺物出土状況図面作成、遺物取り上げ。写真撮影・平面図作成。104 J 壁の確認をほぼ達成。101・103・104 J 土層図後ベルト精査。207 D写真撮影・平面図作成。
- 10月上旬 106 J、211 D、3 S精査開始。6方東側住居を108 J、西側を107 Jとし、精査開始。9 Hは床面付近の焼土堆積が著しく、ブロック状の炭化材が散在していたことから焼失家屋であると断定。ベルト精査、炭化材清掃。土層写真撮影、図面作成。床面南西コーナーで保存状態が非常に良い刀子が完形で出土。101 J 断面図作成、レベリング。103 J 埋葬写真撮影・図面作成、断面図作成、炉体土器写真撮影・図面作成。104 J 写真撮影、平面図・断面図作成、レベリング。105 J ピット精査、壁溝精査、土層図作成。208・210 D図面作成。2 S掘方写真撮影・図面作成。106 J ピット精査、壁検出。写真撮影、平面図・土層図作成。ベルト精査。
- 10月中旬 109 J、212～214 D精査開始。105 J 炉切開。106 J 炉図面作成・写真撮影。107・108 J、9 H、3 S引き続き精査。108 J 覆土上層に礫が多量に出土。
- 10月下旬 北側の埋め戻しを開始。調査区東側遺構確認開始。110 J・111 J精査開始。111 Jは遺物が少ない小型住居。104 J 炉図面作成、埋喪土層・写真撮影・実測。109 J 耳栓出土、壁の検出及び壁溝精査、ベルト精査、ピット精査、遺物実測、平面図作成。108 J 遺物出し及び壁溝精査、遺物写真撮影、遺物出土状況実測。遺物の出土状態は典型的な廃棄パターン。110 J 遺物出土状況写真撮影、110 J 平面図・断面図作成、レベリング。214 D写真撮影、遺物実測、断面図作成。9 Hカマド切開。写真撮影、平面図作成、レベリング。3 S実測、掘方写真撮影。
- 11月上旬 調査区反転。215 D精査開始。109 J 炉実測。111 J 壁溝・ピット精査。108 J 遺物出土状態実測、土層図作成、遺物取り上げ、ピット精査、壁溝精査。107 J 土層図作成、ピット精査。9 Hカマド切開。
- 11月中旬 106 Y精査開始、比較的遺物が多い。南コーナー部に凸堤を有する貯蔵穴、支柱穴2本と入り口施設と思われるピットを確認。5 S精査開始。108 J 平面図・断面図・全測図作成。107 J 平面図・全測図・炉断面図作成、レベリング。111 J 平面図・断面図・全側図作成、レベリング。9 Hカマド図面作成。215 D全測図作成。(E-3・4)(F-3・4) G遺構確認。13 M全測図・平面図作成。7号柵列精査開始、全測図作成。
- 11月下旬 112・113 J、145～148Y、6～10 S、216～219 D精査開始。112 J 土層図作成、ベルト精査、壁面検出。遺物の出土量は多く、廃棄パターンを持つ住居。113 J 写真撮影、土層図・平面図・断面図・炉図面作成、レベリング。住居中央に硬化面が認められるが周溝は軟弱で壁の立ち上がりも緩やかな為確認しにくい所あり。145146 Y土層図・平面図・断面図・全測図作成、写真撮影。遺物は少ない。148 Y土層図作成。7号柵列写真撮影、平面図・断面図作成、レベリング。13 M写真撮影、断面図作成、レベリング。6～10 S実測、写真撮影。

12月上旬 114・115 J、220～223 D、11 S精査開始。112・113 J引き続き精査。112 J写真撮影、平面図・断面図・全測図・炉図面作成、ピット・壁溝精査、ベルト精査、壁面検出、遺物取りあげ、レベリング。113 J炉図面・全測図作成。114 J南壁下に埋甕出土、土層図作成、廃棄パターンを呈するが遺物は破片のもの。床面確認、中央部はよく硬化。115 J写真撮影、炉切開、平面図・炉図面・全測図・断面図作成、レベリング、遺物は非常に少ない。147 Y写真撮影、平面図・全測図・断面図作成、レベリング。148 Y写真撮影、平面図・土層図作成、ピット精査、掘り方精査。

12月中旬 北側から埋め戻し作業開始。116～120 J精査開始。116 Jを切る住居を10 Hとする。10 H精査開始。114 Jベルト精査、ピット・壁面精査、写真撮影、平面図・断面図作成、炉写真撮影、遺物取り上げ、レベリング、炉横位写真撮影・埋甕横位写真撮影。112 J炉図面・全測図作成、写真撮影。117 Jピット精査、断面図・炉図面・全測図作成、レベリング。10 H写真撮影、平面図・断面図作成、レベリング、ベルト精査。カマド切開、カマド図面作成、カマド写真撮影。カマド前の甕は入れ子状で3個体が重なり合って横転した状態で出土。119 J石囲炉の炉石は石棒を使用。

12月下旬 119 J写真撮影。116 J写真撮影、平面図・断面図・全測図作成、ピット精査、レベリング。118 J壁面精査、土層図作成。119 J炉写真撮影、平面図・炉図面・全測図作成、レベリング。

平成9年

1月上旬 118 J南側の土坑2基を225・226 Dとし、精査開始。116 Jと117 Jの間に埋甕、2号埋甕とし、精査開始。227 D精査開始。118・120 J遺物出土状況写真撮影・図面作成。118 Jは拡張住居と判断。遺物取り上げ、ピット・壁溝精査、写真撮影、平面図・炉図面・全測図作成、レベリング。120 J写真撮影、平面図・土層図・断面図・炉図面作成。10・11日埋め戻し作業。

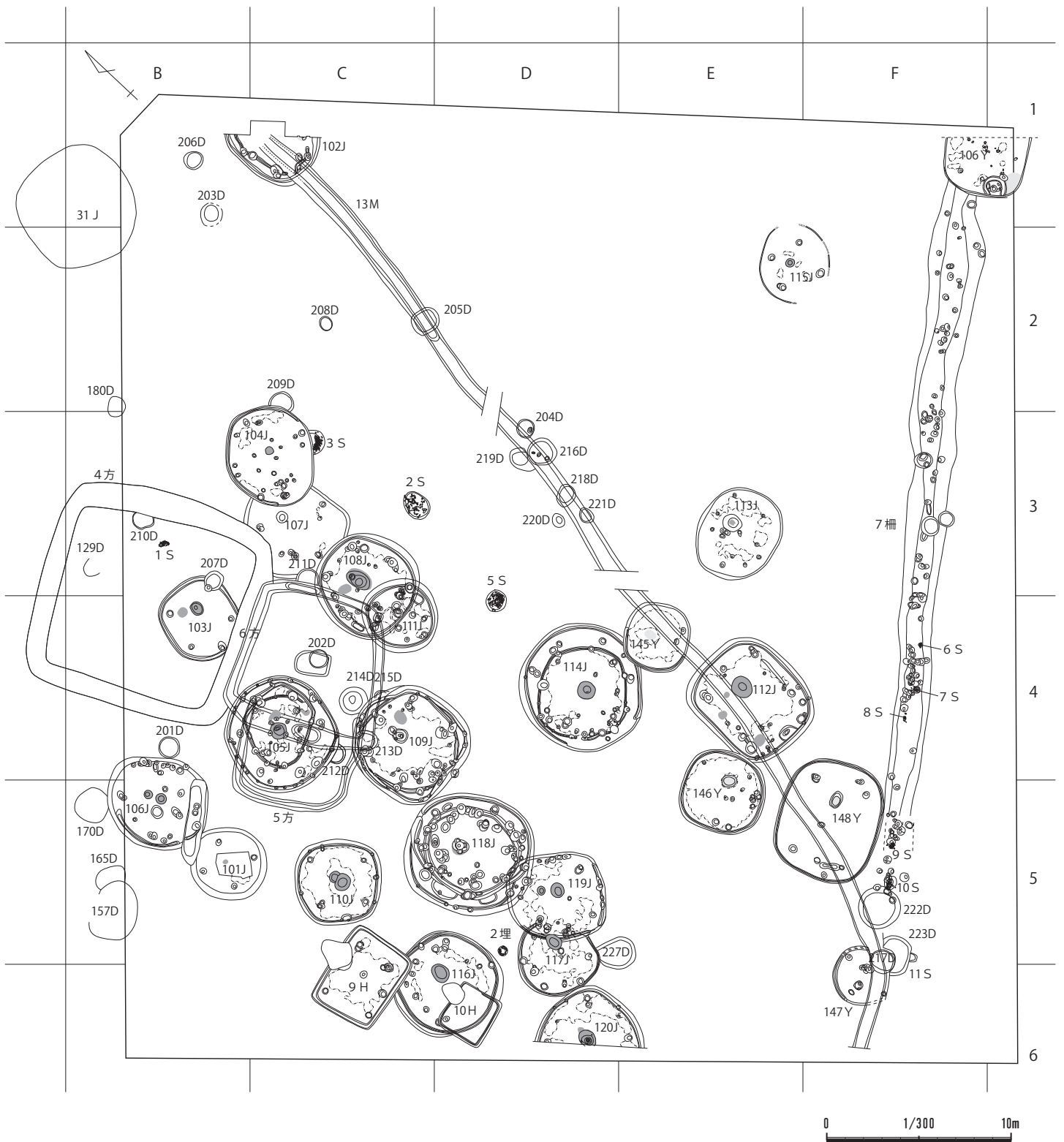
|        | 平成8年7月 |      | 8月  |      |      | 9月   |      |       | 10月   |     |     | 11月 |       |       | 12月   |       |       | 平成9年1月 |     |
|--------|--------|------|-----|------|------|------|------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-----|
|        | 20日    | 31日  | 10日 | 20日  | 31日  | 10日  | 20日  | 30日   | 10日   | 20日 | 31日 | 10日 | 20日   | 30日   | 10日   | 20日   | 31日   | 10日    |     |
| 表土剥ぎ作業 | 7/16   | 7/29 |     |      |      |      |      |       |       |     |     |     |       |       |       |       |       |        |     |
| 101J   |        |      |     |      |      | 9/24 |      | 10/2  |       |     |     |     |       |       |       |       |       |        |     |
| 102J   |        |      | 9/2 |      | 9/18 |      |      |       |       |     |     |     |       |       |       |       |       |        |     |
| 103J   |        |      | 9/6 |      |      |      |      | 10/3  |       |     |     |     |       |       |       |       |       |        |     |
| 104J   |        |      |     | 9/18 |      |      |      |       |       |     |     |     |       | 10/31 |       |       |       |        |     |
| 105J   |        |      |     |      |      | 9/26 |      | 10/18 |       |     |     |     |       |       |       |       |       |        |     |
| 106J   |        |      |     |      |      |      | 10/3 |       | 10/16 |     |     |     |       |       |       |       |       |        |     |
| 107J   |        |      |     |      |      |      |      |       | 10/9  |     |     |     |       | 11/12 |       |       |       |        |     |
| 108J   |        |      |     |      |      |      |      |       | 10/9  |     |     |     |       | 11/13 |       |       |       |        |     |
| 109J   |        |      |     |      |      |      |      |       | 10/15 |     |     |     |       | 11/5  |       |       |       |        |     |
| 110J   |        |      |     |      |      |      |      |       | 10/21 |     |     |     | 10/29 |       |       |       |       |        |     |
| 111J   |        |      |     |      |      |      |      |       | 10/22 |     |     |     | 11/12 |       |       |       |       |        |     |
| 112J   |        |      |     |      |      |      |      |       |       |     |     |     | 11/21 |       |       | 12/10 |       |        |     |
| 113J   |        |      |     |      |      |      |      |       |       |     |     |     | 11/25 |       |       | 12/2  |       |        |     |
| 114J   |        |      |     |      |      |      |      |       |       |     |     |     | 12/2  |       |       | 12/17 |       |        |     |
| 115J   |        |      |     |      |      |      |      |       |       |     |     |     | 12/3  |       |       | 12/6  |       |        |     |
| 116J   |        |      |     |      |      |      |      |       |       |     |     |     |       | 12/12 |       |       | 12/26 |        |     |
| 117J   |        |      |     |      |      |      |      |       |       |     |     |     |       | 12/12 |       |       | 12/19 |        |     |
| 118J   |        |      |     |      |      |      |      |       |       |     |     |     |       |       | 12/16 |       |       |        | 1/9 |

第4表 西原大塚遺跡第35地点の発掘調査工程表(1)

第2章 発掘調査の概要

|      | 平成8年7月 |     | 8月   |      |      | 9月   |       |     | 10月   |       |       | 11月   |       |     | 12月   |       |       | 平成9年1月 |      |      |
|------|--------|-----|------|------|------|------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|--------|------|------|
|      | 20日    | 31日 | 10日  | 20日  | 31日  | 10日  | 20日   | 30日 | 10日   | 20日   | 31日   | 10日   | 20日   | 30日 | 10日   | 20日   | 31日   | 10日    |      |      |
| 119J |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       | 12/18 | 12/26 |        |      |      |
| 120J |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       | 12/18 |       | 1/9    |      |      |
| 2埋   |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       | 1/6    | 1/7  |      |
| 201D |        |     | 8/8  | 8/9  |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 202D |        |     | 8/16 | 8/19 |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 203D |        |     |      | 8/28 | 8/29 |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 204D |        |     |      | 8/28 | 9/2  |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 205D |        |     |      | 8/29 | 9/2  |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 206D |        |     |      |      | 9/11 | 9/12 |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 207D |        |     |      |      | 9/18 | 9/27 |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 208D |        |     |      |      | 9/20 | 10/3 |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 209D |        |     |      |      | 9/27 | 10/3 |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 210D |        |     |      |      | 9/25 | 10/3 |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 211D |        |     |      |      |      | 10/3 |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 212D |        |     |      |      |      |      |       |     | 10/15 | 10/17 |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 213D |        |     |      |      |      |      |       |     | 10/15 | 10/15 |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 214D |        |     |      |      |      |      |       |     | 10/15 | 10/31 |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 215D |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/7  | 11/11 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 216D |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/26 | 11/28 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 217D |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/26 | 12/2  |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 218D |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/26 | 11/28 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 219D |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/29 | 12/2  |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 220D |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       | 12/2  |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 221D |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       | 12/2  |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 222D |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       | 12/3  | 12/12 |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 223D |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       | 12/6  | 12/10 |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 224D | 欠番     |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 225D |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       | 1/6    | 1/8  |      |
| 226D |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       | 1/6    | 1/8  |      |
| 227D |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        | 1/8  |      |
| 1S   |        |     |      |      |      | 9/18 | 9/19  |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 2S   |        |     |      |      |      | 9/20 | 10/2  |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 3S   |        |     |      |      |      |      |       |     | 10/7  | 10/31 |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 4S   | 欠番     |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 5S   |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/12 | 11/15 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 6S   |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/25 | 11/26 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 7S   |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/25 | 11/26 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 8S   |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/22 | 11/25 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 9S   |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/22 | 11/25 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 10S  |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/22 | 11/25 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 11S  |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       | 12/6  | 12/9  |     |       |       |       |        |      |      |
| 106Y |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/11 | 11/14 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 145Y |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/21 | 11/26 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 146Y |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/21 | 11/26 |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 147Y |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/25 | 12/3  |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 148Y |        |     |      |      |      |      |       |     |       | 11/28 | 12/9  |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 5方   |        |     | 8/13 | 8/26 |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 6方   |        |     |      | 8/27 | 9/17 |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 9H   |        |     |      |      |      | 9/26 | 11/11 |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 10H  |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     | 12/13 | 12/19 |       |        |      |      |
| 12M  |        |     | 8/12 | 8/14 |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        |      |      |
| 13M  |        |     |      | 8/23 | 8/29 |      |       |     |       |       |       | 11/18 | 11/22 |     |       |       |       |        |      |      |
| 7柵   |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       | 11/11 | 11/25 |     |       |       |       |        |      |      |
| 埋戻作業 |        |     |      |      |      |      |       |     |       |       |       |       |       |     |       |       |       |        | 1/10 | 1/11 |

第4表 西原大塚遺跡第35地点の発掘調査工程表(2)



第3図 遺構分布図 (1 / 300)

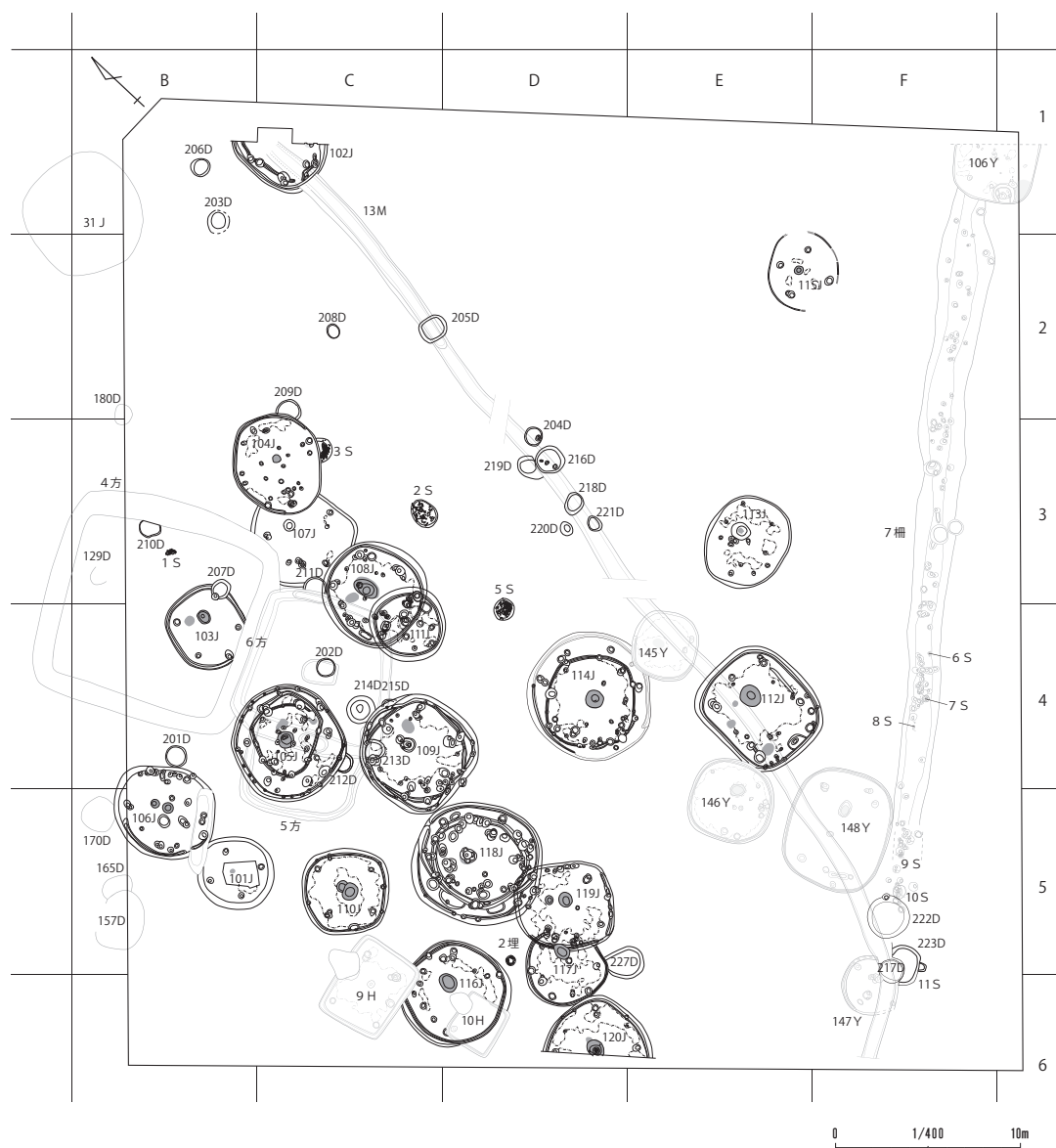


## 第3章 検出された遺構・遺物

### 第1節 縄文時代の遺構・遺物

#### (1) 概要

縄文時代の遺構は住居跡 20 軒 (101 ~ 120 J)、埋甕 1 基 (2 埋)、土坑 26 基 (201 ~ 227 D、224 Dは欠番)、集石 5 基 (1 ~ 3・5・11 S) を検出し、時期は全て中期中葉~後葉である。なお、特筆すべきこととして多くの遺物が出土している 108 J から人面把手・蛇体把手を伴う深鉢が出土した。



第4図 縄文時代遺構全体図 (1 / 400)

(2) 住居跡

101号住居跡

遺 構 (第5・6図)

[位 置] (B・C-5) グリッド。

[検出状況] 住居中央部分を地盤調査の攪乱によって壊される。12 Mに切られる。

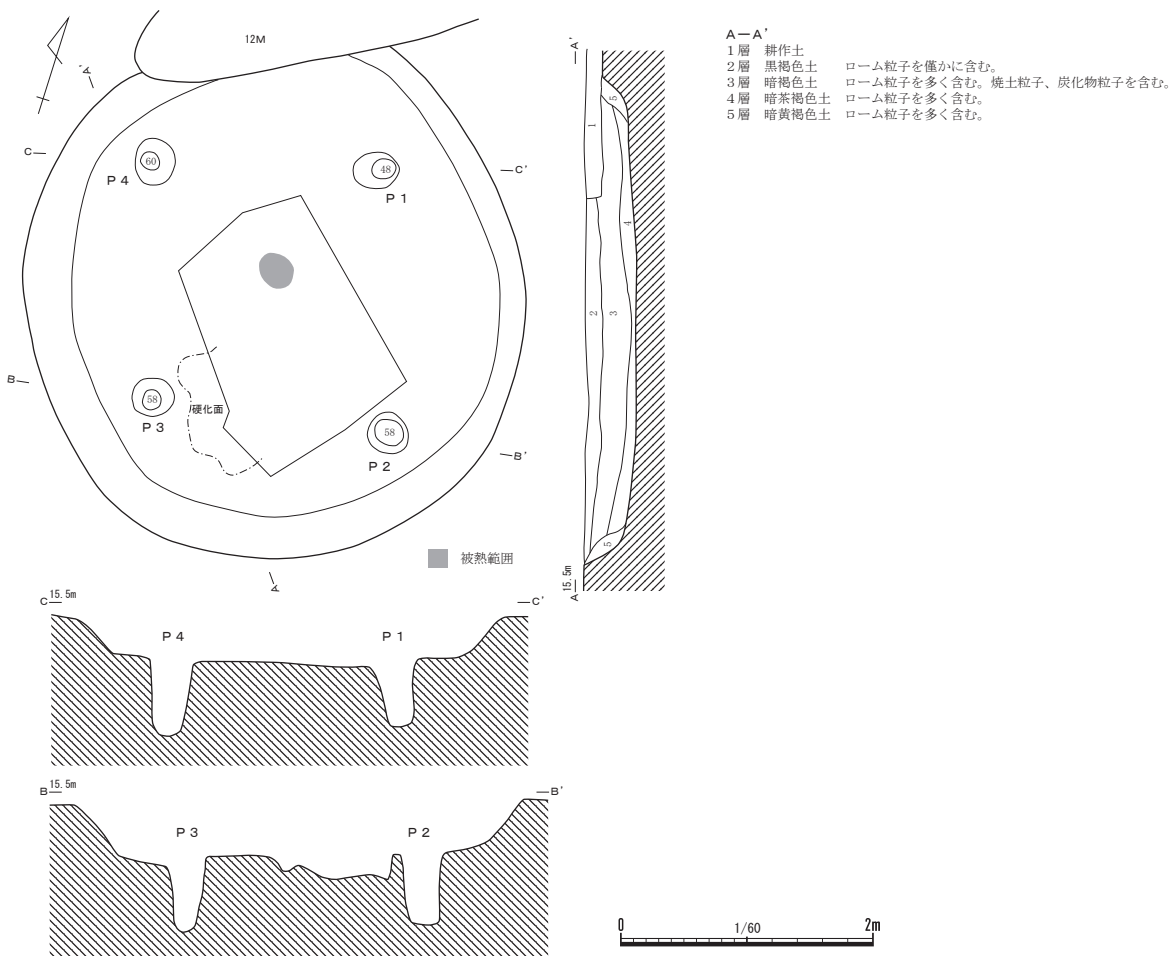
[構 造] 平面形：円形。主軸方位：N-16°-W。P 2とP 3の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸残存長 390cm / 短軸 400cm / 深さ 20 ~ 42cm。壁溝：検出されなかった。壁：約 50 ~ 60°で緩やかに立ち上がる。床面：概ね平坦であるが、軟弱で中央部分がわずかに低くなる。攪乱部分の南側に一部硬化面を確認した。直床である。炉：地盤調査の際に炉体土器などが出土していることから、埋甕炉と思われる。長軸被熱部分残存長 30cm / 短軸被熱部分残存長 25cm。柱穴：4本検出した。P 1 ~ P 4を主柱穴ととらえ、4本柱建物を想定する。

[覆 土] 5層に分層できた。

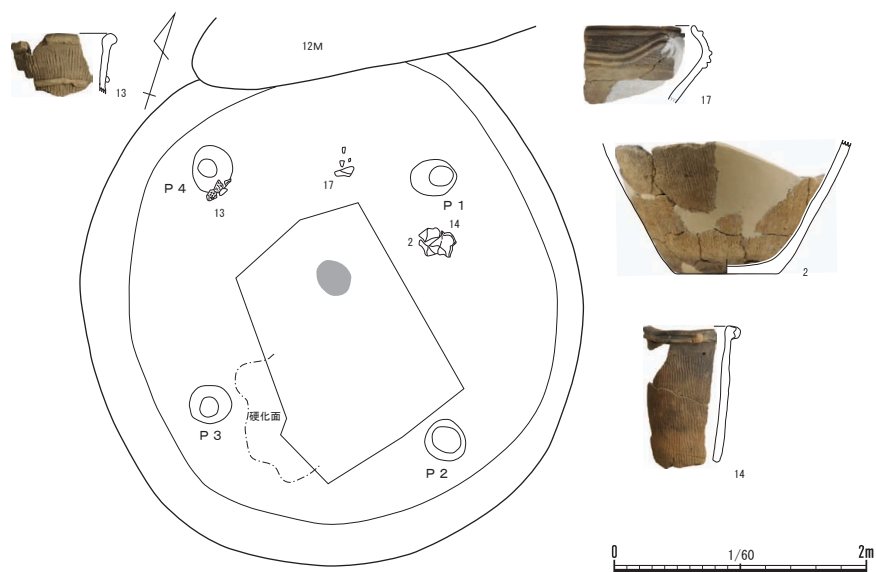
[遺 物] 土器、土製品、石器が出土した。攪乱部分の炉体土器(第7図1)を含む一部の遺物は地盤調査の際に取り上げられた。

[時 期] 中期中葉期(勝坂3b新式期)。

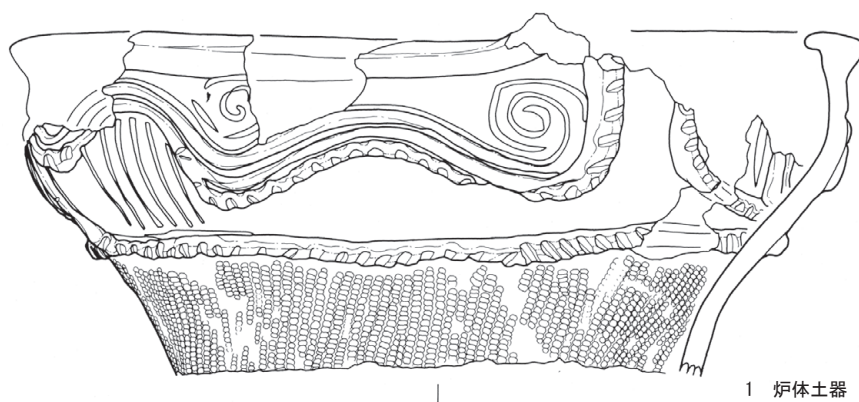
遺 物 (第7・8図、図版24・25-1、第5~7表)



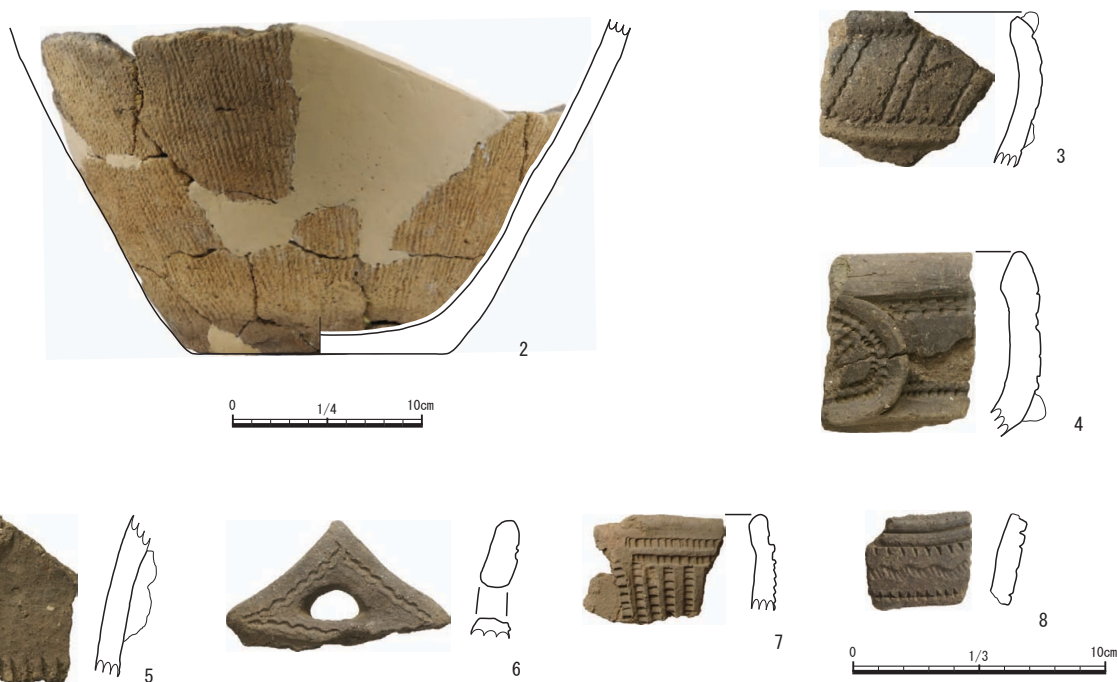
第5図 101号住居跡(1/60)



第6図 101号住居跡遺物出土状態 (1/60)



1 炉体土器



第7図 101号住居跡出土遺物1 (1/4)

[土 器] (第7図・第8図9～20、図版24・25-1、第5表)

復元個体2点、破片資料18点を図示した。1は炉体土器で、口縁部に文様帯を持つ勝坂3b新式の深鉢形土器である。隆帯を波状に貼付し、沈線による渦巻文を施文する。2は撚糸文を地文とする加曾利E1式の深鉢形土器である。3～6は阿玉台式、7～12は勝坂式、13・14は勝坂3～加曾利E1式、15～19は加曾利E式、20は連弧文土器の深鉢形土器である。

[土 製品] (第8図21～23、図版25-1、第6表)

3点を図示した。21～23は土器片錘である。

[石 器] (第8図24、図版25-1、第7表)

1点を図示した。24は打製石斧である。



第8図 101号住居跡出土遺物2 (1/3)



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号     | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                    | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土                               | 時期<br>型式                |
|------------------|----------|---------------------|-------------------------------|--|--|----------------------------------|-------------------------|
| 第7図1<br>図版24-1   | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>50% | 高 [16.2]<br>口 (44.8)<br>厚 1.1 | キャリパー形か / 外<br>反する胴部上位 / 外<br>反して広がる頸部 /<br>内湾して立ち上がる<br>口縁部 / 口唇部は外<br>面に肥厚 | 地文は単節 RL 縦位 / 口縁部区画内は地文無し / 頸部と胴部<br>を押圧文を付した横走る 1 本の隆帯で画す / 口縁部区画内<br>に隆帯を波状に貼付、隆帯上押圧文・沈線で加飾 / 沈線で加<br>飾した隆帯下端に押圧文を加え蛇行状に成形 / 沈線による渦<br>巻文、縦位沈線列 / 隆帯断面カマボコ状・扁平なカマボコ状、<br>隆帯脇などで付け、押し付けて貼付 / 炉体土器 | 暗赤褐 / 砂<br>粒中量、礫<br>微量           | 勝坂 3b<br>新式             |
| 第7図2<br>図版24-2   | 深鉢       | 胴部中位<br>～底部<br>60%  | 高 [16.2]<br>底 13.6<br>厚 1.1   | 外傾して広がりなが<br>ら立ち上がる胴部 /<br>平坦な底部   | 地文は燃糸 L 縦位、底部から 2cm 程残して胴部に施文 / 網<br>代痕なし  | 橙 / 砂粒・<br>礫少量                   | 加曾利<br>E 1 式            |
| 第7図3<br>図版24-3   | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                         | 内湾する口縁部 / 口<br>唇部外面に肥厚   | 口縁部は上端 1 本、下端 1 本の隆帯で画す / 上端隆帯には<br>片側、下端隆帯には両側に半截竹管状と思われる工具の背面<br>を用いた爪形文を施文 / 口縁部区画内に 2 本の爪形文を斜位<br>に施文、充填 / 隆帯断面三角状   | 暗褐 / 砂粒<br>少量、礫中<br>量、雲母多<br>量   | 阿玉台<br>I b 式            |
| 第7図4<br>図版24-4   | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.1                         | 内湾する口縁部  | 口縁部は下端 1 本の隆帯で画す、内側に隆帯による楕円状の<br>区画文 / 上端、下端隆帯上側、楕円形の区画文内側に 2 本 1<br>対の結節沈線文施文 / 口縁部下端隆帯断面三角形、楕円形区<br>画文隆帯やや歪なカマボコ状  | 黒褐 / 砂粒・<br>礫少量、雲<br>母中量         | 阿玉台<br>II 式             |
| 第7図5<br>図版24-5   | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 0.9                         | 外傾して直線的に立<br>ち上がるする胴部  | 隆帯を V 字状に貼付、下端は波状に垂下 / 爪形文列を横位に<br>施文 / 隆帯断面三角形、隆帯脇などで貼付   | 暗褐 / 砂粒<br>少量、礫・<br>石英粒・雲<br>母中量 | 阿玉台<br>II 式             |
| 第7図6<br>図版24-6   | 深鉢       | 波状口縁<br>先端か<br>破片   | 厚 1.2                         | ほぼ直立   | 板状 / 楕円形の穴を囲う様に波状沈線を三角状に施文   | 黒褐 / 砂粒・<br>礫少量、雲<br>母中量         | 阿玉台<br>II～III<br>式      |
| 第7図7<br>図版24-7   | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                         | やや内湾する口縁部  | 口縁部上部に角押文 2 列を横位に施文、下部には縦位に充填  | 褐 / 砂粒・<br>礫少量                   | 勝坂 1a<br>式              |
| 第7図8<br>図版24-8   | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 0.9                         | 上位がやや外反して<br>外傾する胴部  | 半截竹管状工具の腹面を用いた平行沈線による区画文 / 平行<br>沈線に沿う截痕文 / 工具の角部分を用いた三角押文を波状に<br>施文   | 黒褐 / 砂粒・<br>礫少量                  | 勝坂 1a<br>式              |
| 第8図9<br>図版24-9   | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.1                         | ほぼ直立する胴部   | 半截竹管状工具の腹面を用いた平行沈線による区画文 / 平行<br>沈線に沿う爪形文、波状沈線   | 明褐 / 砂粒<br>少量、礫中<br>量            | 勝坂 2b<br>式              |
| 第8図10<br>図版24-10 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.2                         | 外傾する胴部   | 押圧文を付した隆帯による区画文 / 区画内は沈線施文し、<br>沈線間に爪形文充填 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯幅大きく変<br>化 / 隆帯片側 2 本の沈線が沿い、片側はなで貼付  | 黒褐 / 砂粒・<br>礫少量                  | 勝坂 3a<br>式              |
| 第8図11<br>図版24-11 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.0                         | ほぼ直立する胴部   | 一部に押圧文を付した隆帯による区画文 / 区画内縦位沈線 /<br>隆帯断面カマボコ状、隆帯脇単沈線が 1 本沿う  | 暗褐 / 砂粒・<br>礫少量                  | 勝坂 3b<br>式              |
| 第8図12<br>図版24-12 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.2                         | やや外傾する胴部   | 地文は燃糸 R 縦位 / 押圧文を付した隆帯で燃糸文施文部分を<br>画し、上部は三角と思われる区画文、隆帯内側縦位沈線列 /<br>隆帯断面背の低いカマボコ状、隆帯脇単沈線 1 本が沿う部分<br>となで貼付する部分がある / 横位隆帯貼付後地文施文   | 赤褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量            | 勝坂 3b<br>式              |
| 第8図13<br>図版24-13 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                         | 口縁部は外傾、下部<br>はやや直立か / 口唇<br>部外面に肥厚   | 地文は燃糸 L 縦位 / 横位 1 本の隆帯 / 隆帯断面カマボコ状   | 褐 / 砂粒中<br>量、礫少量                 | 勝坂 3b<br>～加曾<br>利 E 1 式 |
| 第8図14<br>図版24-14 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>破片  | 厚 0.9                         | 円筒形 / 口縁部から<br>胴部ほぼ直立 / 口唇<br>部は外側に肥厚  | 地文は燃糸 R 縦位 / 口唇部に連鎖状隆帯が巡る / 口唇部直下<br>は幅 15mm 程の横位ナデが見られる / 外面右上に長軸 5mm<br>短軸 3mm 深さ 3mm の粒状の穴あり  | 褐 / 砂粒中<br>量、礫少量                 | 勝坂 3b<br>～加曾<br>利 E 1 式 |
| 第8図15<br>図版24-15 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.7                         | 内湾する口縁部  | 地文は燃糸 L 横位 / 2 本 1 対の隆帯による文様、S 字文か /<br>隆帯断面カマボコ状  | 橙 / 砂粒少<br>量、礫多量                 | 加曾利<br>E 1a 式           |
| 第8図16<br>図版24-16 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                         | 内湾する口縁部  | 地文は燃糸 L 横位 / 口縁波頂部から口縁中位にかけて橋状把<br>手を付す / 把手下端は隆帯として横位に伸び文様を形成する<br>と思われる / 隆帯断面カマボコ状  | 黒褐 / 砂粒・<br>礫少量                  | 加曾利<br>E 1a 式           |
| 第8図17<br>図版24-17 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片    | 厚 0.9                         | 外反して広がる頸部<br>/ 内湾する口縁部   | 地文は燃糸 L 横位、口縁部区画内施文 / 口縁部は上端 1 本、<br>下端 1 本の隆帯で画す、2 本 1 対の隆帯による S 字状文 / 頸<br>部無文 / 隆帯断面カマボコ状   | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫多<br>量            | 加曾利<br>E 1a 式           |
| 第8図18<br>図版24-18 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.7                         | 内湾する口縁部  | 地文は燃糸 L 横位 / 2 本 1 対の隆帯による文様、S 字文か / 2<br>本の隆帯の間から一部地文が見られる / 弧の部分から隆帯が<br>3 本横位に伸びる / 隆帯断面カマボコ状   | 明褐砂粒少<br>量、礫中量                   | 加曾利<br>E 1a 式           |
| 第8図19<br>図版24-19 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.0                         | 内湾する口縁部 / 口<br>唇部は外傾   | 地文は燃糸 L 縦位 / 口縁部を画する隆帯は上端 1 本、下端欠<br>損か / 口縁区画内 1 本または 2 本の隆帯による楕円形の文<br>様貼付 / 隆帯断面角状、隆帯脇単沈線が 1 本沿う  | 暗赤褐 / 砂<br>粒少量、礫<br>中量           | 加曾利<br>E 2 式            |

第5表 101号住居跡出土土器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号     | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態 | 法量<br>(cm) | 器形・形態     | 文様・特徴                     | 胎土                    | 時期<br>型式 |
|------------------|----------|------------|------------|-----------|---------------------------|-----------------------|----------|
| 第8図20<br>図版24-20 | 深鉢       | 口縁部<br>破片  | 厚0.8       | やや内湾する口縁部 | 地文は撚糸R縦位 / 口縁部に3本1対の沈線が沿う | 黒褐 / 砂粒<br>少量、礫中<br>量 | 連弧文<br>量 |

第5表 101号住居跡出土土器一覧2

| 挿図番号<br>図版番号       | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴  | 胎土                  | 時期<br>型式    |
|--------------------|----------|----------|---------------------|-----------|---|---------------------|-------------|
| 第8図21<br>図版25-1-21 | 土器<br>片鉢 | 95%      | 4.8/4.3/0.8         | 33.4      | 方形か / 扶部は1ヶ所(元は2ヶ所か) / 周縁は部分的に磨耗 / 口縁部片利用 / 眼鏡状突起 / 突起周囲に半截竹管状工具の背面を使用した押引文施文 | 黒褐 / 砂粒少量、<br>礫中量   | 勝坂2式        |
| 第8図22<br>図版25-1-22 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.8/3.7/0.8         | 20.6      | 楕円形 / 扶部は2ヶ所 / 周縁は磨耗 / 胴部片利用 / 無文   | 黒褐 / 砂粒・礫・<br>雲母少量  | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第8図23<br>図版25-1-23 | 土器<br>片鉢 | 95%      | 3.5/2.8/1.0         | 13.9      | 方形 / 扶部は2ヶ所 / 周縁は部分的に磨耗 / 胴部片利用 / 無文  | 褐 / 砂粒・礫少<br>量、雲母中量 | 中期中葉<br>～後葉 |

第6表 101号住居跡出土土製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号       | 器種   | 石材   | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴  |
|--------------------|------|------|--------|-------|--------|-------|---|
| 第8図24<br>図版25-1-24 | 打製石斧 | 緑泥片岩 | 123.4  | 36.4  | 21.4   | 124.9 | 短冊形右半が折れた後、再調整が施されている / 左側縁に敲打剥離が認められる / 裏面は節理面が広くみられる / 左側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる |

第7表 101号住居跡出土土器一覧

## 102号住居跡

## 遺 構 (第9図)

[位 置] (B・C-1) グリッド。

[検出状況] 北東側の半分ほどが調査区外に伸びる。13Mに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形を呈すと思われる。主軸方位：N-2°-E。平面プランから西壁と平行するラインを主軸と捉えた。規模：長軸残存長430cm / 短軸残存長340cm / 深さ78～96cm。壁溝：1条検出された。壁溝の位置を考慮すると拡張が想定される。上幅12～23cm / 下幅1～8cm / 床面からの深さ3～24cm。壁：約40～65°でやや緩やかな傾斜から一部に浅いテラス状に段を有し、やや急斜に立ち上がる。床面：平坦で全面が硬化している。南東側に粘土範囲を確認し、一部は調査区外に伸びると思われる。直床である。炉：検出されなかった。埋甕：検出されなかった。柱穴：9本検出した。P1～P3の一群とP5を主柱穴ととらえれば、4本柱建物で想定される。

[覆 土] 7層に分層できた。

[遺 物] 土器、土製品、石器が出土した。

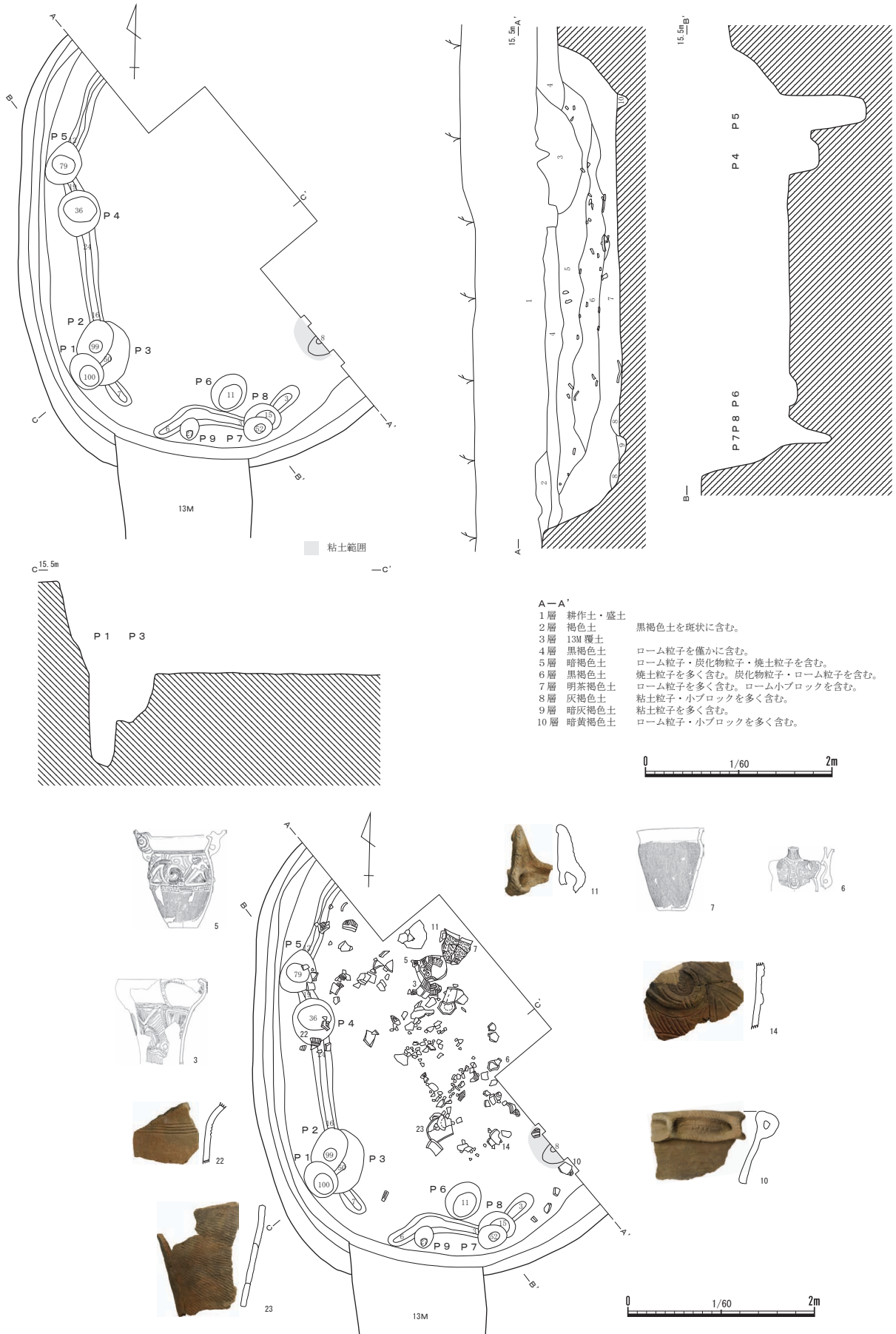
[時 期] 中期中葉期(勝坂3式期)。

## 遺 物 (第10～14図、図版25-2～28、第8～10表)

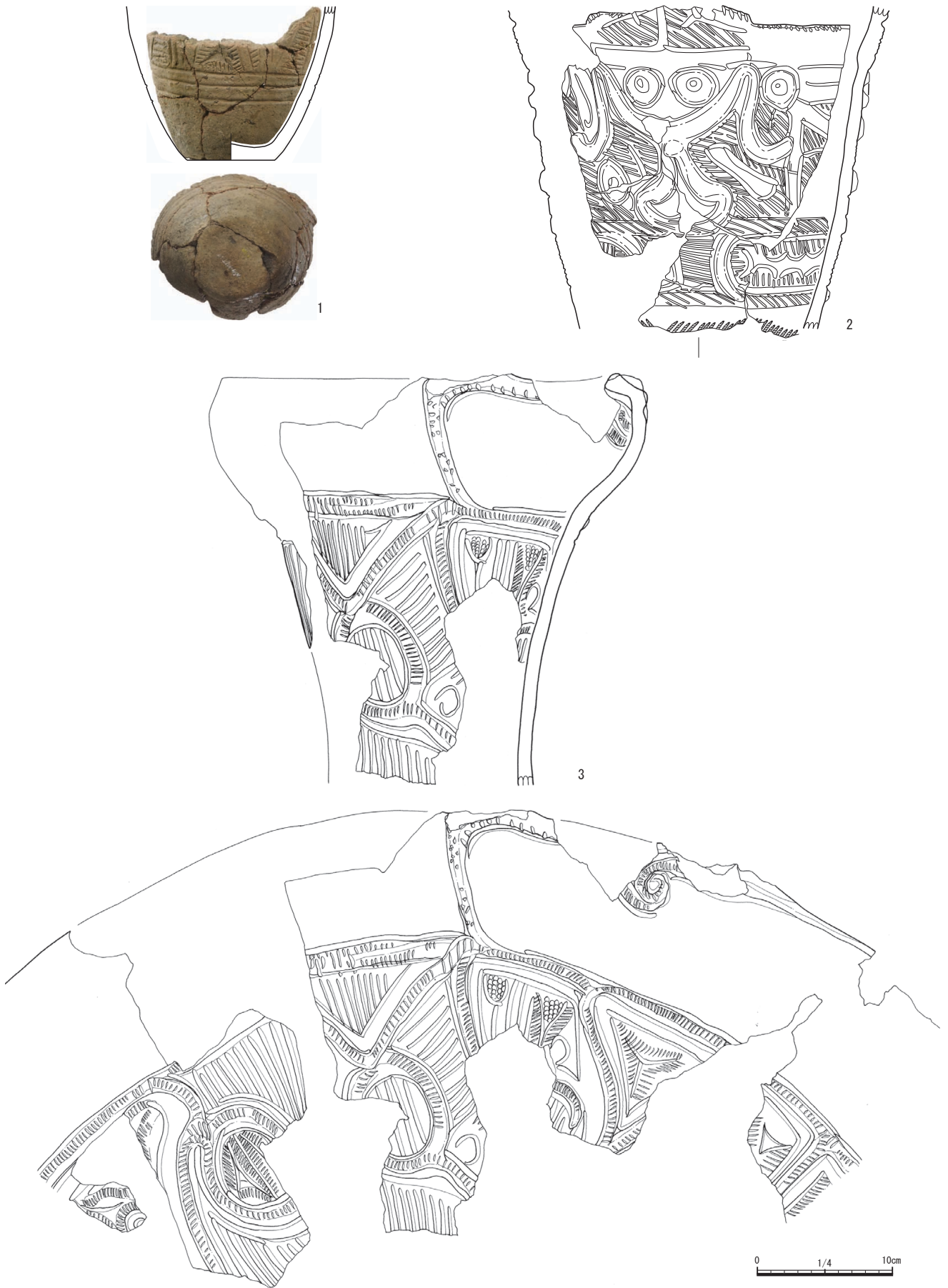
[土 器] (第10～13図・第14図25・26、図版25-2～28、第8表)

復元個体9点、破片資料17点を図示した。1は勝坂3a式の深鉢形土器で、沈線による区画文を施文する。2～5は勝坂3b古式の深鉢形土器である。2は隆帯による特徴的な文様が見られ、周囲は沈線を充填する。3は隆帯による区画内に沈線を充填する。4は三叉文、蛇行文が見られ、縦位沈線列に半截竹管状工具の腹面を使用する。5は口縁部の左右に把手を持ち、胴部に文様帯には三叉文、渦巻文

第3章 検出された遺構と遺物



第9図 102号住居跡・102号住居跡遺物出土状態(1/60)



第10図 102号住居跡出土遺物1 (1/4)





第11図 102号住居跡出土遺物2 (1/4)





第12図 102号住居跡出土遺物3 (1/4・1/3)

が多く見られる。6は口縁部に円筒状の把手を持ち、沈線による渦巻文を施文する。7は勝坂3b新式の深鉢形土器である。口縁部以外に縄文を施文する。8は勝坂3式の深鉢形土器である。押圧文を付した隆帯が横走し、下位は無文である。9は加曽利E1式の深鉢形土器である。10・11は阿玉台式、12～20は勝坂式、21は勝坂3～加曽利E1式、22は加曽利E式、23は中期後葉～後期の深鉢形土器である。24は勝坂式、25は中期中葉～後葉の浅鉢形土器、26は中期中葉～後葉の浅鉢形土器と思われる土器である。

[土製品] (第14図27～31、図版28、第9表)

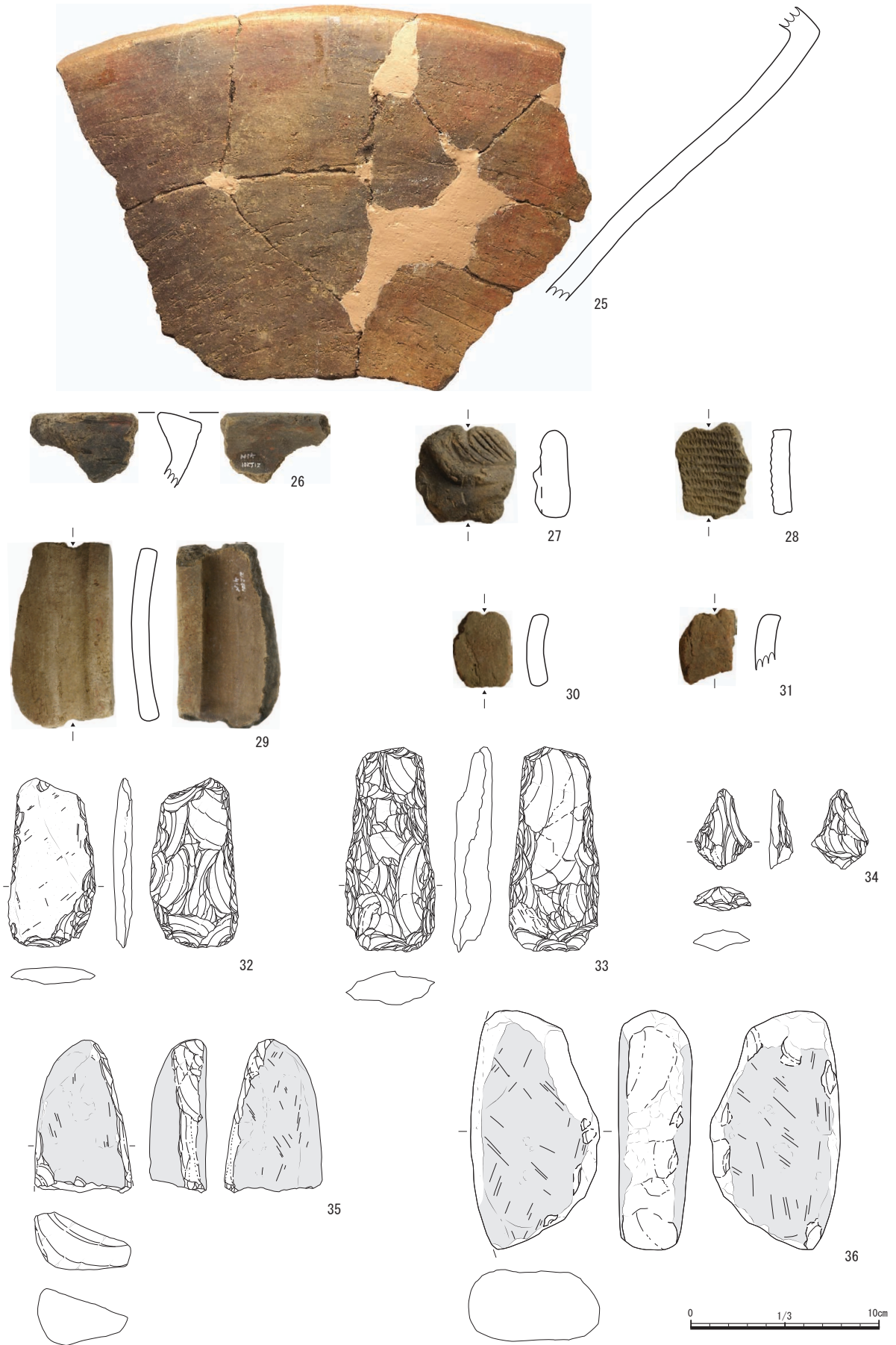
5点を図示した。27～31は土器片錘である。

[石器] (第14図32～36、図版28、第10表)

5点を図示した。32・33は打製石斧である。34は二次加工剥片である。35は磨石である。36は石皿である。



第13図 102号住居跡出土遺物4 (1/3)



第14図 102号住居跡出土遺物5 (1/3)



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                           | 器形・形態   | 文様・特徴   | 胎土                        | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|---------------------|--------------------------------------|---|---|---------------------------|-------------|
| 第10図1<br>図版25-2-1 | 深鉢       | 胴部中位<br>～底部<br>60%  | 高 [11.4]<br>底 6.4<br>厚 0.9           | 円筒形か / 内湾して<br>やや広がりながら立<br>ち上がる胴部 / 平坦<br>な底部                          | 横位3本の沈線で上部の文様帯と下部の無文部分を画す / 上部は平行沈線による区画文 / 区画文に沿う押圧文、中央に三<br>叉文 / 区画内横位沈線列   | 明褐 / 砂粒<br>少量、礫中<br>量     | 勝坂 3a<br>式  |
| 第10図2<br>図版25-2-2 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>45% | 高 [23.5]<br>口 (28.0)<br>厚 1.0        | バケツ形 / 胴部から<br>口縁部まで直線的に<br>広がる   | 地文は単節 RL 縦位 / 口縁部に把手の痕跡あり、三叉文を左<br>右対称に施文か、周囲に斜位単沈線充填 / 把手の痕跡下部に<br>円形文と M 字状の隆帯を組み合わせた左右対称の文様施文、<br>周囲に沈線による文様、円形文を配し斜位単沈線充填 / 胴部<br>中位に斜位沈線を付した隆帯を上端1本下端2本で区画 / 内<br>側をC字状、逆C字状の隆帯で画し楕円状区画を形成 / 隆<br>帯内側に沿い半円形刺突文、隆帯間斜位沈線充填 / 楕円形区<br>画間横位単沈線充填 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本の単<br>沈線が沿う  | 極暗褐 / 砂<br>粒中量・礫<br>少量    | 勝坂 3b<br>古式 |
| 第10図3<br>図版25-2-3 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>60% | 高 [30.2]<br>口 (29.2)<br>厚 1.0        | やや外反して立ち上<br>がる胴部 / 外反する<br>頸部 / 内湾しやや外<br>傾する口縁部 / 口唇<br>部は内面に肥厚       | 口縁部無文 / 口縁部に把手が欠損した痕跡あり / 口縁部に押<br>圧文を付した隆帯による渦巻状の文様、刺突文を付した1本<br>の隆帯が胴部文様帯に垂下 / 押圧文を付した隆帯によって<br>三角状・楕円状・不整形に画す / 区画内は縦位・斜位沈線を<br>充填、三叉文の周囲に押圧文充填、角押文列充填、沈線によ<br>る渦巻文、縦位沈線列間に押圧文充填 / 隆帯断面台形状、隆<br>帯脇には多くは2本の単沈線、一部1本の単沈線が沿う  | 橙～褐砂粒<br>少量、礫微<br>量       | 勝坂 3b<br>古式 |
| 第11図4<br>図版25-2-4 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>30%   | 高 [13.8]<br>厚 1.3                    | キャリパー形か / 上<br>部がやや広がる頸部<br>/ 内湾する口縁部                                   | 横位1本の隆帯で口縁部と頸部を画す / 口縁部区画内縦位隆<br>帯、半弧状の隆帯で画す / 区画内縦位沈線、三叉文、蛇行文<br>等を充填 / 沈線には半截竹管状工具の腹面使用が多く見られ<br>る / 口縁部区画内隆帯上矢羽根状刺突文・交互刺突文施文 /<br>半截竹管状工具による縦位半隆帯に矢羽根状刺突文を付す /<br>口縁部区画隆帯下端から弧状の隆帯が垂下、僅かに三叉文が<br>見られる / 隆帯断面三角状、隆帯脇1本の単沈線が沿う   | 明黄褐 / 砂<br>粒・礫中量、<br>雲母微量 | 勝坂 3b<br>古式 |
| 第11図5<br>図版26-5   | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>80%   | 高 34.8<br>口 22.4<br>底 (9.6)<br>厚 1.0 | 樽形 / 内湾して立ち<br>上がる胴部 / 括れる<br>頸部 / 外傾する口縁<br>部 / 口唇部は内面に<br>肥厚          | 地文は0段多条 RL 斜位 / 口縁部無文 / 口縁部の対称面に1<br>単位ずつ把手貼付 / 欠損している把手は下位に眼鏡状把手が<br>あり、縁と周囲の隆帯上に押圧文を付す / 対称面の把手は上<br>面に深い窪みあり、外面は沈線による渦巻文と沈線に沿って<br>押圧文・下位に眼鏡状把手 / 胴部上位～中位に文様帯 / 文様<br>帯内は隆帯による渦巻文の両端が矢印状になる文様・矢印状<br>の文様・円形の文様から2本の隆帯が伸びる文様等配す / 隆<br>帯上は押圧文・交互刺突文・沈線・2列の三角押文・矢羽根<br>状刺突文等加飾が多く見られる / 隆帯間は沈線による文様・<br>三叉文・渦巻文・押圧文を充填 / 隆帯断面三角状・台形状、<br>隆帯脇1本または2本の単沈線が沿う | 赤褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量     | 勝坂 3b<br>古式 |
| 第12図6<br>図版26-6   | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>40% | 高 [15.6]<br>口 (15.8)<br>厚 0.8        | 内湾する胴部 / 括れ<br>る頸部 / 内湾する口<br>縁部 / 口唇部は内面<br>に肥厚                        | 地文は単節 RL 縦位・横位・斜位 / 円筒状の把手1単位残存、<br>下位に眼鏡状把手 / 把手外面に縦位・横位の沈線による文様<br>施文、縁に押圧文施文 / 把手に2本1対の沈線が沿い先端<br>に渦巻文 / 頸部に1本の沈線が巡る / 口縁部に2本1対の<br>沈線による渦巻文   | 明褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量     | 勝坂 3b<br>古式 |
| 第12図7<br>図版26-7   | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>95%   | 高 28.8<br>口 23.4<br>底 9.2<br>厚 1.0   | 外傾して立ち上がり<br>上部が内湾する胴部<br>/ やや括れる頸部 /<br>外傾して広がる口縁<br>部 / 口唇部は内面に<br>肥厚 | 地文は0段多条 RL 斜位 / 口縁部無文 / 底面網代痕無し   | 橙 / 砂粒・<br>礫中量            | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第12図8<br>図版26-8   | 深鉢       | 胴部下位<br>～底部<br>60%  | 高 [13.7]<br>底 11.0<br>厚 1.1          | 底部からやや広がり<br>ながら立ち上がる胴<br>部 / 平坦な底部                                     | 幅広の隆帯が1本横位に巡る / 隆帯上押圧文施文 / 隆帯下部<br>無文 / 隆帯断面扁平なカマボコ状、隆帯脇上端単沈線が1本<br>沿う、下端まで付けて貼付  | 明褐 / 砂粒<br>多量、礫少<br>量     | 勝坂 3<br>式   |
| 第12図9<br>図版26-9   | 深鉢       | 胴部中位<br>～底部<br>100% | 高 [11.2]<br>底 7.8<br>厚 1.2           | 内湾してやや広がり<br>ながら立ち上がる胴<br>部 / 平坦な底部                                     | 地文は撚糸 L 縦位 / 底面の縁部分が磨耗 / 網代痕なし  | 褐 / 砂粒中<br>量、礫多量          | 加曾利<br>E1 式 |
| 第12図10<br>図版27-10 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片    | 厚 1.2                                | 下部がやや外反し広<br>がりながら立ち上が<br>る胴部 / ほぼ直立す<br>る口縁部                           | 地文は単節 RL 横位、隆帯上、眼鏡状把手側面に施文 / 口縁<br>部は上端1本、下端1本の隆帯による楕円形の口縁部区画<br>文 / 楕円形区画文の接点は眼鏡状把手に成形 / 隆帯内側に幅<br>広角押文施文、中央に先端に丸みを帯びた工具による押引文<br>を4列施文、隆帯断面カマボコ状・三角状  | 褐 / 砂粒少<br>量、礫・雲<br>母中量   | 阿玉台<br>IV 式 |
| 第12図11<br>図版27-11 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.1                                | ほぼ直立する口縁部   | 地文は単節 LR 縦位か、把手の稜線部分、眼鏡状把手上に施<br>文 / 口縁部に三角形の把手 / 突起下部に眼鏡状突起貼付  | 橙 / 砂粒・<br>礫少量            | 阿玉台<br>IV 式 |
| 第12図12<br>図版27-12 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.1                                | 外反して外傾する胴<br>部  | 隆帯貼付 / 隆帯脇に三角押文と角押文が沿う / 隆帯断面三角<br>状  | 暗褐 / 砂粒・<br>礫少量           | 勝坂 1b<br>式  |

第8表 102号住居跡出土土器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態       | 法量<br>(cm) | 器形・形態                               | 文様・特徴  | 胎土               | 時期<br>型式   |
|-------------------|----------|------------------|------------|-------------------------------------|--|------------------|------------|
| 第12図13<br>図版27-13 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.2       | 外傾する胴部                              | 横位隆帯と弧状の隆帯による楕円形の区画文 / 楕円区画文内側に沿って幅広角状の連続押圧文施文 / 横位隆帯上端に幅広角状の連続押圧文と横位波状沈線が沿う / 隆帯断面三角状、隆帯脇連続押圧文施文、一部なで付けて貼付    | 明褐 / 砂粒中量、礫少量    | 勝坂2a式      |
| 第12図14<br>図版27-14 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚0.9       | 内湾して立ち上がる胴部                         | 隆帯による円形の文様、隆帯上押圧文・沈線・2列の三角押圧文 / 単沈線による区画文、区画文内斜位沈線充填・周囲に押圧文を充填した三叉文 / 隆帯断面幅広のカマボコ状、隆帯脇1本または2本の単沈線が沿う           | 褐 / 砂粒少量、礫流量     | 勝坂3a式      |
| 第12図15<br>図版27-15 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片 | 厚0.9       | 広がりながら立ち上がる胴部 / 内湾する口縁部 / 口唇部は外傾    | 地文は単節RL横位、口縁部上部2cm下から施文 / 幅広く高さのある隆帯による弧状の文様、隆帯上に2列1対の角押圧文施文   | 黒褐 / 砂粒・礫少量、雲母微量 | 勝坂3b新式     |
| 第13図16<br>図版27-16 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片 | 厚1.0       | 外傾しながら広がる頸部 / 下部は外傾するが上端が内湾する口縁部    | 隆帯による口縁部区画 / 区画の接点は突起状に成形 / 隆帯上押圧文 / 区画内交互刺突・沈線による渦巻文 / 中峠0地点型口縁部  | 褐 / 砂粒少量、礫・雲母中量  | 勝坂3b新式     |
| 第13図17<br>図版27-17 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片 | 厚1.1       | 円筒形か / ほぼ直立の口縁部、胴部 / 口唇部上部外面に肥厚、外傾  | 波頂部に隆帯による円形の文様 / 隆帯による区画文、胴部に円形の文様 / 隆帯上押圧文、三角押圧文 / 隆帯断面カマボコ状・幅広のカマボコ状、隆帯脇単沈線が1本沿う                             | 暗褐 / 砂粒・礫少量      | 勝坂3b式      |
| 第13図18<br>図版27-18 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.1       | 僅かに内湾して広がりながら立ち上がる胴部                | 地文は単節RL斜位 / 横位隆帯によって文様帯と縄文部分を画す / 文様帯には隆帯による楕円形区画文、区画文内単沈線による文様施文 / 楕円形区画文間無文 / 隆帯断面幅広のカマボコ状・一部三角状、隆帯脇単沈線が1本沿う | 黒褐 / 砂粒・礫少量      | 勝坂3b式      |
| 第13図19<br>図版27-19 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.2       | 上部がやや外反する口縁部                        | 口縁部上部2.5cmは無文 / 単沈線を横位に3本施文 / 横位沈線下位は沈線を斜位に充填、ペン先状工具による横位の押し文が1列見られる   | 極暗褐 / 砂粒・礫少量     | 勝坂3式       |
| 第13図20<br>図版27-20 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚0.8       | ほぼ直立する口縁部                           | 口唇部に突起あり / 突起に繋がる隆帯垂下 / 突起縁押圧文・横位沈線施文 / 垂下する隆帯上沈線・楕円形の押圧文施文 / 隆帯断面台形、隆帯脇片側単沈線1本                                | 褐 / 砂粒・礫少量       | 勝坂3式       |
| 第13図21<br>図版27-21 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.1       | 外傾する胴部                              | 地文は燃系L縦位一部斜位 / 押圧文を付した横走する1本の隆帯で画す / 隆帯上部無文 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇なで付けて貼付   | 赤褐 / 砂粒中量、礫少量    | 勝坂3～加曾利E1式 |
| 第13図22<br>図版27-22 | 深鉢       | 頸部～胴部<br>破片      | 厚1.1       | キャリパー形か / 胴部はやや内湾 / 外反する頸部、上端は立ち上がる | 地文は燃系R縦位 / 頸部無文 / 横位の沈線で頸部無文帯と胴部を画す / 沈線は平行沈線の可能性あり  | 明赤褐 / 砂粒・礫少量     | 加曾利E2式     |
| 第13図23<br>図版27-23 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.0       | 外傾し広がりながら立ち上がる胴部 / 上部はやや緩やかに外傾      | 地文は単節RL横位  | 明赤褐 / 砂粒中量、礫少量   | 中期後葉～後期    |
| 第13図24<br>図版27-24 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>破片 | 厚1.1       | 直線的に開く体部 / 口縁部はやや内傾                 | 口縁部は区画文を設け、区画文が接する部分はV字の突起状に成形か / 区画に沿って3列の角押圧文施文  | 褐 / 砂粒少量、礫・雲母中量  | 勝坂1a式      |
| 第14図25<br>図版28-25 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>破片 | 厚1.2       | 直線的に外傾して広がる体部 / 口縁部は内折              | 残存部無文 / 外面に微量の赤色顔料残存 / 内面に未貫通の孔2ヶ所あり、円形・径1.4cm・断面播鉢状、円形・径0.6cm・断面半球状   | 暗褐 / 砂粒少量、礫中量    | 中期中葉～後葉    |
| 第14図26<br>図版28-26 | 浅鉢か      | 口縁部<br>破片        | 厚0.9       | やや内湾しながら広がる口縁部 / 口唇部内側に肥厚           | 残存部無文 / 内外面、口唇部に赤色顔料が多く残存  | 黒 / 砂粒・礫少量       | 中期中葉～後葉    |

第8表 102号住居跡出土土器一覧2

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土               | 時期<br>型式 |
|-------------------|----------|----------|---------------------|-----------|--|------------------|----------|
| 第14図27<br>図版28-27 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 5.4/5.4/1.6         | 57.51     | 円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁はほぼ磨耗 / 胴部片利用 / 隆帯による楕円形区画、区画内斜位沈線充填 | 黒褐 / 砂粒・礫少量      | 勝坂3式     |
| 第14図28<br>図版28-28 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.9/3.9/1.0         | 27.5      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は部分的に磨耗 / 胴部片利用 / 0段多条RL施文           | 褐 / 砂粒・礫少量       | 勝坂式      |
| 第14図29<br>図版28-29 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 9.9/5.4/1.1         | 98.1      | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は部分的に磨耗 / 浅鉢口縁部利用 / 内外面、口唇部に赤色顔料付着  | 黄褐 / 砂粒・礫少量      | 勝坂式      |
| 第14図30<br>図版28-30 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.1/3.1/1.1         | 17        | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁はほぼ磨耗 / 胴部片利用 / 無文                   | 赤褐 / 砂粒少量、礫・雲母中量 | 中期中葉～後葉  |
| 第14図31<br>図版28-31 | 土器<br>片鉢 | 25%      | [3.6]/[3.1]/1.1     | 14.9      | 方形か / 挾部1ヶ所残存 / 周縁はほぼ磨耗 / 胴部片利用 / 無文                 | 明赤褐 / 砂粒・礫少量     | 中期中葉～後葉  |

第9表 102号住居跡出土土製品一覧



| 挿図番号<br>図版番号      | 器種     | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴  |
|-------------------|--------|---------|--------|-------|--------|-------|---|
| 第14図32<br>図版28-32 | 打製石斧   | 頁岩      | 90.1   | 46.5  | 10.0   | 59.6  | 撥形 / 基部は一部折れて欠損している / 表面に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の上部から中央部にかけての稜上に潰れが認められる / 右側縁は上部の一部に稜上に潰れが認められる |
| 第14図33<br>図版28-33 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 110.7  | 49.0  | 21.1   | 140.4 | 撥形 / 裏面刃部が磨滅している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない  |
| 第14図34<br>図版28-34 | 二次加工剥片 | 頁岩      | 42.9   | 31.3  | 15.0   | 10.9  | 表面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第14図35<br>図版28-35 | 磨石     | 斑禰岩     | 81.4   | 55.2  | 29.8   | 160.4 | 表裏面全面に磨痕か   |
| 第14図36<br>図版28-36 | 石皿     | 閃緑岩     | 128.6  | 70.8  | 38.8   | 535.7 | 扁平石皿 / 表裏面ほぼ全面に平坦な使用面   |

第10表 102号住居跡出土石器一覧

### 103号住居跡

#### 遺構 (第15・16図)

[位置] (B-3・4) グリッド。

[検出状況] 南東隅が4方に、北東隅が207Dに切られる。

[構造] 平面形：隅丸方形。主軸方位：N-13°-E。炉と埋甕の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸残存長445cm / 短軸410cm / 深さ32~42cm。壁溝：1条検出された。上幅20~28cm / 下幅8~14cm / 床面からの深さ5~12cm。壁：約74~85°で急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦であるが、軟弱で、直床である。炉の西側に焼土範囲を確認した。炉：埋甕炉。深鉢形土器の口縁部(第17図1)が埋設されている。長軸76cm / 短軸63cm / 床面からの深さ24cm。埋甕：南端に1基検出された。深鉢形土器の口縁部(第17図2)が埋設されている。掘込規模は長軸56cm / 短軸42cm / 床面からの深さ40cm。柱穴：4本検出した。P1~P4を支柱穴ととらえ、4本柱建物を想定する。

[覆土] 5層に分層できた。

[遺物] 炉体土器(第17図1)、埋甕(第17図2)の他、住居南東部の覆土下~中層で完形・略完形の土器がまとまって出土した。深鉢形土器(第19図11)の底部に107J出土の破片が、小形深鉢形土器(第19図13)と深鉢形土器(第19図17)が109J出土の破片とそれぞれ遺構間接合している。

[時期] 中期後葉期(加曾利E1b式期)。

#### 遺物 (第17~23図、図版29~34、第11~13表)

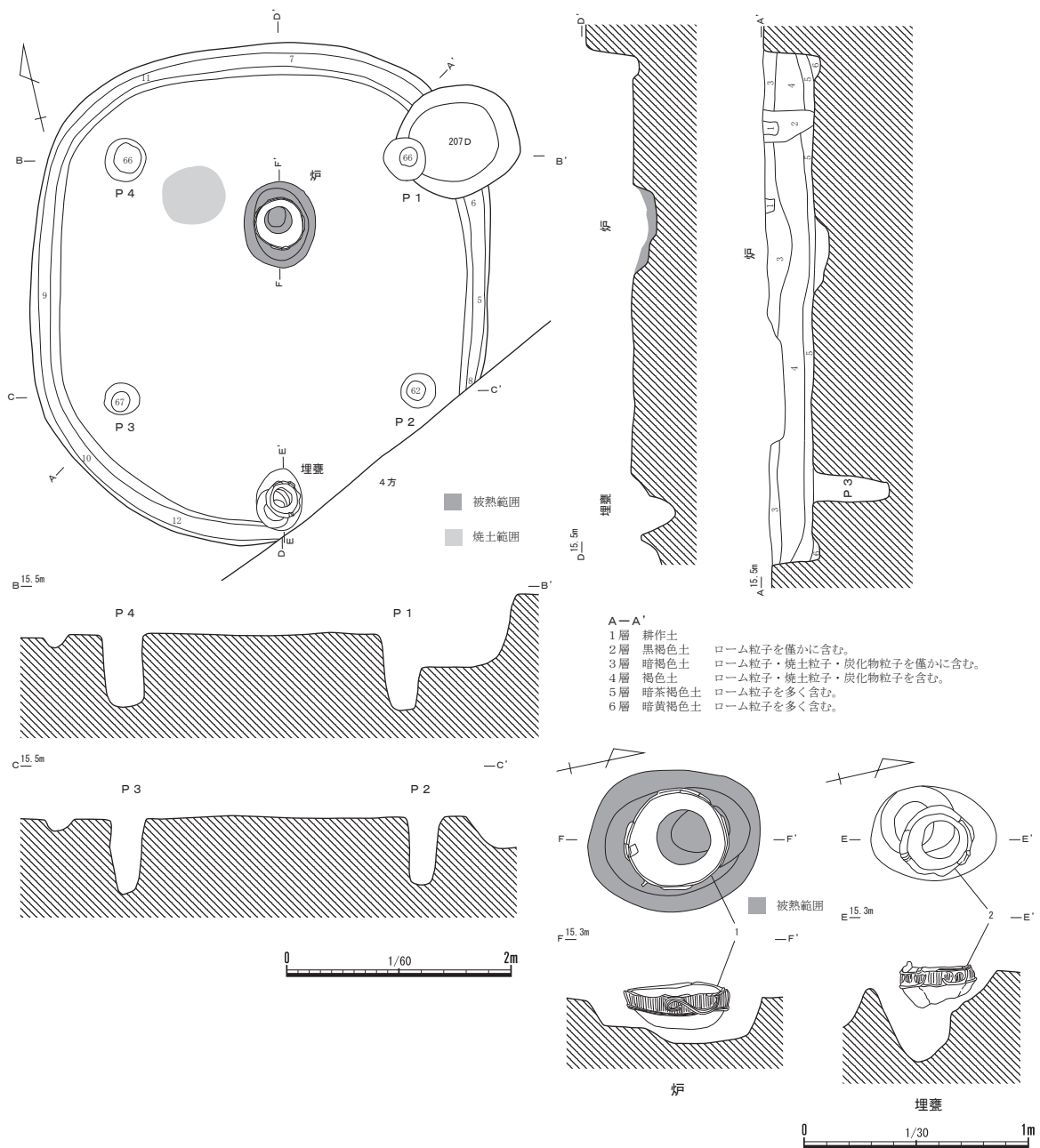
[土器] (第17~20図・第21図28~32、図版29~32、第11表)

復元個体13点、破片資料19点を図示した。1~10は加曾利E1b式の深鉢形土器である。1は炉体土器である。口縁部区画を持ち、区画内は縦位沈線を充填する。把手の痕跡が4単位あるが、全て欠損している。2は埋甕である。撚糸文を地文し、1と同様に把手の痕跡が4単位見られるが全て欠損している。3・4は口縁部区画に端部が渦巻状を呈する弧状文を配し、渦巻部分から区画下端隆帯に複数の隆帯が垂下する。5は口縁部区画内の弧状文端部の渦巻文が突起状となるものとならないものを交互に配置する。6は口縁部区画内に隆帯による楕円状の文様、渦巻状の文様を施文する。7は隆帯による渦巻文を施文する。8~10は胴部に2本1対の直状の隆帯、1本の波状隆帯が垂下する。11は

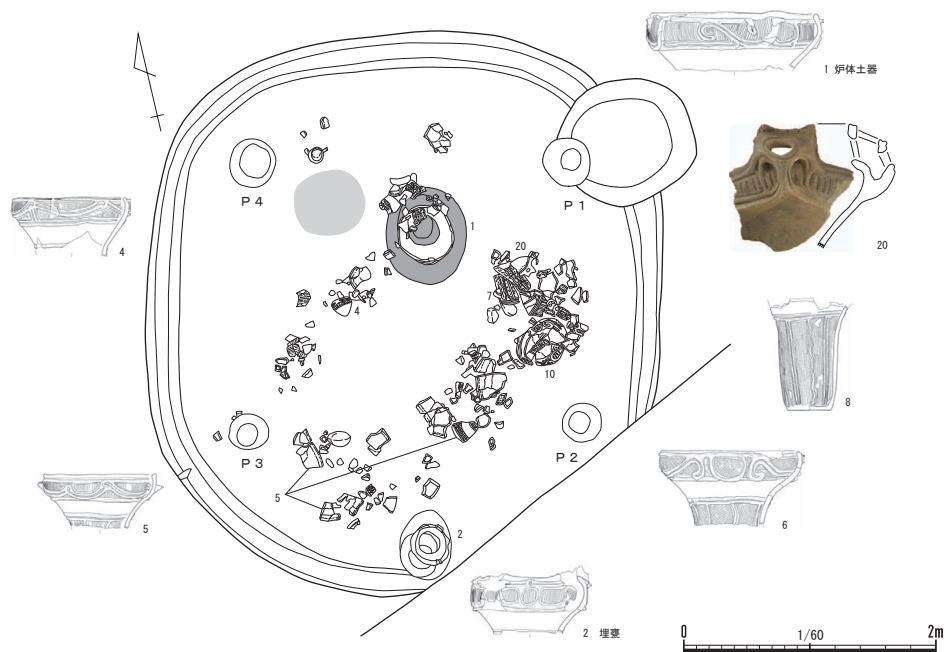
加曽利 E 1 c 式の深鉢形土器である。口縁部は無文で横位隆帯で画す。胴部には2本1対の隆帯が垂下し、沈線による文様を施文する。隆帯断面は角状である。底部は 107 J 出土の破片が接合している。  
 12 は加曽利 E 2 a 式の深鉢形土器である。胴部に横位沈線が巡り、2本1対の沈線が波状に垂下する。  
 13 は加曽利 E 式の小形深鉢土器である。109 J 出土の破片と遺構間接合している。14・15 は阿玉台式、16～18 は勝坂式、19～26 は加曽利 E 式、27～29 は曽利式、30 は連弧文の深鉢形土器である。  
 17 は 109 J 出土の破片が遺構間接合している。31・32 は浅鉢形土器で、31 は勝坂式、32 は中期中葉～後葉である。32 には内外面共に赤色顔料が付着する。

[土製品] (第21図 33～52、図版 32・33、第12表)

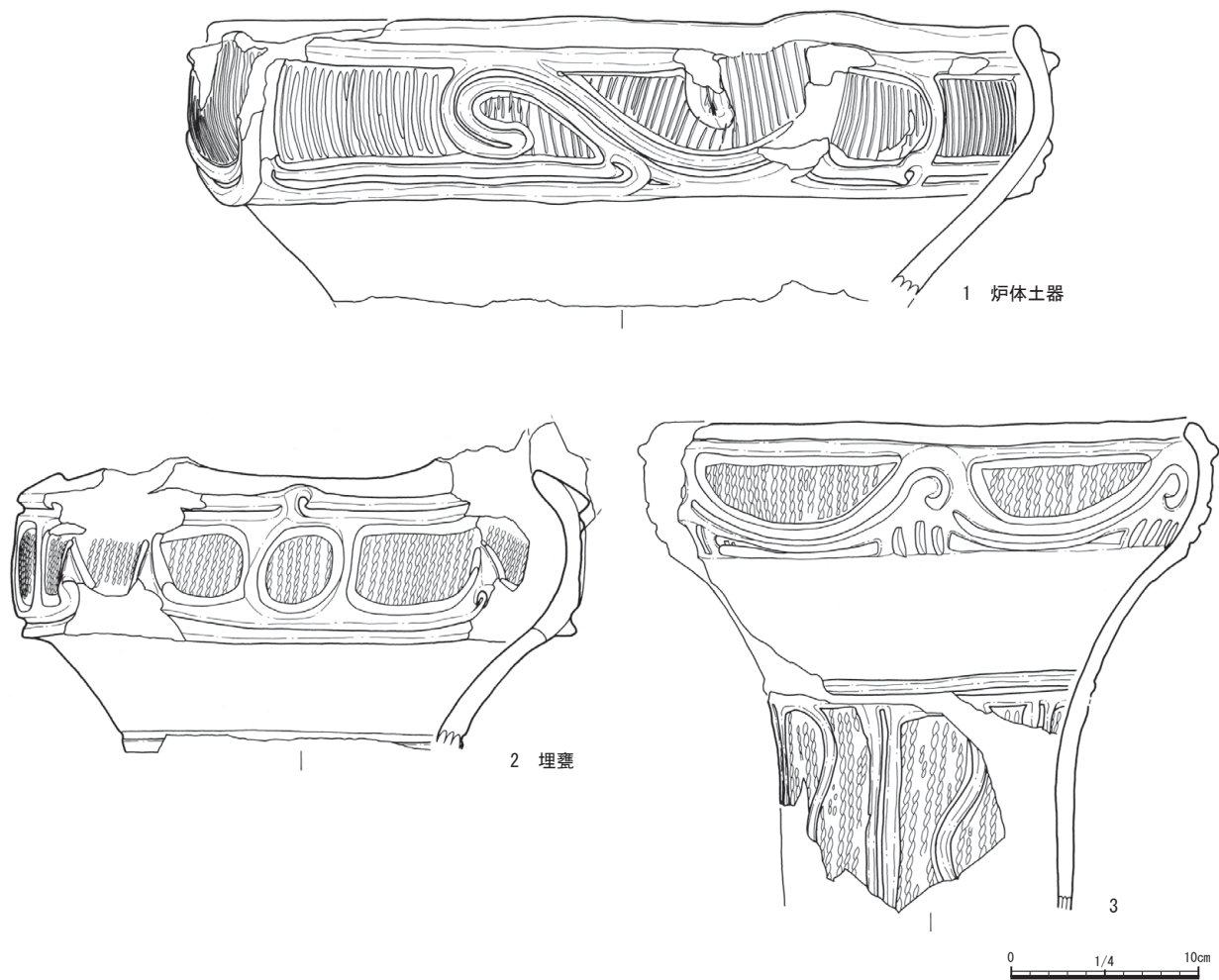
20点を図示した。33～50は土器片錘、51・52は土製円盤である。



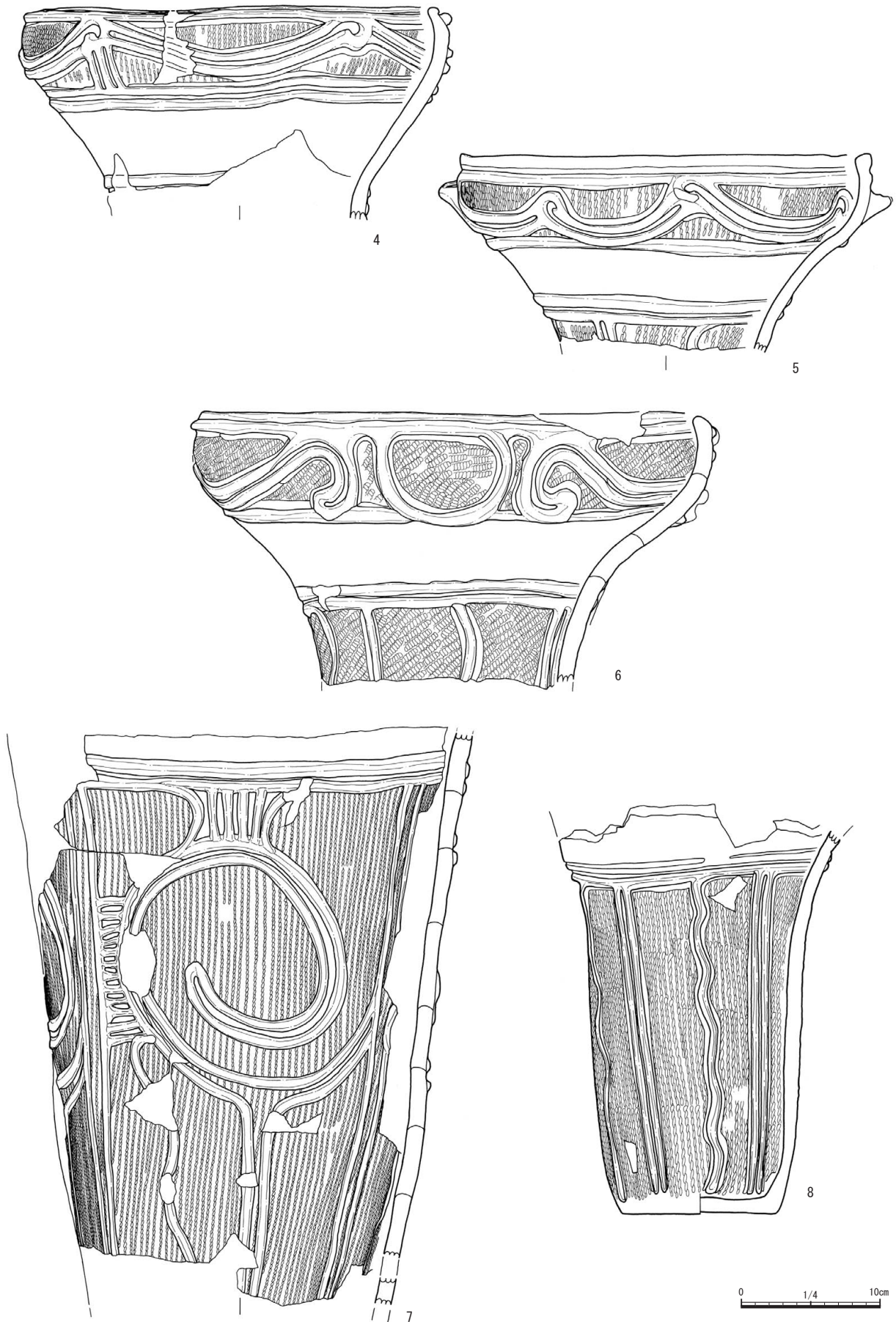
第15図 103号住居跡・炉・埋葬 (1/60・1/30)



第16図 103号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第17図 103号住居跡出土遺物1 (1/4)

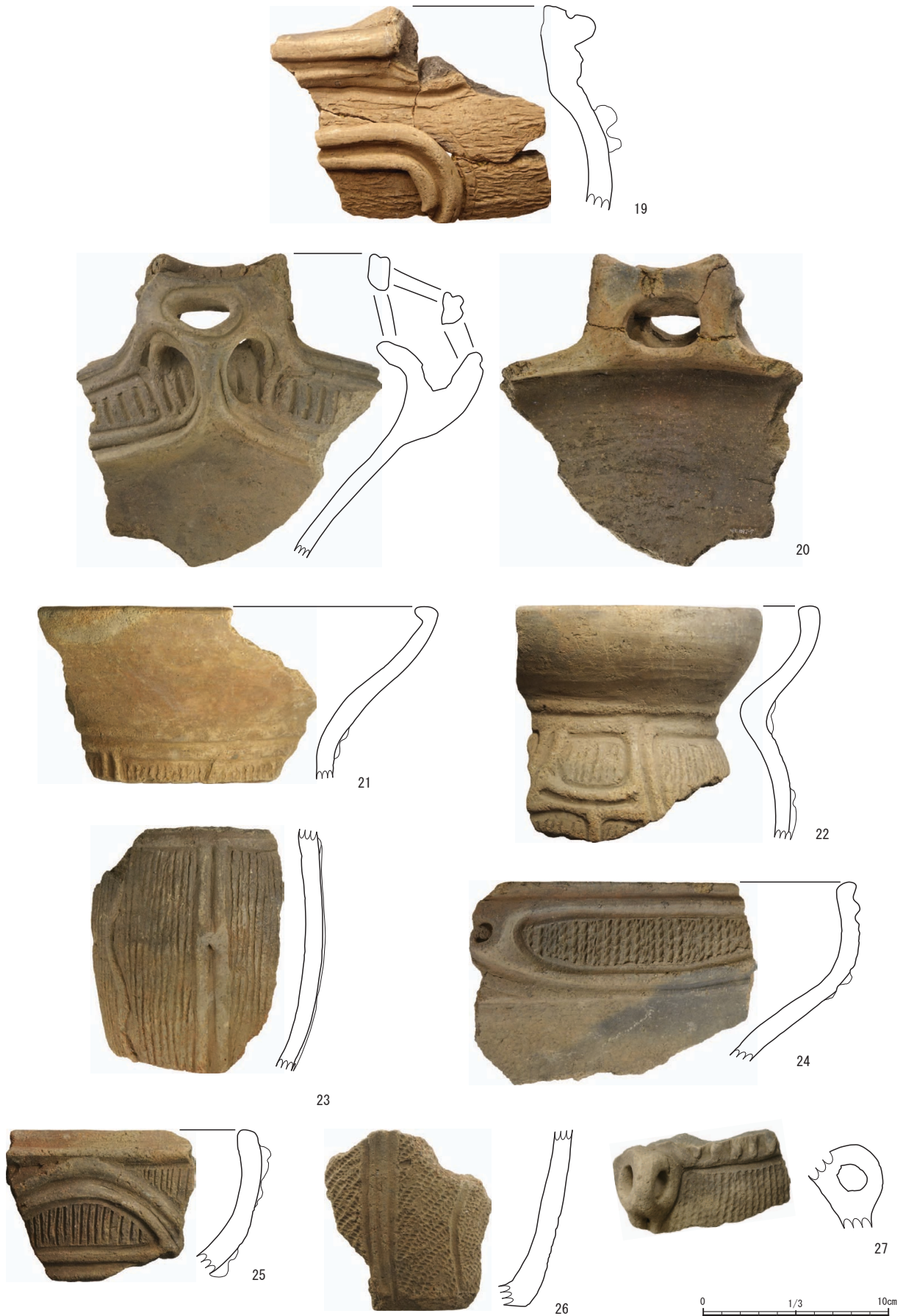


第18図 103号住居跡出土遺物2（1／4）





第19図 103号住居跡出土遺物3 (1/4・1/3)

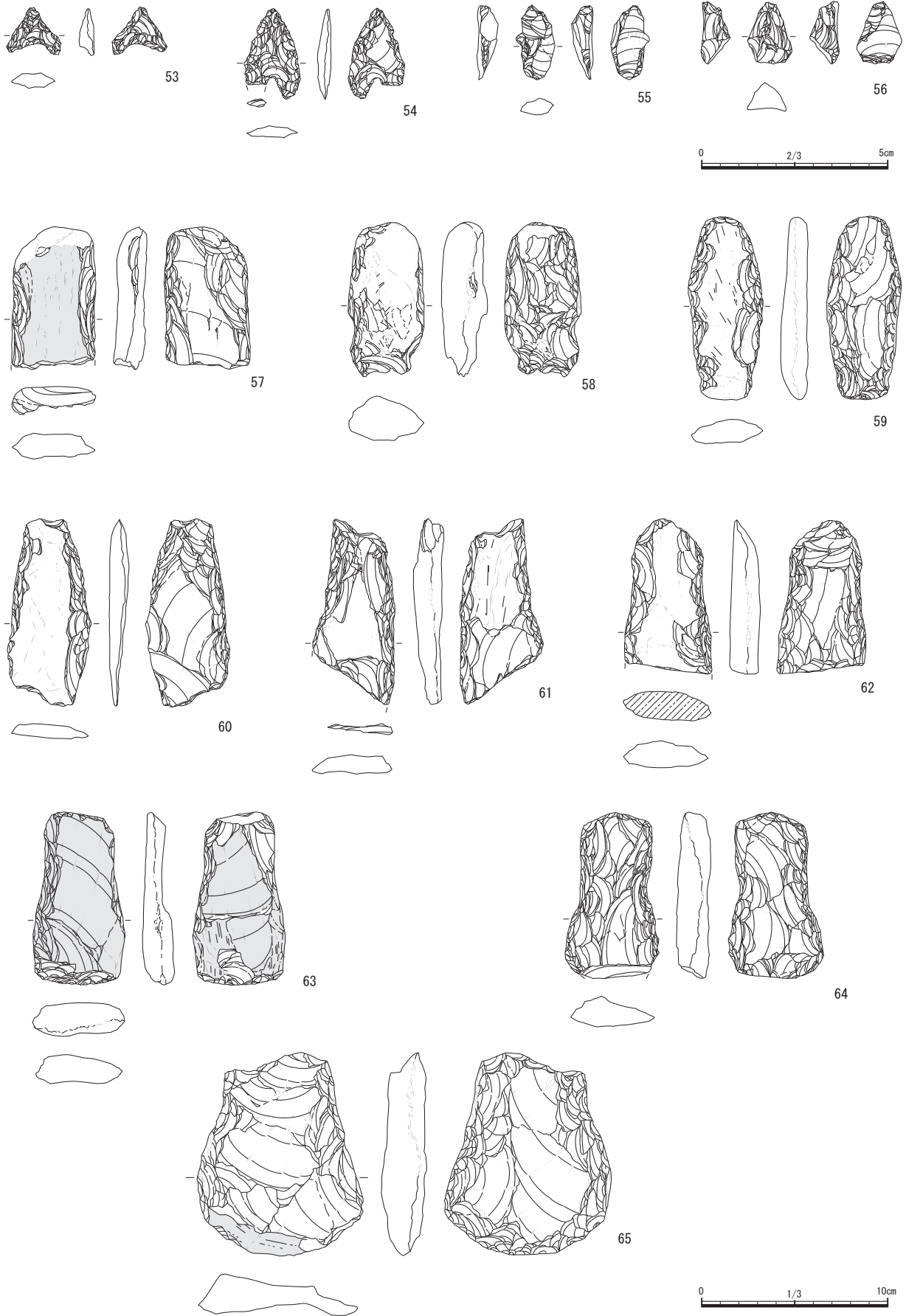


第20図 103号住居跡出土遺物4（1／3）



第21図 103号住居跡出土遺物5 (1/3)



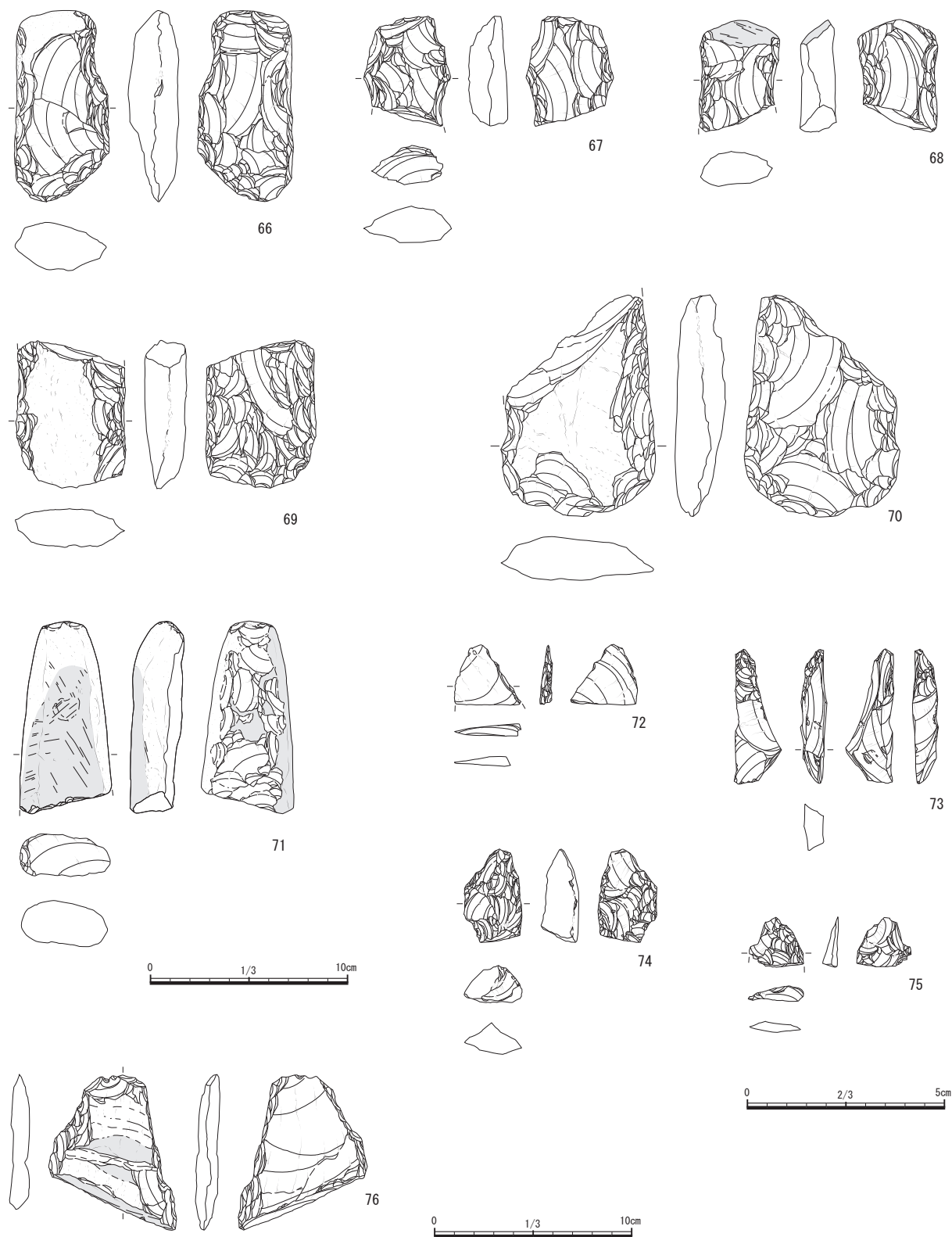


第22図 103号住居跡出土遺物6 (1/3・2/3)



[石器] (第22・23図、図版33・34、第13表)

24点を図示した。53・54は石鏃である。55・56は楔形石器である。57～70は打製石斧である。71は磨製石斧である。72～75は二次加工剥片である。76は砥石である。



第23図 103号住居跡出土遺物7 (1/3・2/3)

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態                          | 法量<br>(cm)                                | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土                     | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|-------------------------------------|---|--|--|------------------------|-------------|
| 第17図1<br>図版29-1   | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>90%                   | 高 [14.8]<br>口 43.6<br>厚 1.2               | キャリパー形/<br>外反する頸部/<br>内湾する口縁部                                | 口縁部を上端1本、下端2本の隆帯で画す/2本1対の隆帯による横位S字状の文様を4単位配す、右側の渦巻状部分は把手になると思われるが全て欠損/口縁部区画内に縦位沈線(一部斜位)充填/区画下端に沈線による両端が渦巻状を呈する文様を施文/頸部無文/隆帯断面カマボコ状/炉体土器  | にぶい黄橙/<br>砂粒中量、<br>礫少量 | 加曾利<br>E1b式 |
| 第17図2<br>図版29-2   | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>90%                   | 高 [17.4]<br>口 23.8<br>厚 1.0               | キャリパー形/<br>外反して広がる<br>頸部/内湾する<br>口縁部                         | 地文は撚糸L縦位、口縁部区画内施文/把手の剥落痕が4単位見られる/隆帯による口縁部区画、楕円状の区画が連なる/区画上下端に沈線による両端が渦巻状を呈する文様を施文/頸部無文/下端に横位隆帯が僅かに残存/隆帯断面カマボコ状/埋裏  | 明黄褐/砂<br>粒多量、礫<br>少量   | 加曾利<br>E1b式 |
| 第17図3<br>図版29-3   | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>40%                 | 高 [26.0]<br>口 (28.5)<br>厚 0.9             | キャリパー形/<br>ほぼ直立に立ち<br>上がる胴部/外<br>反して広がる頸<br>部/内湾する口<br>縁部    | 地文は撚糸L縦位、口縁部区画内、胴部に施文/口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す、下端の隆帯は器面と同化している部分がある/区画内は2本1対の隆帯により端部が渦巻状を呈する弧状文、渦巻状文下には区画下端隆帯に向かって4～5単位の内3単位の弧状文の弧の部分から3本以上の隆帯が区画下端隆帯に向かって垂下/頸部無文/頸部無文帯と胴部を横走する2本1対の隆帯によって画す/胴部には2本1対の直状の隆帯5単位、1本の波状隆帯5単位が交互に垂下/隆帯断面カマボコ状/内側器面は下にいく程凹凸があり粗い | 橙～褐/砂<br>粒少量、礫<br>微量   | 加曾利<br>E1b式 |
| 第18図4<br>図版30-4   | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>90%                 | 高 [15.3]<br>口 28.9<br>厚 1.1               | キャリパー形/<br>外反して広がる<br>頸部/内湾して<br>広がる口縁部                      | 地文は撚糸L縦位、口縁部区画内、胴部に施文/口縁部を上端1本、下端2本の隆帯で画す/2本1対の隆帯により端部が渦巻状を呈する弧状文を配す、5単位/5単位の渦巻文のうち3単位は下端から3本の隆帯が区画下端隆帯に向かって垂下、5単位の内3単位の弧状文の弧の部分から3本以上の隆帯が区画下端隆帯に向かって垂下/撚糸施文→口縁部区画隆帯貼付/頸部無文/頸部と胴部を横走する2本1対の隆帯で画す/胴部には2本1対に隆帯が直状に垂下/隆帯断面カマボコ状/胴部付近の内面器面は凹凸が見られ粗い        | 暗赤褐/砂<br>粒・礫中量         | 加曾利<br>E1b式 |
| 第18図5<br>図版30-5   | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>90%                 | 高 [14.2]<br>口 29.2<br>厚 1.0               | キャリパー形/<br>外反する胴部上<br>位/外反して広<br>がる頸部/やや<br>内湾して立ち上<br>がる口縁部 | 地文は撚糸L縦位/口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す/口縁部区画内には2本1対の隆帯により端部が渦巻状を呈する弧状文7単位/内4単位は渦巻文が突起状、突起状のものとするでない渦巻文を交互に配置/頸部無文/頸部と胴部を横走する2本1対の隆帯で画す/胴部に2本1対の直状の隆帯4単位、1本の波状隆帯4単位が交互に垂下/隆帯断面カマボコ状   | 暗褐/砂粒<br>多量、礫微<br>量    | 加曾利<br>E1b式 |
| 第18図6<br>図版30-6   | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>80%                 | 高 [19.8]<br>口 35.2<br>厚 1.3               | キャリパー形/<br>外反する胴部/<br>外反して広がる<br>頸部/内湾して<br>外傾する口縁部          | 地文は0段多条RL縦位・斜位、口縁部区画内・胴部に施文/口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す/口縁部区画内に2本1対の隆帯による端部が渦巻状を呈する文様を4単位か(渦巻状の部分3単位残存、1単位は渦巻状の部分欠損)、1本の隆帯による楕円状の文様1単位/頸部無文/頸部と胴部を横走する2本1対の隆帯で画す/胴部に2本1対の隆帯が1単位ずつ対称面に直状に垂下、間に1本の波状隆帯2単位と直状の隆帯1単位を交互に垂下/隆帯断面カマボコ状・台形状                           | にぶい黄橙/<br>砂粒中量、<br>礫少量 | 加曾利<br>E1c式 |
| 第18図7<br>図版31-7   | 深鉢       | 頸部下位<br>～胴部下位<br>50%                | 高 [41.6]<br>厚 1.1                         | 頸部に向かい直<br>線的に外傾する<br>胴部                                     | 地文は撚糸L縦位/残存頸部無文/横位2本の隆帯で頸部無文帯と画す/2本1対の隆帯による渦巻文、直状に垂下/波状に垂下する1本の隆帯/渦巻文の上部に6本、横に12本の隆帯を貼付/隆帯断面カマボコ状  | 橙/砂粒少<br>量、礫中量         | 加曾利<br>E1b式 |
| 第18図8<br>図版31-8   | 深鉢       | 頸部～底<br>部<br>90%                    | 高 [29.4]<br>底 11.0<br>厚 0.9               | 下位がやや内湾<br>し中位からやや<br>外反する胴部/<br>外反する頸部                      | 地文は撚糸L縦位/頸部無文/頸部無文帯と胴部を横走する2本1対の隆帯で画す/2本1対の直状の隆帯5単位と1本の波状の隆帯5単位が交互に垂下/隆帯断面カマボコ状/底面網代痕無し/内面の器面は凹凸があり粗い  | 橙/砂粒中<br>量、礫少量         | 加曾利<br>E1b式 |
| 第19図9<br>図版31-9   | 深鉢       | 胴部中位<br>40%                         | 高 [13.7]<br>厚 1.0                         | ほぼ直立の胴部、<br>上部はやや外反  | 地文は撚糸L縦位/2本1対の直状に垂下する隆帯2単位、1本の波状に垂下する隆帯2単位を交互に施文/隆帯断面カマボコ状   | 褐/砂粒少<br>量、礫中量         | 加曾利<br>E1b式 |
| 第19図10<br>図版31-10 | 深鉢       | 胴部下位<br>～底部<br>90%                  | 高 [8.3]<br>底 11.1<br>厚 0.9                | 僅かに内湾し広<br>がりながら立ち<br>上がる胴部/平<br>坦な底部                        | 地文は撚糸L縦位/底面付近は縦位平行沈線を複数施文、撚糸文を施文しきれなかった部分を補う目的か/2本1対の直状に垂下する隆帯4単位と1本の波状に垂下する隆帯4単位を交互に施文/垂下する直状の隆帯は2本を貼付し1対としたものと幅広の隆帯の中心に1本の沈線を加え2本としたものがある/隆帯断面扁平なカマボコ状、隆帯の抑えがやや甘い/底面網代痕なし  | 橙/砂粒・<br>礫少量           | 加曾利<br>E1b式 |
| 第19図11<br>図版31-11 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位、<br>胴部中位<br>～底部<br>30% | 高 (25.0)<br>口 (20.0)<br>底 (11.0)<br>厚 1.0 | 中位がやや内湾<br>し上位は広がっ<br>て立ち上がる胴<br>部/外湾して広<br>がる口縁部/平<br>坦な底部  | 地文は0段多条LR縦位/口縁部無文、頸部の横位1本の隆帯で区画/横位隆帯下部縄文施文/胴部文様2本1対の隆帯が垂下、2本1対の沈線によるJ字状の文様、2本1対の沈線が垂下、反転く字状の隆帯/隆帯断面角状、横位隆帯脇まで付けて貼付、胴部の文様隆帯脇単沈線が1本沿う/地文→隆帯貼付、頸部横位隆帯との前後関係は不明、107Jと遺構間接合   | 暗褐/砂<br>粒・礫少量          | 加曾利<br>E1c式 |
| 第19図12<br>図版31-12 | 深鉢       | 胴部中位<br>～下位<br>90%                  | 高 [12.3]<br>厚 1.1                         | 内湾する胴部   | 地文は単節RL縦位/中位に3本の単沈線が巡る/2本1対の沈線が8単位波状に垂下  | 橙/砂粒・<br>礫少量           | 加曾利<br>E2a式 |

第11表 103号住居跡出土遺物一覧1

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)                | 器形・形態   | 文様・特徴  | 胎土                             | 時期<br>型式         |
|-------------------|----------|--------------------|---------------------------|---|--|--------------------------------|------------------|
| 第19図13<br>図版31-13 | 小形<br>深鉢 | 胴部下半<br>～底部<br>90% | 高 [3.1]<br>底 5.8<br>厚 0.6 | やや内湾しながら<br>広がる胴部 /<br>平坦な底部  | 地文は単節 RL 縦位、胴部施文 / 103J と 109J の遺構間接合  | にぶい黄橙<br>/ 砂粒少量、<br>礫微量        | 加曾利<br>E 式       |
| 第19図14<br>図版31-14 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 0.7                     | やや外傾する胴<br>部  | 1本の隆帯が波状に垂下 / 爪形文を横位に施文 / 隆帯断面カマ<br>ボコ状・扁平なカマボコ状   | にぶい黄褐<br>/ 砂粒・礫<br>少量、雲母<br>中量 | 阿玉台<br>II 式      |
| 第19図15<br>図版31-15 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 1.1                     | 内湾する口縁部 /<br>口唇部は外傾   | 地文は単節 RL 縦位 / 隆帯による口縁部区画 / 区画内側に平行<br>沈線が沿う、内側に縄文施文 / 左側の区画同士の接点には円形<br>の窪みのある突起を貼付  | にぶい黄橙<br>/ 砂粒少量、<br>礫・雲母中<br>量 | 阿玉台<br>III 式     |
| 第19図16<br>図版31-16 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.2                     | やや外傾する胴<br>部  | 爪形文を付した隆帯による区画文 / 隆帯交差部分は短隆帯を横<br>位に2本貼付し突起状に成形 / 隆帯に1本または2本の沈線が<br>沿う / 区画内に半截竹管状工具の腹面を使用した平行沈線を斜<br>位に充填 / 隆帯断面扁平なカマボコ状・角形状、隆帯脇単沈線<br>が1本沿う  | 橙 / 砂粒・<br>礫少量                 | 勝坂 3a<br>式       |
| 第19図17<br>図版31-17 | 深鉢       | 口縁部中<br>位～頸部<br>破片 | 厚 1.2                     | 頸部ほぼ直立 /<br>中位から下位に<br>かけて内湾する<br>口縁  | 頸部に横走る隆帯で区画 / 口縁部に押圧文を付した縦位隆帯<br>で区画、斜位の隆帯は文様か / 口縁部に単沈線による渦巻文を<br>充填、渦巻文間沈線充填 / 隆帯断面台形状、縦位隆帯脇単沈線<br>が沿う、横位隆帯上端まで付けて貼付 / 内面の調整は粗く横位<br>の深い擦痕が多数見られる / 103J と 109J の遺構間接合   | 明褐 / 砂<br>粒・礫少量                | 勝坂 3b<br>新式      |
| 第19図18<br>図版32-18 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.4                     | ほぼ直立する胴<br>部  | 押圧文を付した隆帯による円形の文様 / 半肉彫り状の文様、三<br>角押文・押圧文を充填 / 隆帯断面台形状、隆帯脇まで付けて貼<br>付  | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量          | 勝坂 3b<br>式       |
| 第20図19<br>図版32-19 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 1.3                     | 中位が内湾し上<br>位がほぼ直立す<br>る口縁部  | 地文は撚糸 L 横位 / 口唇部に太い隆帯を横位に2本貼付し一部<br>突起状に成形 / 太い隆帯の中央に1本の沈線を付した背割隆帯<br>を弧状に貼付 / この破片の他同様の隆帯形状・貼付方法で同一<br>個体と思われる口縁部破片が 105J から出土 / いずれも接合せず<br>同一個体かは不明であるが胎土が非常に似ている破片が 104J・<br>105J・107J・108J・109J・110J・114J・118J から出土、多<br>くは 103J・105J・109J から出土 | 橙 / 砂粒・<br>礫微量                 | 加曾利<br>E1a 式     |
| 第20図20<br>図版32-20 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚 0.9                     | 外傾しながら広<br>がる頸部 / 外傾<br>しながら内湾す<br>る口縁部   | 口縁部に中空の把手 / 口縁部は上端2本、下端2本の隆帯で画<br>す / 口縁部区画内縦位沈線列 / 隆帯断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒多<br>量、礫中量               | 加曾利<br>E1b 式     |
| 第20図21<br>図版32-21 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片 | 厚 0.8                     | ほぼ直立する頸<br>部 / 中位まで外<br>傾して広がり、<br>上位は内湾しな<br>がら立ち上がる<br>口縁部 / 口唇部<br>内側に三角状に<br>肥厚 | 地文は撚糸 L 縦位、胴部に施文 / 口縁部無文 / 頸部2本1対の<br>隆帯が巡る / 胴部2本1対の直位の隆帯が垂下、1本の隆帯が<br>波状に垂下 / 隆帯断面カマボコ状  | 明褐 / 砂<br>粒・礫少量                | 加曾利<br>E1b 式     |
| 第20図22<br>図版32-22 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>破片 | 厚 0.9                     | 内湾する胴部 /<br>括れる頸部 / 外<br>傾しながら内湾<br>する口縁部   | 地文は撚糸 L 縦位 / 口縁部無文 / 頸部2本1対の隆帯が巡る /<br>胴部に1本または2本1対の隆帯による文様貼付 / 隆帯断面カ<br>マボコ状  | にぶい黄褐<br>/ 砂粒少量、<br>礫微量        | 加曾利<br>E1b 式     |
| 第20図23<br>図版32-23 | 深鉢       | 胴部上位<br>～下位<br>破片  | 厚 1.0                     | 内湾する胴部  | 地文は撚糸 L 縦位 / 上部に横位1本の隆帯 / 1本の隆帯が波状<br>に垂下 / 2本1組の隆帯が直状に垂下 / 隆帯断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒・<br>礫少量                 | 加曾利<br>E1b 式     |
| 第20図24<br>図版32-24 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚 1.0                     | 外傾しながら広<br>がる頸部 / 内湾<br>する口縁部   | 地文は撚糸 L 縦位、口縁部区画内に施文 / 隆帯による口縁部区<br>画 / 区画端の突起状の部分に沈線による渦巻文 / 頸部無文 / 隆<br>帯断面カマボコ状   | 褐 / 砂粒・<br>礫多量                 | 加曾利<br>E1c 式     |
| 第20図25<br>図版32-25 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 1.2                     | 内湾する口縁部   | 口縁部を隆帯で画す、上端1本下端欠損 / 区画内に2本1対の<br>隆帯による弧状の文様貼付 / 区画内縦位沈線列 / 隆帯断面カマ<br>ボコ状・台形状  | 暗褐 / 砂<br>粒・礫少量                | 加曾利<br>E1～2<br>式 |
| 第20図26<br>図版32-26 | 深鉢       | 胴部下位<br>～底部<br>破片  | 厚 0.9                     | やや外傾し立ち<br>上がる胴部 / 平<br>坦な底部  | 地文は単節 RL 縦位、胴部に施文 / 3本1対の沈線が直状に垂下、<br>沈線間の縄文は磨消された様に見える / 1本の沈線が波状に垂<br>下 / 底面網代痕なし / 内面に黒色の付着物微量あり  | 橙 / 砂粒・<br>礫少量                 | 加曾利<br>E3a 式     |
| 第20図27<br>図版32-27 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.2                     | 内湾する胴部  | 地文は撚糸 L 縦位 / 眼鏡状把手、把手下部から2本の隆帯が<br>直状に垂下 / 把手横に隆帯横走、隆帯上端から紐状の隆帯が斜<br>位に複数本伸びる / 隆帯断面カマボコ状 / 斜位の紐状隆帯は押<br>さえて貼付 / 紐状隆帯下には地文の撚糸文が見える / 掲載番号<br>27 と 28 は同一個体   | にぶい黄褐<br>/ 砂粒・礫<br>少量          | 曾利 I<br>式        |

第11表 103号住居跡出土土器一覧2

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態       | 法量<br>(cm) | 器形・形態              | 文様・特徴   | 胎土           | 時期<br>型式 |
|-------------------|----------|------------------|------------|--------------------|---|--------------|----------|
| 第21図28<br>図版32-28 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.2       | 内湾する胴部             | 地文は撚糸L縦位/眼鏡状把手貼付、把手下部から2本の隆帯が直状に垂下/隆帯断面カマボコ状/掲載番号27と28は同一個体 | にぶい黄橙/砂粒・礫少量 | 曾利I式     |
| 第21図29<br>図版32-29 | 深鉢       | 頸部～胴部<br>破片      | 厚0.8       | 内湾する胴部/<br>括れる頸部   | 地文は単節RL縦位/頸部の括れ部に紐状の隆帯が波状に横走/1本の隆帯が直状に垂下/頸部波状隆帯上部無文         | 暗褐/砂粒・礫少量    | 曾利II式    |
| 第21図30<br>図版32-30 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.2       | 外傾して上端が<br>内湾する口縁部 | 地文は撚糸L縦位/口縁部に3本の沈線が巡る、沈線間に交互刺突文施文/3本1対の沈線による連弧文施文、下部に副文様が付随 | 暗褐/砂粒中量、礫少量  | 連弧文2b段階  |
| 第21図31<br>図版32-31 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>破片 | 厚0.9       | 内屈する口縁部<br>～体部     | 沈線による文様/体部無文  | 暗褐/砂粒・礫少量    | 勝坂3b式    |
| 第21図32<br>図版32-32 | 浅鉢       | 体部<br>破片         | 厚0.9       | 内湾する体部             | 残存部無文/内外面に赤色顔料残存  | 明褐/砂粒少量・礫微量  | 中期中葉～後葉  |

第11表 103号住居跡出土土器一覽3

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土                 | 時期<br>型式 |
|-------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|--------------------|----------|
| 第21図33<br>図版32-33 | 土器<br>片錘 | 完形       | 4.6/3.2/8.5     | 14.7      | 楕円形/抉部は2ヶ所/周縁はぼ磨耗/胴部片利用/単節LR施文/  | にぶい褐色/砂粒・礫微量、繊維を含む | 前期       |
| 第21図34<br>図版32-34 | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.4/4.0/9.7     | 32.3      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/0段多条RL施文   | 明赤褐/砂粒・礫少量         | 勝坂式      |
| 第21図35<br>図版32-35 | 土器<br>片錘 | 完形       | 4.1/2.6/1.2     | 16.8      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/0段多条RL施文   | 褐/砂粒多量、礫少量         | 勝坂式      |
| 第21図36<br>図版33-36 | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.7/5.7/9.6     | 46.3      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部付近の破片利用/隆帯による文様か/隆帯間沈線充填/隆帯断面台形、隆帯脇1本の単沈線が沿う            | にぶい黄橙/砂粒・礫少量       | 加曾利E2式   |
| 第21図37<br>図版33-37 | 土器<br>片錘 | 完形       | 6.6/4.1/0.9     | 46.6      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/浅鉢口縁部付近～体部の破片を利用/沈線による渦巻文施文/沈線充填                         | にぶい黄橙/砂粒中量、礫少量     | 加曾利E2式   |
| 第21図38<br>図版33-38 | 土器<br>片錘 | 完形       | 8.8/5.8/1.0     | 80.1      | 楕円形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部編利用/沈線による渦巻状の文様を施文し、内側に縄文施文/単節RL施文/口縁部上部、口唇部に僅かに赤色顔料残存 | 褐/砂粒中量、礫微量         | 加曾利E4式   |
| 第21図39<br>図版33-39 | 土器<br>片錘 | 30%      | [4.7]/[3.4]/1.1 | 19.1      | 円形または楕円形か/抉部1ヶ所残存/周縁はぼ磨耗/胴部片利用/単節RL施文  | 褐/砂粒中量、礫微量         | 中期中葉～後葉  |
| 第21図40<br>図版33-40 | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.1/2.8/1.2     | 12.3      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/単節LR施文   | 橙/砂粒中量、礫微量         | 中期中葉～後葉  |
| 第21図41<br>図版33-41 | 土器<br>片錘 | 50%      | [4.3]/[2.7]/0.8 | 11.7      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/単節RL施文  | にぶい褐/砂粒少量、礫微量      | 中期中葉～後葉  |
| 第21図42<br>図版33-42 | 土器<br>片錘 | 90%      | 3.4/[3.2]/1.2   | 17.4      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁ごく一部磨耗/胴部片利用/条線文施文   | 暗褐/砂粒・礫少量          | 中期中葉～後葉  |
| 第21図43<br>図版33-43 | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.9/3.1/1.4     | 24.4      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/無文  | 褐/砂粒中量、礫微量         | 中期中葉～後葉  |
| 第21図44<br>図版33-44 | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.2/4.1/1.1     | 32        | 方形/抉部は2ヶ所/周縁はぼ磨耗/胴部片利用/無文  | 暗赤褐/砂粒少量、礫微量       | 中期中葉～後葉  |
| 第21図45<br>図版33-45 | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.5/4.6/1.2     | 42.1      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁一部磨耗/胴部片利用/無文  | にぶい黄橙/砂粒少量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |
| 第21図46<br>図版33-46 | 土器<br>片錘 | 完形       | 4.7/4.2/1.2     | 34.2      | 円形/抉部は2ヶ所/周縁はぼ磨耗/胴部片利用/無文  | 褐/砂粒少量、礫微量         | 中期中葉～後葉  |
| 第21図47<br>図版33-47 | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.8/3.4/1.0     | 19.3      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/無文   | 黒褐/砂粒中量、礫微量        | 中期中葉～後葉  |
| 第21図48<br>図版33-48 | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.8/3.8/7.7     | 15.2      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/無文、表面剥落か   | 明赤褐/砂粒中量、礫少量、雲母多量  | 中期中葉～後葉  |
| 第21図49<br>図版33-49 | 土器<br>片錘 | 40%      | [4.0]/[5.3]/1.3 | 32.9      | 円形または楕円形か/抉部1ヶ所残存/周縁ごく一部磨耗/胴部片利用/無文/光沢のある黒色の附着物あり                            | にぶい黄褐/砂粒少量、礫中量     | 中期中葉～後葉  |
| 第21図50<br>図版33-50 | 土器<br>片錘 | 50%      | [4.4]/5.6/1.1   | 37.3      | 円形または楕円形か/抉部1ヶ所残存/周縁一部磨耗/胴部片利用/無文  | 黒褐/砂粒中量、礫少量        | 中期中葉～後葉  |
| 第21図51<br>図版33-51 | 土製<br>円盤 | 完形       | 2.6/2.3/0.9     | 7.4       | 楕円形/周縁の一部磨耗/胴部片利用/沈線、交互刺突文施文   | 褐/砂粒・礫少量           | 勝坂2～3式   |
| 第21図52<br>図版33-52 | 土製<br>円盤 | 完形       | 6.2/5.0/1.0     | 40.8      | 楕円形/周縁の磨耗は未発達/口縁部片利用/僅かに押圧文と思われる痕跡が縁に見られる                                    | にぶい黄褐/砂粒多量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |

第12表 103号住居跡出土土製品一覽



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種     | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴   |
|-------------------|--------|---------|--------|-------|--------|-------|--|
| 第22図53<br>図版33-53 | 石鏃     | 黒曜石     | 12.7   | 14.7  | 4.3    | 0.5   | 凹基無茎 / 側縁は緩やかな弧状を呈する / 挟りは浅く弧状   |
| 第22図54<br>図版33-54 | 石鏃     | 黒曜石     | 23.9   | 15.8  | 3.7    | 1.1   | 凹基無茎 / 側縁は直線状 / 挟りは深く直線状 / 左脚部欠損   |
| 第22図55<br>図版33-55 | 楔形石器   | 黒曜石     | 20.4   | 11.0  | 5.8    | 0.9   | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第22図56<br>図版33-56 | 楔形石器   | 黒曜石     | 17.0   | 12.2  | 8.3    | 1.1   | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第22図57<br>図版33-57 | 打製石斧   | 頁岩      | 77.0   | 45.1  | 18.6   | 83.5  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の上部の稜上に潰れが認められる  |
| 第22図58<br>図版33-58 | 打製石斧   | 頁岩      | 83.9   | 41.8  | 25.9   | 116.5 | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の上部から中央部にかけての稜上に潰れが認められ、上部と中央部の一部が面状になっている / 右側縁は中央部の稜上に潰れが認められる / 表面の一部が赤色化しており、被熱の可能性がある |
| 第22図59<br>図版33-59 | 打製石斧   | 砂岩      | 98.4   | 41.1  | 15.3   | 77.2  | 短冊形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる   |
| 第22図60<br>図版33-60 | 打製石斧   | 頁岩      | 100.3  | 45.2  | 10.5   | 55.7  | 撥形 / 表面が磨滅している / 刃部は一部折れて欠損している / 表面に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の上部の稜上に潰れが認められる   |
| 第22図61<br>図版33-61 | 打製石斧   | 頁岩      | 97.0   | 45.4  | 15.8   | 70.0  | 撥形 / 基部と刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 右側縁の稜上に局所的に潰れが僅かに認められる / 表面の一部が赤色化しており、被熱の可能性がある   |
| 第22図62<br>図版33-62 | 打製石斧   | 砂岩      | 83.5   | 47.4  | 16.0   | 88.9  | 撥形 / 基部と刃部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが認められ、左側縁の中央部の一部が面状になっている  |
| 第22図63<br>図版33-63 | 打製石斧   | 頁岩      | 94.7   | 50.3  | 17.1   | 100.8 | 撥形 / 表裏面は磨滅している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 磨滅痕によって両側縁の潰れの有無はわからない  |
| 第22図64<br>図版33-64 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 92.6   | 52.4  | 18.9   | 110.0 | 撥形 / 刃部は一部折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが僅かに認められる  |
| 第22図65<br>図版34-65 | 打製石斧   | 頁岩      | 110.9  | 89.3  | 20.8   | 243.6 | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 表面刃部付近に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが認められる  |
| 第23図66<br>図版34-66 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 96.6   | 48.8  | 25.9   | 153.9 | 撥形 / 表面基部付近に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の上半と下半の稜上に潰れが認められる   |
| 第23図67<br>図版34-67 | 打製石斧   | 頁岩      | 55.5   | 44.7  | 19.6   | 54.5  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離は認められない   |
| 第23図68<br>図版34-68 | 打製石斧   | 頁岩      | 55.5   | 42.9  | 19.3   | 61.0  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 表面の一部には原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の稜上に潰れが認められる   |
| 第23図69<br>図版34-69 | 打製石斧   | 砂岩      | 75.6   | 55.7  | 21.3   | 123.5 | 平面形状は不明 / 刃部のみ残存 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる  |
| 第23図70<br>図版34-70 | 打製石斧   | 砂岩      | 111.5  | 80.1  | 25.9   | 240.8 | 平面形状は不明 / 刃部のみ残存 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる  |
| 第23図71<br>図版34-71 | 磨製石斧   | 緑色凝灰岩   | 98.4   | 47.8  | 22.8   | 182.1 | 刃部は折れて欠損している / 基部は敲打を伴う剥離によって調整される / 体部は裏面の一部に研磨前の痕跡が見られる  |
| 第23図72<br>図版34-72 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 15.3   | 17.0  | 3.4    | 0.6   | 表面側右側縁に連続的な二次的剥離が認められる   |
| 第23図73<br>図版34-73 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 33.9   | 12.9  | 6.9    | 2.1   | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第23図74<br>図版34-74 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 24.3   | 15.0  | 11.2   | 2.8   | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第23図75<br>図版34-75 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 12.7   | 13.9  | 4.3    | 0.4   | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第23図76<br>図版34-76 | 砥石     | 緑泥片岩    | 74.1   | 69.7  | 11.4   | 63.0  | 表面に2ヶ所溝が認められる / 中央部付近に位置する溝は、断面が逆「台形」に近い形状である / 下部に位置する、もう一つの溝は残存状況が悪く、詳細は不明である  |

第13表 103号住居跡出土石器一覧

## 104号住居跡

**遺 構** (第24・25図)

[位 置] (B・C-2・3) グリッド。

[検出状況] 107 J・3 Sを切り、209 Dに切られる。

[構 造] 平面形：ほぼ円形。主軸方位：N-48°-E。炉と埋甕の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸540cm／短軸480cm／深さ32～54cm。壁溝：1条検出されたが、南側から東側にかけては確認できなかった。上幅14～25cm／下幅4～10cm／床面からの深さ4～14cm。壁：約74～86°で急斜に立ち上がる。床面：やや平坦であるが、中央部分が軟弱でわずかに低くなる。直床である。北側と南西側の壁際近くにそれぞれ2ヶ所の硬化面を確認した。炉：石囲埋甕炉。深鉢形土器(第26図1)が埋設されている。長軸44cm／短軸39cm／床面からの深さ20cm。埋甕：南西端に1基検出された。深鉢形土器(第26図2)が埋設されている。掘込規模は長軸30cm／短軸25cm／床面からの深さ17cm。柱穴：23本検出した。P1～P4を支柱穴ととらえ、4本柱建物を想定するが、P5～P8も支柱穴の可能性があり、建替の可能性もある。

[覆 土] 5層に分層できた。

[遺 物] 炉体土器(第26図1)、埋甕(第26図2)の他、炉の北側から土器が比較的まとまって出土した。

[時 期] 中期後葉期(加曾利E2c式／連弧文2b段階期)。

**遺 物** (第26～29図、図版35～37、第14～16表)

[土 器] (第26・27図・第28図13～24、図版35・36、第14表)

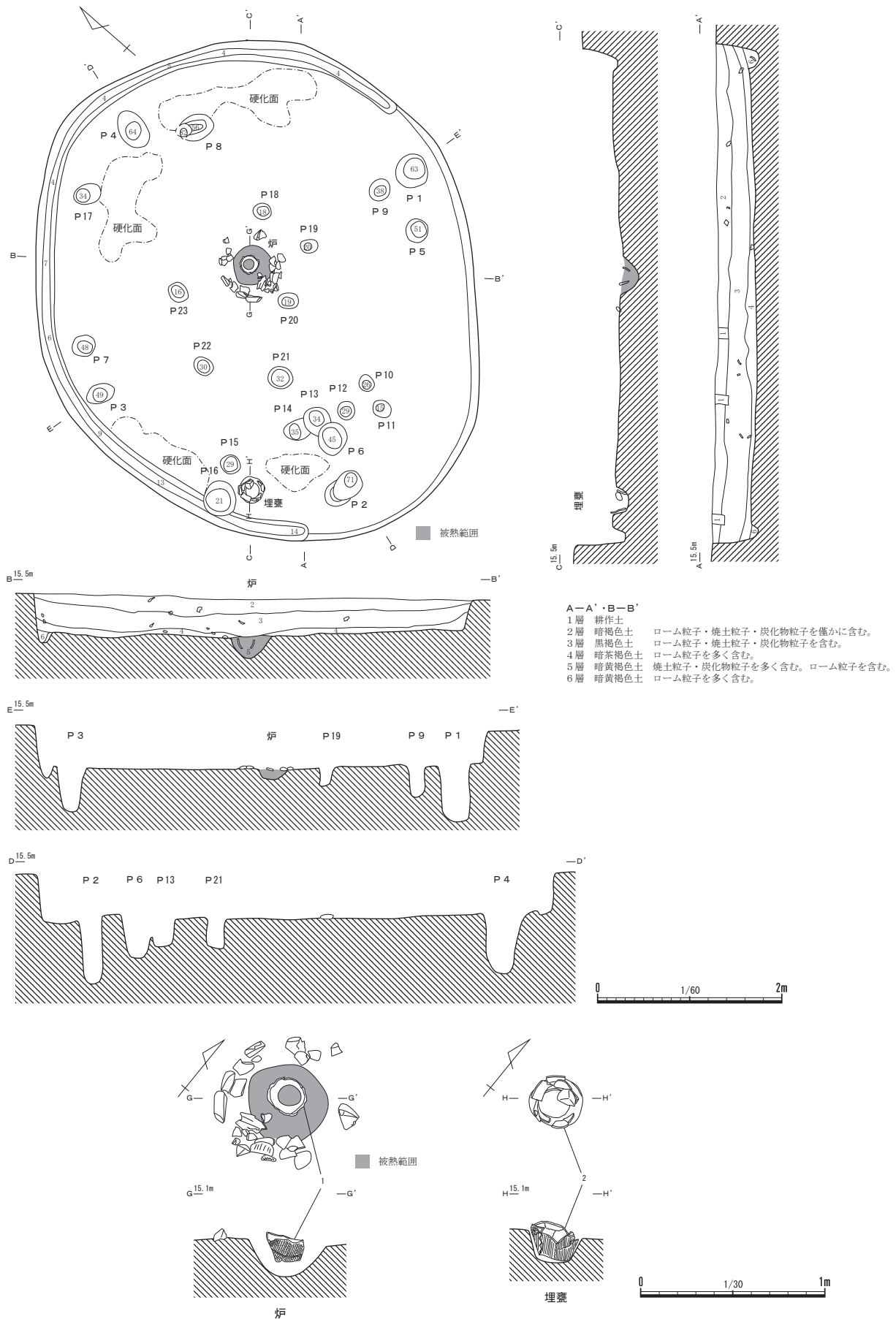
復元個体9点、破片資料15点を図示した。1は炉体土器で、連弧文2b段階の深鉢形土器である。縄文を地文とし、横走る3本の沈線間は地文を磨消される。2は埋甕で、加曾利E2c式の深鉢形土器である。3～5は連弧文2b段階の深鉢形土器で、いずれも条線文を地文とする。3は副文様が見られ、文様の沈線間は地文が消えている部分がある。4は胴部上位に連弧文を2段施文する。5はやや形の崩れた連弧文を施文する。6は連弧文3段階の深鉢形土器である。2本の沈線による波状文を施し、沈線間の地文は磨消される。7は堀之内1式の深鉢形土器である。地文はなく、胴部括れ部には2本の沈線間に刺突文を付した文様が巡り、胴部下位には沈線が波状に垂下し、蕨手状の文様が見られる。8は加曾利E式の小形深鉢である。9は加曾利E3～4式の台付鉢の台部である。器面は荒れており、地文は条線文と思われる。10は阿玉台式、11～17は勝坂式、18～21は加曾利E式、22・23は曾利式の深鉢形土器である。24は浅鉢形土器で、勝坂式と思われる。

[土 製品] (第28図25～30、図版36、第15表)

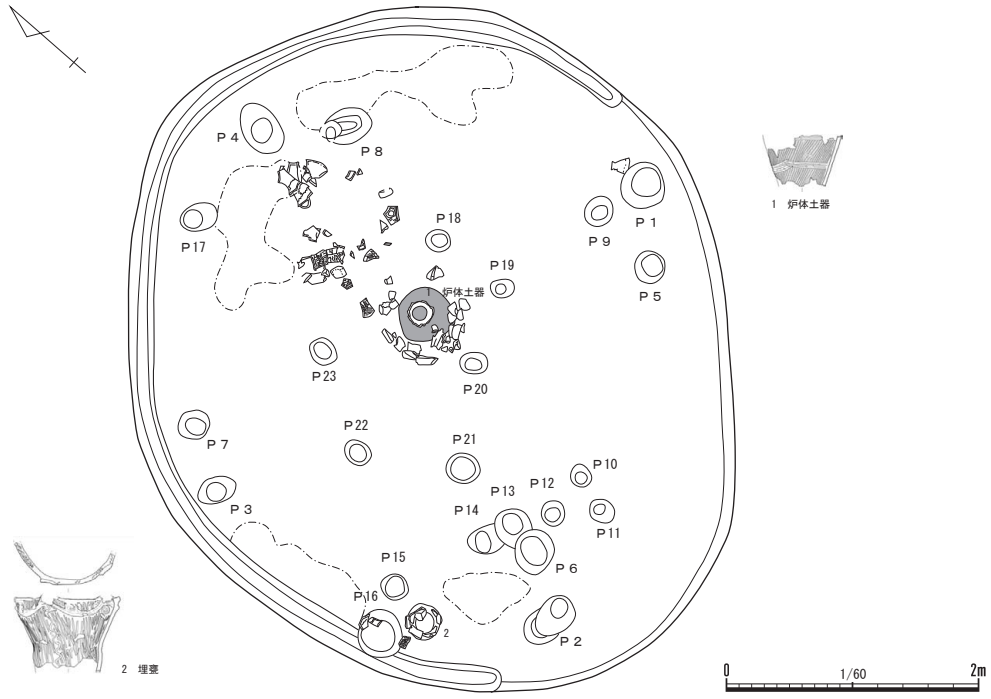
6点を図示した。25～30は土器片錘である。

[石 器] (第28図31～33・第29図、図版37、第16表)

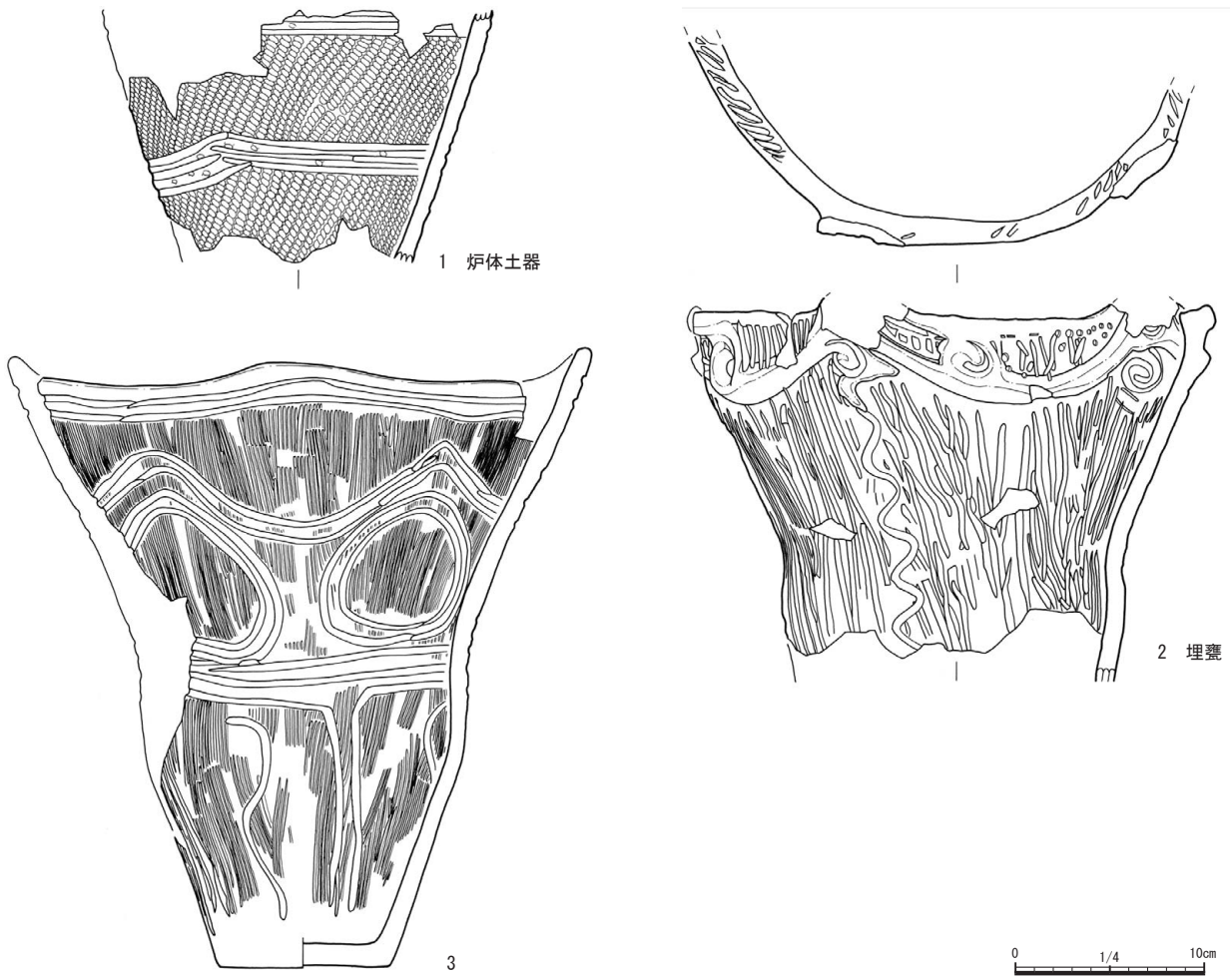
13点を図示した。31は楔形石器である。32～37は打製石斧である。38・39は二次加工剥片である。40は磨石である。41・42は石皿である。43は砥石である。



第24図 104号住居跡・炉・埋壙 (1/60・1/30)



第25図 104号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)

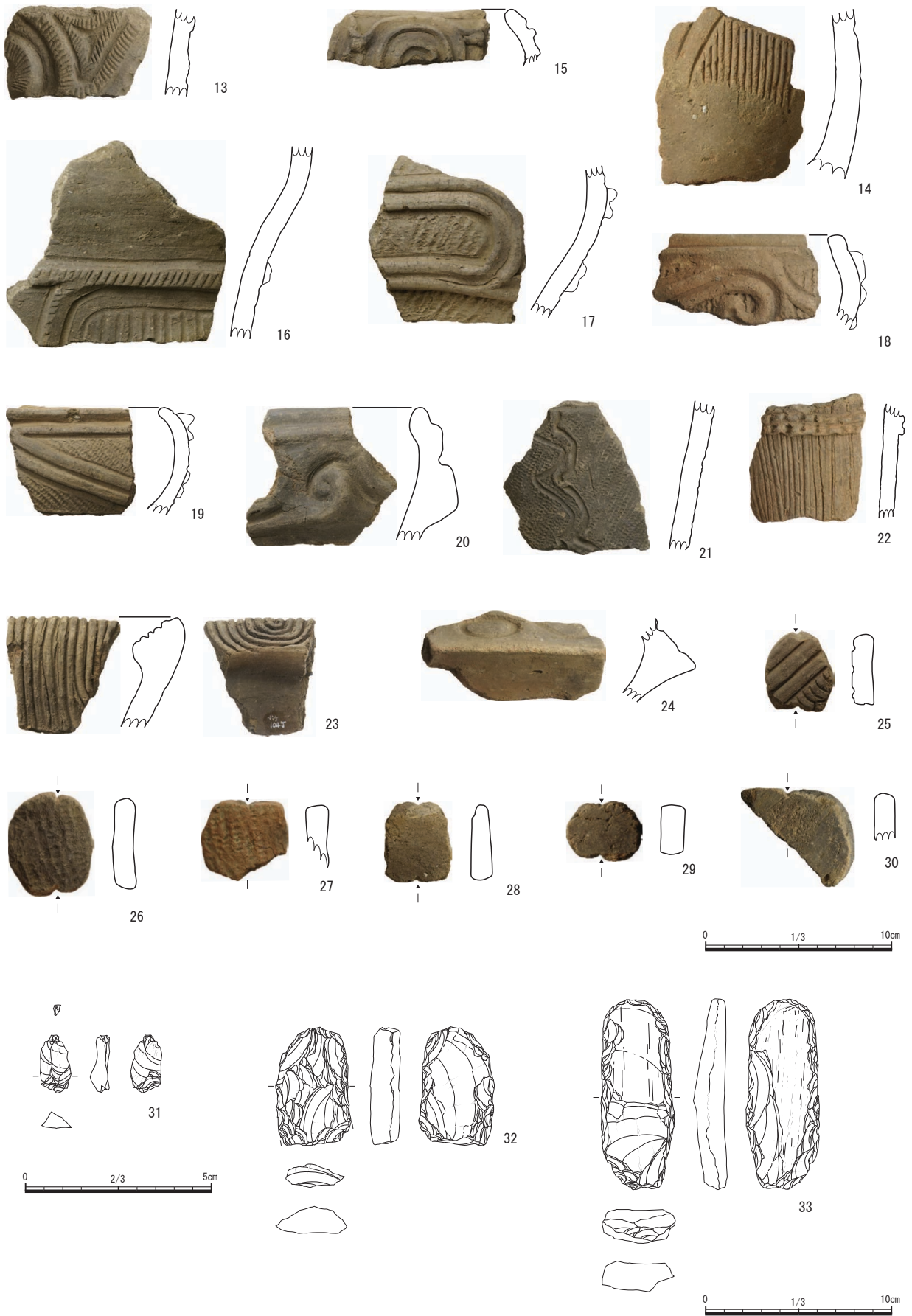


第26図 104号住居跡出土遺物1 (1 / 4)

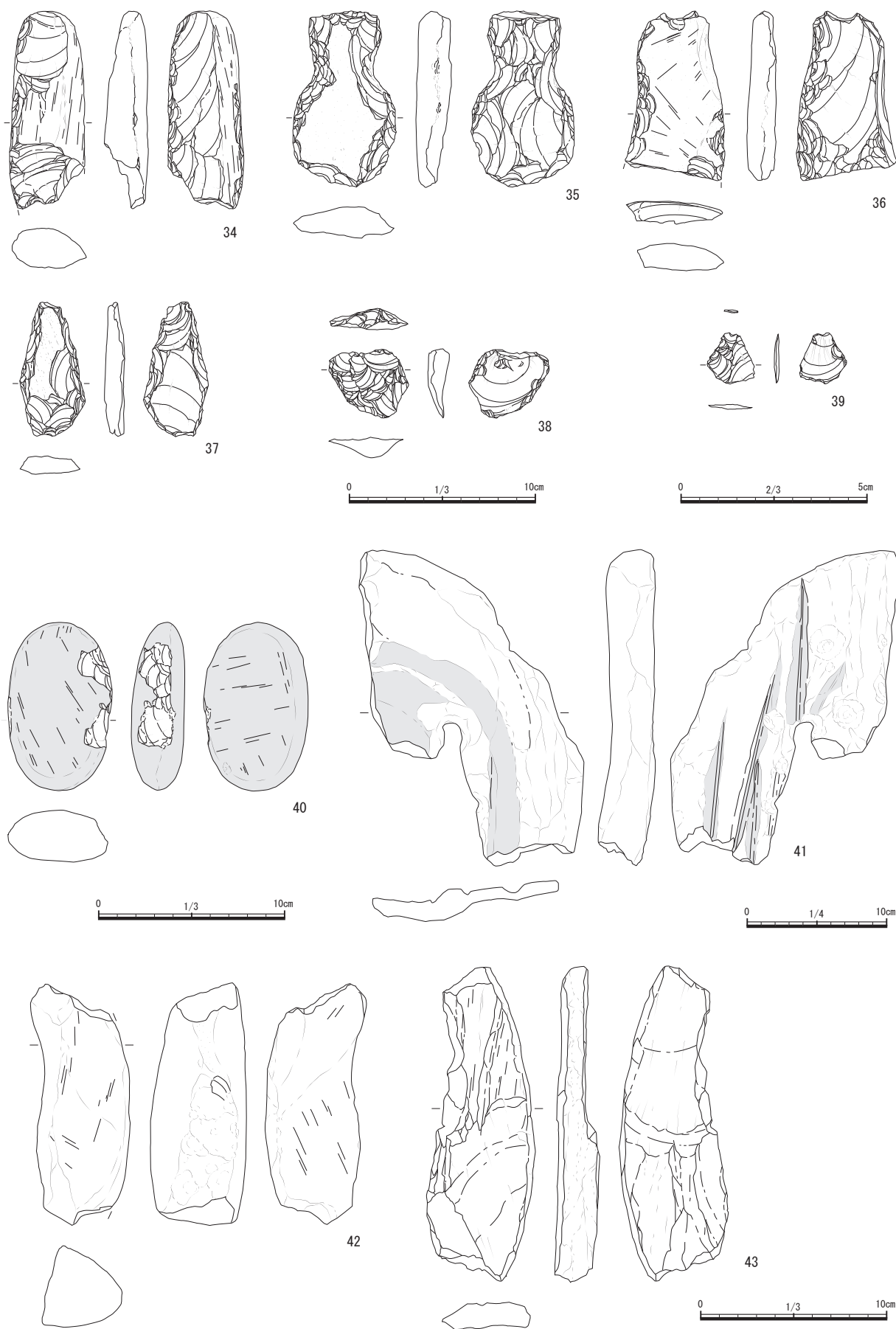




第27図 104号住居跡出土遺物2 (1/4・1/3)



第28図 104号住居跡出土遺物3 (1/3・2/3)



第29図 104号住居跡出土遺物4 (1/4・1/3・2/3)

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                           | 器形・形態  | 文様・特徴   | 胎土                           | 時期<br>型式         |
|-------------------|----------|---------------------|--------------------------------------|--|---|------------------------------|------------------|
| 第26図1<br>図版35-1   | 深鉢       | 胴部中位～<br>下位<br>70%  | 高 [13.2]<br>厚 0.9                    | 下位から外傾し広<br>がる胴部   | 地文は単節 RL 縦位 / 3 本 1 対の沈線が横走、沈線間の地文<br>磨消し / 炉土器   | 橙 / 砂粒中<br>量、礫微量             | 連弧文<br>2b 段階     |
| 第26図2<br>図版35-2   | 深鉢       | 口縁部～胴<br>部下位<br>80% | 高 [19.8]<br>口 27.0<br>厚 1.0          | キャリパー形 / 中<br>位で括れ下位が内<br>湾する胴部 / 外傾<br>し広がる頸部 / や<br>や内湾する口縁部 | 地文は縦位沈線 / 口唇部に斜位の沈線を充填 / 口縁部を下<br>端 1 本の隆帯で半円状に画す (3 単位残存、内 2 単位は半<br>分欠損) / 区画内中央に隆帯による渦巻文、縦位沈線充填 /<br>区画同士が接する部分に沈線による渦巻文 / 1 本の波状沈<br>線が 5 単位垂下、渦巻文下位から垂下するものとしないう<br>ものが混在 / 地文に比べやや強めに引かれた 2～3 本の直<br>状の沈線が見られるが地文か垂下する沈線かの判断は困難<br>(やや傾きが違う 2 本 1 対の直状沈線が見られる) / 隆帯断<br>面カマボコ状 / 埋裏 | 橙 / 砂粒中<br>量、礫少量             | 加曾利<br>E2c 式     |
| 第26図3<br>図版35-3   | 深鉢       | 口縁部～底<br>部<br>60%   | 高 32.6<br>口 (30.6)<br>底 9.0<br>厚 1.0 | 外傾しながら立ち<br>上がり中位で括れ<br>上位で外傾する胴<br>部 / 外傾する口縁<br>部 / 平坦な底部    | 地文は縦位条線文 / 波状口縁 (2 単位残存、4 単位か) / 口<br>縁に 2 本 1 対の沈線が巡る / 2 本 1 対の沈線による連弧文、<br>波頂部下位に 2 本 1 対の沈線による円形の文様施文 / 胴部<br>括れ部に 3 本 1 対の沈線が横走、下端の 1 本は 2 本 1 対<br>の直状に垂下する沈線に繋がる / 2 本 1 対の直状に垂下す<br>る沈線間に 1 本の波状沈線が垂下 / 沈線間の地文が一部磨<br>消されるが地文が残っている部分が多く見られる                                      | 橙～黒褐 / 砂<br>粒・礫少量            | 連弧文<br>2b 段階     |
| 第27図4<br>図版35-4   | 深鉢       | 口縁部～胴<br>部中位<br>30% | 高 [19.5]<br>口 (29.0)<br>厚 1.0        | 中位はやや直立だ<br>が上位は外傾して<br>広がる胴部 / 外傾<br>し広がる口縁部                  | 地文は縦位条線文 / 口縁部には 2 本の沈線が巡る / 2 本 1<br>対の沈線による連弧文を 2 段施すが連弧文は波状に近い /<br>胴部に 2 本の沈線が横走 / 沈線間に擦り消しが一部見られ<br>るが大部分は残っている  | 橙～黒褐 / 砂<br>粒・礫少量            | 連弧文<br>2b 段階     |
| 第27図5<br>図版35-5   | 深鉢       | 口縁部～胴<br>部上位<br>破片  | 高 [10.0]<br>口 (30.0)<br>厚 1.1        | 外傾する胴部 / や<br>や内湾しながら外<br>傾し上部は内湾す<br>る口縁部                     | 地文は縦位条線文 / 口縁部には 3 本の沈線が巡る / 沈線に<br>よる崩れた連弧文状の文様、沈線の本数は 2～4 本見られ<br>る   | 暗褐 / 砂粒少<br>量、礫微量            | 連弧文<br>2b 段階     |
| 第27図6<br>図版35-6   | 深鉢       | 胴部下位～<br>底部<br>40%  | 高 [9.5]<br>底 8.8<br>厚 1.2            | 外傾して広がりな<br>がら立ち上がる胴<br>部 / 平坦な底部                              | 地文は単節 RL 縦位 / 地文は施文単位の間隔が広く疎ら / 2<br>本 1 対の沈線による波状文、沈線間縄文擦り消し / 網代痕<br>なし   | 橙 / 砂粒少<br>量、礫微量             | 連弧文<br>3 段階      |
| 第27図7<br>図版36-7   | 深鉢       | 胴部中位～<br>下位<br>40%  | 高 [22.0]<br>厚 1.3                    | 内湾しながら立ち<br>上がり、上位が括<br>れる胴部                                   | 胴部上位の括れ部に 2 本の沈線間に刺突文を付した文様が<br>巡る / 胴部下位に沈線による蕨手状の文様が垂下、間に 2<br>本 1 対の沈線が波状に垂下   | 褐 / 砂粒中<br>量、礫少量             | 堀之内<br>1 式       |
| 第27図8<br>図版36-8   | 小形<br>深鉢 | 胴部下半～<br>底部<br>60%  | 高 [4.8]<br>底 5.0<br>厚 0.7            | 外傾して広がりな<br>がら立ち上がる胴<br>部 / 平坦な底部                              | 地文は単節 RL 縦位 / 網代痕なし   | 明赤褐 / 砂<br>粒・礫少量             | 加曾利<br>E 式       |
| 第27図9<br>図版36-9   | 台付<br>鉢  | 台部<br>80%           | 高 [5.0]                              | 残存部はほぼ直立<br>/ 側面に孔の痕跡<br>が見られる                                 | 地文は縦位条線文か、器面が荒れ詳細不明 / 上端に 1 本の<br>隆帯が巡り、そこから隆帯が複数垂下 / 隆帯断面カマボコ<br>状   | 明褐 / 砂粒・<br>礫多量              | 加曾利<br>E3～4<br>式 |
| 第27図10<br>図版36-10 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                                | 下位はやや内湾し<br>上位はやや外傾す<br>る口縁部                                   | 背の高い隆帯を逆 T 字状に貼付 / 隆帯上部押圧文 / 隆帯<br>に爪形文が押し引状に沿う / 隆帯脇まで付けて貼付  | にぶい褐 / 砂<br>粒微量・礫少<br>量、雲母多量 | 阿玉台<br>Ⅲ式        |
| 第27図11<br>図版36-11 | 深鉢       | 口縁部～胴<br>部<br>破片    | 厚 0.8                                | ほぼ直立する胴部<br>/ 僅かに内湾する<br>口縁部                                   | 横位 1 本の沈線で口縁部上部を区画、上部無文 / 平行沈線<br>による区画、区画内沈線による三叉文、渦巻文、押圧文充<br>填 / 中央に窪みのある円形の文様 / 内面に黒色の付着物が<br>少量あり  | 赤褐 / 砂粒少<br>量、礫微量            | 勝坂 3a<br>式       |
| 第27図12<br>図版36-12 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.1                                | 外反する胴部   | 爪形文を付した隆帯による区画文 / 区画内側に 2 本の沈<br>線に沿う / 更に内側に押圧文が沿う / 隆帯断面カマボコ状、<br>隆帯脇には単沈線が沿う   | 褐 / 砂粒少<br>量、礫微量             | 勝坂 3a<br>式       |
| 第28図13<br>図版36-13 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.1                                | ほぼ直立する胴部   | 押圧文を付した隆帯による区画文 / 三叉文の周囲に押圧文<br>充填 / 右端に楕円状の押圧文が僅かに残存 / 隆帯断面台形、<br>隆帯脇には単沈線 1 本が沿う  | にぶい黄褐 /<br>砂粒・礫少量            | 勝坂 3a<br>式       |
| 第28図14<br>図版36-14 | 深鉢       | 胴部下半～<br>底部付近<br>破片 | 厚 1.3                                | 内湾しながら立ち<br>上がる胴部  | 2 本の斜位沈線、区画文か / 半截竹管状工具腹面による平<br>行沈線を縦位に充填 / 底部付近は無文  | 明褐 / 砂粒少<br>量、礫微量            | 勝坂 3a<br>式       |
| 第28図15<br>図版36-15 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.6                                | 強く内湾する口縁<br>部  | 多条の紐状の隆帯を逆 U 字状に貼付、逆 U 字状の文様同<br>士を粘土瘤状の突起で連結 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇<br>まで付けて貼付  | にぶい黄褐 /<br>砂粒少量、礫<br>微量      | 勝坂 3b<br>新式      |
| 第28図16<br>図版36-16 | 深鉢       | 口縁部～胴<br>部上半<br>破片  | 厚 1.0                                | ほぼ直立の胴部 /<br>内湾する口縁部   | 口縁部無文 / 押圧文を付した横位隆帯で口縁部を画し、楕<br>円区画文を形成 / 区画内側に 2 本の沈線が沿う / 沈線内<br>縦位沈線列 / 隆帯断面台形、隆帯脇には単沈線が沿う   | 灰黄褐 / 砂粒<br>中量、礫微量           | 勝坂 3b<br>新式      |

第14表 第104号住居跡出土土器一覧1



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態   | 法量<br>(cm) | 器形・形態                | 文様・特徴  | 胎土              | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|--------------|------------|----------------------|--|-----------------|-------------|
| 第28図17<br>図版36-17 | 深鉢       | 口縁部～胴部<br>破片 | 厚1.0       | 外傾する胴部/外傾しながら内湾する口縁部 | 地文は単節RL縦位/弧状の隆帯、太い隆帯の中央に1本の沈線を付した背割隆帯                              | にぶい黄橙/素な粒少量、礫微量 | 勝坂3b<br>新式  |
| 第28図18<br>図版36-18 | 深鉢       | 口縁部<br>破片    | 厚1.0       | 内湾し口唇部がやや直立する口縁部     | 地文は燃糸L縦位/隆帯によって口縁部を画す、上端隆帯1本、下端欠損/2本1対の隆帯による渦巻文施文/隆帯断面カマボコ状        | 明褐/砂粒中量、礫微量     | 加曾利<br>E1b式 |
| 第28図19<br>図版36-19 | 深鉢       | 口縁部<br>破片    | 厚0.8       | 内湾する口縁部              | 地文は単節RL横位/口縁部隆帯で画す、上端2本の隆帯、下端欠損/2本1対の隆帯を斜位に貼付/隆帯断面角状               | にぶい褐/砂粒少量、礫微量   | 加曾利<br>E2式  |
| 第28図20<br>図版36-20 | 深鉢       | 口縁部<br>破片    | 厚1.1       | 外傾しながら内湾し口唇部が直立する口縁部 | 口縁部は上端1本、下端1本の隆帯で画す/突起状の部分に沈線による渦巻文/隆帯断面カマボコ状                      | 黒褐/砂粒少量、礫微量     | 加曾利<br>E2式  |
| 第28図21<br>図版36-21 | 深鉢       | 胴部<br>破片     | 厚1.1       | 外傾する胴部               | 地文は単節RL縦位/2本1対の沈線が波状に垂下  | 黒/砂粒少量、礫中量      | 加曾利<br>E2式  |
| 第28図22<br>図版36-22 | 深鉢       | 胴部<br>破片     | 厚0.8       | ほぼ直立する胴部             | 地文は縦位条線文/押圧文を付した2本の隆帯を横位に貼付/隆帯断面カマボコ状/隆帯上端には1本の単沈線が沿う、隆帯下端は押し付けて貼付 | 明褐/砂粒中量、礫少量     | 曾利I<br>式    |
| 第28図23<br>図版36-23 | 深鉢       | 口縁部<br>破片    | 厚1.3       | 外傾し内側に大きく肥厚する口縁部     | 半截竹管状工具の腹面による重弧文と思われる/口縁内側の肥厚部分にも重弧文施文/104-23と105-19は同一個体の可能性あり    | 暗褐/砂粒・礫少量       | 曾利II<br>式   |
| 第28図24<br>図版36-24 | 浅鉢       | 口縁部～体部<br>破片 | 厚1.1       | 内折する口縁部              | 沈線による楕円形等の文様/体部無文  | にぶい黄橙/砂粒少量、礫微量  | 勝坂式<br>か    |

第14表 104号住居跡出土土器一覧2

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土           | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|--------------|-------------|
| 第28図25<br>図版36-25 | 土器<br>片錘 | 完形       | 4.2/3.6/1.1     | 24        | 楕円形/袂部は2ヶ所/周縁はほぼ磨耗/胴部片利用/平行沈線施文/平行沈線に沿う爪形文 | 褐/砂粒・礫微量     | 勝坂3式        |
| 第28図26<br>図版36-26 | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.5/4.5/1.2     | 40.4      | 楕円形/袂部は2ヶ所/周縁は全面磨耗顕著/胴部片利用/単節LR施文          | 黒褐/砂粒中量、礫微量  | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第28図27<br>図版36-27 | 土器<br>片錘 | 60%      | [4.2]/4.6/1.2   | 27.9      | 方形か/袂部1ヶ所残存/周縁はほぼ磨耗/胴部片利用/単節LR施文           | 明赤褐/砂粒中量、礫微量 | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第28図28<br>図版36-28 | 土器<br>片錘 | 完形       | 4.3/3.5/1.1     | 23.3      | 方形/袂部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/無文               | 灰黄褐/砂粒少量、礫微量 | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第28図29<br>図版36-29 | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.1/4.0/1.2     | 21.5      | 楕円形/袂部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文                | 暗褐/砂粒少量、礫微量  | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第28図30<br>図版36-30 | 土器<br>片錘 | 50%      | [5.1]/[6.1]/1.1 | 32.9      | 方形か/袂部1ヶ所残存/周縁はほぼ磨耗/胴部片利用/無文               | 黒褐/砂粒中量、礫微量  | 中期中葉<br>～後葉 |

第15表 104号住居跡出土土製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種   | 石材   | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴  |
|-------------------|------|------|--------|-------|--------|-------|---|
| 第28図31<br>図版37-31 | 楔形石器 | 黒曜石  | 15.7   | 8.5   | 5.3    | 0.5   | 上下に両極剥離が認められる   |
| 第28図32<br>図版37-32 | 打製石斧 | 片状砂岩 | 63.3   | 39.8  | 15.9   | 54.1  | 短冊形/刃部は折れて欠損している/両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の潰れはほとんど見られない/表面の一部が赤色化しており、被熱の可能性ある                     |
| 第28図33<br>図版37-33 | 打製石斧 | 緑泥片岩 | 102.1  | 39.5  | 16.6   | 93.7  | 短冊形/表裏面に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の稜上に局所的に潰れが僅かに認められる                                     |
| 第29図34<br>図版37-34 | 打製石斧 | 砂岩   | 105.6  | 40.9  | 23.4   | 112.5 | 短冊形/刃部は折れて欠損している/表裏面に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、面状になっている/右側縁の潰れはほとんど見られない |
| 第29図35<br>図版37-35 | 打製石斧 | 砂岩   | 94.9   | 56.6  | 19.8   | 116.4 | 撥形/基部は折れて欠損している/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の潰れはほとんど見られない/右側縁は中央部の稜上に潰れが認められる            |

第16表 104号住居跡出土石器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種         | 石材   | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴   |
|-------------------|------------|------|--------|-------|--------|--------|--|
| 第29図36<br>図版37-36 | 打製石斧       | 砂岩   | 93.2   | 54.5  | 15.8   | 110.8  | 撥形/刃部は折れて欠損している/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の上部の稜上に潰れが認められる/右側縁は上部から中央部にかけての稜上に潰れが認められる |
| 第29図37<br>図版37-37 | 打製石斧       | 緑泥片岩 | 71.5   | 34.3  | 10.6   | 33.1   | 平面形状は不明/体部のみ残存/表面の一部に原礫面が残存する/左側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の潰れはほとんど見られない                              |
| 第29図38<br>図版37-38 | 二次加工<br>剥片 | 黒曜石  | 18.6   | 21.7  | 5.7    | 1.6    | 主要剥離面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第29図39<br>図版37-39 | 二次加工<br>剥片 | 黒曜石  | 13.4   | 13.2  | 1.6    | 0.2    | 背面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第29図40<br>図版37-40 | 磨石         | 砂岩   | 89.9   | 56.1  | 28.6   | 201.3  | 表裏面全面に磨痕   |
| 第29図41<br>図版37-41 | 石皿         | 緑泥片岩 | 226.8  | 161.6 | 41.4   | 1207.5 | 表面の使用面の消耗が激しく、中央付近が薄くなっている/表面に1ヶ所、裏面に7ヶ所凹み/裏面には少なくとも4ヶ所溝/表裏面の一部が赤色化しており、被熱の可能性ある/炉内から出土    |
| 第29図42<br>図版37-42 | 扁平石皿       | 閃緑岩  | 131.3  | 49.7  | 51.0   | 482.8  | 表裏面ほぼ全面に平坦な使用面/炉内から出土  |
| 第29図43<br>図版37-43 | 砥石         | 緑泥片岩 | 169.3  | 57.1  | 23.0   | 271.8  | 表面に1ヶ所溝が認められる/溝の断面は逆「台形」に近い形状である   |

第16表 104号住居跡出土石器一覧2

## 105号住居跡

## 遺構(第30・31図)

[位置] (B・C-4・5) グリッド。

[検出状況] 212Dを切り、5・6方に切られる。

[構造] 平面形：円形。主軸方位：N-43°-E。P5とP7の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸640cm/短軸618cm/深さ28~53cm。壁溝：2条ないし、一部では3条検出された。いずれも壁溝の中に壁柱穴を巡らせている。上幅20~43・9~25・8~12cm/下幅4~21・4~14・4~7cm/床面からの深さ2~14・3~32・5~7cm。壁：約70~87°で急斜に立ち上がる。床面：やや凹凸がある。直床である。主に中央部分と南側の壁近くに硬化面が点在している。炉：地床炉。炉内に石が数個出土しているため石囲炉の可能性もある。長軸88cm/短軸87cm/床面からの深さ27cm。埋嚢：検出されなかった。柱穴：17本検出した。壁溝が2条検出されていることと、ピットの規模・配置から、建替1回・拡張1回・建替1回程度を想定する。拡張前は、P12、P13、P14・15、P17を支柱穴とした4本柱建物で、P14・15の位置から、建替1回を想定する。拡張後の住居跡として、P1、P2~4、P5・6、P7、P8、P9・10を支柱穴とした、6本柱建物を想定する。P3とP4、P5とP6、P9とP10の位置から、建替1回を想定する。拡張前と拡張後の住居は、別の住居の可能性があり、重複と考えることもできるが、ここでは拡張前後の住居跡と捉える。

[覆土] 5層に分層できた。

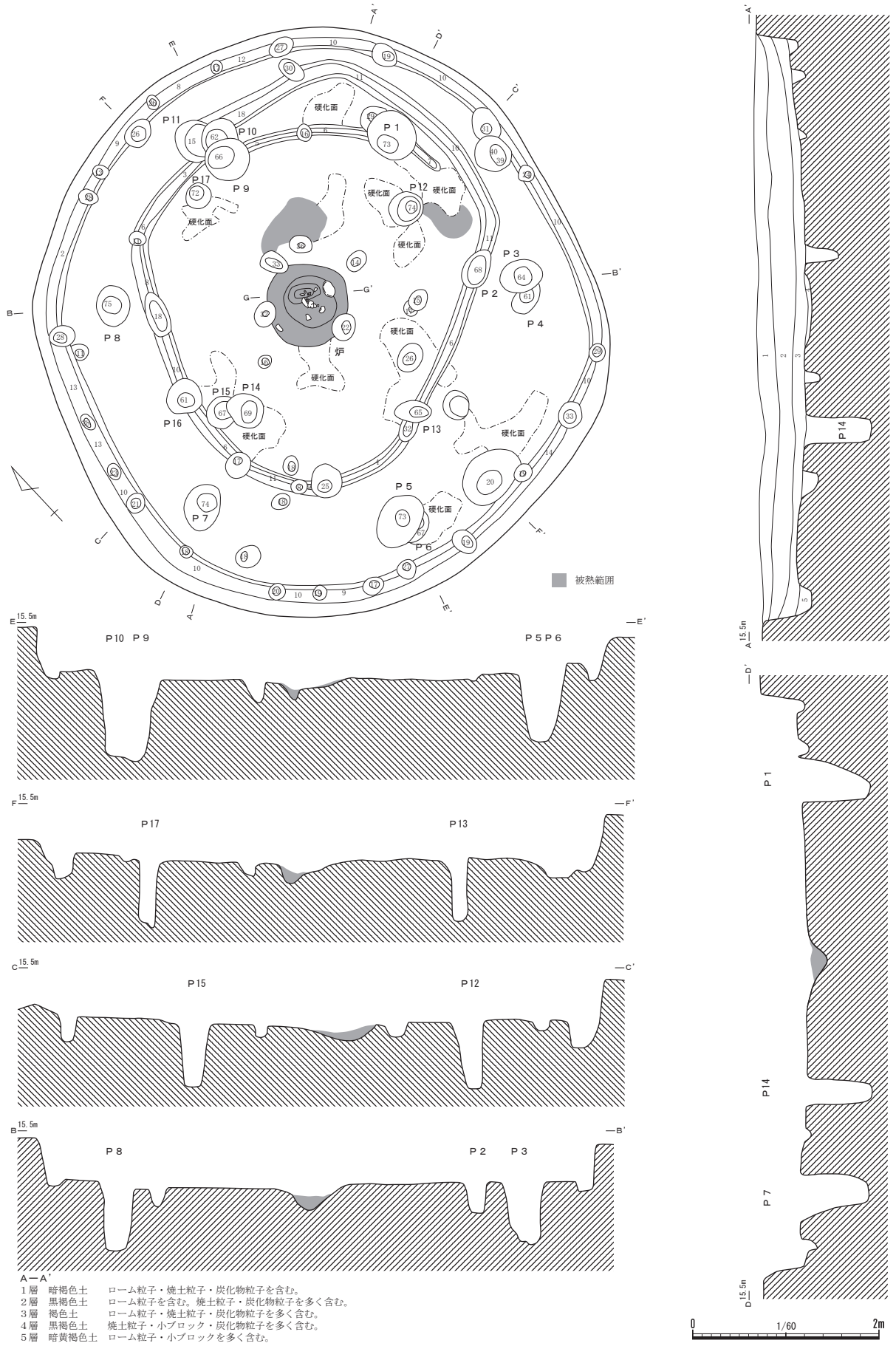
[遺物] 土器、土製品、石器が出土した。

[時期] 中期後葉期(加曾利E1c式期)。

## 遺物(第32~37図、図版38~41、第17~19表)

[土器] (第32~34図・第35図19~24、図版38~40、第17表)

復元個体5点、破片資料19点を図示した。1は加曾利E式の深鉢形土器である。口縁部は無文で、



第30図 105号住居跡 (1/60)

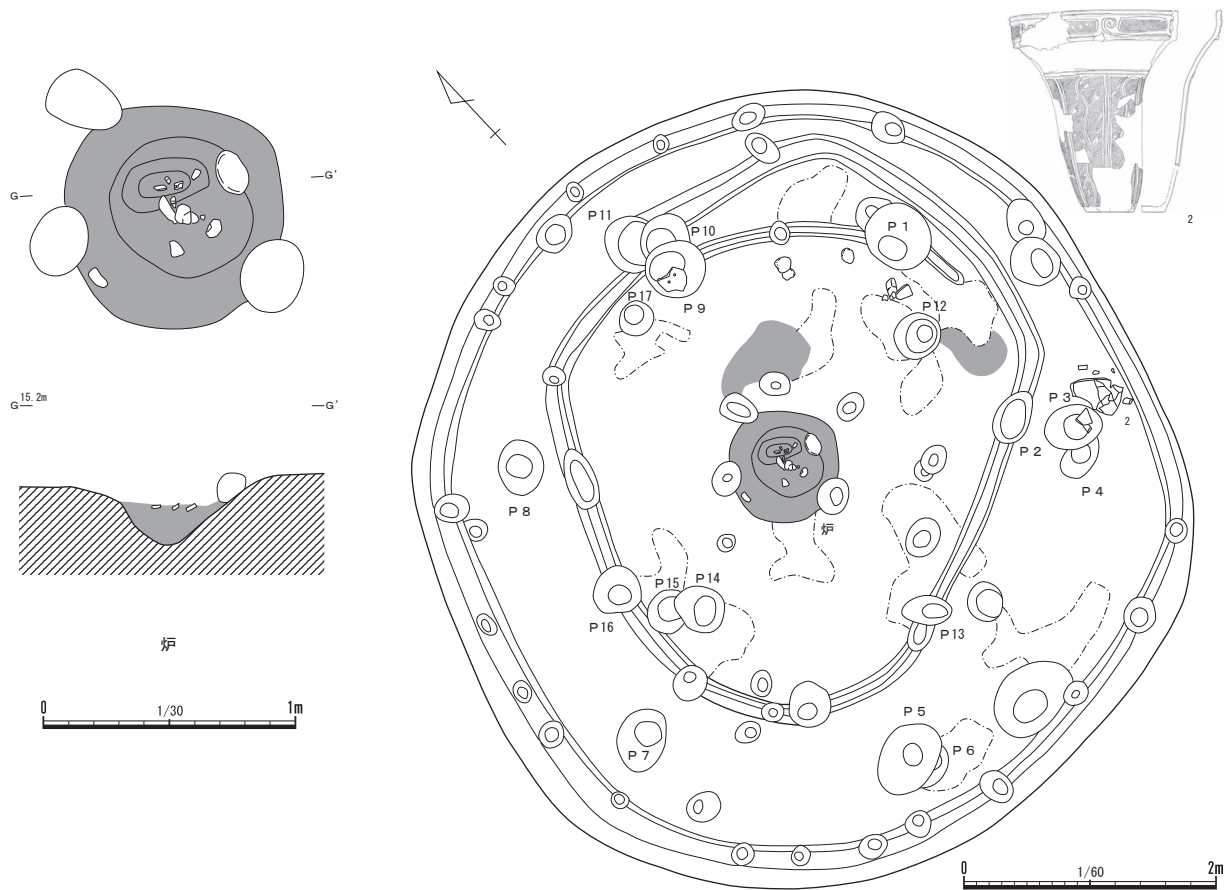
胴部の縄文を施文するが不明瞭である。2・3は加曽利E 1 c 式の深鉢形土器である。2は口縁部区画に渦巻文を付し、胴部には隆帯が垂下する。3は胴部で、縄文を地文とし、隆帯による文様を施す。4は加曽利E 2 c 式の深鉢形土器である。条線文を地文とし、口縁部には隆帯による楕円状の区画を施す。曾利式の影響が見られる。5は連弧文2段階の深鉢形土器である。沈線による連弧文を施す。6は阿玉台式、7～9は勝坂式、10～18は加曽利E式、19～22は曾利式、23・24は連弧文土器の深鉢形土器である。

[土製品] (第35図25～30、図版40、第18表)

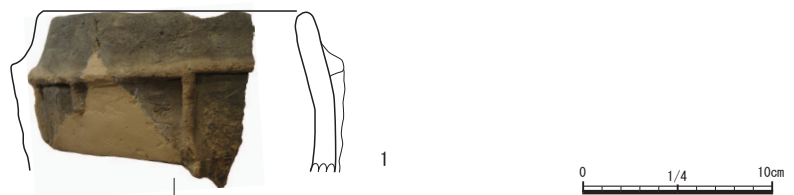
6点を図示した。25～30は土器片錘である。

[石器] (第35図31～40・第36・37図、図版40・41、第19表)

24点を図示した。31～34は石鏃である。35～45は打製石斧である。46～49は二次加工剥片である。50は不規則剥離のある剥片である。51は磨+凹+敲石である。52・53は石皿である。54は砥石である。

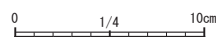
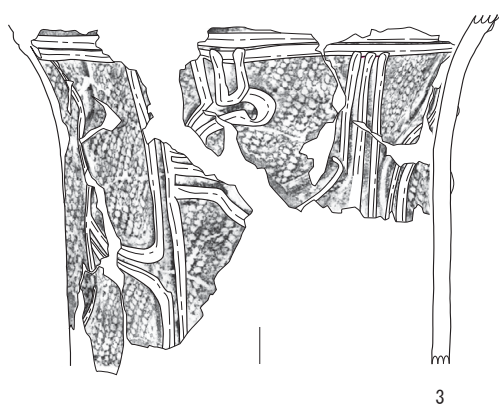
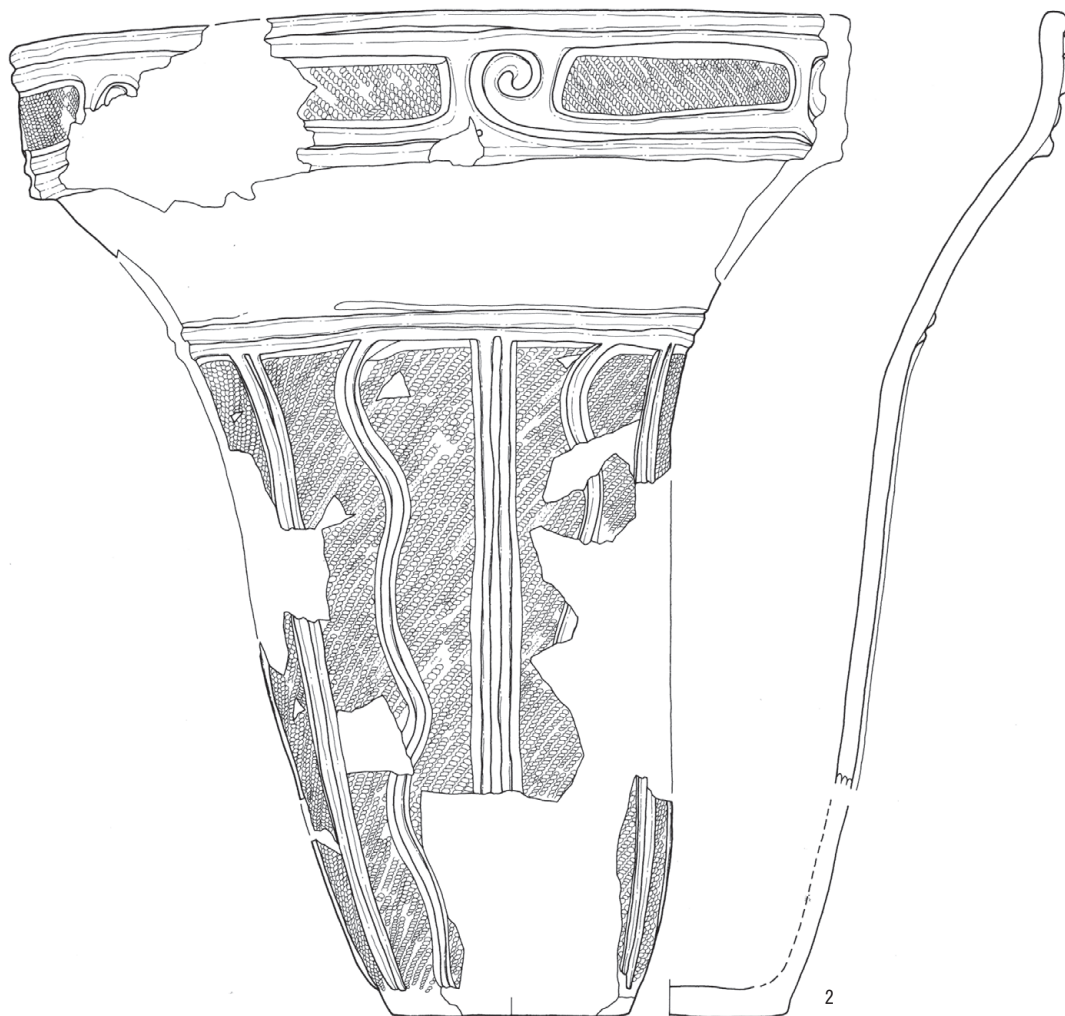


第31図 105号住居跡炉・遺物出土状態 (1/30・1/60)



第32図 105号住居跡出土遺物1 (1/4)





第33図 105号住居跡出土遺物2 (1/4)



第34図 105号住居跡出土遺物3 (1/4・1/3)



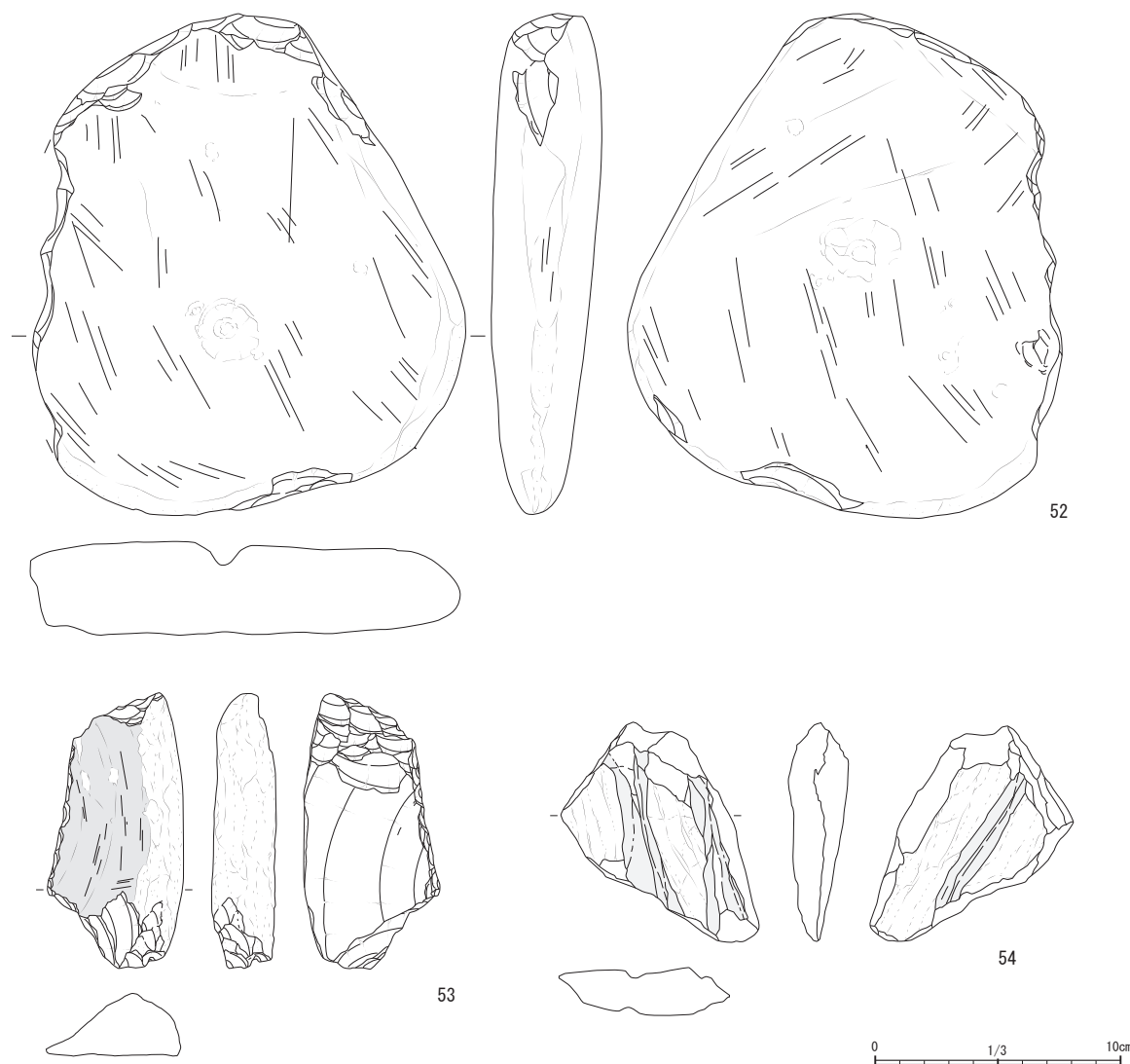
第35図 105号住居跡出土遺物4 (1/3・2/3)





第36図 105号住居跡出土遺物5 (1/3・2/3)





第37図 105号住居跡出土遺物6 (1/3)

| 挿図番号<br>図版番号    | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                          | 器形・形態   | 文様・特徴   | 胎土                     | 時期<br>型式    |
|-----------------|----------|---------------------|-------------------------------------|---|---|------------------------|-------------|
| 第32図1<br>図版38-1 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>30%   | 高 [8.5]<br>口 (14.0)<br>厚 1.2        | 円筒形か / やや内湾<br>しながら立ち上がる<br>口縁部～胴部  | 地文はLR縦位か、胴部に施文されるが非常に不明瞭 / 口縁部無文 / 横位1本の隆帯で口縁部を画す / 横位隆帯から3本の隆帯が直状に垂下 / 1ヶ所隆帯間に沈線が垂下 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付  | 黒褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量  | 加曾利<br>E式   |
| 第33図2<br>図版38-2 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>70%   | 高 53.0<br>口 44.0<br>底 12.4<br>厚 1.0 | キャリパー形 / 外傾<br>しながら立ち上がる<br>胴部 / 外反して広がる<br>頸部 / やや内湾し<br>立ち上がる口縁部 /<br>平坦な底部 | 地文は単節RL、口縁部区画内横位施文、胴部縦位施文 / 口縁部区画、下端1本の隆帯で画す / 区画内は沈線による長方形区画に縄文充填、下位には横位沈線を配し左端は渦巻文を呈する (渦巻文は4単位残存、元は6単位か) / 頸部無文 / 頸部無文部と胴部を横走する2本1対の隆帯で画す / 胴部には2本1対の直状の隆帯6単位と1本の波状隆帯5単位が交互に垂下するが1ヶ所は直状の隆帯が並ぶ / 隆帯断面台形状 / 口縁部区画の文様、隆帯断面形状等ははや新しい印象を受ける / 外面胴部に黒色の付着物あり | 橙～暗褐 /<br>砂粒中量、<br>礫少量 | 加曾利<br>E1c式 |
| 第33図3<br>図版38-3 | 深鉢       | 胴部上位～<br>下位<br>50%  | 高 [18.5]<br>厚 1.0                   | キャリパー形か / 上<br>位は外反し広がり、<br>下位はほぼ直立する<br>胴部                                   | 地文は単節RL縦位 / 上部に2本の隆帯が横位に巡る / 2本1対の直状の隆帯が垂下 (4単位残存)、隆帯間に2本1対の隆帯による渦巻文、1本の隆帯を波状に垂下等の文様を貼付 / 隆帯断面カマボコ状   | 黒褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量  | 加曾利<br>E1c式 |
| 第33図4<br>図版39-4 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>30% | 高 [17.2]<br>口 (34.8)<br>厚 1.2       | 中位で括れ下位で内<br>湾する胴部 / 外傾す<br>る口縁部  | 地文は縦位条線文 / 1本の隆帯による楕円状の区画、区画内斜位沈線を充填 / 胴部括れ部に3本の沈線が巡る / 口縁部区画間に1本の垂下する沈線をU字状に囲った文様施文、下部には反転した文様施文 / 隆帯断面カマボコ状   | 黒褐 / 砂粒・<br>礫中量        | 加曾利<br>E2c式 |

第17表 105号住居跡出土土器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                    | 器形・形態                                | 文様・特徴  | 胎土                  | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|---------------------|-------------------------------|--------------------------------------|--|---------------------|-------------|
| 第34図5<br>図版39-5   | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>20% | 高 [19.2]<br>口 (34.0)<br>厚 0.9 | 上位が括れ下位が内湾し広がる胴部 / やや内湾しながら外傾し広がる口縁部 | 地文は縦位条線文 / 口縁部と括れ部のやや下に米粒状の刺突を交互に施した蛇行文状の文様 / 3本1対の沈線によるやや波状に近い連弧文   | 灰黄褐 / 砂粒少量、礫・橙の粒中量  | 連弧文<br>2b段階 |
| 第34図6<br>図版39-6   | 深鉢       | 口縁部付近<br>破片         | 厚 0.9                         | 下位は内湾し上位は外傾する口縁部付近                   | 隆帯をU字状に貼付、弧状の部分から左右に伸びる / U字状隆帯の左右に平行沈線を波状に複数施文 / U字状の隆帯内側に角押文が1列沿う / 隆帯断面三角状、隆帯脇などで付けて貼付  | 明赤褐 / 砂粒微量、礫中量、雲母多量 | 阿玉台<br>Ⅱ式   |
| 第34図7<br>図版39-7   | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.0                         | 先端がやや内湾する口縁部                         | 口縁部に中空の把手貼付 / 外面孔1つ、内面孔2つ / 押圧文を付した隆帯で加飾 / 一部の隆帯脇幅広角押文施文 / 内面の縁の一部に押圧文施文、隆帯断面台形状   | 暗褐 / 砂粒中量、礫微量       | 勝坂1<br>～2式  |
| 第34図8<br>図版39-8   | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.1                         | 外反する胴部                               | 押圧文を付した隆帯による渦巻文、渦巻文の中心は突起状 / 三叉文の周囲に押圧文充填、隆帯断面台形状、隆帯脇1本の単沈線が沿う   | 褐 / 砂粒・礫微量          | 勝坂3a<br>式   |
| 第34図9<br>図版39-9   | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.2                         | ほぼ直立する胴部                             | 単沈線による区画 / 縦位沈線に沿って蓮華文(温泉マーク文)が沿う / 中心に円形の窪みのある方形の文様   | 暗褐 / 砂粒少量、礫微量       | 勝坂3a<br>式   |
| 第34図10<br>図版39-10 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.2                         | 内湾する口縁部                              | 地文は捩糸L横位 / 隆帯による口縁部区画、上端1本、下端欠損 / 2本1対の隆帯による文様 / 隆帯断面カマボコ状・三角状   | 黒褐 / 砂粒中量、礫微量       | 加曾利<br>E1a式 |
| 第34図11<br>図版39-11 | 深鉢       | 口縁部付近<br>破片         | 厚 1.0                         | 内湾する口縁部付近                            | 沈線による渦巻文   | 褐 / 小礫少量、礫微量        | 加曾利<br>E1b式 |
| 第34図12<br>図版39-12 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.0                         | やや外傾する胴部                             | 地文は捩糸L縦位 / 1本の隆帯が波状に垂下 / 2本の隆帯が直状に垂下 / 隆帯断面カマボコ状   | 明褐～黒褐 / 砂粒少量、礫微量    | 加曾利<br>E1式  |
| 第34図13<br>図版39-13 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片    | 厚 1.0                         | 外傾しながら広がる胴部 / やや内湾し外傾する口縁部           | 地文は単節RL縦位 / 隆帯と先端に渦巻文を持つ沈線による口縁部区画、区画内縦位沈線を充填した楕円区画を複数施文 / 口縁部区画の接点には隆帯と沈線による渦巻文施文 / 胴部上位に横位沈線施文 / 105J-13、14は同一個体 / ピット内から出土                  | 明黄褐 / 砂粒・礫中量        | 加曾利<br>E2c式 |
| 第34図14<br>図版39-14 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片    | 厚 1.0                         | 外傾しながら広がる胴部 / やや内湾し外傾する口縁部           | 地文は単節RL縦位 / 隆帯と先端に渦巻文を持つ沈線による口縁部区画、区画内縦位沈線を充填した楕円区画施文 / 口縁部区画の接点には隆帯と沈線による渦巻文施文 / 105J-13、14は同一個体 / ピット内から出土                                   | 明黄褐 / 砂粒・礫中量        | 加曾利<br>E2c式 |
| 第34図15<br>図版39-15 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片    | 厚 1.0                         | 外傾しながら広がる胴部 / 内湾する口縁部                | 地文は複節LRL縦位 / 隆帯による口縁部区画 / 2本1対の直状の沈線が垂下 / 沈線間磨消 / 隆帯断面台形状  | 明黄褐 / 砂粒・礫少量        | 加曾利<br>E3a式 |
| 第34図16<br>図版39-16 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片    | 厚 1.1                         | 外傾する胴部 / やや内湾する口縁部 / 口唇部内側に肥厚        | 地文は沈線、口縁部区画内縦位施文、胴部矢羽根状施文 / 隆帯による口縁部区画 / 胴部に1本の沈線が波状に垂下、これを中心にして地文の沈線を矢羽根状に施文 / 口縁部区画の接点と思われる部分から2本以上の沈線が直状に垂下 / 隆帯断面台形状                       | 極暗赤褐 / 砂粒少量、礫微量     | 加曾利<br>E3a式 |
| 第34図17<br>図版39-17 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片    | 厚 0.9                         | 外傾する胴部 / 外傾しながら内湾する口縁部               | 地文は単節RL縦位施文 / 口縁部に橋状把手の痕跡あり、円形の孔あり / 口唇部に沈線施文、突起上面は渦巻文となる / 隆帯による口縁部区画、区画端に沈線による渦巻文 / 橋状把手部分、口縁部区画渦巻文部分から2本1対の直状の沈線が垂下 / 沈線間磨消 / 隆帯断面台形状～カマボコ状 | 黒褐 / 砂粒少量、礫微量       | 加曾利<br>E3b式 |
| 第34図18<br>図版39-18 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.2                         | やや外傾する胴部                             | 地文は単節LR縦位 / 2本1対の直状の沈線が垂下 / 沈線間磨消  | 暗灰黄 / 砂粒・礫微量        | 加曾利<br>E3式  |
| 第35図19<br>図版40-19 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.3                         | 外傾し内側に大きく肥厚する口縁部                     | 半截竹管状工具の腹面による重弧文と思われる / 口縁内側の肥厚部分にも重弧文施文 / 104-23と105-19は同一個体の可能性あり  | 暗褐 / 砂粒・礫少量         | 曾利Ⅱ<br>式    |
| 第35図20<br>図版40-20 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 0.9                         | 内湾する胴部                               | 地文は縦位条線文 / 2本の隆帯を弧状に貼付 / 紐状の隆帯を短く直状、蛇行するように貼付 / 隆帯断面カマボコ状、2本の隆帯は隆帯脇などで付け、紐状の隆帯は押し付けて貼付   | 褐～黒褐 / 砂粒・礫少量       | 曾利Ⅱ<br>式    |
| 第35図21<br>図版40-21 | 深鉢       | 頸部<br>破片            | 厚 0.8                         | 外傾しながら広がる頸部                          | 紐状の隆帯を横位波状に貼付 / 隆帯上部無文 / 隆帯下部横位単沈線充填 / 隆帯断面カマボコ状、押し付けて貼付   | 褐 / 砂粒・礫少量          | 曾利Ⅱ<br>式か   |
| 第35図22<br>図版40-22 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.0                         | 外傾する胴部                               | 1本の隆帯が波状に垂下 / 隆帯の左右で地文が異なる、右側条線縦位施文、左側単節RL縦位施文 / 縄文地文には左端に縦位沈線が見られる / 隆帯断面カマボコ状 / 地文→隆帯貼付 / 下側の破断面に黒色の付着物あり                                    | 明褐 / 砂粒微量、礫中量       | 曾利式<br>か    |

第17表 105号住居跡出土土器一覧2

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態       | 法量<br>(cm) | 器形・形態                  | 文様・特徴  | 胎土                             | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|------------------|------------|------------------------|--|--------------------------------|-------------|
| 第35図23<br>図版40-23 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片 | 厚1.2       | 外傾する胴部/外傾<br>する口縁部     | 地文は縦位条線文/口縁部に3本の沈線が巡る/1本の沈<br>線による横位波状文、渦巻文/円形の押圧文が縦位に3つ、<br>単独で1つ/3本の沈線による連弧文 | 灰黄褐/砂<br>粒微量、礫<br>少量、橙の<br>粒中量 | 連弧文<br>2b段階 |
| 第35図24<br>図版40-24 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚0.8       | 外傾しながら上部が<br>やや内湾する口縁部 | 地文は燃糸L縦位/口縁部に3本の沈線が巡る/3本の沈<br>線による連弧文、沈線間磨消                                    | にぶい褐/<br>砂粒、礫微<br>量            | 連弧文<br>3a段階 |

第17表 105号住居跡出土土器一覧3

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土                       | 時期<br>型式           |
|-------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|--------------------------|--------------------|
| 第35図25<br>図版40-25 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 7.5/5.4/1.1     | 76        | 方形/挾部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/口縁部片利用/地<br>文は燃糸L縦位、口縁部に施文/波状口縁/口縁に沿って隆帯<br>貼付/波頂部から隆帯が蛇行して垂下/隆帯断面角状、押し付<br>けて貼付 | にぶい黄橙/砂<br>粒微量、礫少<br>量   | 勝坂3b<br>新式         |
| 第35図26<br>図版40-26 | 土器<br>片鉢 | 95%      | 6.0/4.7/1.0     | 44.9      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/地文は<br>燃糸L縦位、隆帯下部に施文/横位1本の隆帯貼付/隆帯断面<br>カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付                    | 暗褐/砂粒少量、<br>礫微量          | 勝坂3<br>～加曾利<br>E1式 |
| 第35図27<br>図版40-27 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 3.2/3.2/1.0     | 13.8      | 円形/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/地文は単<br>節RL  | 褐/砂粒少量、<br>礫微量           | 中期中葉<br>～後葉        |
| 第35図28<br>図版40-28 | 土器<br>片鉢 | 95%      | 4.1/4.3/1.2     | 31.4      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/無文   | 暗褐/砂粒・礫<br>少量            | 中期中葉<br>～後葉        |
| 第35図29<br>図版40-29 | 土器<br>片鉢 | 70%      | 5.7/4.4/1.4     | 40.8      | 楕円形/挾部は1ヶ所残存/周縁の磨耗は未発達/口縁部片利<br>用/無文   | 褐灰/砂粒少量、<br>礫中量          | 中期中葉<br>～後葉        |
| 第35図30<br>図版40-30 | 土器<br>片鉢 | 30%      | [2.5]/[4.0]/1.0 | 14.9      | 方形か/挾部は1ヶ所残存/周縁の磨耗は未発達/胴部片利<br>用/無文  | にぶい黄橙～黒<br>/砂粒少量、礫<br>微量 | 中期中葉<br>～後葉        |

第18表 105号住居跡出土土製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種   | 石材   | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴  |
|-------------------|------|------|--------|-------|--------|-------|---|
| 第35図31<br>図版40-31 | 石鏃   | 黒曜石  | 16.6   | 10.8  | 3.6    | 0.5   | 凹基無茎/側縁は直線状/抉りは浅く弧状   |
| 第35図32<br>図版40-32 | 石鏃   | 黒曜石  | 13.3   | 15.0  | 2.6    | 0.5   | 凹基無茎/側縁は直線状/抉りは浅く弧状/先端部と右脚部欠<br>損   |
| 第35図33<br>図版40-33 | 石鏃   | チャート | 23.0   | 18.4  | 3.8    | 1.4   | 凹基無茎/側縁は直線状で鋸歯縁/抉りは深く直線状/先端部<br>一部欠損  |
| 第35図34<br>図版40-34 | 石鏃   | 黒曜石  | 18.2   | 20.8  | 3.9    | 1.1   | 凹基無茎/側縁は直線状/抉りは深く弧状/先端部と左脚部欠<br>損   |
| 第35図35<br>図版40-35 | 打製石斧 | 閃緑岩  | 65.1   | 45.5  | 24.1   | 109.6 | 短冊形/磨製石斧の転用/刃部は折れて欠損している/両側縁<br>に敲打剥離が認められる/両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認<br>められ、面状になっている  |
| 第35図36<br>図版40-36 | 打製石斧 | 片状砂岩 | 99.6   | 42.2  | 23.8   | 118.3 | 短冊形/両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の下部の稜上<br>に潰れが認められ、一部は面状になっている/右側縁の潰れは<br>ほとんど見られない   |
| 第35図37<br>図版40-37 | 打製石斧 | 頁岩   | 99.2   | 50.0  | 32.9   | 203.1 | 短冊形/刃部は折れて欠損している/表面の一部に原礫面が残<br>存し、両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁のほぼ全面の稜<br>上に潰れが認められ、中央部が面状になっている/右側縁もほ<br>ぼ全面の稜上に潰れが認められ、面状になっている |
| 第35図38<br>図版40-38 | 打製石斧 | 頁岩   | 78.1   | 45.3  | 14.2   | 48.8  | 短冊形/基部は一部折れて欠損している/表面は原礫面が広く<br>残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の中央部の稜<br>上に潰れが認められる  |
| 第35図39<br>図版40-39 | 打製石斧 | 砂岩   | 100.2  | 48.4  | 25.4   | 154.5 | 撥形/刃部は折れて欠損している/表面は原礫面が広く残存し、<br>両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁のほぼ全面の稜上に潰<br>れが認められ、中央部が面状になっている                                    |
| 第35図40<br>図版40-40 | 打製石斧 | 緑色片岩 | 94.9   | 42.0  | 15.6   | 74.3  | 撥形/基部は一部折れて欠損している/表面の刃部は磨滅して<br>いる/両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の潰れはほとん<br>ど見られない/右側縁は中央部の稜上に局所的に潰れが僅かに<br>認められる                   |
| 第36図41<br>図版40-41 | 打製石斧 | 頁岩   | 91.7   | 45.9  | 16.2   | 82.6  | 撥形/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認め<br>られる/左側縁の上部から中央部にかけての稜上に局所的に潰<br>れが僅かに認められる/右側縁は中央部の稜上に潰れが僅かに<br>認められる                    |

第19表 105号住居跡出土土器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種         | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴  |
|-------------------|------------|---------|--------|-------|--------|--------|---|
| 第36図42<br>図版41-42 | 打製石斧       | 砂岩      | 118.4  | 49.8  | 23.1   | 151.4  | 撥形 / 基部は一部折れて欠損している / 表面刃部付近に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる / 右側縁は上部と下部の稜上に局所的に潰れが僅かに認められる |
| 第36図43<br>図版41-43 | 打製石斧       | 砂岩      | 62.2   | 34.4  | 18.4   | 45.1   | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる  |
| 第36図44<br>図版41-44 | 打製石斧       | 絹雲母片岩   | 70.4   | 56.6  | 14.7   | 91.8   | 平面形状は不明 / 刃部のみ残存 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない   |
| 第36図45<br>図版41-45 | 打製石斧       | ホルンフェルス | 96.1   | 50.5  | 26.0   | 179.9  | 平面形状は不明 / 体部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、面状になっている  |
| 第36図46<br>図版41-46 | 二次加工剥片     | チャート    | 35.1   | 25.8  | 7.1    | 6.6    | 背面側右側縁に連続的な二次的剥離が認められる  |
| 第36図47<br>図版41-47 | 二次加工剥片     | 黒曜石     | 36.3   | 22.1  | 8.2    | 3.9    | 背面側末端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第36図48<br>図版41-48 | 二次加工剥片     | 黒曜石     | 19.9   | 14.9  | 8.3    | 2.7    | 表面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第36図49<br>図版41-49 | 二次加工剥片     | 黒曜石     | 16.9   | 16.9  | 6.1    | 1.2    | 主要剥離面側打点付近に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第36図50<br>図版41-50 | 不規則剥離のある剥片 | 黒曜石     | 21.0   | 31.2  | 11.7   | 5.5    | 主要剥離面側両側縁に不規則剥離が認められる   |
| 第36図51<br>図版41-51 | 磨+凹+敲石     | 閃緑岩     | 77.4   | 47.7  | 35.7   | 255.5  | 表裏面全面に磨痕 / 敲打による浅い凹みが表裏面に1ヶ所ずつみられ、磨痕の前段階 / 細かい敲打痕が周縁にみられる   |
| 第37図52<br>図版41-52 | 石皿         | 安山岩     | 207.4  | 177.3 | 42.6   | 2428.5 | 扁平石皿 / 表裏面ほぼ全面に平坦な使用面 / 表面に1ヶ所、裏面に1ヶ所凹み   |
| 第37図53<br>図版41-53 | 石皿         | 緑泥片岩    | 113.4  | 55.8  | 26.3   | 198.5  | 表面の使用面の消耗が激しく、中央付近が薄くなっている  |
| 第37図54<br>図版41-54 | 砥石         | 緑泥片岩    | 96.4   | 70.3  | 23.2   | 143.7  | 表面に4ヶ所、裏面に1ヶ所溝が認められる / 溝の断面は「V」字に近い形状である  |

第19表 105号住居跡出土石器一覧2

## 106号住居跡

## 遺 構 (第38・39図)

[位 置] (B-4・5) グリッド。

[検出状況] 12 Mに切られる。

[構 造] 平面形：ほぼ円形。主軸方位：N-S。P9とP13、P1とP19のそれぞれの間を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸残存長590cm / 短軸510cm / 深さ27～45cm。壁溝：1条検出されたが、北側から東側にかけては確認できなかった。上幅12～30cm / 下幅3～17cm / 床面からの深さ1～7cm。壁：約48～69°でやや緩やかに立ち上がる。床面：やや凹凸がある。直床である。炉：中央に埋糞炉、その北東に地床炉の2基がある。長軸58・47cm / 短軸56・45cm / 床面からの深さ18・3cm。埋糞：検出されなかった。柱穴：22本検出した。P1、P9、P14・15、P19を主柱穴ととらえ、4本柱建物を想定するが、P2、P3、P5、P12も主柱穴の可能性があり、炉が2基検出されたことと合わせ、拡張ないし建替の可能性もある。

[覆 土] 6層に分層できた。

[遺 物] 土器、土製品、石器が出土した。炉体土器(第40図1)が出土している。

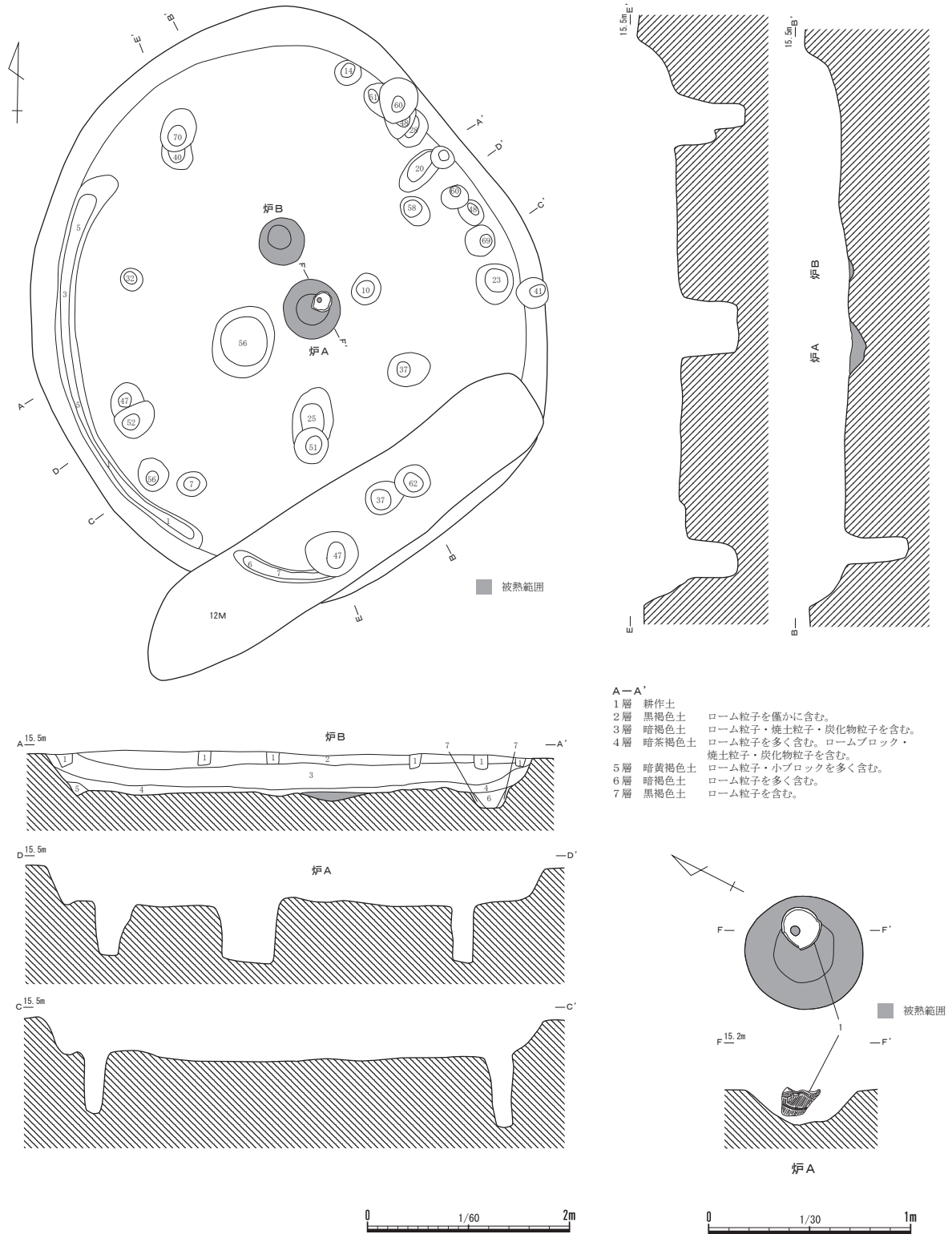
[時 期] 中期後葉期(連弧文3a段階期)。

## 遺 物 (第40～44図、図版42～45-1、第20～22表)

[土 器] (第40図・第41図3～33、図版42・43、第20表)

復元個体2点、破片資料21点を図示した。1は炉体土器で連弧文3a段階の深鉢形土器である。沈





第38図 106号住居跡・炉 (1/60・1/30)

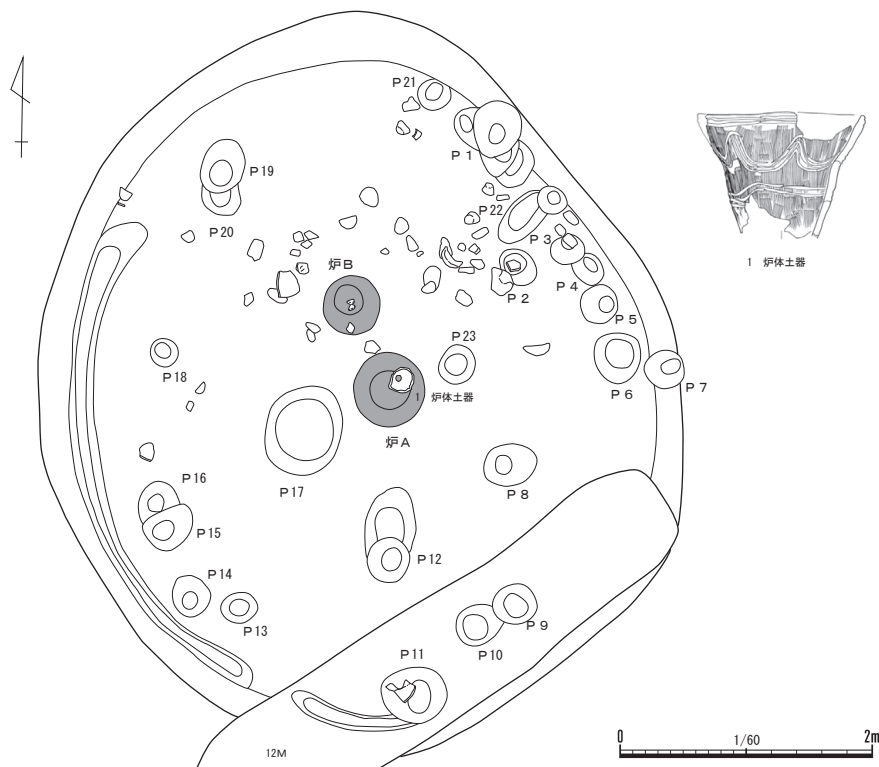
線による連弧文はやや形が崩れている。2は加曾利E3a式の深鉢形土器である。口縁部区画内には沈線による渦巻文、円形刺突文を施文する。3・4は阿玉台式、5～7は勝坂式、8は勝坂3式～加曾利E式、9～17は加曾利E式、18～20は曾利式、21・22は連弧文土器の深鉢形土器である。23は勝坂式の浅鉢形土器である。

[土製品] (第41図24～27、図版43、第21表)

4点を図示した。24～27は土器片錘である。

[石器] (第42～44図、図版43・44・45-1、第22表)

17点を図示した。28は石鏃である。29は楔形石器である。30～35は打製石斧である。36・37は二次加工剥片である。38は磨石である。39は磨+凹+敲石である。40はスタンプ形石器である。41～43は石皿である。44は砥石である。



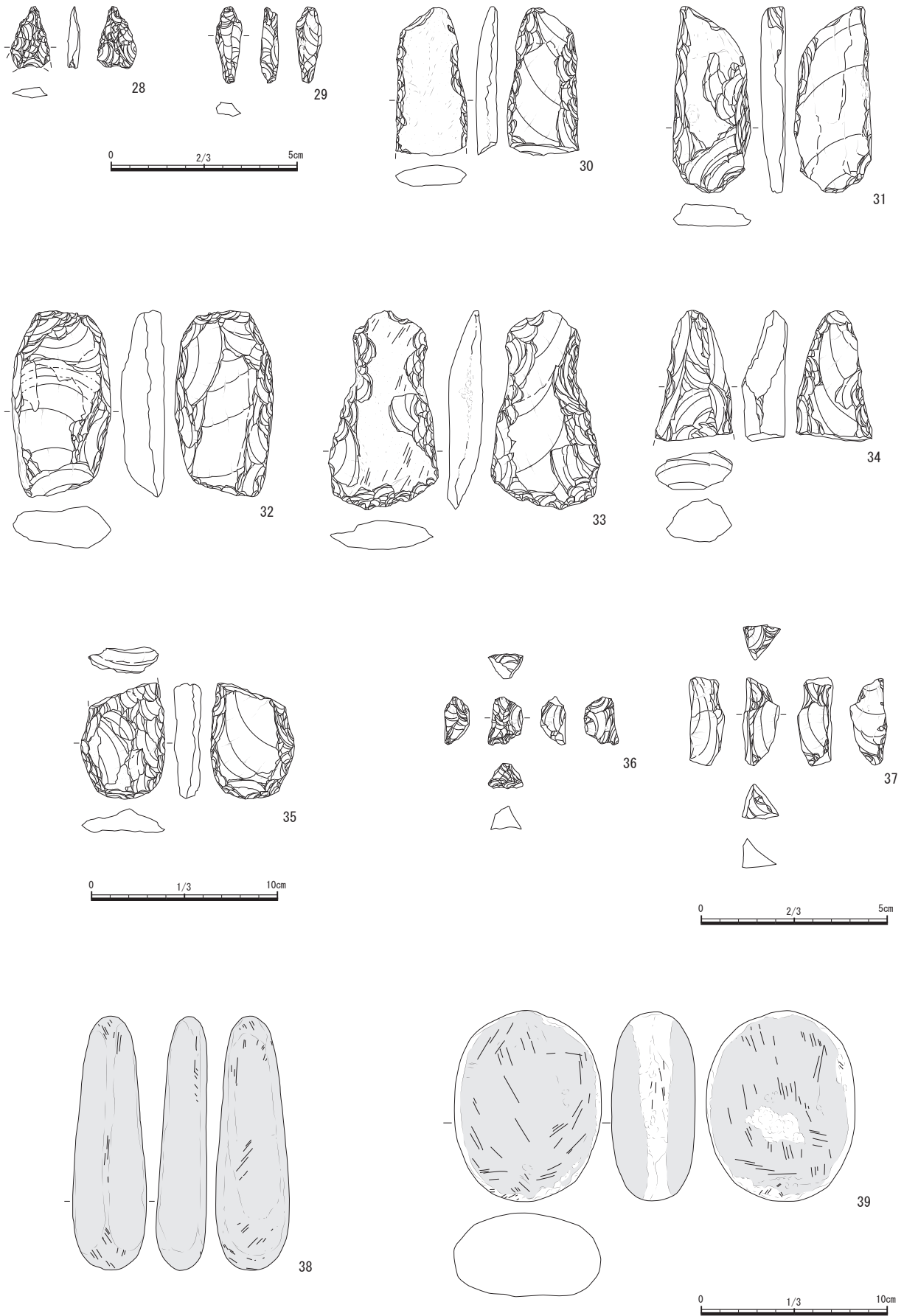
第39図 106号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第40図 106号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)

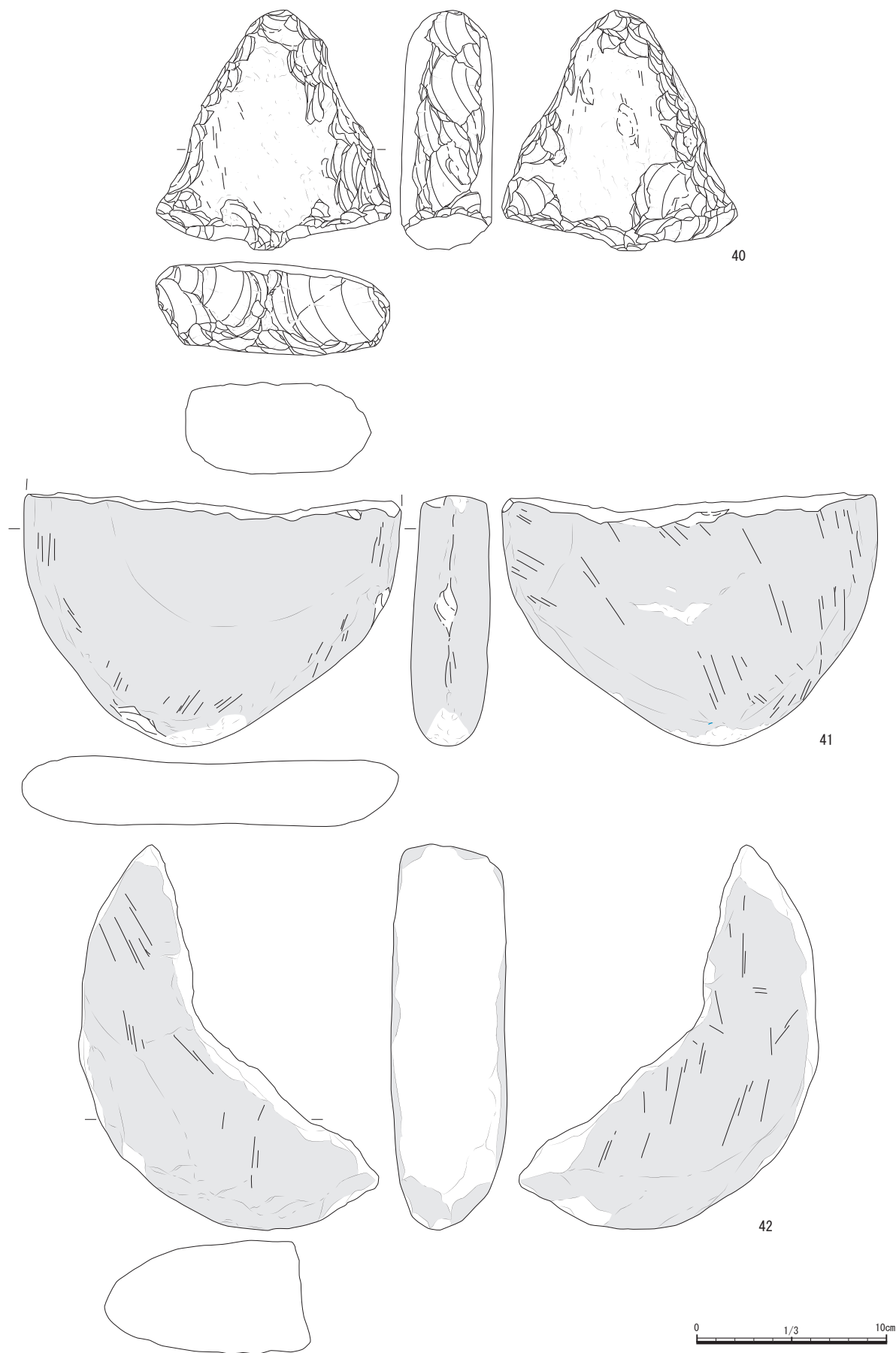


第41図 106号住居跡出土遺物2 (1/3)

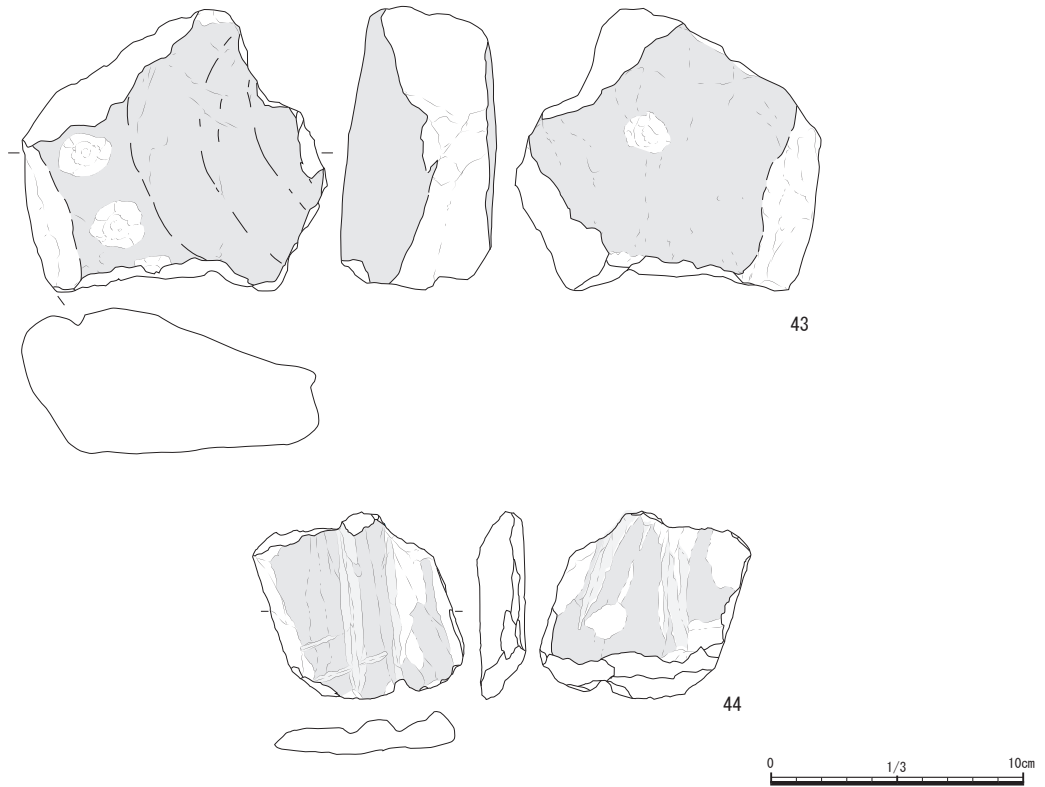


第42図 106号住居跡出土遺物3 (1/3・2/3)





第43図 106号住居跡出土遺物4 (1/3)



第44図 106号住居跡出土遺物5 (1/3)

| 挿図番号<br>図版番号    | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                    | 器形・形態  | 文様・特徴   | 胎土  | 時期<br>型式                    |
|-----------------|----------|---------------------|-------------------------------|--|---|---|-----------------------------|
| 第40図1<br>図版42-1 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>60% | 高 [16.2]<br>口 (22.0)<br>厚 1.0 | 外傾して広がりなが<br>ら立ち上がり上部が<br>やや括れる胴部 / 外<br>傾しながら広がる口<br>縁部 | 地文は縦位条線文、1単位が幅 1.5cm 程 10条見られる部分<br>あり / 口縁部上端、胴部括れ部に 2本 1対の沈線が横走 / 3<br>本 1対の沈線による連弧文 / 沈線間の地文が一部消される /<br>炉体土器                              | 赤褐 / 砂粒・<br>礫中量                           | 連弧文<br>3a 段階                |
| 第40図2<br>図版42-2 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>25% | 高 [19.2]<br>口 (28.0)<br>厚 1.3 | 外傾し広がる胴部 /<br>外傾し口唇部がやや<br>内湾する口縁部                       | 地文は 1段 3条 LR 縦位 / 隆帯による口縁部区画 / 区画内沈<br>線による渦巻文・円形刺突文・縄文施文 / 胴部には 1本の沈<br>線が直状に垂下、/ 2本 1対の直状の沈線が垂下し沈線間無<br>文が見られる、隆帯断面カマボコ状 / 外面の剥落が多く見ら<br>れる | にぶい黄橙<br>～褐灰 / 砂<br>粒少量、礫<br>微量、橙の<br>粒少量 | 加曾利<br>E3a 式                |
| 第41図3<br>図版42-3 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                         | 内湾する口縁部、先<br>端は外傾  | 口縁部に半円状の隆帯を突起状に貼付 / 先端に丸みを帯びた<br>工具による角押文が 1列突起に沿う、突起の先端からは縦位<br>に垂下  | 明褐 / 砂粒・<br>礫少量、雲<br>母中量                  | 阿玉台<br>I a 式                |
| 第41図4<br>図版42-4 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                         | ほぼ直立する口縁か  | 波状口縁の先端 / 縁に背の高い隆帯を貼付、1本は垂下 / 隆<br>帯に平行沈線に沿う / 縁に貼付した隆帯上に単節 RL 施文、<br>区画内にも僅かに痕跡が見られる / 隆帯断面背の高い三角状<br>/ 床面から出土                               | 橙 / 砂粒微<br>量・礫中量、<br>雲母多量                 | 阿玉台<br>IV 式                 |
| 第41図5<br>図版42-5 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片    | 厚 1.1                         | 外反する胴部 / 内湾<br>する口縁部                                     | 口縁部無文 / 押圧文を付した隆帯によって区画 / 区画文内三<br>叉文・周囲に押圧文充填 / 隆帯断面台形状、隆帯脇 1本の単<br>沈線に沿う、一部なで付けて貼付 / ピット内から出土   | 明褐 / 砂粒・<br>礫少量                           | 勝坂 3a<br>式                  |
| 第41図6<br>図版42-6 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.3                         | ほぼ直立する胴部   | 隆帯を直状に貼付 / 隆帯による楕円状の文様か (表面剥落の<br>ため不明瞭) / 沈線による文様 / 隆帯断面台形状、隆帯脇 1<br>本の単沈線に沿う  | 橙～黒褐 /<br>砂粒・礫中<br>量                      | 勝坂 3b<br>式                  |
| 第41図7<br>図版42-7 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.1                         | やや外傾する胴部   | 押圧文を付した隆帯を波状に貼付 / 隆帯間に押圧文・沈線<br>を施文 / 隆帯断面台形 / 隆帯脇なで付け一部 1本の単沈線が沿<br>う  | 橙 / 砂粒・<br>礫微量                            | 勝坂 3<br>式                   |
| 第41図8<br>図版42-8 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                         | ほぼ直立する胴部 /<br>やや外傾する口縁部                                  | 地文は撚糸 L 縦位 / 口縁部に突起あり / 突起下位に半截竹管<br>状工具の腹面による直状の平行沈線 2本施文  | 暗褐 / 砂粒・<br>礫少量                           | 勝坂 3b<br>新～加<br>曾利<br>E1a 式 |

第20表 106号住居跡出土土器一覧1

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態       | 法量<br>(cm) | 器形・形態                                      | 文様・特徴   | 胎土                  | 時期<br>型式          |
|-------------------|----------|------------------|------------|--|---|---------------------|-------------------|
| 第41図9<br>図版42-9   | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.2       | 外傾する胴部                                     | 地文は燃糸L縦位/1本の隆帯が波状に垂下/隆帯断面カマボコ状  | 褐/砂粒少量、礫中量          | 加曾利<br>E1式        |
| 第41図10<br>図版42-10 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.0       | 内湾する口縁部                                    | 地文は単節LR横位/口縁部は隆帯によって画す、上端1本、下端欠損/隆帯と沈線による渦巻文、渦巻文からは2本の隆帯が伸びる/隆帯断面カマボコ状/床面から出土                             | 明褐/砂粒・礫少量           | 加曾利<br>E1c式       |
| 第41図11<br>図版42-11 | 深鉢       | 口縁部~<br>胴部<br>破片 | 厚0.9       | 外傾しながら広がる<br>胴部/内面する口縁部                    | 地文は単節RL縦位/口縁部は上端1本、下端1本の隆帯で画す/下端の隆帯上には沈線を付し渦巻文状部分は突起状に成形/渦巻文から2本1対の直状の隆帯が垂下/頸部無文帯を持たないが、隆帯が垂下し隆帯の断面は角状を呈す | 暗褐/砂粒・礫少量           | 加曾利<br>E1~2<br>式  |
| 第41図12<br>図版42-12 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.3       | 内湾する口縁部                                    | 地文は単節RL横位/口縁部は上端1本、下端1本の隆帯で画す/区画内沈線と隆帯による渦巻文施文/隆帯断面角状・カマボコ状   | 暗褐/砂粒少量、礫微量         | 加曾利<br>E2a~<br>b式 |
| 第41図13<br>図版42-13 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.1       | 内湾する口縁部                                    | 地文は縦位条線文/口縁部は上端1本、下端1本の隆帯で画す/沈線による渦巻文/隆帯断面角状~カマボコ状  | 暗褐/砂粒微量、礫中量         | 加曾利<br>E2c式       |
| 第41図14<br>図版42-14 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.3       | 外傾する胴部                                     | 地文は単節RL縦位/3本1対の沈線が直状に垂下   | にぶい黄褐/砂粒微量、礫少量、雲母微量 | 加曾利<br>E2式        |
| 第41図15<br>図版42-15 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚0.9       | やや外傾する口縁部<br>/口唇部は内側に肥厚                    | 口縁部に2本の沈線が巡る/縦位、斜位の沈線施文/曾利式の影響/106-15と106-16は同一個体   | 明褐/砂粒・礫少量/橙の粒多量     | 加曾利<br>E3b式       |
| 第41図16<br>図版42-16 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.0       | やや外反して立ち上<br>がる胴部                          | 3本1対の沈線が直状に垂下/沈線間を斜位沈線が充填/曾利式の影響/106-15と106-16は同一個体   | 明褐/砂粒・礫少量/橙の粒多量     | 加曾利<br>E3b式       |
| 第41図17<br>図版42-17 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.4       | 外反する胴部                                     | 地文は単節RL縦位/1本の沈線が直状に垂下、沈線右側は縄文磨消   | 明褐/砂粒微量、礫少量         | 加曾利<br>E3式        |
| 第41図18<br>図版42-18 | 深鉢       | 口縁部~<br>頸部<br>破片 | 厚1.0       | 括れる頸部/やや内<br>湾しながら外傾する<br>口縁部/口唇部内側に<br>肥厚 | 地文は単節RL縦位/口縁部無文/頸部に1本の紐状の隆帯が波状に巡る/隆帯断面カマボコ状、押し付けて貼付   | 暗褐/砂粒少量、礫微量         | 曾利II<br>式         |
| 第41図19<br>図版42-19 | 深鉢       | 口縁部付<br>近<br>破片  | 厚1.2       | 外傾する口縁部付近                                  | 隆帯が横位に巡る/1本の隆帯が波状に垂下/隆帯の周囲に沈線充填/波状の隆帯貼付→沈線充填/隆帯断面カマボコ状  | 黄褐/砂粒・礫微量           | 曾利III<br>式        |
| 第41図20<br>図版42-20 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.3       | 外傾する胴部                                     | 1本の隆帯と平行沈線が波状に垂下/隆帯、沈線間を斜位の沈線が充填、矢羽根状/隆帯断面三角状/波状の隆帯と沈線施文→斜位の沈線充填/破断面に黒色の付着物あり                             | にぶい黄橙/砂粒・礫微量        | 曾利III<br>式        |
| 第41図21<br>図版43-21 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.1       | やや内湾しながら外<br>傾する口縁部                        | 地文は燃糸L縦位/口縁部に3本の沈線が巡る・沈線間に半截竹管状工具の先端を用いた円形刺突文を交互に施文/2本の沈線による連弧文   | 黒褐/砂粒・礫微量           | 連弧文<br>2b段階       |
| 第41図22<br>図版43-22 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚0.9       | 外傾する口縁部/先<br>端を内側に折り返し<br>内面が肥厚            | 地文は縦位条線文、口縁部に施文/口縁部に1本の沈線が巡る/2本1対の沈線による連弧文  | 黒褐/砂粒少量、礫中量         | 連弧文<br>2段階        |
| 第41図23<br>図版43-23 | 浅鉢       | 口縁部~<br>体部<br>破片 | 厚1.2       | 内湾する口縁部~体<br>部                             | 屈折部に押圧文施文/沈線による文様/体部無文/表面に剥落が多い   | 橙~暗褐/砂粒・礫中量         | 勝坂3b<br>式         |

第20表 106号住居跡出土土器一覧2

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土             | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|----------------|-------------|
| 第41図24<br>図版43-24 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 7.5/5.2/0.9     | 55.4      | 不整形/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/押圧文を付した隆帯による区画、隆帯脇1本の単沈線が沿う | にぶい黄橙/砂粒中量、礫微量 | 勝坂3b<br>式   |
| 第41図25<br>図版43-25 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.8/3.3/1.3     | 30.2      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/地文は単節RL                     | にぶい黄橙/砂粒多量、礫微量 | 中期中葉<br>~後葉 |
| 第41図26<br>図版43-26 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.3/4.7/1.1     | 29.7      | 方形/挾部は2ヶ所、上部の挾部は不明瞭、欠けたものか/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文          | 赤褐/砂粒少量、礫微量    | 中期中葉<br>~後葉 |
| 第41図27<br>図版43-27 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 3.5/3.4/1.1     | 18.5      | 楕円形か/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文                         | 暗褐/砂粒少量、礫微量    | 中期中葉<br>~後葉 |

第21表 106号住居跡出土土製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号        | 器種      | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴   |
|---------------------|---------|---------|--------|-------|--------|--------|--|
| 第42図28<br>図版43-28   | 石鏃      | 黒曜石     | 16.8   | 10.8  | 3.4    | 0.5    | 凹基無茎 / 側縁は直線状 / 袂りは弧状 / 両脚部欠損  |
| 第42図29<br>図版43-29   | 楔形石器    | 黒曜石     | 20.7   | 7.0   | 5.1    | 0.7    | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第42図30<br>図版43-30   | 打製石斧    | 砂岩      | 80.6   | 38.9  | 11.3   | 51.3   | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                        |
| 第42図31<br>図版43-31   | 打製石斧    | 緑泥片岩    | 100.1  | 42.1  | 13.6   | 79.3   | 短冊形 / 刃部は一部折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の下部の稜上に潰れが認められる / 右側縁は潰れはほとんど見られない |
| 第42図32<br>図版43-32   | 打製石斧    | 緑泥片岩    | 100.7  | 53.3  | 22.9   | 173.6  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の稜上に局所的に潰れが認められる                                  |
| 第42図33<br>図版43-33   | 打製石斧    | 砂岩      | 108.3  | 59.6  | 19.0   | 122.9  | 撥形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが認められる                                     |
| 第42図34<br>図版43-34   | 打製石斧    | ホルンフェルス | 71.8   | 42.2  | 23.2   | 76.4   | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の稜上に局所的に潰れが認められる                                    |
| 第42図35<br>図版43-35   | 打製石斧    | 砂岩      | 61.7   | 45.0  | 14.5   | 46.0   | 平面形状は不明 / 刃部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                                       |
| 第42図36<br>図版43-36   | 二次加工剥片  | 黒曜石     | 13.6   | 9.0   | 6.8    | 0.8    | 表面側末端に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第42図37<br>図版43-37   | 二次加工剥片  | 黒曜石     | 23.1   | 10.9  | 8.1    | 1.9    | 背面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第42図38<br>図版43-38   | 磨石      | 安山岩     | 135.1  | 40.0  | 27.4   | 208.3  | 裏面に磨痕  |
| 第42図39<br>図版43-39   | 磨+凹+敲石  | 閃緑岩     | 102.1  | 79.8  | 46.2   | 592.4  | 表裏面全面に磨痕 / 敲打による浅い凹みに裏面に1ヶ所みられ、磨痕の後段階 / 細かい敲打痕が周縁にみられる                                     |
| 第43図40<br>図版44-40   | スタンプ形石器 | 砂岩      | 123.2  | 122.7 | 46.1   | 956.4  | 分割した礫を素材としており、作業面である割面およびその周辺には剥片剥離が認められる / 同じく両側縁も剥片剥離によって調整されている                         |
| 第43図41<br>図版44-41   | 石皿      | 閃緑岩     | 129.4  | 198.9 | 37.6   | 1682.3 | 扁平石皿 / 表裏面ほぼ全面に平坦な使用面  |
| 第43図42<br>図版44-42   | 石皿      | 閃緑岩     | 203.9  | 158.7 | 61.1   | 1774.4 | 扁平石皿 / 表裏面ほぼ全面に平坦な使用面  |
| 第44図43<br>図版44-43   | 石皿      | 安山岩     | 112.5  | 126.3 | 60.1   | 975.0  | 表面の使用面の消耗が激しく、中央付近が薄くなっている / 表面に2ヶ所、裏面に1ヶ所凹み / 裏面の一部がすすに覆われており、被熱の可能性ある                    |
| 第44図44<br>図版45-1-44 | 砥石      | 緑泥片岩    | 74.2   | 75.1  | 16.7   | 133.8  | 表面に4ヶ所、裏面に複数ヶ所溝が認められる / 溝の多くは深く、断面は「V」字に近い形状である  |

第22表 106号住居跡出土石器一覧

## 107号住居跡

## 遺 構 (第45・46図)

[位 置] (B・C-3) グリッド。

[検出状況] 108 J を切り、104 J ・ 4 方に切られる。

[構 造] 平面形：円形を呈すと思われる。主軸方位：N-6°-W。P3とP5の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸残存長520cm / 短軸残存長510cm / 深さ34～53cm。壁溝：検出されなかった。壁：約52～69°でやや緩やかに立ち上がる。床面：やや凹凸がある。直床である。炉：石囲炉。こぶし大の石をやや楕円形に配置している。長軸60cm / 短軸59cm / 床面からの深さ26cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：7本検出した。P1、P2・3、P4、P5・6、P7を主柱穴ととらえ、5本柱建物を想定するが、P2、P6の存在や、P4・P5・P7が複数の柱穴の重複していることなどから、建替1回程度が想定される。

[覆 土] 4層に分層できた。

[遺 物] 土器、土製品、石器が出土した。深鉢形土器(第47図2)に103 J 出土の破片が遺構間接合している。

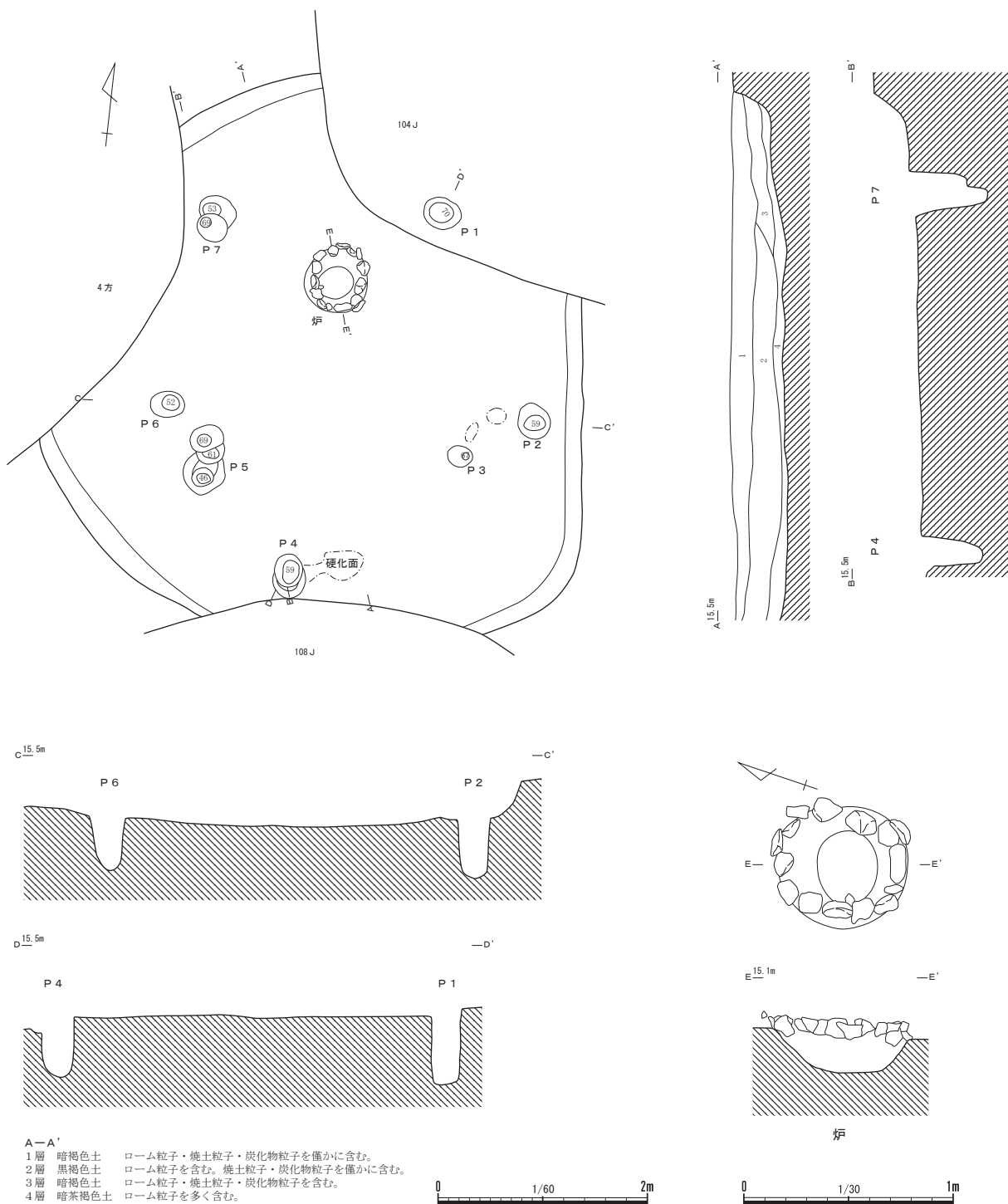
[時 期] 中期後葉期(加曾利E2 a式期)。



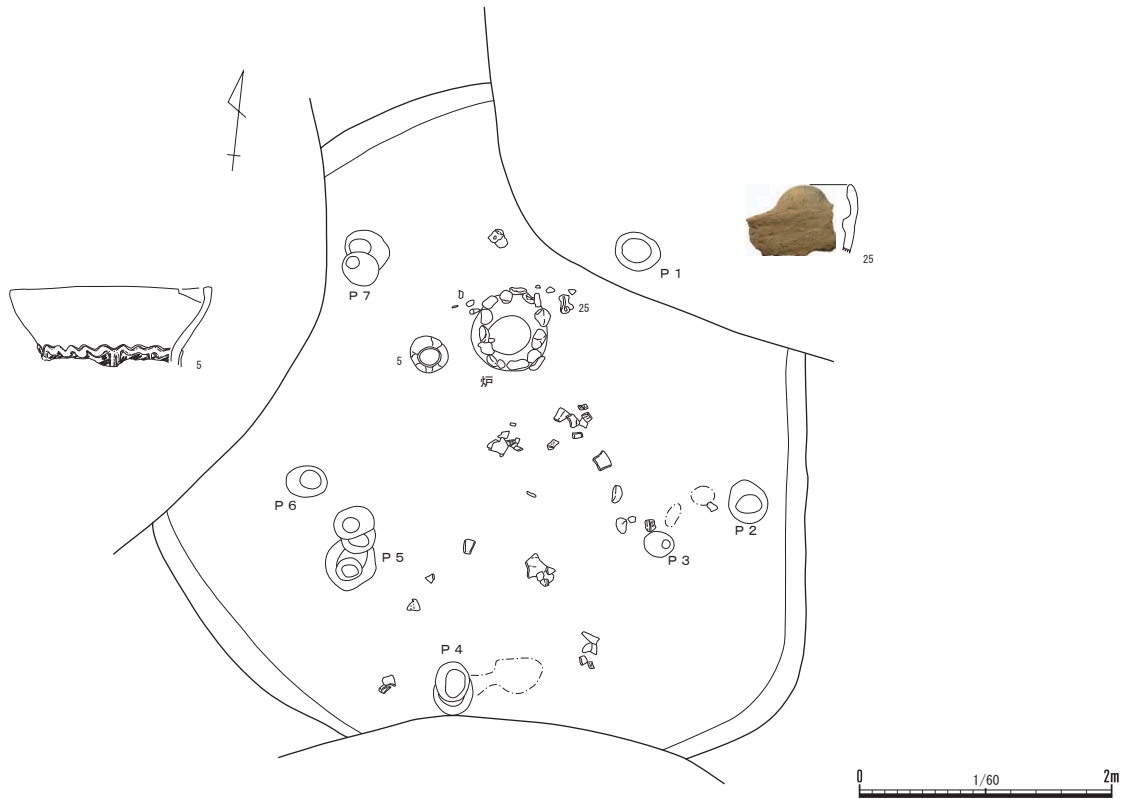
**遺物** (第47～51図、図版45-2～48、第23～25表)

**[土器]** (第47～49図・第50図26～28、図版45-2・46・47、第23表)

復元個体5点、破片資料23点を図示した。1は勝坂3b新式の深鉢形土器である。外傾して開く器形で、底部は屈折底部になると思われる。2は加曾利E1c式の深鉢形土器で、103Jから出土した破片と遺構間接合している。垂下する隆帯と沈線による渦巻文を施文する。3・4は加曾利E2a式の深鉢形土器である。3は口縁部区画内に沈線を矢羽根状に充填する。4は頸部が無文で、横走る直状の沈線、波状沈線を施文する。5は曾利Ⅱ式の深鉢形土器である。口縁部は無文で、頸部に紐状の隆帯



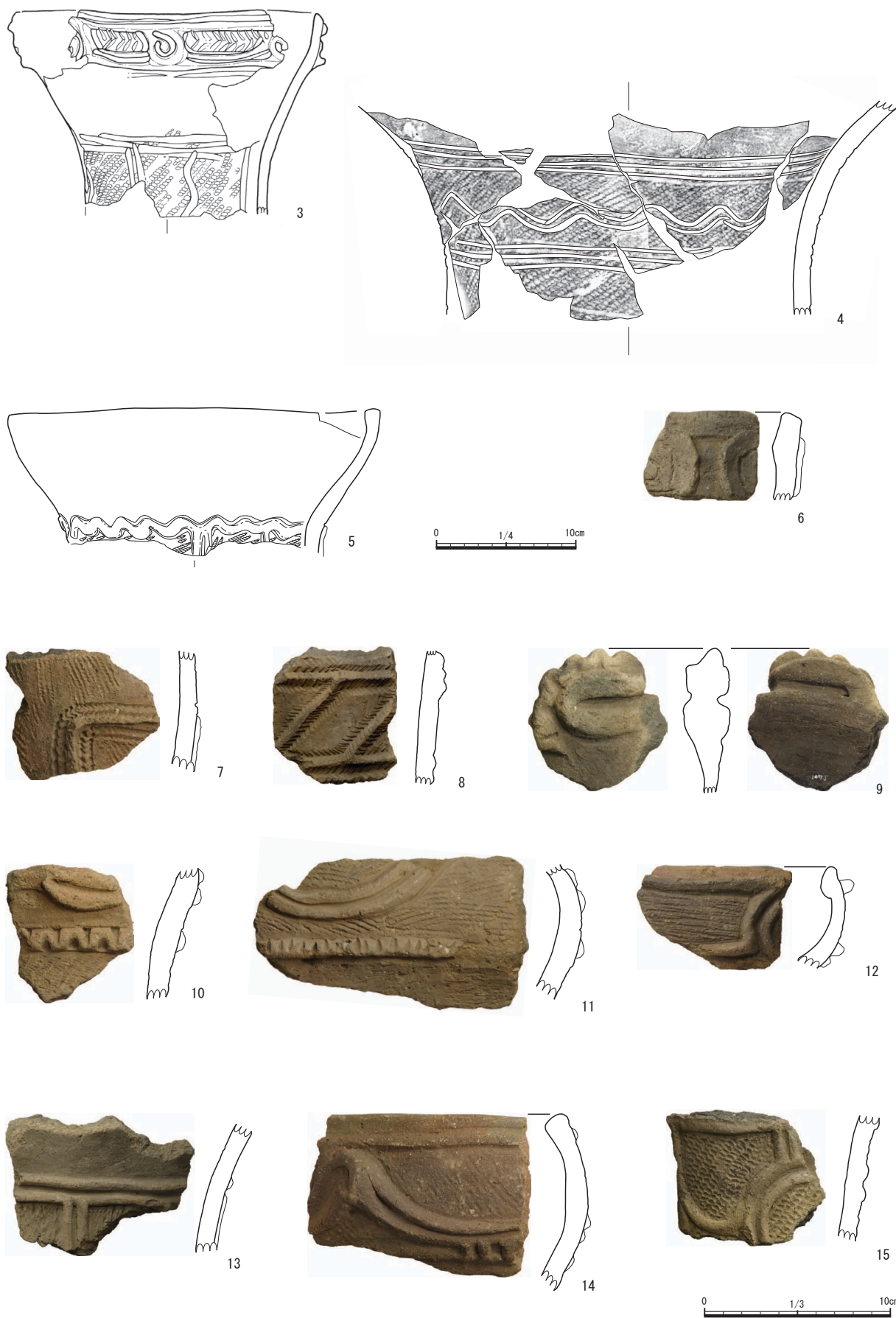
第45図 107号住居跡・炉 (1/60・1/30)



第46図 107号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第47図 107号住居跡出土遺物1 (1/4)

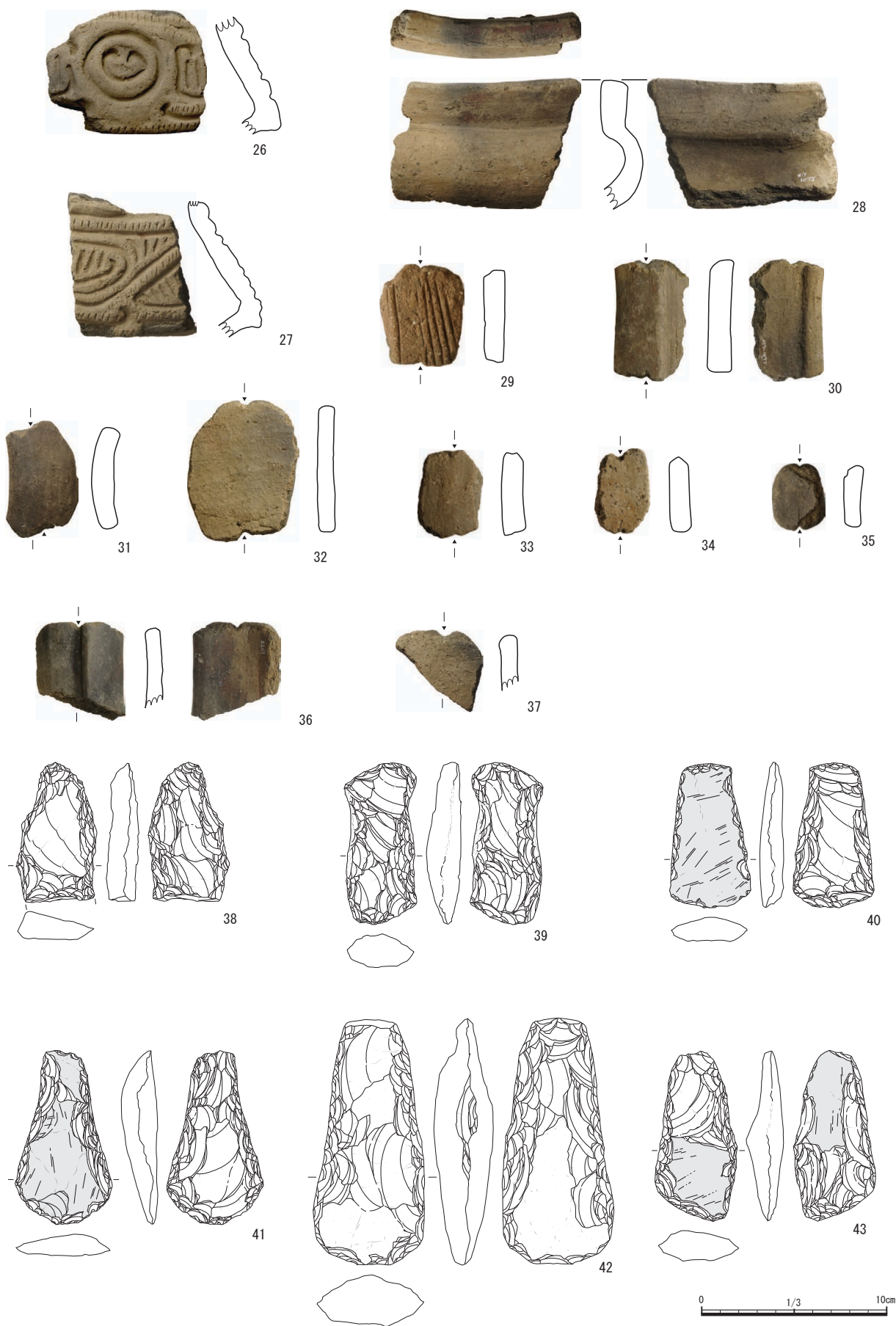


第48図 107号住居跡出土遺物2 (1/4・1/3)



第49図 107号住居跡出土遺物3 (1/3)





第50図 107号住居跡出土遺物4 (1/3)



第51図 107号住居跡出土遺物5（1／3）

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態                          | 法量<br>(cm)                                | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土                             | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|-------------------------------------|---|--|--|--------------------------------|-------------|
| 第47図1<br>図版45-2-1 | 深鉢       | 胴部<br>10%                           | 高 [18.6]<br>厚 1.4                         | 下位で括れ上位は<br>外傾しながら広がる<br>胴部  | 交互刺突文を付した隆帯が1本横位に巡る / 横位隆帯に直位の<br>隆帯が垂下、一部押圧文が見られる / 垂下する隆帯間に1本の<br>横位沈線 / 隆帯断面形状、隆帯脇単沈線が1本沿う、一部な<br>で付けて貼付  | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量          | 勝坂3b<br>新式  |
| 第47図2<br>図版45-2-2 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位、<br>胴部中位<br>～底部<br>30% | 高 (25.0)<br>口 (20.0)<br>底 (11.0)<br>厚 1.0 | 中位がやや内湾し<br>上位は広がって立<br>ち上がる胴部 / 外<br>湾して広がる口縁<br>部 / 平坦な底部                      | 地文は0段多条LR縦位 / 口縁部無文、頸部の横位1本の隆帯<br>で区画 / 横位隆帯下部縄文施文 / 胴部文様2本1対の隆帯が<br>垂下、2本1対の沈線によるJ字状の文様、2本1対の沈線が<br>垂下、反転く字状の隆帯 / 隆帯断面角状、横位隆帯脇などで付けて<br>貼付、胴部の文様隆帯脇単沈線が1本沿う / 地文→隆帯貼付、<br>頸部横位隆帯との前後関係は不明、107Jと遺構間接合  | 暗褐 / 砂<br>粒・礫少量                | 加曾利<br>E1c式 |
| 第48図3<br>図版45-2-3 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>50%                 | 高 [14.4]<br>口 (21.6)<br>厚 0.8             | キャリパー形 / 下<br>位は直線的に立ち<br>上がり上位はやや<br>外反する胴部 / 外<br>反して広がる頸部<br>/ 内湾して広がる<br>口縁部 | 地文は単節RL縦位 / 口縁部に隆帯による楕円状の区画が5単<br>位残存 / 区画の上下隆帯間に渦巻文を付して区切る区画(3単<br>位)、隆帯を楕円状に貼付し画する区画(2単位)あり / 区画内<br>に沈線を横位矢羽根状に充填、1区画は縦位沈線を充填 / 頸部<br>無文 / 頸部と胴部を横走する2本1対の沈線で画す、沈線よ<br>り上位に縄文がはみ出す部分が一部あり / 胴部には2本1対<br>の直位の沈線4単位、波状の沈線4単位が交互に垂下 / 隆帯<br>断面カマボコ状 / 3層から出土 | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量          | 加曾利<br>E2a式 |
| 第48図4<br>図版45-2-4 | 深鉢       | 頸部～胴<br>部中位<br>40%                  | 高 [15.0]<br>厚 1.1                         | 外反する胴部 / 強<br>く外反する頸部  | 地文は単節RL縦位 / 頸部無文 / 横位3本1対の沈線で頸部と<br>胴部を画す / 2本1対の沈線による横位の波状文 / 波状文下部<br>に3本1対の沈線が横位に巡る、下部にも横位1本の沈線が<br>僅かに見られる / 内面は胴部中位以下は黒色 / 非接合であるが<br>108Jから同一個体と思われる破片2点出土 / 3層から出土  | にぶい黄橙<br>/ 砂粒少量、<br>礫・雲母微<br>量 | 加曾利<br>E2a式 |
| 第48図5<br>図版45-2-5 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>80%                   | 高 [10.6]<br>口 26.6<br>厚 1.1               | 外傾しながら広が<br>り上位はやや内湾<br>する口縁部 / 口唇<br>部は内側に肥厚                                    | 地文は単節RL縦位 / 口縁部無文 / 頸部に1本の紐状の隆帯が<br>巡る / 頸部の隆帯から2本1対または1本の隆帯が垂下 / 隆<br>帯断面カマボコ状  | 暗褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量          | 曾利II<br>式   |
| 第48図6<br>図版45-2-6 | 深鉢       | 口縁部<br>破片                           | 厚 0.9                                     | 上部はやや外傾下<br>部は内湾する口縁<br>部  | 口唇部に押圧文を付す / 隆帯による楕円状区画文 / 隆帯内側に<br>沿って1本の結節沈線施文、左側区画には更に内側に1本<br>見られる   | にぶい黄褐<br>/ 砂粒・礫<br>少量、雲母<br>多量 | 阿玉台<br>I b式 |
| 第48図7<br>図版45-2-7 | 深鉢       | 胴部<br>破片                            | 厚 0.9                                     | ほぼ直立する胴部   | 地文は単節LR縦位・斜位、胴部・隆帯上施文 / 隆帯貼付、隆<br>帯には先端が加工された竹管状工具による爪形文を押し引く /<br>隆帯断面角状  | 赤褐 / 砂粒<br>微量、礫少<br>量、雲母多<br>量 | 阿玉台<br>III式 |
| 第48図8<br>図版46-8   | 深鉢       | 胴部<br>破片                            | 厚 1.0                                     | ほぼ直立する胴部   | 2本の隆帯間に斜位の隆帯を2本貼付し菱形状の区画形成 / 隆<br>帯脇に三角押文が沿う / 隆帯断面三角状   | 褐 / 砂粒中<br>量、礫微量               | 勝坂1b<br>式   |
| 第48図9<br>図版46-9   | 深鉢       | 口縁部<br>破片                           | 厚 0.8                                     | 内湾する口縁部  | 横位U字状の把手、縁に押圧文を付した隆帯貼付 / 口縁残存<br>部無文   | にぶい黄褐<br>/ 砂粒中量、<br>礫微量        | 勝坂3b<br>式   |
| 第48図10<br>図版46-10 | 深鉢       | 胴部<br>破片                            | 厚 1.2                                     | 外反する胴部   | 地文は0段多条RL縦位 / 交互刺突文を付した横位隆帯で縄文<br>施文部を画す / 横位隆帯上部に連鎖状隆帯  | 橙 / 砂粒中<br>量、礫微量               | 勝坂3b<br>式   |
| 第48図11<br>図版46-11 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片                    | 厚 1.1                                     | 外傾する頸部 / 内<br>湾する口縁部   | 地文は燃糸L横位・斜位 / 押圧文を付した隆帯で口縁部と頸部<br>を画す / 幅広い隆帯中央に1本の沈線を付し2本に成形 / 頸<br>部無文 / 隆帯断面カマボコ状 / 横位隆帯は押さえが甘く剥がれ<br>が見られる   | 明褐 / 砂<br>粒・礫中量                | 加曾利<br>E1a式 |
| 第48図12<br>図版46-12 | 深鉢       | 口縁部<br>破片                           | 厚 0.7                                     | 内湾する口縁部  | 地文は燃糸R横位 / 口縁部は隆帯によって画す、上端1本、<br>下端欠損 / 2本1対の隆帯による弧状文 / 隆帯断面カマボコ状  | 暗褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量          | 加曾利<br>E1a式 |
| 第48図13<br>図版46-13 | 深鉢       | 頸部～胴<br>部<br>破片                     | 厚 0.9                                     | 外反する頸部～胴<br>部  | 地文は燃糸L縦位 / 頸部無文 / 頸部と胴部を2本の横位隆帯で<br>画す / 2本1対の隆帯が直状に垂下 / 隆帯断面カマボコ状   | 褐 / 砂粒少<br>量、礫微量               | 加曾利<br>E1b式 |
| 第48図14<br>図版46-14 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片                    | 厚 1.0                                     | 外傾する頸部 / 内<br>湾する口縁部   | 地文は無節R横位 / 口縁部は隆帯によって画す、上端1本、<br>下端1本 / 2本1対の隆帯による弧状文、先端に渦巻文、渦巻<br>文部分は突起状 / 弧の部分から3本の短い直位の隆帯が口縁部<br>下端の隆帯に垂下 / 残存頸部無文 / 隆帯断面カマボコ状   | 暗赤褐 / 砂<br>粒中量、礫<br>微量         | 加曾利<br>E1c式 |
| 第48図15<br>図版46-15 | 深鉢       | 胴部<br>破片                            | 厚 1.0                                     | 下部がやや内湾す<br>る胴部  | 地文は単節RL縦位 / 2本1対の隆帯による弧状文、短い縦位<br>隆帯2本が上部に接する / 隆帯が直状に垂下 / 隆帯断面カマボ<br>コ状   | にぶい黄橙<br>/ 砂粒中量、<br>礫少量        | 加曾利<br>E1式  |
| 第49図16<br>図版46-16 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片                    | 厚 1.1                                     | 外傾して広がる頸<br>部 / 内湾する口縁<br>部  | 地文は単節RL斜位 / 口縁部は上端1本、下端1本の隆帯で画<br>す / 区画の接点に沈線による渦巻文、先端は横位に伸びる / 頸<br>部無文、破片下端に僅かに横位沈線が見られる / 隆帯断面角状<br>/ 107-16と17は同一個体   | 褐～黒褐 /<br>砂粒・礫中<br>量           | 加曾利<br>E2a式 |
| 第49図17<br>図版46-17 | 深鉢       | 頸部～胴<br>部上半<br>破片                   | 厚 1.0                                     | 途中から急激に外<br>傾する胴部 / 外傾し<br>ながら広がる頸部  | 地文はRL縦位 / 頸部無文、横位3本の沈線で胴部と画す / 胴<br>部3本1対の直位の沈線が垂下、右端に波状に垂下する1本<br>の沈線あり / 107-16と17は同一個体 / 3層から出土   | 褐～黒褐 /<br>砂粒・礫中<br>量           | 加曾利<br>E2a式 |

第23表 107号住居跡出土土器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態       | 法量<br>(cm) | 器形・形態                       | 文様・特徴  | 胎土               | 時期<br>型式 |
|-------------------|----------|------------------|------------|-----------------------------|--|------------------|----------|
| 第49図18<br>図版46-18 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片 | 厚1.0       | やや内湾する口縁部 / 口唇部は直立 / 外反する胴部 | 地文は0段多条RL、口縁部横位施文、胴部縦位施文 / 口縁部上位無文 / 口縁部無文帯下位隆帯によって画す、上端1本、下端2本 / 頸部無文帯無し / 胴部には半截竹管状工具の腹面を使用した平行沈線が1本波状に垂下 / 隆帯断面角状～カマボコ状 | 暗褐 / 砂粒・礫少量      | 加曾利E2b式  |
| 第49図19<br>図版46-19 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.2       | やや外傾する胴部                    | 地文は撚糸R縦位、原体が太く条間や節の長さも長い / 2本の隆帯が直状に垂下、隆帯間に1本の隆帯が波状に垂下、先端は沈線による渦巻文 / 隆帯断面カマボコ状～台形 / 107-19と20は同一個体                         | にぶい黄橙 / 砂粒中量、礫微量 | 曾利I式     |
| 第49図20<br>図版46-20 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.1       | やや外反する胴部                    | 地文は撚糸R縦位、原体が太く条間や節の長さも長い / 2本1対の隆帯を直状、弧状、横位に貼付、間に横位の短い隆帯で繋ぐ / 隆帯断面カマボコ状～台形 / 107-19と20は同一個体                                | 橙 / 砂粒中量、礫微量     | 曾利I式     |
| 第49図21<br>図版46-21 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.5       | 外傾する口縁部 / 口唇部は内側に肥厚         | 半截竹管状工具の腹面による平行沈線、重弧文または斜行文か / 紐状の隆帯が波状に垂下 / 平行沈線→紐状の隆帯貼付  | にぶい黄褐 / 砂粒多量、礫少量 | 曾利II式    |
| 第49図22<br>図版46-22 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.0       | 外傾する胴部                      | 上部に横位1本の隆帯貼付 / 隆帯による渦巻状文と思われる文様、横位隆帯とC字状の隆帯で繋ぐ / 隆帯間沈線充填 / 隆帯断面カマボコ状   | 褐 / 砂粒中量、礫多量     | 曾利III式   |
| 第49図23<br>図版46-23 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚0.9       | 外傾する口縁部                     | 地文は縦位条線文 / 口縁部に2本1対の沈線が横位に巡る / 3本1対の沈線による連弧文施文   | 黒褐 / 砂粒・礫微量      | 連弧文2b段階  |
| 第49図24<br>図版47-24 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片 | 厚1.1       | 外傾し上部がやや内湾する口縁部 / 外反する胴部    | 地文は撚糸L縦位 / 口縁部に2本1対の沈線が巡る、沈線間地文磨消 / 2本1対の沈線による連弧文(一部変形)・副文様 / 胴部括れ部に3本1対の沈線が巡る / 沈線間地文磨消すが僅かに地文が残る                         | 黒褐 / 砂粒中量、礫微量    | 連弧文3a段階  |
| 第49図25<br>図版47-25 | 浅鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.0       | 外傾する口縁部                     | 外面無文 / 突出部内面に隆帯による渦巻文 / 内面に楕円状の窪みあり、刺突痕のようだが意図したものかは不明   | 明褐 / 砂粒少量、礫多量    | 阿玉台式     |
| 第50図26<br>図版47-26 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>破片 | 厚1.1       | 内屈する口縁部～体部                  | 押圧文を付した隆帯による区画 / 区画内縦位沈線充填 / 区画内沈線による楕円形の区画文、区画内縦位沈線列 / 体部無文 / 文様帯下部に先端が渦巻状になった横位沈線施文 / 107-26と27は同一個体                     | 明黄褐 / 砂粒少量、礫微量   | 加曾利E式    |
| 第50図27<br>図版47-27 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>破片 | 厚1.1       | 内屈する口縁部～体部                  | 隆帯による区画 / 文様帯上下、隆帯上押圧文を付す / 区画内縦位沈線充填 / 円の内側にU字状の文様を加えた沈線による文様 / 体部無文 / 文様帯下部に先端が渦巻状になった横位沈線施文 / 107-26と27は同一個体            | 明黄褐 / 砂粒少量、礫微量   | 加曾利E式    |
| 第50図28<br>図版47-28 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>破片 | 厚1.1       | 内湾する体部 / 外傾する口縁部            | 外面口縁部、口唇部に多量、内面口唇部に少量の赤色顔料残存   | 橙 / 砂粒・礫中量       | 中期中葉～後葉  |

第23表 107号住居跡出土土器一覽2

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土                | 時期<br>型式 |
|-------------------|----------|----------|---------------------|-----------|--|-------------------|----------|
| 第50図29<br>図版47-29 | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.4/4.3/1.2         | 37.1      | 方形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁はごく一部磨耗 / 胴部片利用 / 半截竹管状工具の腹面による平行沈線を多条施文、一部1cm程間隔が空く | 明赤褐 / 砂粒・礫中量、雲母多量 | 曾利I式か    |
| 第50図30<br>図版47-30 | 土器<br>片錘 | 90%      | 6.5/[3.9]/0.6       | 37.8      | 方形か / 袂部は2ヶ所 / 周縁はごく一部磨耗 / 口縁部片利用 / 内外面に赤色顔料残存                       | 褐 / 砂粒中量、礫少量      | 中期中葉～後葉  |
| 第50図31<br>図版47-31 | 土器<br>片錘 | 完形       | 6.1/3.9/1.0         | 35.6      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は磨耗 / 口縁部片利用 / 無文                                   | 暗褐 / 砂粒中量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |
| 第50図32<br>図版47-32 | 土器<br>片錘 | 完形       | 7.6/6.1/0.9         | 59        | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                                  | 明褐 / 砂粒中量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |
| 第50図33<br>図版47-33 | 土器<br>片錘 | 90%      | 4.7/[3.5]/1.1       | 24.5      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁の磨耗は未発達 / 胴部片利用 / 無文                                | 褐 / 砂粒少量、礫微量      | 中期中葉～後葉  |
| 第50図34<br>図版47-34 | 土器<br>片錘 | 完形       | 4.6/3.0/1.1         | 18.1      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文 / 4層から出土                         | 橙 / 砂粒微量、礫中量      | 中期中葉～後葉  |
| 第50図35<br>図版47-35 | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.6/2.8/0.9         | 13.9      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 無文                                 | 黒褐 / 砂粒少量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |
| 第50図36<br>図版47-36 | 土器<br>片錘 | 50%      | [5.1]/4.7/0.8       | 37.4      | 方形か / 袂部は1ヶ所残存 / 周縁はごく僅かに磨耗 / 口縁部片利用 / 内外面に赤色顔料残存                    | 黒 / 砂粒中量、礫少量      | 中期中葉～後葉  |
| 第50図37<br>図版47-37 | 土器<br>片錘 | 40%      | [4.2]/4.7/0.8       | 18.4      | 方形か / 袂部は1ヶ所残存 / 周縁はごく僅かに磨耗 / 胴部片利用 / 内面に赤色顔料残存                      | にぶい橙 / 砂粒中量、礫微量   | 中期中葉～後葉  |

第24表 107号住居跡出土土製品一覽



| 挿図番号<br>図版番号      | 器種         | 石材          | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴  |
|-------------------|------------|-------------|--------|-------|--------|--------|---|
| 第50図38<br>図版47-38 | 打製石斧       | ホルン<br>フェルス | 75.9   | 43.2  | 16.9   | 70.7   | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                      |
| 第50図39<br>図版47-39 | 打製石斧       | 砂岩          | 86.8   | 39.7  | 18.9   | 74.5   | 短冊形 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、中央部は面状になっている                      |
| 第50図40<br>図版47-40 | 打製石斧       | 緑色凝灰<br>岩   | 78.7   | 43.9  | 13.4   | 64.8   | 撥形 / 磨製石斧の転用 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                            |
| 第50図41<br>図版47-41 | 打製石斧       | 頁岩          | 93.5   | 52.1  | 19.3   | 82.3   | 撥形 / 表面は磨滅している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                          |
| 第50図42<br>図版47-42 | 打製石斧       | ホルン<br>フェルス | 132.3  | 59.8  | 32.2   | 284.1  | 撥形 / 表面刃部付近に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁に潰れはほとんど見られない / 右側縁は中部の稜上に潰れが認められる  |
| 第50図43<br>図版48-43 | 打製石斧       | 砂岩          | 91.8   | 44.6  | 20.0   | 75.1   | 撥形 / 表面刃部と裏面基部から中央部付近に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる         |
| 第51図44<br>図版48-44 | 打製石斧       | 砂岩          | 72.6   | 55.0  | 21.8   | 103.4  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 表面の一部に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる      |
| 第51図45<br>図版48-45 | 打製石斧       | 砂岩          | 99.0   | 77.0  | 20.1   | 194.3  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる / 右側縁の潰れはほとんど見られない |
| 第51図46<br>図版48-46 | 二次加工<br>剥片 | 砂岩          | 99.5   | 59.0  | 24.7   | 182.0  | 表面側両側縁に連続的な二次的剥離が認められる  |
| 第51図47<br>図版48-47 | 剥片         | ホルン<br>フェルス | 61.7   | 45.0  | 14.2   | 37.6   | 縦長剥片 / 打面は原礫面からなり、パルプはほとんど発達しておらず、末端はフェザーエッジである                             |
| 第51図48<br>図版48-48 | 磨石         | 緑泥片岩        | 90.5   | 41.8  | 22.4   | 126.6  | 裏面に磨痕 / 敲打による浅い凹みが表面に1ヶ所みられる  |
| 第51図49<br>図版48-49 | 敲石         | 片状砂岩        | 119.2  | 48.5  | 23.7   | 202.7  | 両側面に剥離を伴う敲打痕  |
| 第51図50<br>図版48-50 | 石皿         | 閃緑岩         | 130.2  | 105.4 | 54.7   | 1146.6 | 扁平石皿 / 表裏面ほぼ全面に平坦な使用面 / 裏面に1ヶ所凹み / 一部がすずりに覆われており、被熱の可能性はある                  |
| 第51図51<br>図版48-51 | 石皿         | 安山岩         | 98.6   | 83.3  | 51.0   | 468.3  | 表面の使用面の消耗は激しくはないが、中央付近がやや薄くなっている  |

第25表 107号住居跡出土石器一覧

を横位に貼付する。6・7は阿玉台式、8～10は勝坂式、11～18は加曾利E式、19～22は曾利式、23・24は連弧文土器の深鉢形土器である。25は阿玉台式、26・27は加曾利E式、28は中期中葉～後葉の浅鉢形土器である。

[土製品] (第50図29～37、図版47、第24表)

9点を図示した。29～37は土器片錘である。

[石器] (第50図38～43・第51図、図版47・48、第25表)

14点を図示した。38～45は打製石斧である。46は二次加工剥片である。47は剥片である。48は磨石である。49は敲石である。50・51は石皿である。

### 108号住居跡

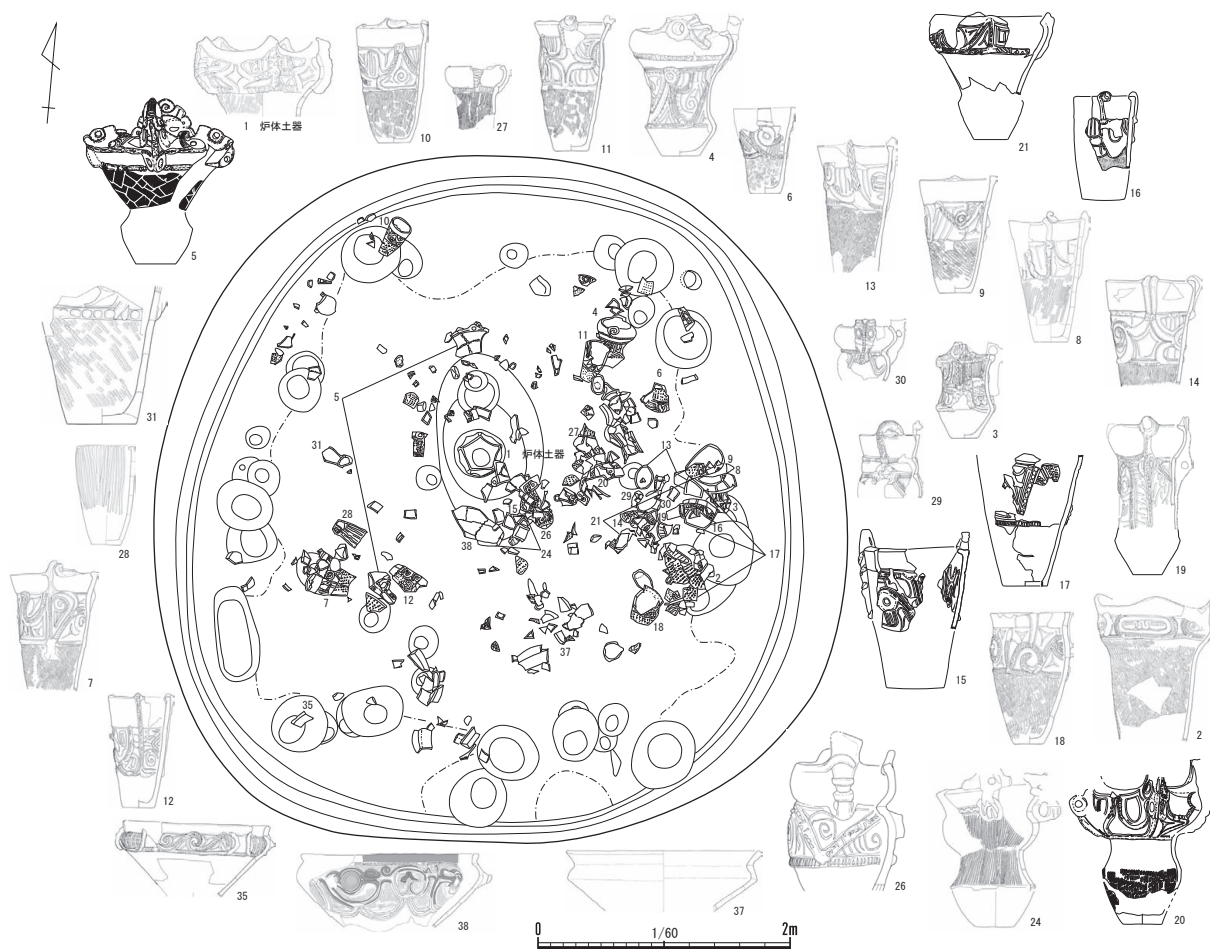
**遺構** (第52・53図)

[位置] (C-3・4) グリッド。

[検出状況] 107 J・111 J、6方に切られる。

[構造] 平面形：ほぼ円形。主軸方位：N-5°-W。P9とP16の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸550cm / 短軸546cm / 深さ50～77cm。壁溝：1条検出された。上幅16～50cm / 下幅5～13cm / 床面からの深さ2～19cm。壁：約62～80°でやや急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦である。中央部分に硬化面を確認した。直床である。炉：埋甕炉。楕円形を呈し、中央





第53図 108号住居跡遺物出土状態（1／60）

に深鉢形土器の口縁部（第54図1）が埋設されている。北寄りに浅い掘り込みとピットが確認された。長軸140cm／短軸84cm／床面からの深さ29cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：29本検出した。P1、P6、P9、P16、P21、P26を支柱穴ととらえ、6本柱建物を想定する。

〔覆土〕4層に分層できた。

〔遺物〕炉体土器（第54図1）の他、1・2層を中心に遺物が非常に多量に出土した。人面把手付土器（第57～59図7）が出土している。深鉢形土器（第66図25）に114J、深鉢形土器（第72図69）に111Jから出土した破片が遺構間接合している。

〔時期〕中期中葉期（勝坂3b新式期）。

遺物（第54～75図、図版49～69、第26～28表）

〔土器〕（第54～72図、図版49～68、第26表）

復元個体39点、破片資料39点を図示した。1は炉体土器で、勝坂3b新式の深鉢形土器である。口縁部文様帯を持ち、頸部位下は縄文を地文とする。文様帯内は押圧文を付した隆帯による区画文を配し、区画文間に縦位沈線文列、三叉文等を施文する。2～30は勝坂3b新式の深鉢形土器である。2は波状口縁で、口縁部に楕円状の区画文を持つ。3は把手を持ち、隆帯による区画文内に縦位沈線、三角押圧文を充填する。4は胴部に文様帯を持ち、口縁部には把手が見られる。5は口縁部に人面把手と蛇の頭をモチーフとした把手が向かい合う土器である。人面把手には目、鼻、口の表現がある。また、把

手以外にも口縁部上面には三角形の粘土板に隆帯を貼付し、蛇を模したと思われる文様も見られる。6～17は円筒形を呈する。口縁部は無文で、突起を把手を持ち、そこから文様帯に向けて隆帯が垂下するものが多い。胴部上位に文様帯を持ち、隆帯による渦巻文やU字状の文様を貼付する。また、隆帯によって区画され、区画内は縦位沈線列、沈線による渦巻文、三叉文等を施す。文様帯下位は縄文を施文する。隆帯上には交互刺突文、矢羽根状刺突文も見られる。18はやや樽形を呈する。押圧文を付した隆帯による渦巻文を配し、三叉文を施文する。19は隆帯によって区画し、沈線による文様を充填する。底部は屈折底部となる。20～23は口縁部に文様帯を持ち、胴部中位が無文で底部が屈折底部となる。20は口縁部に4単位の把手があり、胴部下位は縄文を地文とする。21は押圧文を付した隆帯で口縁部を画し、沈線による三叉文等を施文する。22は波状口縁で、波頂部から隆帯が垂下し、区画する。隆帯上には交互刺突文、矢羽根状刺突文を付す。23は胴部で、連鎖状隆帯を弧状に貼付する。隆帯内側には沈線による文様を施文する。24は自縄自巻LRを地文とし、口縁部には大型の把手が見られる。25は口唇部に連鎖状隆帯が巡り、沈線を付した隆帯を弧状に貼付する。114 Jから出土した破片が遺構間接合している。26は口縁部に把手を持ち、胴部上位に文様帯を施文する。27は縄文を地文とし、口縁部は無文で、頸部には押圧文を付した隆帯が巡る。28は縦位沈線を施す。29は口縁部が無文で、口縁部の把手から胴体へ隆帯が垂下する。胴部には括れ部を形成する。30は口縁部が無文で把手を付す。頸部には隆帯が巡り、胴部にも隆帯が見られる。31は勝坂3 b式の深鉢形土器である。円筒形を呈すると思われ、押圧文を付した隆帯が横位に巡る。32は加曾利E 4式の深鉢形土器である。口縁上位に1本の沈線が巡り、無文部分と縄文部分を区画する。縄文を地文とし、胴部上位には無文帯による渦巻文、円形の文様を付す。下位は逆U字状の無文部分が見られる。33は勝坂3 b式の小形の深鉢形土器である。沈線による文様を施す。34～38は浅鉢形土器である。34は波状口縁で、上面から見ると口縁が隅丸方形に見える。口縁内側に段を持つ。阿玉台式にあたると思われる。35は勝坂3 b新式にあたる。口縁部上位は無文で、隆帯による楕円状の区画文、連なる横位S字状の文様が見られる。楕円状区画文の内側には縦位沈線を施し、1本おきに押圧文を付す。36は勝坂3 b式、37は勝坂3 b新式にあたる。38は大木8 a式にあたる。縄文を地文とし、文様帯は体部下位にまで及ぶ。隆帯による文様を施し、横位の端状把手を貼付する。外面には多くの赤色顔料が残存する。また、内面には黒色顔料による文様が見られる。39は中期のミニチュア土器の底部である。残存部は無文で底面に網代痕は見られない。40～44は阿玉台式、45は阿玉台式の系統と思われるもの、46～62は勝坂式、63は勝坂式に並行する時期と思われるもの、64～70は加曾利E式、71・72は曾利式、73は連弧文土器の深鉢形土器である。74～76は中期中葉の浅鉢形土器で、いずれも赤色顔料が残存する。69には111 Jから出土した破片が遺構間接合している。77は中期、78は中期にあたると思われるミニチュア土器である。

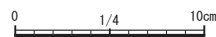
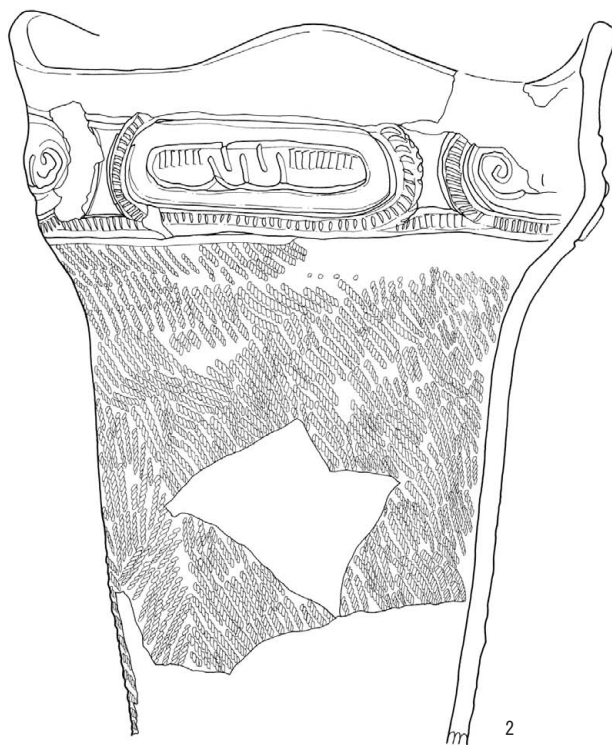
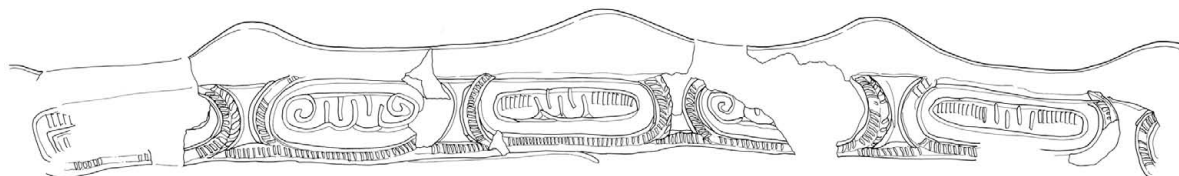
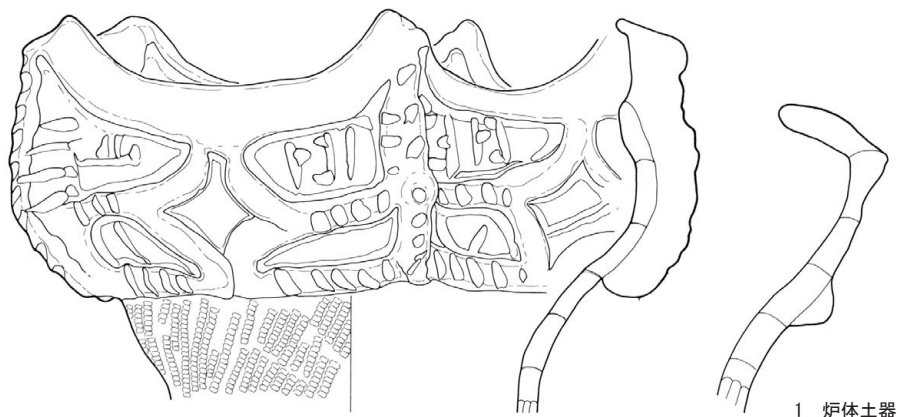
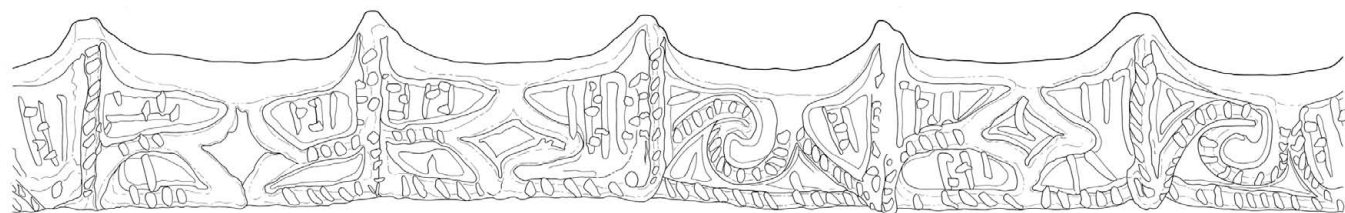
#### [土製品] (第73図、図版68、第27表)

30点を図示した。79～106は土器片錘、107・108は土製円盤である。

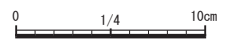
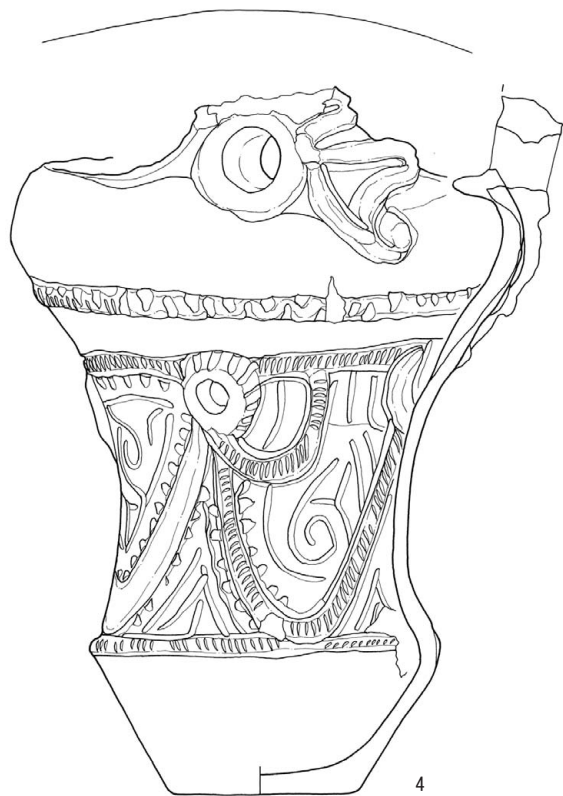
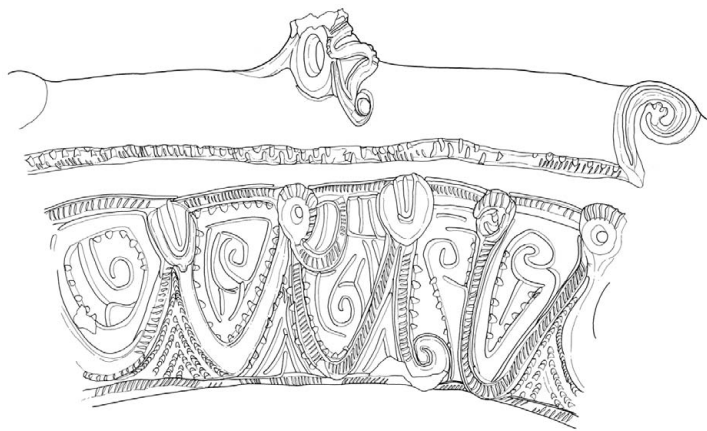
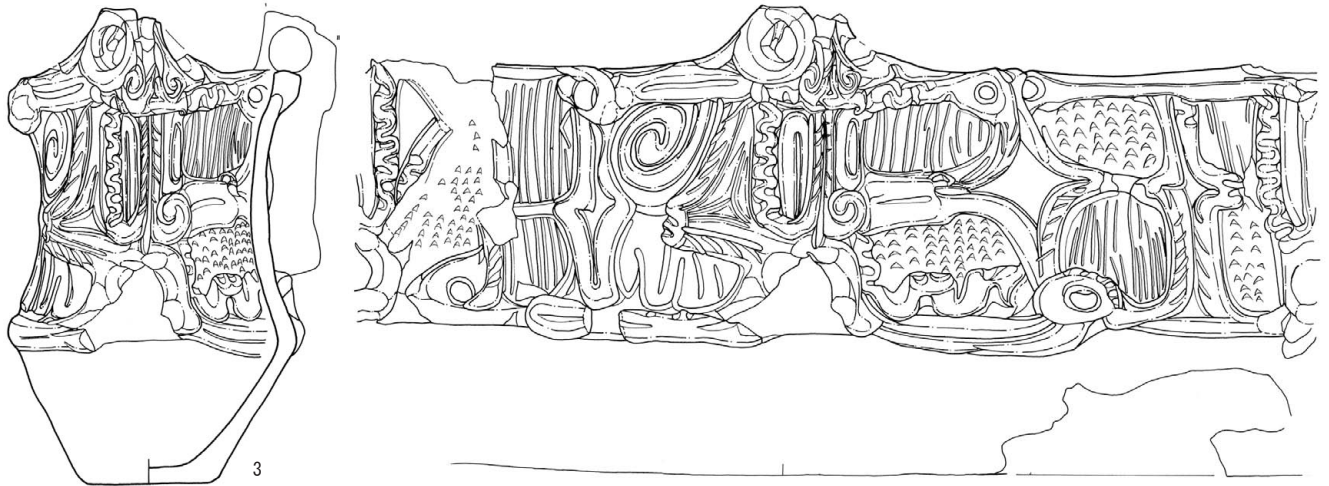
#### [石器] (第74・75図、図版68・69、第28表)

18点を図示した。109は楔形石器である。110～123は打製石斧である。124・125は二次加工剥片である。126は石核である。

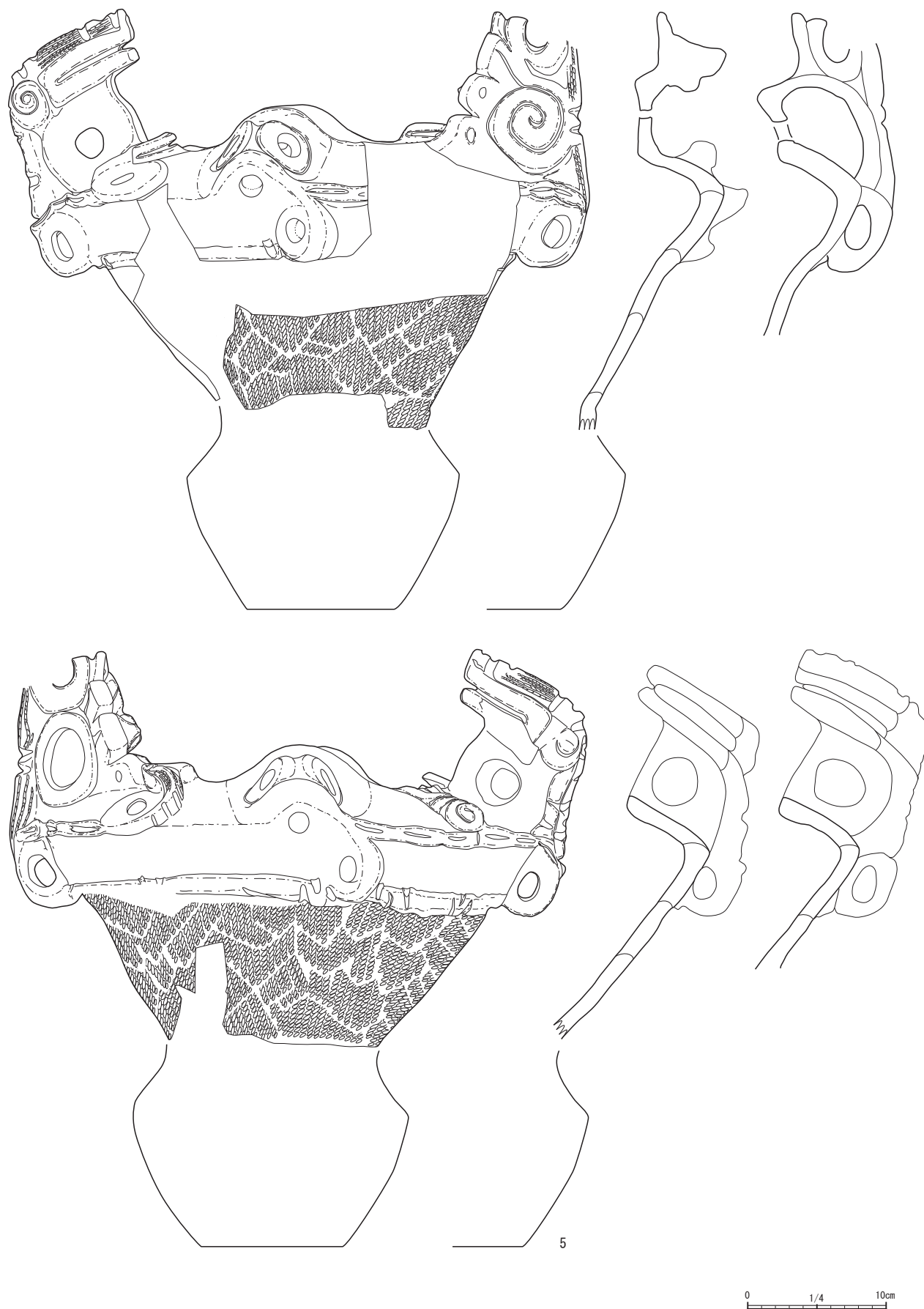




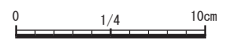
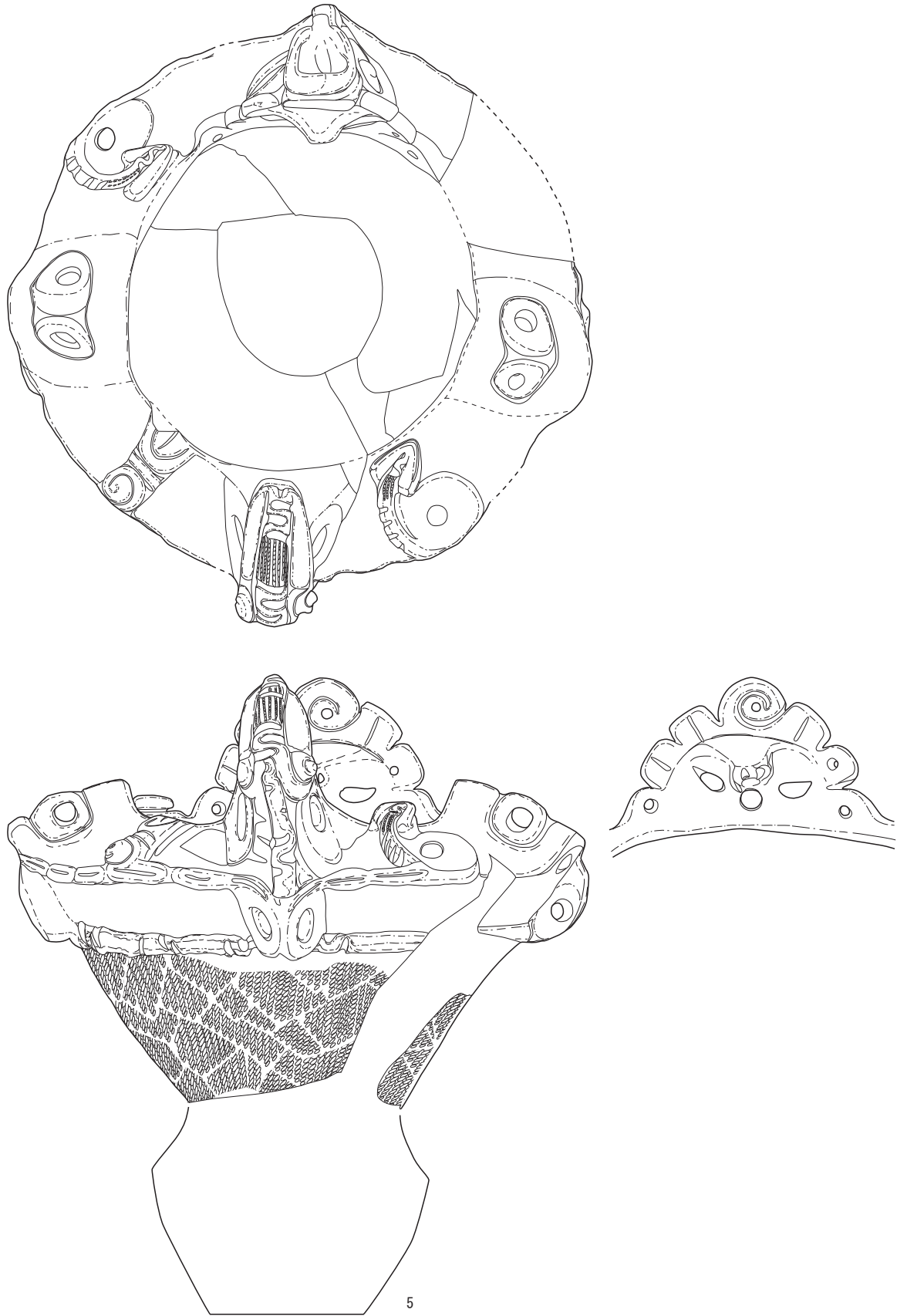
第54図 108号住居跡出土遺物1 (1/4)



第55図 108号住居跡出土遺物2(1/4)

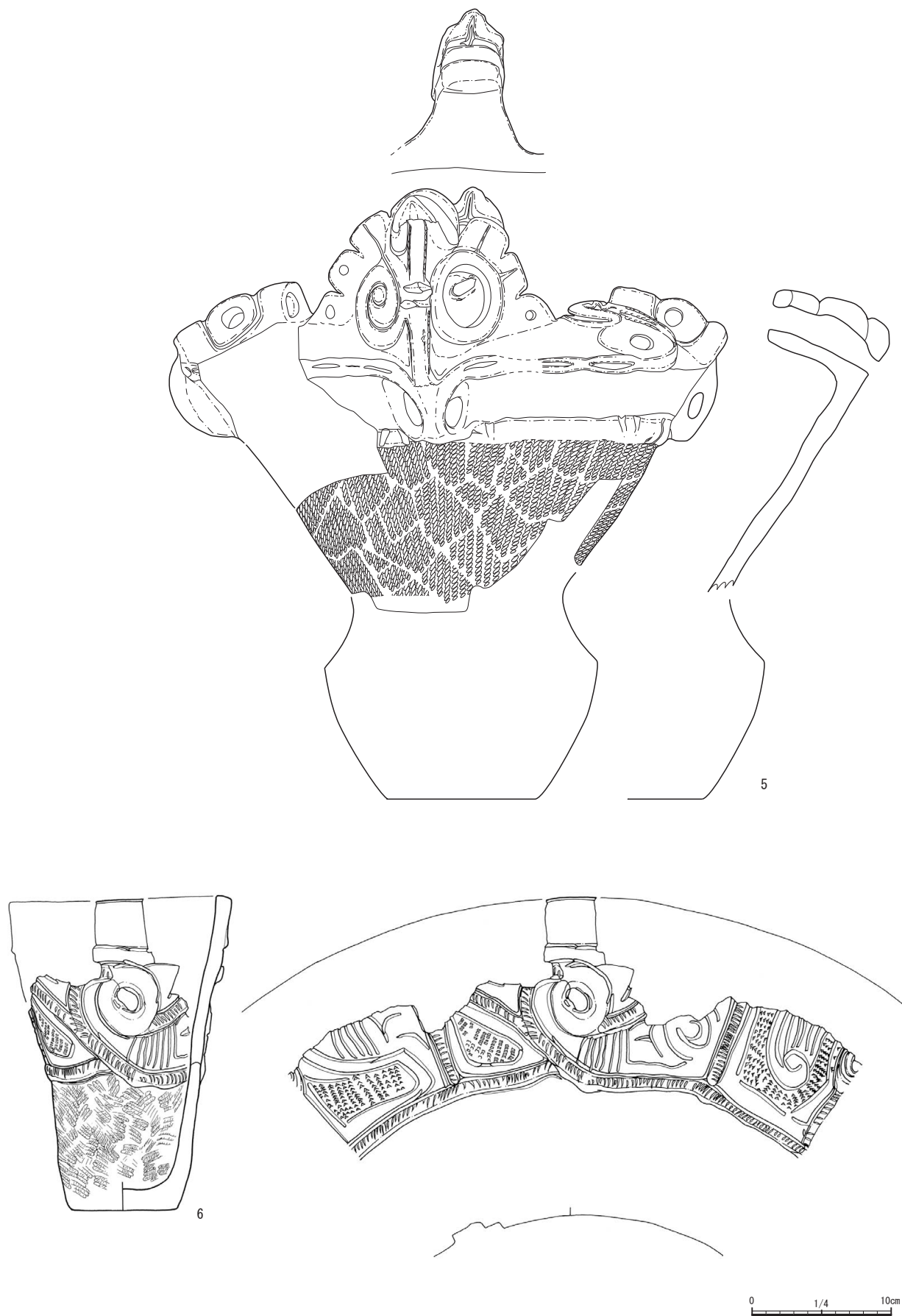


第56図 108号住居跡出土遺物3 (1/4)

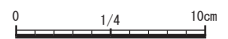
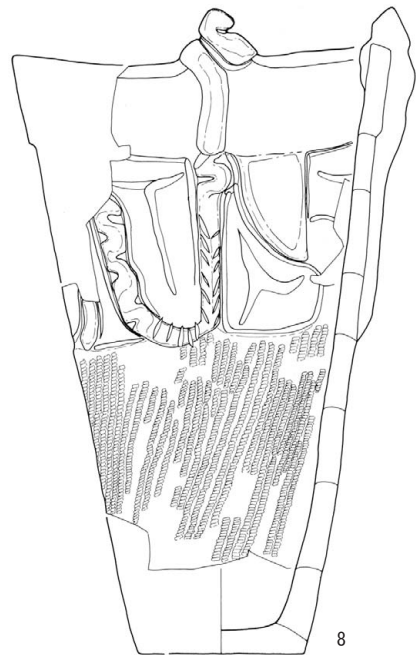
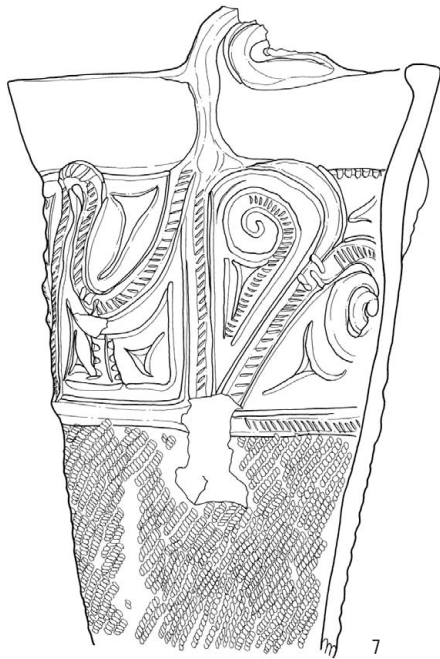
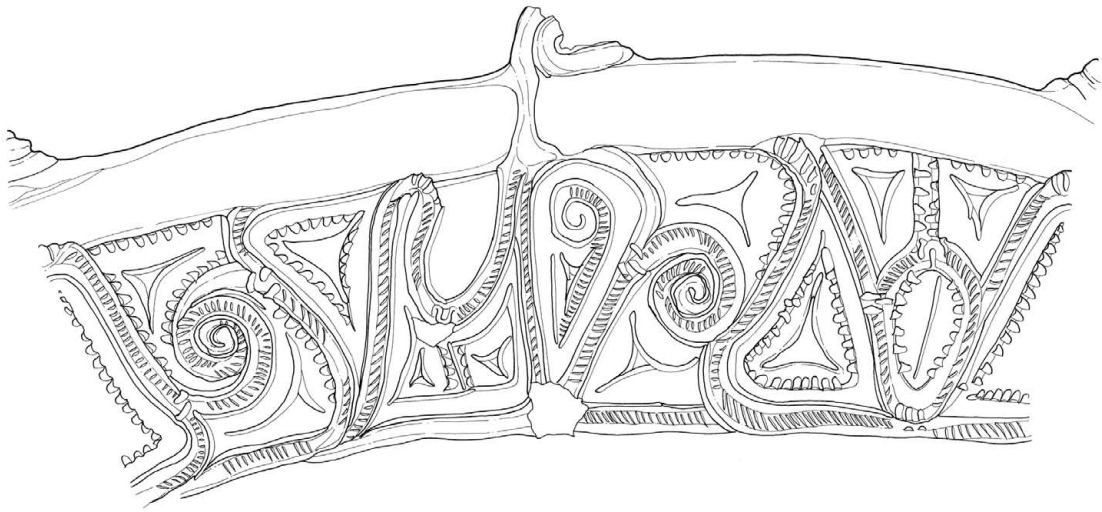


第57図 108号住居跡出土遺物4（1／4）





第58図 108号住居跡出土遺物5 (1/4)

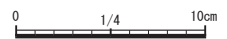
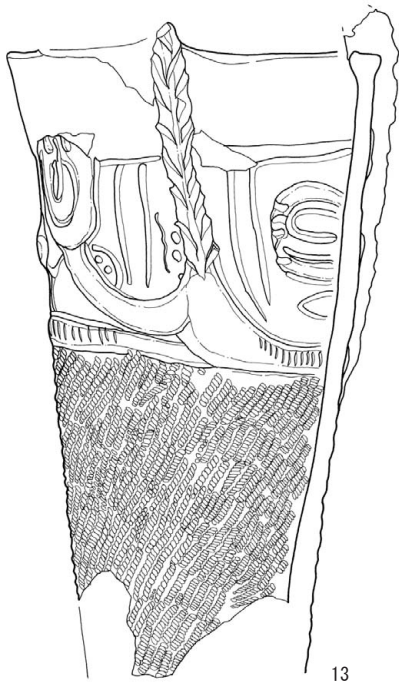
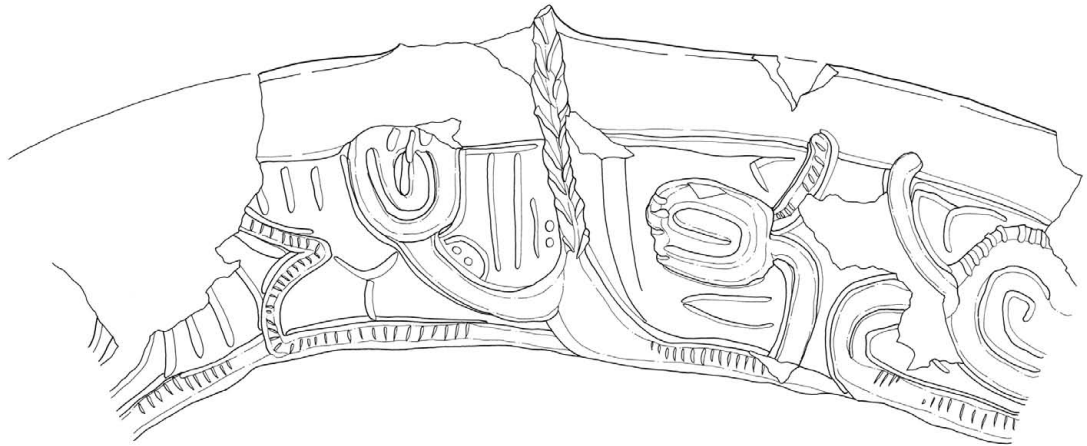
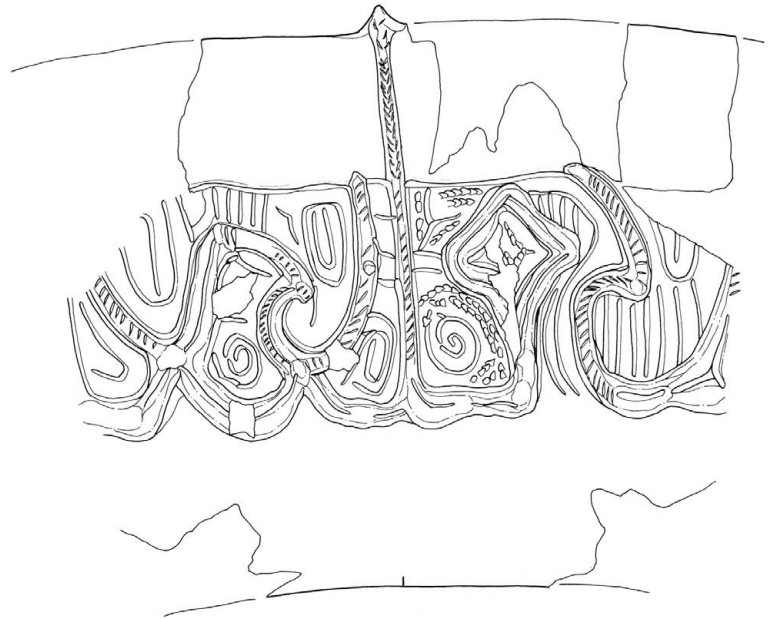
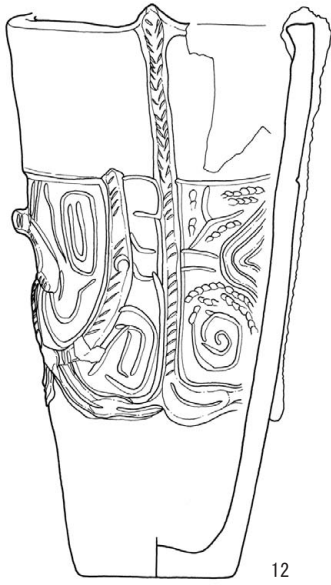


第59図 108号住居跡出土遺物6 (1/4)



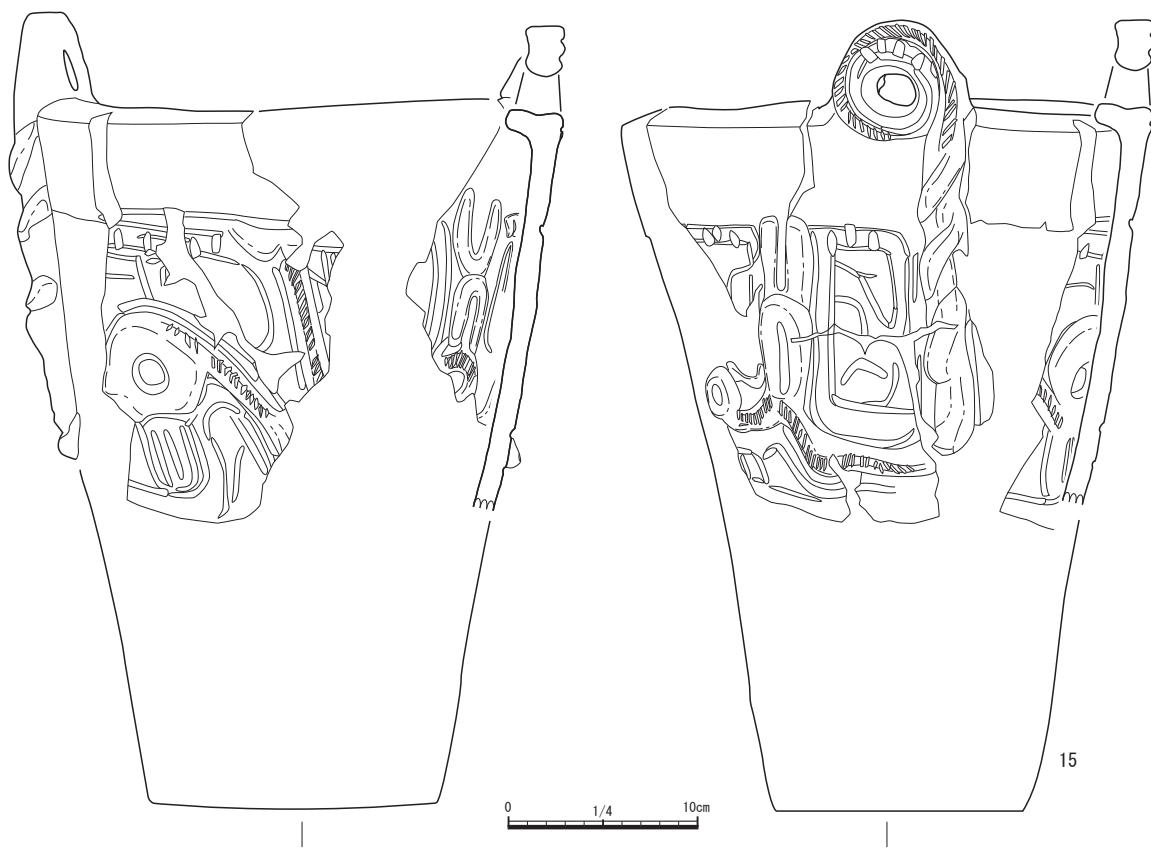
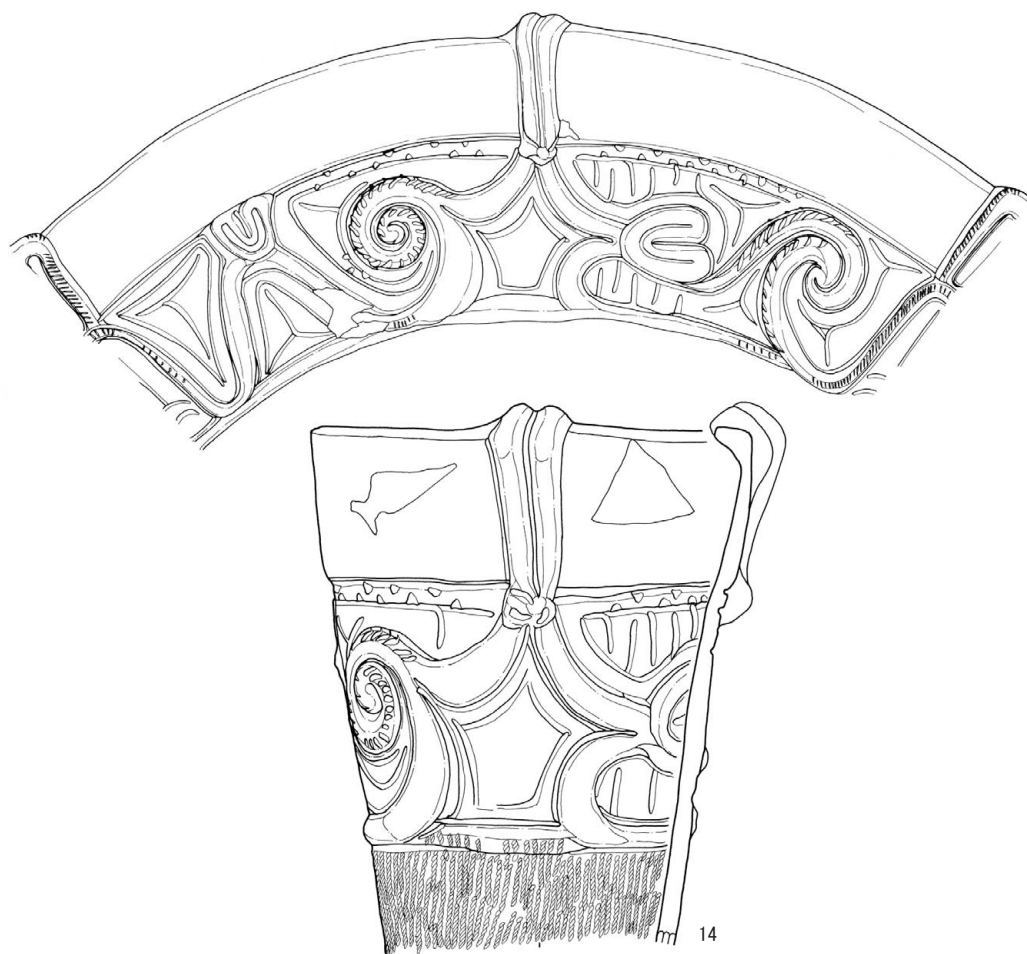
第60図 108号住居跡出土遺物7 (1/4)



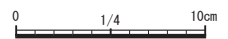
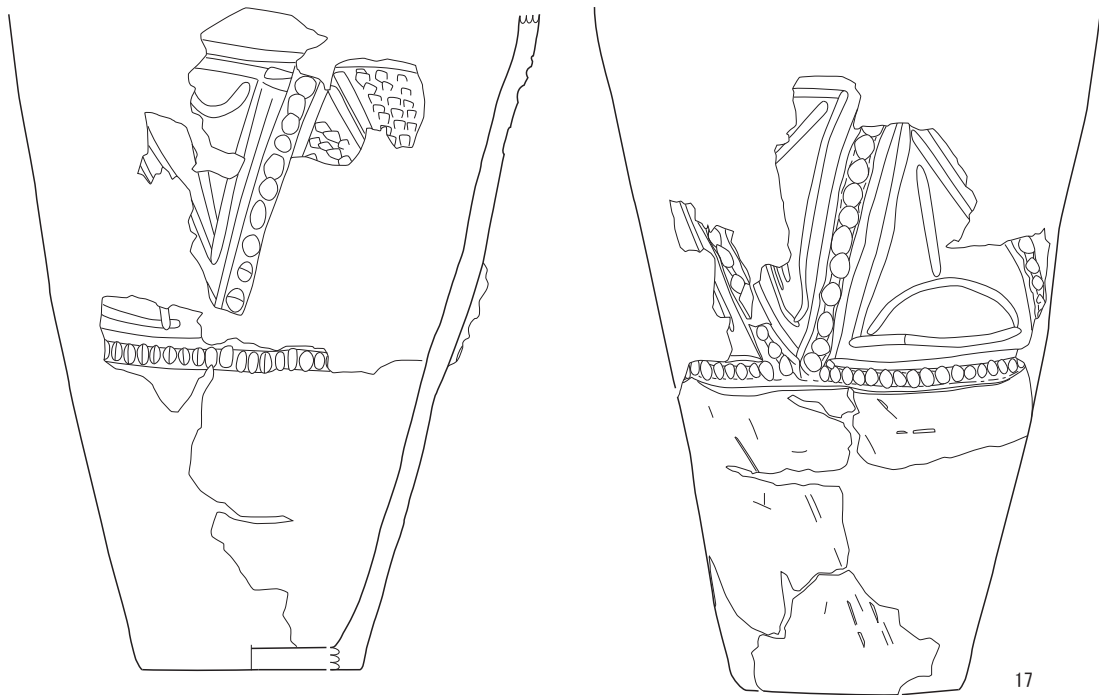
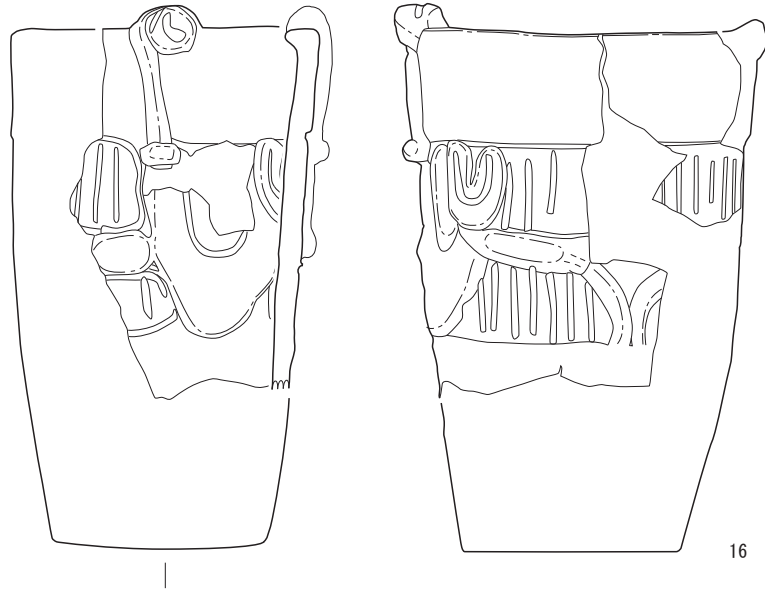


第61図 108号住居跡出土遺物8 (1/4)

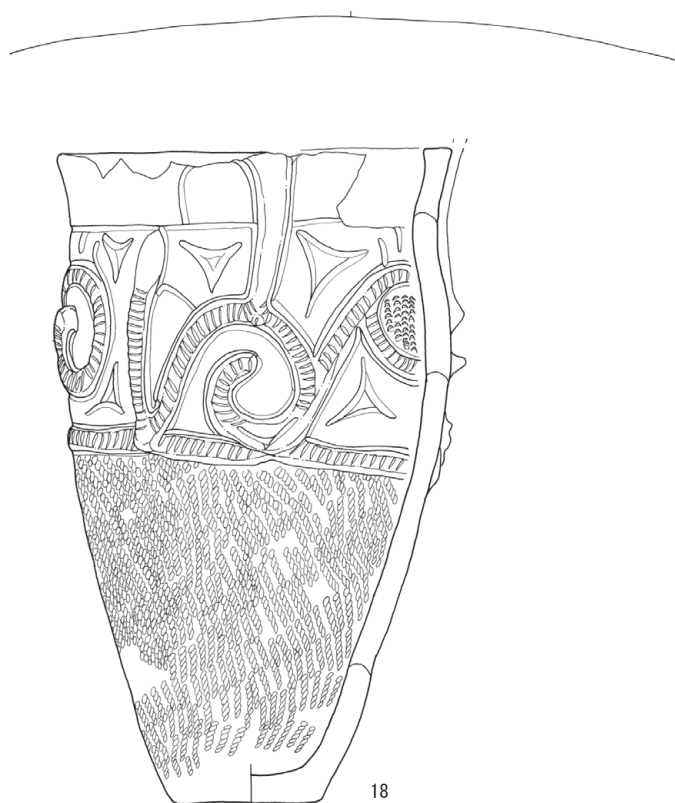
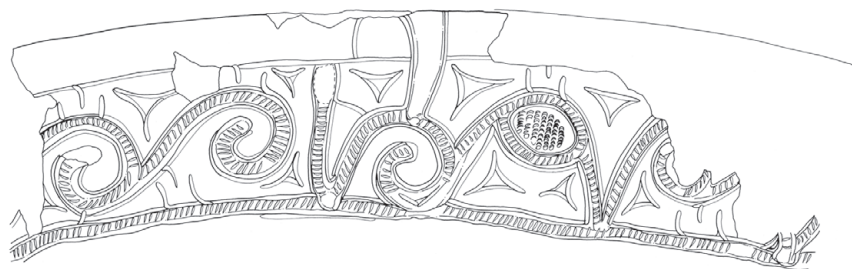




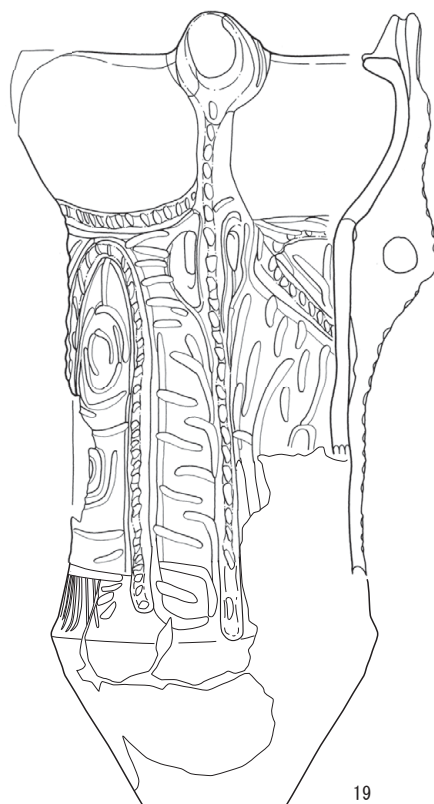
第62図 108号住居跡出土遺物9 (1/4)



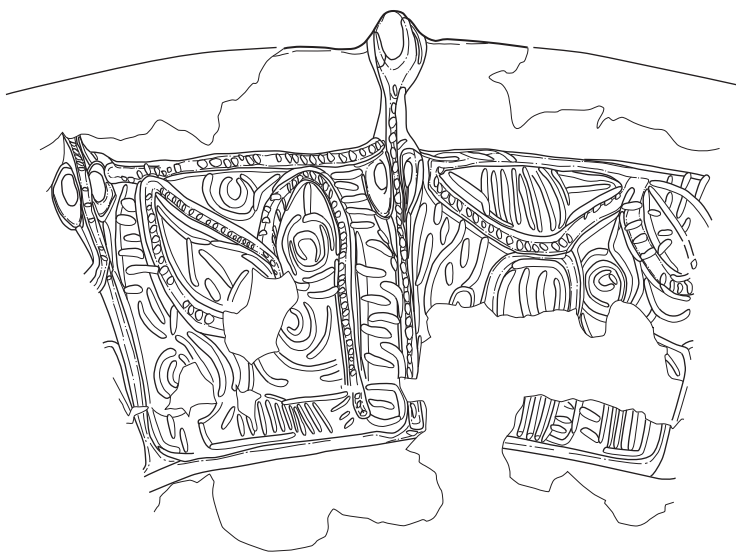
第63図 108号住居跡出土遺物10(1/4)



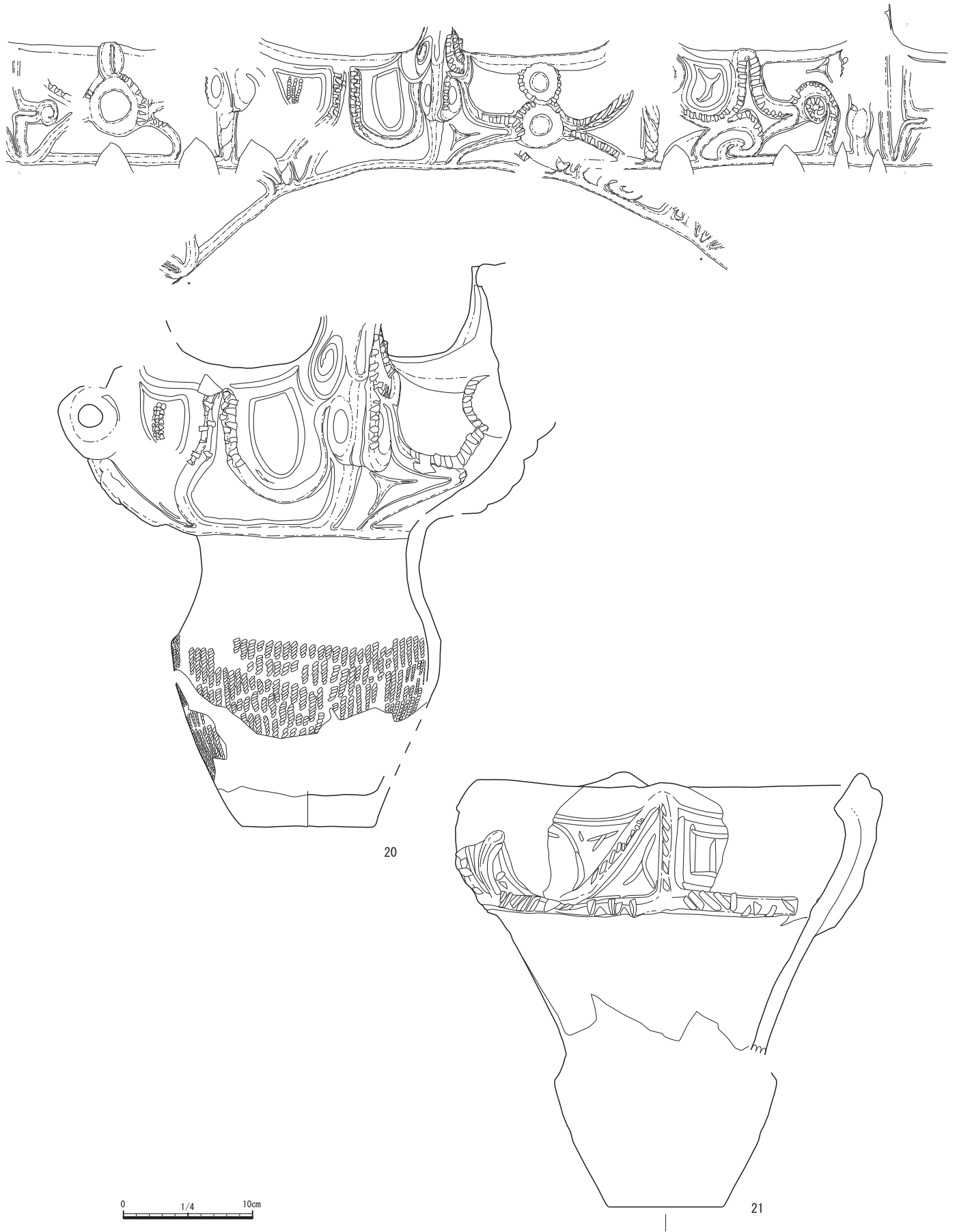
18



19

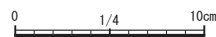
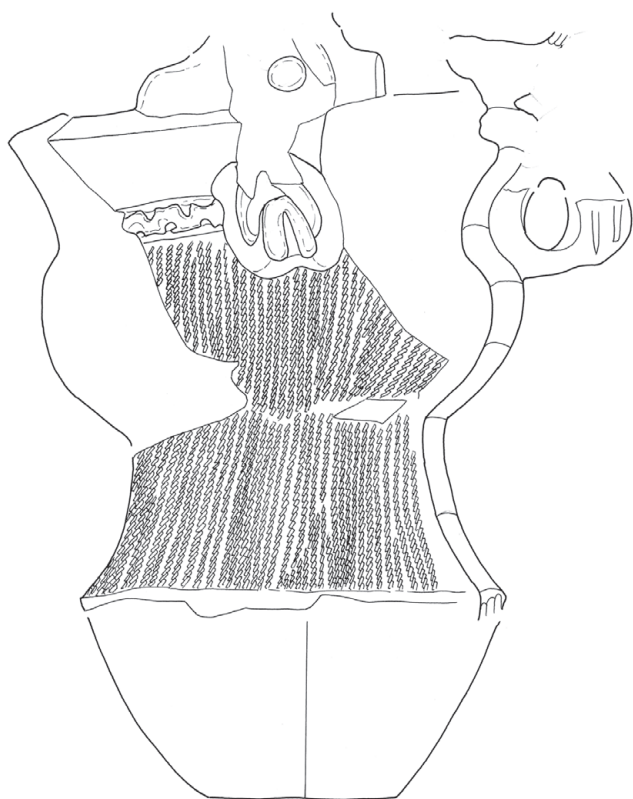
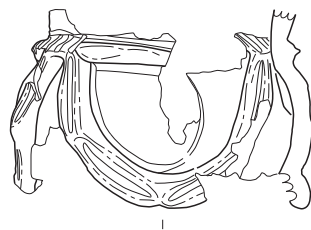
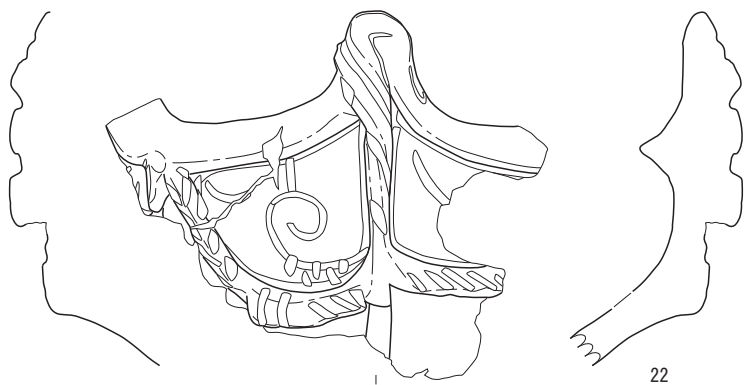


第64図 108号住居跡出土遺物11(1/4)

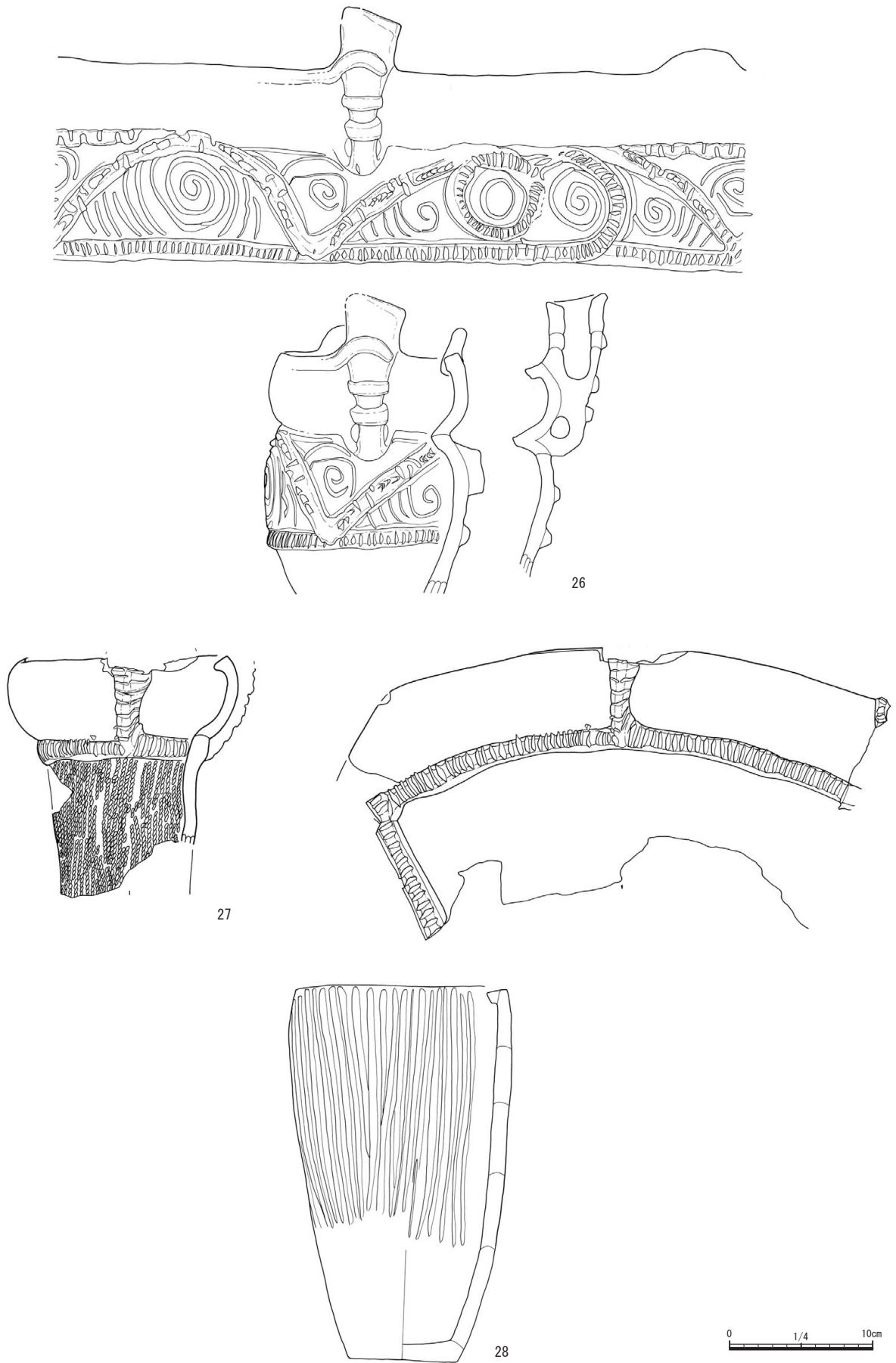


第65図 108号住居跡出土遺物12(1/4)

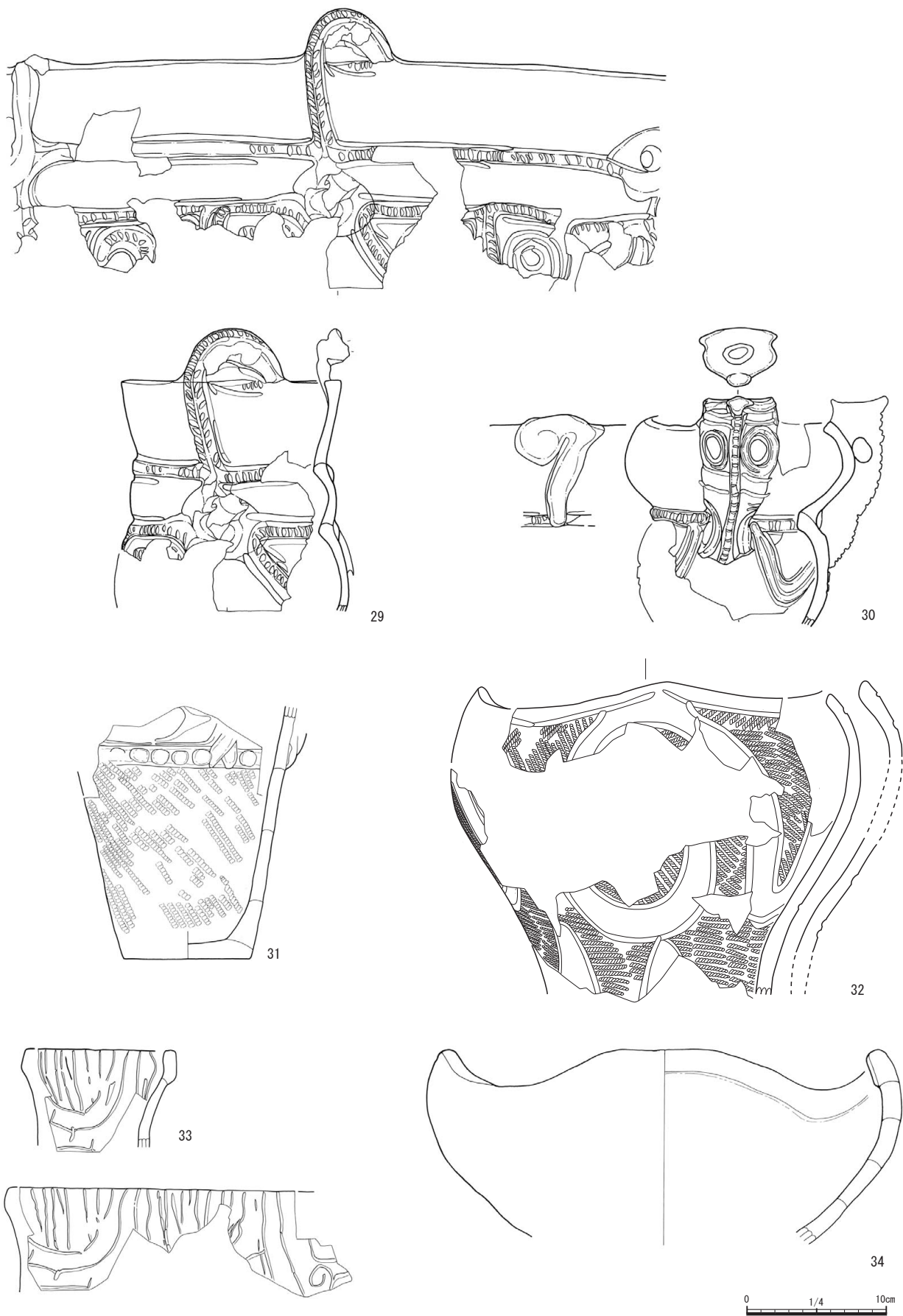




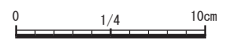
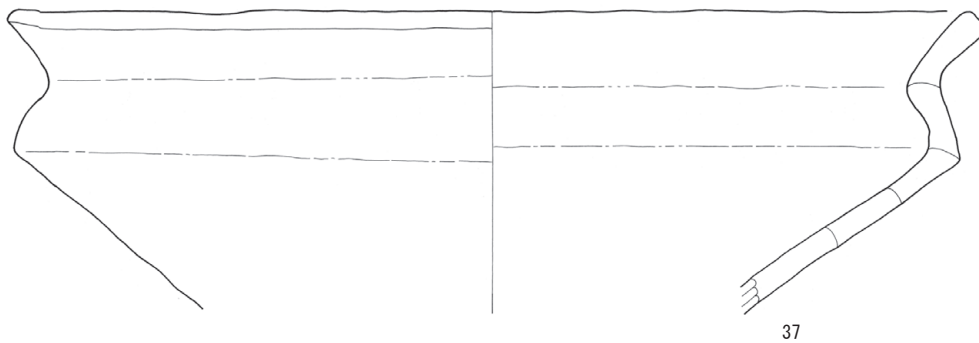
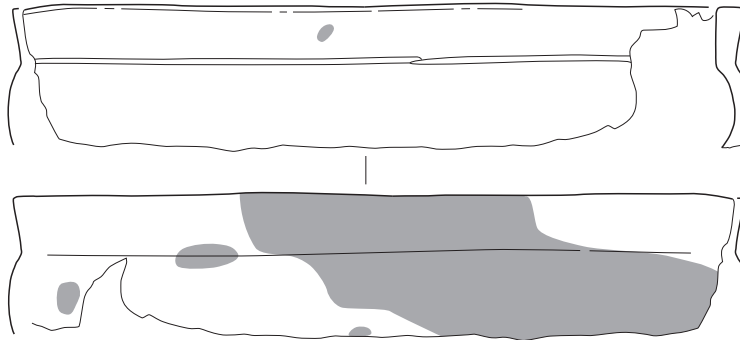
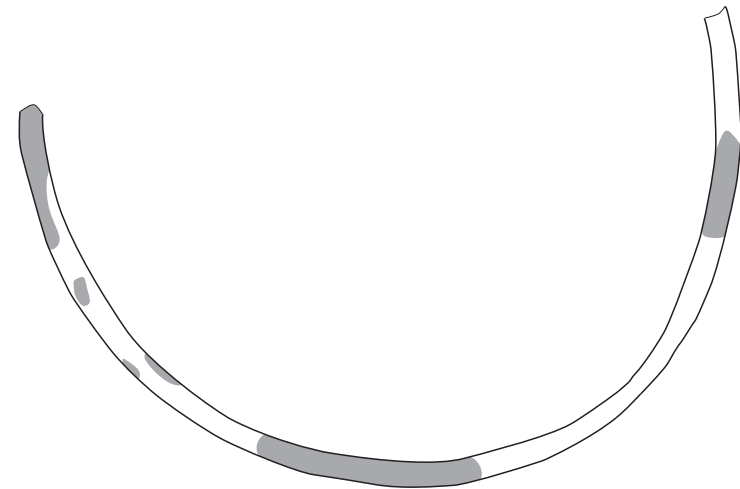
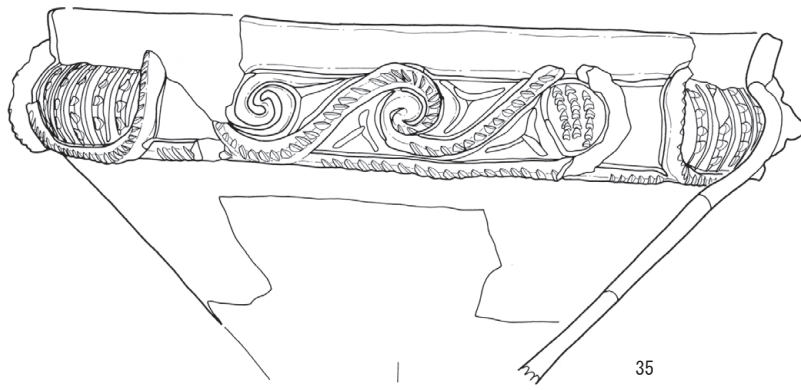
第66図 108号住居跡出土遺物 13 (1/4)



第67図 108号住居跡出土遺物14(1/4)

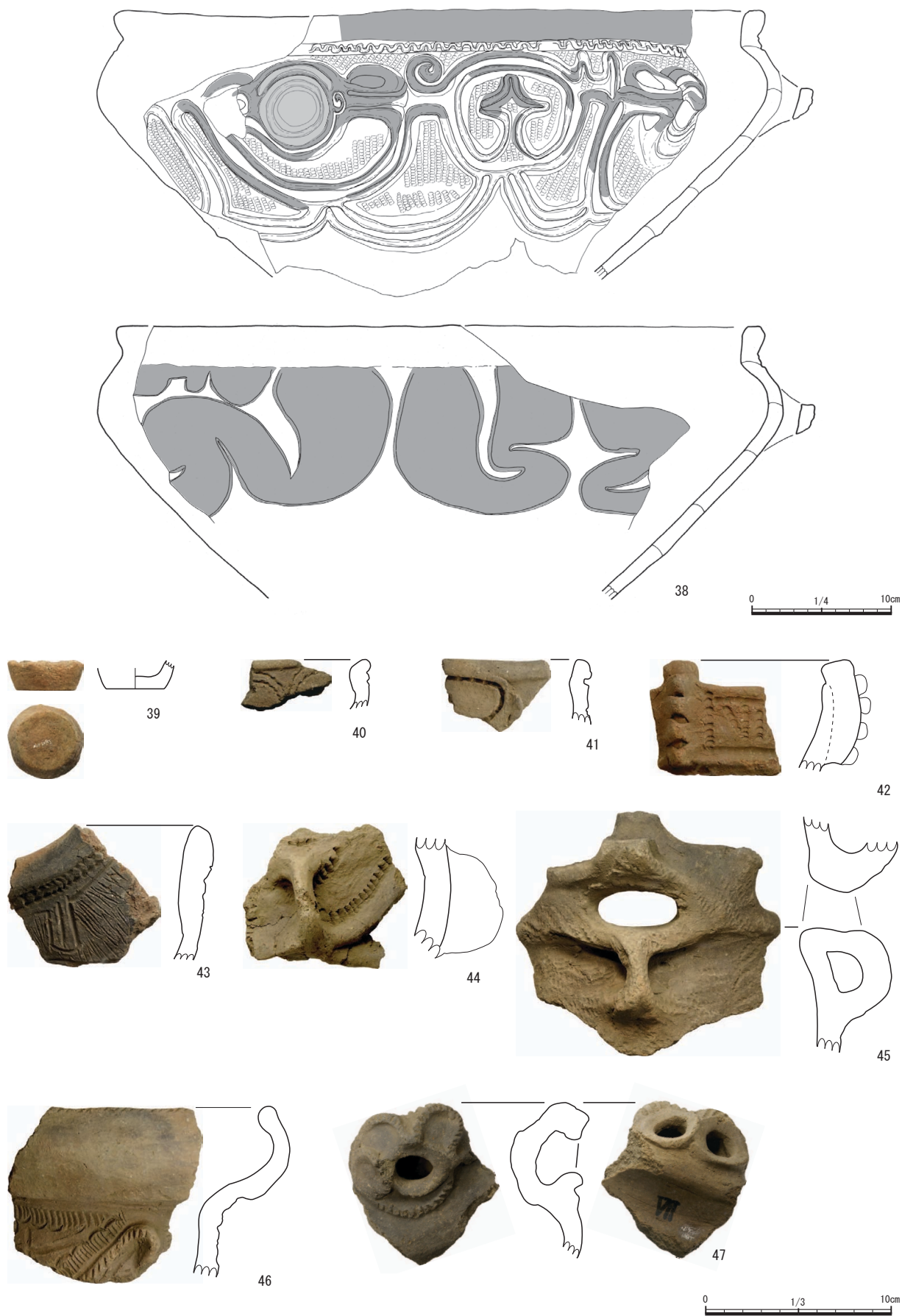


第68図 108号住居跡出土遺物 15 (1/4)



第69図 108号住居跡出土遺物 16 (1/4)





第70図 108号住居跡出土遺物 17 (1/4・1/3)



第71図 108号住居跡出土遺物 18 (1/3)



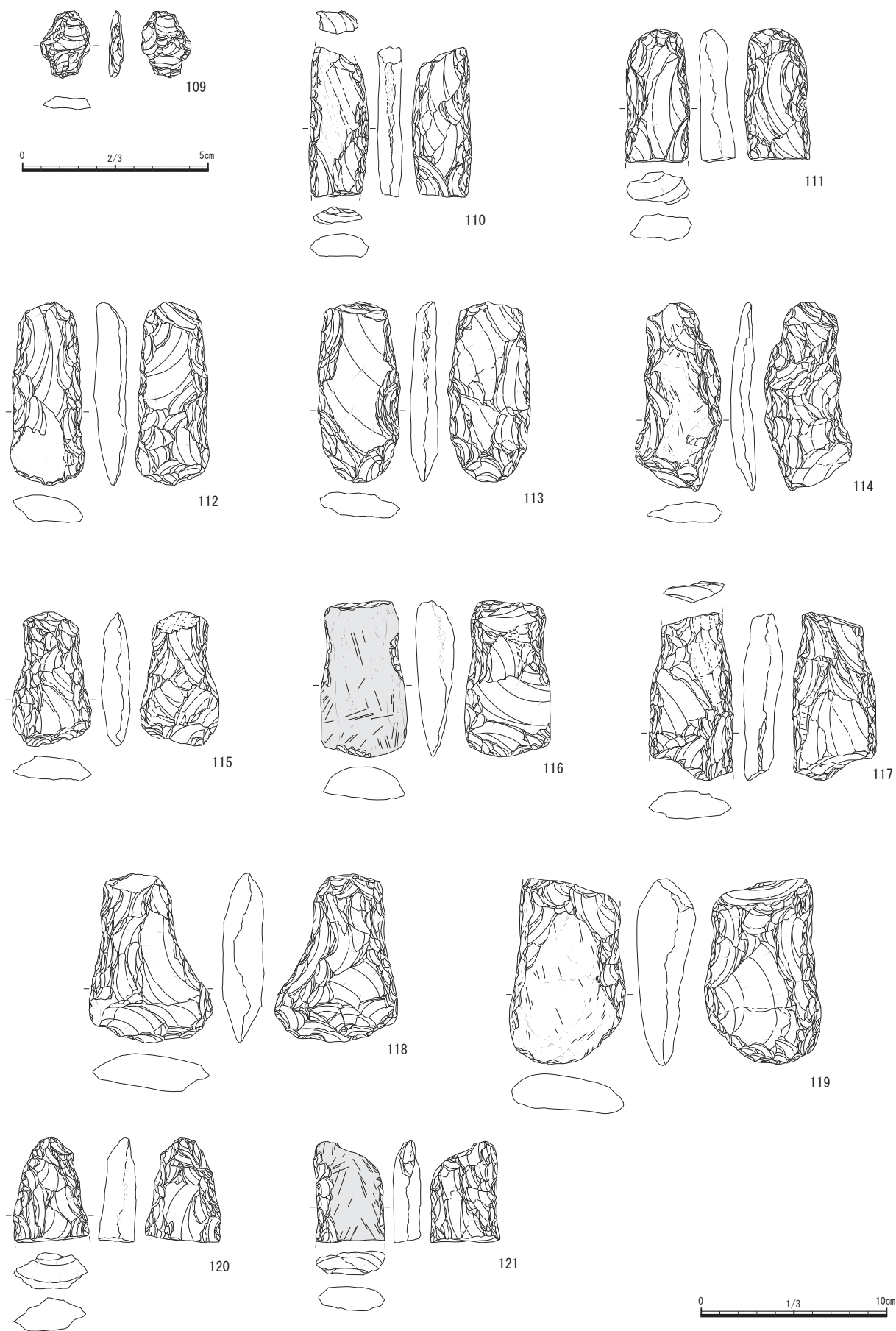


第72図 108号住居跡出土遺物 19 (1/3)

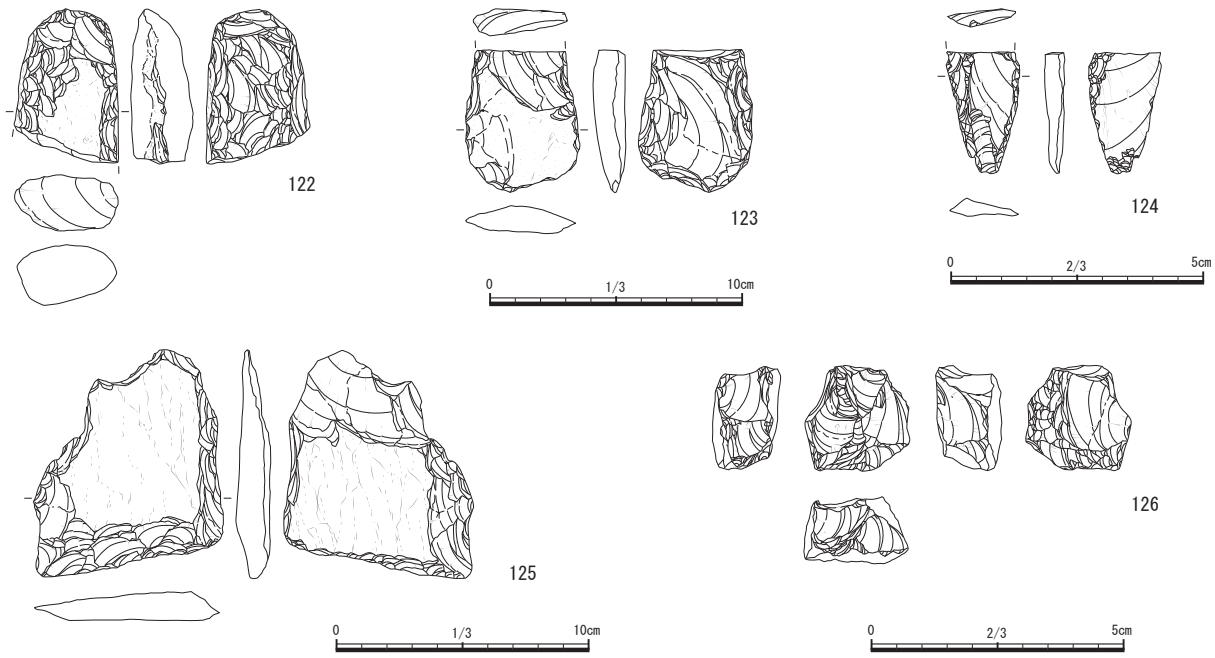


第73図 108号住居跡出土遺物 20 (1/3)





第74図 108号住居跡出土遺物21 (1/3・2/3)



第75図 108号住居跡出土遺物22 (1/3・2/3)

| 挿図番号<br>図版番号    | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態           | 法量<br>(cm)                           | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土            | 時期<br>型式   |
|-----------------|----------|----------------------|--------------------------------------|--|--|---------------|------------|
| 第54図1<br>図版49-1 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>100% | 高 [20.8]<br>口 28.8<br>厚 1.2          | キャリバー形 / やや外反する胴部上位 / 外反して広がる頸部 / 内湾する口縁部 / 波頂部が5単位の波状口縁 / 上面からみると口縁部が五角形を呈す | 地文はRL縦位 / 5単位の波状口縁 / 口縁部区画内は波頂部から背が高く押圧文・矢羽根状刺突文を付した隆帯が垂下し5区画に分割される、隆帯による菱形の文様の周囲に縦位沈線列・三叉文・交互刺突文等を加えた区画を持つ区画(3単位)、隆帯による渦巻文を施文する区画(2単位) / 隆帯断面台形状・カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線に沿う / 炉体土器  | 橙 / 砂粒中量、礫少量  | 勝坂3b<br>新式 |
| 第54図2<br>図版49-2 | 深鉢       | 口縁部<br>胴部下位<br>80%   | 高 [38.4]<br>口 32.4<br>厚 1.2          | キャリバー形 / やや外傾して立ち上がり上位が外反する胴部 / 下位は内湾し上位はやや外反する口縁部 / 4単位の波状口縁                | 地文は単節RL横位・斜位・縦位 / 口縁部区画と縄文施文部を押圧文を付した1本の横位隆帯で画す / 口縁部区画内C字状・逆C字状の隆帯と横位隆帯を組み合わせて楕円状区画を形成(5単位) / C字状・逆C字状の隆帯上に押圧文を付し、一部側面にも矢羽根状に付す / 楕円状区画内は中央の交互沈線文の両端に渦巻文を配す区画(1単位残存)・中央の交互沈線文の左右に横位押圧文を配す区画(2単位残存)が見られる、交互に配置か / 隆帯断面台形状・三角状、隆帯脇区画内2本の沈線・区画外1本の単沈線に沿う   | 暗褐 / 砂粒中量、礫微量 | 勝坂3b<br>新式 |
| 第55図3<br>図版50-3 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>90%    | 高 24.8<br>口 13.8<br>底 6.9<br>厚 1.0   | 屈折底部 / 外反する胴部 / やや外反する口縁部 / 外面に肥厚する口唇部                                       | 対称面に1単位ずつ棒状の把手あり、大きさに差があり、小さい把手は上部欠損 / 把手から90°の位置にそれぞれ眼鏡状突起・円形窪みのある突起が1単位ずつあり / 大きい棒状把手には上部に眼鏡状把手・側面に交互刺突文を付した隆帯・隆帯による渦巻文 / 小さい棒状把手には側面に交互刺突文を付した隆帯 / 隆帯によってU字状・逆U字状・三角状の区画に画す / 区画内縦位沈線列・三角押文列・沈線による三叉文・渦巻文等施文 / 一部隆帯上は押圧文を付す / 連鎖状隆帯 / 胴部文様帯下位無文 / 隆帯断面カマボコ状・三角状、隆帯脇1本の単沈線に沿う / 底面網代痕無し  | 明褐 / 砂粒多量、礫微量 | 勝坂3b<br>新式 |
| 第55図4<br>図版50-4 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>90%    | 高 [37.2]<br>口 19.8<br>底 9.6<br>厚 1.0 | 屈折底部 / 外反する胴部 / 外傾する頸部 / やや外傾し内湾する口縁部 / 平坦な底部                                | 口縁部の対称面に1単位ずつ把手を貼付 / 頸部に横位1本の隆帯が巡る、隆帯上は交互刺突文の部分と押圧文施文後に上端に沿ってU字状の刺突文を付す部分が混在 / 胴部上位と下位に押圧文を付した隆帯が横走り画す / 幅広の隆帯・押圧文を付した隆帯・一部押圧文を付した幅広の隆帯によるU字状の区画文、先端が渦巻状を呈する隆帯が1単位垂下 / 文様带上端隆帯との接点には環状の突起・渦巻状の突起・沈線によるU字状の文様を付した粘土板状の突起を付す / 区画内沈線による渦巻文・三叉文状の文様・弧状の沈線等充填、一部沈線にU字状の刺突文に沿う / U字状の区画間は隆帯に沿って沈線・角押文充填 / 隆帯断面台形状・カマボコ状・隆帯脇1本または2本の単沈線・U字状の刺突文に沿う / 底面網代痕無し | 明褐～褐 / 砂粒・礫中量 | 勝坂3b<br>新式 |

第26表 108号住居跡出土土器一覧1

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号                  | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                           | 器形・形態   | 文様・特徴  | 胎土                      | 時期<br>型式    |
|-------------------------------|----------|---------------------|--------------------------------------|---|--|-------------------------|-------------|
| 第56～58<br>図5<br>図版50～<br>53-5 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>90% | 高 [30.1]<br>口 24.4<br>厚 1.1          | 外傾して広がる胴部<br>/ く字状に強く内折<br>する口縁部  | 地文は単節 RL 斜位 / 口縁屈折部に連鎖状隆帯が巡る / 口縁部に<br>人面把手 1 単位と蛇状の把手 1 単位が向き合う様に対称面に配<br>置 / 人面把手は中空で目はアーモンド形・口は楕円形・鼻は鼻<br>孔の表現あり、頭頂部に渦巻文を配し人面に沿って方形・孔の<br>ある半円形の粘土を貼付、背面は右側に円形の孔左側に沈線<br>による渦巻文 / 背面頭頂部に U 字状の突起を配すが一部欠損・隆<br>帯下位の眼鏡状把手まで垂下 / 人面把手隣には蛇を模したと思<br>われる矢印状の隆帯のモチーフ、頭と思われる三角の部分には<br>側面に口と思われる沈線が引かれる、対称面に同様のモチーフ<br>あり / 人面把手と向き合う様に蛇の頭状のモチーフ、目と口の<br>表現あり、背面下位に眼鏡状把手 / 把手隣に U 字状の隆帯と渦<br>巻文を組み合わせた装飾、対称面のものは欠損 / 人面把手から<br>90°の位置に前後左右に孔のある中空の把手、下位に円形の窪み<br>のある突起 / 胴部上位に交互刺突文を付した 1 本の隆帯が横走、<br>下位に縄文施文 / 人面把手背面・蛇状のモチーフ・蛇頭状の把手<br>等に三角押文列 / 一部ミガキ調整等も見られるが外面器面の多<br>くはざらついている | 明黄褐 / 砂<br>粒・礫多量        | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第58図6<br>図版54-6               | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>70%   | 高 22.4<br>口 (15.8)<br>底 7.6<br>厚 1.1 | 円筒形 / 外傾しながら<br>直線的に立ち上がる<br>胴部 / 直線的に外<br>傾する口縁部 / 平坦<br>な底部                     | 地文は無節 L 縦位・横位・斜位 / 口縁部無文 / 口縁部無文部と<br>文様帯を横走する 1 本の沈線で画す / 文様帯と縄文施文部分を<br>押圧文を付した横走する隆帯で画す / 胴部上位～中位に文様帯 /<br>縦位隆帯と先端に U 字状の文様を付した隆帯で画す / 隆帯によ<br>る円形の文様 / 縦位沈線文列・三角押文列・刺突文を斜位に充填・<br>沈線による渦巻状文 / 隆帯断面台形状、隆帯に本 1 本または 2<br>本の単沈線が沿う / 底面網代痕無し  | 橙～黒褐 /<br>砂粒中量、<br>礫少量  | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第59図7<br>図版51～<br>54-7        | 深鉢       | 口縁部～<br>底部付近<br>90% | 高 [34.0]<br>口 22.6<br>厚 0.9          | 円筒形 / 外傾しながら<br>立ち上がり上位が<br>やや外反する胴部 /<br>外傾しやや広がる口<br>縁部 / 口唇部は内側<br>に肥厚         | 地文は 0 段多条 RL 縦位 / 口縁部の対称面に 1 単位ずつ把手を<br>貼付 / 文様帯内は押圧文・交互刺突文を付した隆帯で三角状・<br>楕円状等に画し、押圧文を付した隆帯による渦巻文を配す / 区<br>画文内に三叉文・沈線による渦巻文・一部に刺突文充填 / 隆帯<br>断面台形状・カマボコ状、隆帯脇 1 本または 2 本の沈線・U 字<br>状の刺突文が沿う  | 褐 / 砂粒中<br>量、礫少量        | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第59図8<br>図版54-8               | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>40%   | 高 34.1<br>口 (20.0)<br>底 8.8<br>厚 1.1 | 円筒形 / 外傾しながら<br>直線的に立ち上がる<br>胴部 / 直線的に外<br>傾する口縁部 / 平坦<br>な底部                     | 地文は 0 段多条 RL 縦位 / 口縁部無文 / 口縁部に突起 1 単位あり、<br>突起から断面三角状の隆帯が 1 本垂下 / 胴部上位に文様帯 /<br>文様帯と縄文施文部を明確に画す隆帯等は無し / 文様帯内縦位<br>隆帯、弧状の隆帯で画す / 隆帯上押圧文、交互刺突文、矢羽<br>根状刺突文を付す / 両端が粘土帯状に幅広になった隆帯を S 字<br>状に貼付 / 区画内沈線による三叉文施文 / 隆帯断面カマボコ状・<br>三角状、隆帯脇 1 本の単沈線が沿う / 底面網代痕無し / 外面胴<br>部中位に黒色の付着物 / 1 層から出土   | 橙～黒褐 /<br>砂粒少量、<br>礫微量  | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第60図9<br>図版54-9               | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>70%   | 高 30.6<br>口 20.2<br>底 8.2<br>厚 1.0   | 円筒形 / 外傾しながら<br>直線的に立ち上がる<br>胴部 / 直線的に外<br>傾する口縁部 / 口唇<br>部は内側に肥厚する<br>/ 平坦な底部    | 地文は 0 段多条 LR 縦位 / 口唇部に突起 1 単位あり / 口縁部無<br>文 / 胴部上位～中位に文様帯 / 口縁部無文部と文様帯内の隆帯<br>の接点は境がなく同化 / 文様帯内隆帯で画す / 隆帯上一部押圧<br>文を付す、隆帯には一部粘土帯状の幅広の部分あり / 隆帯によ<br>る渦巻状の文様 / 沈線による三叉文 / 隆帯断面台形状・カマボ<br>コ状、隆帯脇 1 本の単沈線が沿う  | 橙 / 砂粒中<br>量、礫少量        | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第60図10<br>図版55-10             | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>90%   | 高 32.8<br>口 18.2<br>底 8.0<br>厚 1.3   | 円筒形 / 僅かに内湾<br>しながら立ち上がる<br>胴部 / やや内湾して<br>立ち上がる口縁部 /<br>口唇部内面で断面三<br>角状に肥厚       | 地文は 0 段多条 RL 縦位 / 口唇部に 1 単位の把手 (欠損) / 口縁<br>部無文 / 口縁部と文様帯を横走する 1 本の沈線で画す / 文様帯<br>内は隆帯によって三角状・半円状・楕円状等に画す / 隆帯上は<br>一部に押圧文・沈線が見られる / 区画内は沈線による渦巻文・<br>三叉文・縦位沈線文列、押圧文等施文 / 隆帯断面台形状・カマボ<br>コ状、隆帯脇 1 本または 2 本の単沈線が沿う / 底面網代痕無し  | 明褐～黒褐<br>/ 砂粒中量、<br>礫少量 | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第60図11<br>図版55-11             | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>80%   | 高 35.2<br>口 20.1<br>底 8.6<br>厚 1.0   | 円筒形 / 外傾しながら<br>直線的に立ち上がり<br>上位は内湾する胴<br>部 / 括れる頸部 / 外<br>傾する口縁部 / 内側<br>に肥厚する口唇部 | 地文は 0 段多条 RL 縦位 / 口縁部無文 / 口縁部に突起あり / 文<br>様帯内は隆帯によって半円状・三角状等に画す / 縦位沈線文列、<br>三叉文、交互沈線文列 / 隆帯は一部押圧文・交互刺突文・沈<br>線を付し、粘土帯状の幅広の部分も見られる / 隆帯による楕円<br>状の文様貼付、縁に押圧文内側に沈線による楕円を配す / 文様<br>帯と縄文施文部分は横走する 1 本の隆帯で画す、隆帯上にも縄<br>文がかかる / 隆帯断面カマボコ状・三角状、隆帯脇 1 本の単沈<br>線が沿う / 底面網代痕無し   | 明褐 / 砂<br>粒・礫中量         | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第61図12<br>図版55-12             | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>90%   | 高 30.3<br>口 15.9<br>底 8.1<br>厚 1.2   | 円筒形 / 外傾しながら<br>直線的に立ち上がる<br>胴部 / 直線的に外<br>傾する口縁部 / 口唇<br>部は内側に肥厚する<br>/ 平坦な底部    | 口縁部・胴部下位無文 / 胴部中位に文様帯 / 押圧文を付した隆帯<br>が口唇部から 1 本垂下 / 口縁部無文部と文様帯を 1 本の横走する<br>沈線で画す / 文様帯と胴部下位無文部を明確に画す隆帯等は見ら<br>れない / 文様帯内は押圧文・矢羽根状刺突文・沈線を付した隆帯<br>で不整形に画す / 区画内縦位沈線文列・沈線による渦巻文等の<br>文様・三叉文・三角押文施文 / 隆帯断面三角状・カマボコ状・台<br>形状、隆帯脇 1 本または 2 本の単沈線が沿う / 2 層から出土  | 褐～黒褐 /<br>砂粒中量、<br>礫少量  | 勝坂 3b<br>新式 |

第26表 108号住居跡出土土器一覽2



| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                          | 器形・形態   | 文様・特徴   | 胎土                 | 時期<br>型式   |
|-------------------|----------|---------------------|-------------------------------------|---|---|--------------------|------------|
| 第61図13<br>図版56-13 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>80% | 高 [34.9]<br>口 20.0<br>厚 0.9         | 円筒形 / 外傾しながら直線的に立ち上がる胴部 / 直線的に外傾する口縁部 / 口唇部は内側に肥厚する         | 地文は0段多条 RL 縦位 / 口縁部無文 / 胴部上位に文様帯 / 文様帯と縄文施文部を押し文を付した横走る1本の隆帯で画す / 口縁部から矢羽根状刺突文を付した1本の隆帯が垂下、文様帯内の隆帯に繋がる / 文様帯内は押し文を付した隆帯で不整形に画す / 区画内縦位沈線列・沈線による三叉文・円形刺突文・沈線による渦巻文・横位U字状の文様 / 隆帯による渦巻文の側面に押し文 / 隆帯によるU字状・横位U字状の文様 / 隆帯断面台形状・三角状、隆帯脇1本の単沈線が沿う / 2層から出土  | 明黄褐～黒褐 / 砂粒少量、礫微量  | 勝坂3b<br>新式 |
| 第62図14<br>図版56-14 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>90% | 高 20.2<br>口 16.0<br>厚 0.8           | 円筒形 / 外傾しながら直線的に立ち上がる胴部 / 直線的に外傾する口縁部 / 口唇部内面で断面三角状に肥厚      | 地文は0段多条 RL 斜位 / 口縁部無文 / 口縁部に押し文を付した隆帯を楕円状に貼付した突起と2本の隆帯を垂下させた突起を対称面に付す / 胴部上位～中位に文様帯 / 口縁部と文様帯一部境に交互刺突文横位施文 / 文様帯と縄文施文部を横走る1本の隆帯で画す / 文様帯内隆帯による三角状の区画文、逆U字状の区画文等を配す / 沈線による三叉文・押し文を付した隆帯による渦巻文、沈線を付した隆帯によるU字状・横位U字状の文様 / 隆帯文様間を沈線による三叉文、交互沈線文を充填 / 口縁部と文様帯の境に交互刺突文施文 / 粘土帯状の幅広の隆帯による五角形状の文様 / 隆帯断面カマボコ状・三角状・台形状、隆帯脇1本または2本の単沈線が沿う / 1層から出土 | 褐 / 砂粒少量、礫微量       | 勝坂3b<br>新式 |
| 第62図15<br>図版57-15 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>60% | 高 [26.5]<br>口 28.0<br>厚 1.1         | 円筒形 / やや外傾する胴部 / やや外形する口縁部                                  | 口縁部無文 / 口縁部の対称面に環状の把手、把手から螺旋状の隆帯が垂下 / 胴部は押し文を付した隆帯・連鎖状隆帯で不規則に画す / 区画内は沈線による三叉文・交互刺突文を施文、隆帯による環状の文様 / 隆帯断面台形・カマボコ状、隆帯脇2本1対の沈線が沿う   | 暗褐 / 砂粒中量、礫微量      | 勝坂3b<br>新式 |
| 第63図16<br>図版57-16 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>50% | 高 [22.2]<br>口 16.3<br>厚 1.1         | 円筒形 / ほぼ直立の胴部 / ほぼ直立の口縁部                                    | 地文は RL 縦位 / 口縁部無文 / 口唇部に突起、突起から隆帯が垂下、対称面の口唇部に突起の痕跡あり / 胴部上位から中位に文様帯 / 隆帯によるU字状の文様、連鎖状隆帯、突起からの隆帯に繋がる幅広の弧状の隆帯 / 縦位沈線充填、交互沈線文 / 隆帯断面三角状・カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が総部分と沿わない部分あり   | 暗褐 / 砂粒少量、礫微量      | 勝坂3b<br>新式 |
| 第63図17<br>図版58-17 | 深鉢       | 胴部上位<br>～底部<br>40%  | 高 [34.5]<br>底 (11.5)<br>厚 1.1       | 円筒形か / 外傾しながら立ち上がる胴部 / 平坦な底部                                | 胴部上位から中位に文様帯 / 文様帯内押し文を付した隆帯で三角状に画す / 区画内沈線による三叉文状の文様・三角押し文列充填 / 文様帯下位無文 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本または2本の単沈線が沿う / 2層から出土   | 褐 / 砂粒中量、礫少量、橙色粒多量 | 勝坂3b<br>新式 |
| 第64図18<br>図版58-18 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>80%   | 高 34.4<br>口 20.4<br>底 7.8<br>厚 12.2 | 樽形 / 外傾しながら立ち上がり上位は内湾する胴部 / 下位がやや括れ上位は外傾する口縁部 / 口唇部は内側に肥厚する | 地文は単節 RL 横位・斜位 / 口縁部無文 / 口縁部から1本渦巻文に向けて垂下 / 口縁部と文様帯を横走る1本の沈線で画す / 文様帯と縄文施文部分を押し文を付した横走る1本の隆帯で画す / 胴部上位～中位に文様帯 / 文様帯には押し文を付した隆帯 (一部の隆帯上沈線施文) による渦巻文、楕円状の区画文施文 / 楕円状区画内に三角押し文列 / 文様帯内沈線による三叉文充填、交互沈線文 / 隆帯断面台形状・カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う / 底面に網代痕なし   | 褐 / 砂物中量、礫微量       | 勝坂3b<br>新式 |
| 第64図19<br>図版59-19 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>60%   | 高 [42.2]<br>口 (19.8)<br>厚 0.9       | 屈折底部 / ほぼ直立して立ち上がる胴部 / 外反する頸部 / 内湾する口縁部 / 口唇部先端が内折          | 口縁部無文 / 対面に1単位ずつ把手貼付 (1単位は上部欠損) / 把手は口縁部に楕円形の粘土を貼付し下端から押し文を付した1本の隆帯が垂下、頸部に眼鏡状把手貼付 / 胴部に文様帯 / 文様帯内は押し文・矢羽根状刺突文を付した隆帯による半円状・三角状・不整形な区画施文 / 区画内三叉文・同心円状の文様・縦位沈線列・交互沈線文 / 文様帯下位無文 / 隆帯断面三角状・台形状・カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う  | 暗褐 / 砂粒中量、礫少量      | 勝坂3b<br>新式 |
| 第65図20<br>図版60-20 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>70%   | 高 43.5<br>口 39.0<br>底 10.5<br>厚 1.2 | 外傾しながら立ち上がり中位で内屈し括れる胴部 / 外反する頸部 / 内湾し上位は内側に内掘する口縁部          | 地文は0段多条 RL 斜位 / 口縁部に4単位の把手あり、把手側面に渦巻文・側面に押し文を付した隆帯による区画文・円形の文様・渦巻文、沈線による三叉文、縦位3列の押し文 (1ヶ所) / 胴部中位無文 / 隆帯断面台形状・三角状、隆帯脇に1本又は2本の沈線が沿う部分と沈線が沿わない部分あり  | 暗褐 / 砂粒・礫少量        | 勝坂3b<br>新式 |
| 第65図21<br>図版61-21 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>60% | 高 [21.5]<br>口 (29.2)<br>厚 1.1       | 外傾して広がる胴部 / 外傾して内湾する口縁部                                     | 口縁部に突起状の部分あり (1単位残存) / 斜位の沈線または交互刺突文を付した1本の隆帯で口縁部を画す / 円形の粘土から1本または2本の隆帯が弧状に伸びる文様・三叉文 / 口縁部文様帯下位無文 / 隆帯断面三角状・カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う   | 暗褐 / 砂粒中量・礫少量      | 勝坂3b<br>新式 |
| 第66図22<br>図版61-22 | 深鉢       | 口縁部<br>25%          | 高 [21.0]<br>口 (34.0)<br>厚 1.1       | 上位は内湾し下位は外傾する口縁部  | 口縁部に把手あり、把手から隆帯が垂下、途中で左右に伸び半円状の区画文形成 / 隆帯上は矢羽根状の押し文、縦位、斜位の押し文あり / 区画内は沈線による渦巻文、交互刺突文等の文様を充填 / 円形の窪みのある突起  | 黒褐 / 砂粒中量、礫少量      | 勝坂3b<br>新式 |
| 第66図23<br>図版61-23 | 深鉢       | 胴部<br>70%           | 高 [10.4]<br>厚 1.2                   | 内湾する胴部、上位は外反  | 矢羽根状の押し文を付した隆帯が1本横位に巡る / 横位隆帯から連鎖状隆帯を弧状に貼付 (3単位残存、元は4単位と思われる)、横位隆帯と接する部分に3つの押し文施文 / 弧状の隆帯内は沈線による文様、外側は無文  | 明褐 / 砂粒少量、礫微量      | 勝坂3b<br>新式 |
| 第66図24<br>図版61-24 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>50% | 高 [32.0]<br>口 (22.8)<br>厚 1.5       | 屈折底部 / 中位は外反し上位は内湾する胴部 / 括れる頸部 / 外傾し上位が内折する口縁部              | 地文は自縄自巻 LR 縦位 / 口縁部に大型の把手 / 口縁部無文 / 頸部に交互刺突文を付した隆帯が1本横走 / 2層から出土  | 橙～暗褐 / 砂粒中量、礫少量    | 勝坂3b<br>新式 |

第26表 108号住居跡出土土器一覧3



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                         | 器形・形態   | 文様・特徴   | 胎土                        | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|---------------------|------------------------------------|---|---|---------------------------|-------------|
| 第66図25<br>図版62-25 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>30%   | 高 [15.2]<br>口 24.0<br>厚 0.9        | 外反する頸部 / 内湾する口縁部付近  | 地文は0段多条RL斜位・縦位 / 口縁部に連鎖状隆帯が巡る / 口縁部下端に矢羽根状刺突文・刺突文を付した隆帯が巡る / 沈線を付した隆帯を弧状に配す / 隆帯断面カマボコ状 / 108J と 114J との遺構間接合   | 暗褐 / 砂粒中量、礫微量             | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第67図26<br>図版62-26 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>90% | 高 [21.0]<br>口 12.2<br>厚 1.0        | 内湾する胴部 / 括れる頸部 / 内湾する口縁部 / 口唇部は内側に肥厚                        | 口縁部無文 / 口唇部に半円状の突起1単位 / 突起の対称面に把手1単位、上面に孔があり深さ4cm程、下端に眼鏡状把手、外面に3本の隆帯を横位に貼付 / 一部頸部に交互刺突文を付した隆帯を横位に貼付 / 胴部上位に文様帯、押圧文を付した1本の横位隆帯で下位の無文部と画す / 文様帯内は三角押文・交互刺突文・押圧文を付した隆帯で半円状・三角状・円形状に区画 / 区画内沈線による渦巻文、渦巻文の周囲に弧状の沈線を充填 / 隆帯断面カマボコ状・台形状・三角状、隆帯脇1本の単沈線が沿う | 明褐 / 砂粒中量、礫少量             | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第67図27<br>図版63-27 | 深鉢       | 口縁部<br>90%          | 高 [16.8]<br>口 14.9<br>厚 0.9        | やや外傾して立ち上がる胴部 / 外反する頸部 / 内湾する口縁部 / 口唇部内側に肥厚                 | 地文は0段多条RL縦位・斜位 / 口縁部に対称面に1単位ずつ直状の隆帯垂下、矢羽根状刺突文を付した断面三角状の隆帯は頸部横位隆帯まで垂下、押圧文を付した隆帯は途中欠損のため胴部に垂下する隆帯と繋がるか不明 / 押圧文を付した隆帯1本が頸部に横走 / 頸部から胴部に押圧文を付した隆帯1本が直状に垂下 / 隆帯断面三角状・台形状、頸部隆帯脇沈線無し、垂下する隆帯脇1本の単沈線が沿う  | 明褐 / 砂粒少量、礫微量             | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第67図28<br>図版63-28 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>100%  | 高 25.9<br>口 14.6<br>底 7.5<br>厚 1.1 | 下位はやや内湾し中位からほぼ直立に立ち上がる胴部 / ほぼ直立の口縁部 / 口唇部は内側に肥厚 / 平坦な底部     | 縦位の単沈線を充填 / 底面から6cm程は無文 / 底面に網代痕なし、擦痕が見られる / 外面胴部上位に黒色の付着物が少量見られる   | 橙～黒褐 / 砂粒多量、礫微量           | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第67図29<br>図版63-29 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>90% | 高 20.2<br>口 16.0<br>厚 0.8          | 下位は内湾し上位に括れのある胴部 / 括れる頸部 / 外傾し直状に広がる口縁部 / 口唇部は内側に肥厚         | 口唇部に半円状の把手を貼付し、先端が頸部の横位隆帯に垂下 / 把手縁には押圧文・垂下する隆帯上には矢羽根状刺突文施文 / 半円状の把手の対称面の口唇部から隆帯が1本頸部の眼鏡状把手に垂下 / 頸部・胴部の括れ部に押圧文を付した(一部押圧文無し)1本の隆帯がそれぞれ横走 / 胴部中位に押圧文を付した隆帯による区画文、渦巻文 / 区画内沈線による渦巻文 / 隆帯断面台形状・三角状・カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う / 2層から出土                         | 褐 / 砂粒少量、礫微量              | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第68図30<br>図版63-30 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>70%   | 高 [16.4]<br>口 13.4<br>厚 0.7        | 内湾する胴部 / 括れる頸部 / 内湾しやや外傾する口縁部                               | 口縁部無文 / 把手1単位 / 把手には上面に1つ・口縁部と胴部に1つずつ左右に貫通する孔あり、突起上面から押圧文を付した隆帯が1本垂下、隆帯から左右に複数の沈線施文 / 押圧文を付した隆帯が1本頸部に巡る / 胴部には隆帯上に沈線を加飾した隆帯による文様貼付 / 隆帯断面台形状、隆帯脇1本の単沈線が沿う   | 橙 / 砂粒少量、礫微量              | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第68図31<br>図版63-31 | 深鉢       | 胴部中位～<br>底部<br>80%  | 高 [17.9]<br>底 9.0<br>厚 1.0         | 円筒形か / やや広がりながら立ち上がる胴部 / 平坦な底面                              | 地文は単節RL横位 / 1本の連鎖状隆帯で上位文様帯部分と下位細文部分を画す / 連鎖状隆帯上に2本の隆帯が僅かに残存 / 文様帯部分に三叉文 / 隆帯断面カマボコ状・台形状、隆帯脇位置部1本の沈線が沿う、一部押し付けて貼付 / 底面網代痕なし  | 明褐 / 砂粒少量、礫微量             | 勝坂 3b<br>式  |
| 第68図32<br>図版64-32 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>50% | 高 [22.4]<br>口 (25.7)<br>厚 0.9      | 外反する胴部 / 内湾する口縁部  | 地文はLR縦位・斜位・口縁部上位は羽状か / 口縁部上端の無文部を口縁部に沿う1本の沈線で画す / 胴部上位は無文帯による円形状・渦巻状の文様、下位は逆U字状の無文部分 / 2層から出土   | にぶい黄橙～黒褐 / 砂粒少量、礫微量、赤色粒多量 | 加曽利<br>E4式  |
| 第68図33<br>図版64-33 | 小形<br>深鉢 | 口縁部～<br>胴部中位<br>40% | 高 [7.1]<br>口 10.5<br>厚 0.9         | 外反して広がる胴部、ほぼ直立する口縁部   | 3本の沈線を半円状に施文、口縁と沈線間に縦位沈線を充填 / 半円状の沈線間には一部交互沈線施文 / 沈線による渦巻状文 / 直状の沈線を口縁部から多数垂下 / 文様は全体的に粗い   | 赤褐 / 砂粒少量、礫微量             | 勝坂 3b<br>式  |
| 第68図34<br>図版64-34 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部下位<br>40% | 高 [13.8]<br>口 (31.6)<br>厚 1.0      | 内湾し広がりながら立ち上がる体部 / 波頂部は強く内湾、間の部分はやや内湾強する口縁部 / 上面から見た形状は隅丸方形 | 無文  | 明褐 / 砂粒中量、礫少量             | 阿玉台<br>式か   |
| 第69図35<br>図版64-35 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部下位<br>70% | 高 [18.4]<br>口 38.4<br>厚 0.9        | 下位は外傾し広がる体部 / 内湾し上位はやや外傾する口縁部                               | 口縁上部無文 / 押圧文を付した横位1本の隆帯で体部と文様帯を画す(一部隆帯上押圧文無し) / 押圧文を付した隆帯による楕円状の区画文、区画内縦位沈線列、1本おきに沈線に沿って押圧文施文 / 楕円状区画文間を押し文を付した隆帯による横位S字状の文様を1単位または2単位配す、弧の内側に三角押文列・沈線による渦巻文等施文 / 横位S字状も文様周囲に三叉文充填 / 体部無文 / 隆帯断面台形状・三角状、隆帯脇1本の単沈線が沿う、横位隆帯下端はなで付けて貼付、一部隆帯の剥がれあり    | 褐 / 砂粒中量、礫微量              | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第69図36<br>図版64-36 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>60%   | 高 [7.2]<br>口 (40.0)<br>厚 0.8       | 僅かに外傾する口縁部 / 内湾する体部   | 無文 / 口唇部、内面に赤色顔料残存  | 赤褐 / 砂粒・礫少量               | 勝坂 3b<br>式  |

第26表 108号住居跡出土土器一覧4

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種        | 部位<br>遺存状態               | 法量<br>(cm)                    | 器形・形態   | 文様・特徴   | 胎土                       | 時期<br>型式         |
|-------------------|-----------------|--------------------------|-------------------------------|---|---|--------------------------|------------------|
| 第69図37<br>図版64-37 | 浅鉢              | 口縁部～<br>体部下位<br>80%      | 高 [16.4]<br>口 49.2<br>厚 1.2   | 外傾して広がり上位<br>で内折する体部 / 外<br>傾し広がる口縁部              | 無文 / 外面体部屈曲部上位、内面口縁部に少量の赤色顔料残存 / 2層から出土   | 褐～黒褐 /<br>砂粒・礫中<br>量     | 勝坂 3b<br>新式      |
| 第70図38<br>図版65-38 | 浅鉢              | 口縁部～<br>体部<br>30%        | 高 [19.5]<br>口 (46.7)<br>厚 0.7 | 外傾して広がる体部<br>/ 内湾して上位が直<br>線的に外傾する口縁<br>部         | 地文は単節 RL 斜位 / 口縁部外形部分無文、下位に交互刺突文による蛇行文様の文様が横走 / 体部下位で2本1対の隆帯を波状に貼付し無文部と画す / 上位に隆帯による円形の文様・十字状の文様・渦巻文・橋状把手 / 外面には赤色顔料が多量に残存し、内側には黒色顔料による文様が描かれる          | 明黄褐 / 砂<br>粒中量、礫<br>少量   | 大木 8a<br>式       |
| 第70図39<br>図版65-39 | ミニ<br>チュア<br>土器 | 底部<br>100%               | 高 [2.5]<br>底 4.2<br>厚 0.7     | 平坦な底面   | 残存部無文 / 底面に網代痕無し  | 明褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量    | 中期               |
| 第70図40<br>図版65-40 | 深鉢              | 口縁部<br>破片                | 厚 0.7                         | 内湾する口縁部、口<br>唇部は外傾                                | 2列の結節沈線文による逆U字状の文様  | 褐 / 砂粒・<br>礫微量、雲<br>母少量  | 阿玉台<br>I b 式     |
| 第70図41<br>図版65-41 | 深鉢              | 口縁部<br>破片                | 厚 0.8                         | 内湾する口縁部、口<br>唇部は外傾                                | 隆帯による楕円状の区画文 / 区画隆帯内側に1本の結節沈線文が沿う / 隆帯断面歪んだ三角状～カマボコ状  | にぶい褐 /<br>砂粒・礫・<br>雲母少量  | 阿玉台<br>I b 式     |
| 第70図42<br>図版65-42 | 深鉢              | 口縁部<br>破片                | 厚 0.8                         | 僅かに内湾する口縁<br>部                                    | 棒状の粘土を縦位に貼付、4つの粘土帯を上被せて貼付 / 隆帯による口縁部区画、上端は口縁と同化、下端は1本の隆帯 / 先端に丸みを帯びた工具による角押文を区画に沿って施文、区画内に縦位、V字状に施文 / 隆帯断面三角状 / 2層から出土                                  | 明赤褐 / 砂<br>粒・礫少量         | 阿玉台<br>I b 式     |
| 第70図43<br>図版65-43 | 深鉢              | 口縁部<br>破片                | 厚 0.8～<br>1.3                 | 上位はやや外反、下<br>位はやや内湾する口<br>縁部                      | 口縁部に沿う押し引状の爪形文、内側に沈線と沈線によるU字状の文様施文 / 内側に細い沈線を充填   | 黒褐 / 砂<br>粒・礫微量、<br>雲母少量 | 阿玉台<br>III 式     |
| 第70図44<br>図版65-44 | 深鉢              | 口縁部付<br>近<br>破片          | 厚 1.2                         | 内湾する口縁部付近   | 眼鏡状の把手、孔は無く貫通していない / 把手から隆帯が楕円状に伸びる、隆帯内側に沿って幅広角状の押圧文施文 / 隆帯断面三角状～台形状  | にぶい褐 /<br>砂粒・礫微<br>量     | 阿玉台<br>III 式     |
| 第70図45<br>図版65-45 | 深鉢              | 口縁部<br>破片                | 厚 1.0                         | 内湾する口縁部 / 把<br>手はほぼ直立                             | 地文は単節 RL 横位・斜位 / 中央に楕円形の孔のある把手、上部は欠損しているが左右に貫通する孔の痕跡あり・上面にも縄文施文 / 眼鏡状把手、縄文は眼鏡状把手側面にも施文  | 褐 / 砂粒中<br>量、礫微量         | 阿玉台<br>式の系<br>統か |
| 第70図46<br>図版65-46 | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部<br>破片         | 厚 1.0                         | ほぼ直立する胴部 /<br>強く外反する頸部 /<br>内湾する口縁部               | 口唇部に押圧文施文 / 口縁部無文 / 口縁部と頸部を横位1本の隆帯で画した痕跡があるが隆帯が器面とほぼ同化 / 頸部に1本の沈線が巡る / 押圧を付した隆帯を逆U字状に貼付 / 隆帯に沈線が沿い、幅広角押文と爪形文(温泉マーク文)、内側に沈線による三叉文 / 隆帯断面台形状、隆帯脇1本の単沈線が沿う | 褐 / 砂粒微<br>量、礫少量         | 勝坂 2b<br>式       |
| 第70図47<br>図版66-47 | 深鉢              | 口縁部<br>破片                | 厚 1.0                         | 内湾する口縁部   | 口縁部に中空の把手、外面の孔1つ、内面の孔2つ / 外面は押圧文を付した隆帯を貼付 / 内面は上部に縦位の三角押文を充填、側面に爪形文を施文 / 隆帯断面台形状・カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付 / 残存部口縁無文  | 黒褐 / 砂<br>粒・礫少量          | 勝坂 2<br>～3 式     |
| 第71図48<br>図版66-48 | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部<br>破片         | 厚 1.0                         | ほぼ直立する胴部 /<br>ほぼ直立する口縁部                           | 地文は0段多節 RL 斜位 / 口縁部無文 / 胴部上位に文様帯あり、隆帯によるU字状の区画・隆帯右側は幅広の連鎖状隆帯・左側隆帯上には交互の押圧文、矢羽根状刺突文 / 区画内沈線による三叉文 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う                               | 褐 / 砂粒中<br>量、礫微量         | 勝坂 3b<br>新式      |
| 第71図49<br>図版66-49 | 深鉢              | 口縁部<br>破片                | 厚 1.0                         | 内湾する口縁部 / 内<br>側に肥厚し外反する<br>口唇部                   | 口縁部上部無文 / 粘土瘤を突起状に貼付、紐状の隆帯による渦巻文施文 / 紐状の隆帯を波状に貼付  | 暗褐 / 砂粒<br>中量、礫・<br>雲母微量 | 勝坂 3b<br>新式      |
| 第71図50<br>図版66-50 | 深鉢              | 胴部<br>破片                 | 厚 1.3                         | 上位内湾、下位はや<br>や外傾する胴部                              | 押圧文を付したC字状の隆帯を貼付し、上端は器面と同化する楕円状の区画文 / 区画内側に沈線による横位S字状の文様、横位3本の沈線施文 / 隆帯断面台形状、隆帯脇外側などで付けて貼付、内側沈線が沿う  | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量    | 勝坂 3b<br>新式      |
| 第71図51<br>図版66-51 | 深鉢              | 口縁部付<br>近～胴部<br>上位<br>破片 | 厚 0.8                         | やや外傾する胴部上<br>位 / 内湾する口縁部<br>付近                    | 地文は単節 RL 斜位 / 2本1対の隆帯で渦巻状、波状の文様施文 / 隆帯断面角状・カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付、接着は甘い  | 褐 / 砂粒・<br>礫少量           | 勝坂 3b<br>新式      |
| 第71図52<br>図版66-52 | 深鉢              | 胴部<br>破片                 | 厚 1.2                         | 外反する胴部  | 地文は撚糸 R、横位隆帯上部横位施文、下部縦位施文 / 押圧文を付した隆帯が直状に垂下、横位波状の隆帯と接する、逆T字状 / 隆帯断面カマボコ状、直状の隆帯脇と波状隆帯上端などで付けて貼付  | 黒褐 / 砂<br>粒・礫中量          | 勝坂 3b<br>新式      |
| 第71図53<br>図版66-53 | 深鉢              | 胴部<br>破片                 | 厚 1.1                         | 外傾する胴部  | 幅広の隆帯を弧状に貼付、上部と下部で幅が異なる、側面に押圧文 / 縦位隆帯と弧状の隆帯を横位の隆帯が繋ぐ、横位隆帯上1本の沈線施文・弧状の隆帯との接点に押圧文施文 / 隆帯断面台形状、隆帯脇1本の単沈線が沿う  | にぶい黄褐 /<br>砂粒・礫<br>中量    | 勝坂 3b<br>新式      |
| 第71図54<br>図版66-54 | 深鉢              | 把手部<br>破片                | 厚 0.7                         | 内湾しながら外傾す<br>る把手部 / 縁は内側<br>に肥厚 / 器を半載し<br>たような形状 | 外面に矢羽根状刺突文を付した隆帯が垂下 / 隆帯の左右に半球状の粘土瘤貼付   | 黒褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量    | 勝坂 3b<br>式       |
| 第71図55<br>図版66-55 | 深鉢              | 胴部<br>破片                 | 厚 1.0                         | ほぼ直率する胴部  | 2本の隆帯を捻って1本にした隆帯を直状に垂下 / 一部押圧文を付した隆帯による渦巻文 / 沈線による三叉文 / 隆帯断面台形状、隆帯脇1本の単沈線が沿う  | 褐 / 砂粒中<br>量、礫微量         | 勝坂 3b<br>式       |

第26表 108号住居跡出土土器一覧5

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種        | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm) | 器形・形態                            | 文様・特徴  | 胎土                | 時期<br>型式 |
|-------------------|-----------------|--------------------|------------|----------------------------------|--|-------------------|----------|
| 第71図56<br>図版66-56 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚1.0       | 外傾する胴部                           | 連続隆帯を縦位に貼付 / 一部隆帯脇沈線が沿う  | 明赤褐 / 砂粒・礫微量      | 勝坂3b式    |
| 第71図57<br>図版66-57 | 深鉢              | 把手部<br>破片          | 厚2.4       | ほぼ直立する把手                         | 波頂部は孔が左右に貫通、波頂部下部は内外面に孔が貫通 / 外面に押圧文を付した隆帯を波状に貼付、先端は渦巻く・隆帯側に半球状の窪みあり / 把手縁に沿う押圧文 / 沈線による三叉文・沈線充填 / 内面一部に斜位沈線施文  | 明褐 / 砂粒多量、礫微量     | 勝坂3式     |
| 第71図58<br>図版66-58 | 深鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚0.9       | 内湾する口縁部 / 内側に肥厚する口唇部             | 口唇部に孔のある把手 / 把手上面に粘土が剥落した痕跡あり / 把手両側面に押圧文を付した隆帯による加飾 / 残存部口縁無文   | にぶい黄褐 / 砂粒・礫中量    | 勝坂3式     |
| 第71図59<br>図版66-59 | 深鉢              | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚1.0       | 外反する口縁部～頸部                       | 眼鏡状把手 / 把手下部に1本の隆帯を横位波状に貼付 / 把手下部に押圧文を付した隆帯が僅かに残存 / 2本の垂下する沈線間に矢羽根状の刺突文  | 暗褐 / 砂粒少量・礫微量     | 勝坂3式     |
| 第71図60<br>図版66-60 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚1.3       | ほぼ直立する胴部                         | 地文は単節RL横位 / 横位隆帯で胴部下部を画す / 上部は押圧文を付した隆帯による渦巻文・渦巻文中心部に円形刺突文・隆帯に沿う沈線 / 隆帯周囲に沈線による文様を充填か / 横位隆帯断面カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付 / 渦巻文の隆帯断面台形状、隆帯脇1本の単沈線が沿う                           | 褐 / 砂粒少量、礫微量      | 勝坂3式     |
| 第71図61<br>図版66-61 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚1.3       | ほぼ直立する胴部                         | 地文は撚糸L縦位 / 押圧文を付した隆帯を横位に貼付 / 108J-61、62は同一個体   | 明褐 / 砂粒・礫少量       | 勝坂3式     |
| 第71図62<br>図版67-62 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚1.1       | 下位はやや内湾し上位はほぼ直立する胴部 / 平坦な底部      | 地文は撚糸L縦位 / 108J-61、62は同一個体 / 3層から出土  | 明褐 / 砂粒・礫少量       | 勝坂3式     |
| 第72図63<br>図版67-63 | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚0.9       | 内傾する胴部 / 外傾する口縁部                 | 地文はRRの反撚 / 口縁部に沿って1本の沈線施文、途中までは2本 / 口縁に沿って沈線による渦巻状文、U字状の文様の間に2本の沈線を加えた文様等様々な文様を施文  | 橙 / 砂粒・礫中量、雲母多量   | 勝坂式期並行か  |
| 第72図64<br>図版67-64 | 深鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚1.1       | 内湾する口縁部                          | 地文は撚糸L横位 / 隆帯による口縁部区画、上端1本、下端欠損 / 2本の隆帯の先端が突起状になり渦巻文施文、渦巻文下位から弧状の隆帯垂下 / 隆帯断面カマボコ状  | 暗褐 / 砂粒中量、礫少量     | 加曾利E1b式  |
| 第72図65<br>図版67-65 | 深鉢              | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚1.0       | 外反する頸部 / 内湾する口縁部                 | 地文は撚糸L縦位 / 隆帯による口縁部区画、上端1本、下端1本 / 2本1対の隆帯による文様 / 1本の短い縦位隆帯 / 隆帯断面カマボコ状 / 頸部無文  | 黒褐 / 砂粒中量、礫微量     | 加曾利E1b式  |
| 第72図66<br>図版67-66 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚1.1       | 内湾する胴部                           | 地文は撚糸L縦位 / 1本の隆帯が波状に垂下 / 2本1対の隆帯、1本の隆帯が直状に垂下 / 隆帯断面カマボコ状 / 内面に黒色の付着物が少量残存  | 褐 / 砂粒中量、礫少量      | 加曾利E1b式  |
| 第72図67<br>図版67-67 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚1.0       | やや内湾する胴部                         | 地文は単節RL縦位 / 2本1対の隆帯による文様 / 隆帯断面台形状～カマボコ状   | 褐 / 砂粒少量、礫微量      | 加曾利E1c式  |
| 第72図68<br>図版67-68 | 深鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚0.8       | 内湾する口縁部                          | 口縁部に把手あり、左右の孔が貫通、正面には沈線による渦巻文 / 区画内縦位沈線充填 / 口縁に沿って先端に渦巻文のある沈線施文  | にぶい黄橙 / 砂粒・礫少量    | 加曾利E1～2式 |
| 第72図69<br>図版67-69 | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚0.6       | やや内湾する胴部 / 強く外反して広がる頸部 / 内湾する口縁部 | 地文は単節RL縦位 / 口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す / 2本1対の弧状の隆帯先端に渦巻文施文、1つは突起状 / 口縁部区画内縦位沈線充填 / 頸部無文 / 頸部と胴部を横走する3本1対の沈線で画す / 胴部に3本1対の沈線が直状に垂下 (4単位残存) / 隆帯断面角状・カマボコ状 / 111J出土の破片と遺構間接合 | 暗褐 / 砂粒・礫微量       | 加曾利E2a式  |
| 第72図70<br>図版67-70 | 深鉢              | 口縁部付<br>近～胴部<br>破片 | 厚1.0       | 内湾する口縁部付近～胴部                     | 地文は横位隆帯上部単節RL横位・斜位、下部条線文縦位 / 横位隆帯の上下で地文が異なる / 上部は隆帯を弧状に貼付、内側にも縄文施文 / 隆帯断面台形状・カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付   | にぶい黄褐 / 砂粒少量、礫微量  | 加曾利E3式か  |
| 第72図71<br>図版67-71 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚1.0       | 内湾する胴部                           | 地文は沈線縦位 / 押圧文を付した隆帯を弧状に貼付  | 明褐 / 砂粒・礫少量       | 曾利I式     |
| 第72図72<br>図版67-72 | 深鉢              | 頸部～胴<br>部<br>破片    | 厚0.9       | 内湾する胴部 / 外反する頸部                  | 押圧文を付した隆帯が2本直状に垂下 / 隆帯の左右から紐状の隆帯が頸部に巡る / 弧状の沈線を充填 / 隆帯断面カマボコ状  | 暗褐～赤褐 / 砂粒少量、礫微量  | 曾利I～II式  |
| 第72図73<br>図版67-73 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚0.9       | 外反する胴部                           | 地文は縦位条線文、胴部に施文 / 3本1対の沈線による連弧文、2段 / 3本1対の沈線が横位に巡る  | 褐 / 砂粒少量、礫中量      | 連弧文2b段階  |
| 第72図74<br>図版67-74 | 浅鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚1.0       | 外傾する口縁部                          | 無文 / 口唇部に少量、内面に多量の赤色顔料が残存  | 明褐～黒 / 砂粒・礫微量     | 中期中葉～後葉  |
| 第72図75<br>図版67-75 | 浅鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚1.0       | 外反する口縁部 / 外側に肥厚する口唇部             | 無文 / 外面、口唇部、内面に多量の赤色顔料が残存  | にぶい褐～黒 / 砂粒微量、礫少量 | 中期中葉～後葉  |
| 第72図76<br>図版67-76 | 浅鉢              | 胴部<br>破片           | 厚0.9       | 外傾する胴部                           | 残存部無文 / 内面に赤色顔料が多く残存   | 黒 / 砂粒少量、礫微量      | 中期中葉～後葉  |
| 第72図77<br>図版67-77 | ミニ<br>チュア<br>土器 | 口縁部<br>破片          | 厚0.8       | やや外傾する口縁部                        | 口縁部付近に2ヶ所突起状の膨らみが見られる / 器面全体に凹凸あり  | 明褐 / 砂粒・礫微量       | 中期       |
| 第72図78<br>図版68-78 | ミニ<br>チュア<br>土器 | 胴部<br>破片           | 厚0.8       | 上部は外反し下部は内湾する胴部                  | 地文は無節L横位 / 横位2本の沈線、沈線間に角押文でU字状の文様施文、工具は先端にやや丸みを帯びる / やや小形の土器   | 褐 / 砂粒少量・礫微量      | 中期か      |

第26表 108号住居跡出土土器一覧6



| 挿図番号<br>図版番号        | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴  | 胎土                | 時期<br>型式       |
|---------------------|----------|----------|-----------------|-----------|---|-------------------|----------------|
| 第73図79<br>図版68-79   | 土器<br>片錘 | 30%      | [3.1]/4.3/0.8   | 12.2      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁の磨耗は顕著/胴部片利用/結節沈線文   | にぶい黄褐/砂粒・礫微量      | 阿玉台式か          |
| 第73図80<br>図版68-80   | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.3/3.7/1.0     | 19.1      | 楕円形か/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/爪形文に波状沈線が沿う   | 暗赤褐/砂粒・礫微量        | 勝坂2b式          |
| 第73図81<br>図版68-81   | 土器<br>片錘 | 90%      | [4.4]/3.3/1.2   | 26.5      | 方形/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/爪形文に波状沈線が沿う   | 明褐/砂粒・礫微量         | 勝坂2b式          |
| 第73図82<br>図版68-82   | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.5/3.1/1.0     | 16.1      | 楕円形か/抉部は2ヶ所/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/押圧文を付した隆帯貼付/半截竹管状工具の腹面による平行沈線あり、隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う  | にぶい黄褐/砂粒少量、礫微量    | 勝坂3式           |
| 第73図83<br>図版68-83   | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.1/3.8/1.8     | 46.9      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/口縁部片利用/弧状の隆帯   | 明褐/砂粒中量、礫微量       | 勝坂3式           |
| 第73図84<br>図版68-84   | 土器<br>片錘 | 60%      | [3.9]/3.5/1.0   | 22.8      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/押圧文を付した隆帯貼付、隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う                     | 黒褐/砂粒少量、礫微量       | 勝坂3式           |
| 第73図85<br>図版68-85   | 土器<br>片錘 | 50%      | [3.3]/3.7/1.1   | 18.2      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は磨耗が未発達/胴部片利用/地文は0段多条RL施文  | 明褐/砂粒・礫微量         | 勝坂3式           |
| 第73図86<br>図版68-86   | 土器<br>片錘 | 完形       | 6.6/4.1/1.3     | 59.3      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/地文は燃糸文Lか/隆帯貼付、隆帯断面台形、隆帯脇などで付けて貼付                           | 褐/砂粒少量、礫微量        | 勝坂3<br>～加曾利E1式 |
| 第73図87<br>図版68-87   | 土器<br>片錘 | 完形       | 7.9/5.4/1.0     | 66.7      | 楕円形か/抉部は2ヶ所/周縁はほぼ磨耗/口縁部付近の破片利用/地文は燃糸文L横位/2本1対の隆帯による弧状の文様/横位1本の隆帯の先端が丸まる文様/隆帯断面カマボコ状 | 暗灰黄/砂粒少量、礫微量      | 加曾利E1a式        |
| 第73図88<br>図版68-88   | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.3/3.1.2       | 25.8      | 不整形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/地文は複節LRL/沈線施文  | にぶい黄褐/砂粒・礫微量      | 加曾利E式          |
| 第73図89<br>図版68-89   | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.8/2.8/1.0     | 14.6      | 方形か/抉部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/地文は燃糸L施文   | 黒褐/砂粒少量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図90<br>図版68-90   | 土器<br>片錘 | 90%      | [4.5]/3.1/1.0   | 16.7      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/地文は燃糸L   | にぶい黄橙/砂粒少量、礫微量    | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図91<br>図版68-91   | 土器<br>片錘 | 80%      | 4.2/[3.5]/1.1   | 17.6      | 方形か/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/地文は単節RL施文  | にぶい黄橙/砂粒・礫微量      | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図92<br>図版68-92   | 土器<br>片錘 | 60%      | 3.2/[3.1]/1.3   | 15.4      | 楕円形か/抉部は1ヶ所残存、もう1ヶ所は非常に不明瞭だが反対側に抉部と思われる痕跡が僅かに残る/胴部片利用/地文は単節RL施文                     | 橙/砂粒中量、礫微量        | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図93<br>図版68-93   | 土器<br>片錘 | 完形       | 8.0/4.6/0.8     | 62.2      | 楕円形か/抉部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/口縁部片利用/無文/外面に多量、口唇部と内面に微量の赤色顔料残存                              | 暗褐/砂粒中量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図94<br>図版68-94   | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.8/3.2/1.2     | 32.1      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/口縁部片利用/無文/赤色顔料残存   | 暗褐/砂粒中量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図95<br>図版68-95   | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.7/4.2/0.9     | 34        | 楕円形/抉部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/無文  | 明褐/砂粒少量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図96<br>図版68-96   | 土器<br>片錘 | 完形       | 4.8/3.9/0.8     | 17.5      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/無文  | 暗褐/砂粒・礫微量         | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図97<br>図版68-97   | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.8/3.2/0.8     | 15.6      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文  | にぶい黄褐/砂粒・礫微量、雲母中量 | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図98<br>図版68-98   | 土器<br>片錘 | 70%      | 3.8/3.6/[1.0]   | 14.4      | 方形か/抉部は2ヶ所/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/外面剥落のため文様不明  | 褐/砂粒中量、礫微量        | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図99<br>図版68-99   | 土器<br>片錘 | 80%      | [6.0]/5.1/0.9   | 40.1      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文   | 黒褐/砂粒中量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図100<br>図版68-100 | 土器<br>片錘 | 30%      | [4.9]/[5.6]/1.0 | 36.3      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/残存する周縁はほぼ磨耗/胴部片利用/無文   | 赤褐/砂粒・礫少量         | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図101<br>図版68-101 | 土器<br>片錘 | 40%      | [3.9]/5.3/0.8   | 24.8      | 楕円形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文  | 黒褐/砂粒・礫微量         | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図102<br>図版68-102 | 土器<br>片錘 | 30%      | [4.6]/5.4/0.9   | 25.2      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/無文/内面に赤色顔料が僅かに残存                                       | にぶい黄褐/砂粒中量、礫微量    | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図103<br>図版68-103 | 土器<br>片錘 | 70%      | [4.2]/3.9/0.9   | 19.2      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/無文   | 黒褐/砂粒少量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図104<br>図版68-104 | 土器<br>片錘 | 30%      | [2.5]/4.5/0.8   | 12.1      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/無文/縁に焼成前穿孔の孔と思われる痕跡あり、内面微量の赤色顔料残存                      | 黒/砂粒中量、礫微量        | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図105<br>図版68-105 | 土器<br>片錘 | 50%      | [3.3]/3.3/0.8/  | 11.6      | 方形/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文  | 暗褐/砂粒・礫微量         | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図106<br>図版68-106 | 土器<br>片錘 | 40%      | [3.5]/[4.2]/1.1 | 14.2      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/無文   | にぶい黄橙/砂粒中量、礫微量    | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図107<br>図版68-107 | 土製<br>円盤 | 完形       | 5.6/5.2/1.0     | 34.5      | 楕円形/周縁は顕著に磨耗/底部片利用/網代痕あり  | にぶい黄褐/砂粒中量、礫微量    | 中期中葉<br>～後葉    |
| 第73図108<br>図版68-108 | 土製<br>円盤 | 完形       | 4.8/3.6/1.1     | 28.3      | 方形/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文   | 灰黄褐/砂粒・礫微量        | 中期中葉<br>～後葉    |

第27表 108号住居跡出土土製品一覧



| 挿図番号<br>図版番号        | 器種     | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴   |
|---------------------|--------|---------|--------|-------|--------|-------|--|
| 第74図109<br>図版68-109 | 楔形石器   | 黒曜石     | 18.4   | 13.2  | 3.9    | 0.9   | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第74図110<br>図版68-110 | 打製石斧   | 頁岩      | 80.9   | 32.0  | 13.5   | 50.9  | 短冊形 / 基部と刃部は折れて欠損している / 表面に節理面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる / 右側縁もほぼ全面の稜上に潰れが認められ、一部が面状になっている |
| 第74図111<br>図版68-111 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 72.1   | 35.2  | 19.0   | 68.6  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる   |
| 第74図112<br>図版68-112 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 99.4   | 40.5  | 17.9   | 87.4  | 短冊形 / 基部は一部折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の中央部の稜上に潰れが認められ、一部が面状になっている / 右側縁の潰れはほとんど見られない                  |
| 第74図113<br>図版68-113 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 97.8   | 45.6  | 14.2   | 92.9  | 短冊形 / 基部は折れて欠損している / 左側縁中央部が磨滅している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の中央部の稜上に潰れが認められる / 右側縁の潰れはほとんど見られない               |
| 第74図114<br>図版68-114 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 101.0  | 46.6  | 11.5   | 61.8  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない   |
| 第74図115<br>図版69-115 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 73.1   | 43.4  | 16.1   | 51.5  | 撥形 / 基部は一部折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない  |
| 第74図116<br>図版69-116 | 打製石斧   | 緑色凝灰岩   | 84.9   | 47.1  | 21.8   | 118.1 | 撥形 / 磨製石斧の転用 / 基部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが認められる   |
| 第74図117<br>図版69-117 | 打製石斧   | 片状砂岩    | 91.6   | 46.2  | 21.1   | 102.2 | 撥形 / 基部と刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の稜上に局所的に潰れが僅かに認められる   |
| 第74図118<br>図版69-118 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 92.2   | 68.0  | 22.4   | 147.8 | 撥形 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない   |
| 第74図119<br>図版69-119 | 打製石斧   | 砂岩      | 100.0  | 63.2  | 31.8   | 234.2 | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、左側縁が面状になっている / 右側縁の潰れはほとんど見られない      |
| 第74図120<br>図版69-120 | 打製石斧   | 砂岩      | 56.7   | 41.2  | 19.8   | 50.8  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁に潰れはほとんど見られない / 右側縁は局所的に潰れが僅かに認められる                                 |
| 第74図121<br>図版69-121 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 55.3   | 37.5  | 14.9   | 45.9  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁に潰れはほとんど見られない / 右側縁は局所的に潰れが僅かに認められる                      |
| 第75図122<br>図版69-122 | 打製石斧   | 砂岩      | 59.7   | 42.4  | 25.4   | 83.0  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、面状になっている                                |
| 第75図123<br>図版69-123 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 57.1   | 45.4  | 13.3   | 40.9  | 平面形状は不明 / 刃部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない   |
| 第75図124<br>図版69-124 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 24.2   | 14.6  | 3.8    | 1.2   | 背面側右側縁に連続的な二次的剥離が認められる   |
| 第75図125<br>図版69-125 | 二次加工剥片 | 緑泥片岩    | 92.3   | 78.1  | 12.8   | 100.9 | 表面側末端に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第75図126<br>図版69-126 | 石核     | 黒曜石     | 21.4   | 21.7  | 14.7   | 6.7   | 正面側において、上面を打面として剥片が行われている  |

第28表 108号住居跡出土石器一覧

### 109号住居跡

#### 遺構 (第76・77図)

[位置] (C・D-4・5) グリッド。

[検出状況] 213・215 Dを切り、5・6方に切られる。

[構造] 平面形：ほぼ円形。主軸方位：N-6°-W。P5とP11、P7とP9のそれぞれの中点と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸610cm / 短軸597cm / 深さ52～70cm。壁溝：2条検出されたが、1条の部分もある。いずれも壁溝の中に壁柱穴を巡らせている。上幅11～25・30～46cm / 下幅5～13・5～28cm / 床面からの深さ5～21・2～20cm。壁：約63～80°でやや急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦である。中央部分に硬化面を確認した。直床である。炉：石囲炉。被熱範囲の北側部分の掘り込みを囲むようにやや楕円形に石を配置している。東側にも被熱範囲が認め

られるが建替によるものと思われる。石皿（第84図91・92）が破損後、炉石として転用されている。長軸残存長66cm／短軸73cm／床面からの深さ30cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：51本検出した。P1～4、P5～7、P8・9、P10・11、P12・13を主柱穴ととらえ、5本柱建物を想定する。周溝と主柱穴の位置関係から、建て替え1回、拡張1回を想定する。

[覆 土] 6層に分層できた。1・2層に遺物を多量に含む。

[遺 物] 土器、土製品、石器が出土した。小形の深鉢形土器（第79図7）と深鉢形土器（第80図19）はそれぞれ103Jとの遺構間接合、深鉢形土器（第79図13）は118Jより同一個体と思われる破片が出土している。

[時 期] 中期後葉期（加曾利E1c式期）。

**遺 物**（第78～84図、図版70～75、第29～31表）

[土 器]（第78～80図・第81図29～39、図版70～73、第29表）

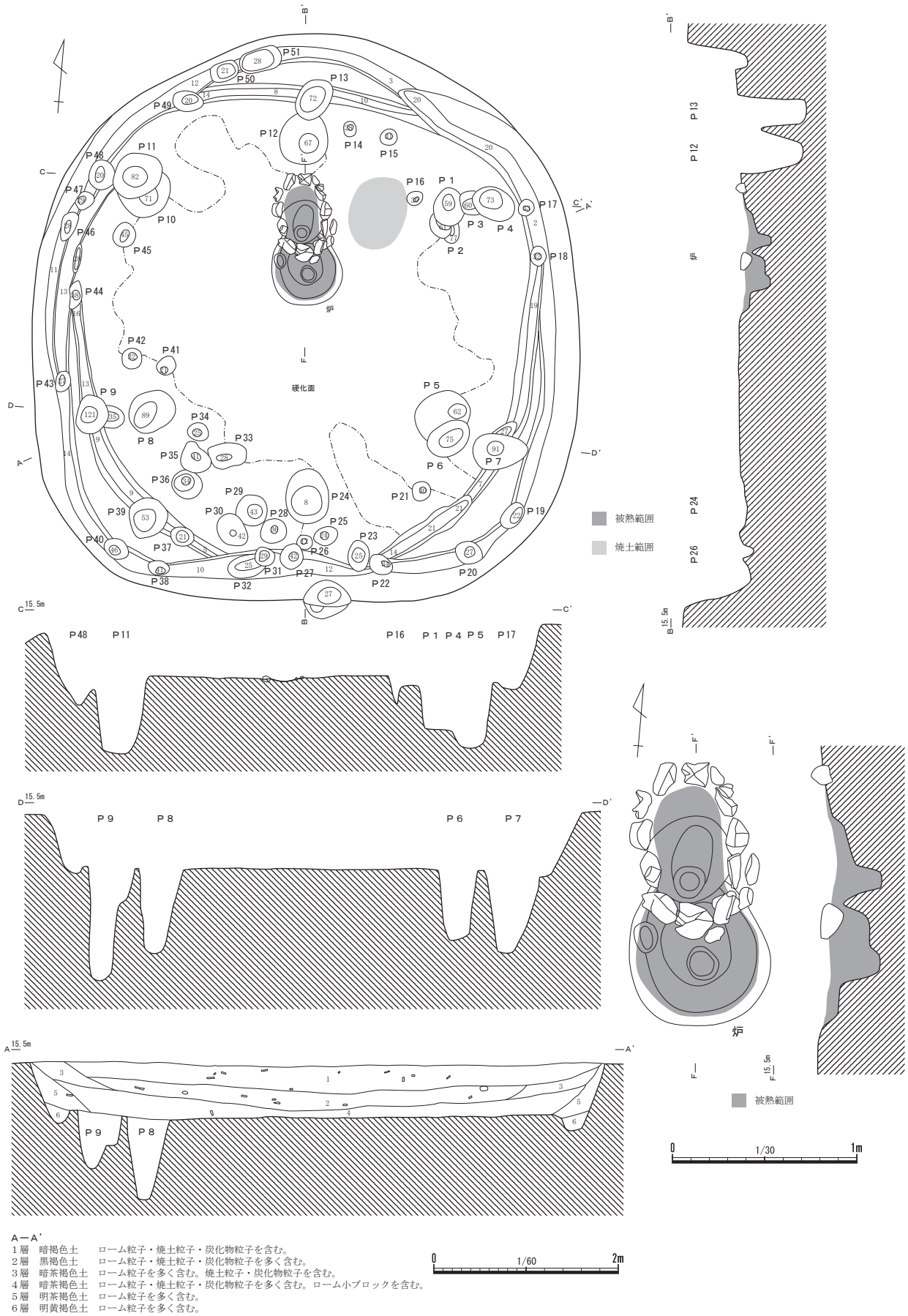
復元個体12点、破片資料27点を図示した。1は加曾利E1c式の深鉢形土器である。キャリパー形を呈し、燃糸文を地文とする。頸部から口縁部にかけての歪みが大きく、口縁部では位置によって4cm程の高低差がある。2は加曾利E1c式の深鉢形土器である。口縁部区画内には隆帯による渦巻文を施文する。頸部無文帯はなく、胴部には沈線によるM字状の文様を付す。3は加曾利E1c式の深鉢形土器である。燃糸文を地文とする。口縁部は無文で、2本1対の隆帯が頸部に横走り、胴部に垂下する。4は加曾利E1～2式の深鉢形土器である。胴部には直状の隆帯と波状の沈線が垂下する。5は曾利Ⅱ式の深鉢形土器である。口縁部は無文で、頸部には紐状の隆帯を斜格子状に施文する。6～8は小形の深鉢形土器である。6は加曾利E1式で、胴部に波状の隆帯が垂下する。7は加曾利E式で、103Jとの遺構間接合である。8は加曾利E式と思われる土器で、2本1対の隆帯で口縁部を画し、縦位沈線を充填する。9・10は加曾利E1式の浅鉢形土器である。いずれも沈線による長形状の渦巻文を施文する。11は加曾利E2式の浅鉢形土器である。縄文を地文とし、区画何には渦巻文を施文する。12はミニチュア土器である。中期にあたると思われる。沈線による渦巻文等の文様を施す。13は諸磯c式の深鉢形土器である。118Jより同一個体と思われる破片が出土している。14は阿玉台式、15～22は勝坂式、23～32は加曾利E式、33・34は曾利式、35・36は連弧文土器の深鉢形土器である。19は103Jより出土の破片と遺構間接合している。37は勝坂3式と思われるもの、38は中期中葉～後葉の浅鉢形土器である。39は小形の鉢と思われる土器で、中期にあたると思われる。

[土 製品]（第81図40～53・第82図54～60、図版73、第30表）

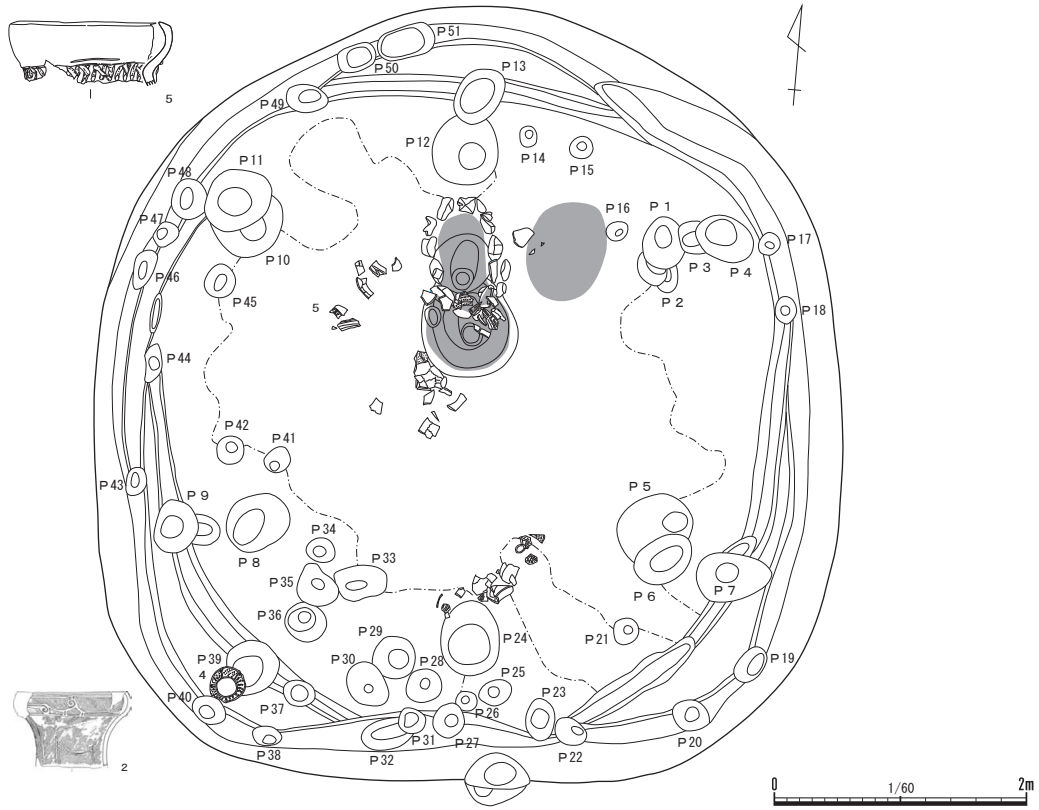
21点を図示した。40～58は土器片錘、59・60は土製円盤である。

[石 器]（第82図61～74・第83・84図、図版73～75、第31表）

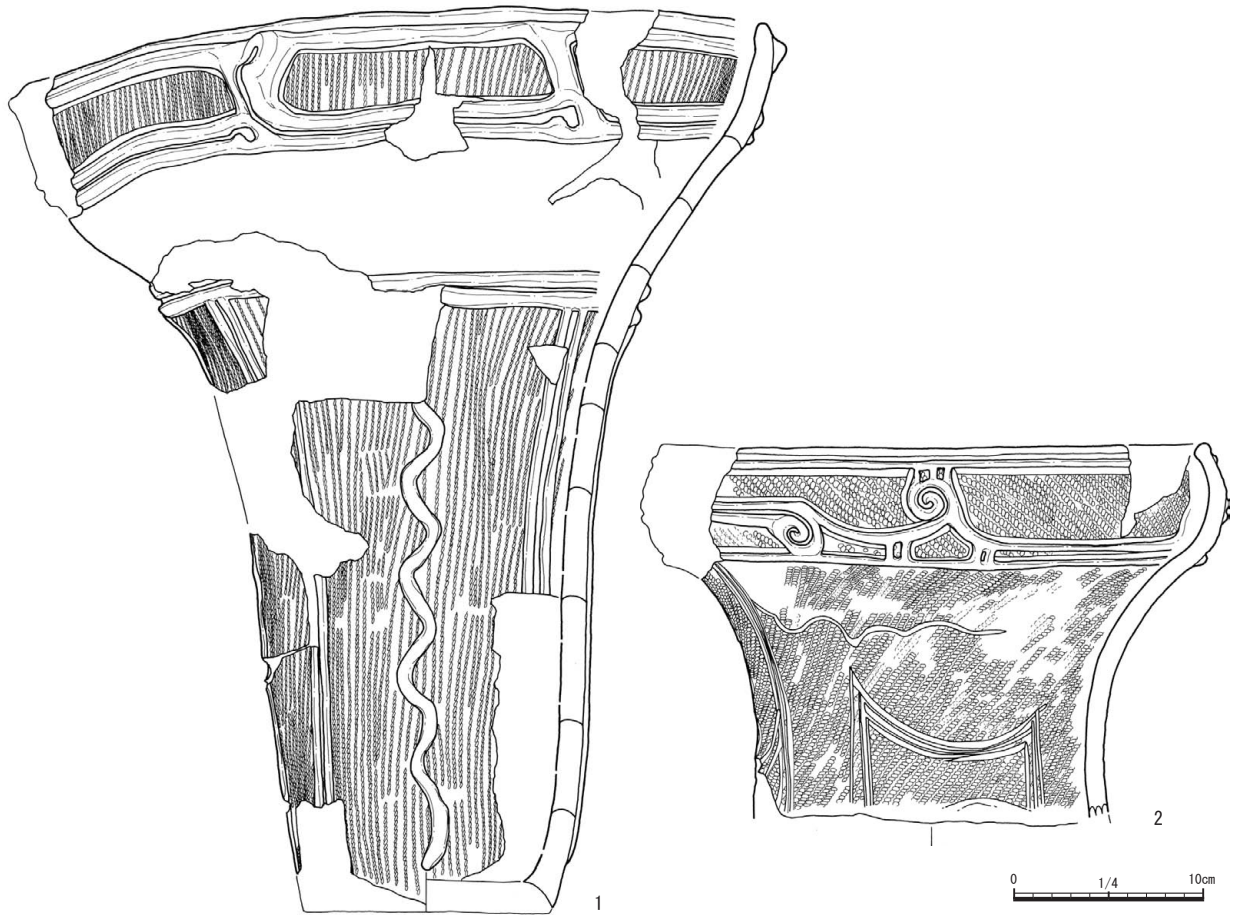
32点を図示した。61～64は石鏃である。65は石錐である。66・67は楔形石器である。68～82は打製石斧である。83～86は二次加工剥片である。87・88は石核である。89は剥片である。90は磨+敲石である。91・92は石皿であり、破損後、炉石として転用されている。。



第76図 109号住居跡 (1/60・1/30)

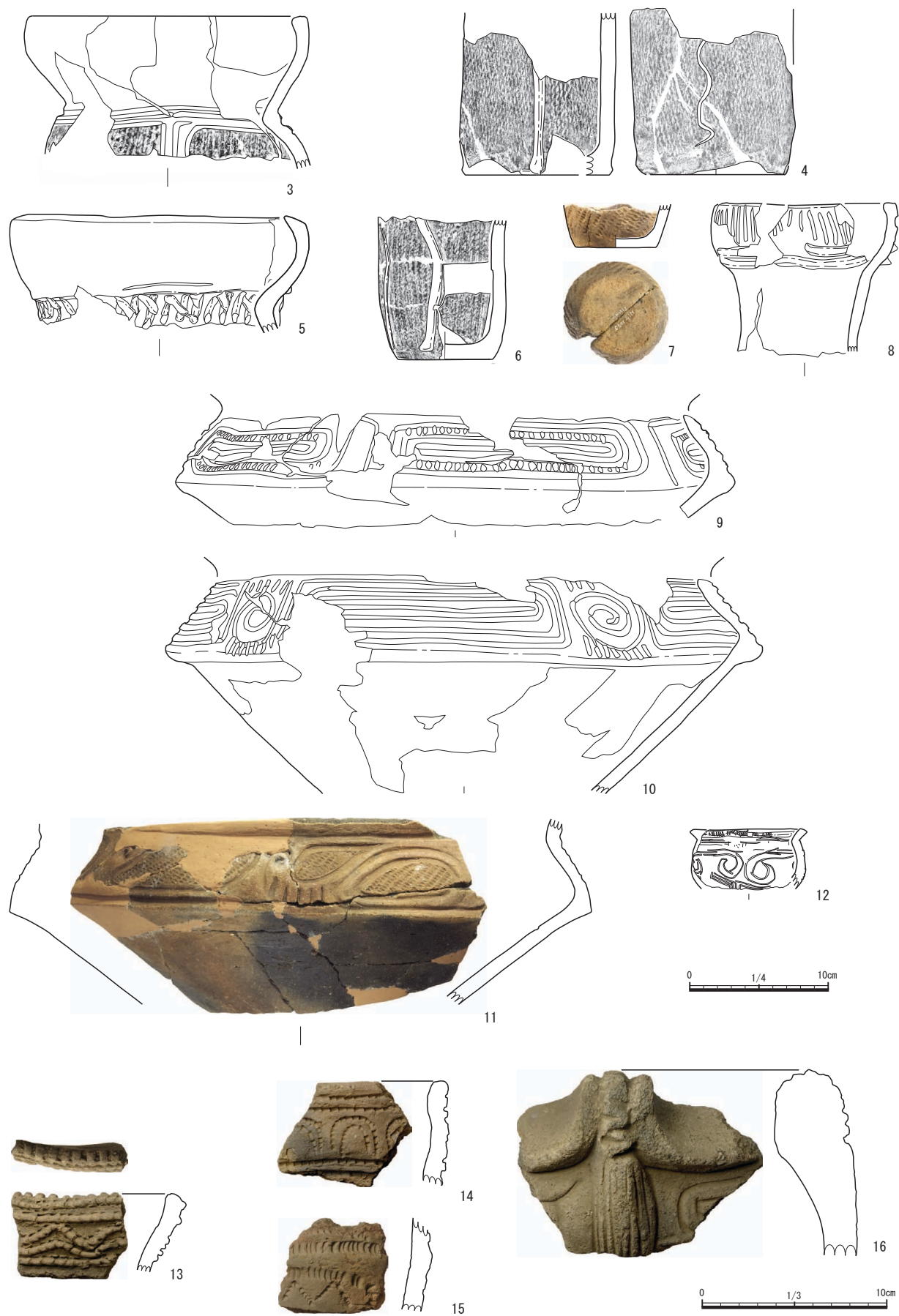


第77図 109号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第78図 109号住居跡出土遺物1 (1/4)





第 79 図 109 号住居跡出土遺物 2 (1/4・1/3)

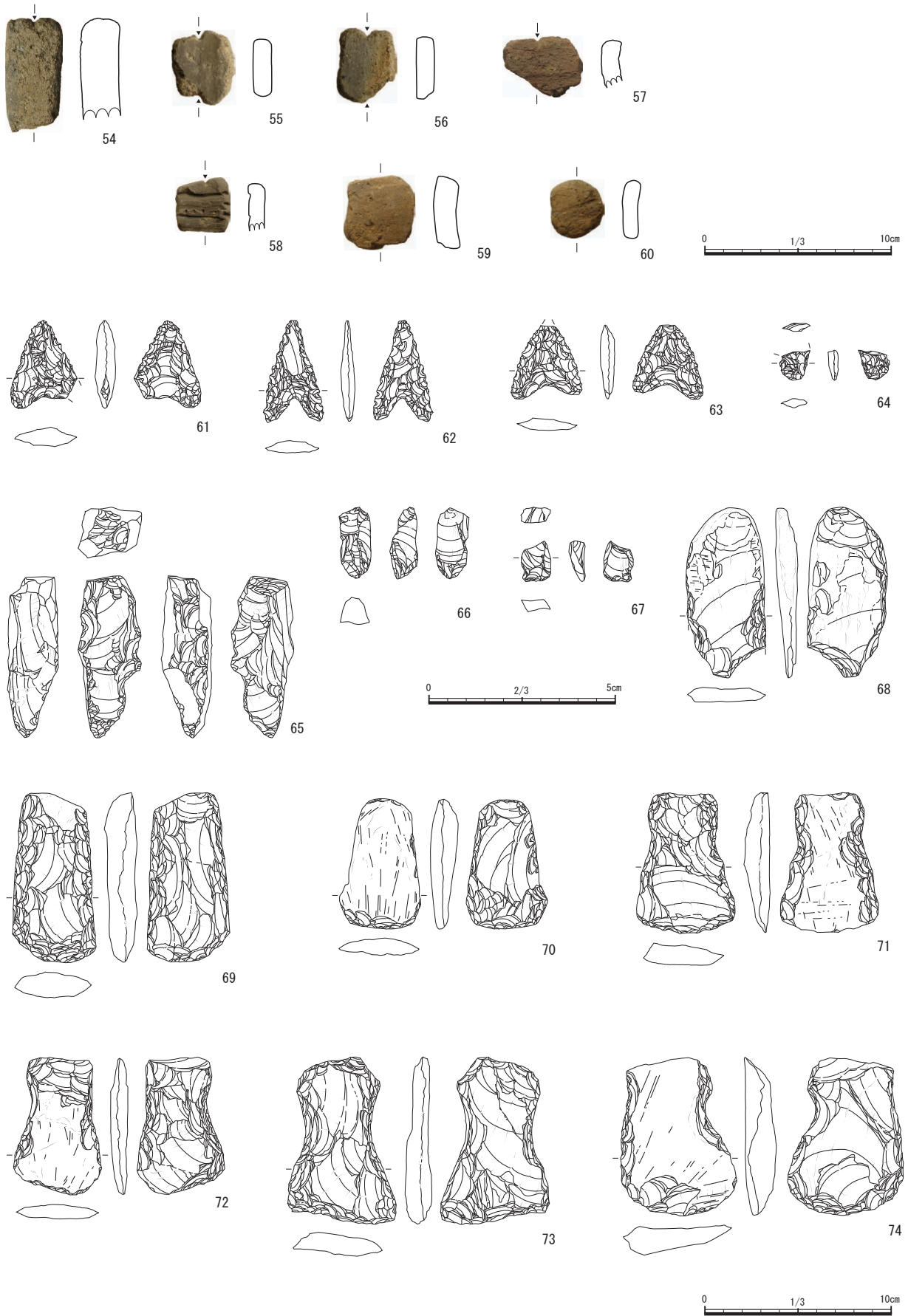


第80図 109号住居跡出土遺物3 (1/3)





第81図 109号住居跡出土遺物4 (1/3)

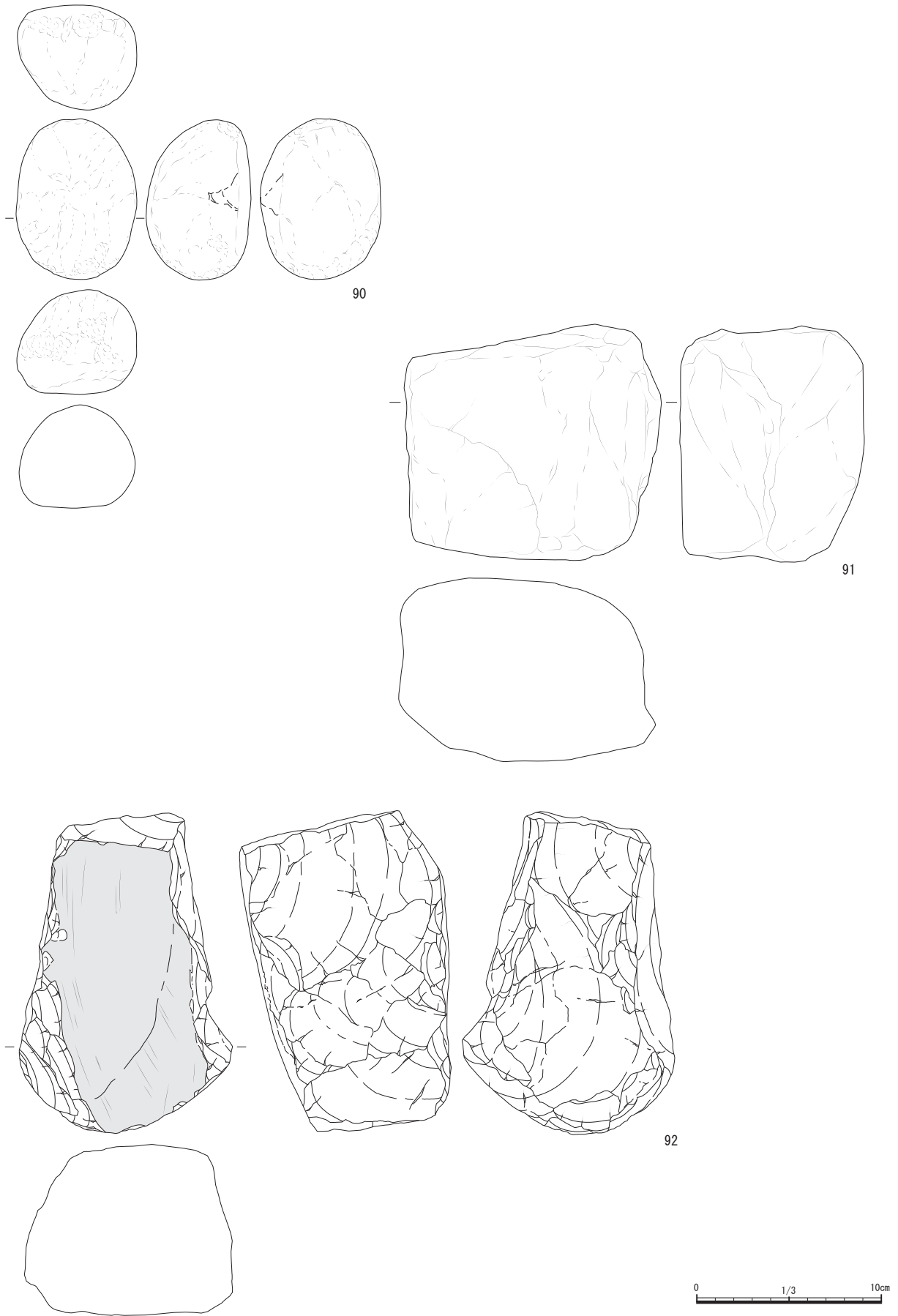


第82図 109号住居跡出土遺物5 (1/3・2/3)





第83図 109号住居跡出土遺物6 (1/3・2/3)



第84図 109号住居跡出土遺物7 (1/3)

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種        | 部位<br>遺存状態            | 法量<br>(cm)                              | 器形・形態   | 文様・特徴   | 胎土                     | 時期<br>型式         |
|-------------------|-----------------|-----------------------|---|---|---|------------------------|------------------|
| 第78図1<br>図版70-1   | 深鉢              | 口縁部～<br>底部<br>60%     | 高 [48.3]<br>口 39.0<br>底 (13.2)<br>厚 1.2 | キャリパー形/や<br>や内湾し、直状に<br>立ち上がり上位が<br>外反する胴部/外<br>反する頸部/やや<br>内湾する口縁部/<br>頸部から上位は非<br>常に歪みが大きく、<br>口縁部にも4cm程<br>の高低差がある | 地文は燃糸L縦位/口縁部を上端1本、下端2本の隆帯で画す/<br>口縁部区画内には沈線による渦巻文を付した突起(1単位残存)/<br>頸部無文/胴部には2本1対の直状の隆帯4単位と1本の波状<br>隆帯4単位が交互に垂下/隆帯断面カマボコ状/1層から出土   | 暗褐/砂<br>粒・礫少量          | 加曾利<br>E1c式      |
| 第78図2<br>図版70-2   | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部中位<br>90%   | 高 [20.1]<br>口 28.6<br>厚 0.9             | キャリパー形/や<br>や外反しながら立<br>ち上がる胴部/外<br>反しながら広がる<br>頸部/内湾しながら<br>広がる口縁部   | 地文は単節RL、口縁部区画内横位施文、口縁部区画下位は縦位<br>施文/口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す/区画内は2<br>本1対または1本の隆帯により端部が渦巻状を呈する文様を配<br>す(渦巻文は6単位残存)/口縁部区画の上端隆帯から2～3本<br>の隆帯が渦巻文に向かって垂下(4単位)/胴部は1本の垂下する<br>波状沈線の両側に3本1対の沈線が直状に垂下・2本1対の弧<br>状の沈線で繋ぐ文様が対称面に1単位ずつ/対称面の文様を1本<br>の横位波状沈線で繋ぎ、間にM字状の文様施文/隆帯断面角状 | 黄褐/砂<br>粒・礫中量          | 加曾利<br>E1c式      |
| 第79図3<br>図版70-3   | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部上位<br>50%   | 高 [10.7]<br>口 20.2<br>厚 0.9             | 内湾する胴部上位<br>/括れる頸部/内<br>湾しながら広がる<br>口縁部   | 地文は燃糸L縦位/口縁部無文/頸部に2本1対の隆帯が巡る<br>/頸部隆帯から2本1対の隆帯が直状に垂下(5単位残存)、内1<br>単位は2本の隆帯間の沈線が蕨手状/隆帯断面台形状/2層、4<br>層から出土  | 明褐/砂粒<br>多量、礫少<br>量    | 加曾利<br>E1c式      |
| 第79図4<br>図版70-4   | 深鉢              | 胴部中位<br>～底部<br>60%    | 高 [11.7]<br>底 (10.4)<br>厚 1.0           | 直立して立ち上<br>がる胴部/平坦な底<br>部   | 地文は燃糸L縦位/1本の隆帯が直状に垂下(1単位残存)、1本<br>の沈線が波状に垂下(3単位残存)/隆帯断面カマボコ状  | 明褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量    | 加曾利<br>E1～2<br>式 |
| 第79図5<br>図版70-5   | 深鉢              | 口縁部～<br>頸部<br>90%     | 高 [8.1]<br>口 18.4<br>厚 1.0              | 括れる頸部/内湾<br>しやや外傾する口<br>縁部  | 地文は燃糸L縦位か、頸部に僅かに残存/口縁部無文/頸部に紐<br>状の隆帯を斜格子状に施文、隆帯の剥がれが多い/隆帯断面カマ<br>ボコ状   | 暗褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量    | 曾利II<br>式        |
| 第79図6<br>図版70-6   | 小形<br>深鉢        | 胴部中位<br>～底部<br>80%    | 高 [10.0]<br>底 6.8<br>厚 0.9              | ほぼ直立に立ち上<br>がり上位が僅かに<br>外反する胴部/平<br>坦な底面  | 地文は燃糸L縦位/1本の隆帯が波状に垂下(7単位)/隆帯断面<br>カマボコ状/底面に網代痕無し  | 明黄褐/砂<br>粒中量、礫<br>微量   | 加曾利<br>E1式       |
| 第79図7<br>図版70-7   | 小形<br>深鉢        | 胴部下半<br>～底部<br>90%    | 高 [3.1]<br>底 5.8<br>厚 0.6               | やや内湾しながら<br>広がる胴部/平<br>坦な底面   | 地文は単節RL縦位、胴部施文/103Jと109Jの遺構間接合  | にぶい黄橙/<br>砂粒少量、<br>礫微量 | 加曾利<br>E式        |
| 第79図8<br>図版70-8   | 小形<br>深鉢        | 口縁部～<br>胴部中位<br>40%   | 高 [10.7]<br>口 (13.0)<br>厚 0.8           | キャリパー形/外<br>傾する胴部/外反<br>する頸部/内湾す<br>る口縁部  | 2本1対の隆帯で口縁部を画す/口縁部区画内縦位沈線充填/口<br>縁部区画下位無文/隆帯が多く剥落/隆帯断面三角状・カマボコ<br>状/2層から出土  | 黒褐/砂粒<br>多量、礫微<br>量    | 加曾利<br>E式か       |
| 第79図9<br>図版70-9   | 浅鉢              | 口縁部付<br>近～体部<br>70%   | 高 [7.4]<br>厚 1.0                        | 外傾して開く体部<br>/内湾する口縁部<br>付近  | 縦位沈線で6つに区画/区画内は沈線による長形状に渦巻文、<br>沈線間上下2ヶ所に押圧文施文/体部無文/1層、2層から出土   | 橙/砂粒・<br>礫中量           | 加曾利<br>E1式       |
| 第79図10<br>図版71-10 | 浅鉢              | 口縁部付<br>近～体部<br>下位40% | 高 [15.2]<br>厚 0.9                       | 外傾し広がる胴部<br>/内折する口縁部<br>付近  | 沈線による渦巻文、上下に短沈線を充填した沈線による渦巻文(3<br>単位残存)、間に沈線による長形状に渦巻文施文  | 橙/砂粒・<br>礫多量           | 加曾利<br>E1式       |
| 第79図11<br>図版71-11 | 浅鉢              | 口縁部付<br>近～体部<br>25%   | 高 [12.9]<br>厚 0.9                       | 外傾し広がる胴部<br>/内折する口縁部<br>付近  | 地文は単節RL横位、区画内に施文/沈線と隆帯による区画、沈<br>線による渦巻文/体部無文/隆帯断面角状  | 暗褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量    | 加曾利<br>E2式       |
| 第79図12<br>図版71-12 | ミニ<br>チュア土<br>器 | 口縁部～<br>胴部<br>40%     | 高 [4.3]<br>口 (8.4)<br>厚 0.6             | 内湾する胴部/外<br>傾して広がる口縁<br>部   | 2本1対の沈線による両端が渦巻状になる文様(2単位残存)/渦<br>巻部分下位に沈線によるT字状の文様/内外面に赤色顔料が付着   | 明褐/砂粒<br>少量、礫微<br>量    | 中期               |
| 第79図13<br>図版71-13 | 深鉢              | 口縁部<br>破片             | 厚 0.6                                   | やや内湾しながら<br>外傾する口縁部   | 口唇部に短隆帯を貼付し凸凹に成形/上端2本下端1本の横位<br>結節浮線文の間に2本の結節浮線文を波状に貼付/接合はしない<br>が118Jから同一個体と思われる破片出土   | 褐/砂粒少<br>量・礫微量         | 諸磯c<br>式         |
| 第79図14<br>図版71-14 | 深鉢              | 口縁部<br>破片             | 厚 0.9                                   | 内湾し口唇部がや<br>や外反する口縁部  | 2本1対の角押文を横位に施文、上部と下部/横位の角押文の間<br>に2本1対の角押文を逆U字状に施文  | にぶい褐/<br>砂粒・礫微<br>量    | 阿玉台<br>I b式      |
| 第79図15<br>図版71-15 | 深鉢              | 胴部<br>破片              | 厚 1.0                                   | やや外傾する胴部  | 隆帯を横位に貼付、高さが低く下端は器面と同化/隆帯上端に幅<br>広角押文、角押文が沿う/隆帯下部に幅広角押文を楕円状に施文、<br>内側に角押文を鋸歯状に施文/隆帯断面台形～カマボコ状、隆帯<br>に幅広角押文が沿う、一部まで付けて貼付   | 明褐/砂<br>粒・礫微量          | 勝坂1a<br>式        |
| 第79図16<br>図版71-16 | 深鉢              | 口縁部<br>破片             | 厚 1.0                                   | 内湾する口縁部/<br>突起部外傾   | 波頂部中央に交互刺突文施文/波頂部下部に沈線を多数付した幅<br>広の隆帯が垂下/沈線による三叉文、楕円状の文様施文  | にぶい黄褐/<br>砂粒中量、<br>礫中量 | 勝坂3b<br>新式       |
| 第80図17<br>図版71-17 | 深鉢              | 口縁部<br>破片             | 厚 0.7                                   | 内湾する口縁部/<br>把手部ほぼ直立   | 口縁部に把手貼付、外面に眼鏡状の孔2つ、内面孔1つ/孔の<br>周囲に沈線による円を複数施文/把手左右の隅に沈線による渦巻<br>文施文/把手内面上部に交互刺突文を横位に施文/口縁に沿って<br>交互刺突文施文、下位に僅かに縄文が見られる、単節RLか   | 暗褐/砂粒<br>少量、礫微<br>量    | 勝坂3b<br>新式       |

第29表 109号住居跡出土土器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm) | 器形・形態                           | 文様・特徴   | 胎土                       | 時期<br>型式         |
|-------------------|----------|--------------------|------------|---------------------------------|---|--------------------------|------------------|
| 第80図18<br>図版71-18 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚1.0       | やや内湾する胴部<br>/外傾する口縁部            | 地文は単節RL縦位/押圧文を付した隆帯が1本口縁に巡る/口縁部から1本の隆帯が直状に垂下/隆帯下部3cm程は無文/隆帯断面カマボコ状  | 暗褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量      | 勝坂3b<br>新式       |
| 第80図19<br>図版71-19 | 深鉢       | 口縁部中<br>位～頸部<br>破片 | 厚1.2       | 頸部ほぼ直立/中<br>位から下位にかけ<br>て内湾する口縁 | 頸部に横走する隆帯で区画/口縁部に押圧文を付した縦位隆帯で区画、斜位の隆帯は文様か/口縁部に単沈線による渦巻文を充填、渦巻文間沈線充填/隆帯断面台形状、縦位隆帯脇単沈線が沿う、横位隆帯上端などで付けて貼付/内面の調整は粗く横位の深い擦痕が多数見られる/103Jと109Jの遺構間接合 | 明褐/砂<br>粒・礫少量            | 勝坂3b<br>新式       |
| 第80図20<br>図版71-20 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.1       | 下位は外傾上位は<br>強くない腕する口<br>縁部      | 細い隆帯を縦位に多数貼付/上部に隆帯を二重の楕円状に貼付  | 明褐/砂粒<br>少量、礫中<br>量      | 勝坂3b<br>新式       |
| 第80図21<br>図版71-21 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.9       | 外反する口縁部                         | 地文は撚糸L縦位/波頂部から押圧文を付した1本の隆帯が垂下、先端が二又になる/1本の横位沈線が巡り上部無文、下部撚糸文/隆帯断面背の高い台形状、隆帯脇などで付けて貼付   | 褐/砂粒・<br>礫微量             | 勝坂3b<br>式        |
| 第80図22<br>図版72-22 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.0       | 内湾する口縁部/<br>突起部外傾               | 押圧文を付した隆帯が口縁突起部から直状に垂下/区画内に斜位沈線を充填/隆帯断面台形状、隆帯に沈線が沿う   | 暗褐/砂<br>粒・礫微量            | 勝坂3<br>式         |
| 第80図23<br>図版72-23 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.2       | 内湾する口縁部/<br>口唇部内側に肥厚            | 地文は撚糸L横位/口唇部に突起形成、上面に沈線による渦巻文施文/2本1対の隆帯による文様施文/隆帯断面カマボコ状  | にぶい黄橙<br>/砂粒少量、<br>礫微量   | 加曾利<br>E1a式      |
| 第80図24<br>図版72-24 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.0       | 内湾する口縁部                         | 地文は撚糸L縦位/隆帯による口縁部区画、上端1本、下端1本/撚糸文を施す区画には2本1対の隆帯が横位に伸びる/区画間縦位隆帯3本貼付、隆帯間に先端渦巻文の沈線施文/隆帯断面カマボコ状/2層から出土  | 黒/砂粒・<br>礫中量             | 加曾利<br>E1a式      |
| 第80図25<br>図版72-25 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.9       | 内湾する口縁部/<br>口唇部内側に肥厚            | 口縁部に中空の把手貼付/器面より粘土をやや厚めに貼付し口縁部区画を成形、楕円形の窪みを区画とし内側に縦位沈線充填、楕円区画の上下に先端が渦巻文となった沈線による文様施文  | 暗赤褐/砂<br>粒少量、礫<br>微量     | 加曾利<br>E1b式      |
| 第80図26<br>図版72-26 | 深鉢       | 頸部～胴<br>部上位<br>破片  | 厚0.7       | 外反する胴部上位<br>/外反して広がる<br>頸部      | 地文は撚糸L縦位/頸部無文/2本の横位隆帯で頸部と胴部を画す/胴部には2本1対で直状に垂下する隆帯、凹字状の文様/隆帯断面カマボコ状  | 褐/砂粒少<br>量、礫多量           | 加曾利<br>E1b式      |
| 第80図27<br>図版72-27 | 深鉢       | 胴部下位<br>～底部<br>破片  | 厚1.0       | 外傾しながら立ち<br>上がる胴部/平坦<br>な底部     | 地文は単節RL縦位/1本の直状に垂下する隆帯、左右に1本の波状に垂下する隆帯、更に左右に2本1対の直状に垂下する隆帯/隆帯断面カマボコ状・台形状/網代痕なし  | 橙/砂粒・<br>礫少量             | 加曾利<br>E1c式      |
| 第80図28<br>図版72-28 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.0       | 内湾する口縁部                         | 口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す/口縁部区画内隆帯と沈線による渦巻文施文、/区画内沈線で充填/隆帯断面カマボコ状   | 褐/砂粒中<br>量、礫微量           | 加曾利<br>E1～2<br>式 |
| 第81図29<br>図版72-29 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚1.3       | 外反する頸部/内<br>湾する口縁部              | 地文は単節RL横位/隆帯による口縁部区画、上端1本、下端2本/隆帯と沈線による渦巻文、渦巻文下部に2本の縦位短隆帯/頸部無文/隆帯断面角状～カマボコ状   | 褐/砂粒中<br>量、礫微量           | 加曾利<br>E2a式      |
| 第81図30<br>図版72-30 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚0.7       | 外傾する頸部/内<br>湾する口縁部/             | 地文は単節RL横位/隆帯による口縁部区画、上端1本、下端2本/区画の接点を突起状に成形、沈線による渦巻文施文、突起両脇に2本1対の短隆帯を縦位に貼付/頸部無文/隆帯断面角状/外面器面やや荒れ   | 明黄褐/砂<br>粒中量、礫<br>微量     | 加曾利<br>E2a式      |
| 第81図31<br>図版72-31 | 深鉢       | 口縁部                | 厚0.8       | 内湾する口縁部                         | 地文は単節RL縦位/隆帯による口縁部区画、上端1本、下端欠損/1本または2本の隆帯による文様、渦巻文/縦位2本の沈線が直状に垂下/隆帯断面角状～カマボコ状   | 明褐～褐/<br>砂粒中量、<br>礫微量    | 加曾利<br>E2式       |
| 第81図32<br>図版72-32 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1       | 外反する胴部                          | 地文は単節RL縦位/横位沈線上部地文磨消/2本1対の直状の沈線が垂下/沈線間磨消  | 明黄褐/砂<br>粒・礫微量、<br>橙の粒中量 | 加曾利<br>E3式       |
| 第81図33<br>図版72-33 | 深鉢       | 口縁部下<br>位～頸部<br>破片 | 厚1.0       | ほぼ直立する頸部<br>/外反する口縁部<br>下位      | 口縁部下位無文/頸部に紐状の隆帯が2本巡る、間に紐状の隆帯を波状に貼付   | 明黄褐/砂<br>粒少量、礫<br>中量     | 曾利I<br>～II式      |
| 第81図34<br>図版72-34 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.0       | 外傾する口縁部/<br>口唇部内側に肥厚            | 沈線による重弧文  | 黒褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量      | 曾利III<br>式       |
| 第81図35<br>図版73-35 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚0.9       | 外傾する胴部/外<br>傾し上部が強くと<br>湾する口縁部  | 地文は縦位条線文/口縁部に沿ってヘラ状の工具を押しきし沈線状に施文、途中強く押し込み刺突文状に施文/2本1対の沈線を弧状に施文/1層から出土  | 黒褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量      | 連弧文<br>2b段階      |
| 第81図36<br>図版73-36 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚1.1       | 外反する胴部/外<br>傾する口縁部              | 地文は縦位条線文/口縁部に2本の沈線が巡る/2本1対の沈線による連弧文/沈線間地文が一部消える   | 黒褐/砂粒<br>少量、礫微<br>量      | 連弧文<br>2b段階      |
| 第81図37<br>図版73-37 | 浅鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.6       | 内湾する口縁部                         | 口唇部が突起あり/突起下部に隆帯による渦巻文/外面に赤色顔料が多く残存   | 橙/砂粒微<br>量、礫中量           | 勝坂3<br>式か        |
| 第81図38<br>図版73-38 | 浅鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚0.8       | 外傾する胴部/内<br>湾する口縁部              | 口縁部に把手あり、片側側面に円形の窪みあり/把手から口縁に沿って隆帯が伸びる/隆帯下に焼成前の穿孔が2ヶ所残存(1ヶ所は半分欠損)、径5mm/隆帯断面カマボコ状/赤色顔料が少量残存  | 橙～黒褐/<br>砂粒少量、<br>礫微量    | 中期中<br>葉～後<br>葉  |
| 第81図39<br>図版73-39 | 小形<br>鉢か | 胴部                 | 厚1.0       | 内湾する胴部、上<br>位は外反するか             | 半際竹管状工具の腹面による平行沈線を密集させて横位に施文/下部は無文  | 暗褐/砂<br>粒・礫少量            | 中期               |

第29表 109号住居跡出土土器一覧2



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴  | 胎土                     | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|----------|---------------------|-----------|---|------------------------|-------------|
| 第81図40<br>図版73-40 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 4.3/4.1/1.1         | 28.2      | 円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 押圧文に波状沈線が沿う / 1層から出土         | 暗褐 / 砂粒少量、<br>礫微量、雲母少量 | 勝坂2式        |
| 第81図41<br>図版73-41 | 土器<br>片鍾 | 80%      | [3.7]/4.0/1.0       | 15.8      | 円形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 円形の文様                      | 橙～黒 / 砂粒中<br>量、礫微量     | 勝坂2<br>～3式  |
| 第81図42<br>図版73-42 | 土器<br>片鍾 | 80%      | 2.8/[3.1]/0.7       | 8.1       | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は極一部磨耗 / 胴部片利用 / 0段多条RL                      | 黒褐 / 砂粒・礫微<br>量        | 勝坂3式        |
| 第81図43<br>図版73-43 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 4.5/6.1/1.2         | 39.5      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁はごく一部磨耗 / 口縁部付近の破片利用 / 弧状の沈線 / 隆帯を4本貼付        | にぶい期橙 / 砂粒<br>少量、礫微量   | 加曾利<br>E1b式 |
| 第81図44<br>図版73-44 | 土器<br>片鍾 | 50%      | [2.8]/3.6/1.0       | 14.3      | 方形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 撚糸L / 波状の隆帯                 | にぶい褐 / 砂粒少<br>量、礫微量    | 加曾利<br>E1b式 |
| 第81図45<br>図版73-45 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 6.2/4.5/1.2         | 45.4      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 撚糸L / 沈線による文様                 | 黒褐 / 砂粒・礫少<br>量        | 連凧文か        |
| 第81図46<br>図版73-46 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 4.6/3.3/1.0         | 22.2      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 撚糸R                          | 黒褐 / 砂粒多量、<br>礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第81図47<br>図版73-47 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 4.8/3.4/1.0         | 23.7      | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 撚糸L                         | 赤褐 / 砂粒少量、<br>礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第81図48<br>図版73-48 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 5.2/3.5/1.0～<br>1.5 | 28.8      | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は磨耗が未発達 / 口縁部片利用 / 無文                        | 明褐 / 砂粒中量、<br>礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第81図49<br>図版73-49 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 5.4/3.3/1.1         | 26.5      | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁はごく一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                         | 暗褐 / 砂粒中量、<br>礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第81図50<br>図版73-50 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 4.6/4.4/0.9         | 25.7      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                            | 褐 / 砂粒中量、礫<br>微量       | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第81図51<br>図版73-51 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 5.8/4.4/0.8         | 28.4      | 円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                            | 灰黄褐 / 砂粒・礫<br>微量       | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第81図52<br>図版73-52 | 土器<br>片鍾 | 完形       | 3.2/3.7/1.1         | 17.5      | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                           | 暗赤褐 / 砂粒少<br>量、礫微量     | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第81図53<br>図版73-53 | 土器<br>片鍾 | 90%      | 9.3/3.5/0.6～<br>1.5 | 55.9      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 口縁部片利用 / 無文 / 外面に赤色顔料が微量残存            | 暗褐 / 砂粒多量、<br>礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第82図54<br>図版73-54 | 土器<br>片鍾 | 90%      | [6.0]/3.0/2.0       | 47.3      | 方形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は顕著に磨耗 / 口縁部片利用 / 無文                        | 明黄褐 / 砂粒多<br>量、礫少量     | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第82図55<br>図版73-55 | 土器<br>片鍾 | 90%      | 4.0/3.3/1.0         | 17.4      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                            | 灰黄褐 / 砂粒少<br>量、礫微量     | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第82図56<br>図版73-56 | 土器<br>片鍾 | 90%      | 3.9/3.1/0.9         | 16.5      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁はごく一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                          | 灰黄褐 / 砂粒中<br>量、礫微量     | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第82図57<br>図版73-57 | 土器<br>片鍾 | 30%      | [3.3]/4.2/9.0       | 15.6      | 方形か / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は磨耗が未発達 / 胴部片利用 / 無文                       | 褐 / 砂粒・礫微量             | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第82図58<br>図版73-58 | 土器<br>片鍾 | 60%      | [2.9]/2.8/0.8       | 10.3      | 方形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は一部磨耗 / 口縁部片利用 / 半截竹管状工具の腹面による沈線 / 3つ並んだ押圧文 | 灰黄褐 / 砂粒・礫<br>微量       | 中期          |
| 第82図59<br>図版73-59 | 土製<br>円盤 | 完形       | 4.0/3.8/1.2         | 24.4      | 方形 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                                     | 明褐 / 砂粒少量、<br>礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第82図60<br>図版73-60 | 土製<br>円盤 | 完形       | 3.1/2.9/0.9         | 10.4      | 円形 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 無文                                    | 明褐 / 砂粒少量、<br>礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |

第30表 109号住居跡出土土製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種   | 石材   | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴   |
|-------------------|------|------|--------|-------|--------|-------|--|
| 第82図61<br>図版73-61 | 石鋸   | 黒曜石  | 23.3   | 18.3  | 5.7    | 2.0   | 凹基無茎 / 側縁は直線状 / 挟りは浅く弧状 / 右脚部欠損  |
| 第82図62<br>図版73-62 | 石鋸   | チャート | 27.2   | 16.3  | 3.8    | 1.3   | 凹基無茎 / 側縁は直線状で鋸歯縁 / 挟りは深く直線状 / 先端部一部欠損                                 |
| 第82図63<br>図版73-63 | 石鋸   | チャート | 19.3   | 19.1  | 4.1    | 1.4   | 凹基無茎 / 側縁は緩やかな弧状を呈する / 挟りは弧状 / 先端部一部欠損                                 |
| 第82図64<br>図版73-64 | 石鋸   | 黒曜石  | 9.6    | 9.2   | 3.2    | 0.2   | 片脚部のみ残存  |
| 第82図65<br>図版74-65 | 石錐   | 黒曜石  | 43.8   | 19.4  | 13.7   | 9.1   | 断面三角形の錐部を構成する各面に二次的剥離あるいは不規則剥離が認められる                                   |
| 第82図66<br>図版74-66 | 楔形石器 | 黒曜石  | 19.9   | 8.8   | 7.6    | 1.1   | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第82図67<br>図版74-67 | 楔形石器 | 黒曜石  | 10.8   | 8.1   | 4.5    | 0.4   | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第82図68<br>図版74-68 | 打製石斧 | 緑泥片岩 | 91.5   | 42.7  | 11.9   | 63.6  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側面基部付近に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない |
| 第82図69<br>図版74-69 | 打製石斧 | 砂岩   | 91.2   | 45.2  | 17.2   | 93.8  | 短冊形 / 左側縁下部が磨滅している / 表面基部付近に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない  |

第31表 109号住居跡出土石器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種     | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴  |
|-------------------|--------|---------|--------|-------|--------|--------|---|
| 第82図70<br>図版74-70 | 打製石斧   | 頁岩      | 69.7   | 43.9  | 13.8   | 45.4   | 撥形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                                     |
| 第82図71<br>図版74-71 | 打製石斧   | 砂岩      | 75.6   | 53.2  | 13.3   | 59.2   | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 裏面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが認められる                   |
| 第82図72<br>図版74-72 | 打製石斧   | 頁岩      | 72.9   | 47.2  | 9.6    | 39.9   | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが僅かに認められる                |
| 第82図73<br>図版74-73 | 打製石斧   | 緑泥片岩    | 90.0   | 59.0  | 14.3   | 85.6   | 撥形 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない  |
| 第82図74<br>図版74-74 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 85.4   | 62.5  | 17.2   | 111.3  | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                      |
| 第83図75<br>図版74-75 | 打製石斧   | 頁岩      | 69.8   | 42.2  | 17.4   | 54.2   | 撥形 / 刃部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる                  |
| 第83図76<br>図版74-76 | 打製石斧   | 砂岩      | 111.2  | 56.8  | 19.4   | 145.2  | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の潰れはほとんど見られない / 右側縁は上部の稜上に潰れが認められる |
| 第83図77<br>図版74-77 | 打製石斧   | 頁岩      | 47.5   | 44.3  | 12.2   | 28.8   | 平面形状は不明 / 表裏面ともに磨滅している / 基部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                     |
| 第83図78<br>図版74-78 | 打製石斧   | 片岩系     | 83.3   | 59.8  | 21.4   | 140.8  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 表面は原礫面が広く残存し、裏面も一部原礫面が残存する / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない       |
| 第83図79<br>図版74-79 | 打製石斧   | 砂岩      | 105.4  | 71.1  | 23.4   | 234.1  | 平面形状は不明 / 刃部のみ残存 / 表面は原礫面が広く残存する / 欠損によって両側縁の敲打剥離・潰れの有無はほとんどわからない                       |
| 第83図80<br>図版74-80 | 打製石斧   | 緑泥片岩    | 102.4  | 35.9  | 10.0   | 47.3   | 平面形状は不明 / 体部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の稜上に局所的に潰れが認められる / 右側縁は潰れはほとんど見られない              |
| 第83図81<br>図版74-81 | 打製石斧   | 結晶片岩    | 50.1   | 38.6  | 7.7    | 17.2   | 平面形状は不明 / 体部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                                    |
| 第83図82<br>図版75-82 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 42.3   | 47.1  | 11.0   | 19.5   | 平面形状は不明 / 体部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                                    |
| 第83図83<br>図版75-83 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 20.0   | 31.4  | 9.0    | 2.8    | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第83図84<br>図版75-84 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 13.6   | 14.1  | 3.7    | 0.6    | 主要剥離面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第83図85<br>図版75-85 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 14.0   | 11.2  | 3.6    | 0.5    | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第83図86<br>図版75-86 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 13.7   | 10.8  | 3.0    | 0.4    | 主要剥離面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第83図87<br>図版75-87 | 石核     | 黒曜石     | 20.0   | 35.1  | 18.4   | 12.9   | 正面側において、上面を打面として剥片が行われている   |
| 第83図88<br>図版75-88 | 石核     | 黒曜石     | 12.9   | 15.0  | 10.7   | 2.1    | 正面側において、上面を打面として剥片が行われている   |
| 第83図89<br>図版75-89 | 剥片     | 黒曜石     | 16.5   | 18.0  | 4.7    | 1.2    | 縦長剥片 / 断片のため、詳細は不明である   |
| 第84図90<br>図版75-90 | 磨+敲石   | ホルンフェルス | 90.0   | 65.4  | 57.7   | 481.8  | 裏面に磨痕 / 下面に敲打痕  |
| 第84図91<br>図版75-91 | 石皿     | 閃緑岩     | 124.9  | 134.6 | 105.5  | 2625.0 | 扁平石皿 / 表面に平坦な使用面 / 一部がすすに覆われており、被熱の可能性ある / 炉内から出土 / 炉石として転用                             |
| 第84図92<br>図版75-92 | 石皿     | 閃緑岩     | 165.4  | 119.7 | 105.5  | 2734.4 | 扁平石皿 / 表面に平坦な使用面 / 一部がすすに覆われており、被熱の可能性ある / 炉内から出土 / 炉石として転用                             |

第31表 109号住居跡出土石器一覧2

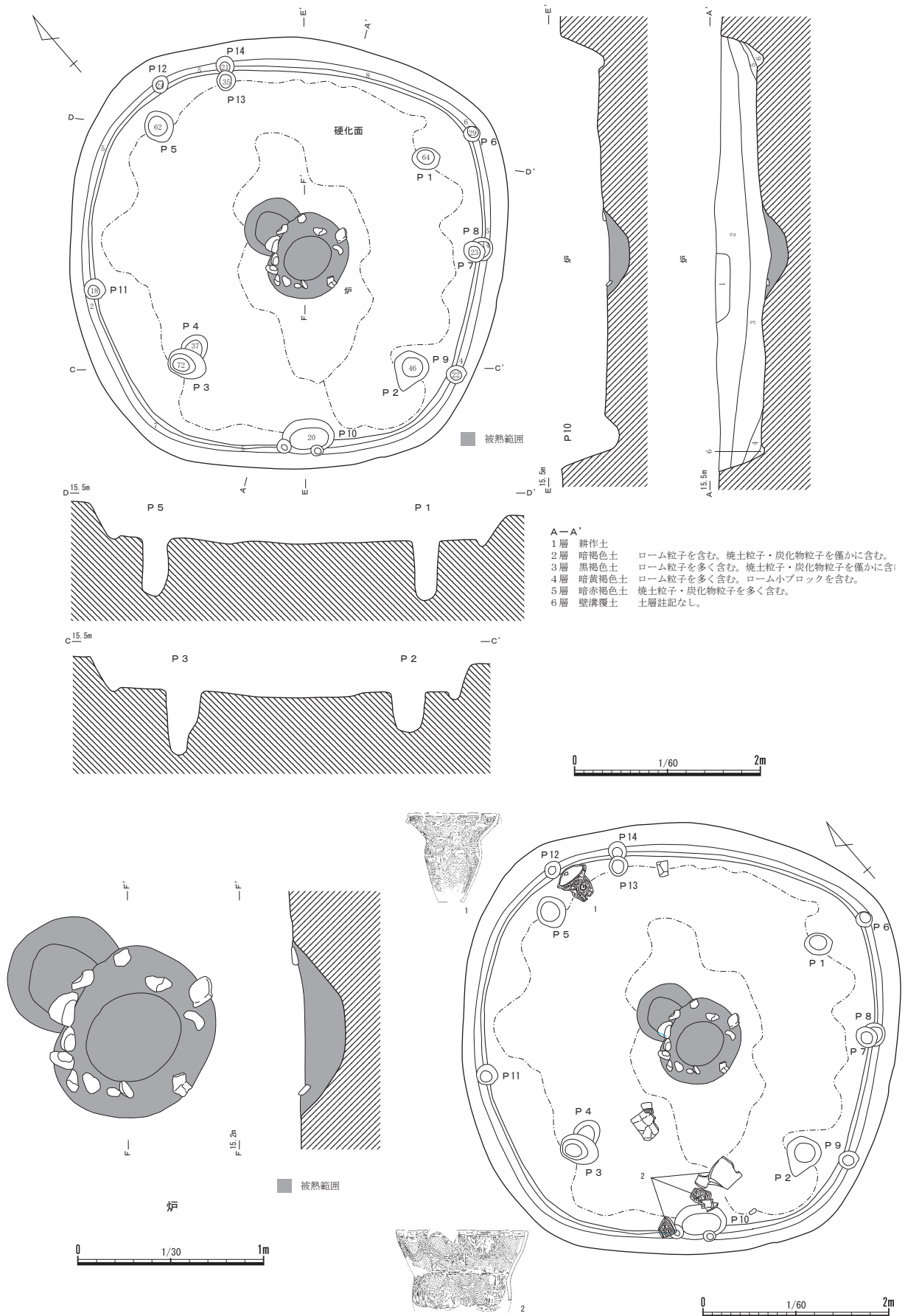
110号住居跡

遺構 (第85図)

[位置] (C-5) グリッド。

[検出状況] ほかの遺構との切り合い関係なし。

[構造] 平面形：隅丸方形。主軸方位：N-40°-E。P2とP3・4の中間と炉の中心を通るラ



第85図 110号住居跡・炉・遺物出土状態 (1/60・1/30)

インを主軸と捉えた。規模：長軸 463cm / 短軸 462cm / 深さ 26 ~ 54cm。壁溝：1 条検出された。上幅 24 ~ 38cm / 下幅 2 ~ 9cm / 床面からの深さ 2 ~ 8cm。壁：約 56 ~ 70°で緩やかに立ち上がる。床面：概ね平坦である。中央部分と周溝の間の部分にドーナツ状に硬化面が確認された。直床である。炉：石囲炉。こぶし大の石をやや円形に配置し、北側に張り出し部分がある。長軸 120cm / 短軸 96cm / 床面からの深さ 28cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：14 本検出した。P 1、P 2、P 3、P 5 を主柱穴ととらえ、4 本柱建物を想定する。

[覆 土] 5 層に分層できた。

[遺 物] 土器、土製品、石器が出土した。深鉢形土器(第 86 図 1)が北隅から、深鉢形土器(第 87 図 2)が P 10 付近からそれぞれ出土した。

[時 期] 中期後葉期(加曾利 E 2 c 式期 / 連弧文 2 b 段階期)。

[遺 物] (第 86 ~ 89 図、図版 76 ~ 78 - 1、第 32 ~ 34 表)

[土 器] (第 86・87 図・第 88 図 16 ~ 21、図版 76 ~ 77、第 32 表)

復元個体 2 点、破片資料 19 点を図示した。1 は加曾利 E 2 c 式の深鉢形土器である。縦位条線文を地文とする。口縁部の区画端部は突起状に成形し、渦巻文を付す。胴部には沈線による横位 S 字状の文様を施文する。2 は連弧文 2 b 段階の深鉢形土器である。3 本 1 対の沈線による連弧文を施し、副文様も見られる。3 ~ 5 は勝坂式、6 ~ 13 は加曾利 E 式、14 ~ 17 は曾利式、18 は連弧文土器の深鉢形土器である。19 は阿玉台式、20 は加曾利 E 式、21 は中期中葉 ~ 後葉の浅鉢形土器である。

[土 製品] (第 88 図 22 ~ 26、図版 77、第 33 表)

5 点を図示した。22 ~ 26 は土器片錘である。

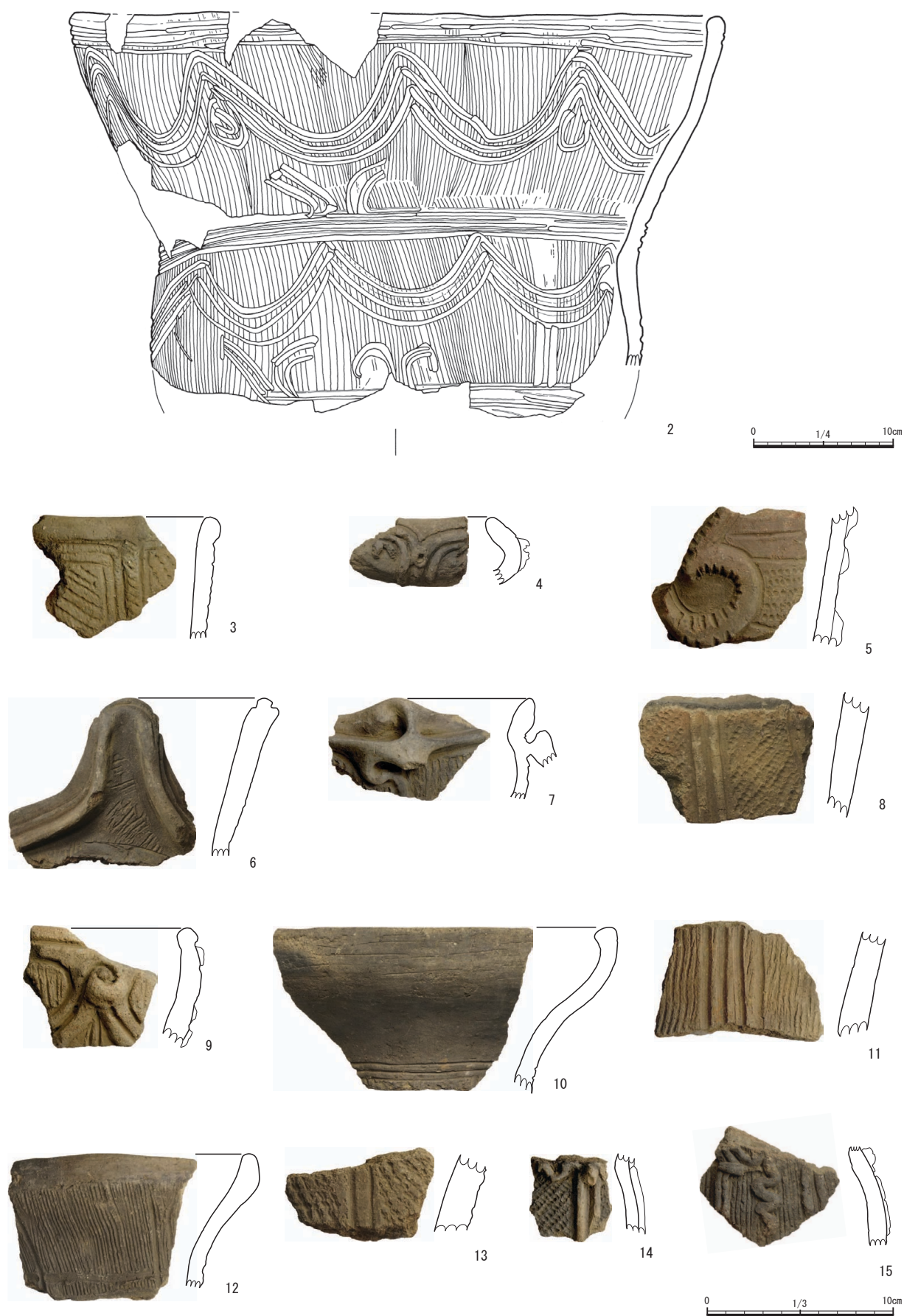
[石 器] (第 88 図 27 ~ 32・第 89 図、図版 77・78 - 1、第 34 表)

11 点を図示した。27 ~ 29 は石鏃である。30 ~ 33 は打製石斧である。34 は二次加工剥片である。35 は磨 + 敲石である。36 は敲石である。37 は石皿である。

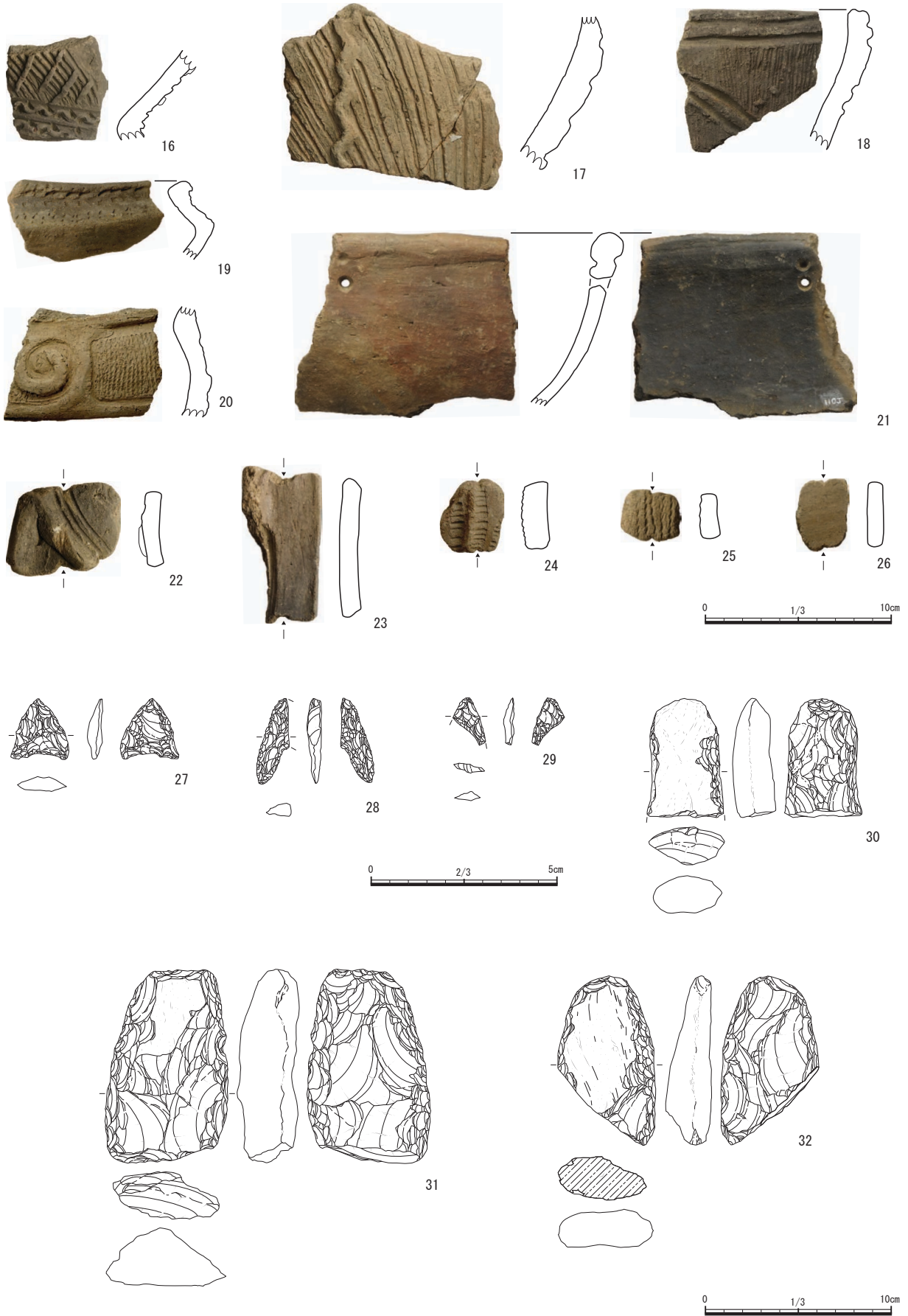


第 86 図 110 号住居跡出土遺物 1 (1 / 4)

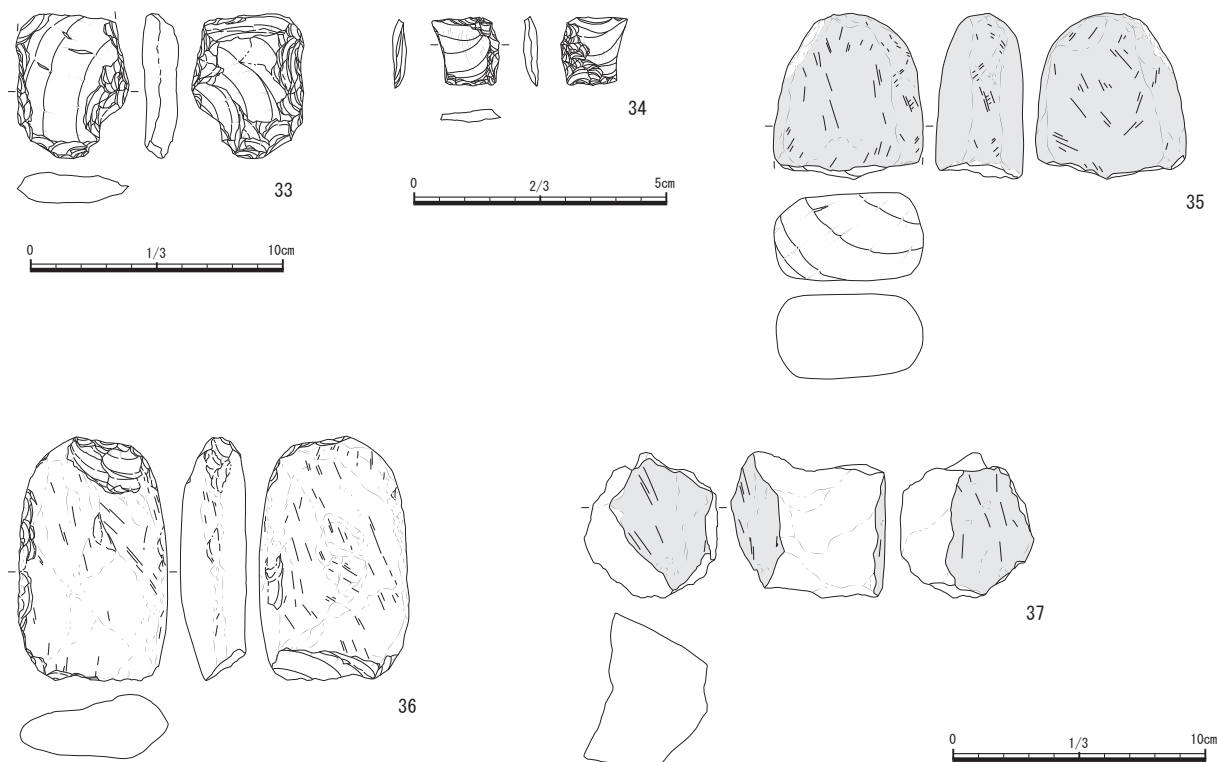




第 87 図 110 号住居跡出土遺物 2 (1/4・1/3)



第88図 110号住居跡出土遺物3 (1/3・2/3)



第 89 図 110 号住居跡出土遺物 4 (1 / 3 ・ 2 / 3)

| 挿図番号<br>図版番号        | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態                  | 法量<br>(cm)                  | 器形・形態   | 文様・特徴  | 胎土                      | 時期<br>型式     |
|---------------------|----------|-----------------------------|-----------------------------|---|--|-------------------------|--------------|
| 第 86 図 1<br>図版 76-1 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部(底<br>面欠損)<br>90% | 高 [31.4]<br>口 32.1<br>厚 1.0 | 外傾しながら立ち<br>上がり上位で内湾<br>し括れる胴部/外<br>傾し広がり上位は<br>やや内折する口縁<br>部 | 地文縦位条線文/口縁部を下端 2 本の隆帯で画し、区画の接<br>点を突起状に成形、沈線による渦巻状文を付す/口縁部区画<br>9 単位、渦巻文を付した突起 9 単位(1 単位欠損)/渦巻文上<br>部に 3 本の縦位沈線が付された突起が 1 単位あり/区画内縦<br>位沈線列/区画下に 2 本 1 対の波状沈線垂下(1ヶ所垂下<br>しない区画あり)/胴部には 3 本 1 対の沈線による横位 S 字<br>状の文様 2 単位、反転した S 字状の文様 1 単位/横位 S 字<br>状の文様の渦巻部分からそれぞれ 2 本 1 対の波状沈線(3 単位)、<br>2 本 1 対の直位の沈線(1 単位)垂下/胴部中に少量の黒色<br>の付着物あり | 浅黄橙～黒褐<br>/砂粒中量、<br>礫微量 | 加曾利<br>E2c 式 |
| 第 87 図 2<br>図版 76-2 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>80%         | 高 [28.6]<br>口 46.2<br>厚 1.3 | 中位で内湾し上位<br>が括れる胴部/外<br>傾して広がる口縁<br>部                         | 地文は縦位条線文/口縁部に 3 本 1 対の沈線が巡る/口縁部<br>に 3 本 1 対の沈線による連弧文/連弧文の波頂部 10 単位/<br>沈線による円形や半円形の文様が連弧文波頂部直下にあるも<br>の 5 単位、直上 1 単位、並びは不規則/括れ部に逆ハの字状<br>の副文様 4 単位、並びは不規則/括れ部に 3 本 1 対の沈線が<br>巡る/胴部に 3 本 1 対の沈線による連弧文、波頂部直下に沈<br>線による円形の文様 2 単位残存、逆ハの字状の文様 2 単位残<br>存、波底部から直位の沈線垂下 1 単位/胴部下位に 2 本の横<br>位沈線が僅かに残存、胴部は連弧文を多段に施文か                      | 黒褐/砂粒中<br>量、礫少量         | 連弧文<br>2b 段階 |
| 第 87 図 3<br>図版 76-3 | 深鉢       | 口縁部<br>破片                   | 厚 0.8                       | ほぼ直立する口縁<br>部/口唇部外面に<br>肥厚                                    | 押圧文を付した直位の隆帯が垂下、肥厚した口唇部と共に区<br>画を形成/口縁と隆帯に平行沈線が沿う/区画内に三角押文<br>を斜位に充填/隆帯断面台形状、隆帯脇平行沈線が沿う/焼<br>成がやや不良  | にぶい黄褐/<br>砂粒少量、礫<br>中量  | 勝坂 3a<br>式   |
| 第 87 図 4<br>図版 76-4 | 深鉢       | 口縁部<br>破片                   | 厚 0.9                       | 強く内湾する口縁<br>部   | 多条の紐状の隆帯を逆 U 字状に貼付/逆 U 字状の隆帯同士の<br>接点には筒状工具の先端を使用した円形刺突文施文/隆帯は<br>剥がれが多い   | 暗褐/砂粒少<br>量、礫微量         | 勝坂 3b<br>新式  |
| 第 87 図 5<br>図版 76-5 | 深鉢       | 胴部<br>破片                    | 厚 0.8                       | 外傾する胴部  | 側面に押圧文を付した隆帯による文様/沈線を横位に複数施<br>文、一部沈線間に方形の刺突文を充填/隆帯断面台形状、隆<br>帯脇 1 本の単沈線が沿う  | 褐/砂粒多<br>量、礫中量          | 勝坂 3b<br>式   |
| 第 87 図 6<br>図版 76-6 | 深鉢       | 口縁部<br>破片                   | 厚 1.0                       | 外傾する口縁部   | 地文は燃糸 L 縦位、斜位/口縁部把手状に成形/口縁に沿っ<br>て隆帯貼付/把手直下に半截竹管状工具の腹面による平行沈<br>線による文様が僅かに見られる   | 暗褐/砂粒中<br>量、礫微量         | 加曾利<br>E1a 式 |

第 32 表 110 号住居跡出土土器一覧 1



| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態       | 法量<br>(cm) | 器形・形態   | 文様・特徴   | 胎土               | 時期<br>型式 |
|-------------------|----------|------------------|------------|---|---|------------------|----------|
| 第87図7<br>図版77-7   | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚0.5       | 内湾する口縁部/<br>突起部は外傾                              | 地文は燃糸L縦位/口縁部を隆帯で画す、上端1本、下端欠損/欠損しているが口縁部突起下部に橋状把手の痕跡あり/口縁部区画の隆帯から1本の隆帯が蛇行して垂下/隆帯断面カマボコ状                | 暗褐/砂粒・礫微量        | 加曾利E1b式  |
| 第87図8<br>図版77-8   | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.2       | やや外傾する胴部  | 地文は単節RL縦位/2本1対の隆帯が直状に垂下/1本の隆帯が波状に垂下/隆帯断面カマボコ状   | 褐/砂粒・礫中量         | 加曾利E1c式  |
| 第87図9<br>図版77-9   | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.2       | 内湾する口縁部   | 上端1本、下端2本の隆帯で口縁部を画す/区画内縦位沈線充填/区画の接点を突起状に成形、沈線による渦巻文施文/突起下部から2本の直状の沈線垂下                                | 明褐/砂粒少量、礫微量      | 加曾利E2式   |
| 第87図10<br>図版77-10 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片 | 厚0.8       | ほぼ直立する頸部/<br>下部で外反し上部<br>で強く内湾する口<br>縁部         | 地文は単節縄文と思われる、残存部が僅かのため詳細不明/口縁部無文/頸部に平行沈線が巡る/口縁部上部に横位沈線状の調整痕と思われる擦痕が多く残る/頸部付近に縦位沈線状の擦痕が見られる            | 暗褐/砂粒少量、礫中量      | 加曾利E2式   |
| 第87図11<br>図版77-11 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.5       | 外傾する胴部  | 地文は燃糸R縦位/4本の沈線が直状に垂下/沈線間には多くが磨消されるが部分的に残存、沈線が幅広く沈線間が狭いため意図的に消したのか沈線施文の際に消えたのか不明                       | 褐/砂粒少量、礫微量       | 加曾利E2～3式 |
| 第87図12<br>図版77-12 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片 | 厚0.9       | 外反しながら広がる<br>胴部/内湾する<br>口縁部                     | 地文は縦位条線文/口縁部以下に施文/口新部2.5cm程は地文の条線文磨消/1本、2本沈線を直状に垂下/胴部に2本の沈線が巡る  | 暗褐/砂粒・礫微量        | 加曾利E2式か  |
| 第87図13<br>図版77-13 | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.6       | 外傾する胴部  | 地文は複節LRL縦位/2本1対の直状の沈線が垂下/沈線間磨消  | 褐/砂粒・礫中量         | 加曾利E3式   |
| 第87図14<br>図版77-14 | 深鉢       | 頸部～胴<br>部<br>破片  | 厚0.7       | 内湾する胴部/外<br>傾する頸部                               | 地文は単節RL縦位/頸部に隆帯が波状に巡る/頸部に粘土瘤を1つ貼付、粘土瘤から2本1対の隆帯が直状に垂下/隆帯断面形状カマボコ状、波状隆帯押し付けて貼付/地文→隆帯貼付                  | 黒褐/砂粒・礫微量        | 曾利Ⅱ式     |
| 第87図15<br>図版77-15 | 深鉢       | 頸部～胴<br>部<br>破片  | 厚0.8       | 内湾する胴部/外<br>傾する頸部                               | 地文は縦位条線文/頸部に1本の紐状の隆帯が巡る、上部にU字状、斜位の紐状の隆帯が僅かに残る/頸部1本の隆帯が波状に垂下、2本1対の隆帯が直状に垂下、隆帯断面カマボコ状、隆帯押し付けて貼付         | 黒褐/砂粒中量、礫微量      | 曾利Ⅱ式     |
| 第88図16<br>図版77-16 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片 | 厚0.9       | 外傾する口縁部付<br>近/括れる頸部                             | 半截竹管状工具の腹面を使用した平行沈線を斜位に充填、紐状の隆帯を格子状に貼付/頸部には米粒状の刺突文を交互に蛇行文状に施文2列残存/紐状の隆帯は押し付けて貼付                       | 褐/砂粒・礫微量         | 曾利Ⅱ式     |
| 第88図17<br>図版77-17 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.4       | 外傾しながら内湾<br>する口縁部付近                             | 1本の隆帯が波状に垂下/沈線による斜行文/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付、一部押し付けて貼付/斜行文→隆帯貼付   | 橙/砂粒少量、礫微量       | 曾利Ⅲ式     |
| 第88図18<br>図版77-18 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.1       | 下位は外反し上位<br>は内湾して立ち上<br>がる口縁部                   | 地文は縦位条線文/口縁部に2本の沈線が巡る/2本1対の沈線による連弧文になるか/沈線間の地文は磨消   | 暗褐/砂粒・礫微量        | 連弧文3段階   |
| 第88図19<br>図版77-19 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>破片 | 厚0.6       | 強く内湾する口縁<br>部～体部/口唇部<br>外面に肥厚                   | 口縁と体部の屈曲部に2本1対の結節沈線が沿う  | 暗褐/砂粒微量、礫少量、雲母多量 | 阿玉台Ⅱ式    |
| 第88図20<br>図版77-20 | 浅鉢       | 口縁部付<br>近<br>破片  | 厚0.8       | 内湾する口縁部付<br>近、上位は外傾                             | 地文は燃糸L縦位/区画内に施文/隆帯による長方形の区画/隆帯と沈線による渦巻文/隆帯断面カマボコ状   | 明黄褐/砂粒少量、礫微量     | 加曾利E1～2式 |
| 第88図21<br>図版77-21 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>破片 | 厚0.7       | 内湾しながら広がる<br>体部/内湾しながら<br>外傾する口縁部/<br>口唇部外側に肥厚/ | 残存部無文/円形の補修孔が縦に並んで2ヶ所、上部は穿孔途中、下部は穿孔済/上部外面孔の径6mm、内面の径8mm、いずれも断面挿鉢状/下部外面孔の径9mm、内面の径8mm、内外面両方から穿孔/内面色調は黒 | 明赤褐/砂粒少量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |

第32表 110号住居跡出土土器一覽2

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴  | 胎土                 | 時期<br>型式 |
|-------------------|----------|----------|-----------------|-----------|---|--------------------|----------|
| 第88図22<br>図版77-22 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.9/5.7/0.9     | 48.2      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/口縁部片利用/弧状の隆帯に3本の沈線が沿う  | 灰黄褐/砂粒少量、礫微量、雲母s中量 | 阿玉台Ⅲ式    |
| 第88図23<br>図版77-23 | 土器<br>片鉢 | 80%      | 8.3/4.3/1.0     | 47        | 方形/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/弧状の沈線/赤色顔料が微量に残存 | 褐/砂粒中量、礫微量、雲母多量    | 阿玉台式か    |
| 第88図24<br>図版77-24 | 土器<br>片鉢 | 80%      | 3.9/3.5/1.2     | 23.4      | 方形か/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/1本の隆帯/隆帯脇幅広角押文施文 | 褐/砂粒・礫微量           | 勝坂1式     |
| 第88図25<br>図版77-25 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 2.7/3.2/1.1/    | 11.6      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/燃糸L             | にぶい黄橙/砂粒少量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |
| 第88図26<br>図版77-26 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 3.8/2.8/0.8     | 14.1      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文                | にぶい黄褐/砂粒少量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |

第33表 110号住居跡出土土製品一覽



| 挿図番号<br>図版番号        | 器種     | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴   |
|---------------------|--------|---------|--------|-------|--------|-------|--|
| 第88図27<br>図版77-27   | 石鏃     | チャート    | 16.4   | 15.7  | 4.7    | 0.8   | 凹基無茎 / 側縁は緩やかな弧状を呈する / 抉りは浅く弧状   |
| 第88図28<br>図版77-28   | 石鏃     | 石英      | 22.0   | 9.2   | 4.0    | 0.6   | 片脚部断片 / 鋸歯縁  |
| 第88図29<br>図版77-29   | 石鏃     | 黒曜石     | 11.9   | 10.7  | 2.7    | 0.2   | 先端部のみ残存  |
| 第88図30<br>図版77-30   | 打製石斧   | 砂岩      | 65.6   | 41.9  | 21.9   | 79.9  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、一部が面状になっている                       |
| 第88図31<br>図版78-1-31 | 打製石斧   | 砂岩      | 106.4  | 67.0  | 33.6   | 300.4 | 撥形 / 刃部は折れて欠損している / 表面基部付近に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の中央部の稜上に潰れが認められる / 右側縁は上部から中央部にかけて局所的に潰れが僅かに認められる |
| 第88図32<br>図版78-1-32 | 打製石斧   | 砂岩      | 91.2   | 53.0  | 24.5   | 123.4 | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の潰れはほとんど見られない / 右側縁はほぼ全面の稜上に潰れが認められる                   |
| 第89図33<br>図版78-1-33 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 57.9   | 45.2  | 14.9   | 48.5  | 平面形状は不明 / 刃部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない   |
| 第89図34<br>図版78-1-34 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 13.9   | 12.8  | 2.8    | 0.7   | 主要剥離面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第89図35<br>図版78-1-35 | 磨+敲石   | 閃緑岩     | 62.5   | 59.8  | 34.7   | 216.6 | 表裏面全面に磨痕 / 周縁に敲打痕  |
| 第89図36<br>図版78-1-36 | 敲石     | 緑泥片岩    | 97.1   | 59.8  | 26.5   | 257.9 | 両側面に敲打痕  |
| 第89図37<br>図版78-1-37 | 石皿     | 閃緑岩     | 59.1   | 53.7  | 61.9   | 199.8 | 扁平石皿 / 表裏面ほぼ全面に平坦な使用面  |

第34表 110号住居跡出土石器一覧

### 111号住居跡

#### 遺構 (第90図)

[位置] (C・D-3・4) グリッド。

[検出状況] 108 J を切る。

[構造] 平面形：円形。主軸方位：N-2°-E。P6とP9、P3とP16のそれぞれの間を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸420cm / 短軸408cm / 深さ53～74cm。壁溝：1条検出された。上幅28～44cm / 下幅6～11cm / 床面からの深さ2～19cm。壁：約65～81°でやや急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦である。中央部分と周溝の間の部分に硬化面が点在している。直床である。炉：検出されなかった。埋甕：検出されなかった。柱穴：16本検出した。P3、P6、P9、P16を主柱穴ととらえ、4本柱建物を想定する。P1、P2、P5、P10、P15も主柱穴となる可能性がある。

[覆土] 5層に分層できた。

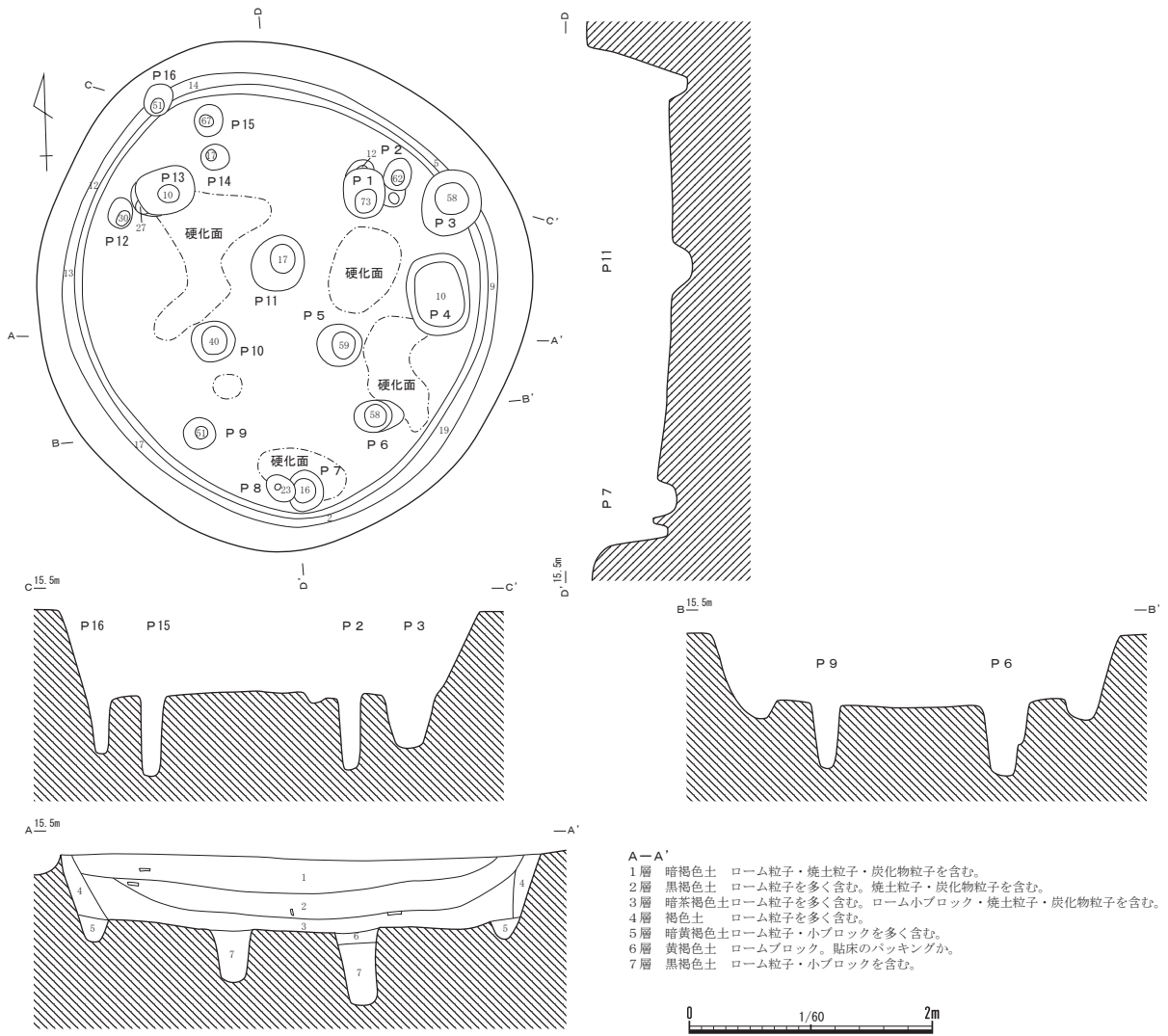
[遺物] 住居北側から復元個体2点が出土した。深鉢形土器(第91図7)は118 J出土の破片と同一個体と思われ、深鉢形土器(第92図17)は108 J出土の破片と遺構間接合している。

[時期] 中期後葉期(加曾利E1 a式期)。

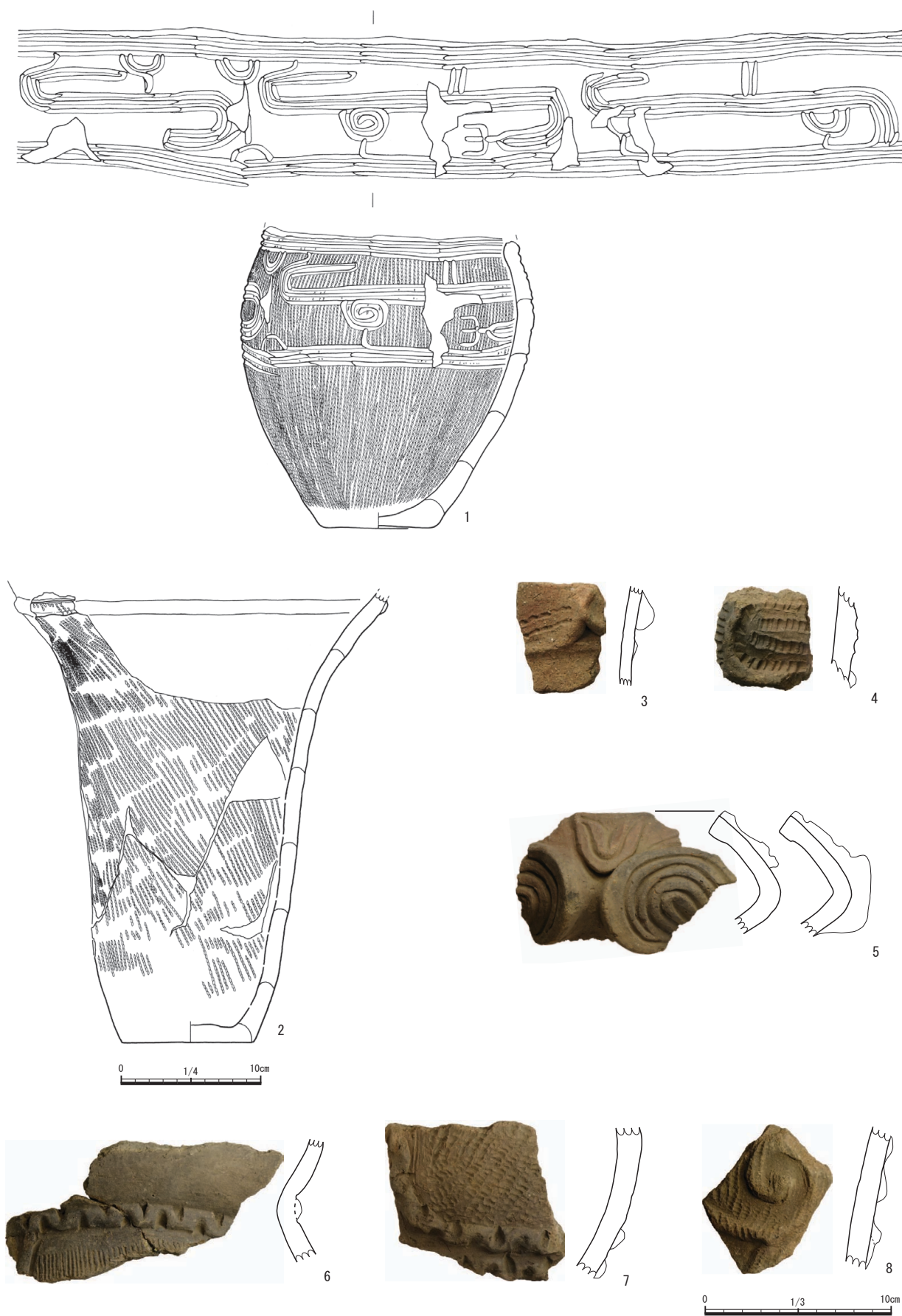
#### 遺物 (第91～93図、図版78-2～80、第35～37表)

[土器] (第91図・第92図9～19、図版78-2～80、第35表)

復元資料を2点、破片資料17点を図示した。1は加曾利E1 a式の深鉢形土器である。胴部上位に3本1対の沈線による文様を施す。2は加曾利E1式の深鉢形土器である。撚糸文を地文とし、上端に隆帯が横走する。3は阿玉台式、4～12は勝坂式、13は勝坂3～加曾利E1式、14～19は加曾利E式の深鉢形土器である。7は118 J 34と同一個体と思われる。また、17は108 J出土の破片と遺構間接合している。



第90図 111号住居跡・遺物出土状態(1/60)



第91図 111号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)



第92図 111号住居跡出土遺物2 (1/3)





第93図 111号住居跡出土遺物3 (1/3)

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                 | 器形・形態                                    | 文様・特徴  | 胎土                              | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|---------------------|----------------------------|--|--|---------------------------------|-------------|
| 第91図1<br>図版78-2-1 | 深鉢       | 胴部上位<br>~底部<br>100% | 高 [21.6]<br>底 8.0<br>厚 1.0 | 内湾しながら立ち上がる<br>胴部 / 平坦な底面                | 地文は撚糸L縦位 / 3本1対の沈線が胴部上端と中位にそれぞれ横走し区画、沈線間に3本1対の沈線による横S字状の文様、沈線による渦巻文・半円状の文様が付随 / 沈線間の地文は多くが磨消される / 底面に網代痕無し                       | 赤褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量           | 加曾利<br>E1a式 |
| 第91図2<br>図版79-2   | 深鉢       | 胴部上位<br>~底部<br>40%  | 高 [31.8]<br>底 9.4<br>厚 1.1 | 外傾しながら立ち上がり<br>上位が強く外反する<br>胴部 / 平坦な底面   | 地文は撚糸L斜位 / 胴部上端に1本の横位隆帯が巡る / 隆帯断面台形状 / 底面に僅かに網代痕あり   | 褐 / 砂粒・<br>礫少量                  | 加曾利<br>E1式  |
| 第91図3<br>図版79-3   | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 0.7                      | ほぼ直立する胴部                                 | 背の低い隆帯を1本横位に貼付 / 隆帯による楕円形の区画、区画の接点は突起状 / 区画内に複列の結節沈線文を横位に施文 / 隆帯断面三角状、隆帯脇などで付けて貼付 / 1層から出土                                       | 明赤褐 / 砂<br>粒中量、礫<br>微量、雲母<br>多量 | 阿玉台<br>II式  |
| 第91図4<br>図版79-4   | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.2                      | ほぼ直立する胴部                                 | 隆帯による楕円状の区画文 / 区画隆帯に幅広角押文が沿う / 区画内に2列の横位幅広角押文施文 / 隆帯断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒・<br>礫微量                  | 勝坂 1a<br>式  |
| 第91図5<br>図版79-5   | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.8                      | 強く内湾する口縁部、<br>口唇部は内側に肥厚                  | 隆帯を楕円状に貼付、隆帯の高さは一定でなくは左右が突起状に高い / 内側に沈線による同心円状の文様施文 / 楕円状の隆帯上部に粘土板を半楕円状に貼付し沈線によるU字状の文様と三叉文を施文する / 楕円状の隆帯下部に縦位沈線の先端と思われる痕跡が複数見られる | 褐 / 砂粒中<br>量、礫微量                | 勝坂 3b<br>新式 |
| 第91図6<br>図版79-6   | 深鉢       | 口縁部付<br>近~胴部<br>破片  | 厚 1.1                      | 内湾する胴部 / 括れる<br>頸部 / 内湾しながら強<br>く外傾する口縁部 | 地文は撚糸R縦位 / 口縁部無文 / 頸部に交互刺突文を付した隆帯が1本巡る / 頸部から隆帯が直状に垂下 / 隆帯断面台形状  | 暗褐 / 砂粒・<br>礫少量                 | 勝坂 3b<br>新式 |

第35表 111号住居跡出土土器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm) | 器形・形態                                | 文様・特徴   | 胎土                   | 時期<br>型式               |
|-------------------|----------|--------------------|------------|--------------------------------------|---|----------------------|------------------------|
| 第91図7<br>図版79-7   | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.2       | 内湾する胴部                               | 地文はRL縦位/押圧文を付した隆帯をL字状、横位に貼付/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇などで付けて、一部押し付けて貼付/118J-34と同一個体か   | 褐/砂粒少量、礫微量           | 勝坂3b<br>新式             |
| 第91図8<br>図版79-8   | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0       | やや外傾する胴部                             | 地文は単節RL縦位・横位・斜位、隆帯上と渦巻文内側に施文/隆帯による渦巻文/渦巻文下部に縦位隆帯貼付し/隆帯断面カマボコ状   | 褐/砂粒少量、礫微量           | 勝坂3b<br>新式             |
| 第92図9<br>図版79-9   | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.4       | ほぼ直立する胴部                             | 2列の押し文、2本の横位沈線を付した隆帯による渦巻文/隆帯内側の一部に押し文が沿う/隆帯周囲には縦位、横位沈線による文様施文/隆帯断面台形状、隆帯脇内側一部沈線、押し文が沿う、外側などで付けて貼付  | 暗褐/砂粒中量、礫微量          | 勝坂3b<br>式              |
| 第92図10<br>図版79-10 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.9       | ほぼ直立する口縁部、<br>口唇部外側に肥厚               | 隆帯による区画文/区画文内に単沈線を左右交互に施文/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う  | 橙/砂粒少量、礫微量           | 勝坂3<br>式               |
| 第92図11<br>図版79-11 | 深鉢       | 口縁部付<br>近～胴部<br>破片 | 厚1.3       | 外傾する胴部/やや内<br>湾する口縁部付近               | 押し文を付した横位隆帯で口縁部を画す/口縁部付近無文/横位隆帯下部押し文を付した隆帯による区画、区画内弧状の沈線が見られる/横位隆帯断面背の低いカマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付/区画隆帯断面歪んだ台形状、隆帯脇1本の単沈線が沿う                                 | 赤褐/砂粒少量、礫微量          | 勝坂3<br>式               |
| 第92図12<br>図版79-12 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.2       | ほぼ直立する胴部                             | 矢羽根状刺突文を付した隆帯による区画/区画内は沈線によるT字状の文様/隆帯断面三角状、隆帯脇1本の単沈線が沿う   | 暗褐/砂粒・<br>礫少量        | 勝坂3<br>式               |
| 第92図13<br>図版79-13 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚0.9       | 括れる頸部/内湾する<br>口縁部                    | 地文は燃糸L縦位/口縁上部に横位1本の隆帯が巡る/隆帯上部2つ1組の押し文または短沈線による文様、3本の沈線による文様/横位隆帯と燃糸文間は2cm程の無文帯/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付  | にぶい黄橙<br>/砂粒・礫<br>微量 | 勝坂3<br>～加曾<br>利E1<br>式 |
| 第92図14<br>図版79-14 | 深鉢       | 頸部下半<br>～胴部<br>破片  | 厚1.0       | 外反する頸部下半～胴<br>部                      | 地文は燃糸L縦位/2本1対の横位隆帯で頸部と胴部を画す/頸部無文/胴部に隆帯を弧状に貼付/隆帯断面カマボコ状  | 暗褐/砂粒<br>中量、礫少<br>量  | 加曾利<br>E1b式            |
| 第92図15<br>図版79-15 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1       | ほぼ直立する胴部                             | 地文は燃糸L縦位/2本1対の隆帯による渦巻文/隆帯断面カマボコ状  | 褐/砂粒中<br>量、礫少量       | 加曾利<br>E1b式            |
| 第92図16<br>図版79-16 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0       | ほぼ直立する胴部                             | 地文は燃糸L縦位/2本1対の隆帯を弧状に貼付、2本1対の隆帯が弧状の隆帯に接し直状に垂下/隆帯断面カマボコ状  | 褐/砂粒中<br>量、礫微量       | 加曾利<br>E1b式            |
| 第92図17<br>図版79-17 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚0.6       | やや内湾する胴部/強<br>く外反して広がる頸部<br>/内湾する口縁部 | 地文は単節RL縦位/口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す/2本1対の弧状の隆帯先端に渦巻文施文、1つは突起状/口縁部区画内縦位沈線充填/頸部無文/頸部と胴部を横走する3本1対の沈線で画す/胴部に3本1対の沈線が直状に垂下(4単位残存)/隆帯断面角状・カマボコ状/108J出土の破片と遺構間接合 | 暗褐/砂粒・<br>礫微量        | 加曾利<br>E2a式            |
| 第92図18<br>図版79-18 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1       | 上部が外反する胴部                            | 地文は単節RL縦位/3本1対の沈線が直状に垂下/1本の沈線が波状に垂下   | 明褐/砂粒<br>少量、礫微<br>量  | 加曾利<br>E2式             |
| 第92図19<br>図版80-19 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.8       | やや外傾する胴部                             | 地文はRL縦位/沈線による文様施文   | 暗褐/砂粒<br>少量、礫微<br>量  | 加曾利<br>E2式             |

第35表 111号住居跡出土土器一覧2

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土                  | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|---------------------|-------------|
| 第92図20<br>図版80-20 | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.0/6.1/0.8     | 29.2      | 楕円形/袂部は2ヶ所/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/<br>爪形文               | 黒褐/砂粒・礫微<br>量、雲母少量  | 阿玉台Ⅱ<br>式   |
| 第92図21<br>図版80-21 | 土器<br>片錘 | 完形       | 4.5/3.7/0.8     | 20.5      | 楕円形/袂部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/隆帯<br>に平行沈線が沿う/平行沈線間押し文 | 暗褐/砂粒・礫微<br>量       | 勝坂2<br>～3式  |
| 第92図22<br>図版80-22 | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.7/2.4/0.8     | 11.9      | 楕円形/袂部は2ヶ所/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/<br>沈線                | にぶい橙/砂粒・<br>礫微量     | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第92図23<br>図版80-23 | 土器<br>片錘 | 完形       | 6.6/3.5/0.9     | 48.9      | 方形/袂部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/内外面・<br>口唇部に少量の赤色顔料残存   | 明褐～黒/砂粒中<br>量、礫微量   | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第92図24<br>図版80-24 | 土器<br>片錘 | 完形       | 6.2/4.6/1.2     | 52.3      | 方形/袂部は2ヶ所/周縁はごく一部磨減/胴部片利用/無<br>文                 | にぶい黄橙/砂<br>粒・礫少量    | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第92図25<br>図版80-25 | 土器<br>片錘 | 完形       | 7.9/4.5/1.1     | 56.1      | 楕円形/袂部は2ヶ所/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/<br>無文/赤色顔料が微量残存      | にぶい褐/砂粒・<br>礫微量     | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第92図26<br>図版80-26 | 土器<br>片錘 | 完形       | 5.3/3.3/1.3     | 31.55     | 方形/袂部は1ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文/1<br>層から出土            | 明褐/砂粒・礫微<br>量       | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第92図27<br>図版80-27 | 土器<br>片錘 | 90%      | [9.2]/5.4/0.9   | 69.7      | 不整形/袂部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/<br>無文                | 褐/砂粒少量、礫<br>微量、雲母中量 | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第92図28<br>図版80-28 | 土器<br>片錘 | 80%      | [2.9]/2.1/0.7   | 5.9       | 楕円形/袂部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/<br>無文                | にぶい褐/砂粒・<br>礫微量     | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第92図29<br>図版80-29 | 土製<br>円盤 | 完形       | 3.1/3.9/1.1     | 16        | 三角形/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/燃糸L/2本の平行<br>沈線/1層から出土        | 黒褐/砂粒・礫微<br>量       | 加曾利E<br>式か  |

第36表 111号住居跡出土土製品一覧

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種         | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴   |
|-------------------|------------|---------|--------|-------|--------|-------|--|
| 第93図30<br>図版80-30 | 打製石斧       | 頁岩      | 87.2   | 35.3  | 14.7   | 50.0  | 短冊形 / 基部は一部折れて欠損している / 左側縁下部や表面刃部が磨滅している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない |
| 第93図31<br>図版80-31 | 打製石斧       | 頁岩      | 86.8   | 45.0  | 17.5   | 98.9  | 短冊形 / 基部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない          |
| 第93図32<br>図版80-32 | 打製石斧       | ホルンフェルス | 68.7   | 47.4  | 14.7   | 73.0  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない          |
| 第93図33<br>図版80-33 | 打製石斧       | ホルンフェルス | 107.0  | 71.3  | 19.5   | 147.9 | 撥形 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                                       |
| 第93図34<br>図版80-34 | 打製石斧       | ホルンフェルス | 93.1   | 61.7  | 23.2   | 130.7 | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない           |
| 第93図35<br>図版80-35 | 打製石斧       | 砂岩      | 58.6   | 47.1  | 10.7   | 32.6  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れはほとんど見られない                         |
| 第93図36<br>図版80-36 | 磨製石斧       | 緑色凝灰岩   | 97.9   | 58.7  | 41.7   | 365.2 | 基部は折れて欠損している / 体部は表裏面ともに全面研磨面に覆われている   |
| 第93図37<br>図版80-37 | 不規則剥離のある剥片 | 頁岩      | 78.1   | 41.7  | 7.5    | 28.7  | 裏面側両側縁に不規則剥離が認められる   |

第37表 111号住居跡出土石器一覧

[土製品] (第92図20～29、図版80、第36表)

10点を図示した。20～28は土器片錘、29は土製円盤である。

[石器] (第93図、図版80、第37表)

8点を図示した。30～35は打製石斧である。36は磨製石斧である。37は不規則剥離のある剥片である。

### 112号住居跡

**遺構** (第94・95図)

[位置] (E・F-4) グリッド。

[検出状況] 146 Y、13 Mに切られる。

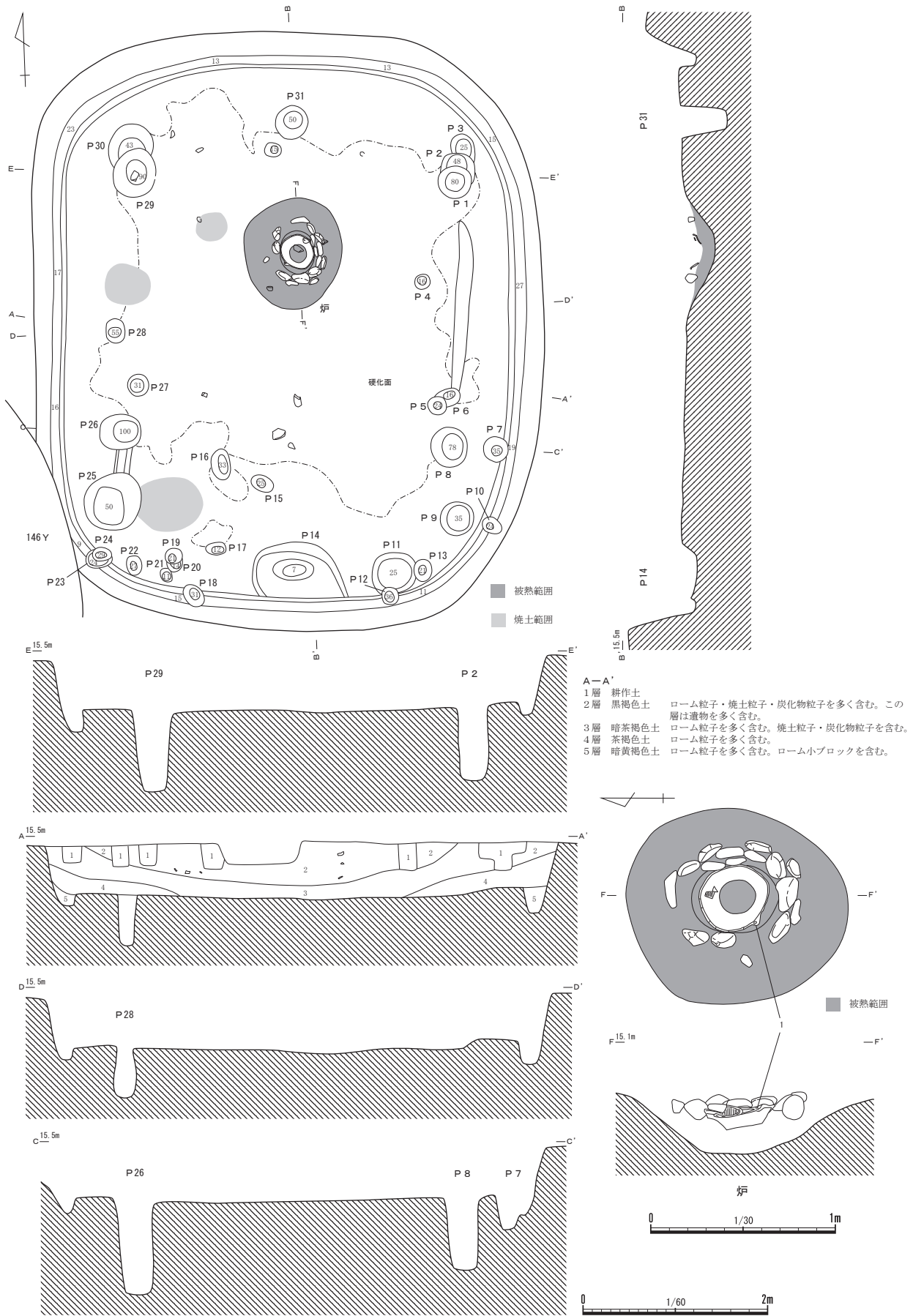
[構造] 平面形：隅丸方形。主軸方位：N-2°-E。P9とP25、P8とP26のそれぞれの間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸648cm / 短軸549cm / 深さ36～62cm。壁溝：2条検出されたが、内側の壁溝はわずかである。上幅16・30～50cm / 下幅8・26～50cm / 床面からの深さ6・9～27cm。壁：約74～80°でやや急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦であるが、東側の壁際は高くなり、P1とP6の間に段差が見られる。中央部分に硬化面を確認した。炉の西側に2ヶ所、P25の東側に被熱赤化範囲が認められる。直床である。炉：石囲埋甕炉。やや楕円形を呈し、深鉢形土器の口縁部(第96図1)が埋設されている。長軸120cm / 短軸108cm / 床面からの深さ30cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：31本検出した。P1、P8、P9、P25、P26、P29を主柱穴ととらえ、6本柱建物を想定する。P14は入口施設の可能性がある。建替・拡張は想定できない。

[覆土] 5層に分層できた。

[遺物] 土器、土製品、石器が出土した。炉体土器(第96図1)が出土している。

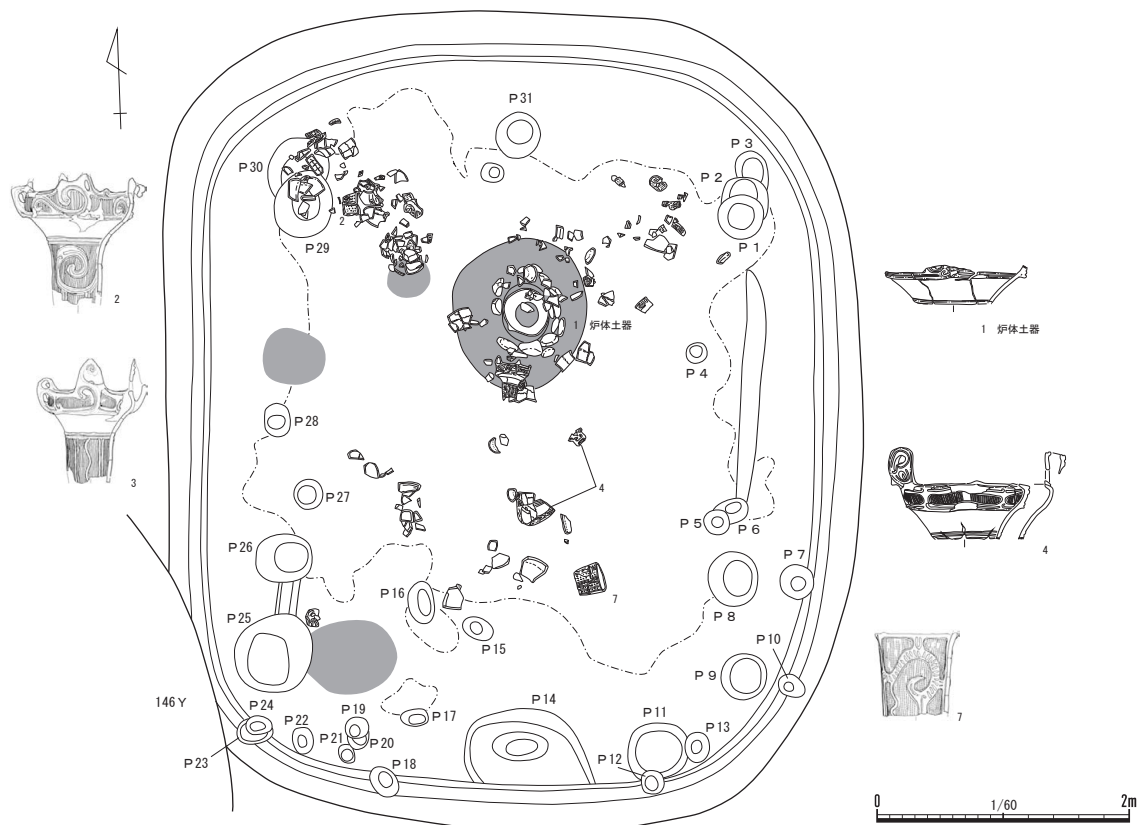
[時期] 中期後葉期(加曾利E1b式期)。

**遺物** (第96～101図、図版81～87、第38～40表)



第94図 112号住居跡・炉 (1/60・1/30)





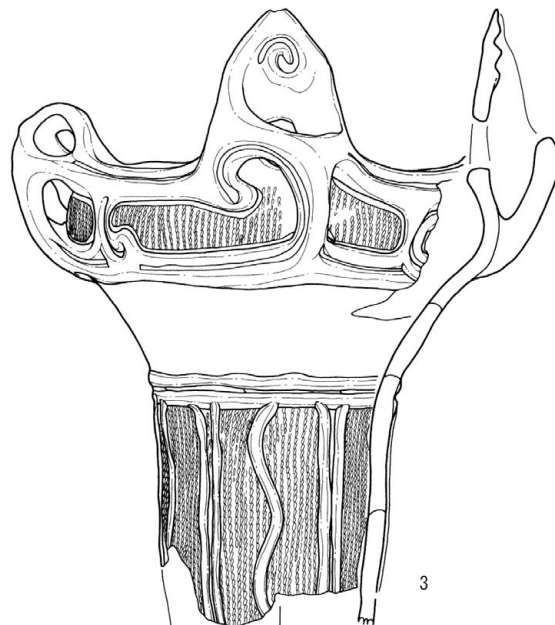
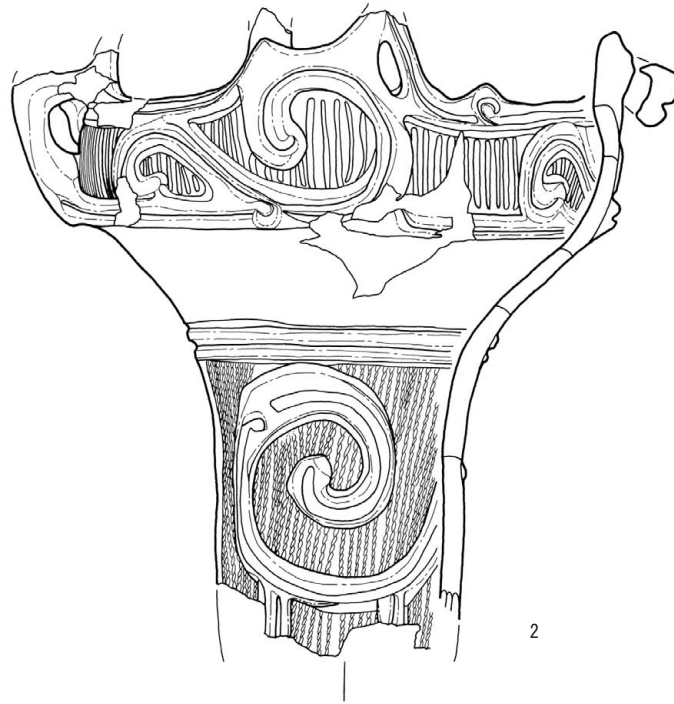
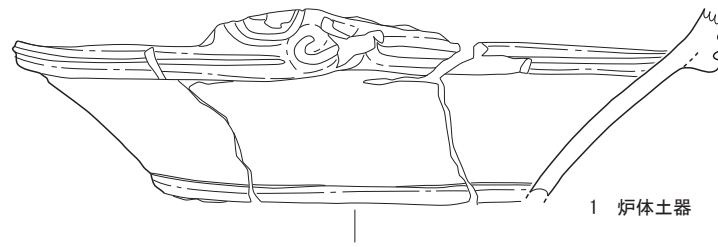
第95図 112号住居跡遺物出土状態(1/60)

〔土器〕(第96～98図・第99図16～25、図版81～85、第38表)

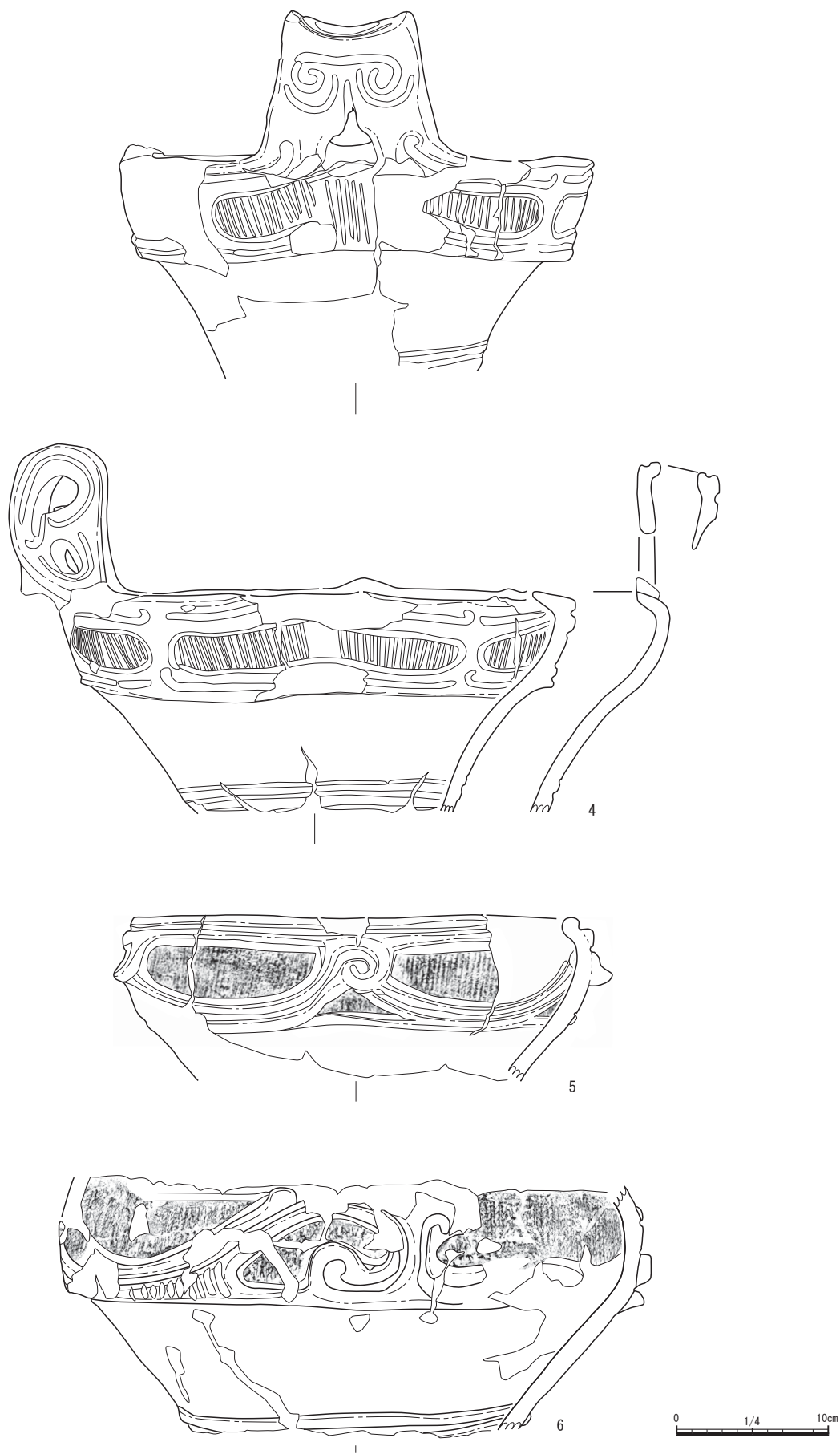
復元資料を10点、破片資料15点を図示した。1は炉体土器で、加曾利E1b式の深鉢形土器である。ほぼ頸部しか残存していないものの、口縁部区画下端に把手と思われる痕跡があること、他の復元個体が加曾利E1b式であることから、加曾利E1b式に帰属させた。2～9は加曾利E1b式の深鉢形土器である。2～4はいずれも口縁部に大型の把手を持つ。2は口縁部区画内に配した横位S字状の隆帯のを把手の一部として成形する。3は4単位の把手のうち、1単位を大きく成形し、先端に渦巻文を施す。4は中空の把手が1単位残存するが、他にも欠損した痕跡が見られるため、元は4単位の把手を持っていたと思われる。5は撚糸文を地文とし、口縁部区画内には先端が渦巻状となる弧状文を施す。6は口縁部上位が欠損しているが、口縁部区画内には2本1対の隆帯による弧状文の先端は渦巻状となり、口縁部区画下端と弧状文の間には一部縦位沈線を数本施文する部分が見られる。隆帯の剥落が多い。7は胴部で幅広の隆帯による渦巻文を施文する。8は胴部に2本1対の直状の隆帯と1本の波状隆帯が垂下する。9は縦位沈線で4単位に画した胴部に、それぞれ沈線による渦巻文を施し、弧状の沈線を充填する。10は曾利Ⅲ式の深鉢形土器である。縦位条線文を地文とし、2本1対の直状の隆帯と1本の波状隆帯が交互に垂下する。11・12は勝坂式、13～17は加曾利E式、18は曾利式、19は連弧文土器の深鉢形土器である。20・21は勝坂式、22～25は加曾利E式の浅鉢形土器である。

〔土製品〕(第99図26～第100図27～35、図版85、第39表)

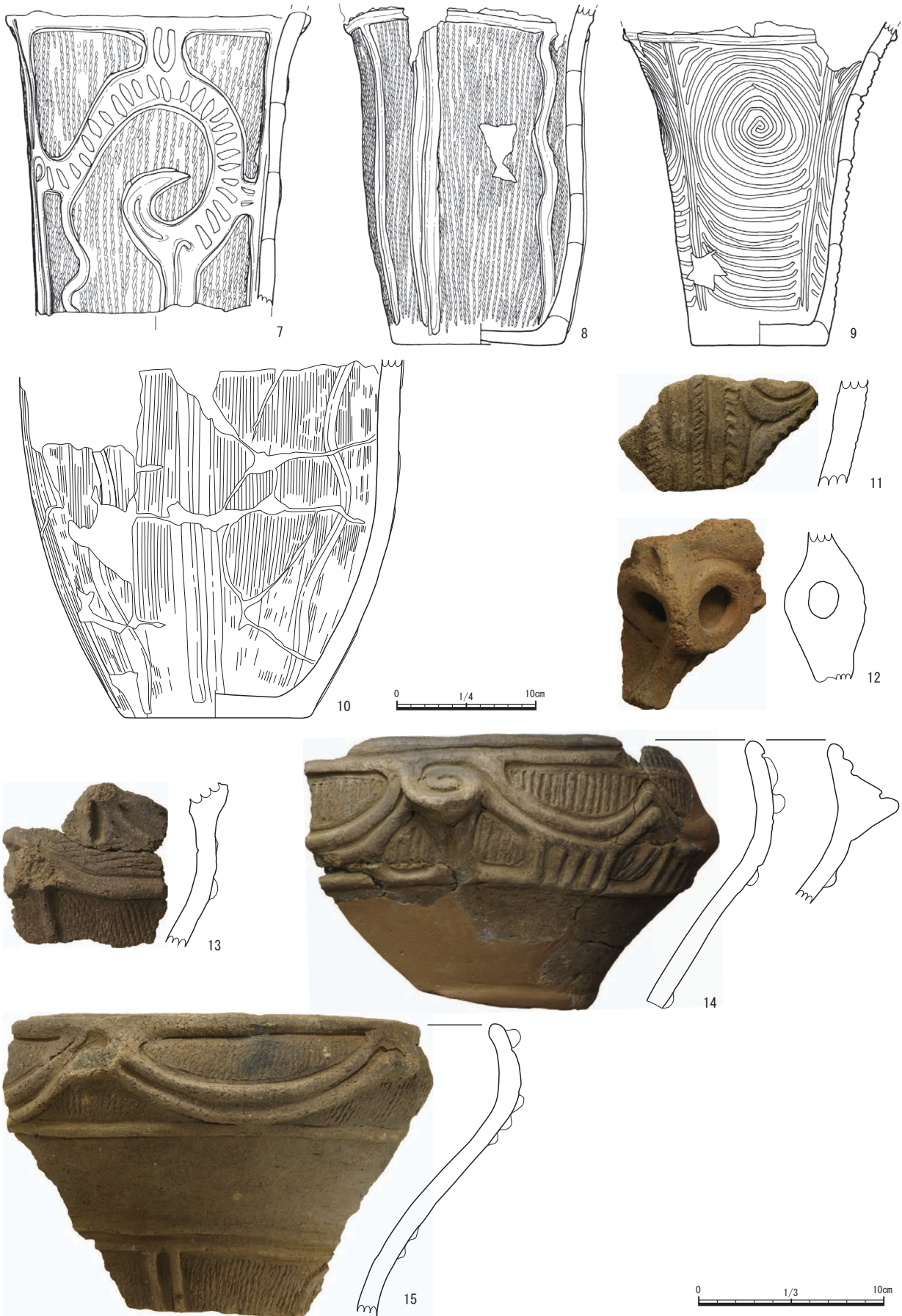
10点を図示した。26は土偶、27～35は土器片錘である。26は土偶の左足と思われる。指は4本あり、沈線によって指を分割する。親指は他の指とやや離れる。残存部に文様は無い。



第96図 112号住居跡出土遺物1 (1/4)



第97図 112号住居跡出土遺物2 (1/4)

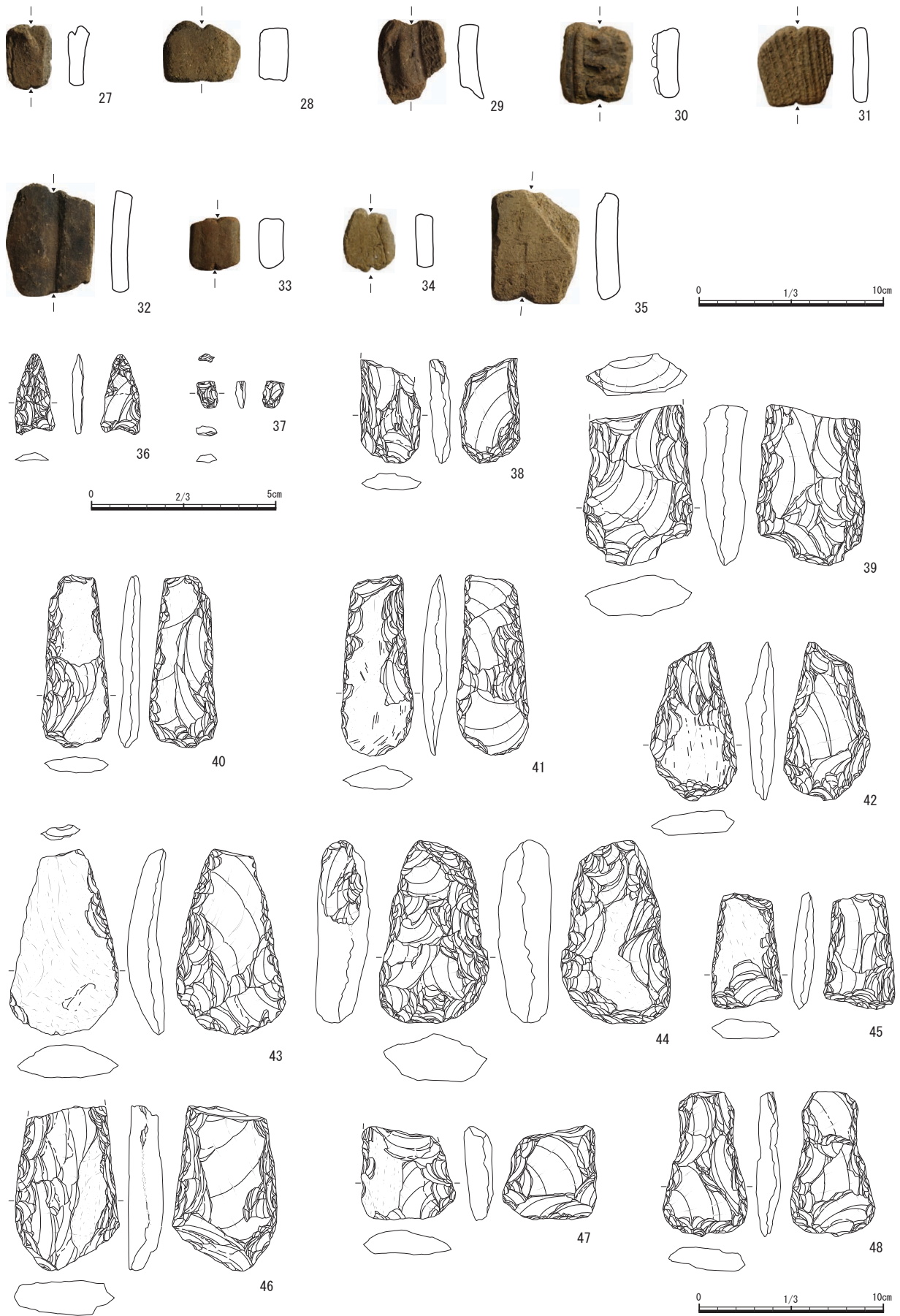


第98図 112号住居跡出土遺物3 (1/4・1/3)





第99図 112号住居跡出土遺物4 (1/3)



第100図 112号住居跡出土遺物5 (1/3・2/3)



第101図 112号住居跡出土遺物6 (1/4・1/3・2/3)



| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態               | 法量<br>(cm)                  | 器形・形態   | 文様・特徴  | 胎土                      | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|--------------------------|-----------------------------|---|--|-------------------------|-------------|
| 第96図1<br>図版81-1   | 深鉢       | 口縁部下<br>端～頸部<br>95%      | 高 [9.4]<br>厚 1.0            | 外傾して広がる頸<br>部 / やや内湾する<br>口縁部下端                               | 口縁部と頸部を横位隆帯で画す / 口縁部区画に把手の痕跡 / 沈線<br>による渦巻文 / 頸部無文 / 頸部下端に1本の隆帯が巡る / 隆帯断<br>面カマボコ状、隆帯の剥落が目立つ / 炉体土器  | 橙 / 砂粒中<br>量、礫少量        | 加曾利<br>E1b式 |
| 第96図2<br>図版81-2   | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>90%      | 高 [34.3]<br>口 28.4<br>厚 1.0 | キャリパー形 / 直<br>線的に立ち上がる<br>胴部 / 外反して広<br>がる頸部 / 内湾し<br>て広がる口縁部 | 地文は撚糸L縦位 / 口縁部を上端1本、下端2本の隆帯で画す /<br>口縁部区画内2本1対の隆帯で横位S字状文を4単位配す / 横<br>位S字文の右側渦巻部分を大型の把手として成形 (把手は1単位<br>欠損) / 口縁部区画内縦位沈線を充填 / 縦位沈線充填→口縁部区<br>画隆帯・横位S字状文貼付 / 把手間の口唇部付近に沈線による渦<br>巻文が1単位あり / 頸部と胴部を横走する2本1対の隆帯で画<br>す / 頸部無文 / 胴部に2本1対の直状隆帯を対称面に1単位ず<br>つ配し正面側と裏側の2面に画す / 正面側は2本1対の隆帯に<br>よる渦巻文1単位、2本1対の隆帯間の沈線は途中で渦巻文が見<br>られる、2本1対の隆帯が渦巻文下部に接して垂下、2単位あり<br>/ 裏側は2本1対の隆帯による渦巻状文1単位 / 隆帯断面カマボ<br>コ状、隆帯脇に1本の単沈線が沿う | 暗褐 / 砂<br>粒・礫中量         | 加曾利<br>E1b式 |
| 第96図3<br>図版81-3   | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>90%      | 高 [33.0]<br>口 21.5<br>厚 0.9 | キャリパー形 / 直<br>線的に立ち上がる<br>胴部 / 外反して広<br>がる頸部 / 内湾し<br>て広がる口縁部 | 地文は撚糸L縦位 / 口縁部を隆帯で画す / 把手4単位、内1単<br>位は他より大きく、孔と沈線による渦巻状文施文 / 口縁部区画は<br>4単位に画す、隆帯と沈線による槽円状の区画施文 / 口縁部区画<br>と1対になる / 頸部無文 / 頸部と胴部を2本1対の隆帯で画す / 胴<br>部に2本1対の直状の隆帯6単位と1本の波状隆帯5単位を交<br>互に垂下、2本1対の直状隆帯が2単位並ぶ部分が1ヶ所あり /<br>隆帯断面カマボコ状、口縁部区画隆帯の一部剥がれあり / 撚糸施<br>文→口縁部隆帯・把手貼付  | 赤褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量   | 加曾利<br>E1b式 |
| 第97図4<br>図版82-4   | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>70%        | 高 [24.2]<br>口 31.6<br>厚 1.0 | キャリパー形 / 外<br>反する頸部 / 内湾<br>する口縁部 / 口唇<br>部内面で断面三角<br>状に肥厚    | 中空の把手が1単位残存、他把手の痕跡が3単位あり、元は対<br>称面毎に4単位と思われる / 横位隆帯で口縁部を画す / 口縁部区<br>画内に沈線による槽円状の区画施文、縦位沈線充填 / 口縁部区画<br>の上端下端には先端が渦巻状となる横位沈線を付す、上端は渦巻<br>が右側、下端は渦巻が左側 / 頸部無文 / 頸部と胴部の境に3本の<br>沈線が横走しているように見えるが一部には凹凸があり隆帯が2<br>本横走する、大型の把手がつくこと加曾利E1b式が多いこと<br>から加曾利E1b式とした。   | にぶい黄褐<br>/ 砂粒・礫<br>中量   | 加曾利<br>E1b式 |
| 第97図5<br>図版82-5   | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>50%        | 高 [10.7]<br>口 29.4<br>厚 1.0 | 外傾する頸部 / 外<br>傾して内湾する口<br>縁部                                  | 地文は撚糸L縦位 / 口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す<br>/ 2本1対の隆帯により端部が渦巻状を呈する弧状文を配す、渦<br>巻部分はやや突起状 (6単位)、 / 隆帯断面カマボコ状   | 暗褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量   | 加曾利<br>E1b式 |
| 第97図6<br>図版83-6   | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>50%        | 高 [16.6]<br>厚 1.1           | キャリパー形 / 外<br>傾する頸部 / 内湾<br>する口縁部                             | 地文は撚糸L縦位施文 / 口縁部と頸部を1本の隆帯で画す、口縁<br>部区画上位の隆帯は欠損 / 区画内に2本1対の隆帯により端部<br>が渦巻文を呈する弧状文を配す、弧状文と口縁部区画下端隆帯間<br>に弧状の沈線を充填 / 頸部無文 / 頸部下端に2本1対の横位隆<br>帯が横走 / 隆帯断面カマボコ状 / 隆帯の剥落が多く見られる  | 橙 / 砂粒・<br>礫多量          | 加曾利<br>E1b式 |
| 第98図7<br>図版83-7   | 深鉢       | 胴部上位<br>～下位<br>100%      | 高 [21.8]<br>厚 1.1           | 上位は外反、中位<br>～下位は直線的に<br>立ち上がる胴部                               | 地文は撚糸L縦位 / 横位隆帯で胴部を画す / 波状隆帯が1本ず<br>つ対称面に垂下し、正面側と裏側の2面に画す / 正面側は2本1<br>対の直状に垂下する隆帯間に幅広の隆帯による渦巻文施文、隆帯<br>上短沈線を充填し先端は隆帯の中央に1本の沈線施文 / 渦巻文下<br>端には直状の隆帯が接し中央に先端が弧状となった沈線施文 / 裏<br>面も同様に幅広の隆帯による渦巻文を施す / 隆帯上の短沈線の範<br>囲が正面のものより狭い、渦巻文の一部から隆帯が1本波状に垂<br>下 / 隆帯断面カマボコ状・幅広、隆帯脇に沈線が沿う   | 明黄褐 / 砂<br>粒・礫中量        | 加曾利<br>E1b式 |
| 第98図8<br>図版83-8   | 深鉢       | 胴部上位<br>～底部<br>90%       | 高 [24.1]<br>底 11.9<br>厚 1.0 | 上位は外反し中位<br>が内湾して立ち上<br>がる胴部 / 平坦な<br>底部                      | 地文は撚糸L縦位 / 上部に2本の隆帯が横走 / 2本1対の直状に<br>垂下する隆帯3単位と1本の波状に垂下する隆帯3単位が交互<br>に垂下、間に直状の隆帯が1本のみ垂下する部分が1単位 / 隆<br>帯断面背の低いカマボコ状・台形状 / 底面網代痕なし / 2層から<br>出土   | 明赤褐 / 砂<br>粒中量、礫<br>微量  | 加曾利<br>E1b式 |
| 第98図9<br>図版83-9   | 深鉢       | 胴部上位<br>～底部<br>90%       | 高 [23.5]<br>底 9.7<br>厚 1.1  | 下位は外傾し上位<br>は外反しながら広<br>がる胴部 / 平坦な<br>底部                      | 上端に1本の隆帯が横走 / 2本1対の直状に垂下する沈線4単位<br>で胴部を4つに画す / 胴部上位に単沈線による渦巻文を施文し、<br>区画内を弧状の沈線で充填 / 隆帯断面カマボコ状 / 内面の器面は<br>全体的に凹凸があり粗い / 底面網代痕なし   | 赤褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量   | 加曾利<br>E1b式 |
| 第98図10<br>図版83-10 | 深鉢       | 胴部中位<br>～底部<br>70%       | 高 [26.1]<br>底 12.5<br>厚 1.4 | 内湾して立ち上<br>がる胴部 / 平坦な底<br>部                                   | 地文は縦位条線文、胴部に施文 / 2本1対の直状の隆帯4単位と<br>1本の波状隆帯4単位が交互に垂下 / 隆帯断面カマボコ状 / 底面<br>網代痕無し  | にぶい黄橙<br>/ 砂粒多量、<br>礫少量 | 曾利Ⅲ<br>式    |
| 第98図11<br>図版84-11 | 深鉢       | 胴部<br>破片                 | 厚 1.2                       | 外傾する胴部  | 押圧文を付した隆帯で画す / 三叉文、周囲にU字状の刺突文施<br>文 / 隆帯断面台形状、隆帯脇2本の単沈線が沿う   | 褐 / 砂粒多<br>量、礫微量        | 勝坂3<br>式    |
| 第98図12<br>図版84-12 | 深鉢       | 胴部<br>破片                 | 厚 1.0                       | 括れる胴部   | 眼鏡状把手、一部押圧文施文 / 把手上部に縦位隆帯が見られる /<br>把手下部から幅広の隆帯を貼付 / 把手周囲に僅かに半円状の刺突<br>文が見られる / 隆帯断面台形、隆帯脇などで付けて貼付、一部隆帯<br>脇沈線が沿う  | 明褐 / 砂<br>粒・礫中量         | 勝坂3<br>式    |
| 第98図13<br>図版84-13 | 深鉢       | 口縁部付<br>近～胴部<br>上位<br>破片 | 厚 0.9                       | やや外傾する胴部<br>上位 / 内湾する口<br>縁部付近                                | 地文は撚糸L、口縁部区画内横位施文・胴部縦位施文 / 先端に渦<br>巻文を配す横位隆帯で口縁部を画す / 口縁部区画内に隆帯と沈線<br>による文様の痕跡が見られる / 隆帯断面カマボコ状  | 暗褐 / 砂粒<br>多量、礫微<br>量   | 加曾利<br>E1a式 |

第38表 112号住居跡出土土器一覧1



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態               | 法量<br>(cm) | 器形・形態   | 文様・特徴  | 胎土                        | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|--------------------------|------------|---|--|---------------------------|-------------|
| 第98図14<br>図版84-14 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片         | 厚0.9       | 外傾する頸部 / 内<br>湾する口縁部                              | 地文は燃糸L縦位 / 口縁部は上端1本、下端1本の隆帯で画す / 2本1対の隆帯を波状に配す、端部の小突起には沈線による渦巻文施文 / 弧の部分、突起部分から隆帯が複数本垂下 / 頸部無文 / 破片下端に横位隆帯が僅かに残存 / 隆帯断面カマボコ状               | にぶい黄褐 / 砂粒中量、<br>礫少量      | 加曾利<br>E1b式 |
| 第98図15<br>図版84-15 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片       | 厚0.8       | キャリバー形 / や<br>や外反する胴部上<br>位 / 外傾する頸部<br>/ 内湾する口縁部 | 地文は燃糸L縦位 / 口縁部は上端1本、下端1本の隆帯で画す / 2本1対の隆帯により端部が渦巻状を呈する弧状文を配す / 頸部無文 / 頸部と胴部を横走する2本1対の隆帯で画す / 胴部に2本1対の直位の隆帯が垂下、1本の隆帯が波状に垂下 / 隆帯断面カマボコ状       | 暗褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量     | 加曾利<br>E1b式 |
| 第99図16<br>図版84-16 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片         | 厚1.0       | 外傾する頸部 / 内<br>湾する口縁部                              | 地文は燃糸L縦位 / 口縁部は上端1本、下端1本の隆帯で画す / 2本1対の隆帯を斜位に配す、端部がやや突起状となり沈線による渦巻文を施文 / 渦巻文下部から幅広の隆帯が垂下、中央に浅い縦位沈線が見られる / 頸部無文 / 隆帯断面カマボコ状・三角状              | 暗褐 / 砂粒 / 礫<br>中量、礫微<br>量 | 加曾利<br>E1b式 |
| 第99図17<br>図版84-17 | 深鉢       | 胴部下位<br>～底部<br>破片        | 厚1.0       | 直状に立ち上がる<br>胴部 / 平坦な底部                            | 地文は燃糸L縦位 / 2本1対の直位の隆帯が2単位垂下、1本の直位の隆帯が1単位垂下 / 底面網代痕無し / 内面に帯状の黒色の付着物が少量見られる   | 橙 / 砂粒中<br>量、礫少量          | 加曾利<br>E1b式 |
| 第99図18<br>図版84-18 | 深鉢       | 口縁部付<br>近～頸部<br>破片       | 厚1.0       | 括れる頸部 / 外傾<br>する口縁部付近                             | 口縁部付近無文 / 頸部に横位平行沈線を多数施文 / 頸部上位に2本の紐状の隆帯を波状に貼付 / 隆帯断面カマボコ状   | 暗褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量     | 曾利II<br>式   |
| 第99図19<br>図版85-19 | 深鉢       | 口縁部<br>破片                | 厚0.8       | 外傾して広がる口<br>縁部                                    | 地文はRL縦位 / 口縁部に3本1対の沈線が巡る / 3本1対の沈線による連弧文と思われる  | 暗褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量     | 連弧文         |
| 第99図20<br>図版85-20 | 浅鉢       | 口縁部<br>破片                | 厚1.0       | 下位は内折し上位<br>は外傾する口縁部                              | 口唇部に円形の窪みあり / 窪みの位置から矢羽根状刺突文を付した隆帯が垂下 / 隆帯横に沈線による渦巻文、横位沈線と三角押文を横位に施文 / 渦巻文下部に交互刺突文 / 隆帯断面三角状   | 明褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量     | 勝坂3b<br>式   |
| 第99図21<br>図版85-21 | 浅鉢       | 口縁部<br>破片                | 厚0.7       | 内湾する口縁部   | 口縁部に突出部あり、隆帯による逆S字状の文様 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付   | 橙 / 砂粒中<br>量、礫微量          | 勝坂3<br>式    |
| 第99図22<br>図版85-22 | 浅鉢       | 口縁部付<br>近～体部<br>上位<br>破片 | 厚0.9       | やや外傾する胴部<br>上位 / 内湾する口<br>縁部付近                    | 上端1本、下端1本の押圧文を付した隆帯で画す / 区画内にC字状の隆帯で区画、隆帯上矢羽根状刺突文を付す / 沈線による渦巻文を配し右側は縦位沈線充填、2本の横位沈線を中央に施文し上下に縦位沈線充填 / 隆帯を斜位に貼付し上下に弧状の沈線を充填 / 隆帯断面三角状・カマボコ状 | 赤褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量     | 加曾利<br>E1式  |
| 第99図23<br>図版85-23 | 浅鉢       | 口縁部付<br>近～体部<br>上位破片     | 厚1.1       | 体部と口縁部の境<br>で内折                                   | 矢羽根状刺突文を縦位に施文し画す / 長方形区画に沿って内側に沈線を施文   | 橙 / 砂粒中<br>量、礫微量          | 加曾利<br>E1式  |
| 第99図24<br>図版85-24 | 浅鉢       | 口縁部付<br>近～体部<br>上位<br>破片 | 厚0.9       | 体部と口縁部の境<br>で内折                                   | 2本1対の隆帯を斜位に貼付 / 沈線による渦巻文、隆帯断面カマボコ状   | 暗褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量     | 加曾利<br>E1式  |
| 第99図25<br>図版85-25 | 浅鉢       | 口縁部付<br>近<br>破片          | 厚1.0       | 内傾する口縁部付<br>近                                     | 弧状の沈線を同心円状に施文 / 補修孔あり、楕円形、外面長軸1.5cm・短軸1.0cm、内面長軸1.0cm・短軸0.8cm  | 明赤褐 / 砂<br>粒・礫微量          | 加曾利<br>E1式  |

第38表 112号住居跡出土土器一覽2

| 挿図番号<br>図版番号       | 種別       | 遺存<br>状態       | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴  | 胎土                       | 時期<br>型式    |
|--------------------|----------|----------------|---------------------|-----------|---|--------------------------|-------------|
| 第99図26<br>図版85-26  | 土偶       | 左足<br>以外<br>欠損 | [4.8]/2.8/[2.0]     | 19.8      | 足の傾き、親指の表現から左足と思われる / 指は4本、それぞれを沈線で区切り親指は他の指とやや離れる / 足裏は平坦 / 残存部に文様無し | 黒褐 / 砂粒中量、礫<br>微量        | 中期          |
| 第100図27<br>図版85-27 | 土器<br>片鉢 | 完形             | 3.5/2.4/0.7         | 10        | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / V字状の突起の一部 / 波状沈線                      | にぶい褐 / 砂粒少量、<br>礫微量、雲母中量 | 阿玉台II<br>式  |
| 第100図28<br>図版85-28 | 土器<br>片鉢 | 50%            | [3.3]/4.2/1.5       | 25.4      | 方形か / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は一部磨耗 / 口縁部片利用 / 僅かに幅広角押文が見られる                     | 褐 / 砂粒中量、礫微<br>量         | 勝坂1<br>～2式  |
| 第100図29<br>図版85-29 | 土器<br>片鉢 | 70%            | [4.6]/3.6/0.8       | 19.3      | 方形 / 挾部は1ヶ所残 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / RL斜位 / 隆帯貼付 / 隆帯断面カマボコ状             | 褐 / 砂粒少量、礫微量、<br>雲母中量    | 勝坂3式        |
| 第100図30<br>図版85-30 | 土器<br>片鉢 | 完形             | 4.4/3.8/1.1         | 29.4      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 直状・波状の紐状隆帯 / 4層から出土                   | 黒褐 / 砂粒・礫微量              | 曾利式         |
| 第100図31<br>図版85-31 | 土器<br>片鉢 | 完形             | 4.4/4.1/0.8         | 22        | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 燃糸L                                  | 褐 / 砂粒・礫微量               | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第100図32<br>図版85-32 | 土器<br>片鉢 | 完形             | 6.1/4.7/1.7         | 43.7      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 口縁部片利用 / 無文 / 外面と口唇部に少量の赤色顔料残存                | 暗褐 / 砂粒少量・礫<br>微量        | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第100図33<br>図版85-33 | 土器<br>片鉢 | 完形             | 2.8/2.7/1.3         | 14.7      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 口縁部片利用 / 無文                                   | 褐 / 砂粒・礫微量               | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第100図34<br>図版85-34 | 土器<br>片鉢 | 完形             | 3.4/2.8/0.9         | 12.9      | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁の磨耗は未発達 / 口縁部片 / 無文                                  | にぶい黄橙 / 砂粒・<br>礫微量       | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第100図35<br>図版85-35 | 土器<br>片鉢 | 80%            | [6.2]/[5.9]/1.1     | 49.4      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                                    | 明黄褐 / 砂粒少量、<br>礫微量       | 中期中葉<br>～後葉 |

第39表 112号住居跡出土土製品一覽

## [石器] (第100図36～48・第101図、図版86・87、第40表)

26点を図示した。35、36は石鏃である。37～52は打製石斧である。53は磨製石斧である。54～60は二次加工剥片である。

| 挿図番号<br>図版番号       | 器種     | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴  |
|--------------------|--------|---------|--------|-------|--------|--------|---|
| 第100図36<br>図版86-36 | 石鏃     | 黒曜石     | 21.4   | 11.0  | 2.8    | 0.6    | 凹基無茎 / 側縁は緩やかな弧状を呈する / 柄りは弧状 / 右脚部一部欠損                                      |
| 第100図37<br>図版86-37 | 石鏃     | 黒曜石     | 7.4    | 5.6   | 2.7    | 0.1    | 片脚部のみ残存   |
| 第100図38<br>図版86-38 | 打製石斧   | 頁岩      | 55.6   | 32.9  | 11.3   | 24.9   | 短冊形 / 基部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる   |
| 第100図39<br>図版86-39 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 83.7   | 59.1  | 23.1   | 147.8  | 短冊形 / 刃部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる   |
| 第100図40<br>図版86-40 | 打製石斧   | 砂岩      | 93.3   | 36.6  | 10.1   | 45.2   | 短冊形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる   |
| 第100図41<br>図版86-41 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 98.3   | 39.5  | 13.5   | 60.0   | 短冊形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる   |
| 第100図42<br>図版86-42 | 打製石斧   | 砂岩      | 85.1   | 46.2  | 15.5   | 62.6   | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる                             |
| 第100図43<br>図版86-43 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 100.4  | 59.3  | 19.4   | 111.1  | 撥形 / 基部は一部折れて欠損している / 表面のほぼ全面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる                        |
| 第100図44<br>図版86-44 | 打製石斧   | 砂岩      | 99.7   | 60.2  | 29.3   | 213.9  | 撥形 / 両側縁に敲打剥離が認められる   |
| 第100図45<br>図版86-45 | 打製石斧   | 砂岩      | 63.1   | 39.1  | 11.8   | 35.2   | 撥形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる  |
| 第100図46<br>図版86-46 | 打製石斧   | 頁岩      | 89.1   | 57.1  | 19.1   | 130.4  | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の稜上に局所的に潰れが認められる                    |
| 第100図47<br>図版86-47 | 打製石斧   | 砂岩      | 53.1   | 51.5  | 15.5   | 47.2   | 撥形 / 刃部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる  |
| 第100図48<br>図版86-48 | 打製石斧   | 砂岩      | 78.7   | 45.7  | 13.0   | 50.2   | 撥形 / 基部は一部折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる  |
| 第101図49<br>図版86-49 | 打製石斧   | 頁岩      | 93.7   | 59.5  | 26.4   | 123.0  | 撥形 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の稜上に局所的に潰れが認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが認められる / 被熱の可能性はある |
| 第101図50<br>図版86-50 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 95.8   | 67.5  | 33.8   | 203.4  | 撥形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる  |
| 第101図51<br>図版87-51 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 72.3   | 50.5  | 13.7   | 49.6   | 撥形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる  |
| 第101図52<br>図版87-52 | 打製石斧   | 砂岩      | 68.8   | 60.7  | 16.5   | 81.7   | 撥形 / 刃部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の稜上に局所的に潰れが認められる       |
| 第101図53<br>図版87-53 | 打製石斧   | 結晶片岩    | 119.4  | 34.6  | 24.9   | 155.3  | 平面形状は不明 / 右半のみ残存 / 右側縁に敲打剥離が認められる   |
| 第101図54<br>図版87-54 | 磨製石斧   | 緑色凝灰岩   | 90.5   | 37.7  | 16.0   | 78.5   | 体部は表裏面ともに全面研磨面に覆われている / 被熱の可能性はある   |
| 第101図55<br>図版87-55 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 14.4   | 7.1   | 3.1    | 0.3    | 裏面側右側縁に連続的な二次的剥離が認められる  |
| 第101図56<br>図版87-56 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 11.0   | 18.0  | 6.0    | 0.7    | 表面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第101図57<br>図版87-57 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 20.0   | 16.8  | 5.7    | 1.4    | 裏面側上端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第101図58<br>図版87-58 | 二次加工剥片 | ホルンフェルス | 80.5   | 61.4  | 14.8   | 71.5   | 主要剥離面側両側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第101図59<br>図版87-59 | 二次加工剥片 | 結晶片岩    | 106.2  | 39.7  | 20.9   | 104.6  | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第101図60<br>図版87-60 | 二次加工剥片 | 結晶片岩    | 148.5  | 93.2  | 30.6   | 480.4  | 表面側末端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第101図61<br>図版87-61 | 二次加工剥片 | 砂岩      | 181.6  | 115.4 | 48.7   | 1025.2 | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |

第40表 112号住居跡出土石器一覧



埋甕：検出されなかった。柱穴：13本検出した。P 1、P 2、P 3、P 6、P 12を主柱穴ととらえ、5本柱建物を想定する。建て替え・拡張は想定できない。

[覆 土] 2層に分層できた。

[遺 物] 土器、石器が出土した。

[時 期] 中期中葉～後葉期（阿玉台Ⅲ～加曾利E 1式期）。

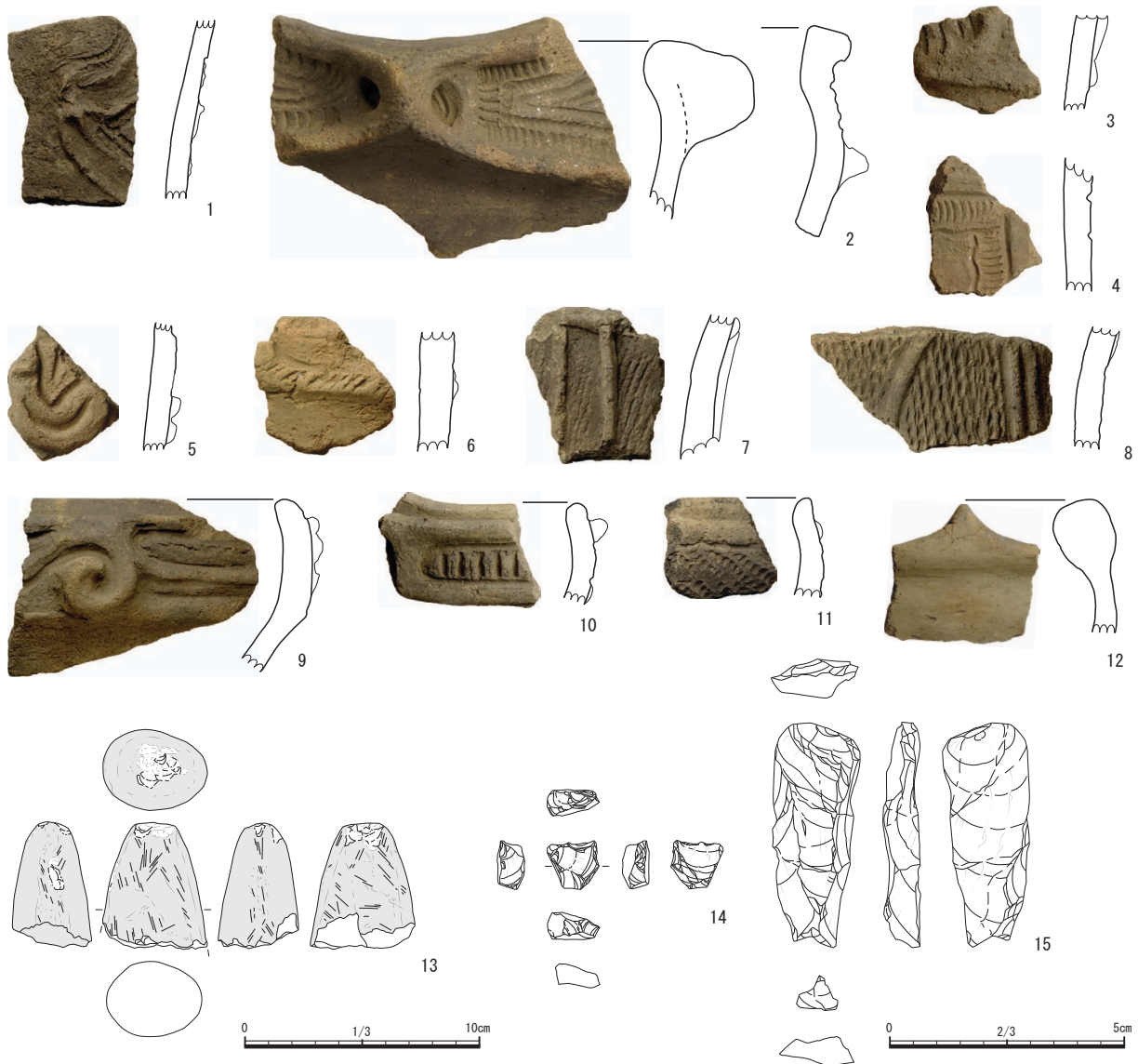
**遺 物**（第103・104図、図版88、第41・42表）

[土 器]（第103図1～12、図版88、第41表）

破片資料12点を図示した。1～3は阿玉台式、4～6は勝坂式、7～11は加曾利E式の深鉢形土器である。12は加曾利E1式の浅鉢形土器と思われる。

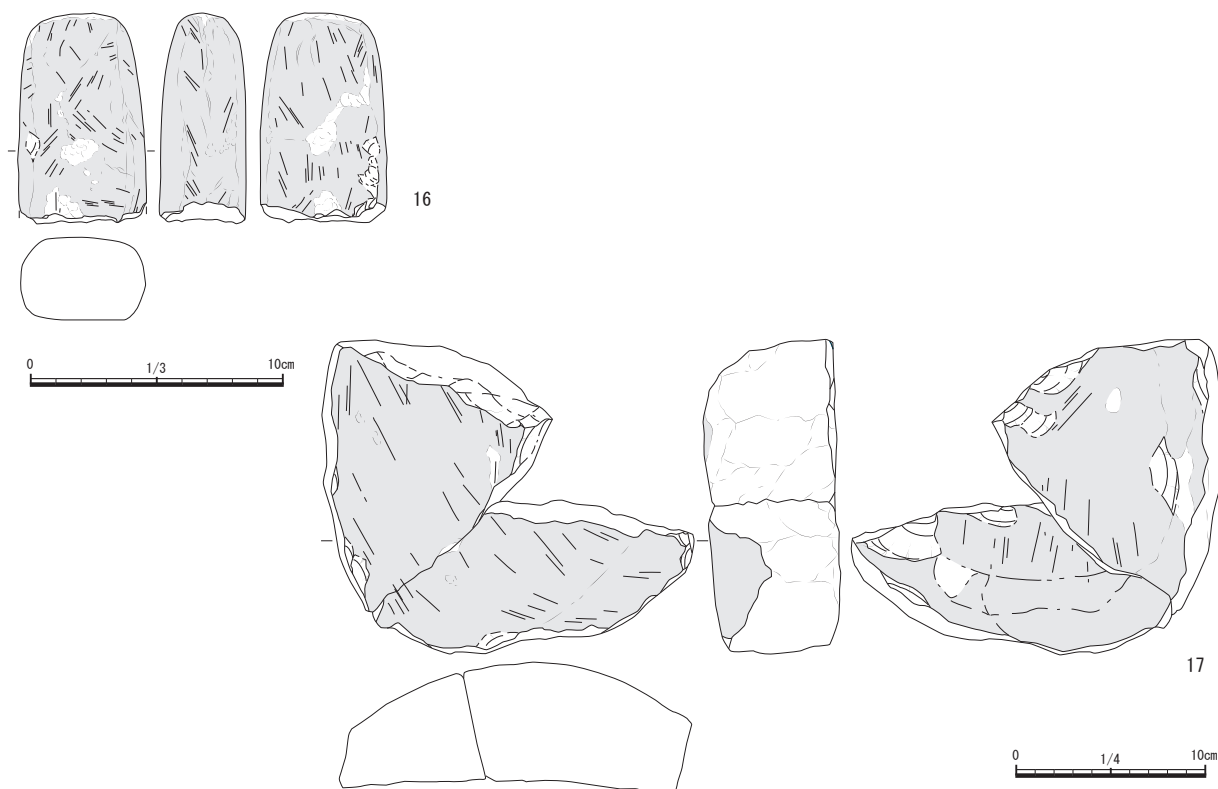
[石 器]（第103図13～15・第104図、図版88、第42表）

5点を図示した。13は磨製石斧である。14は二次加工剥片である。15は剥片である。16は磨+凹+敲石である。17は石皿である。



第103図 113号住居跡出土遺物1（1/3・2/3）





第104図 113号住居跡出土遺物2 (1/4・1/3)

| 挿図番号<br>図版番号       | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態       | 法量<br>(cm) | 器形・形態                    | 文様・特徴  | 胎土              | 時期<br>型式 |
|--------------------|----------|------------------|------------|--------------------------|--|-----------------|----------|
| 第103図1<br>図版88-1   | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚0.8       | やや外反する胴部                 | 隆帯を横位M字状に粗くなで付けて貼付/隆帯脇一部に複列の結節沈線文が沿う/隆帯断面三角状   | 暗褐/砂粒・礫少量、雲母多量  | 阿玉台II式   |
| 第103図2<br>図版88-2   | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片 | 厚1.1       | 内湾する頸部/内湾する口縁部/やや外傾する口唇部 | 隆帯による口縁部区画/隆帯上縄文施文、単節RL/区画の接点に眼鏡状把手/区画には爪形文、三角押文が沿い中央に沈線施文/頸部無文/隆帯断面背の高い三角状～カマボコ状/炉内から出土   | 褐/砂粒少量、礫中量、雲母多量 | 阿玉台III式  |
| 第103図3<br>図版88-3   | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚0.9       | やや外傾する胴部                 | 1本の隆帯を横位に貼付/隆帯による楕円状と思われる区画/区画内隆帯に沿って押圧文施文/隆帯断面三角状   | 褐/砂粒微量、礫少量、雲母多量 | 阿玉台III式  |
| 第103図4<br>図版88-4   | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.1       | ほぼ直立する胴部                 | 2本の沈線による区画文/区画に爪形文、波状沈線が沿う   | 褐/砂粒・礫少量        | 勝坂2a式    |
| 第103図5<br>図版88-5   | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.0       | ほぼ直立する胴部                 | 隆帯による「し」字状の文様、隆帯上沈線、押圧文施文/隆帯断面角状、隆帯脇1本の単沈線が沿う  | 橙/砂粒・礫微量        | 勝坂3b式    |
| 第103図6<br>図版88-6   | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.3       | ほぼ直立する胴部                 | 押圧文を付した隆帯による区画/区画下部無文  | 橙/砂粒少量、礫微量      | 勝坂3式     |
| 第103図7<br>図版88-7   | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.2       | 上位が外反し広がる胴部              | 地文は燃糸L縦位/隆帯を横位に貼付/横位隆帯から2本の直状の隆帯が垂下  | 暗褐/砂粒少量、礫多量     | 加曾利E1b式  |
| 第103図8<br>図版88-8   | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚1.0       | 外傾する胴部                   | 地文は燃糸L縦位/2本の直状の隆帯が垂下/1本の隆帯が波状に垂下/隆帯断面カマボコ状   | 褐/砂粒少量、礫中量      | 加曾利E1b式  |
| 第103図9<br>図版88-9   | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片 | 厚0.9       | 外傾し広がる頸部/内湾する口縁部         | 地文は口縁部区画内に僅かに見られるがほぼ消えているため詳細不明、縄文か/隆帯によって口縁部を画す、区画内隆帯で2段に画す/沈線と隆帯による渦巻文/頸部無文/隆帯断面角状～カマボコ状 | 暗褐/砂粒・礫中量       | 加曾利E2a式  |
| 第103図10<br>図版88-10 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.0       | 内湾する口縁部                  | 隆帯によって口縁部を画す/区画内縦位沈線充填/隆帯断面カマボコ状～やや歪んだカマボコ状  | にぶい黄褐/砂粒少量、礫微量  | 加曾利E2式   |
| 第103図11<br>図版88-11 | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚1.0       | 内湾する口縁部/やや外傾する口唇部        | 地文は単節RL横位/隆帯によって口縁部を画すか、上端隆帯1本、下端欠損/隆帯断面カマボコ状  | 明黄褐～黒褐/砂粒・礫中量   | 加曾利E式    |
| 第103図12<br>図版88-12 | 浅鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚0.8       | 内湾する口縁部                  | 波状口縁/外面無文/波頂部側面に沈線による渦巻文施文、口唇部に沈線、押圧文施文  | 明黄褐/砂粒少量、礫微量    | 加曾利E1式か  |

第41表 113号住居跡出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号       | 器種     | 石材    | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴   |
|--------------------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--|
| 第103図13<br>図版88-13 | 磨製石斧   | 緑色凝灰岩 | 55.1   | 45.4  | 35.2   | 120.9  | 基部のみ残存 / 基部は敲打を伴う剥離によって調整される / 表裏面ともにほぼ全面研磨面に覆われている / 一部両側面に敲打が認められ、左面は研磨痕の後段階、右は面は研磨痕の前段階 |
| 第103図14<br>図版88-14 | 二次加工剥片 | 黒曜石   | 10.3   | 10.6  | 5.9    | 0.7    | 表面側上面に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第103図15<br>図版88-15 | 剥片     | チャート  | 48.6   | 19.7  | 7.5    | 6.8    | 縦長剥片 / 打面は複剥離面からなり、バルブは発達しており、末端形状は欠損のため不明である  |
| 第104図16<br>図版88-16 | 磨十凹十敲石 | 閃緑岩   | 84.3   | 51.6  | 34.7   | 295.5  | 表裏面全面に磨痕 / 敲打による浅い凹みが表裏面に1ヶ所ずつみられ、磨痕の後段階 / 細かい敲打痕が周縁にみられる                                  |
| 第104図17<br>図版88-17 | 石皿     | 閃緑岩   | 192.9  | 164.9 | 69.5   | 2615.6 | 扁平石皿 / 表裏面ほぼ全面に平坦な使用面 / 一部がすずりに覆われており、被熱の可能性はある  |

第42表 113号住居跡出土石器一覧

## 114号住居跡

## 遺構 (第105～107図)

[位置] (D・E-4) グリッド。

[検出状況] 145 Yに切られる。

[構造] 平面形:円形。主軸方位:N-10°-E。炉と埋甕の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模:長軸696cm / 短軸残存長666cm / 深さ39～61cm。壁溝:2条検出されたことから、拡張ないし建替住居と思われる。外側の壁溝は南西側の一部は検出されなかった。上幅7～18・20～48cm / 下幅2～9・3～11cm / 床面からの深さ2～15・2～8cm。壁:約60～80°でやや急斜に立ち上がる。床面:概ね平坦である。内側の壁溝の内側に硬化面を確認した。直床である。炉:石囲埋甕炉と思われるが、西側の一部にしか石が検出されなかった。深鉢形土器の口縁部(第108図1)が埋設されている。長軸100cm / 短軸96cm / 床面からの深さ28cm。埋甕:南端に1基検出された。深鉢形土器(第108図2)が埋設されている。掘込規模は長軸47cm / 短軸42cm / 床面からの深さ24cm。柱穴:45本検出した。拡張前はP5、P15、P36、P42を支柱穴ととらえ、4本柱建物を想定し、建替はないと思われる。拡張後はP1、P43・44、P3、P7・8、P12、P23、P30・31、P39・40の7本柱を想定し、1回程度の建替があったと思われる。

[覆土] 4層に分層できた。

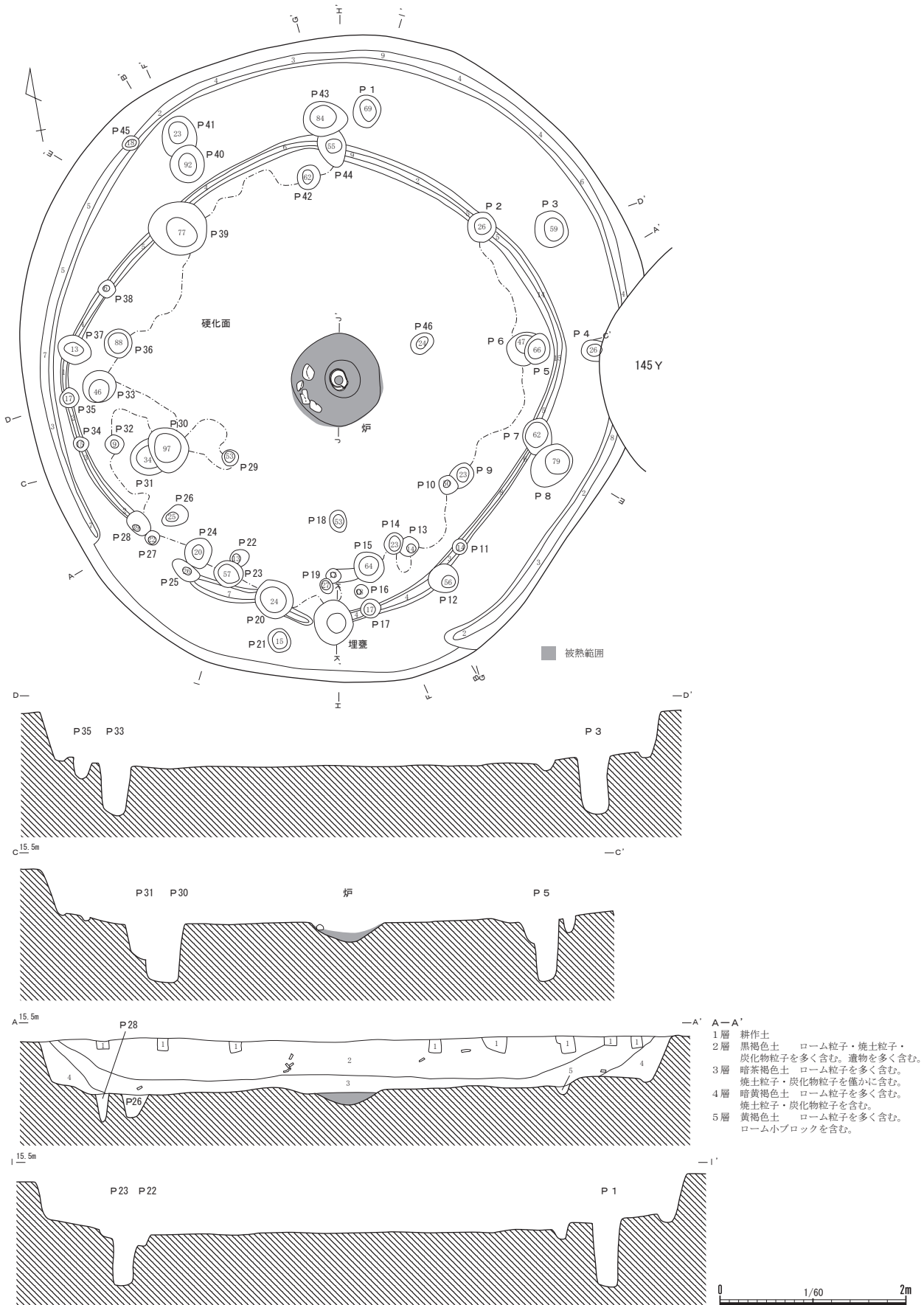
[遺物] 土器、土製品、石器が出土した。炉体土器(第108図1)、埋甕(第108図2)が出土している。

[時期] 中期後葉期(加曾利E2c式 / 連弧文2b段階期)。

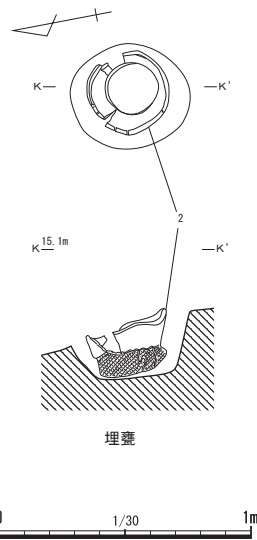
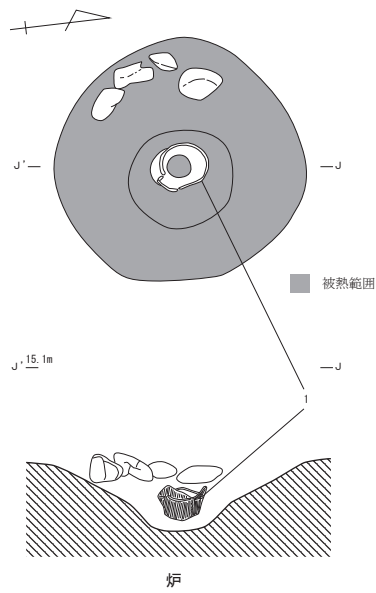
## 遺物 (第108～112図、図版89～91、第43～45表)

[土器] (第108・109図・第110図14～21、図版89・90、第43表)

復元資料を6点、破片資料15点を図示した。1は炉体土器で、連弧文2b段階の深鉢形土器である。縦位条線文を地文とし、胴部が残存する。沈線による連弧文を施文する。2は埋甕で、曾利Ⅱ式の深鉢形土器である。口縁部は無文で、胴部は縄文を地文とする。頸部には紐状の隆帯が波状に巡る。胴部には隆帯が波状、鉤状に垂下する。3は勝坂3b新式の深鉢形土器である。口唇部に連鎖状隆帯が巡り、下端には矢羽根状刺突文を付した横位隆帯が巡る。縄文を地文とし、沈線を付した隆帯を弧状に貼付する。108Jから出土した破片が遺構間接合している。4は小形深鉢で中期にあたると思われる。5は台付鉢の台部である。加曾利E3～4式と思われ、隆帯を逆U字状に貼付する。6は加曾利E式の有孔鏝付土器である。鏝部分に穿孔する。7～20は深鉢形土器である。7は阿玉台式、8～10は勝坂式、

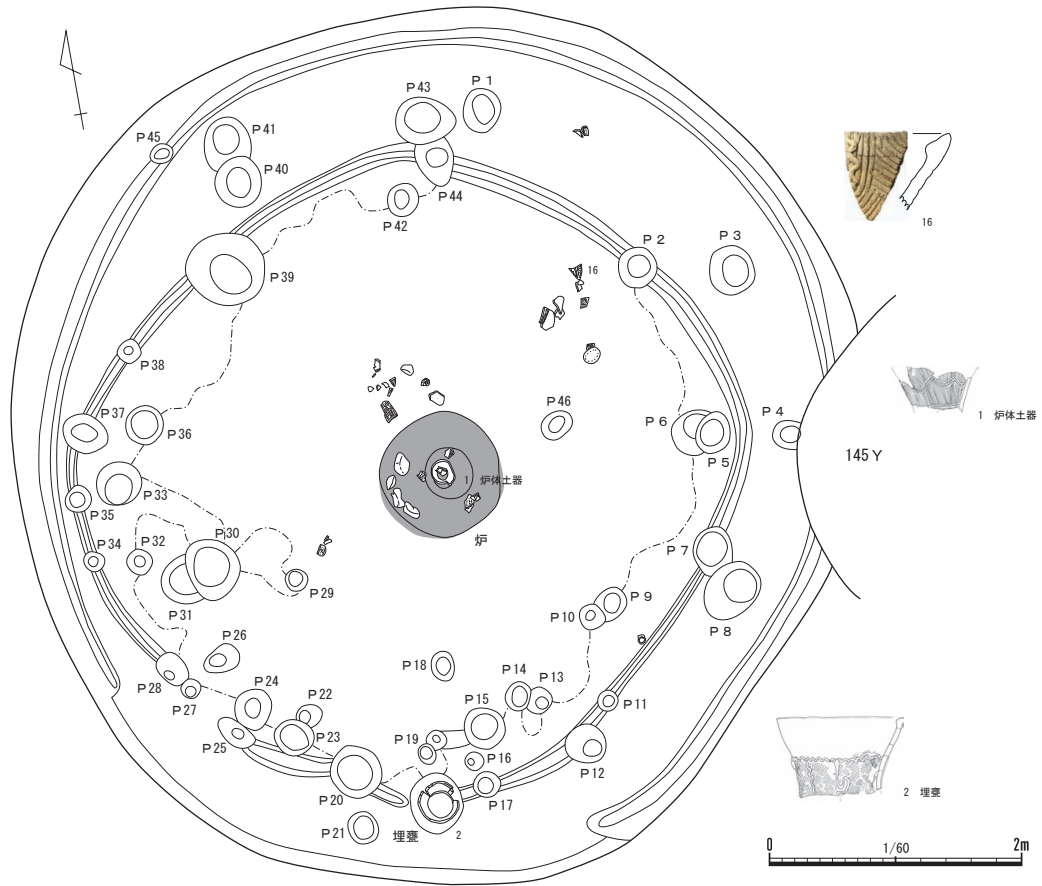


第105図 114号住居跡1 (1/60)

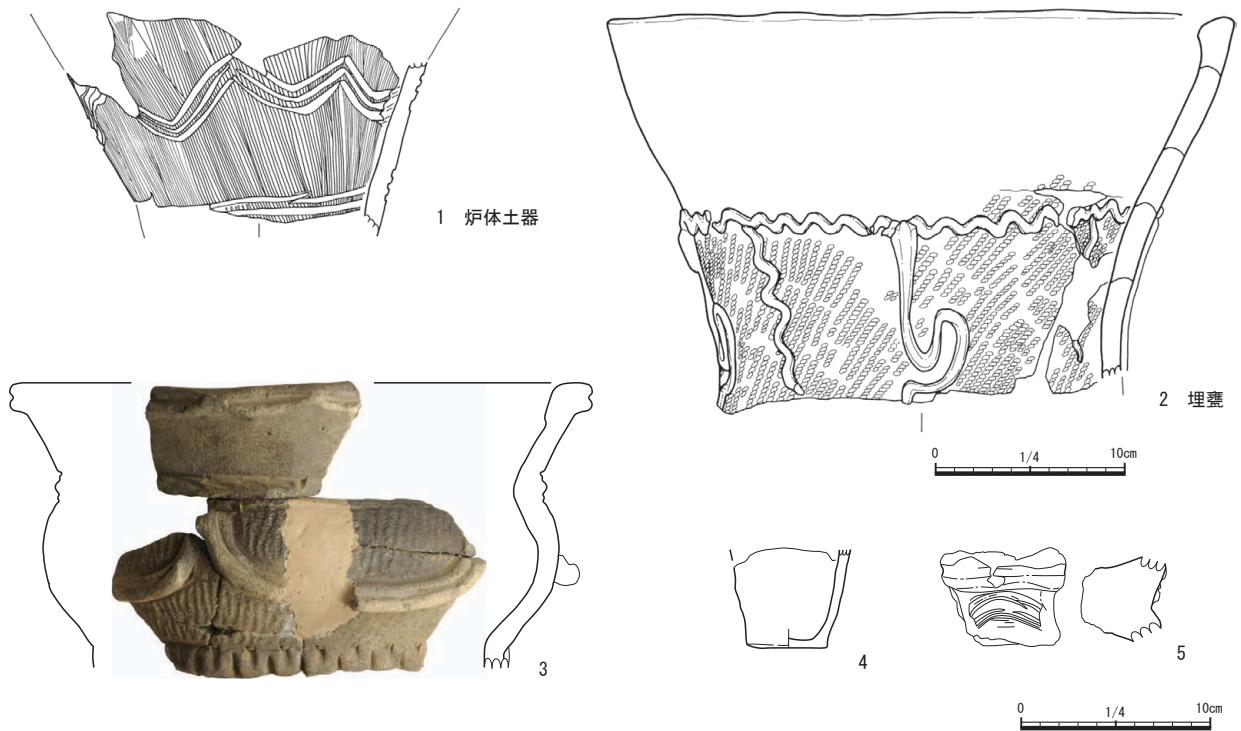


第106図 114号住居跡2・炉・埋甕 (1/60・1/30)





第107図 114号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第108図 114号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)

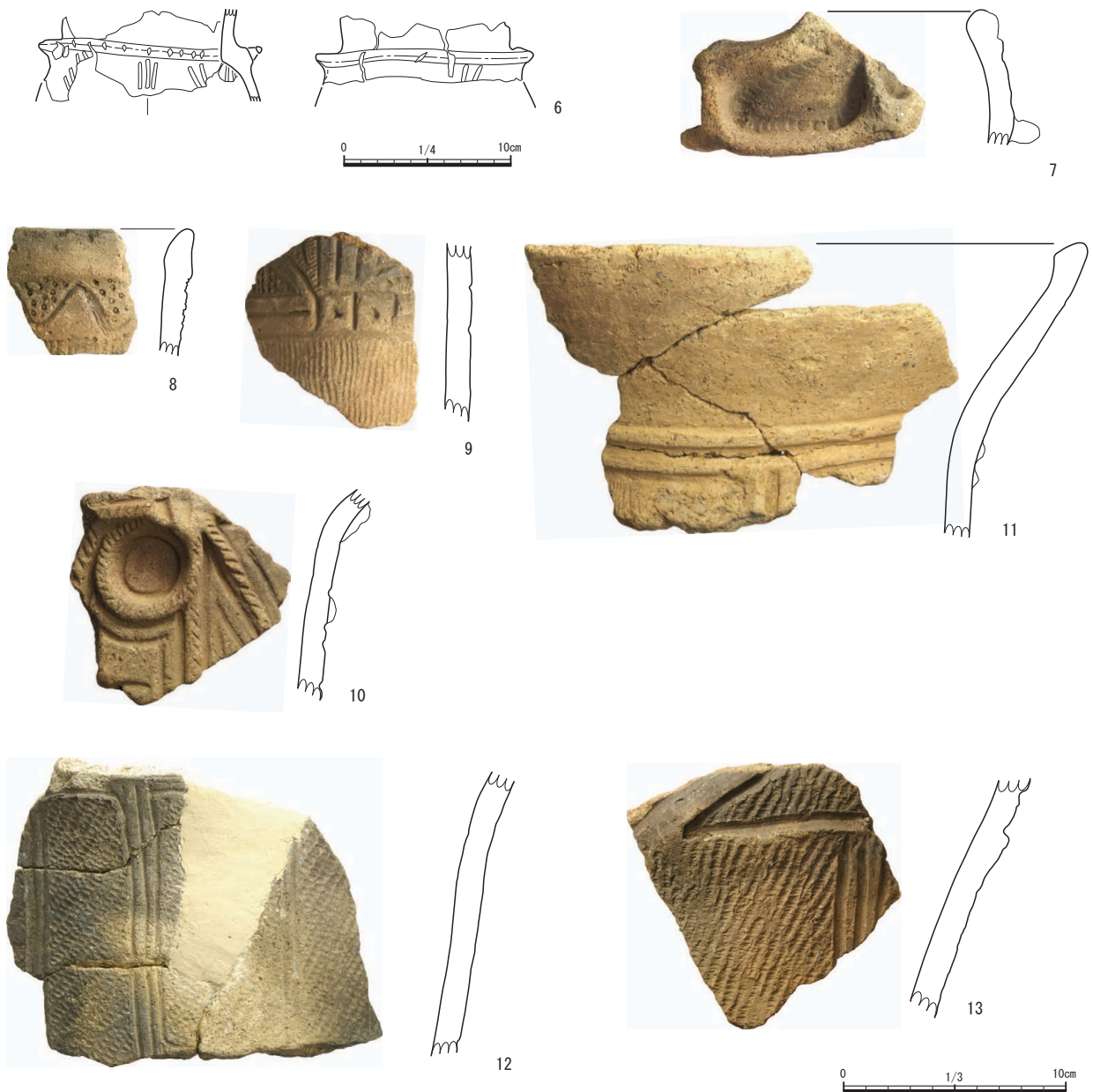
11～15は加曽利E式、16～18は曾利式、19は連弧文土器、20は連弧文土器・加曽利E2式に並行すると思われる土器である。8は沈線を鋸歯状に施し、沈線上側に円形刺突文を充填する。破片下端には押引文が僅かに見られる。勝坂1式にあたるものか。20は条線文を地文とし、口縁部上端と破片中位に2本の沈線が横走する。また2本1対の沈線も垂下する。連弧文2b段階、加曽利E2式に並行するものと思われる。

[土製品] (第110図22～30、図版90、第44表)

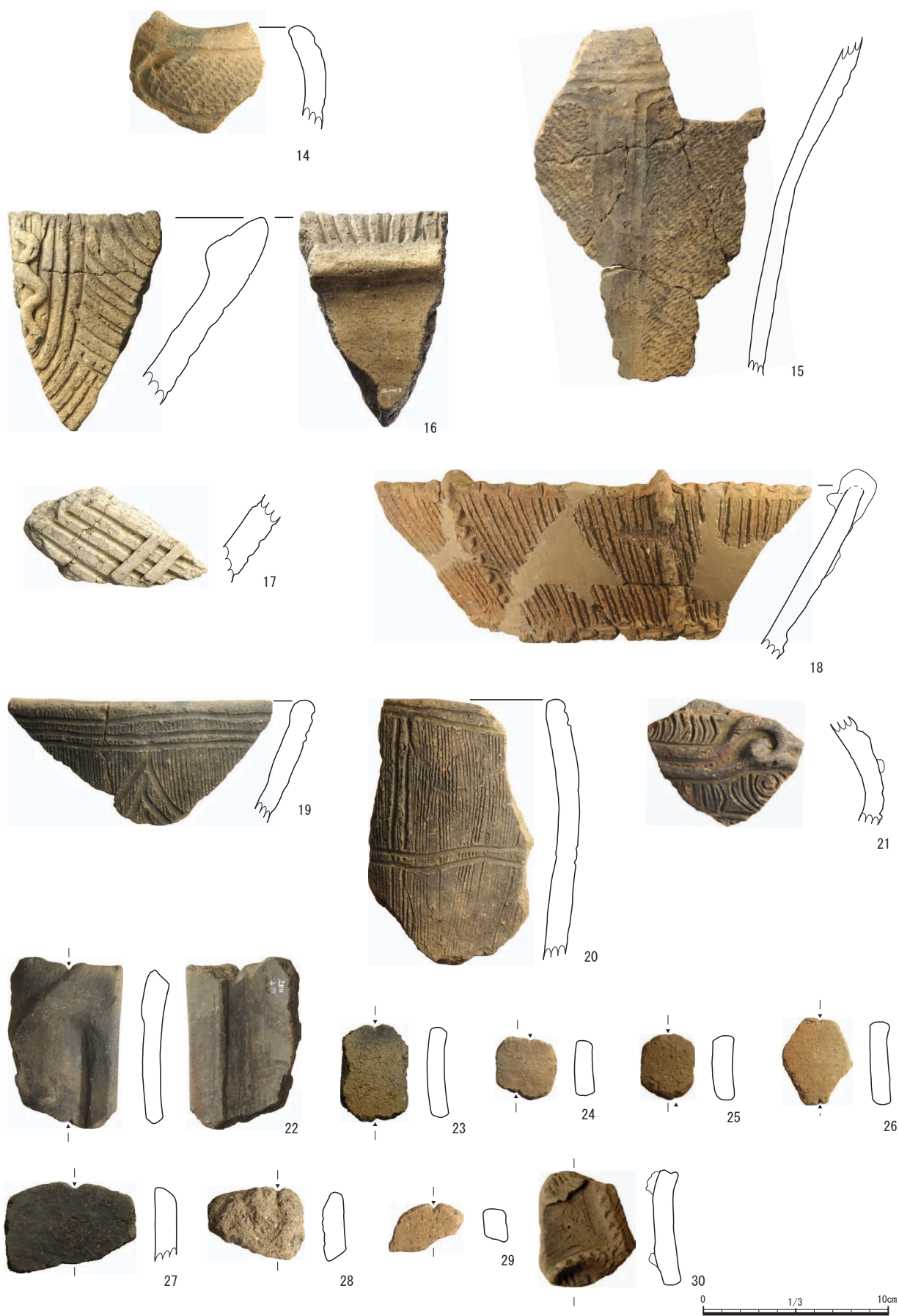
9点を図示した。22～29は土器片錘、30は土製円盤である。

[石器] (第111・112図、図版91、第45表)

31点を図示した。31～37は石鏃である。38～41は楔形石器である。42～51は打製石斧である。52～59は二次加工剥片である。60は打製石斧調整剥片である。61は石皿である。



第109図 114号住居跡出土遺物2 (1/4・1/3)



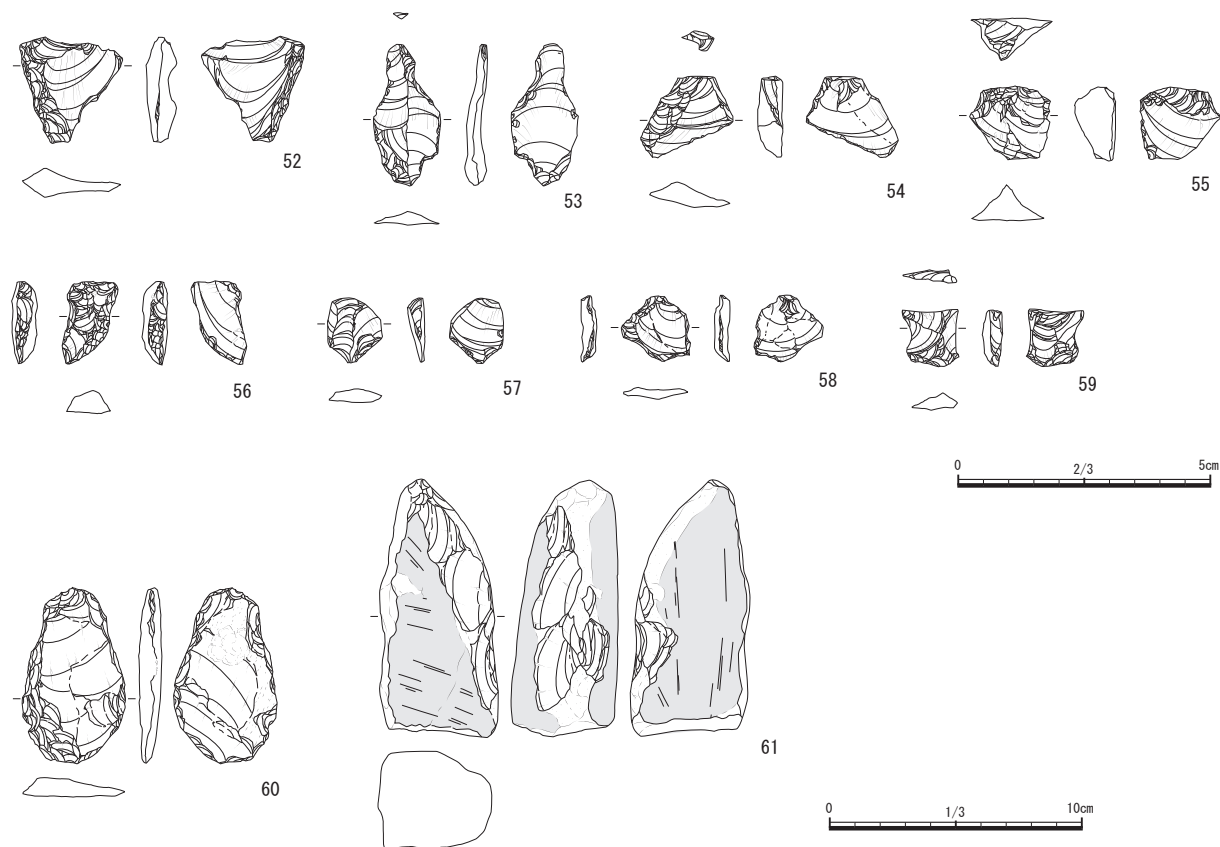
第 110 図 114 号住居跡出土遺物 3 (1 / 3)





第111図 114号住居跡出土遺物4 (1/3・2/3)





第112図 114号住居跡出土遺物5 (1/3・2/3)

| 挿図番号<br>図版番号     | 種別<br>器種       | 部位<br>遺存状態                | 法量<br>(cm)                  | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土                           | 時期<br>型式     |
|------------------|----------------|---------------------------|-----------------------------|--|--|------------------------------|--------------|
| 第108図1<br>図版89-1 | 深鉢             | 胴部上位<br>~下位<br>50%        | 高 [11.6]<br>厚 0.9           | 広がりながら立ち<br>上がる胴部                              | 地文は縦位条線文、1単位が幅1.6cm10条見られる部分あり/3本1対の沈線による連弧文/胴部中に3本1対の沈線が横走/炉体土器                                 | 橙/砂粒・<br>礫多量                 | 連弧文2b<br>段階  |
| 第108図2<br>図版89-2 | 深鉢             | 口縁部~<br>胴部中位<br>90%       | 高 [20.1]<br>口 32.8<br>厚 1.1 | やや外反する胴部/<br>やや内湾しながら<br>外傾する口縁部/口<br>唇部は内側に肥厚 | 地文は単節RL縦位/口縁部無文/頸部に1本の紐状の隆帯が波状に巡る/頸部から紐状の波状隆帯(4単位残存)、鉤状の紐状隆帯(5単位残存)を交互に施文、一ヶ所は鉤状の隆帯が2単位並ぶ/埋裏     | 赤褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量          | 曾利Ⅲ式         |
| 第108図3<br>図版89-3 | 深鉢             | 口縁部~<br>頸部<br>30%         | 高 [15.2]<br>口 24.0<br>厚 0.9 | 外反する頸部/内<br>湾する口縁部付近                           | 地文は0段多条RL斜位・縦位/口唇部に連鎖状隆帯が巡る/口縁部下端に矢羽根状刺突文・刺突文を付した隆帯が巡る/沈線を付した隆帯を弧状に配す/隆帯断面カマボコ状/108Jと114Jとの遺構間接合 | 暗褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量          | 勝坂3b新<br>式   |
| 第108図4<br>図版89-4 | 小形<br>深鉢       | 胴部~底<br>部<br>100%         | 高 [5.2]<br>底 4.2<br>厚 0.5   | やや外傾しながら<br>立ち上がる胴部/<br>平坦な底部                  | 無文/底面に網代痕無し  | 褐/砂粒・<br>礫微量                 | 中期           |
| 第108図5<br>図版89-5 | 台付<br>鉢        | 台部<br>50%                 | 高 [3.4]                     | やや括れる  | 上端に1本の横位隆帯、下に隆帯を逆U字状に貼付  | 褐/砂粒中<br>量、礫微量               | 加曾利E3<br>~4式 |
| 第109図6<br>図版89-6 | 有孔<br>罎付<br>土器 | 口縁部付<br>近~胴部<br>上位<br>90% | 高 [5.5]<br>厚 0.7            | 内湾する胴部上位/<br>やや外傾する口縁<br>部付近                   | 口縁部無文/罎に孔を垂直に穿孔、対称面に1単位ずつ残存、その他欠損のため不明瞭/罎下位には2本1対の沈線による文様  | 明褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量          | 加曾利E式        |
| 第109図7<br>図版89-7 | 深鉢             | 口縁部<br>破片                 | 厚 0.9                       | 内湾する口縁部  | 隆帯による口縁部区画/区画内隆帯に沿って爪形文施文  | 明褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量、雲母多<br>量 | 阿玉台Ⅲ式        |
| 第109図8<br>図版89-8 | 深鉢             | 口縁部<br>破片                 | 厚 0.9                       | 直立する口縁部  | 口縁部上位無文/沈線による鋸歯状の文様、沈線上側に円形刺突文充填/幅広角押文状の押引文を横位に施文  | 褐/砂粒少<br>量、礫微量、<br>雲母中量      | 勝坂1式か        |

第43表 114号住居跡出土土器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号       | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態               | 法量<br>(cm) | 器形・形態                       | 文様・特徴   | 胎土                  | 時期<br>型式           |
|--------------------|----------|--------------------------|------------|-----------------------------|---|---------------------|--------------------|
| 第109図9<br>図版89-9   | 深鉢       | 胴部<br>破片                 | 厚1.0       | 直立する胴部                      | 地文は無節R斜位/平行沈線による区画文/区画文内に三角押文列・沈線による文様の周囲に押圧文充填/中央に円形刺突文のある正方形の文様                       | 褐/砂粒中量、礫微量          | 勝坂3b式              |
| 第109図10<br>図版89-10 | 深鉢       | 胴部<br>破片                 | 厚1.0       | 外反する胴部                      | 押圧文を付した隆帯による区画文・円形の文様/区画内沈線による文様/隆帯断面台形状、隆帯脇2本の沈線が沿う                                    | 褐/砂粒多量、礫微量          | 勝坂3b式              |
| 第109図11<br>図版89-11 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片         | 厚1.2       | 外反する頸部/外傾し広がる口縁部            | 地文は縦位撚糸のようであるが僅かなため不明瞭/口縁部無文/頸部に2本1対の隆帯が横走/2本1対の隆帯が直状に垂下/隆帯断面台形状                        | 橙/砂粒・礫中量            | 加曾利E1式             |
| 第109図12<br>図版90-12 | 深鉢       | 胴部                       | 厚0.9       | 上位がやや外反する胴部                 | 地文は単節RL縦位/直状の平行沈線が垂下/平行沈線には半截竹管状工具の腹面を使用、地文が磨消される                                       | 黒褐/砂粒中量、礫微量         | 加曾利E2式             |
| 第109図13<br>図版90-13 | 深鉢       | 口縁部付<br>近～胴部<br>上位<br>破片 | 厚1.1       | 外傾する胴部上位/外傾しながらやや内湾する口縁部付近/ | 地文は0段多条LR縦位/隆帯を斜位に貼付/口縁部区画下端は器面がやや盛り上がり横位沈線によって区画/胴部に3本1対の沈線が直状に垂下し沈線間の縄文を磨消す/隆帯断面幅広台形状 | 褐/砂粒少量・礫微量          | 加曾利E3a～b式          |
| 第110図14<br>図版90-14 | 深鉢       | 口縁部<br>破片                | 厚1.1       | 内湾する口縁部                     | 地文は単節RL縦位/沈線による楕円状の口縁部区画  | 褐色/砂粒・礫微量           | 加曾利E3b式            |
| 第110図15<br>図版90-15 | 深鉢       | 口縁部付<br>近～胴部<br>中位<br>破片 | 厚0.8       | 上位が外反する胴部/内湾する口縁部付近         | 地文は単節LR縦位/口縁部付近に地文は無く2本の沈線を横位に施文/胴部は2本の沈線が直状に垂下し沈線間の縄文を磨消す                              | 暗褐/砂粒・礫少量、赤褐の粒を少量含む | 加曾利E3c式            |
| 第110図16<br>図版90-16 | 深鉢       | 口縁部<br>破片                | 厚1.5       | 外傾して広がる口縁部/口唇部は内側に肥厚        | 平行沈線による重弧文/口唇部から紐状の隆帯が波状に垂下/平行沈線には半截竹管状工具の腹面を使用   | にぶい黄橙/砂粒中量、礫微量      | 曾利Ⅱ式               |
| 第110図17<br>図版90-17 | 深鉢       | 口縁部付<br>近<br>破片          | 厚1.5       | 外傾する口縁部付近                   | 沈線と隆帯による斜格子文  | 浅黄橙/砂粒・礫微量          | 曾利Ⅱ～Ⅲ式             |
| 第110図18<br>図版90-18 | 深鉢       | 口縁部<br>破片                | 厚0.9       | 外傾して広がる口縁部/口唇部は内側に肥厚        | 地文は縦位沈線文/口唇部に押圧文施文/口唇部から直状の隆帯が垂下し、交互刺突文を施し蛇行状に成形(2単位残存)/口縁部下端に交互刺突文を付した隆帯が巡る            | 明褐/砂粒中量、礫少量         | 曾利Ⅲ式               |
| 第110図19<br>図版90-19 | 深鉢       | 口縁部                      | 厚1.1       | 外傾する口縁部                     | 地文は縦位条線文/口縁部上位に3本の横位沈線が横走/3本1対の沈線による連弧文   | 黒褐/砂粒少量、礫微量         | 連弧文2b段階            |
| 第110図20<br>図版90-20 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片       | 厚1.0       | 内湾する胴部/内湾する口縁部              | 地文は縦位条線文/口縁部上位・胴部上位に2本1対の沈線が横走/口縁部横位沈線から2本1対の直状の沈線が垂下/内面器面は凹凸があり粗い                      | 黒褐/砂粒中量、礫少量         | 連弧文2b段階・加曾利E2式に並行か |
| 第110図21<br>図版90-21 | 浅鉢       | 体部<br>破片                 | 厚1.0       | 内湾する胴部                      | 2本1対の隆帯による渦巻文/周囲を沈線による重弧状の文様、弧状の文様を充填/隆帯断面カマボコ状/外面に赤色顔料残存                               | 暗褐/砂粒中量、礫微量         | 加曾利E1式             |

第43表 114号住居跡出土土器一覧2

| 挿図番号<br>図版番号       | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土              | 時期<br>型式 |
|--------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|-----------------|----------|
| 第110図22<br>図版90-22 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 8.9/6.1/0.9     | 95.7      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/隆帯による渦巻状の文様/外面・内面に赤色顔料残存    | 黒褐/砂粒中量、礫微量     | 勝坂3b式    |
| 第110図23<br>図版90-23 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 5.2/3.6/0.9     | 26.16     | 楕円形/挾部は2ヶ所/周縁は磨耗が未発達/胴部片利用/無文                        | 明褐/砂粒中量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |
| 第110図24<br>図版90-24 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 3.3/3.4/0.9     | 14.7      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/無文                          | 褐/砂粒・礫微量        | 中期中葉～後葉  |
| 第110図25<br>図版90-25 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 3.6/2.9/1.1     | 15.2      | 楕円形/挾部は2ヶ所/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/無文                        | 明褐/砂粒少量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |
| 第110図26<br>図版90-26 | 土器<br>片鉢 | 80%      | 4.7/3.8/0.9     | 20.4      | 菱形状/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文                          | 明褐/砂粒少量、礫微量     | 中期中葉～後葉  |
| 第110図27<br>図版90-27 | 土器<br>片鉢 | 40%      | [4.6]/7.0/1.1   | 46.4      | 方形/挾部は1ヶ所残存/周縁は一部磨減/胴部片利用/無文                         | 黒/砂粒少量・礫微量      | 中期中葉～後葉  |
| 第110図28<br>図版90-28 | 土器<br>片鉢 | 50%      | [4.1]/5.2/[1.3] | 29.4      | 方形か/挾部は1ヶ所残存、位置が右側に片寄る/周縁は一部磨耗/胴部片利用/外面剥落のため文様は不明    | 褐/砂粒少量、礫微量、雲母中量 | 中期中葉～後葉  |
| 第110図29<br>図版90-29 | 土器<br>片鉢 | 20%      | [2.5]/[4.0]/1.2 | 14.0      | 円形か/挾部は1ヶ所残存/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/無文                       | 明褐/砂粒・礫少量       | 中期中葉～後葉  |
| 第110図30<br>図版90-30 | 土製<br>円盤 | 完形       | 6.2/5.2/1.1     | 51.9      | 不整形/周縁は顕著に磨耗/胴部片を利用/押圧文を付した隆帯による区画文/区画文隆帯内側に沿って押圧文施文 | 暗褐/砂粒・礫微量       | 勝坂2式     |

第44表 114号住居跡出土土製品一覧

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号       | 器種       | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴   |
|--------------------|----------|---------|--------|-------|--------|-------|--|
| 第111図31<br>図版91-31 | 石鏃       | 硬質頁岩    | 17.4   | 17.3  | 3.0    | 0.7   | 凹基無茎 / 側縁は直線状 / 挟りは深く直線状 / 先端部欠損   |
| 第111図32<br>図版91-32 | 石鏃       | チャート    | 20.9   | 17.3  | 3.5    | 0.8   | 凹基無茎 / 側縁は直線状 / 挟りは浅く弧状  |
| 第111図33<br>図版91-33 | 石鏃       | 黒曜石     | 13.2   | 17.9  | 3.9    | 0.9   | 凹基無茎 / 側縁は直線状 / 挟りは浅く弧状 / 先端部欠損  |
| 第111図34<br>図版91-34 | 石鏃       | 黒曜石     | 12.3   | 8.0   | 3.8    | 0.3   | 凹基無茎 / 側縁は直線状 / 挟りは浅く弧状  |
| 第111図35<br>図版91-35 | 石鏃       | 黒曜石     | 12.9   | 13.9  | 4.7    | 0.8   | 凹基無茎 / 側縁は直線状 / 挟りは浅く弧状 / 右脚部欠損  |
| 第111図36<br>図版91-36 | 石鏃       | チャート    | 26.6   | 18.7  | 3.7    | 1.5   | 凹基無茎 / 側縁は緩やかな弧状を呈する / 挟りは深く屈曲する   |
| 第111図37<br>図版91-37 | 石鏃       | 黒曜石     | 14.2   | 12.3  | 4.5    | 0.7   | 凹基無茎 / 側縁は緩やかな弧状を呈する / 挟りは浅く弧状 / 右脚部欠損   |
| 第111図38<br>図版91-38 | 楔形石器     | 黒曜石     | 16.5   | 5.5   | 5.2    | 0.4   | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第111図39<br>図版91-39 | 楔形石器     | 黒曜石     | 16.9   | 10.2  | 4.2    | 0.7   | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第111図40<br>図版91-40 | 楔形石器     | 黒曜石     | 17.6   | 12.6  | 3.2    | 0.7   | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第111図41<br>図版91-41 | 楔形石器     | 黒曜石     | 18.9   | 16.1  | 7.3    | 1.5   | 上下に両極剥離が認められる  |
| 第111図42<br>図版91-42 | 打製石斧     | 頁岩      | 74.8   | 29.0  | 15.9   | 43.8  | 短冊形 / 刃部は一部折れて欠損している / 裏面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる                                      |
| 第111図43<br>図版91-43 | 打製石斧     | 砂岩      | 68.4   | 36.1  | 9.6    | 29.5  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 裏面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる  |
| 第111図44<br>図版91-44 | 打製石斧     | 片状砂岩    | 86.8   | 49.0  | 18.0   | 93.8  | 短冊形 / 基部は一部折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる                                      |
| 第111図45<br>図版91-45 | 打製石斧     | ホルンフェルス | 89.5   | 41.1  | 12.3   | 49.6  | 短冊形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の潰れは不明瞭である  |
| 第111図46<br>図版91-46 | 打製石斧     | 片状砂岩    | 88.4   | 49.5  | 14.1   | 75.1  | 撥形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる  |
| 第111図47<br>図版91-47 | 打製石斧     | 砂岩      | 95.3   | 56.3  | 22.5   | 140.7 | 撥形 / 裏面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる  |
| 第111図48<br>図版91-48 | 打製石斧     | 緑泥片岩    | 55.8   | 46.1  | 9.3    | 32.1  | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 裏面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、中央部が面状になっている                             |
| 第111図49<br>図版91-49 | 打製石斧     | ホルンフェルス | 66.1   | 44.1  | 20.4   | 66.9  | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 裏面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、中央部が面状になっている                             |
| 第111図50<br>図版91-50 | 打製石斧     | 砂岩      | 67.3   | 60.8  | 14.9   | 66.8  | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる / 表面の一部が赤色化しており、被熱の可能性はある               |
| 第111図51<br>図版91-51 | 打製石斧     | 緑泥片岩    | 76.2   | 55.0  | 23.8   | 113.0 | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 表面の一部に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる / 右側縁もほぼ全面の稜上に潰れが認められ、一部は局所的に面状になっている |
| 第112図52<br>図版91-52 | 二次加工剥片   | 黒曜石     | 21.3   | 20.6  | 6.2    | 1.4   | 裏面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第112図53<br>図版91-53 | 二次加工剥片   | 黒曜石     | 29.0   | 14.0  | 4.6    | 1.0   | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第112図54<br>図版91-54 | 二次加工剥片   | 黒曜石     | 12.9   | 19.0  | 4.9    | 1.1   | 主要剥離面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第112図55<br>図版91-55 | 二次加工剥片   | 黒曜石     | 14.5   | 15.8  | 8.5    | 1.4   | 表面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第112図56<br>図版91-56 | 二次加工剥片   | 黒曜石     | 16.8   | 9.9   | 5.4    | 0.9   | 表面側両側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第112図57<br>図版91-57 | 二次加工剥片   | 黒曜石     | 12.9   | 10.8  | 3.3    | 0.4   | 裏面側末端に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第112図58<br>図版91-58 | 二次加工剥片   | 黒曜石     | 13.1   | 13.5  | 2.6    | 0.4   | 背面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第112図59<br>図版91-59 | 二次加工剥片   | 黒曜石     | 11.6   | 11.0  | 4.2    | 0.5   | 主要剥離面側末端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第112図60<br>図版91-60 | 打製石斧調整剥片 | 緑泥片岩    | 70.1   | 41.4  | 8.7    | 31.5  | 裏面に打製石斧の側縁調整面を取り込んでいる  |
| 第112図61<br>図版91-61 | 石皿       | 閃緑岩     | 104.5  | 48.7  | 40.9   | 291.4 | 扁平石皿 / 表裏面ほぼ全面に平坦な使用面  |

第45表 114号住居跡出土石器一覧

115号住居跡

遺 構 (第113図)

[位 置] (E・F-2) グリッド。

[検出状況] ほかの遺構との切り合い関係なし。

[構 造] 平面形：楕円形を呈すと思われる。主軸方位：N-20°-E。P1とP5、P2とP3のそれぞれの中間を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸残存長414cm / 短軸残存長399cm / 深さ8cm。壁溝：検出されなかった。壁：約37~53°で緩やかに立ち上がる。床面：概ね平坦であるが、中央部分がわずかに低くなる。炉の周辺などに一部硬化面を確認した。直床である。炉：埋甕炉で、円形を呈し、東側と南側にL字形に土器片(第114図1)や石(第114図8)が埋設されている。長軸51cm / 短軸46cm / 床面からの深さ10cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：5本検出した。P1、P2、P3・4、P5を支柱穴ととらえ、4本柱建物を想定する。

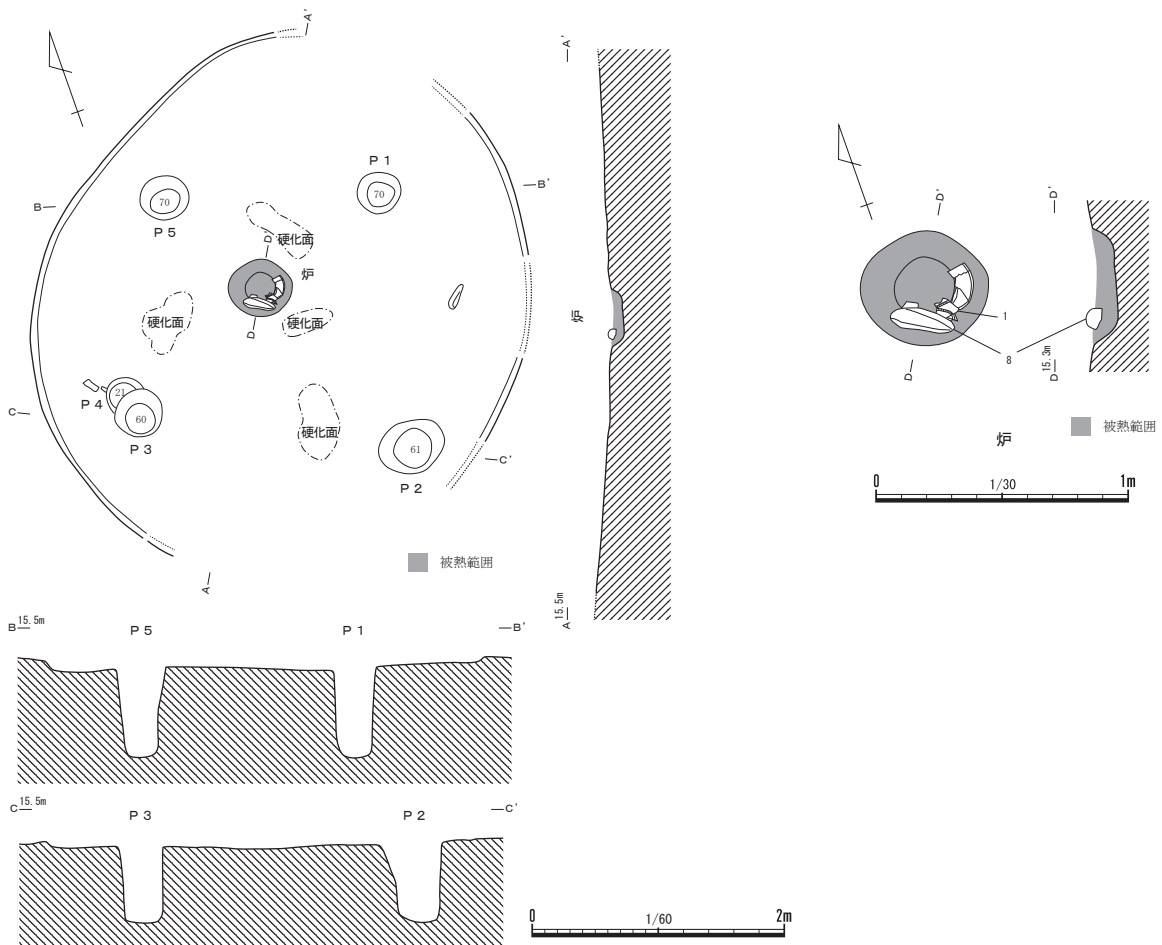
[遺 物] 土器、土製品、石器が出土した。炉体土器(第114図1)、敲石(第114図8)も炉内より出土している。

[時 期] 中期中葉期(勝坂3b古式期)。

遺 物 (第114図、図版92、第46~48表)

[土 器] (第114図1~4、図版92、第46表)

破片資料4点を図示した。1~3は勝坂式、4は中期後半の深鉢形土器である。1は炉体土器で隆帯



第113図 115号住居跡・炉 (1/60・1/30)



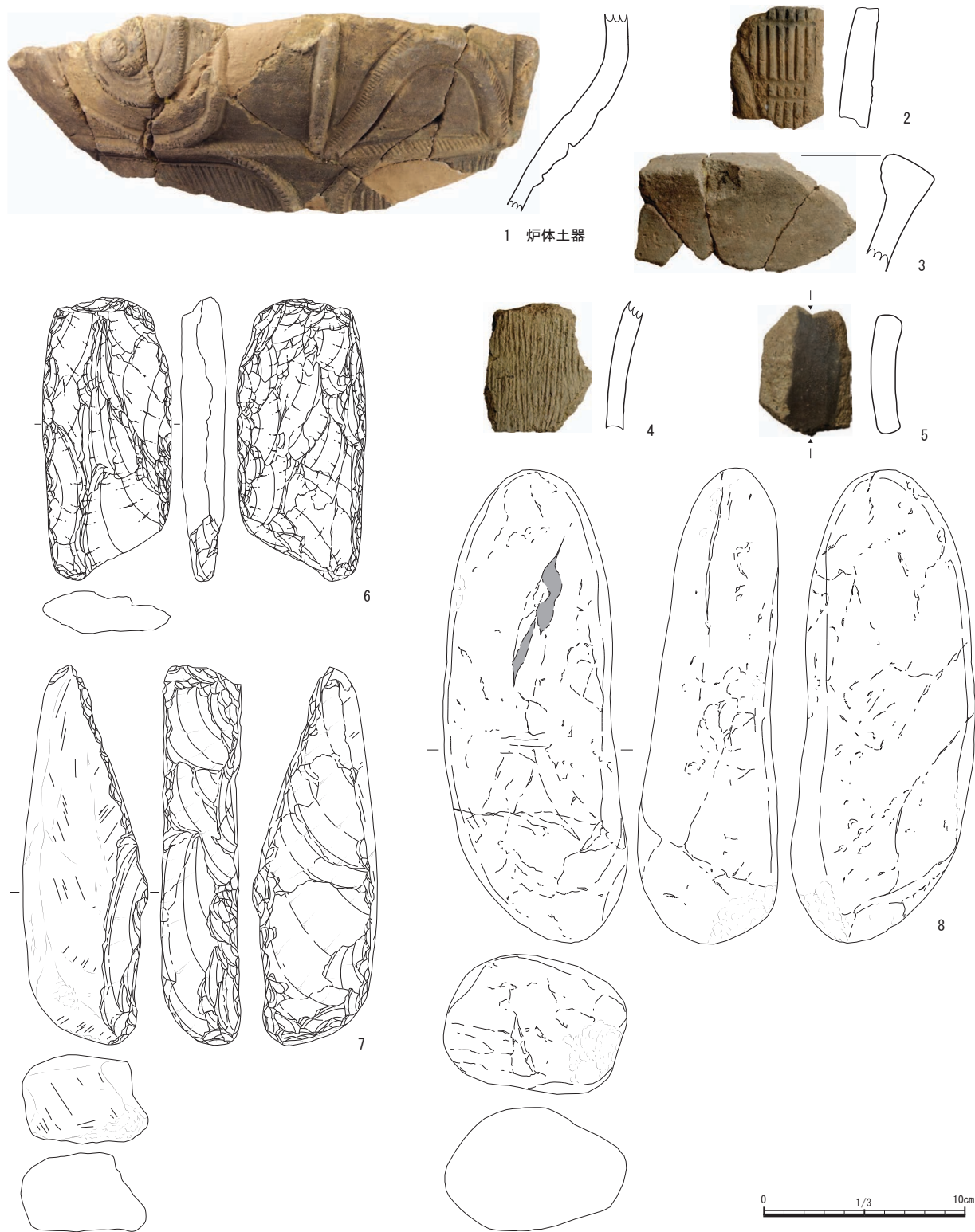
による楕円状の区画や渦巻文を施文する。2は半截竹管状工具の腹面による縦位平行沈線を充填する。

[土製品] (第114図5、図版92、第47表)

1点を図示した。5は土器片錘である。

[石器] (第114図6~7、図版92、第48表)

3点を図示した。6は打製石斧である。7は二次加工剥片である。8は敲石で炉内より出土している。



第114図 115号住居跡出土遺物(1/3)

| 挿図番号<br>図版番号     | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm) | 器形・形態                            | 文様・特徴   | 胎土                     | 時期<br>型式   |
|------------------|----------|--------------------|------------|----------------------------------|---|------------------------|------------|
| 第114図1<br>図版92-1 | 深鉢       | 口縁部付<br>近～胴部<br>破片 | 厚1.1       | 外傾する胴部/外<br>傾しながら内湾す<br>る口縁部付近   | 押圧文を付した横位隆帯で口縁ぶと胴部を画す/口縁部には押圧<br>文を付した隆帯による渦巻文、縦位2本の隆帯間に逆U字状に隆<br>帯を付した文様を貼付/胴部は押圧文を付した隆帯による楕円状<br>区画を成形、区画内縦位沈線を充填/隆帯断面カマボコ状～台形<br>状、隆帯脇1本の単沈線に沿う、一部なで付けて貼付/炉体土器 | 褐/砂粒少<br>量、礫微量         | 勝坂3b<br>古式 |
| 第114図2<br>図版92-2 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.5       | やや外反する胴部                         | 弧状の平行沈線、区画になるか/縦位平行沈線を充填/横位の三<br>角押圧文を破片上部に1列、下部に2列施文   | 明褐/砂<br>粒・礫微量          | 勝坂2<br>式   |
| 第114図3<br>図版92-3 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.2       | やや外反して立ち<br>上がる口縁部/口<br>唇部は内側に肥厚 | 残存部無文   | 橙/砂粒・<br>礫中量           | 勝坂式        |
| 第114図4<br>図版92-4 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.8       | 外反する胴部                           | 地文は燃糸L縦位と思われる、線状になり不明瞭  | にぶい黄褐<br>/砂粒中量、<br>礫少量 | 中期後<br>葉   |

第46表 115号住居跡出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号     | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴                           | 胎土              | 時期<br>型式    |
|------------------|----------|----------|-----------------|-----------|------------------------------|-----------------|-------------|
| 第114図5<br>図版92-5 | 土器<br>片錘 | 90%      | [6.3]/4.6/1.2   | 47.6      | 方形か/扶部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/無文 | 黒褐/砂粒中量、<br>礫微量 | 中期中葉<br>～後葉 |

第47表 115号住居跡出土土製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号     | 器種         | 石材   | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴   |
|------------------|------------|------|--------|-------|--------|--------|--|
| 第114図6<br>図版92-6 | 打製石斧       | 緑色片岩 | 142.6  | 64.7  | 21.8   | 280.7  | 短冊形/刃部は折れて欠損している/両側縁に敲打剥離が認め<br>られる/両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる/表面の<br>一部が赤色化しており、被熱の可能性はある |
| 第114図7<br>図版92-7 | 二次加工<br>剥片 | 安山岩  | 191.2  | 65.1  | 38.2   | 692.5  | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第114図8<br>図版92-8 | 敲石         | 砂岩   | 239.9  | 86.2  | 65.9   | 1989.3 | 下面に敲打痕/炉内より出土/炉石として転用か   |

第48表 115号住居跡出土石器一覧

### 116号住居跡

**遺 構** (第115・116図)

[位 置] (C・D-5・6) グリッド。

[検出状況] 9・10Hに切られる。

[構 造] 平面形：円形。主軸方位：N-11°-E。P7とP8の中間と炉の中心を通るラインを  
主軸と捉えた。規模：長軸580cm/短軸562cm/深さ48cm。壁溝：1条検出された。上幅11～  
26cm/下幅4～8cm/床面からの深さ6～12cm。壁：約66～87°でやや急斜に立ち上がる。床面：  
やや凹凸がある。直床である。ドーナツ状に柱穴付近に硬化面が点在する。炉：土器と石が検出され、  
石囲埋糞炉の可能性はある。長軸108cm/短軸85cm/床面からの深さ10cm。埋糞：検出されなかった。  
柱穴：15本検出した。P2・3、P5、P7、P8、P10、P11、P13を主柱穴ととらえ、7本  
柱建物を想定する。

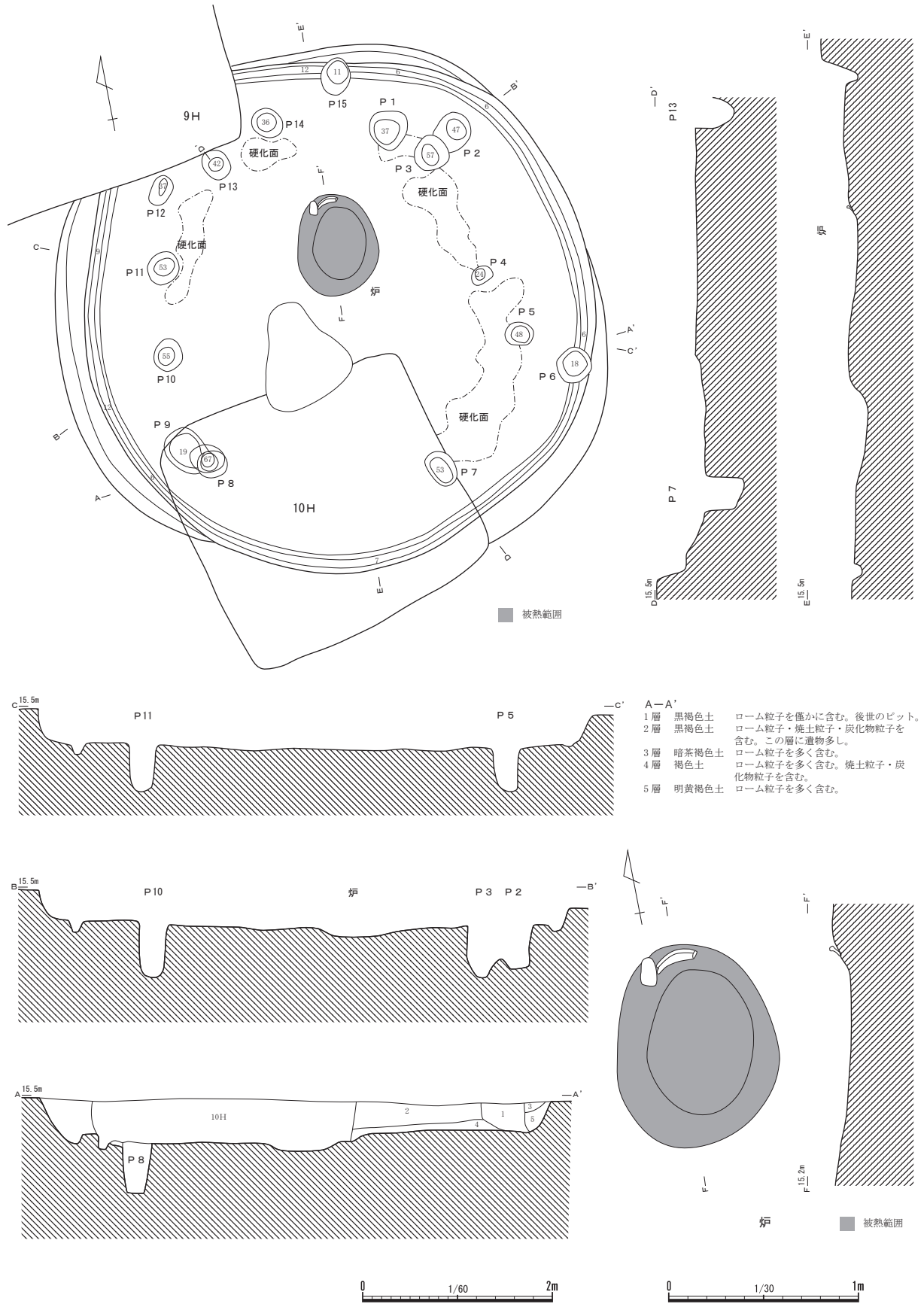
[遺 物] 土器、土製品、石器が出土した。

[時 期] 中期後葉期(加曾利E1b式期)。

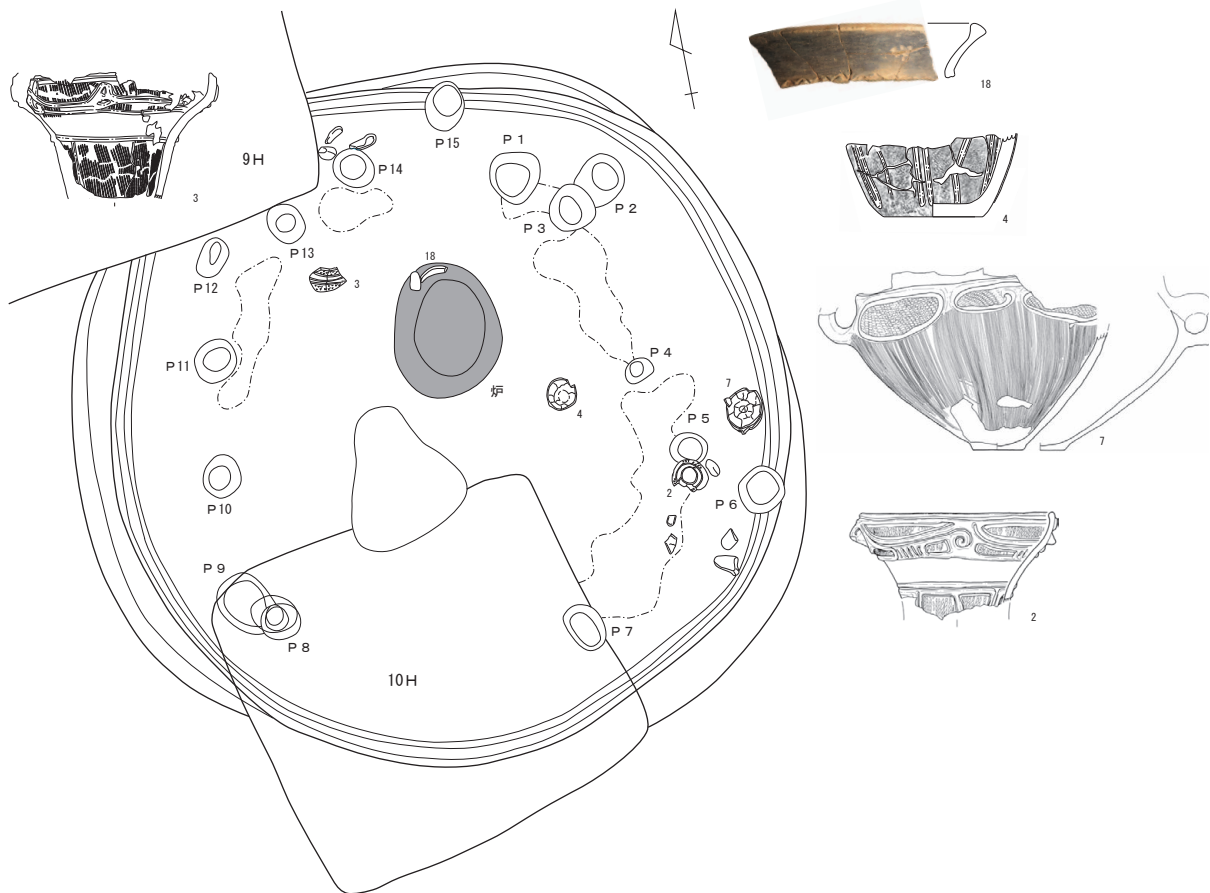
**遺 物** (第117～119図、図版93～95、第49～51表)

[土 器] (第117図・第118図12～21、図版93・94、第49表)

復元資料を7点、破片資料14点を図示した。1は加曾利E1a式の深鉢形土器である。燃糸文を地  
文とし、2本1対の隆帯で文様を付す。2・3は加曾利E1b式の深鉢形土器である。いずれも燃糸文



第115図 116号住居跡・炉 (1/60・1/30)



第116図 116号住居跡出土状態(1/60)

を地文とし、口縁部区画を持つ。区画内の文様下端から区画下端の隆帯に向かって、複数の短い隆帯が垂下する。3は胴部の垂下する隆帯に混じって波状の沈線が垂下する。4・5は加曽利E1c式の深鉢形土器である。4は口縁部区画を持ち、区画内部の隆帯による弧状文の端部は突起状となる。頸部は無文で、胴部は沈線が垂下する。5は縄文を地文とし、直上の隆帯と波状の隆帯が交互に垂下する。6は曾利Ⅱ式の深鉢形土器である。口縁部は無文で、胴部は縄文を施す。文様の施文には、半截竹管状工具の腹面による平行沈線が用いられ、頸部には直状と波状の平行沈線が巡る。また、頸部にはS字状の隆帯を貼付する。7は加曽利E3式の両耳壺である。体部上位には沈線による楕円形の区画を施し、内側に縄文を施文する。区画下位は縦位条線文を施す。把手は1単位残存し、対称面の把手は欠損している。8～12は勝坂式、13～15は加曽利E式、16・17は曾利式の深鉢形土器である。18・19は加曽利E1式と思われる浅鉢形土器である。18は炉からの出土で、19と同一個体の可能性がある。20・21は加曽利E1～2式の浅鉢形土器である。

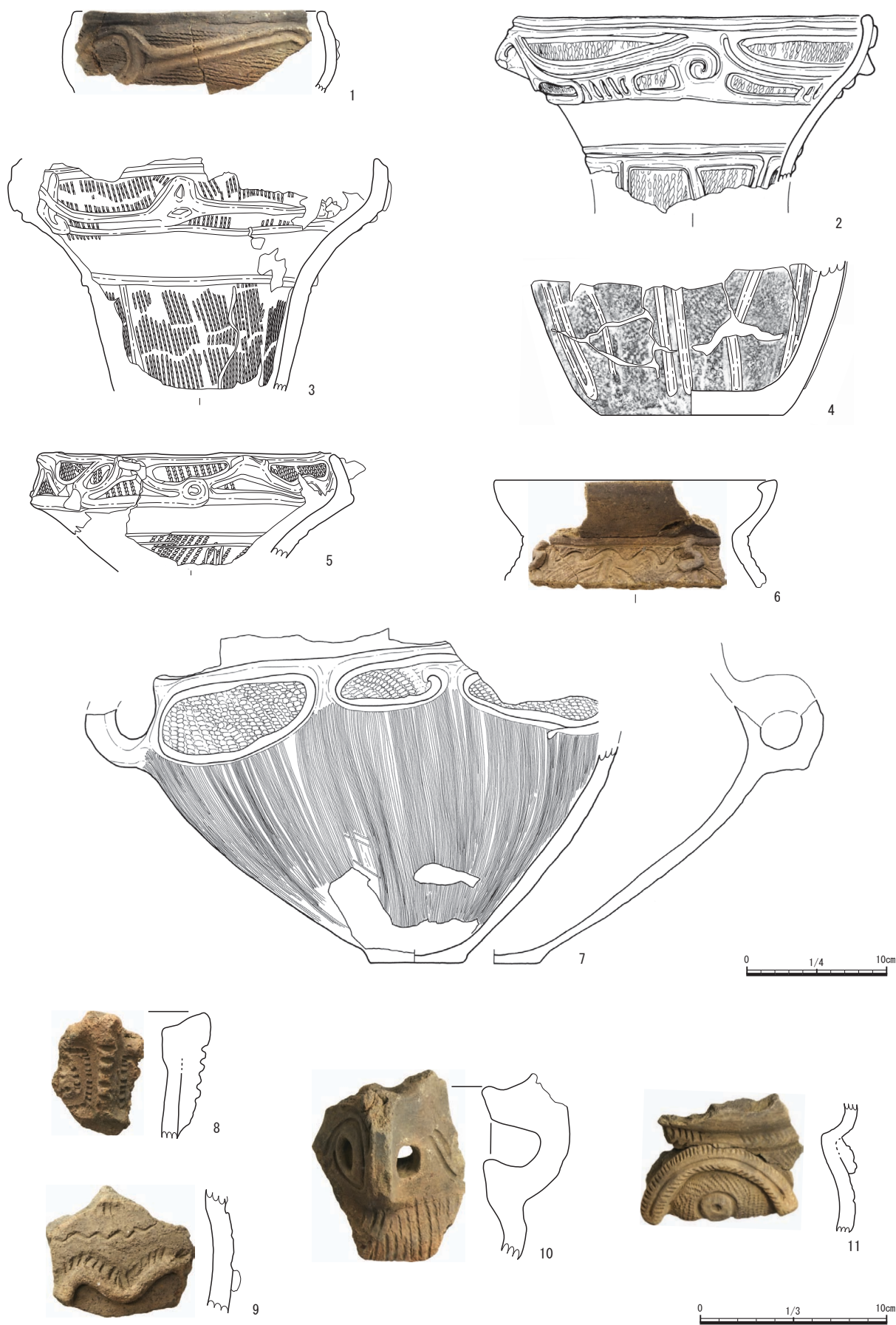
[土製品] (第118図22～31、図版94、第50表)

10点を図示した。22～30は土器片錘、31は土製円盤である。

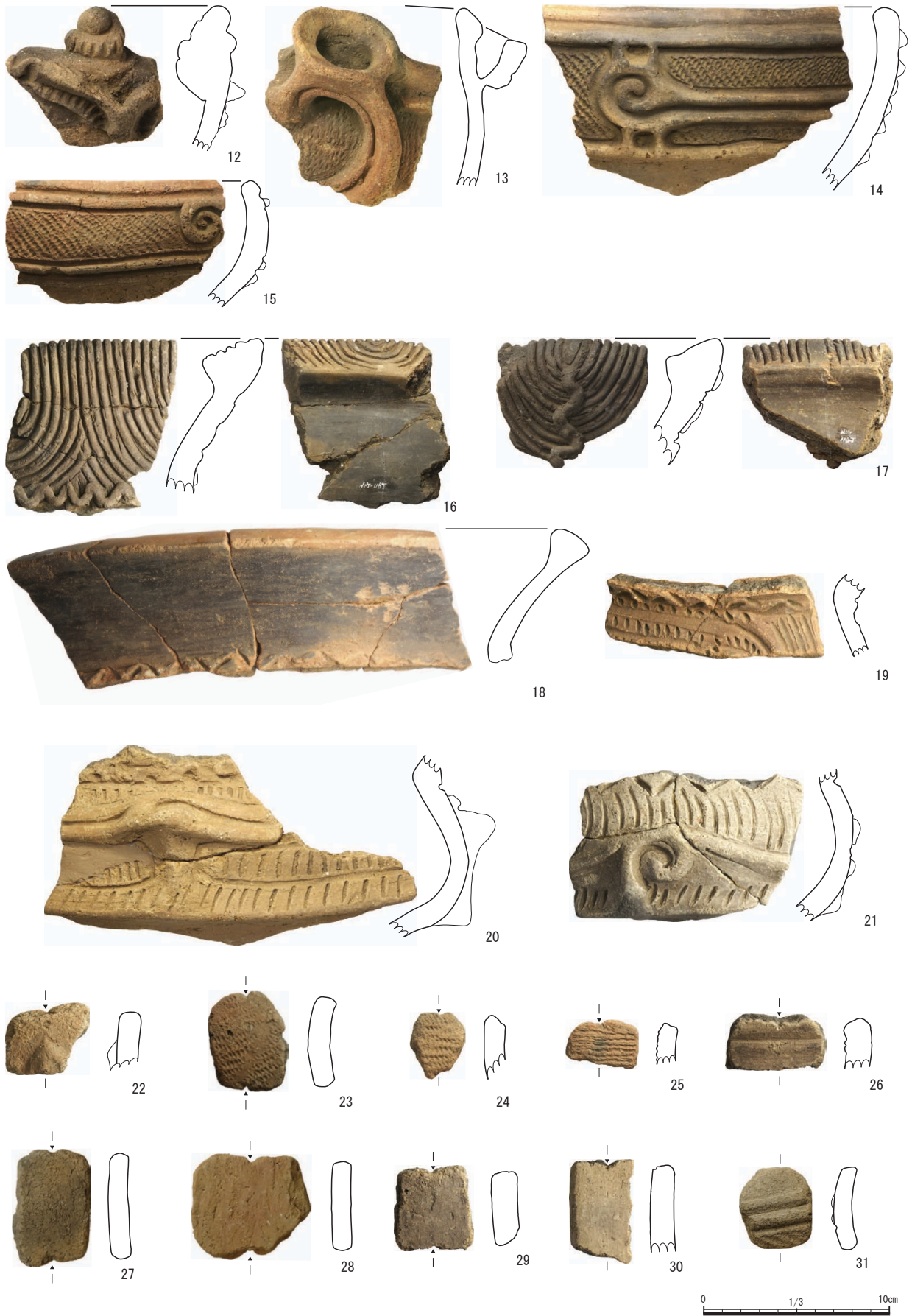
[石器] (第119図、図版95、第51表)

11点を図示した。32・33は石鏃である。34は楔形石器である。35～37は打製石斧である。38・39は磨製石斧である。40は二次加工剥片である。41は石核である。42は磨石である。

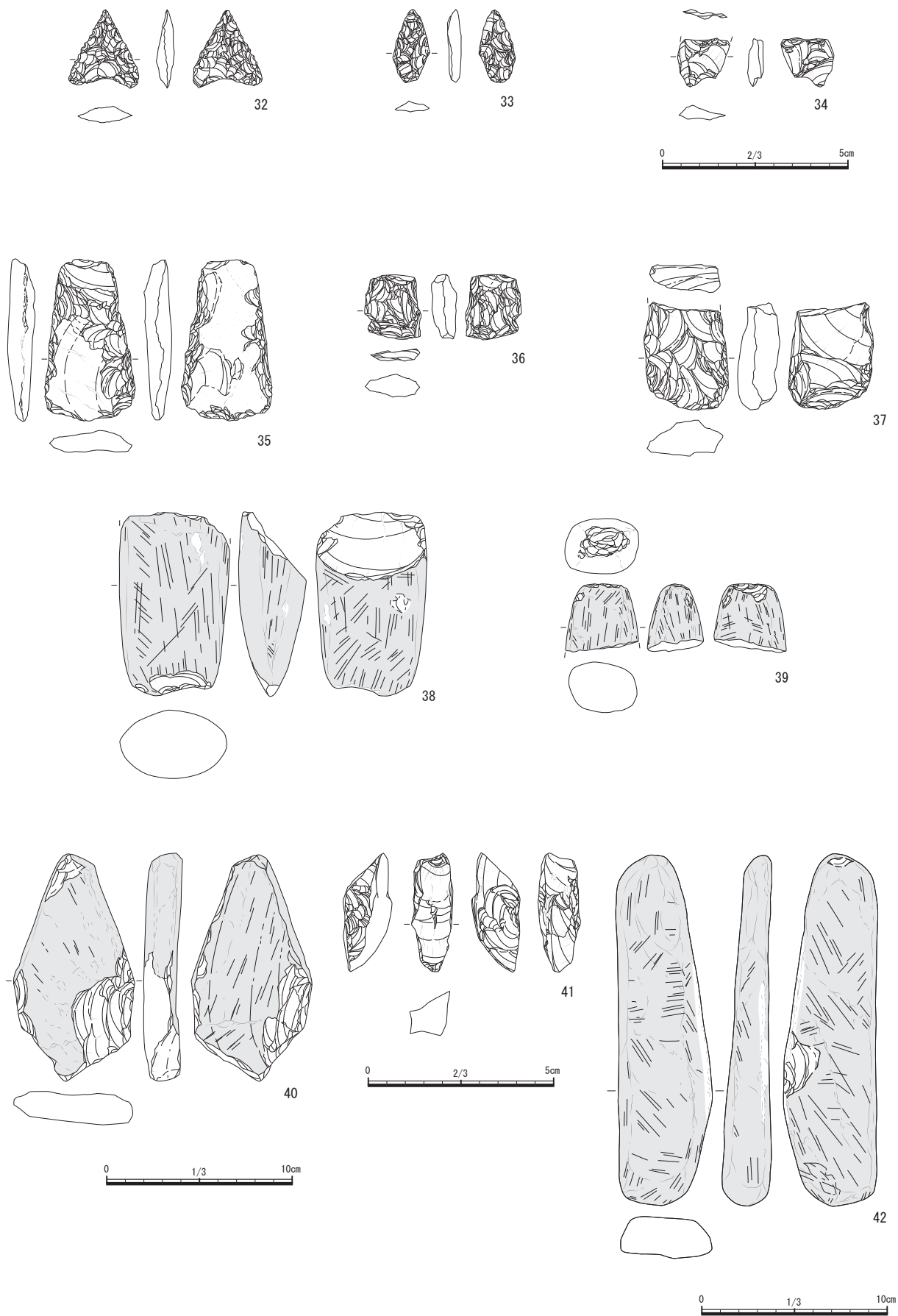




第117図 116号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)



第118図 116号住居跡出土遺物2 (1/3)



第119図 116号住居跡出土遺物3 (1/3・2/3)



| 挿図番号<br>図版番号           | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                   | 器形・形態   | 文様・特徴   | 胎土                      | 時期<br>型式         |
|------------------------|----------|---------------------|------------------------------|---|---|-------------------------|------------------|
| 第117図1<br>図版93-1       | 深鉢       | 口縁部<br>40%          | 高 [6.1]<br>口 (18.0)<br>厚 0.7 | 内湾する口縁部   | 地文は燃糸L横位 / 端部が渦巻状となる2本1対の隆帯を<br>連ねて施文か / 隆帯断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒中<br>量、礫微量        | 加曾利<br>E1a式      |
| 第117図2<br>図版93-2       | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>80% | 高 [14.2]<br>口 24.6<br>厚 0.9  | キャリパー形 / やや<br>外反する胴部 / 外<br>反して広がる頸部 /<br>内湾して広がる口<br>縁部   | 地文は燃糸L縦位 / 口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で<br>画す / 2本1対の隆帯により端部が渦巻状を呈する弧状文を<br>配す (3単位残存、1単位は変形)、対称面にある2つの渦巻<br>文は突起状で他は突起状でない / 弧の部分から下端の区画隆<br>帯に向かってそれぞれ3本、6本、7本の短隆帯が垂下 / 頸<br>部無文 / 頸部と胴部を横走する2本1対の隆帯で画す / 胴<br>部に2本1対の直状の隆帯 (3単位残存)、1本の波状隆帯 (3<br>単位残存) が交互に垂下 / 隆帯断面カマボコ状 | 橙 / 砂粒・礫<br>少量          | 加曾利<br>E1b式      |
| 第117図3<br>図版93-3       | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>40% | 高 [15.8]<br>厚 1.1            | キャリパー形 / や<br>や外傾する胴部上<br>位 / 外反する頸部 /<br>内湾する口縁部           | 地文は燃糸L縦位 / 隆帯による口縁部区画 / 口縁部区画内に<br>横位1本の隆帯、端部は渦巻状、途中三角状の文様、区画下<br>端の隆帯に向かって数本の短隆帯が垂下 / 頸部無文 / 頸部と<br>胴部を横位1本の隆帯で画す / 胴部には直状の隆帯 (2単位<br>残存) と波状の沈線 (1単位残存) が垂下 / 隆帯断面カマボコ<br>状   | 暗褐 / 砂粒多<br>量、礫微量       | 加曾利<br>E1b式      |
| 第117図4<br>図版93-4       | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>40% | 高 [8.2]<br>口 20.4<br>厚 0.8   | キャリパー形 / 外<br>反する胴部上位 /<br>外反する頸部 / 内<br>湾する口縁部             | 地文は単節RL、口縁部区画内斜位・横位、胴部縦位 / 隆帯<br>による口縁部区画 / 口縁部区画内に端部が突起状になった弧<br>状文施文、突起部には沈線による渦巻文 / 頸部無文 / 頸部上<br>位に2本の沈線が横走、3本1対の沈線が垂下 / 隆帯断面カ<br>マボコ状  | 黒褐～赤褐 /<br>砂粒中量、礫<br>微量 | 加曾利<br>E1c式      |
| 第117図5<br>図版93-5       | 深鉢       | 胴部下位<br>～底部<br>95%  | 高 [11.0]<br>底 13.0<br>厚 1.8  | 内湾して立ち上<br>がる胴部 / 平坦な底<br>部                                 | 地文は単節RL縦位 / 2本1対の直状の隆帯 (6単位) と1本<br>の波状隆帯 (6単位) が交互に垂下 / 隆帯断面カマボコ状  | 明黄褐 / 砂粒<br>多量、礫中量      | 加曾利<br>E1c式      |
| 第117図6<br>図版93-6       | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>20% | 高 [7.6]<br>口 20.0<br>厚 0.9   | やや内湾し外傾す<br>る口縁部 / 括れる<br>頸部 / 内湾する胴<br>部上位 / 口唇部は<br>内側に肥厚 | 地文は単節LR横位 / 口縁部無文 / 頸部に1本の直状の平行<br>沈線・波状の平行沈線が巡る / 頸部にS字状の隆帯貼付 (2<br>単位残存) / 弧状の平行沈線の上に短い直状の平行沈線を加<br>えた文様 / 平行沈線には半截竹管状工具の腹面を使用  | 暗褐 / 砂粒少<br>量、礫微量       | 曾利II<br>式        |
| 第117図7<br>図版93-7       | 両耳<br>壺  | 口縁部～<br>底部<br>50%   | 高 [23.8]<br>底 6.6<br>厚 1.0   | 外傾して広がり上<br>位は内湾する体部 /<br>やや内傾する口縁<br>部                     | 地文は単節LR縦位、体部上位区画内に施文、縦位条線文、<br>体部に施文 / 体部上位に橋状把手1単位残存、対称面にもあ<br>ると思われるが欠損 / 把手から1本の隆帯が横走、楕円状<br>の区画の一部を形成 / 体部上位に楕円状の区画が横位に連<br>なる、区画内縄文施文 / 区画以下は条線文 / 底面に網状痕無し  | 明褐 / 砂粒中<br>量、礫少量       | 加曾利<br>E3b式      |
| 第117図8<br>図版93-8       | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                        | ほぼ直立する口縁<br>部 / 口唇部は内側<br>に肥厚                               | 押圧文を付した隆帯を縦位に貼付し区画を形成 / 区画内側に<br>角押文が沿う / 区画内側に角押文による文様が僅かに見られ<br>る   | 褐 / 砂粒・礫<br>微量          | 勝坂1a<br>式        |
| 第117図9<br>図版93-9       | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.0                        | 内湾する胴部  | 隆帯を波状に貼付 / 隆帯に幅広の爪形文が沿う / 沈線を波状<br>に施文 / 隆帯断面カマボコ状  | にぶい褐 / 砂<br>粒少量、礫微<br>量 | 勝坂2a<br>式        |
| 第117図<br>10<br>図版93-10 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.1                        | 把手部分は直立し<br>下位は内湾する口<br>縁部                                  | 地文は燃糸R縦位 / 眼鏡状の把手、内側は中央に孔が1つ  | 褐 / 砂粒少<br>量、礫微量        | 勝坂3b<br>式        |
| 第117図<br>11<br>図版93-11 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片  | 厚 0.8                        | 内湾する口縁部 /<br>括れる頸部 / 内湾<br>する胴部                             | 地文は単節RL横位・斜位 / 口縁部無文 / 頸部に矢羽根状刺<br>突文を付した隆帯が巡る / 中央に沈線・縁に押圧文を付した<br>隆帯を弧状に貼付、中央に沈線による円形の文様を付す / 弧<br>状の隆帯内側の縄文は充填縄文   | にぶい黄橙 /<br>砂粒・礫微量       | 勝坂3b<br>式        |
| 第118図<br>12<br>図版93-12 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                        | 内湾する口縁部 /<br>口唇部は内側に肥厚                                      | 口縁部に渦巻状の突起あり / 隆帯をY字状に貼付 (一部交互<br>刺突文を付す) / 隆帯下端に沿って半截竹管状工具の先端に<br>よる刺突文を付す   | 暗褐 / 砂粒中<br>量、礫微量       | 勝坂3<br>式         |
| 第118図<br>13<br>図版93-13 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.9                        | 内湾する口縁部   | 地文は燃糸L縦位 / 口縁部に把手貼付、把手から口縁部区画<br>内の文様へ繋がる   | 明赤褐 / 砂粒<br>中量、礫微量      | 加曾利<br>E1b式      |
| 第118図<br>14<br>図版94-14 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片    | 厚 1.0                        | 外傾する頸部 / 内<br>湾する口縁部  | 地文は単節RL横位 / 口縁部は上端1本、下端1本の隆帯で<br>画す / 2本1対の隆帯を横位に貼付し先端は渦巻状、渦巻部<br>分の上下から区画隆帯に向かって2本の隆帯が伸びる / 頸部<br>無文 / 隆帯断面カマボコ状   | 黒褐 / 砂粒・<br>礫少量         | 加曾利<br>E1c式      |
| 第118図<br>15<br>図版94-15 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.0                        | 外傾する頸部 / 内<br>湾する口縁部  | 地文は単節RL横位 / 口縁部は上端1本、下端2本の隆帯で<br>画す / 区画内に渦巻文施文 / 頸部無文 / 隆帯断面角状   | 褐 / 砂粒・礫<br>中量          | 加曾利<br>E1～2<br>式 |
| 第118図<br>16<br>図版94-16 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.4                        | 外傾する口縁部 /<br>口唇部は内側に肥厚                                      | 平行沈線による重弧文 / 頸部には紐状の隆帯を波状に貼付 /<br>平行沈線には半截竹管状工具の腹面を使用 / 116-16 と 116-<br>17 は同一個体   | 灰黄褐 / 砂粒<br>少量、礫微量      | 曾利II<br>式        |
| 第118図<br>17<br>図版94-17 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.4                        | 外傾する口縁部 /<br>口唇部は内側に肥厚                                      | 平行沈線による重弧文 / 口縁部上位から隆帯が波状に垂下 /<br>平行沈線には半截竹管状工具の腹面を使用 / 116-16 と 116-<br>17 は同一個体   | 灰黄褐 / 砂粒<br>少量、礫微量      | 曾利II<br>式        |
| 第118図<br>18<br>図版94-18 | 浅鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.1                        | 外反する口縁部 /<br>口唇部は内側に肥厚                                      | 下端に押圧文を鋸歯状に施文 / 116-18 と 116-19 は同一個体<br>の可能性あり / 炉内から出土  | 黒褐 / 砂粒中<br>量、礫微量       | 加曾利<br>E1式か      |

第49表 116号住居跡出土土器一覧1



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号           | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態               | 法量<br>(cm) | 器形・形態                     | 文様・特徴  | 胎土               | 時期<br>型式 |
|------------------------|----------|--------------------------|------------|---------------------------|--|------------------|----------|
| 第118図<br>19<br>図版94-19 | 浅鉢       | 口縁部付<br>近<br>破片          | 厚0.9       | 括れる口縁部付近                  | 上端に押圧文を鋸歯状に施文 / 弧状の隆帯、押圧文を横位に施文 / 弧状の隆帯右側は縦位沈線充填か / 隆帯断面カマボコ状 / 116-18と116-19は同一個体の可能性がある                              | 黒褐 / 砂粒中量、礫微量    | 加曾利E1式か  |
| 第118図<br>20<br>図版94-20 | 浅鉢       | 口縁部付<br>近～体部<br>上位<br>破片 | 厚1.1       | 上位は外傾し下位は内湾する口縁部 / 外傾する体部 | 破片上位に刺突文を横位に施文、交互刺突文か / 2本1対の隆帯を横位に貼付し、突起部分は沈線による渦巻文を付す / 隆帯周囲を沈線によって画し、縦位沈線を充填 / 体部・口縁部の屈曲部に沿って沈線を刺突文状に施文 / 隆帯断面カマボコ状 | 明黄褐 / 砂粒多量、礫微量   | 加曾利E1～2式 |
| 第118図<br>21<br>図版94-21 | 浅鉢       | 口縁部付<br>近～体部<br>上位破片     | 厚1.2       | 内湾する口縁部付近                 | 1本の隆帯を弧状に貼付し、間に隆帯による渦巻文を付す / 周囲に弧状の沈線を充填 / 上端に鋸歯状の押圧文が見られる / 隆帯断面カマボコ状   | にぶい黄橙 / 砂粒少量、礫微量 | 加曾利E1～2式 |

第49表 116号住居跡出土土器一覽2

| 挿図番号<br>図版番号       | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴  | 胎土               | 時期<br>型式 |
|--------------------|----------|----------|---------------------|-----------|---|------------------|----------|
| 第118図22<br>図版94-22 | 土器<br>片鉢 | 30%      | [3.6]/[4.7]/1.1     | 24.4      | 方形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周囲は一部磨耗 / 胴部片利用 / 単節RL / 粘土瘤または隆帯の一部か | 橙 / 砂粒・礫微量       | 加曾利E式か   |
| 第118図23<br>図版94-23 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 5.4/4.1/1.1         | 34.6      | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 単節LR                 | 褐 / 砂粒・礫少量       | 中期中葉～後葉  |
| 第118図24<br>図版94-24 | 土器<br>片鉢 | 80%      | [3.6]/2.9/1.1       | 13.3      | 楕円形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 単節RL              | 橙 / 砂粒・礫微量       | 中期中葉～後葉  |
| 第118図25<br>図版94-25 | 土器<br>片鉢 | 40%      | [2.5]/3.8/0.9       | 13.5      | 方形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 擦糸L                 | 明褐 / 砂粒少量、礫微量    | 中期中葉～後葉  |
| 第118図26<br>図版94-26 | 土器<br>片鉢 | 40%      | [3.0]/5.2/1.4       | 29.6      | 方形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 沈線施文                | にぶい黄褐 / 砂粒中量、礫微量 | 中期中葉～後葉  |
| 第118図27<br>図版94-27 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 6.2/4.0/1.0         | 39.8      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                    | にぶい黄褐 / 砂粒・礫少量   | 中期中葉～後葉  |
| 第118図28<br>図版94-28 | 土器<br>片鉢 | 90%      | 5.6/6.4/1.0         | 49.8      | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁はごく一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                 | 明褐 / 砂粒中量、礫微量    | 中期中葉～後葉  |
| 第118図29<br>図版94-29 | 土器<br>片鉢 | 90%      | [4.4]/4.2/1.3       | 36.4      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁の磨耗は未発達 / 胴部片利用 / 無文                  | 黒褐 / 砂粒中量、礫微量    | 中期中葉～後葉  |
| 第118図30<br>図版94-30 | 土器<br>片鉢 | 90%      | [5.4]/3.3/1.2       | 34.9      | 方形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁の磨耗は未発達 / 口縁部片利用 / 無文               | にぶい黄褐 / 砂粒・礫少量   | 中期中葉～後葉  |
| 第118図31<br>図版94-31 | 土製<br>円盤 | 完形       | 4.4/3.8/1.0         | 21.2      | 楕円形 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 単節RLか / 2本1対の直状の隆帯            | にぶい黄橙 / 砂粒中量・礫微量 | 加曾利E1c式  |

第50表 116号住居跡出土土製品一覽

| 挿図番号<br>図版番号       | 器種         | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴   |
|--------------------|------------|---------|--------|-------|--------|-------|--|
| 第119図32<br>図版95-32 | 石鏃         | 黒曜石     | 20.7   | 19.0  | 5.0    | 1.3   | 凹基無茎 / 側縁は直線状で鋸歯縁 / 挟りは浅く弧状  |
| 第119図33<br>図版95-33 | 石鏃         | 黒曜石     | 19.9   | 9.8   | 3.8    | 0.7   | 片脚部のみ残存  |
| 第119図34<br>図版95-34 | 楔形石器       | 黒曜石     | 13.8   | 13.0  | 3.8    | 0.7   | 左右に両極剥離が認められる  |
| 第119図35<br>図版95-35 | 打製石斧       | ホルンフェルス | 87.1   | 49.1  | 14.5   | 72.9  | 撥形 / 裏面の中央部から下部が磨滅している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁に潰れはほとんどみられない / 右側縁は中央部の稜上に潰れが認められる |
| 第119図36<br>図版95-36 | 打製石斧       | 頁岩      | 34.9   | 30.8  | 13.9   | 17.8  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 表面に一部原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁に潰れはほとんどみられない                |
| 第119図37<br>図版95-37 | 打製石斧       | ホルンフェルス | 59.1   | 46.3  | 21.3   | 73.4  | 平面形状は不明 / 刃部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁に潰れはほとんどみられない                             |
| 第119図38<br>図版95-38 | 磨製石斧       | 緑色凝灰岩   | 100.8  | 59.7  | 37.0   | 294.1 | 基部は折れて欠損している / 体部は表裏面ともに全面研磨面に覆われている   |
| 第119図39<br>図版95-39 | 磨製石斧       | 砂岩      | 36.0   | 39.9  | 30.5   | 65.4  | 基部のみ残存 / 基部は敲打を伴う剥離によって調整される / 表裏面ともにほぼ全面研磨面に覆われている                              |
| 第119図40<br>図版95-40 | 二次加工<br>剥片 | 結晶片岩    | 121.1  | 64.5  | 19.3   | 210.3 | 両側縁の一部に敲打を伴う剥離が認められる   |
| 第119図41<br>図版95-41 | 石核         | 黒曜石     | 33.6   | 13.9  | 11.2   | 4.2   | 正面側において、上面を打面として剥片が行われている  |
| 第119図42<br>図版95-42 | 磨石         | 砂岩      | 188.0  | 55.3  | 26.1   | 357.3 | 裏面に磨痕  |

第51表 116号住居跡出土石器一覽

117号住居跡

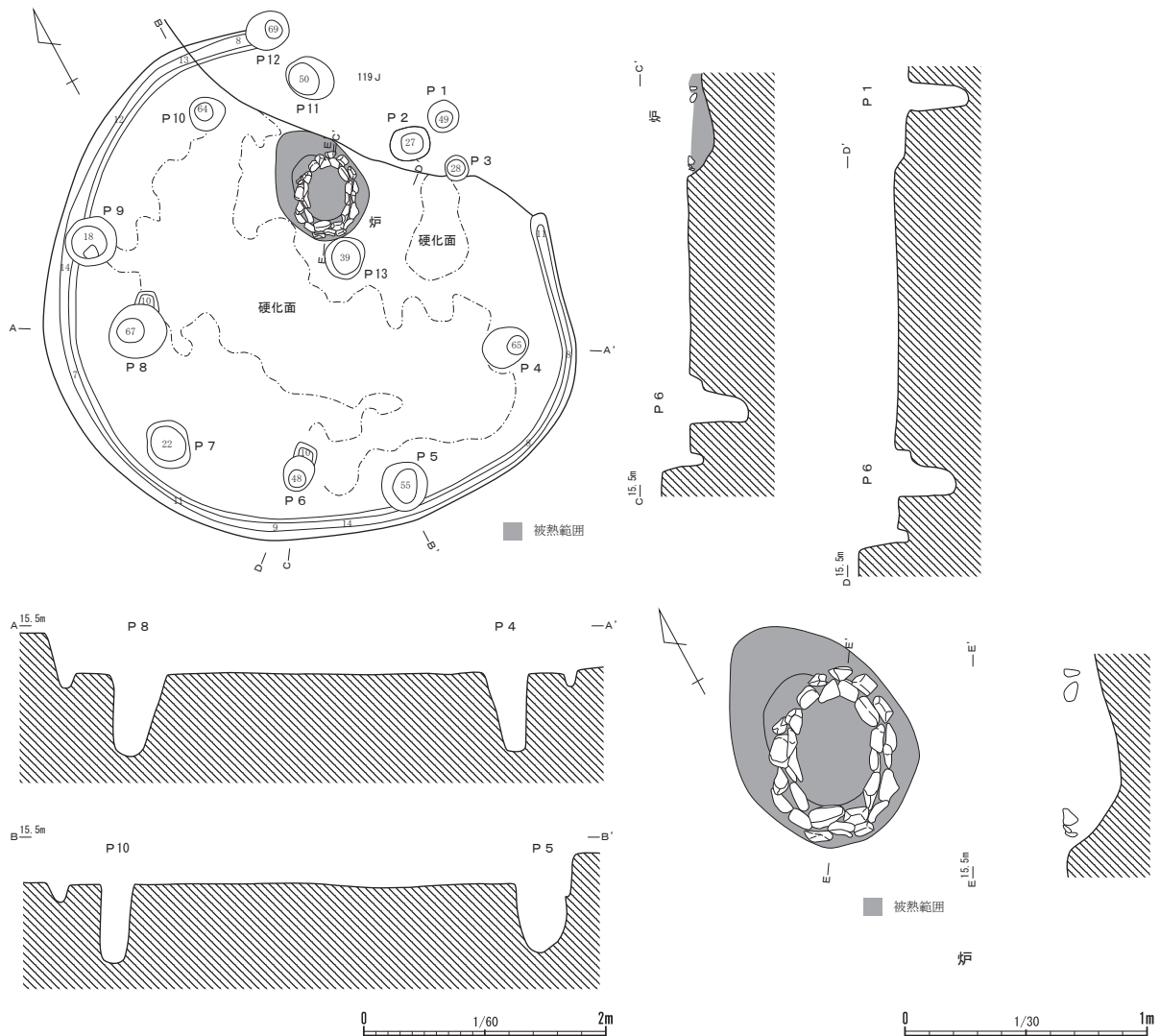
遺 構 (第120図)

[位 置] (D-5・6) グリッド。

[検出状況] 120 J、227 Dを切り、119 Jに切られる。

[構 造] 平面形：やや円形を呈すと思われる。主軸方位：N-28°-E。P4とP8の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸436cm／短軸残存長415cm／深さ24～34cm。壁溝：3条検出された。上幅12～27cm／下幅4～12cm／床面からの深さ7～14cm。壁：約73～87°でやや急斜に立ち上がる。床面：平坦である。炉の周辺以外の住居中央部分に硬化面を確認した。直床である。炉：石囲炉。楕円形に石を配置し、掘り込み及び被熱範囲と石の配置の長軸は異なる。長軸98cm／短軸71cm／床面からの深さ23cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：13本検出した。P1、P4、P5、P6、P8、P10、P11を主柱穴ととらえ、7本柱建物を想定する。

[遺 物] 土器、土製品、石器が出土した。深鉢形土器(第121図1)は118 J、深鉢形土器(第122図19)は119 J出土の破片と遺構間接合している。



第120図 117号住居跡・炉 (1/60・1/30)

[時期] 中期後葉期（連弧文2 b段階期）。

[遺物]（第121・122図、図版96・97、第52～54表）

[土器]（第121図・第122図16～20、図版96・97、第52表）

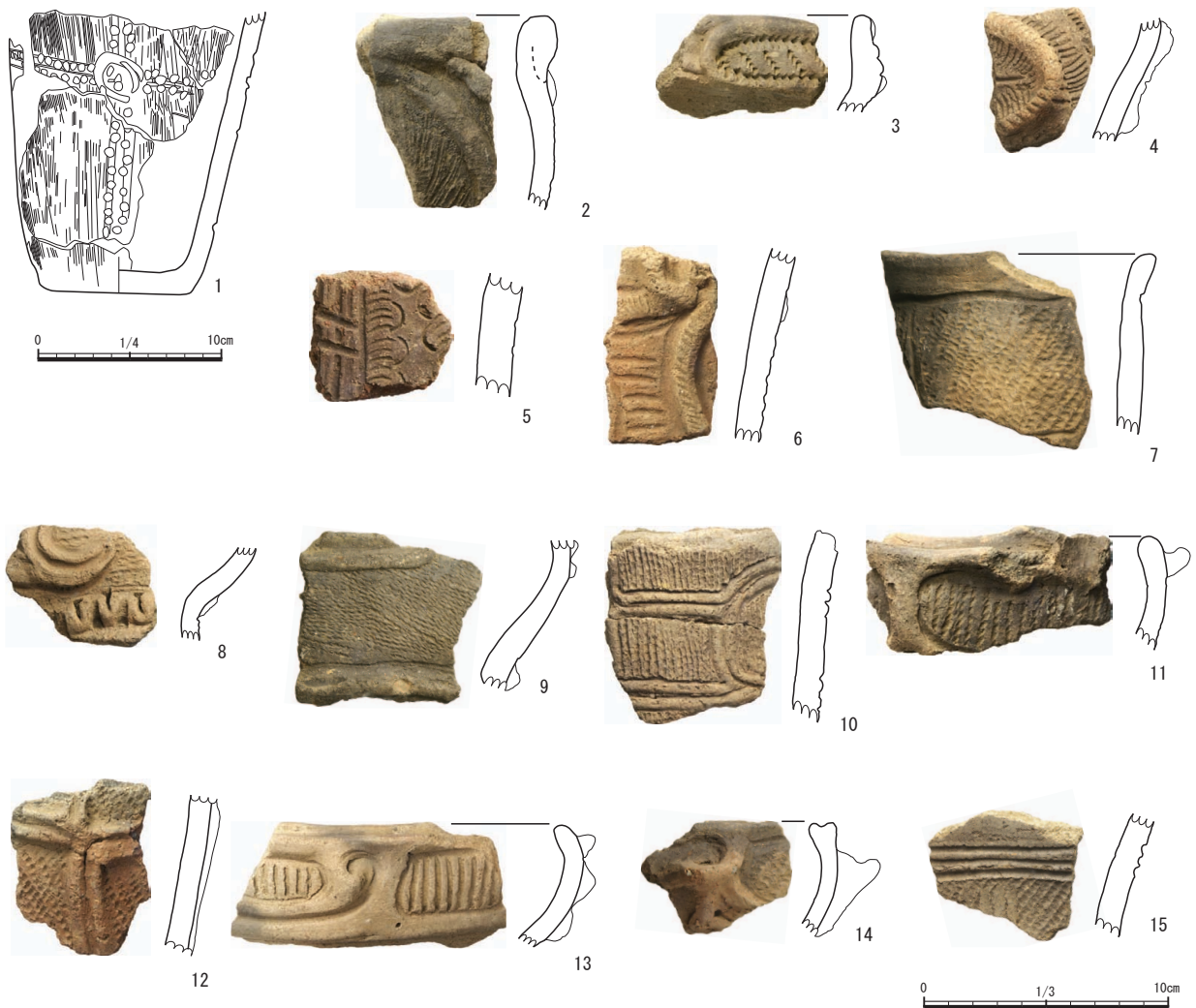
復元資料を1点、破片資料19点を図示した。1は連弧文2 b段階の深鉢形土器である。地文は縦位条線文で、2列の円形刺突文を十文字状に施文し、交差部分に沈線による円形の文様を施文する。117 Jと118 Jとの遺構間接合で、接合はしないものの胎土や円形刺突文の状態から119 J 16と同一個体の可能性がある。2は阿玉台式、3～6は勝坂式、7は勝坂3～加曾利E 1式、8～17は加曾利E式、18は曾利式、19・20は連弧文土器の深鉢形土器である。19は119 J出土の破片と遺構間接合している。

[土製品]（第122図21～27、図版97、第53表）

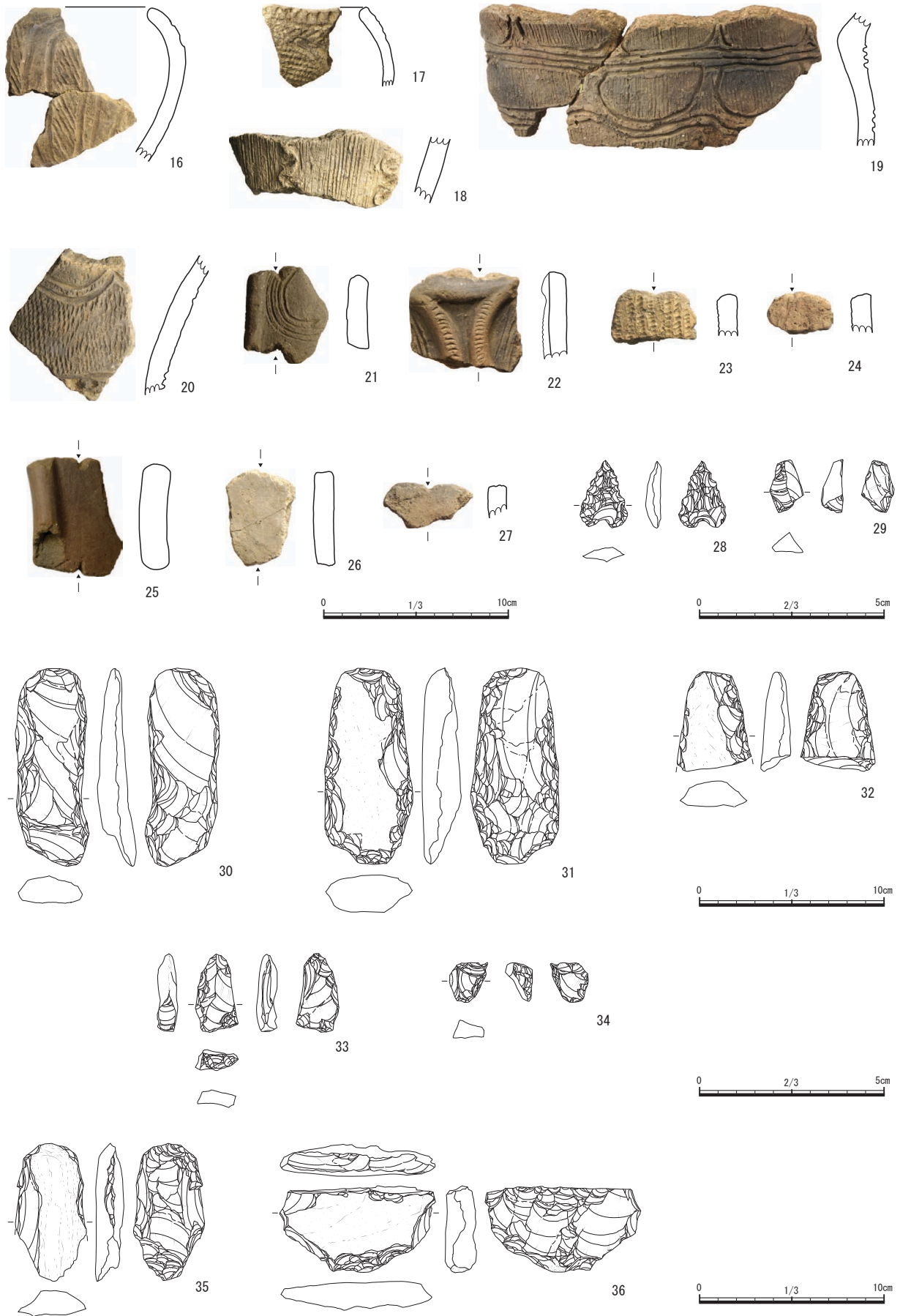
7点を図示した。21～27は土器片錘である。

[石器]（第122図28～36、図版97、第54表）

9点を図示した。28は石鏃である。29は楔形石器である。30～32は打製石斧である。33～36は二次加工剥片である。



第121図 117号住居跡出土遺物1（1/4・1/3）



第122図 117号住居跡出土遺物2 (1/3・2/3)



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号           | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)                 | 器形・形態                             | 文様・特徴   | 胎土                      | 時期<br>型式                 |
|------------------------|----------|--------------------|----------------------------|-----------------------------------|---|-------------------------|--------------------------|
| 第121図1<br>図版96-1       | 深鉢       | 胴部中位<br>～底部<br>40% | 高 [16.5]<br>底 9.4<br>厚 0.9 | 直状にやや外傾して<br>立ち上がる胴部 / 平<br>坦な底部  | 地文は縦位条線文 / 2列の円形刺突文を十文字状に施文、交<br>差部分に沈線による円形の文様施文 (2単位残存) / 底面に網<br>代痕あり / 117J と 118J の遺構間接合で、胎土や円形刺突<br>文の状態から 119J-16 は同一個体の可能性がある | 橙 / 砂粒・礫<br>中量          | 連弧文<br>2b 段階             |
| 第121図2<br>図版96-2       | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 0.9                      | 内湾する口縁部 / 口<br>唇部は外側に肥厚           | 地文は縦位条線文 / 2本の隆帯を弧状に貼付 / 隆帯断面平<br>なカマボコ状・角状 / 外面に光沢のある黒色の付着物が少<br>量見られる   | 黒褐色 / 砂粒<br>少量、礫微量      | 阿玉台<br>Ⅲ式                |
| 第121図3<br>図版96-3       | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 1.0                      | 下位が内折する口縁<br>部                    | 隆帯による楕円状の区画文 / 区画文内側に三角押文が沿う<br>/ 区画文中央に斜位の三角押文列施文 / 区画文下位無文 / 隆<br>帯断面カマボコ状  | 暗褐 / 砂粒・<br>礫微量         | 勝坂 1b<br>式               |
| 第121図4<br>図版96-4       | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 0.8                      | 外傾し上位がやや内<br>湾する胴部                | 押圧文を付した隆帯による楕円状の区画 / 隆帯内側に爪形<br>文が沿い中央に横位 1本の沈線施文 / 隆帯外側に爪形文・<br>三角押文が沿い、隆帯側面に縦位沈線を複数本施文 / 隆帯<br>断面カマボコ状・背の高いカマボコ状、隆帯脇爪形文が沿<br>う      | 明褐 / 砂粒中<br>量、礫微量       | 勝坂 2a<br>式               |
| 第121図5<br>図版96-5       | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.4                      | やや外傾する胴部                          | 沈線を縦位・横位に施文、区画か / 爪形文による蓮華文 (温<br>泉マーク文)  | 暗赤褐 / 砂粒<br>少量、礫微量      | 勝坂 3<br>式                |
| 第121図6<br>図版96-6       | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.0                      | 外傾する胴部                            | 押圧文を付した隆帯を横位・U字状・弧状に貼付 / 弧状の<br>隆帯横に横位沈線列 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇 1本の<br>単沈線が沿う   | 明褐 / 砂粒少<br>量、礫微量       | 勝坂 3<br>式                |
| 第121図7<br>図版96-7       | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片 | 厚 0.9                      | 円筒形か / 直状の胴<br>部 / 上位が外傾する<br>口縁部 | 地文は単節 RL 縦位 / 口縁部に 1本の沈線が横走、上位無文<br>/ 胴部に縦位・横位の沈線が僅かに見られる   | 明褐 / 砂粒少<br>量、礫微量       | 勝坂 3<br>～加曾<br>利 E1<br>式 |
| 第121図8<br>図版96-8       | 深鉢       | 口縁部下<br>位～頸部       | 厚 0.8                      | 外反する頸部 / 内湾<br>する口縁部              | 地文は撚糸 L 横位 / 頸部に交互刺突文を付した 1本の隆帯<br>が横走 / 隆帯による弧状の文様   | 橙 / 砂粒・礫<br>微量          | 加曾利<br>E1a 式             |
| 第121図9<br>図版96-9       | 深鉢       | 口縁部付<br>近～頸部<br>破片 | 厚 0.9                      | 外反する頸部 / 内湾<br>する口縁部付近            | 地文は撚糸 L 横位 / 頸部に隆帯が横走、隆帯上押圧文か / 2<br>本の隆帯による文様 / 隆帯断面カマボコ状  | 黒褐 / 砂粒少<br>量、礫微量       | 加曾利<br>E1a 式             |
| 第121図<br>10<br>図版96-10 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.0                      | 下位は直立し上位は<br>やや外傾する胴部             | 地文は撚糸 L 縦位 / 半截竹管状工具の腹面による平行沈線<br>/ 2本による弧状等の文様施文 / 平行沈線間の地文は磨消さ<br>れる  | にぶい黄褐 /<br>砂粒少量、礫<br>微量 | 加曾利<br>E1a 式             |
| 第121図<br>11<br>図版96-11 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 0.7                      | 内湾する口縁部                           | 地文は撚糸 L 縦位 / 把手が欠損した痕跡あり / 隆帯による<br>口縁部区画 / 隆帯断面カマボコ状   | 黒褐 / 砂粒少<br>量、礫微量       | 加曾利<br>E1b 式             |
| 第121図<br>12<br>図版96-12 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 0.9                      | 外傾する胴部                            | 地文は LRL 縦位 / 2本 1対の隆帯による十文字状の文様 /<br>隆帯断面カマボコ状  | 赤褐 / 砂粒少<br>量、礫微量       | 加曾利<br>E1 式              |
| 第121図<br>13<br>図版96-13 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部上位<br>破片 | 厚 0.7                      | 内湾する口縁部                           | 口縁部を上端 1本、下端 1本の隆帯で画す / 区画内縦位沈<br>線充填 / 沈線による渦巻文、やや突起状 / 隆帯断面カマボ<br>コ状 / 残存頸部無文   | 橙 / 砂粒少<br>量、礫微量        | 加曾利<br>E1～2<br>式         |
| 第121図<br>14<br>図版96-14 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 0.6                      | 内湾する口縁部                           | 地文は単節 RL 縦位 / 隆帯による口縁部区画、上端 1本、下<br>端欠損 / 突起上面に沈線による渦巻文 / 隆帯断面カマボコ<br>状 / 器面の厚さが薄いことから小形の土器か  | 明褐 / 砂粒少<br>量、礫微量       | 加曾利<br>E1～2<br>式         |
| 第121図<br>15<br>図版96-15 | 深鉢       | 頸部～胴<br>部上位<br>破片  | 厚 1.0                      | 外反する頸部～胴部<br>上位                   | 地文は単節 RL 縦位 / 頸部無文部分と胴部を 3本 1対の横<br>走する沈線で画す / 胴部に 3本 1対の直状の沈線が垂下   | 灰黄褐 / 砂粒<br>少量、礫微量      | 加曾利<br>E2 式              |
| 第122図<br>16<br>図版96-16 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 0.7                      | 上位が強く内湾する<br>口縁部                  | 地文は無節 L 縦位、口縁部に施文、口縁部上位は横位施文<br>/ 沈線による逆 U 字状の文様、沈線間縄文磨消し   | にぶい黄褐 /<br>砂粒・礫微量       | 加曾利<br>E3c 式             |
| 第122図<br>17<br>図版96-17 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 0.5                      | 内湾する口縁部                           | 地文は単節 RL 斜位、口縁部に施文、口縁部上位は横位施文<br>/ 口縁部に楕円状の押圧文と 1本の沈線が沿う / 沈線によ<br>る横位 U 字状の文様、沈線間縄文磨消し   | にぶい黄橙 /<br>砂粒・礫微量       | 加曾利<br>E4 式              |
| 第122図<br>18<br>図版96-18 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.0                      | 外傾する胴部                            | 地文は縦位条線文 / 1本の隆帯を波状に垂下、交互押圧して<br>波状に整えた形跡が見られる  | にぶい黄橙 /<br>砂粒中量、礫<br>微量 | 曾利Ⅲ<br>式                 |
| 第122図<br>19<br>図版97-19 | 深鉢       | 胴部中位<br>破片         | 厚 0.9                      | 括れる胴部                             | 地文は縦位条線文 / 括れ部に 3～4本の沈線が横走、上端<br>の 1本は上位にハの字状の副文様に繋がる / 下端に 3本 1<br>対の沈線による波状文、上端の 1本はハ字状の副文様に繋<br>がる / 117J と 119J との遺構間接合           | 暗褐 / 砂粒中<br>量、礫少量       | 連弧文<br>2b 段階             |
| 第122図<br>20<br>図版97-20 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.0                      | 外反する胴部                            | 地文は撚糸 L 縦位 / 2本 1対の沈線による連弧文 / 下位に横<br>位沈線に沿う円形刺突文   | 暗褐 / 砂粒・<br>礫微量         | 連弧文<br>2 段階              |

第 52 表 117 号住居跡出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号       | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土                | 時期<br>型式 |
|--------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|-------------------|----------|
| 第122図21<br>図版97-21 | 土器<br>片鏝 | 90%      | [5.2/4.6/1.0]   | 31.2      | 不整形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/4本1対の条線による弧状の文様  | にぶい黄褐/砂粒・礫微量、雲母中量 | 阿玉台Ⅱ式    |
| 第122図22<br>図版97-22 | 土器<br>片鏝 | 40%      | [5.6]/[5.6]/0.9 | 52.0      | 方形/抉部は1ヶ所残存/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/隆帯を横位に貼付、押圧文を付した隆帯を弧状に貼付、楕円状の区画か/区画内縦位沈線列/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付 | 暗褐/砂粒少量、礫微量、雲母多量  | 勝坂3式     |
| 第122図23<br>図版97-23 | 土器<br>片鏝 | 30%      | [2.9]/[4.5]/0.9 | 19.4      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/単節RL  | 黄褐/砂粒中量、礫微量       | 勝坂3式     |
| 第122図24<br>図版97-24 | 土器<br>片鏝 | 30%      | [2.3]/[3.5]/1.0 | 10.6      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は磨耗が未発達/胴部片利用/沈線が見られるが文様かは不明  | 明褐/砂粒・礫微量         | 期中中葉～後葉  |
| 第122図25<br>図版97-25 | 土器<br>片鏝 | 80%      | 6.6/4.8/1.6     | 68.8      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/無文  | 暗褐/砂粒中量、礫微量、雲母中量  | 期中中葉～後葉  |
| 第122図26<br>図版97-26 | 土器<br>片鏝 | 60%      | 5.1/[3.7]/1.1   | 26.0      | 円形か/抉部は2ヶ所/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/無文  | にぶい黄橙/砂粒・礫微量      | 期中中葉～後葉  |
| 第122図27<br>図版97-27 | 土器<br>片鏝 | 10%      | [2.3]/[4.8]/0.9 | 12.4      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用//無文  | にぶい褐/砂粒中量、礫微量     | 期中中葉～後葉  |

第53表 117号住居跡出土土製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号       | 器種         | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴  |
|--------------------|------------|---------|--------|-------|--------|-------|---|
| 第122図28<br>図版97-28 | 石鏝         | 黒曜石     | 17.9   | 12.9  | 4.2    | 0.7   | 凹基無茎/側縁は直線状で鋸歯縁/扱りは浅く弧状   |
| 第122図29<br>図版97-29 | 楔形石器       | 黒曜石     | 13.4   | 8.9   | 6.0    | 0.5   | 上下に両極剥離が認められる   |
| 第122図30<br>図版97-30 | 打製石斧       | ホルンフェルス | 106.1  | 42.4  | 17.6   | 81.5  | 短冊形/両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の下部の稜上に潰れが認められる/右側縁に潰れはほとんどみられない            |
| 第122図31<br>図版97-31 | 打製石斧       | 砂岩      | 106.7  | 48.3  | 21.4   | 133.7 | 撥形/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の中央部の稜上に潰れが認められる                |
| 第122図32<br>図版97-32 | 打製石斧       | 砂岩      | 55.7   | 40.4  | 16.6   | 39.3  | 平面形状は不明/基部のみ残存/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の稜上に局所的に潰れが僅かに認められる |
| 第122図33<br>図版97-33 | 二次加工<br>剥片 | 黒曜石     | 21.2   | 11.1  | 5.4    | 1.4   | 表面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第122図34<br>図版97-34 | 二次加工<br>剥片 | 黒曜石     | 12.2   | 9.1   | 6.3    | 0.7   | 表面側上端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第122図35<br>図版97-35 | 二次加工<br>剥片 | 結晶片岩    | 74.7   | 39.0  | 15.5   | 49.9  | 裏面側上端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第122図36<br>図版97-36 | 二次加工<br>剥片 | 砂岩      | 46.4   | 84.4  | 17.2   | 87.8  | 表面側下端に不連続な二次的剥離が認められ、一部は敲打を伴う                                     |

第54表 117号住居跡出土石器一覧

### 118号住居跡

#### 遺 構 (第123～126図)

[位 置] (C・D-5) グリッド。

[検出状況] 119Jに切られ、225・226Dを切る。主柱穴や壁溝の形状や分布状況から、〈拡張前〉、〈拡張後①〉、〈拡張後②〉として捉えた。

[構 造] 〈拡張前〉平面形：楕円形。主軸方位：N-21°-W。P4とP48、P13とP44、P21とP36の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸537cm/短軸482cm/深さ64～78cm。壁溝：1条検出された。上幅21～36cm/下幅7～20cm/床面からの深さ16～34cm。壁：約60°で緩やかに立ち上がる。床面：柱穴：59本検出した。P4、P13、P21、P36、P44、P48を主柱穴ととらえ、6本柱建物を想定する。

〈拡張後①〉平面形：楕円形。主軸方位：N-25°-W。P1とP54、P7とP47、P14とP40のそれぞれの中間を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸660cm/短軸558cm/深さ62～68cm。壁溝：

1条検出された。上幅25～49cm／下幅5～21cm／床面からの深さ4～18cm。壁：約64°で緩やかに立ち上がる。床面：柱穴：P1、P7、P14、P19、P35、P40、P47、P54を主柱穴ととらえ、8本柱建物を想定する。

〈拡張後②〉平面形：円形。主軸方位：N-16°-W。P1とP54、P7とP52、P34とP27のそれぞれの中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸720cm／短軸654cm／深さ50～55cm。壁溝：1条検出された上幅35～47cm／下幅2～10cm／床面からの深さ1～7cm。壁：約60～80°でやや急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦であるが、中央部分がわずかに低くなる。直床である。炉：埋甕炉。楕円形で、浅鉢形土器（第127図1）が埋設されている。長軸91cm／短軸76cm／床面からの深さ23cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：P1、P7、P15、P27、P34、P43、P52、P54を主柱穴ととらえ、8本柱建物を想定する。遺構確認当初、重複を想定し精査を進め、検出された複数の周溝に基づき、切り合いを想定して分層を行ったが、床面や炉の検出状況から、重複ではなく、拡張住居であると判断した。P52については当初は224Dとしていたが、住居に伴うピットと認定し、224Dについては欠番とした。

〔覆 土〕9層に分層できた。

〔遺 物〕土器、土製品、石器が出土した。炉体土器（第127図1）が出土している。深鉢形土器（第129図20）は117J、深鉢形土器（第133図56）は120J出土の破片と遺構間接合している。

〔時 期〕中期後葉期（加曾利E1a式期）。

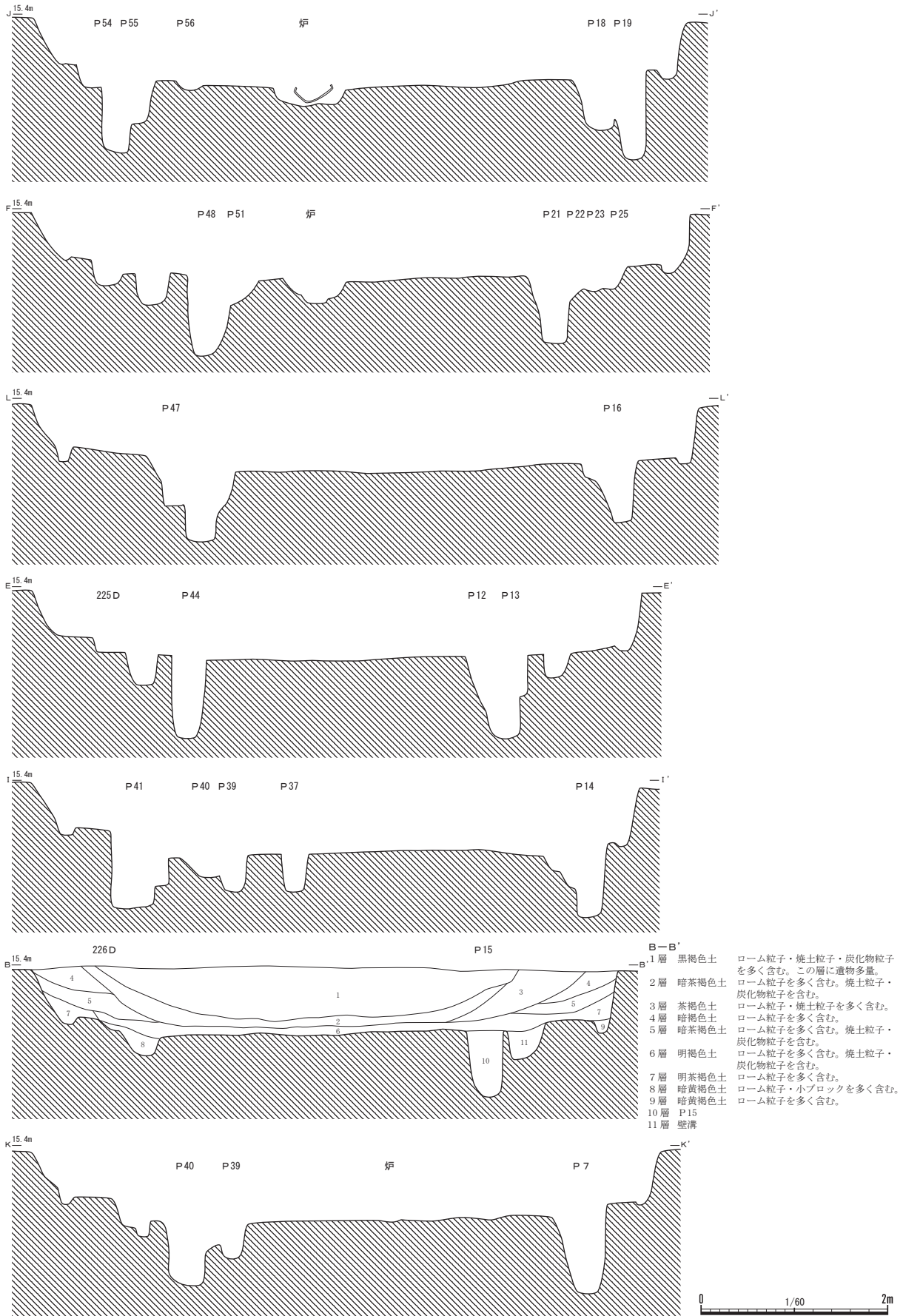
遺 物（第127～141図、図版98～110-1、第55～57表）

〔土 器〕（第127～133図・第134図62～68、図版98～106、第55表）

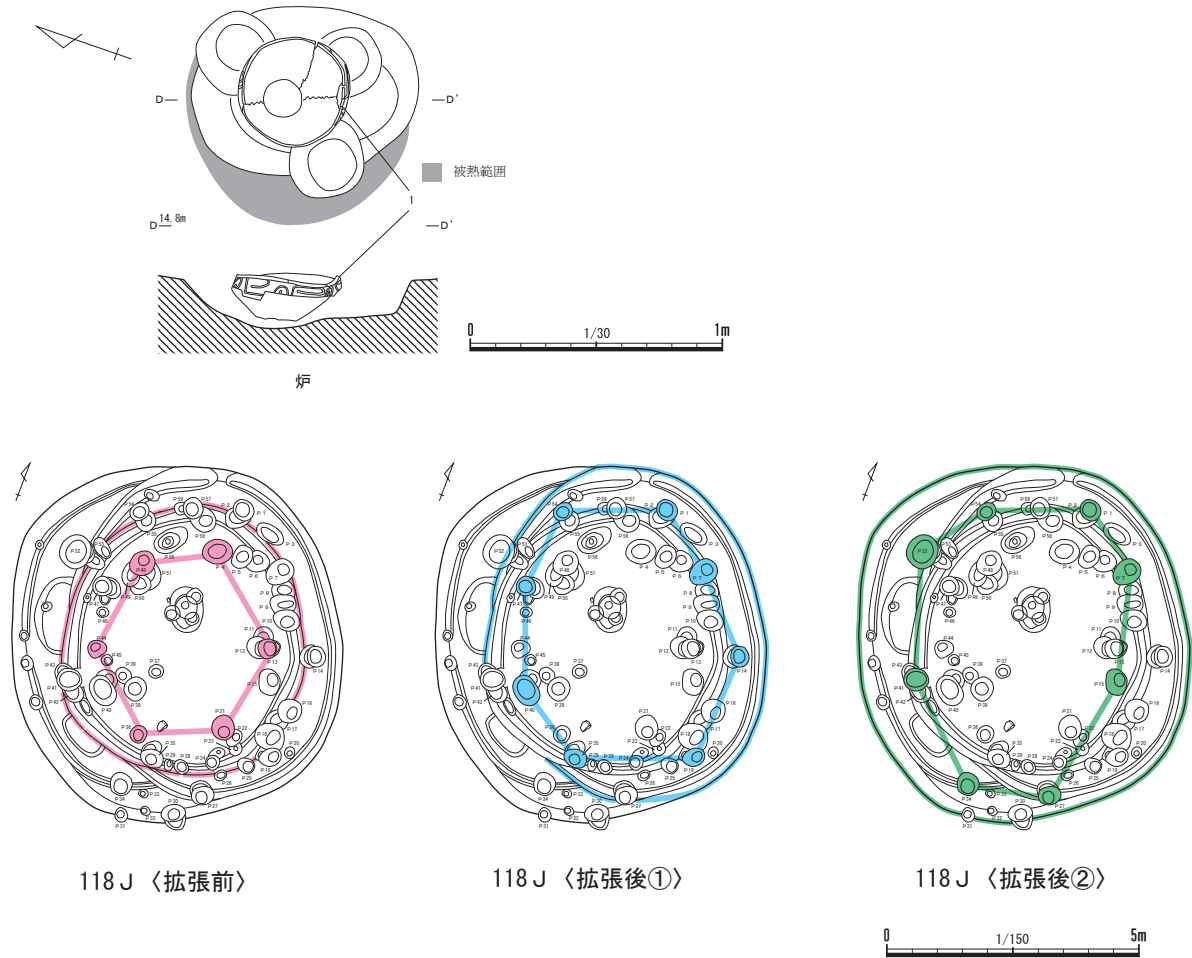
復元資料を26点、破片資料42点を図示した。1は炉体土器で、加曾利E1式の深鉢形土器である。口縁の張り出し部分にかけて文様を施文するが、張り出し部分はほぼ欠損している。文様は沈線によるもので、右側は渦巻文、左側は長方形の渦巻文となる。2・3は勝坂3b新式の深鉢形土器である。2は4単位の波状口縁で、内1単位には把手が見られる。地文は縄文である。3は胴部上位に沈線を主体とする文様帯を持ち、突起も見られる。胴部下位は撚糸文を施文する。4～16は加曾利E1a式の深鉢形土器である。4は沈線による渦巻文等の文様を施文し、胴部中位の沈線間には円形刺突文を施す。5は口縁部が無文で頸部以下は撚糸文を地文とする。胴部には隆帯による十文字状、円形等の文様を貼付する。6は隆帯による楕円形区画を口縁部に4単位設け、地文は撚糸文を施文する。7は口縁部に環状の突起が見られ、胴部上位には直状と波状の平行沈線が巡る。8は口縁部に沿って隆帯が巡り、胴部には直状と波状の平行沈線が見られる。9は口縁部に1単位の把手が見られ、直状と波状の平行沈線が巡る。10は隆帯による口縁部区画を設け、区画内には隆帯による横位S字状、菱形状の文様を施す。11は口縁部に把手が1単位見られる。隆帯によって口縁部区画を設け、区画内には渦巻文、十文字文等施文する。胴部には平行沈線によって渦巻文、十文字文等が付属した懸垂文が5単位見られる。12は口縁部に山形の突起が3単位残存し、内1単位には沈線による渦巻文を施す。隆帯による口縁部区画内には先端が渦巻く弧状文が連なる。13は隆帯による口縁部区画を設け、区画内は隆帯による渦巻文等の文様を付す。頸部には平行沈線が巡る。14は口縁部から胴部にかけて縦位撚糸文を地文とする。頸部に巡る隆帯には押圧文を付し、口縁部区画内には隆帯による横位S字状の文様を施す。15は隆帯による口縁部区画を設け、胴部上位には直状の沈線と波状沈線が巡る。16は口縁部がほぼ欠損しているが、波状に突出した部分が1単位残存する。口縁部に沿って隆帯と押圧文が巡ると思われる。頸





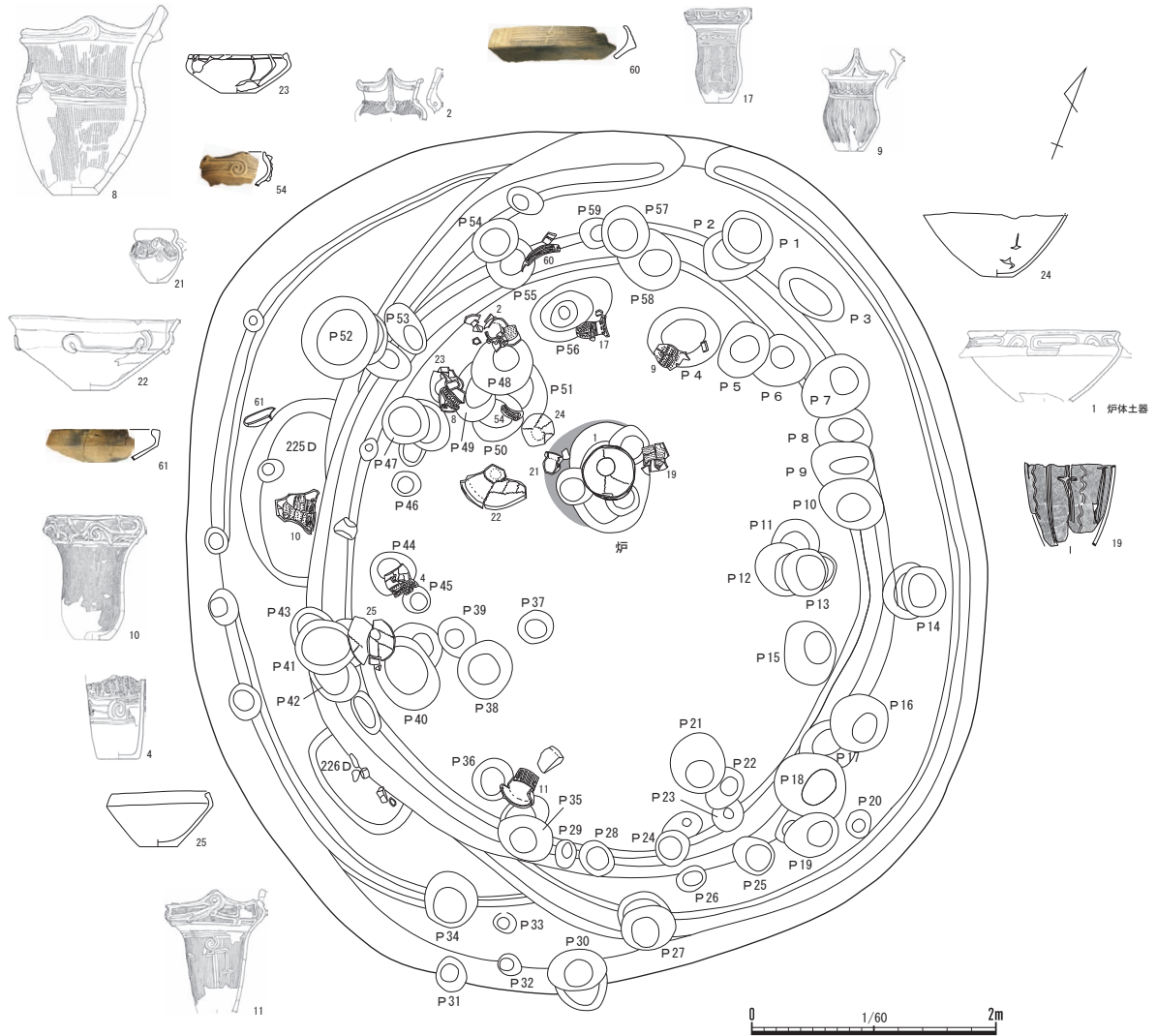


第124図 118号住居跡2 (1/60)



第125図 118号住居跡炉・拡張変遷図（1／30・1／150）

部は無文で、胴部には沈線が垂下する。17・18は加曾利E 1 b式の深鉢形土器である。17は撚糸文を地文とし、胴部にはH字状の隆帯を貼付する。18は撚糸文を地文とし、隆帯が垂下する。19は加曾利E 2式の深鉢形土器である。縄文を地文とし、直状の沈線、波状の沈線が垂下し、十文字状の文様も見られる。20は連弧文2 b段階の深鉢形土器である。縦位条線文を地文とし、2列の円形刺突文を十文字状に施文する。117 Jとの遺構間接合である。また、胎土や円形刺突文の状態から、119 J 16と同一個体の可能性がある。21は勝坂3 b新式の小形深鉢形土器である。口縁部は無文で、胴部上位に隆帯や沈線による文様を施す。眼鏡状把手が1単位残存する。22～24は加曾利E 1 a式の浅鉢形土器である。22は隆帯による文様を貼付する。体部には補修孔が1ヶ所見られる。23は内面に赤色顔料が少量残存する。25は加曾利E 1式の浅鉢形土器である。26はミニチュア土器である。残存部は無文で中期中葉～後葉にあたると思われる。27～29は阿玉台式、30～41は勝坂式の深鉢形土器である。42・43は勝坂3式と思われる深鉢形土器である。口縁部に把手が見られる。44は勝坂3～加曾利E式にあたると思われる深鉢形土器である。撚糸文を地文とし、幅広の浅い沈線で直状の懸垂文や円形の文様を施文する。一部の沈線間は地文が消されている。45～54は加曾利E式、55は曾利式、56は連弧文土器の深鉢形土器である。56は120 Jとの遺構間接合である。57～61は加曾利E 1式の浅鉢形土器である。62～66は中期中葉～後葉の浅鉢形土器である。いずれも赤色顔料が見られる。67は勝坂2式、68は加曾利E式と思われるもののミニチュア土器である。



第126図 118号住居跡遺物出土状態 (1/60)

[土製品] (第134図69～98・第135図99～109、図版107、第56表)

41点を図示した。69～107は土器片錘、108・109は土製円盤である。84は挾部が3ヶ所残存しているため、元は4ヶ所あったと思われる。

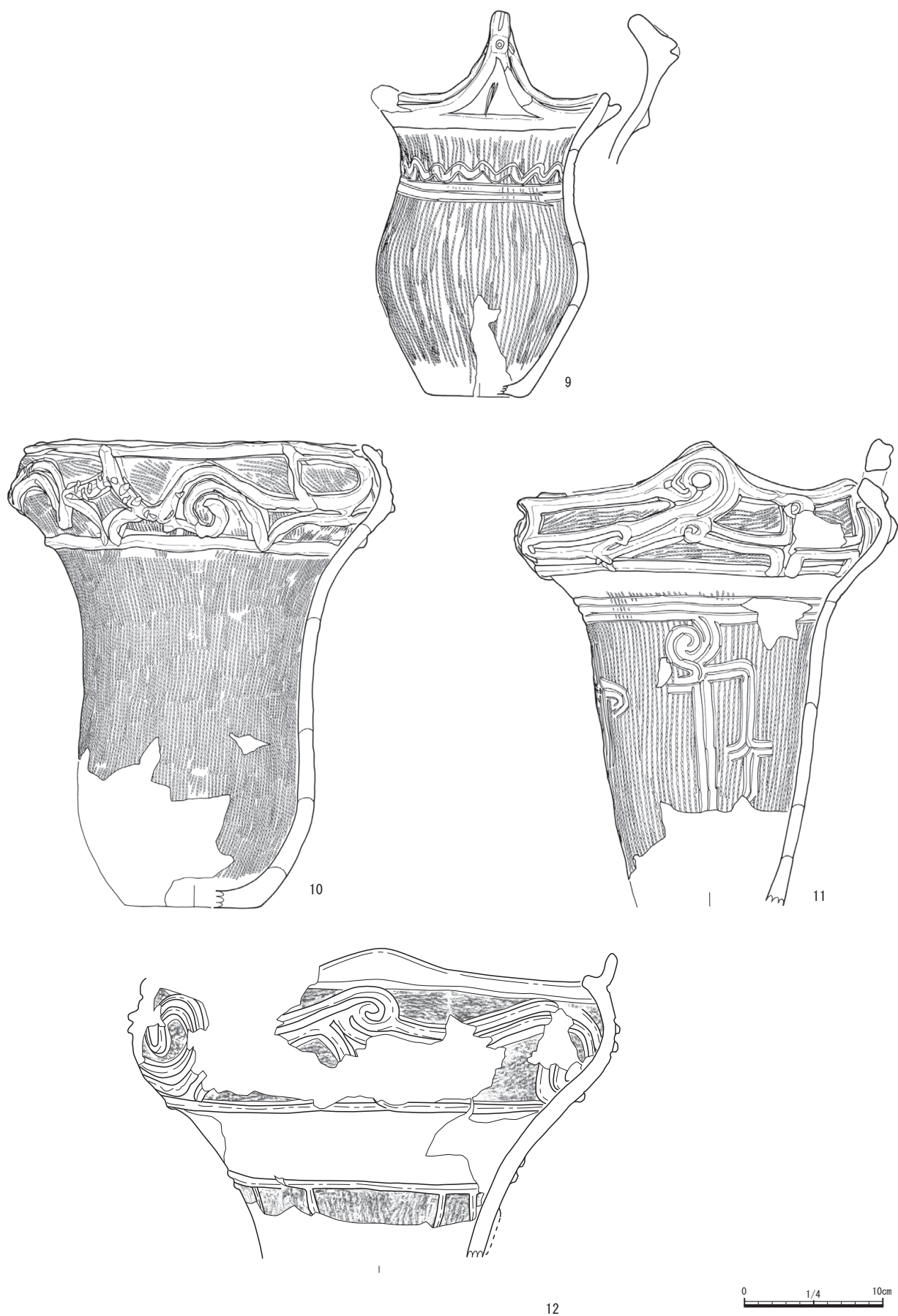
[石器] (第135図110～121・第136・137図、図版108～110-1、第57表)

32点を図示した。110は石鏃である。111は楔形石器である。112～133は打製石斧である。134は磨製石斧である。135～138は二次加工剥片である。139は磨+凹石である。140・141は石皿である。

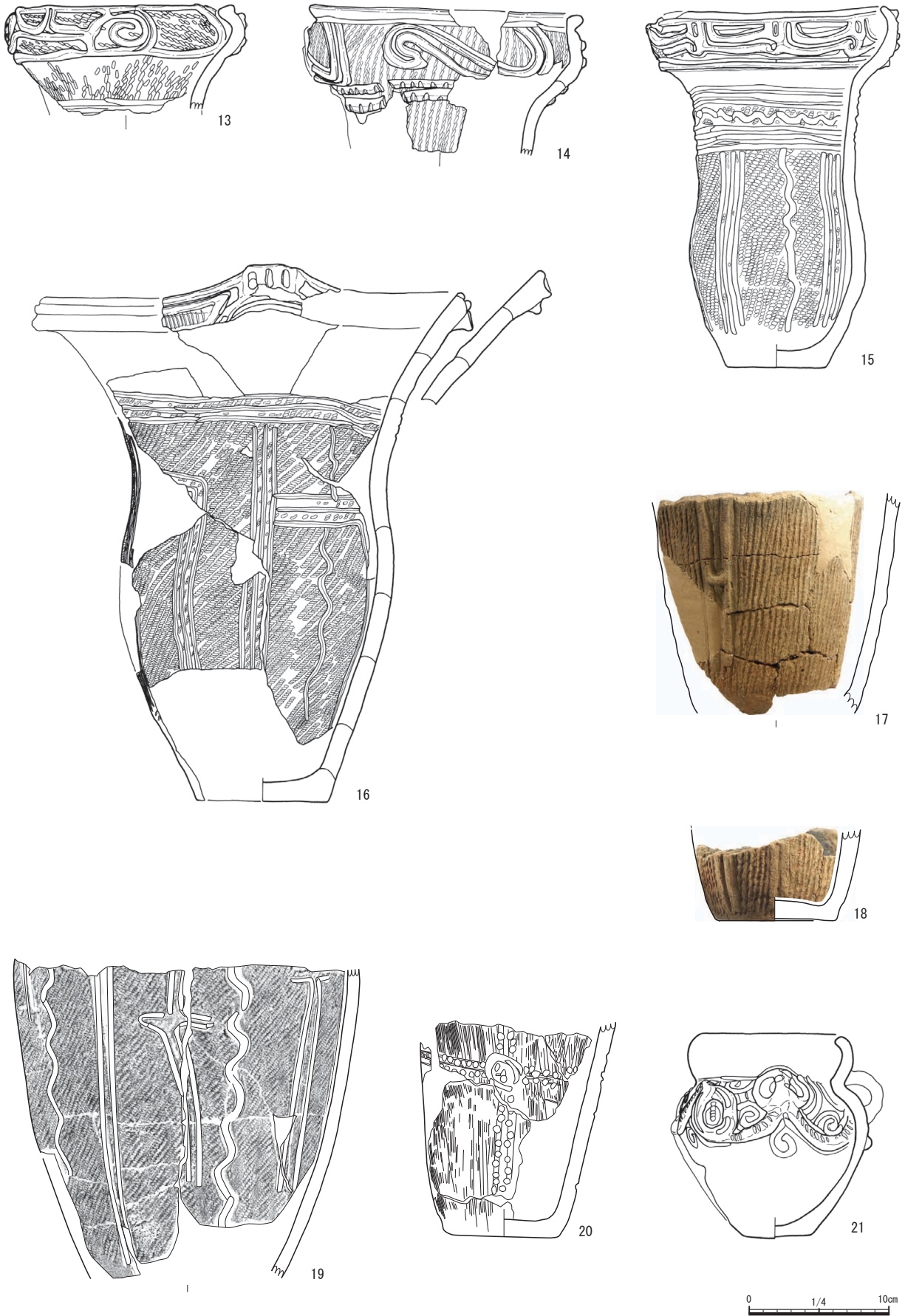


第127図 118号住居跡出土遺物1 (1/4)

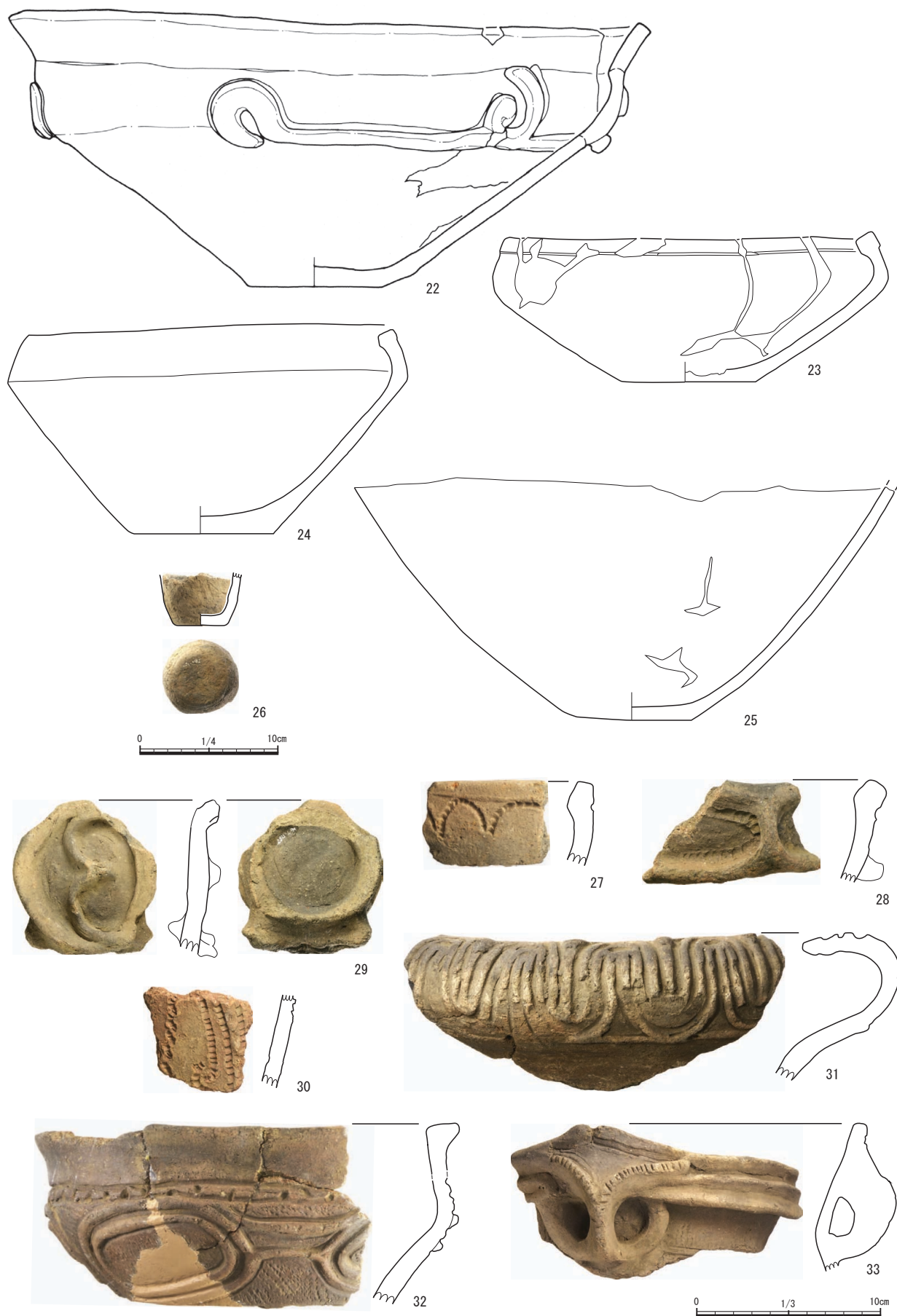




第128図 118号住居跡出土遺物2 (1/4)



第129図 118号住居跡出土遺物3 (1/4)



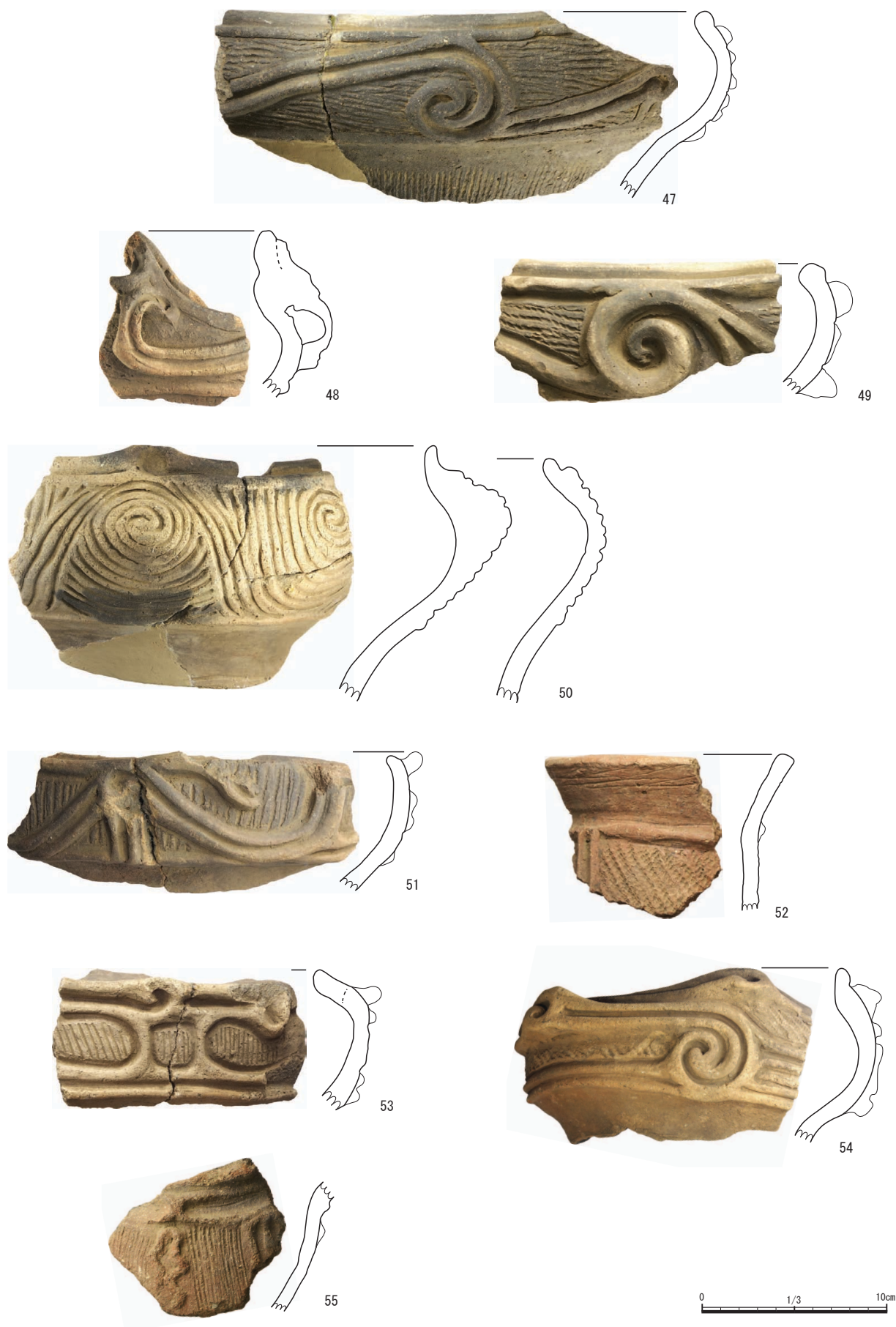
第130図 118号住居跡出土遺物4 (1/4・1/3)





第131図 118号住居跡出土遺物5 (1/3)



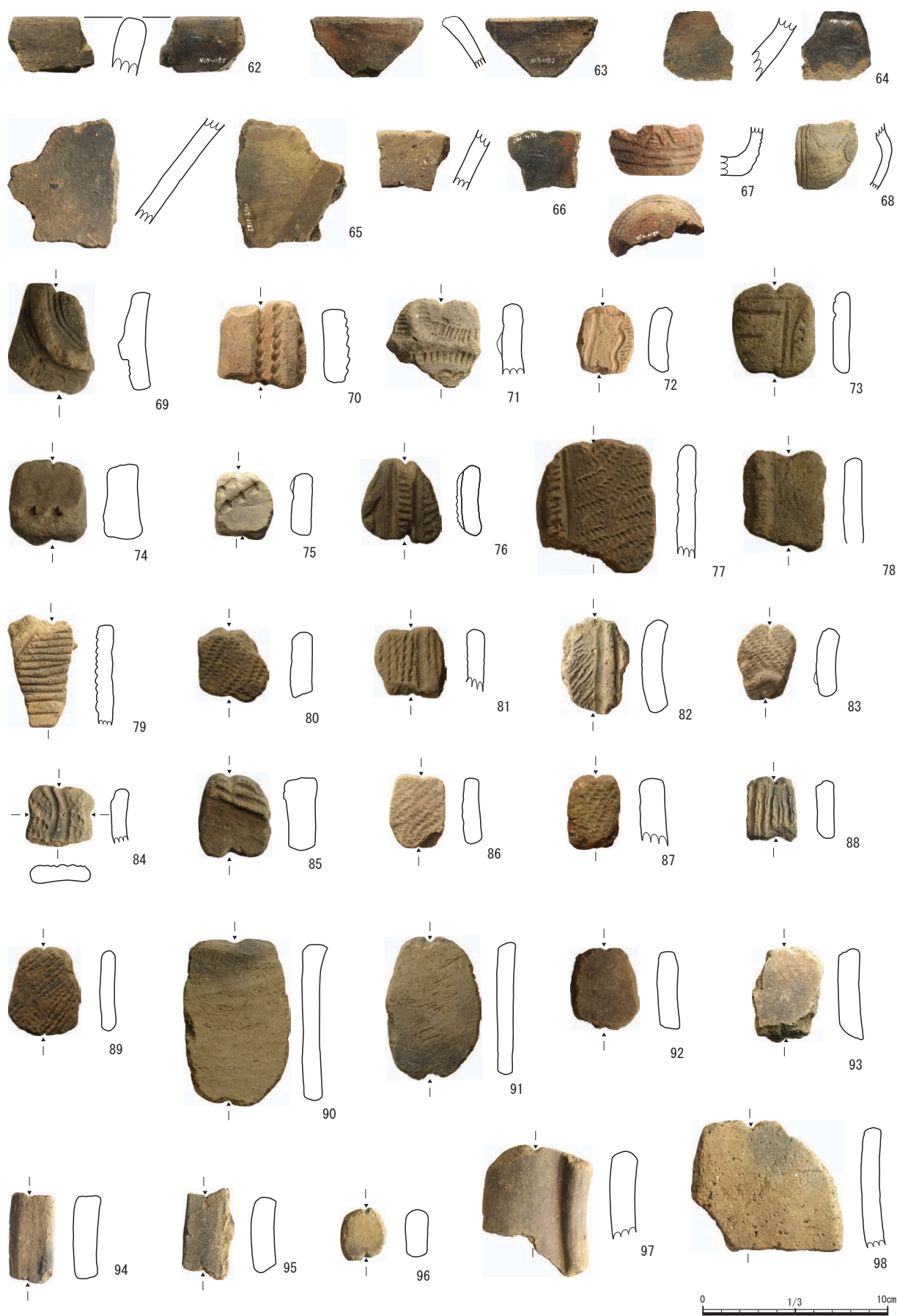


第132図 118号住居跡出土遺物6 (1/3)

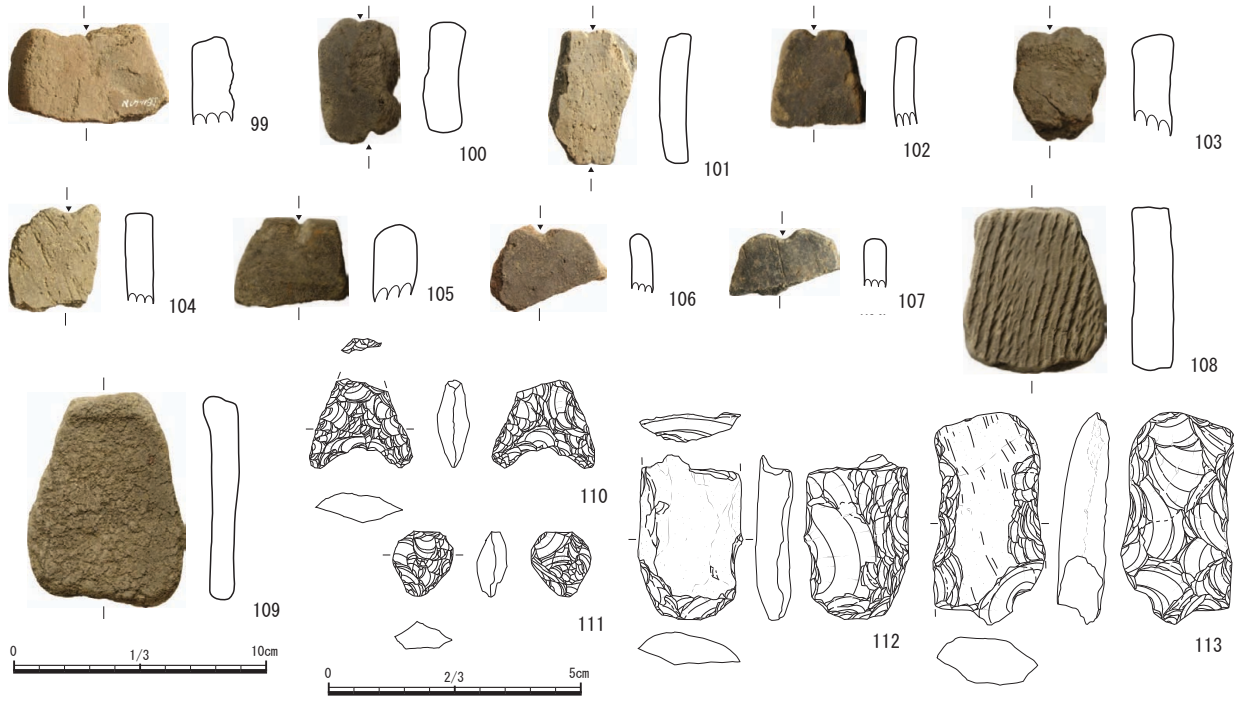


第133図 118号住居跡出土遺物7 (1/3)





第134図 118号住居跡出土遺物8 (1/3)

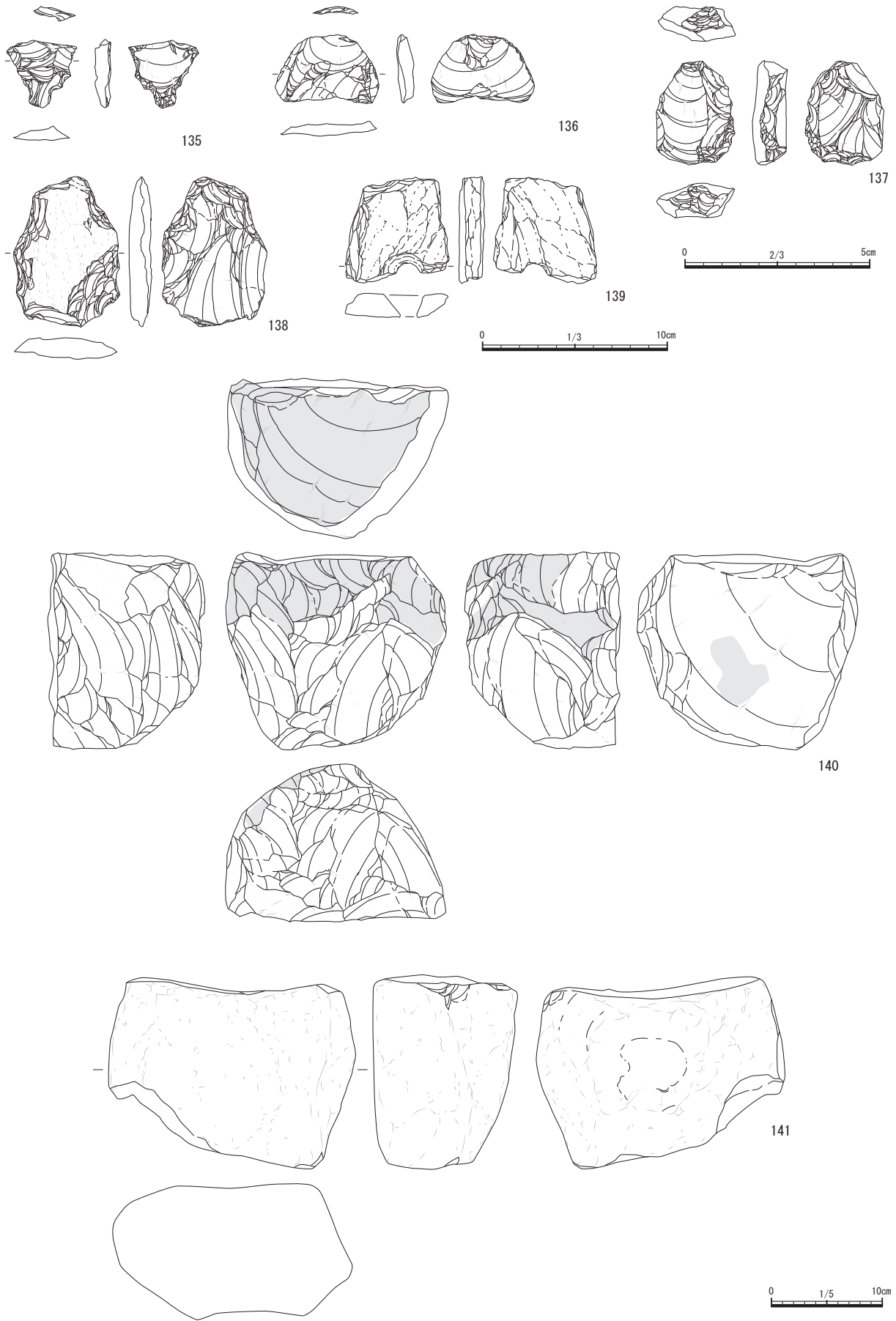


第135図 118号住居跡出土遺物9 (1/3・2/3)





第136図 118号住居跡出土遺物10(1/3)



第137図 118号住居跡出土遺物 11 (1/5・1/3・2/3)

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号        | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                           | 器形・形態   | 文様・特徴   | 胎土                | 時期<br>型式  |
|---------------------|----------|---------------------|--------------------------------------|---|---|-------------------|-----------|
| 第127図1<br>図版98-1    | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部下位<br>90% | 高 [19.2]<br>口 40.6<br>厚 1.2          | やや内湾しながら広がる体部 / 口縁部で内折し文様帯部分が外側に張り出す / 口縁上部外傾                         | 口縁上部、体部は無文 / 口縁の張り出し部にかけて沈線による文様を施すが張り出し部はほぼ欠損 / 残存する部分からの推測では沈線によって右側に渦巻文を施文し、左側は長方形に渦巻く (1 対 6 単位) / 右側の渦巻状文は右巻きと左巻きが見られる、左巻きは連続して 3 単位、右巻きは連続して 2 単位並ぶ、1 単位はどちらか不明 / 炉体土器  | 褐 / 砂粒中量、礫微量、雲母中量 | 加曾利 E1 式  |
| 第127図2<br>図版98-2    | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>80% | 高 [14.1]<br>口 17.6<br>厚 1.1          | 内湾する胴部 / 括れる頸部 / 外傾して広がる口縁部   | 地文は 0 段多条 RL 縦位 / 4 単位の波状口縁、内 1 単位は波頂部から押圧文を付した隆帯が頸部の眼鏡状把手に垂下 / 口縁に沿って 1 本の隆帯を貼付、隆帯上弧の部分に交互刺突文を付す / 頸部に交互刺突文を付した隆帯が 1 本横走 / 隆帯断面三角状・カマボコ状   | 黒褐 / 砂粒少量、礫微量     | 勝坂 3b 新式  |
| 第127図3<br>図版98-3    | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>40%   | 高 [18.0]<br>口 (23.0)<br>厚 0.9        | 外傾する胴部 / 外傾する口縁部  | 地文は擦糸 L 縦位 / 胴部上位に沈線を主とした文様帯、交互刺突文・縦位沈線・沈線による円形の文様・胴部に突起貼付・「し」字状に蛇行して垂下する隆帯 / 文様帯と擦糸施文部分を画す隆帯や沈線はない / 隆帯断面カマボコ状   | 黒褐 / 砂粒中量、礫少量     | 勝坂 3b 新式  |
| 第127図4<br>図版98-4    | 深鉢       | 胴部上位～<br>底部<br>90%  | 高 [22.6]<br>底 11.0<br>厚 1.0          | 僅かに外傾して立ち上がる胴部 / 平坦な底部  | 胴部上位から中位に文様帯 / 下位の無文帯と文様帯を 2 本の横位沈線で画す / 残存部文様帯の上位に交互沈線文が巡り、沈線間は刺突文を充填 / 文様帯の上位と下位を横位 2 本の沈線で画す / 残存部文様帯下位に沈線による渦巻文 4 単位施文、渦巻文間横位沈線を施文、一部沈線間刺突文充填 / 底部網代痕無し   | 赤褐 / 砂粒・礫中量       | 加曾利 E1a 式 |
| 第127図5<br>図版99-5    | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>80% | 高 [22.0]<br>口 16.8<br>厚 0.8          | 下位は内湾し上位はほぼ直立する胴部 / やや外反する頸部 / 外傾して広がる口縁部                             | 地文は擦糸 R 縦位 / 口縁部無文 / 口縁部無文帯と擦糸施文部を横位 1 本の沈線で画す / 隆帯による十字状・円形・9 字状・V 字状の文様、それぞれを横位隆帯で繋ぐ / 隆帯断面カマボコ状  | 明褐 / 砂粒中量、礫少量     | 加曾利 E1a 式 |
| 第127図6<br>図版99-6    | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>90%   | 高 26.4<br>口 21.6<br>底 7.4<br>厚 1.2   | やや内湾しながら立ち上がる胴部 / 外反して広がる頸部 / 外反して広がる口縁部 / 平坦な底部                      | 地文は擦糸文 L 縦位 / 口縁部に隆帯による楕円状の区画 (4 単位) / 頸部、底部付近は地文なし / 底面網代痕なし   | 明褐 / 砂粒・礫中量       | 加曾利 E1a 式 |
| 第127図7<br>図版99-7    | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>70% | 高 [8.7]<br>口 15.8<br>厚 1.0           | 内湾する胴部 / 外傾する口縁部  | 地文は擦糸 L 縦位 / 口縁部に横位 1 本の隆帯が巡る、環状の突起 3 単位残存 (元は 4 単位か) / 胴部上位に直状と波状の平行沈線が 1 本ずつ横走  | にぶい黄緑 / 砂粒少量、礫微量  | 加曾利 E1a 式 |
| 第127図8<br>図版99-8    | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>80%   | 高 25.8<br>口 19.4<br>底 6.1<br>厚 1.1   | 下位は外傾しながら立ち上がり上位が括れる胴部 / 外傾して広がる頸部 / 外傾して広がる口縁部 / 平坦な底部               | 地文は擦糸 L 縦位、口縁部下位施文 / 口縁部に波頂部 2 単位 (大きさは異なる) / 口縁に沿って 1 本の隆帯が横走、波頂部に逆 C 字状の隆帯を貼付 / 胴部括れ部よりやや上位に上下 2 本の平行沈線間に 1 本の波状平行沈線を施した文様が横位に巡る / 平行沈線は半載竹管状工具の腹面を使用し地文を磨消す / 隆帯断面カマボコ状 / 底面網代痕なし  | 明褐 / 砂粒中量、礫少量     | 加曾利 E1a 式 |
| 第128図9<br>図版100-9   | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>90%   | 高 27.6<br>口 16.2<br>底 12.2<br>厚 1.1  | 外傾して立ち上がり中位が内湾する胴部 / 外反する頸部 / 外傾して広がる口縁部 / 平坦な底部                      | 地文は擦糸文 L 縦位 / 口縁に沿って 2 本 1 対の隆帯が巡る / 口縁部把手 1 単位・波頂部が 1 ヶ所 / 把手外面に円形刺突文 1 つ / 頸部に 1 本の波状の平行沈線 2 本と直状の平行沈線が横走 / 平行沈線は半載竹管状工具の腹面を使用し地文を磨消す   | 明黄褐 / 砂粒中量、礫微量    | 加曾利 E1a 式 |
| 第128図10<br>図版100-10 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>70%   | 高 33.4<br>口 23.8<br>底 (9.6)<br>厚 1.0 | キャリパー形 / 下位は内湾しながら立ち上がり中位でやや外反する胴部 / 外反して広がる頸部 / やや外傾し内湾する口縁部 / 平坦な底部 | 地文は擦糸 L、口縁部区画内上位横位・斜位施文、口縁部区画内下位から縦位施文が見られ頸部以下縦位施文 / 口縁部を上端 1 本、下端 1 本の隆帯で画す / 口縁部区画内 2 本 1 対の隆帯による横位 S 字状・菱形状・渦巻状等の文様施文 / 隆帯上一部交互刺突文施文 / 隆帯断面カマボコ状 / 擦糸文施文 → 隆帯貼付 / 底面網代痕無し  | 明褐 / 砂粒少量、礫微量     | 加曾利 E1a 式 |
| 第128図11<br>図版100-11 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>80% | 高 [32.5]<br>口 23.2<br>厚 0.8          | キャリパー形 / やや外傾しながら立ち上がる胴部 / 外反して広がる頸部 / やや外傾し内湾する口縁部                   | 地文は擦糸文 L、口縁部区画内横位施文、胴部縦位施文 / 口縁部区画内から伸びた隆帯による渦巻状の把手、中央に孔あり (1 単位) / 口縁部を上端 1 本、下端 1 本の隆帯で画す / 区画内に 2 本 1 対の隆帯による渦巻文、内 1 単位の渦巻文下位には 2 つの小さな渦巻文貼付 / 口唇部に渦巻文 1 単位あり、渦巻文から隆帯が 3 本垂下 / 頸部無文 / 頸部と胴部を横走する平行沈線で画す / 胴部には直状に垂下する平行沈線に渦巻文、十文字文等が付属した文様が 5 単位 / 平行沈線は半載竹管状工具の腹面を使用し地文を磨消す / 隆帯断面カマボコ状 | 褐 / 砂粒中量、礫微量      | 加曾利 E1a 式 |
| 第128図12<br>図版101-12 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>50% | 高 [22.0]<br>口 (33.4)<br>厚 1.0        | やや外反する胴部上位 / 外反する頸部 / 内湾する口縁部   | 地文は擦糸 L 口縁部横位、胴部縦位 / 口縁部に山状の突起が 3 単位残存、内 1 単位は沈線による渦巻文施文 / 隆帯による口縁部区画、上端 1 本、下端 1 損 / 2 本 1 対の隆帯による先端が渦巻く弧状文が横位に連なる / 頸部無文 / 頸部無文帯と胴部を 2 本 1 対の横走する隆帯で画す / 胴部には 2 本の直状の隆帯間に 1 本の波状隆帯が垂下するものが 3 単位 (内 1 単位は右の隆帯が欠損していると思われる) ・ 1 本の波状隆帯が 1 単位残存 / 隆帯断面カマボコ状                                  | 橙 / 砂粒中量、礫微量      | 加曾利 E1a 式 |

第 55 表 118 号住居跡出土土器一覧 1

| 挿図番号<br>図版番号            | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                           | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土             | 時期<br>型式    |
|-------------------------|----------|---------------------|--------------------------------------|--|--|----------------|-------------|
| 第129図<br>13<br>図版101-13 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>80%   | 高 [7.4]<br>口 15.3<br>厚 0.8           | 外反して広がる頸部<br>/ 内湾する口縁部/<br>口唇部外側に肥厚                        | 地文は捺糸L、口縁部区画内横位施文、頸部以下縦位施文/口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す/口縁部区画内2本1対の隆帯による渦巻文1単位・両端に渦巻文があり区画上端隆帯から短い隆帯が垂下する文様1単位、H字状の文様1単位/頸部下端に半截竹管状工具による平行沈線が巡る/隆帯断面カマボコ状   | 明赤褐/砂粒少量、礫微量   | 加曾利<br>E1a式 |
| 第129図<br>14<br>図版101-14 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>60% | 高 [10.1]<br>口 19.2<br>厚 0.9          | キャリパー形/やや外傾する胴部上位/<br>外反して広がる頸部/<br>やや内湾する口縁部/<br>口唇部外側に肥厚 | 地文は捺糸L縦位/口縁部を押圧文を付した2本の隆帯で画す/口縁部区画内2本1対の隆帯による横位S字状の文様施文(2単位残存)、欠損している文様が2単位あり/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇一部本の単沈線が沿うがほとんどは押さえつけ、なで付けて貼付   | 赤褐/砂粒・礫中量      | 加曾利<br>E1a式 |
| 第129図<br>15<br>図版101-15 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>ほぼ完形  | 高 25.8<br>口 15.8<br>底 7.0<br>厚 0.8   | キャリパー形/中位が内湾し上位がほぼ直立して立ち上がる胴部/外反して広がる頸部内湾して広がる口縁部/平坦な底部    | 地文は単節RL、口縁部区画内横位施文、胴部縦位施文/口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す/区画内に隆帯による横位S字状の文様を施文(6単位)/区画の上端隆帯から渦巻文に向かって隆帯が2本垂下・渦巻文の右側に隆帯を矢印状に貼付したものが2単位・1本の隆帯を横位に貼付したものが1単位あり/頸部無文/1本の波状沈線の上下に3本1対の沈線が横走し頸部と胴部を画す/胴部は3本1対の直状の沈線4単位と1本の波状沈線4単位が交互に垂下/隆帯断面形状角状、面取りされた隆帯、隆帯脇1本の単沈線が沿う/底面網代痕なし/縄文施文→口縁部隆帯貼付/隆帯の割れが多く見られる | 橙～黒褐/砂粒少量、礫微量  | 加曾利<br>E1a式 |
| 第129図<br>16<br>図版102-16 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>40%   | 高 38.6<br>口 (29.2)<br>底 9.2<br>厚 1.3 | 外傾しながら立ち上がり上位は内湾して括れる胴部/外傾して広がる頸部/外傾して広がる口縁部/平坦な底部         | 地文は0段多条RL縦位/口縁部に波状に突出した部分あり、この1単位以外口縁部欠損のため、突出部の単位数は不明/口縁突出部側面に3つの押圧文、口縁に沿って1本の隆帯と押圧文が巡ると思われる/頸部無文頸部と胴部を横走する3本1対の沈線で画す/胴部に3本1対の直状沈線にクランク状の沈線を付した文様を施文(4単位)、内2単位には垂下する波状沈線が伴う/文様間に波状沈線が1単位垂下/底面の縁と中央部分に網代痕あり  | 明褐～暗褐/砂粒少量、礫微量 | 加曾利<br>E1a式 |
| 第129図<br>17<br>図版102-17 | 深鉢       | 胴部～底<br>部付近<br>60%  | 高 [15.4]<br>厚 1.1                    | 外傾して立ち上がる胴部  | 地文は捺糸L縦位/隆帯をH字状に貼付/隆帯断面カマボコ状   | 明褐/砂粒中量、礫微量    | 加曾利<br>E1b式 |
| 第129図<br>18<br>図版102-18 | 深鉢       | 胴部～底<br>部<br>100%   | 高 [6.7]<br>底 9.6<br>厚 1.0            | やや内湾して立ち上がる胴部/平坦な底面  | 地文は捺糸L縦位/2本1対の隆帯が垂下(5単位)/隆帯断面カマボコ状/底面網代痕無し   | 明褐/砂粒少量、礫微量    | 加曾利<br>E1b式 |
| 第129図<br>19<br>図版102-19 | 深鉢       | 胴部上位<br>～下部<br>60%  | 高 [22.1]<br>厚 0.8                    | 内湾しながら立ち上がる胴部  | 地文は単節RL縦位/2本1対の直状に垂下する沈線、1本の波状に垂下する沈線、2本1対の十字状の沈線、反転したト字状の沈線   | 褐/砂粒少量、礫微量     | 加曾利<br>E2式  |
| 第129図<br>20<br>図版102-20 | 深鉢       | 胴部中位<br>～底部<br>40%  | 高 [16.5]<br>底 9.4<br>厚 0.9           | 直状にやや外傾して立ち上がる胴部/平坦な底部                                     | 地文は縦位条線文/2列の円形刺突文を十字状に施文、交差部分に沈線による円形の文様施文(2単位残存)/底面に網代痕あり/117Jと118Jの遺構間接合で、胎土や円形刺突文の状態から119J-16は同一個体の可能性がある   | 橙/砂粒・礫中量       | 連弧文<br>2b段階 |
| 第129図<br>21<br>図版102-21 | 小形<br>深鉢 | 口縁部～<br>底部<br>70%   | 高 25.8<br>口 15.8<br>底 7.0<br>厚 0.8   | 外傾し広がりながら立ち上がり上位が内湾する胴部、括れる頸部/内湾する口縁部/平坦な底部                | 口縁部無文/交互刺突文を付した眼鏡状把手1単位残存、下位に沈線による渦巻文/把手右側は押圧文を付した隆帯を波状に貼付し画す/右側区画内沈線によるU字状・渦巻文施文/把手左側は押圧文を付した隆帯で画し一部沈線を付した隆帯を円形に貼付/左側区画内沈線による渦巻文等の文様/円形の隆帯内側角押文1列を縦位に施文/隆帯断面カマボコ状・台形状、隆帯脇1本の単沈線が沿う/底面網代痕なし  | 暗褐/砂粒中量、礫少量    | 勝坂3b<br>新式  |
| 第130図<br>22<br>図版102-22 | 浅鉢       | 口縁部～<br>底部<br>60%   | 高 19.0<br>口 46.8<br>底 9.6<br>厚 1.1   | 外傾して広がり上位が内湾する体部/外傾する口縁部/平坦な底部                             | 体部の屈曲部に1本の横位隆帯貼付、両端に隆帯による環状の文様貼付(1単位残存、1単位は半分欠損)/体部の屈曲部に補修孔1ヶ所あり、外面側径1.6cm・内面側径1.3cm/底面網代痕無し   | 明褐～黒/砂粒・礫中量    | 加曾利<br>E1a式 |
| 第130図<br>23<br>図版103-23 | 浅鉢       | 口縁部～<br>底部<br>90%   | 高 10.9<br>口 26.8<br>底 10.2<br>厚 0.8  | 外傾し広がりながら立ち上がり上位が内湾する胴部/やや内湾する口縁部/口唇部は内側に肥厚/平坦な底部          | 無文/底面に網代痕無し/内面に赤色顔料が少量残存   | 明褐/砂粒・礫中量      | 加曾利<br>E1a式 |
| 第130図<br>24<br>図版103-24 | 浅鉢       | 体部上位<br>～底部<br>95%  | 高 [16.6]<br>底 8.8<br>厚 0.8           | 外傾しながら立ち上がる体部/平坦な底部  | 無文/底面に網代痕無し  | 明黄褐/砂粒・礫少量     | 加曾利<br>E1a式 |
| 第130図<br>25<br>図版103-25 | 浅鉢       | 口縁部～<br>底部<br>100%  | 高 14.8<br>口 26.4<br>底 10.8<br>厚 0.8  | 外傾し広がりながら立ち上がり上位が内湾する胴部/やや内湾する口縁部/口唇部は内側に肥厚/平坦な底部          | 無文/底面に網代痕無し  | 明黄褐/砂粒多量、礫少量   | 加曾利<br>E1式  |

第55表 118号住居跡出土土器一覧2



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号            | 種別<br>器種        | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)                | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土                                 | 時期<br>型式                  |
|-------------------------|-----------------|--------------------|---------------------------|--|--|------------------------------------|---------------------------|
| 第130図<br>26<br>図版103-26 | ミニ<br>チュア<br>土器 | 胴部～底<br>部<br>100%  | 高 [4.0]<br>底 3.8<br>厚 0.5 | やや内湾して立ち上<br>がる胴部 / 平坦な底<br>部                  | 残存部無文 / 底面網代痕無し  | にぶい黄褐<br>色 / 砂粒・<br>礫微量            | 中期中<br>葉～後<br>葉           |
| 第130図<br>27<br>図版103-27 | 深鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚 1.0                     | 内湾する口縁部  | 結節沈線文による波状文  | 明褐 / 砂<br>粒・礫少量、<br>雲母中量           | 阿玉台<br>I b 式              |
| 第130図<br>28<br>図版103-28 | 深鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚 0.9                     | 内湾する口縁部  | 隆帯による楕円形の口縁部区画 / 区画内側に沿って爪形文が沿<br>う / 隆帯断面カマボコ状  | 暗褐 / 砂<br>粒・礫微量、<br>雲母中量           | 阿玉台<br>III 式              |
| 第130図<br>29<br>図版103-29 | 深鉢              | 把手部<br>破片          | 厚 1.0                     | ほぼ直立する把手                                       | 楕円形の把手 / 縁に 1 本の隆帯が巡る / 中央に隆帯による縦<br>位の弧状文 / 隆帯断面三角状・角状  | にぶい黄褐<br>色 / 砂粒中量、<br>礫微量、雲<br>母中量 | 阿玉台<br>III 式              |
| 第130図<br>30<br>図版103-30 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚 0.8                     | 外傾する胴部   | 角押文を縦位・波状に施文   | 明褐 / 砂<br>粒・礫微量                    | 勝坂 1a<br>式                |
| 第130図<br>31<br>図版103-31 | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片 | 厚 1.0                     | 外反する胴部上位 /<br>強く内湾する口縁部                        | 横位 1 本の隆帯で文様部分と無文部分を画す / 隆帯による波<br>状文 (4 単位残存) / 隆帯断面台形状・カマボコ状 / 隆帯の剥が<br>れが見られる / 内面に帯状の黒色の付着物が多量に見られる                                  | 褐 / 砂粒中<br>量、礫少量                   | 勝坂 3b<br>新式               |
| 第130図<br>32<br>図版104-32 | 深鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚 1.0                     | 下位は内湾しながら<br>外傾し上端はほぼ直<br>立する口縁部               | 地文は擦糸 L 縦位・横位、口縁部に施文 / 口縁部直立部分は<br>無文 / 無文部分下端に平行沈線を横位に施文、交互刺突文を付<br>す / 2 本 1 対の隆帯による楕円状の文様を横位隆帯で繋ぐ / 隆<br>帯断面カマボコ状、隆帯脇 1 本の単沈線が沿う      | 暗褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量              | 勝坂 3b<br>新式               |
| 第130図<br>33<br>図版104-33 | 深鉢              | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚 0.7                     | 外反する頸部 / 外傾<br>して広がる口縁部                        | 地文は擦糸 L 縦位 / 口縁部上端が山形の突起状を呈す (1 単位<br>残存) / 突起下位に眼鏡状把手、上端に押圧文施文 / 口縁に沿っ<br>て 2 本 1 対の隆帯による / 口縁部山形突起部分・眼鏡状把手<br>横に半截竹管状工具の腹面による平行沈線が見られる | 褐 / 砂粒少<br>量、礫微量                   | 勝坂 3b<br>新式               |
| 第131図<br>34<br>図版104-34 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚 1.3                     | 外傾しながら内湾す<br>る胴部                               | 地文は単節 RL 縦位、胴部に施文 / 押圧文・交互刺突文を付し<br>た隆帯による H 字状の文様 / 下端横位隆帯上に沈線を破線状<br>に付す / 111J-7 と同一個体の可能性あり  | 暗褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量              | 勝坂 3b<br>新式               |
| 第131図<br>35<br>図版104-35 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚 1.3                     | やや外傾する胴部                                       | 連鎖状隆帯による区画と渦巻文、連鎖状隆帯には多くが隆帯<br>上に沈線を付すが一部三押文を付す / 区画内は三角押文列を充<br>填 / 隆帯断面カマボコ状・台形状、隆帯には 1 本または 2 本<br>の沈線が沿う                             | 黒褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量、赤色粒<br>少量    | 勝坂 3b<br>新式               |
| 第131図<br>36<br>図版104-36 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚 0.9                     | 外反する胴部   | 地文は擦糸 R 縦位 / 平行沈線による重三角文 / 平行沈線には<br>半截竹管状工具の腹面を使用   | 暗褐 / 砂<br>粒・礫少量                    | 勝坂 3b<br>新式               |
| 第131図<br>37<br>図版104-37 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚 1.1                     | ほぼ直立する胴部                                       | 矢羽根状刺突文・押圧文を付した隆帯を縦位に貼付 / 隆帯間<br>に沈線による蛇行文状の文様施文 / 隆帯断面台形状・三角状、<br>隆帯脇単沈線が 1 本沿う   | 褐 / 砂粒微<br>量、礫中量                   | 勝坂 3b<br>新式               |
| 第131図<br>38<br>図版104-38 | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚 1.0                     | やや外傾する口縁部<br>/ ほぼ直立する胴部<br>/ 口唇部は内側に肥<br>厚する   | 口唇部から押圧文を付した隆帯が 1 本垂下 / 口縁部無文帯下<br>位より 2 本の隆帯が垂下、区画文か / 沈線による三叉文状の<br>文様 / 隆帯断面台形状・カマボコ状、隆帯脇単沈線が 1 本沿<br>う                               | 褐 / 砂粒少<br>量、礫中量                   | 勝坂 3b<br>新式               |
| 第131図<br>39<br>図版104-39 | 深鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚 1.1                     | 上位はやや外傾し下<br>位は内湾する口縁部<br>/ 口唇部内面で断面<br>三角状に肥厚 | 口縁部上位無文 / 交互刺突文、矢羽根状刺突文を付した隆帯を<br>三角状、沈線を付した隆帯を U 字状に貼付 / 沈線による円形<br>の文様 / 隆帯断面三角状、隆帯脇 1 本の単沈線が沿う  | 灰黄褐 / 砂<br>粒少量、礫<br>微量             | 勝坂 3b<br>新式               |
| 第131図<br>40<br>図版104-40 | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片 | 厚 0.7                     | 外反する胴部上位 /<br>外反する口縁部                          | 地文は単節 LR、胴部左側横位施文・右側斜位施文 / 口縁部上<br>端に連鎖状隆帯が巡る / 口縁部から 1 本の隆帯が垂下、押圧<br>文を付した横位隆帯と接し、接点は突起を形成、突起下部か<br>ら三角押文を付した隆帯が 2 本斜位に垂下 / 隆帯断面台形状     | にぶい赤褐<br>色 / 砂粒少量、<br>礫微量          | 勝坂 3b<br>式                |
| 第131図<br>41<br>図版104-41 | 深鉢              | 胴部<br>破片           | 厚 1.1                     | 内湾する胴部   | 押圧文を付した横位隆帯で無文部と区画 / 押圧文を付した隆帯<br>を横位に貼付し、先端は渦巻状となる / 隆帯断面カマボコ状・<br>台形状  | 明褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量              | 勝坂 3<br>式                 |
| 第131図<br>42<br>図版104-42 | 深鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚 1.2                     | 内湾する口縁部  | 地文は単節 LR 縦位か / 左右に孔が貫通した三角状の把手 / 隆<br>帯を横位に 2 本貼付 / 把手左側に隆帯の剥落痕が見られる /<br>隆帯断面カマボコ状  | 明褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量              | 勝坂 3b<br>式か               |
| 第131図<br>43<br>図版104-43 | 深鉢              | 口縁部付<br>近<br>破片    | 厚 1.1                     | 内湾する口縁部付近                                      | 地文は擦糸 L 縦位、押圧文を付した横位隆帯で無文部と画す /<br>隆帯上位には沈線による弧状の文様・縦位沈線列施文 / 隆帯断<br>面台形状  | にぶい期橙<br>色 / 砂粒少量、<br>礫微量          | 勝坂 3b<br>式か               |
| 第131図<br>44<br>図版104-44 | 深鉢              | 口縁部<br>破片          | 厚 1.4                     | ほぼ直立する口縁部                                      | 地文は擦糸 L 縦位 / 幅広の沈線を縦位に複数施文、一部沈線<br>間の地文磨消 / 沈線間の地文を磨消した 2 本の沈線下位に沈<br>線を弧状に施文  | にぶい期橙<br>色 / 砂粒少量、<br>礫微量          | 勝坂 3<br>～加曾<br>利 E1<br>式か |
| 第131図<br>45<br>図版104-45 | 深鉢              | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚 0.9                     | 外反する胴部 / 外反<br>する口縁部                           | 地文は擦糸 L 縦位 / 口縁に沿って隆帯を貼付   | 褐 / 砂粒・<br>礫中量                     | 加曾利<br>E1a 式              |

第 55 表 118 号住居跡出土土器一覧 3

| 挿図番号<br>図版番号            | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm) | 器形・形態                         | 文様・特徴  | 胎土             | 時期<br>型式  |
|-------------------------|----------|---------------------|------------|-------------------------------|--|----------------|-----------|
| 第131図<br>46<br>図版105-46 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片    | 厚0.9       | 外傾する頸部/内湾する口縁部、上位は外反          | 地文は捺糸L横位/隆帯による口縁部区画、上端1本、下端1損/区画内に先端が渦巻く1本の横位隆帯/2本1対の隆帯による渦巻状の文様/頸部無文/隆帯断面カマボコ状  | 黒褐/砂粒少量、礫微量    | 加曾利E1a式   |
| 第132図<br>47<br>図版105-47 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片    | 厚0.8       | 外反する頸部/内湾する口縁部                | 地文は捺糸L、口縁部区画内横位施文・頸部以下縦位施文/上端1本、下端1本の隆帯で口縁部を画す/2本1対の隆帯による渦巻文/2本1対の隆帯の先端が小さく渦巻き、2本の隆帯が垂下/頸部上部に2cm程無文/隆帯断面カマボコ状            | 黒褐/砂粒中量、礫微量    | 加曾利E1a式   |
| 第132図<br>48<br>図版105-48 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚0.9       | 内湾する口縁部                       | 地文は捺糸L横位か/2本1対の隆帯による渦巻状の文様、口縁部の把手に繋がる/隆帯断面カマボコ状  | 黒褐/砂粒少量、礫微量    | 加曾利E1a式   |
| 第132図<br>49<br>図版105-49 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚1.0       | 内湾する口縁部                       | 地文は捺糸L横位/隆帯による口縁部区画、上端1本、下端欠損/隆帯による大きな渦巻文/隆帯断面カマボコ状・台形状  | 灰黄褐/砂粒・礫微量     | 加曾利E1a～b式 |
| 第132図<br>50<br>図版105-50 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片  | 厚1.0       | 外反する胴部上位/内湾する口縁部              | 口縁部に小突起(1単位残存)/上端1本、下端1本の隆帯で口縁部を画す/口縁部区画内沈線による同心円状の文様/胴部上位無文/隆帯断面カマボコ状/外面口縁部上位に黒色の付着物が微量見られる                             | にぶい黄橙/砂粒中量、礫微量 | 加曾利E1b式   |
| 第132図<br>51<br>図版105-51 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片    | 厚0.9       | 外傾する頸部/内湾する口縁部                | 地文は捺糸L縦位/口縁部を上端1本、下端1本の隆帯で画す/2本1対の隆帯による弧状文、剥離した把手と繋がると思われる/弧状文から区画下端の隆帯に2本の隆帯だ垂下/頸部無文/隆帯断面カマボコ状                          | 黒褐/砂粒中量・礫微量    | 加曾利E1b式   |
| 第132図<br>52<br>図版105-52 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片    | 厚0.9       | 外傾する口縁部/ほぼ直立する胴部              | 地文は複筋RLR横位/口縁部無文/頸部に横位の隆帯が1本巡る/頸部から2本1対の隆帯が垂下/隆帯断面カマボコ状  | 明赤褐/砂粒・礫少量     | 加曾利E1c式   |
| 第132図<br>53<br>図版105-53 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚1.0       | 内湾する口縁部                       | 隆帯による口縁部区画/区画上端に先端が渦巻状になる横位沈線施文/沈線による楕円形区画内縦位沈線充填  | にぶい期橙/砂粒中量、礫少量 | 加曾利E1～2式  |
| 第132図<br>54<br>図版105-54 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片    | 厚0.9       | 外反する頸部/内湾する口縁部                | 地文は0段多条RL横位/口縁部に沈線による渦巻文を付した突起あり/隆帯による口縁部区画/区画内に隆帯による渦巻文、渦巻文に繋がる横位隆帯の途中は突起状となり沈線による渦巻文を付す/頸部無文/下端の破談面に黒色の付着物が多く見られる      | 明褐/砂粒・礫微量      | 加曾利E2a式   |
| 第132図<br>55<br>図版105-55 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚0.9       | 上部は外反し下部は内湾する胴部               | 地文は縦位条線文/上端に隆帯が横位に巡る/隆帯を波状・直状に施文/隆帯断面カマボコ状   | 赤褐/砂粒中量、礫微量    | 曾利Ⅲ式      |
| 第133図<br>56<br>図版105-56 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>破片  | 厚1.0       | 外傾しながら立ち上がり上位で括れる胴部/やや内湾する口縁部 | 地文は捺糸L縦位、全面に施文/口縁部上位と胴部括れ部に3本1対の沈線が横位に巡る/口縁部と胴部に3本1対の沈線による連弧文/器高に対して括れの位置が高い/118Jと120Jの遺構間接合                             | 黒褐/砂粒少量、礫微量    | 連弧文2b段階   |
| 第133図<br>57<br>図版106-57 | 浅鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚1.2       | 上位はほぼ直立し下部は内湾する口縁部            | 口縁部上位無文、下部に文様帯/隆帯を渦巻状に貼付、右側に押圧文が沿った横位沈線、交互沈線文/屈曲部に沿って押圧文施文   | 黒褐/砂粒中量、礫微量    | 加曾利E1式    |
| 第133図<br>58<br>図版106-58 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部上位<br>破片  | 厚1.4       | 外傾する体部上位/やや内湾し上端は外傾する口縁部      | 口縁部上端は無文/口縁部無文部と文様帯を交互刺突文で画す/体部と文様帯を横位1本の沈線と押圧文で画す/文様帯内に押圧文を付した環状の隆帯を付す、押圧文を付した隆帯が斜位に伸び左側の欠損した文様に繋がる/縦位沈線列/隆帯断面カマボコ状・台形状 | にぶい黄橙/砂粒少量・礫微量 | 加曾利E1式    |
| 第133図<br>59<br>図版106-59 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部中位<br>破片  | 厚0.9       | 外傾して広がる体部/下部は内折して上位は外反する口縁部   | 口唇部上位は無文/横位沈線を複数本施文/上端沈線に交互刺突文を付し蛇行文状に成形/下端沈線間の一部に隆帯を波状に付す   | 明褐/砂粒多量、礫少量    | 加曾利E1式    |
| 第133図<br>60<br>図版106-60 | 浅鉢       | 口縁部下<br>～体部上位<br>破片 | 厚1.2       | 外傾して広がる体部上位/内湾する口縁部           | 幅広の沈線による交互沈線文/平行沈線による長方形の区画文/区画内横位沈線を充填、上端・下端・中央の沈線に沿ってU字状の刺突文施文、中央に1ヶ所交互刺突文施文   | にぶい黄褐/砂粒中量、礫少量 | 加曾利E1式    |
| 第133図<br>61<br>図版106-61 | 浅鉢       | 口縁部～<br>体部<br>破片    | 厚0.9       | 外傾して広がる体部/やや内湾する口縁部/口唇部は内側に肥厚 | 残存部無文/内外面に少量の赤色顔料が見られる   | 橙/砂粒少量、礫微量     | 加曾利E1式    |
| 第134図<br>62<br>図版106-62 | 浅鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚1.4       | ほぼ直立する口縁部                     | 残存部無文/口唇部・内面に赤色顔料残存  | 黒褐/砂粒・礫微量      | 中期中葉～後葉   |
| 第134図<br>63<br>図版106-63 | 浅鉢       | 体部<br>破片            | 厚0.8       | 内湾する体部                        | 残存部無文/内外面に赤色顔料残存、外面は波状の文様か   | 黒/砂粒中量、礫微量     | 中期中葉～後葉   |
| 第134図<br>64<br>図版106-64 | 浅鉢       | 体部<br>破片            | 厚1.0       | 下部は外傾斜し上位はやや内湾する体部            | 残存部無文/内外面に赤色顔料残存   | 黒褐/砂粒・礫微量      | 中期中葉～後葉   |
| 第134図<br>65<br>図版106-65 | 浅鉢       | 体部<br>破片            | 厚0.9       | 外傾して広がる体部                     | 残存部無文/内面に赤色顔料による直線状の文様   | にぶい黄褐/砂粒中量、礫微量 | 中期中葉～後葉   |

第55表 118号住居跡出土土器一覧4

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号            | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態  | 法量<br>(cm) | 器形・形態                 | 文様・特徴                          | 胎土             | 時期<br>型式 |
|-------------------------|----------|-------------|------------|-----------------------|--------------------------------|----------------|----------|
| 第134図<br>66<br>図版106-66 | 浅鉢       | 体部<br>破片    | 厚0.8       | 外傾する体部                | 残存部無文 / 内面に赤色顔料残存              | 褐 / 砂粒少量、礫微量   | 中期中葉～後葉  |
| 第134図<br>67<br>図版106-67 | ミニチュア土器  | 胴部～底部<br>破片 | 厚0.8       | やや内湾して立ち上がる胴部 / 平坦な底部 | 沈線による区画文 / 区画内横位沈線充填           | 褐 / 砂粒・礫微量     | 勝坂2式     |
| 第134図<br>68<br>図版106-68 | ミニチュア土器  | 胴部<br>破片    | 厚0.5       | 上位は括れ下位は内湾する胴部        | 地文は単節LR / 平行沈線が垂下 / 沈線による弧状の文様 | にぶい黄褐 / 砂粒・礫微量 | 加曾利E式か   |

第55表 118号住居跡出土土器一覧5

| 挿図番号<br>図版番号        | 種別   | 遺存状態 | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴  | 胎土                 | 時期<br>型式     |
|---------------------|------|------|---------------------|-----------|---|--------------------|--------------|
| 第134図69<br>図版107-69 | 土器片鍾 | 完形   | 5.8/4.6/1.0         | 40.5      | 不整形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 弧状の隆帯に3本の条線が沿う                        | 黒褐 / 砂粒・礫微量 / 雲母中量 | 阿玉台Ⅱ式        |
| 第134図70<br>図版107-70 | 土器片鍾 | 完形   | 4.6/4.6/1.4         | 45.4      | 方形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 口縁部片利用 / 隆帯に2列の三角押文が沿う                         | 赤褐 / 砂粒・礫微量        | 勝坂1b式        |
| 第134図71<br>図版107-71 | 土器片鍾 | 70%  | [4.8]/5.0/1.1       | 32.9      | 楕円形か / 袂部は1ヶ所残存 / 周縁は磨耗が未発達 / 底部片利用 / 隆帯に幅広の角押文が沿う、爪形文か                 | にぶい期褐 / 砂粒・礫微量     | 勝坂2式         |
| 第134図72<br>図版107-72 | 土器片鍾 | 完形   | 3.7/3.0/0.8         | 15.2      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 押圧文に波状沈線が沿う / 直状の沈線                    | 明褐 / 砂粒少量、礫微量      | 勝坂2～3式       |
| 第134図73<br>図版107-73 | 土器片鍾 | 完形   | 5.1/4.5/0.9         | 25.4      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 押圧文を付した弧状の隆帯 / 平行沈線による文様か             | 明黄褐 / 砂粒多量、礫微量     | 勝坂3式         |
| 第134図74<br>図版107-74 | 土器片鍾 | 完形   | 4.6/4.2/1.7         | 44.6      | 方形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 半截竹管状工具の背面を斜めに突き刺した刺突文 / 右側面に1本沈線が見られる | 灰黄褐 / 砂粒・礫微量       | 勝坂3式         |
| 第134図75<br>図版107-75 | 土器片鍾 | 完形   | 3.7/3.2/1.1         | 17.4      | 円形か / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 押圧文が2列                                | 灰黄褐 / 砂粒・礫微量       | 勝坂3式         |
| 第134図76<br>図版107-76 | 土器片鍾 | 80%  | 4.3/4.4/0.9         | 23.3      | 方形か / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 単節LRか / 押圧文を付した直状の隆帯 / 沈線による文様        | 黒褐 / 砂粒中量、礫微量      | 勝坂3式         |
| 第134図77<br>図版107-77 | 土器片鍾 | 90%  | 7.2/6.4/0.9         | 63        | 方形 / 袂部は1ヶ所残存 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 単節RL / 押圧文を付した直状の隆帯                   | 暗褐 / 砂粒・礫微量        | 勝坂3式         |
| 第134図78<br>図版107-78 | 土器片鍾 | 90%  | 5.4/4.3/1.1         | 35        | 方形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は磨耗が未発達 / 胴部片利用 / 押圧文と交互刺突文を付した直状の隆帯                    | にぶい黄褐 / 砂粒多量、礫微量   | 勝坂3式         |
| 第134図79<br>図版107-79 | 土器片鍾 | 40%  | [6.1]/[3.3]/0.9     | 22.7      | 方形か / 袂部は1ヶ所残存 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 平行沈線による区画か、半截竹管状工具の腹面による平行沈線を充填      | 橙 / 砂粒少量、礫微量       | 勝坂3式         |
| 第134図80<br>図版107-80 | 土器片鍾 | 80%  | 3.6/3.7/1.2         | 21.4      | 方形か / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 0段多条RL                                | にぶい黄褐 / 砂粒少量、礫微量   | 勝坂3式         |
| 第134図81<br>図版107-81 | 土器片鍾 | 90%  | [3.9]/3.8/0.9       | 18.4      | 方形か / 袂部は2ヶ所残存 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 擦糸L / 直状の沈線、沈線間磨消か                   | 明褐 / 砂粒少量、礫微量      | 加曾利E式        |
| 第134図82<br>図版107-82 | 土器片鍾 | 完形   | 5.3/3.6/1.0         | 28        | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無節L/2本の沈線                              | にぶい黄褐 / 砂粒少量、礫微量   | 加曾利E式または連弧文か |
| 第134図83<br>図版107-83 | 土器片鍾 | 完形   | 4.1/3.0/1.0         | 16.3      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 単節RL / 紐状の隆帯を波状に貼付                    | 褐 / 砂粒少量、礫微量       | 曾利Ⅱ式         |
| 第134図84<br>図版107-84 | 土器片鍾 | 70%  | [3.3]/3.5/0.9       | 14.9      | 方形か / 袂部は3ヶ所残存、元は4ヶ所か / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 地文は単節RL/2本1対の沈線による弧状文         | 灰黄褐 / 砂粒・礫微量       | 連弧文か         |
| 第134図85<br>図版107-85 | 土器片鍾 | 完形   | 4.4/3.8/1.4         | 32        | 方形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 2本1対の直状の隆帯 / 僅かに押圧文が見られる               | にぶい黄褐 / 砂粒中量、礫微量   | 中期中葉～後葉      |
| 第134図86<br>図版107-86 | 土器片鍾 | 90%  | 3.9/3.0/0.8         | 13.5      | 方形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 単節RL                                   | 褐 / 砂粒・礫微量         | 中期中葉～後葉      |
| 第134図87<br>図版107-87 | 土器片鍾 | 90%  | 4.0/2.8/1.2         | 19        | 方形 / 袂部は1ヶ所残存 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 単節RL                                  | 明褐 / 砂粒・礫少量        | 中期中葉～後葉      |
| 第134図88<br>図版107-88 | 土器片鍾 | 80%  | 3.4/[2.7]/0.9       | 12.5      | 方形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は磨耗が未発達 / 胴部片利用 / 擦糸L                                   | 黒褐 / 砂粒・礫微量        | 中期中葉～後葉      |
| 第134図89<br>図版107-89 | 土器片鍾 | 完形   | 4.7/3.9/0.8         | 22.6      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 擦糸L                                   | にぶい褐 / 砂粒・礫微量      | 中期中葉～後葉      |
| 第134図90<br>図版107-90 | 土器片鍾 | 完形   | 8.8/5.6/0.9         | 78.6      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文 / 赤色顔料が微量に残存                        | にぶい黄橙 / 砂粒中量、礫微量   | 中期中葉～後葉      |
| 第134図91<br>図版107-91 | 土器片鍾 | 完形   | 7.7/5.1/0.9         | 50.9      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文 / 赤色顔料が多く残存                         | にぶい黄橙 / 砂粒中量、礫微量   | 中期中葉～後葉      |
| 第134図92<br>図版107-92 | 土器片鍾 | 完形   | 4.4/3.6/1.0         | 24.8      | 楕円形 / 袂部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片利用 / 無文                                     | 暗褐 / 砂粒少量、礫微量      | 中期中葉～後葉      |

第56表 118号住居跡出土土製品一覧1



| 挿図番号<br>図版番号          | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴  | 胎土                         | 時期<br>型式    |
|-----------------------|----------|----------|---------------------|-----------|---|----------------------------|-------------|
| 第134図93<br>図版107-93   | 土器<br>片鉢 | 完形       | 5.0/3.6/1.1         | 29.1      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁の磨耗は未発達 / 胴部片利用 / 無文                      | 黒褐 / 砂粒中量、<br>礫微量、雲母中<br>量 | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第134図94<br>図版107-94   | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.8/2.3/1.3         | 25.7      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は一部磨耗 / 口縁部片利用 / 無文                       | にぶい黄褐 / 砂<br>粒・礫微量         | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第134図95<br>図版107-95   | 土器<br>片鉢 | 完形       | 5.0/2.7/1.3         | 20.6      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁の磨耗は未発達 / 口縁部片利用 / 無<br>文                 | 黒褐 / 砂粒・礫<br>微量            | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第134図96<br>図版107-96   | 土器<br>片鉢 | 完形       | 2.7/2.5/1.1         | 10.7      | 楕円形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 無文                      | 橙 / 砂粒・礫微<br>量             | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第134図97<br>図版107-97   | 土器<br>片鉢 | 70%      | [7.0]/5.5/1.3       | 75.9      | 方形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は顕著に磨耗 / 口縁部片利用 /<br>無文                 | 黒褐 / 砂粒・礫<br>微量 / 雲母少量     | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第134図98<br>図版107-98   | 土器<br>片鉢 | 50%      | [7.1]/[8.3]/1.1     | 82.4      | 円形か / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 /<br>無文                 | 明褐 / 砂粒微量、<br>礫少量、雲母中<br>量 | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図99<br>図版107-99   | 土器<br>片鉢 | 50%      | [4.1]/6.1/1.7       | 44.6      | 方形か / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁の磨耗は未発達 / 底部片利用<br>/ 網代痕無し             | 明褐 / 砂粒・礫<br>微量、雲母多量       | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図100<br>図版107-100 | 土器<br>片鉢 | 90%      | 4.8/3.1/1.5         | 27.7      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁はごく一部磨耗 / 口縁部片利用 / 無<br>文                 | 黒 / 砂粒中量、<br>礫微量           | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図101<br>図版107-101 | 土器<br>片鉢 | 70%      | 5.4/[3.1]/1.0       | 23.9      | 方形か / 挾部は2ヶ所 / 周縁の磨耗は未発達 / 胴部片利用 / 無<br>文                 | にぶい黄橙 / 砂<br>粒少量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図102<br>図版107-102 | 土器<br>片鉢 | 60%      | [3.8]/3.7/0.9       | 16.9      | 方形か / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 /<br>無文                 | 黒褐 / 砂粒少量・<br>礫微量          | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図103<br>図版107-103 | 土器<br>片鉢 | 80%      | [4.4]/3.6/1.4       | 27.5      | 不整形 / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁はごく一部磨耗 / 底部片利用<br>/ 無文                | 黒褐 / 砂粒少量、<br>礫微量          | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図104<br>図版107-104 | 土器<br>片鉢 | 30%      | [4.0]/[3.6]/1.0     | 21.4      | 円形か / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片を利用<br>/ 無文                | にぶい黄褐 / 砂<br>粒少量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図105<br>図版107-105 | 土器<br>片鉢 | 50%      | [3.3]/4.5/1.8       | 31.2      | 方形か / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁の磨耗は未発達 / 口縁部片利<br>用 / 無文              | にぶい黄褐 / 砂<br>粒中量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図106<br>図版107-106 | 土器<br>片鉢 | 60%      | [3.4]/4.6/0.8       | 12.5      | 円形か / 挾部は1ヶ所残存 / 周縁は磨耗が未発達 / 底部片利用<br>/ 無文                | 黒褐 / 砂粒・礫<br>微量            | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図107<br>図版107-107 | 土器<br>片鉢 | 30%      | [2.4]/4.5/0.8       | 11.7      | 円形か / 挾部は1ヶ所 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 無文                      | 黒 / 砂粒少量、<br>礫微量           | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第135図108<br>図版107-108 | 土製<br>円盤 | 完形       | 6.5/5.6/1.3         | 85.6      | 不整形 / 周縁は一部磨耗 / 胴部片を利用 / 撚糸L/103J-19と同<br>一単位か、胎土が非常に良く似る | 灰黄褐 / 砂粒・<br>礫微量           | 加曾利<br>E1a式 |
| 第135図109<br>図版107-109 | 土製<br>円盤 | 完形       | 8.2/6.2/0.9         | 73.2      | 不整形 / 周縁は顕著に磨耗 / 胴部片利用 / 無文 / 上端に隆帯の<br>様な痕跡              | にぶい期褐 / 砂<br>粒中量、礫微量       | 中期中葉<br>～後葉 |

第56表 118号住居跡出土土製品一覧2

| 挿図番号<br>図版番号          | 器種   | 石材          | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴  |
|-----------------------|------|-------------|--------|-------|--------|-------|---|
| 第135図110<br>図版108-110 | 石鏃   | 黒曜石         | 17.7   | 20.6  | 6.5    | 1.7   | 凹基無茎 / 側縁は直線状で鋸歯縁 / 扱りは浅く弧状 / 先端部欠<br>損   |
| 第135図111<br>図版108-111 | 楔形石器 | 黒曜石         | 13.7   | 11.8  | 5.7    | 0.8   | 上下に両極剥離が認められる   |
| 第135図112<br>図版108-112 | 打製石斧 | ホルン<br>フェルス | 66.1   | 42.3  | 13.8   | 50.3  | 短冊形 / 基部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認め<br>られる / 両側縁の潰れは不明瞭である   |
| 第135図113<br>図版108-113 | 打製石斧 | 砂岩          | 84.3   | 45.3  | 18.2   | 88.9  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 裏面は原礫面が広く残存<br>し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁のほぼ全面の稜上<br>に潰れが認められる / 右側縁もほぼ全面の稜上に潰れが認めら<br>れ、上部の一部は面状になっている                        |
| 第135図114<br>図版108-114 | 打製石斧 | 緑色凝灰<br>岩   | 85.3   | 43.8  | 24.6   | 134.2 | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 裏面は原礫面が広く残存<br>し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁に敲打剥離が認め<br>られる / 左側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、上部は面<br>状になっている / 右側縁もほぼ全面の稜上に潰れが認められる          |
| 第135図115<br>図版108-115 | 打製石斧 | 砂岩          | 89.8   | 48.5  | 29.9   | 140.1 | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 裏面は原礫面が広く残存<br>し、両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁のほぼ全面の稜上<br>に潰れが認められ、中央部は面状になっている / 右側縁もほぼ<br>全面の稜上に潰れが認められる                          |
| 第135図116<br>図版108-116 | 打製石斧 | 緑泥片岩        | 114.3  | 62.0  | 19.0   | 212.2 | 短冊形 / 基部は一部折れて欠損している / 表面は原礫面が広く<br>残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁に敲打剥離が<br>認められる / 左側縁の中央部から下部の稜上に潰れが認めら<br>れ、中央部から下部は面状になっている / 右側縁は上部に潰れ<br>が認められる |
| 第135図117<br>図版108-117 | 打製石斧 | 砂岩          | 84.7   | 39.5  | 16.3   | 58.1  | 短冊形 / 表面中央部から下部に原礫面が残存し、両側縁に敲打<br>剥離が認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが認められる  |

第57表 118号住居跡出土石器一覧1



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号            | 器種     | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴  |
|-------------------------|--------|---------|--------|-------|--------|--------|---|
| 第135図118<br>図版108-118   | 打製石斧   | 頁岩      | 75.3   | 36.4  | 9.6    | 31.7   | 撥形/両側縁ともに大半は欠損している/表面が原礫面が広く残存し、右側縁に僅かに敲打剥離が認められる/潰れも右側縁に僅かに認められる             |
| 第135図119<br>図版108-119   | 打製石斧   | 頁岩      | 68.8   | 44.8  | 12.5   | 44.2   | 撥形/刃部は折れて欠損している/両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の潰れは不明瞭である                                  |
| 第135図120<br>図版108-120   | 打製石斧   | 砂岩      | 75.1   | 52.5  | 21.0   | 124.9  | 撥形/基部は折れて欠損している/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、一部は面状になっている   |
| 第135図121<br>図版108-121   | 打製石斧   | 砂岩      | 189.9  | 64.0  | 38.7   | 524.6  | 撥形/左側縁に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる                            |
| 第136図122<br>図版108-122   | 打製石斧   | 砂岩      | 102.9  | 47.1  | 17.0   | 95.4   | 撥形/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の中央部の稜上に潰れが認められる                            |
| 第136図123<br>図版108-123   | 打製石斧   | ホルンフェルス | 64.2   | 51.5  | 16.7   | 63.8   | 撥形/基部は折れて欠損している/両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の中央部の稜上に潰れが認められる/右側縁の潰れは不明瞭である              |
| 第136図124<br>図版109-124   | 打製石斧   | ホルンフェルス | 92.4   | 56.6  | 19.1   | 111.0  | 撥形/両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の潰れは不明瞭である   |
| 第136図125<br>図版109-125   | 打製石斧   | 頁岩      | 98.5   | 57.7  | 15.8   | 124.2  | 撥形/表面刃部が磨滅している/両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の上部の稜上に潰れが認められる                              |
| 第136図126<br>図版109-126   | 打製石斧   | 砂岩      | 104.5  | 56.6  | 31.0   | 218.3  | 撥形/刃部は折れて欠損している/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の中央部の稜上に潰れが認められ、中央部は面状になっている   |
| 第136図127<br>図版109-127   | 打製石斧   | 砂岩      | 114.8  | 55.9  | 22.7   | 156.0  | 撥形/左側縁に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の潰れは不明瞭である/右側縁は上部から中央部にかけて潰れが認められる           |
| 第136図128<br>図版109-128   | 打製石斧   | ホルンフェルス | 107.1  | 65.2  | 17.3   | 131.1  | 撥形/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の潰れは不明瞭である                                  |
| 第136図129<br>図版109-129   | 打製石斧   | 頁岩      | 64.0   | 26.6  | 11.4   | 23.0   | 平面形状は不明/右半のみ残存/右側縁に敲打剥離が認められる/右側縁の中央部の稜上に局所的に潰れが僅かに認められる                      |
| 第136図130<br>図版109-130   | 打製石斧   | 片状砂岩    | 56.0   | 42.9  | 16.9   | 53.0   | 平面形状は不明/基部のみ残存/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の潰れは不明瞭である/右側縁はほぼ全面の稜上に潰れが認められる |
| 第136図131<br>図版109-131   | 打製石斧   | ホルンフェルス | 62.9   | 55.9  | 15.6   | 63.5   | 平面形状は不明/基部のみ残存/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁ともに稜上に局所的に潰れが僅かに認められる           |
| 第136図132<br>図版109-132   | 打製石斧   | ホルンフェルス | 46.4   | 33.3  | 14.2   | 25.1   | 平面形状は不明/刃部のみ残存/両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の一部の稜上に潰れが認められる                              |
| 第136図133<br>図版109-133   | 打製石斧   | 砂岩      | 53.1   | 55.2  | 17.4   | 52.3   | 平面形状は不明/刃部のみ残存/表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の一部の稜上に潰れが認められる/右側縁は潰れが認められない   |
| 第136図134<br>図版109-134   | 磨製石斧   | 緑色凝灰岩   | 79.6   | 55.6  | 43.0   | 252.2  | 刃部のみ残存/体部は表裏面ともに全面研磨面に覆われている  |
| 第137図135<br>図版109-135   | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 18.3   | 19.3  | 4.7    | 1.2    | 裏面側両側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第137図136<br>図版109-136   | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 18.6   | 28.6  | 3.9    | 2.4    | 表面側上端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第137図137<br>図版109-137   | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 28.8   | 21.9  | 10.0   | 5.6    | 裏面側左側縁や下端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第137図138<br>図版109-138   | 二次加工剥片 | 片状砂岩    | 81.1   | 57.4  | 12.3   | 62.0   | 両面側上端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第137図139<br>図版109-139   | 磨+凹石   | 絹雲母片岩   | 55.9   | 58.4  | 13.9   | 66.1   | 表面に磨痕/回転による円錐形の凹みが表面に1ヶ所みられ、磨痕の前段階  |
| 第137図140<br>図版110-1-140 | 石皿     | 安山岩     | 173.8  | 223.3 | 131.1  | 6755.0 | 扁平石皿/表面の一部に使用面らしき磨痕が認められる/一部がすすに覆われており、被熱の可能性ある                               |
| 第137図141<br>図版110-1-141 | 石皿     | 閃緑岩     | 177.1  | 197.2 | 142.8  | 6635.0 | 扁平石皿/表面に平坦な使用面  |

第57表 118号住居跡出土石器一覧2

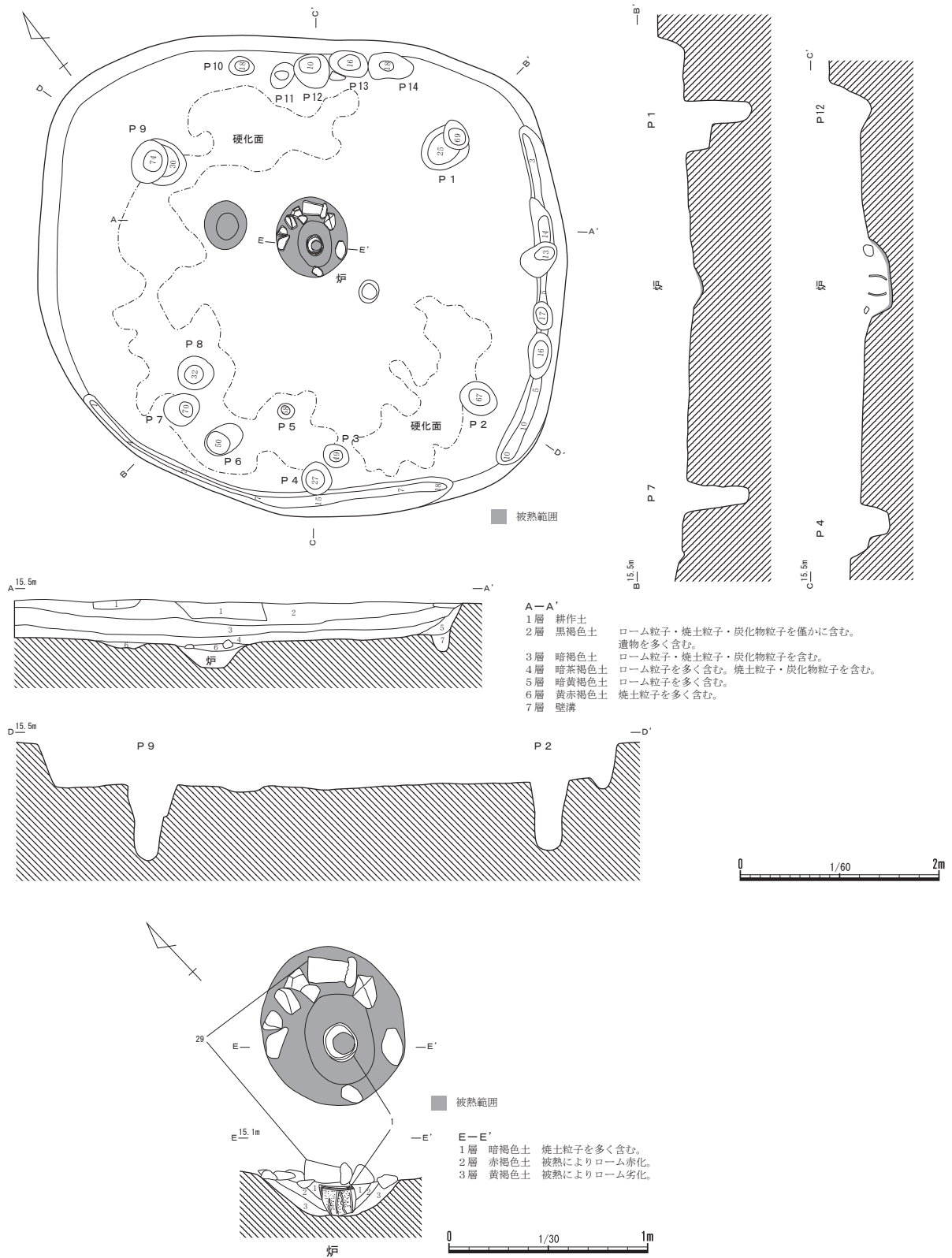
119号住居跡

遺構(第138図)

[位置] (D-5) グリッド。

[検出状況] 117・118 Jを切る。

[構造] 平面形：隅丸方形。主軸方位：N-38°-E。P2とP7の中間と炉の中心を通るライン



第138図 119号住居跡・炉 (1/30・1/60)

を主軸と捉えた。規模：長軸 533cm / 短軸 481cm / 深さ 24 ~ 44cm。壁溝：1 条検出されたが、北側半分については確認できなかった。上幅 8 ~ 31cm / 下幅 4 ~ 10cm / 床面からの深さ 1 ~ 18cm。壁：約 64 ~ 82° でやや急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦であるが、中央部分がわずかに低くなる。炉の北西側に被熱範囲が認められる。直床である。炉：石囲埋甕炉。主に北東側に半円状に石が配置される。深鉢形土器の口縁部（第 139 図 1）、石棒（第 141 図 29）が埋設されている。長軸 80cm / 短軸 72cm / 床面からの深さ 27cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：14 本検出した。P 1、P 2、P 7、P 9 を支柱穴ととらえ、4 本柱建物を想定する。

[覆 土] 5 層に分層できた。

[遺 物] 土器、土製品、石器、骨片が出土した。炉体土器（第 139 図 1）が出土している。深鉢形土器（第 140 図 14）は 117 J 出土の破片との遺構間接合、深鉢形土器（第 140 図 16）は 117 J、118 J 出土の破片と同一個体の可能性がある。炉体土器と共に石棒（第 141 図 29）、骨片（図版 112）が出土している。

[時 期] 中期後葉期（加曽利 E 2 c 式期）。

**遺 物**（第 139 ~ 141 図、図版 110 - 2 ~ 112、第 58 ~ 60 表）

[土 器]（第 139 図・第 140 図 4 ~ 17、図版 110 - 2・111、第 58 表）

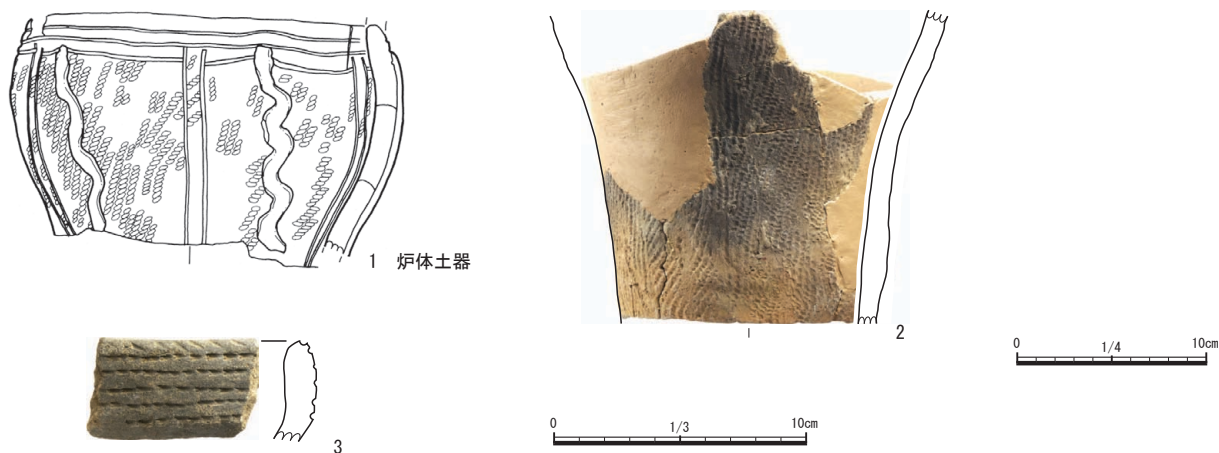
復元資料を 2 点、破片資料 15 点を図示した。1 は炉体土器で、加曽利 E 2 c 式の深鉢形土器である。縄文を地文とし、胴部には波状隆帯と直状の沈線が垂下する。内面の器面は非常に荒れており、口縁部も偽口縁の可能性がある。2 は勝坂 3 式と思われる深鉢形土器である。地文以外の文様は見られない。3 は阿玉台式、4 ~ 7 は勝坂式、8 ~ 13 は加曽利 E 式、14 ~ 16 は連弧文土器の深鉢形土器である。14 は 117 J との遺構間接合で、16 は 117 J 1、118 J 20 と同一個体の可能性がある。17 は加曽利 E 式の浅鉢形土器と思われる。

[土 製 品]（第 140 図 18、図版 111、第 59 表）

1 点を図示した。18 は土器片錘である。

[石 器]（第 141 図、図版 111 ~ 112、第 60 表）

11 点を図示した。19 は楔形石器である。20 ~ 24 は打製石斧である。25 は磨製石斧である。26 ~ 28 は二次加工剥片ある。29 は石棒であり、石囲炉の炉石として転用された可能性がある。

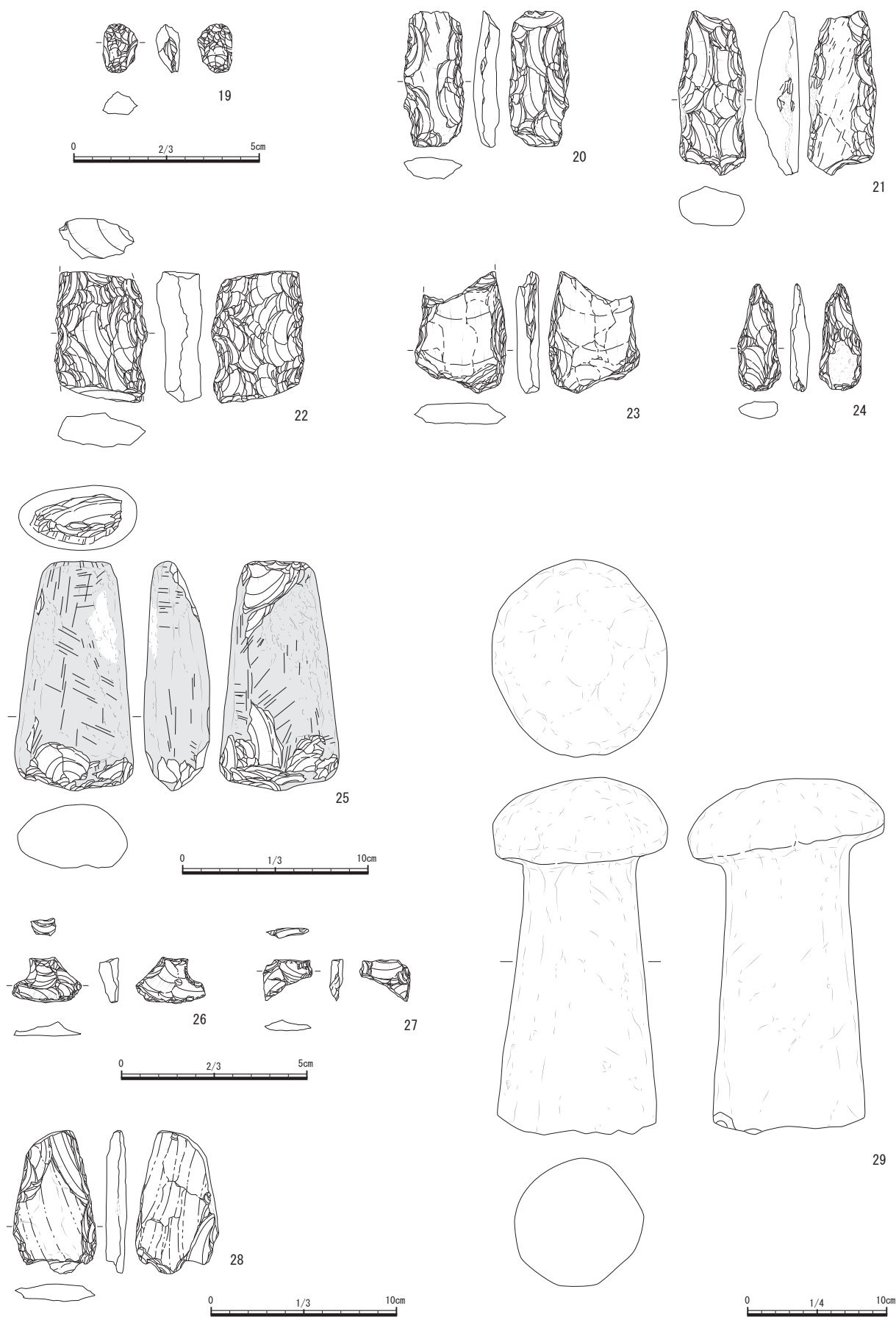


第 139 図 119 号住居跡出土遺物 1（1 / 4・1 / 3）



第140図 119号住居跡出土遺物2 (1/3)





第 141 図 119 号住居跡出土遺物 3 (1/4・1/3・2/3)

| 挿図番号<br>図版番号        | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態           | 法量<br>(cm)                  | 器形・形態                          | 文様・特徴  | 胎土              | 時期<br>型式    |
|---------------------|----------|----------------------|-----------------------------|--------------------------------|--|-----------------|-------------|
| 第139図1<br>図版110-2-1 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部中位<br>100% | 高 [12.8]<br>口 17.5<br>厚 1.1 | 括れる胴部 / 内湾する口縁部                | 地文は単節 RL 縦位 / 口縁上部に 3 本 1 対の沈線が横走 / 1 本の波状隆帯 6 単位と 2 本 1 対の直状の沈線 6 単位が交互に垂下 / 隆帯断面扁平な角状、押し付けて貼付 / 地文→隆帯貼付 / 内面器面は下位に比べ上位は非常に荒れている / 偽口縁の可能性あり / 炉体土器 | 明赤褐 / 砂粒中量、礫微量  | 加曾利 E2c 式   |
| 第139図2<br>図版110-2-2 | 深鉢       | 胴部中位<br>40%          | 高 [16.7]<br>厚 1.0           | 下位はやや内湾し上位は括れ内湾する胴部            | 地文は単節 RL 縦位・斜位   | 橙～黒褐 / 砂粒少量、礫微量 | 勝坂 3 式か     |
| 第139図3<br>図版110-2-3 | 深鉢       | 口縁部<br>破片            | 厚 0.9                       | やや内湾する口縁部                      | 口唇部に押圧文施文 / 結節沈線文を横位に 5 列施文、工具の先端はやや斜位   | 黒褐 / 砂粒少量、礫微量   | 阿玉台 I b 式   |
| 第140図4<br>図版110-2-4 | 深鉢       | 把手部<br>破片            | -                           | 眼鏡状把手                          | 縁の一部に押圧文施文 / 左側内側に沈線による円形文を正方形で囲んだ文様・円形文周囲を押圧文で充填  | 明褐 / 砂粒少量・礫微量   | 勝坂 2～3 式    |
| 第140図5<br>図版110-2-5 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片   | 厚 1.1                       | 内湾する胴部上位 / 外傾する口縁部 / 口唇部は内側に肥厚 | 口縁部無文 / 口縁部と文様帯を横位 1 本の沈線で画す / 縦位沈線列、沈線間押圧文充填・交互刺突文施文  | 暗褐 / 砂粒少量・礫微量   | 勝坂 3a 式     |
| 第140図6<br>図版110-2-6 | 深鉢       | 胴部<br>破片             | 厚 1.0                       | やや外傾する胴部                       | 押圧文を付した隆帯を斜位に貼付、区画文の一部か / 沈線による円形の文様・刺突文・交互刺突文 / 隆帯断面台形状、隆帯脇 1 本の単沈線が沿う  | 橙 / 砂粒中量、礫微量    | 勝坂 3b 式     |
| 第140図7<br>図版110-2-7 | 深鉢       | 口縁部付<br>近～頸部         | 厚 1.0                       | 内湾する口縁部 / ほぼ直立する頸部             | 口縁部無文 / 頸部に押圧文を付した 1 本の隆帯が横走 / 2 本 1 対の沈線は楕円状となると思われる / 隆帯断面台形状、隆帯脇 1 本の単沈線が沿う   | 褐 / 砂粒中量、礫微量    | 勝坂 3 式      |
| 第140図8<br>図版110-2-8 | 深鉢       | 口縁部付<br>破片           | 厚 0.9                       | 内湾する口縁部付近                      | 沈線による渦巻文   | 明赤褐 / 砂粒中量、礫微量  | 加曾利 E1b 式   |
| 第140図9<br>図版110-2-9 | 深鉢       | 口縁部<br>破片            | 厚 0.9                       | 内湾する口縁部 / 外傾する突起部              | 突起部に沈線による渦巻文 / 隆帯による口縁部区画 / 口縁部区画内縦位沈線充填 / 区画内に 2 本の隆帯による文様貼付 / 隆帯断面台形   | 暗褐 / 砂粒少量・礫微量   | 加曾利 E1～2 式  |
| 第140図<br>図版111-10   | 深鉢       | 胴部<br>破片             | 厚 1.2                       | やや外傾する胴部                       | 地文は縦位条線文 / 3 本 1 対の直状の沈線が垂下  | 赤褐 / 砂粒多量、礫少量   | 加曾利 E2c 式   |
| 第140図<br>図版111-11   | 深鉢       | 口縁部<br>破片            | 厚 1.1                       | 直立する口縁部                        | 地文は単節 LR 横位か、不明瞭 / 隆帯による口縁部区画、上端 1 本、下端欠損 / 隆帯による渦巻文 / 隆帯断面台形状   | 褐 / 砂粒少量・礫微量    | 加曾利 E2 式    |
| 第140図<br>図版111-12   | 深鉢       | 口縁部<br>破片            | 厚 0.8                       | 内湾する口縁部                        | 地文は単節 RL 縦位 / 隆帯による口縁部区画 / 隆帯による渦巻文 / 隆帯断面角状・カマボコ状   | 暗褐 / 砂粒少量、礫微量   | 加曾利 E3 式    |
| 第140図<br>図版111-13   | 深鉢       | 胴部<br>破片             | 厚 0.9                       | 外傾し上位がやや内湾する胴部                 | 地文は単節 LR 縦位 / 先端が弧状の縦位沈線、沈線内側無文  | にぶい黄橙 / 砂粒・礫微量  | 加曾利 E3c～4 式 |
| 第140図<br>図版111-14   | 深鉢       | 胴部中位<br>破片           | 厚 0.9                       | 括れる胴部                          | 地文は縦位条線文 / 括れ部に 3～4 本の沈線が横走、上端の 1 本は上位にハの字状の副文様に繋がる / 下端に 3 本 1 対の沈線による波状文、上端の 1 本はハ字状の副文様に繋がる / 117J と 119J との遺構間接合                                 | 暗褐 / 砂粒中量、礫少量   | 連弧文 2b 段階   |
| 第140図<br>図版111-15   | 深鉢       | 口縁部<br>破片            | 厚 1.0                       | やや外傾する口縁部                      | 地文は RL 縦位 / 口縁部上位に 3 本 1 対の沈線が巡る / 2 本 1 対の沈線による連弧文  | 黒褐 / 砂粒・礫少量     | 連弧文         |
| 第140図<br>図版111-16   | 深鉢       | 口縁部<br>破片            | 厚 1.0                       | 外傾し上位はやや内湾する口縁部                | 地文は縦位条線文 / 2 列または 3 列の円形刺突文が口縁部に沿う、円形刺突文の無い部分あり / 胎土、円形刺突文の状態から 117J-1・118J-20 と同一個体の可能性がある  | 黒褐 / 砂粒・礫中量     | 連弧文の系統      |
| 第140図<br>図版111-17   | 浅鉢<br>か  | 口縁部付<br>近            | 厚 1.3                       | 内湾する口縁部付近                      | 地文は縦位条線文 / 横位隆帯の剥落痕があり、剥落痕下位は無文 / 沈線による楕円形の文様  | 橙 / 砂粒中量、礫微量    | 加曾利 E 式か    |

第 58 表 119 号住居跡出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号        | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴  | 胎土            | 時期<br>型式 |
|---------------------|----------|----------|---------------------|-----------|---|---------------|----------|
| 第140図18<br>図版111-18 | 土器<br>片錘 | 40%      | [3.0]/[2.9]/1.2     | 10        | 方形か / 缺部は 1ヶ所残存 / 周縁は部分的に磨耗 / 口縁部片利用 / 無文 | 暗褐 / 砂粒少量、礫微量 | 中期中葉～後葉  |

第 59 表 119 号住居跡出土土製品一覧

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号        | 器種     | 石材    | 長さ(mm) | 幅(mm)  | 厚さ(mm) | 重量(g)  | 特徴  |
|---------------------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|---|
| 第141図19<br>図版111-19 | 楔形石器   | 黒曜石   | 13.6   | 10.2   | 6.6    | 0.7    | 上下に両極剥離が認められる   |
| 第141図20<br>図版111-20 | 打製石斧   | 頁岩    | 74.0   | 33.4   | 13.6   | 38.3   | 短冊形 / 基部は折れて欠損している / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁に潰れはほとんどみられない                         |
| 第141図21<br>図版111-21 | 打製石斧   | 砂岩    | 88.3   | 37.5   | 23.6   | 91.8   | 撥形 / 刃部は折れて欠損している / 裏面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の中央部の稜上に潰れが認められ、中央部は面状になっている           |
| 第141図22<br>図版111-22 | 打製石斧   | 砂岩    | 71.7   | 51.3   | 24.6   | 109.2  | 平面形状は不明 / 体部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁に潰れはほとんどみられない  |
| 第141図23<br>図版111-23 | 打製石斧   | 絹雲母片岩 | 65.9   | 49.3   | 11.9   | 53.1   | 平面形状は不明 / 体部のみ残存 / 右側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の潰れの有無は欠損によって不明である / 右側縁に潰れはほとんどみられない                |
| 第141図24<br>図版111-24 | 打製石斧   | 緑泥片岩  | 58.1   | 23.2   | 10.5   | 17.3   | 平面形状は不明 / 体部のみ残存 / 左側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁に潰れはほとんどみられない / 右側縁は潰れの有無は欠損によって不明である                |
| 第141図25<br>図版111-25 | 磨製石斧   | 緑色凝灰岩 | 124.5  | 65.1   | 35.1   | 433.5  | 基部は敲打を伴う剥離によって調整される / 表裏面ともにほぼ全面研磨面に覆われている / 一部両側面に敲打が認められ、研磨痕の前段階                          |
| 第141図26<br>図版111-26 | 二次加工剥片 | 黒曜石   | 12.0   | 18.8   | 5.2    | 0.9    | 裏面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第141図27<br>図版111-27 | 二次加工剥片 | 黒曜石   | 11.2   | 13.6   | 3.8    | 0.4    | 裏面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第141図28<br>図版111-28 | 二次加工剥片 | 絹雲母片岩 | 76.7   | 44.3   | 11.4   | 45.9   | 表面側左側縁に不連続な二次的剥離が認められる  |
| 第141図29<br>図版112-29 | 石棒     | 安山岩   | 2675.4 | 1325.1 | 1492.1 | 5035.0 | 有頭 / 下半は折れて欠損している / 体部はほぼ全面研磨面に覆われている / 体部表面の一部にすずが附着しており、被熱の可能性はある / 炉内から出土 / 石囲炉の炉石として転用か |

第60表 119号住居跡出土石器一覧

120号住居跡

**遺 構** (第142図)

[位置] (D・E-6) グリッド。

[検出状況] 南側半分が調査区外に伸びる。117 J に切られる。

[構造] 平面形：隅丸方形を呈すと思われる。主軸方位：N-50°-W。P2とP6の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸599cm / 短軸残存長321cm / 深さ155cm。壁溝：1条検出された。上幅16~39cm / 下幅4~14cm / 床面からの深さ2~9cm。壁：約69~78°でやや急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦であるが、中央部分がわずかに低くなる。直床である。炉：埋糞炉。楕円形で、断面はすり鉢状で段を有する。深鉢形土器の口縁部(第143図1)が埋設されている。長軸90cm / 短軸残存長87cm / 床面からの深さ36cm。埋糞：検出されなかった。柱穴：6本検出した。P1、P5、P6、未調査区である南側に1本を想定し、主柱穴ととらえると、4本柱建物と想定する。

[覆土] 6層に分層できた。

[遺物] 土器、土製品、石器が出土した。炉体土器(第143図1)が出土している。深鉢形土器(第144図16)は118 J 出土の破片と遺構間接合している。

[時期] 中期後葉期(加曾利E2c式 / 曾利Ⅲa式期)。

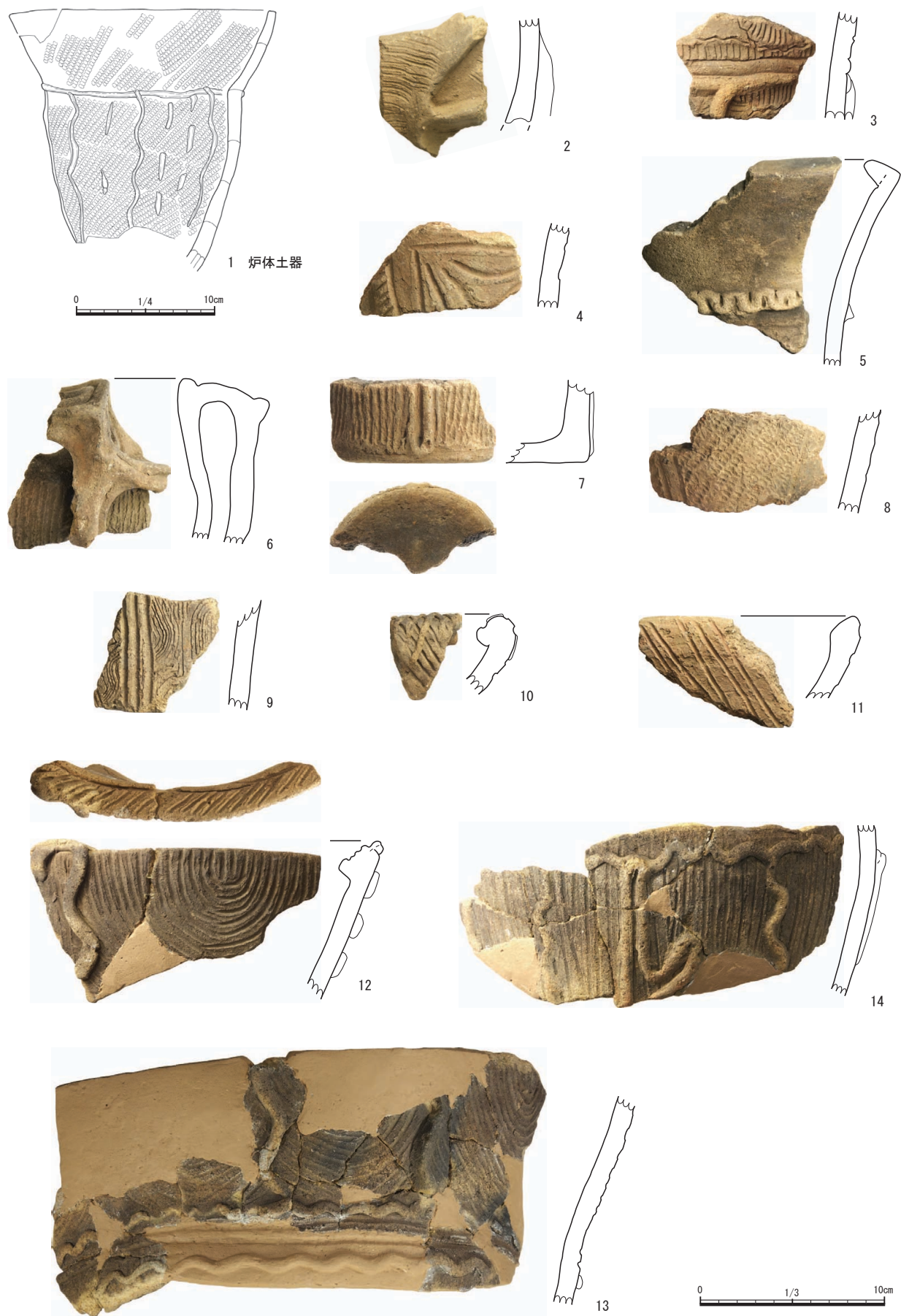
**遺 物** (第143~145図、図版113・114、第61~63表)

[土器] (第143図・第144図15~19、図版113・114、第61表)

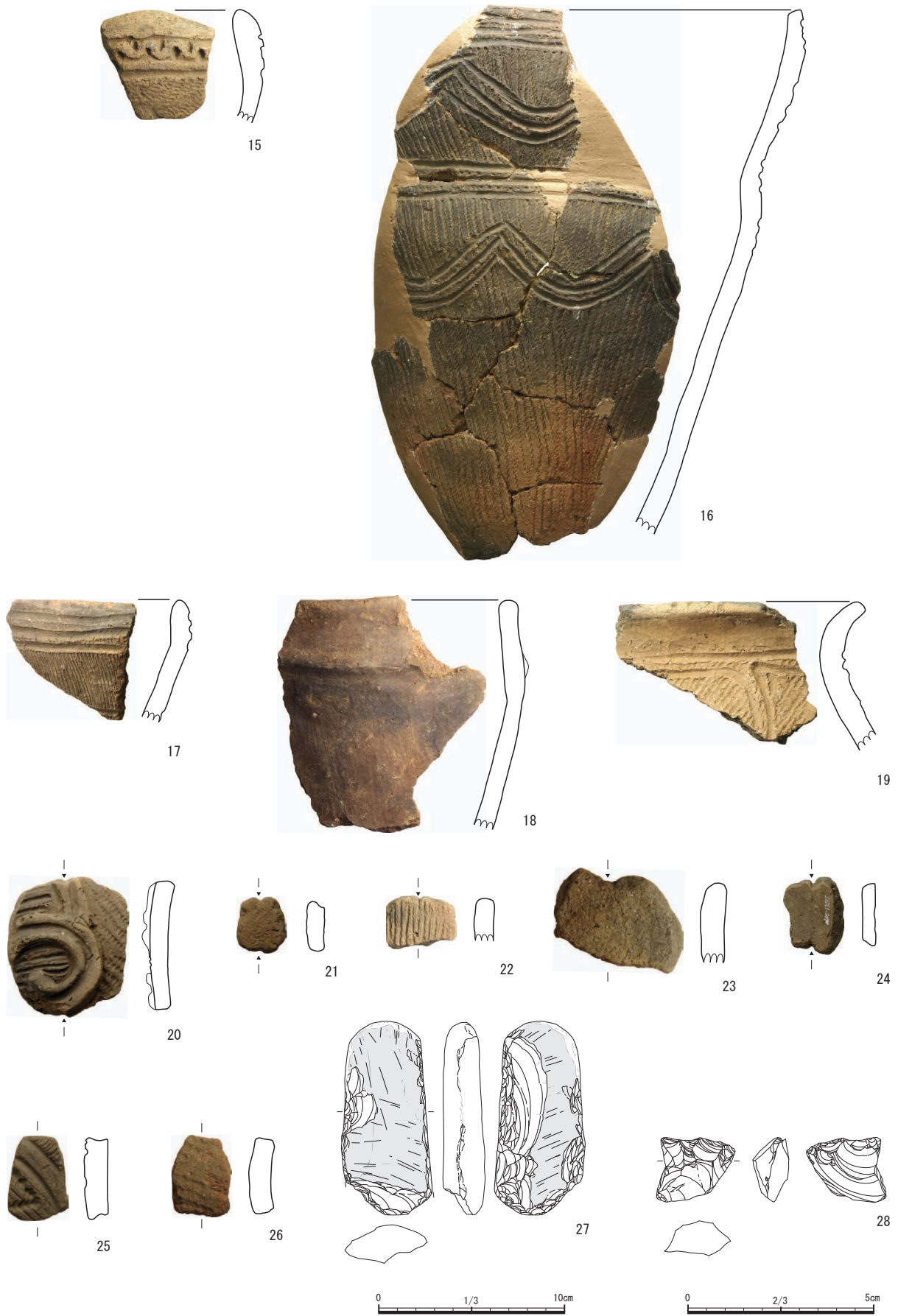
復元資料を1点、破片資料18点を図示した。1は炉体土器で、曾利Ⅲa式の深鉢形土器である。地文である縄文を全面に施文する。頸部に紐状の隆帯が波状に巡り、そこから胴部に隆帯が波状に垂下する。2は阿玉台式、3~5は勝坂式、6~9は加曾利E式、10~14は曾利式、15~17は連弧文土器、







第143図 120号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)



第144図 120号住居跡出土遺物2 (1/3・2/3)

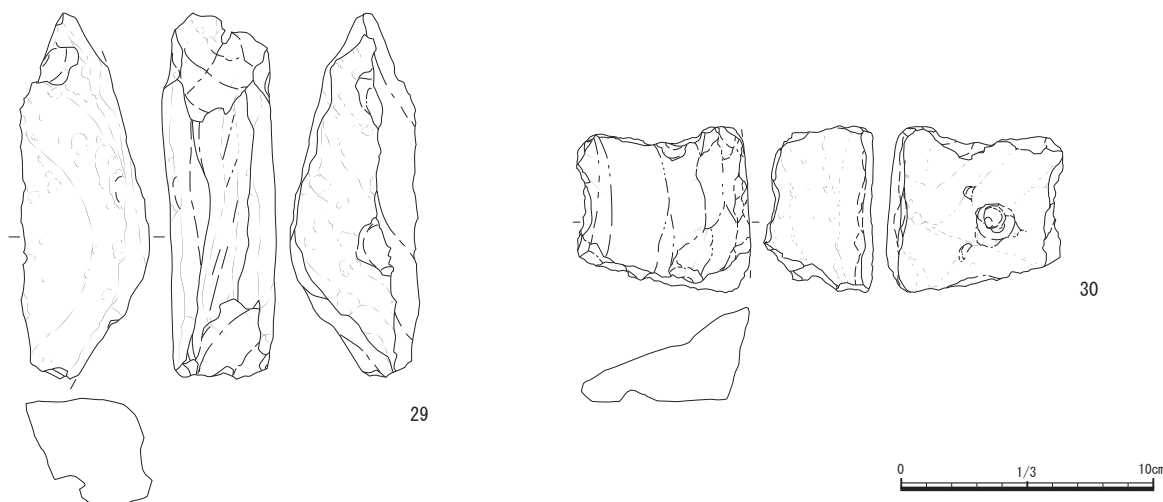
18は後期にあたると思われる土器の深鉢形土器である。12～14は同一個体で、16は118J出土の破片が遺構間接合している。19は加曾利E式の浅鉢形土器と思われる。

[土製品] (第144図20～26、図版114、第62表)

7点を図示した。20～24は土器片錘、25・26は土製円盤である。

[石器] (第144図27～28・第145図、図版114、第63表)

4点を図示した。27は打製石斧である。28は二次加工剥片である。29・30は石皿である。



第145図 120号住居跡出土遺物3 (1/3)

| 挿図番号<br>図版番号      | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                  | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土                        | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|---------------------|-----------------------------|--|--|---------------------------|-------------|
| 第143図1<br>図版113-1 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部付近<br>90% | 高 [18.6]<br>口 19.7<br>厚 1.0 | やや内湾しながら<br>外傾する胴部 / 括<br>れる頸部 / 内湾し<br>ながら外傾する口<br>縁部 / | 地文は単節 RL 縦位、全面に施文 / 頸部に1本の紐状の隆帯が巡る / 頸部から紐状の隆帯が波状に垂下 (10単位)、波状隆帯間に2本の破線状の隆帯が垂下する部分が1ヶ所、1本の破線状の隆帯が垂下する部分が1ヶ所あり隣接する / 破線状の隆帯は剥がれではなく元々破線状に貼付したと思われる / 隆帯断面カマボコ状 / 口縁部内面の器面は凹凸があり粗い / 胴部外面に黒色の付着物が多く見られる / 炉体土器 | 明赤褐 / 砂粒中量、礫少量、1cm以上の礫を含む | 曾利Ⅲ<br>a式   |
| 第143図2<br>図版113-2 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 1.2                       | ほぼ直立する口縁部  | 地文は縦位条線文 / 隆帯を貼付 / 隆帯断面台形状   | にぶい褐 / 砂粒・礫少量、雲母中量        | 阿玉台<br>Ⅲ式   |
| 第143図3<br>図版113-3 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.0                       | やや外傾する胴部   | 横位隆帯を貼付し、隆帯にかかる様に隆帯による楕円状区画文を配す / 横位隆帯に半載竹管状工具の腹面による平行沈線が沿う / 楕円状区画文内側・平行沈線に幅広角押文と波状沈線が沿う / 隆帯断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒少量、礫微量              | 勝坂2a<br>式   |
| 第143図4<br>図版113-4 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.0                       | やや外傾する胴部   | 押圧文を付した隆帯、区画文か / 弧状の沈線による文様 / 隆帯断面台形状、隆帯脇2本の単沈線が沿う   | 褐 / 砂粒微量、礫少量              | 勝坂3b<br>式   |
| 第143図5<br>図版113-5 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片    | 厚 0.9                       | 外反する口縁部 /<br>口唇部内面で断面<br>三角状に肥厚                          | 口縁部無文 / 頸部に交互刺突文を付した隆帯が1本巡る、下位にも隆帯が剥離した痕跡が見られる / 隆帯断面カマボコ状   | にぶい黄褐 / 砂粒少量、礫微量          | 勝坂3<br>式    |
| 第143図6<br>図版113-6 | 深鉢       | 口縁部<br>破片           | 厚 0.7                       | 内湾する口縁部  | 地文は燃系 L 縦位、口縁部に施文 / 口縁部に把手あり   | 褐 / 砂粒少量、礫微量              | 加曾利<br>E1b式 |
| 第143図7<br>図版113-7 | 深鉢       | 胴部下位<br>～底部<br>破片   | 厚 1.3                       | 直立して立ち上がる<br>胴部 / 平坦な底<br>部                              | 地文は燃系 R 縦位、胴部に施文 / 2本1対の直状の隆帯が垂下、下端はU字状に繋がる / 隆帯断面カマボコ状、底面網代痕無し  | 明褐 / 砂粒少量、礫微量             | 加曾利<br>E1b式 |
| 第143図8<br>図版113-8 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.1                       | 外傾する胴部   | 地文は単節 RL 縦位、胴部に施文 / 2本1対の直状沈線が垂下し、沈線間の縄文を磨消す / 内面に微量の黒色の付着物あり  | 褐 / 砂粒・礫微量                | 加曾利<br>E3式  |
| 第143図9<br>図版113-9 | 深鉢       | 胴部<br>破片            | 厚 1.0                       | やや外傾する胴部   | 地文は波状の条線文 / 3本1対の沈線が垂下、沈線間は地文が磨消されるが一部残る   | にぶい黄褐 / 砂粒少量、礫微量          | 加曾利<br>E3式  |

第61表 120号住居跡出土土器一覧1



| 挿図番号<br>図版番号            | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm) | 器形・形態                             | 文様・特徴  | 胎土             | 時期<br>型式    |
|-------------------------|----------|--------------------|------------|-----------------------------------|--|----------------|-------------|
| 第143図<br>10<br>図版113-10 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.2       | 外傾する口縁部/<br>先端は内側に内折              | 半截竹管状工具による平行沈線と紐状の隆帯による斜格子文/内折した口唇部の先端に断面円形の隆帯を貼付、口唇部と隆帯の境に沈線が巡る                             | にぶい黄褐/砂粒少量・礫微量 | 曾利Ⅱ式        |
| 第143図<br>11<br>図版113-11 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.0       | やや内湾する口縁部/<br>口唇部は内側に肥厚           | 沈線による斜行文   | 明褐/砂粒少量、礫微量    | 曾利Ⅲ式        |
| 第143図<br>12<br>図版113-12 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.1       | 外傾する口縁部/<br>口唇部は内側に肥厚             | 沈線による重弧文/口縁部から紐状の隆帯が波状に垂下/隆帯断面カマボコ状/120J・12・13・14は同一個体                                       | 黒褐/砂粒中量、礫微量    | 曾利Ⅲ式        |
| 第143図<br>13<br>図版113-13 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚1.1       | 外傾する口縁部/<br>括れる頸部                 | 沈線による重弧文/口縁部から紐状の隆帯が波状に垂下/頸部に2本の沈線が巡り、上下に1本ずつ波状隆帯が沿う/隆帯断面カマボコ状・台形状・三角状/120J・12・13・14は同一個体    | 黒褐/砂粒中量、礫微量    | 曾利Ⅲ式        |
| 第143図<br>14<br>図版113-14 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0       | 内湾する胴部                            | 地文は縦位沈線/上位に1本の波状隆帯が巡る/上位の隆帯から1本の波状隆帯(2単位残存)が垂下、間に鈎状の隆帯を施文/隆帯断面カマボコ状・三角状/120J・12・13・14は同一個体   | 黒褐/砂粒少量、礫微量    | 曾利Ⅲ式        |
| 第144図<br>15<br>図版113-15 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.9       | やや内湾する口縁部                         | 地文は単節RL縦位、口縁部に施文/交互刺突文で横位の蛇行文状に成形  | 明褐/砂粒少量、礫微量    | 連弧文<br>2a段階 |
| 第144図<br>16<br>図版114-16 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部下位<br>破片 | 厚1.0       | 外傾しながら立ち上がり<br>上位で括れる胴部/やや内湾する口縁部 | 地文は燃糸L縦位、全面に施文/口縁部上位と胴部括れ部に3本1対の沈線が横位に巡る/口縁部と胴部に3本1対の沈線による連弧文/器高に対して括れの位置が高い/118Jと120Jの遺構間接合 | 黒褐/砂粒少量、礫微量    | 連弧文<br>2b段階 |
| 第144図<br>17<br>図版114-17 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.9       | 内湾する口縁部                           | 地文は縦位条線文、口縁部に施文/口縁部上位に3本1対の沈線が巡る/破片下端に僅かに横位沈線が見られる   | 褐/砂粒少量・礫微量     | 連弧文<br>2b段階 |
| 第144図<br>18<br>図版114-18 | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部<br>破片   | 厚1.0       | 外傾し上位はやや内湾する<br>胴部/内傾する口縁部        | 口縁部に沿って1本の隆帯が巡る/無文だが隆帯上位は横位・下位は縦位のミガキが見られる   | 暗褐/砂粒中量、礫微量    | 後期か         |
| 第144図<br>19<br>図版114-19 | 浅鉢<br>か  | 口縁部<br>破片          | 厚1.3       | 外反する口縁部                           | 地文は単節RL縦位/口縁部上位無文/無文部との境に2本の沈線が巡り、下端の沈線は弧状に垂下する  | 橙/砂粒・礫少量、白色粒中量 | 加曾利<br>E2式  |

第61表 120号住居跡出土土器一覧2

| 挿図番号<br>図版番号        | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土               | 時期<br>型式    |
|---------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|------------------|-------------|
| 第144図20<br>図版114-20 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 7.3/6.4/1.1     | 81.8      | 楕円形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/単節RL/2本1対の直状の隆帯・渦巻状の隆帯、沈線充填 | 黒褐/砂粒中量、礫微量、雲母中量 | 加曾利<br>E1a式 |
| 第144図21<br>図版114-21 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 3.1/2.6/1.0     | 9.7       | 楕円形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/単節RL                        | 明褐/砂粒少量、礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第144図22<br>図版114-22 | 土器<br>片鉢 | 40%      | [3.8]/[3.7]/1.1 | 15.2      | 方形/抉部は1ヶ所残存/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/燃糸R                       | 明褐/砂粒少量、礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第144図23<br>図版114-23 | 土器<br>片鉢 | 40%      | [5.0]/[6.9]/1.3 | 49.7      | 円形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は磨耗が未発達/底部片利用/無文                      | 橙/砂粒少量、礫中量、雲母中量  | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第144図24<br>図版114-24 | 土器<br>片鉢 | 60%      | 4.0/3.0/[0.9]   | 11.6      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文                           | にぶい黄褐/砂粒少量、礫微量   | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第144図25<br>図版114-25 | 土製<br>円盤 | 完形       | 4.5/3.2/1.2     | 21.4      | 方形/周縁は一部磨耗/胴部片利用/2本1対の弧状の沈線/三角押文、周囲に平行沈線充填           | 褐/砂粒・礫微量         | 勝坂3式        |
| 第144図26<br>図版114-26 | 土製<br>円盤 | 完形       | 4.2/3.1/1.2     | 20.3      | 方形/周縁は一部磨耗/胴部片利用/単節RL                                | 明褐/砂粒少量、礫微量      | 中期中葉<br>～後葉 |

第62表 120号住居跡出土土製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号        | 器種         | 石材  | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴  |
|---------------------|------------|-----|--------|-------|--------|-------|---|
| 第144図27<br>図版114-27 | 打製石斧       | 砂岩  | 104.6  | 48.2  | 48.4   | 152.2 | 短冊形/表裏面ともに原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、上部は面状になっている/右側縁もほぼ全面の稜上に潰れが認められる |
| 第144図28<br>図版114-28 | 二次加工<br>剥片 | 黒曜石 | 19.4   | 20.5  | 9.8    | 2.8   | 表面側上端に不連続な二次的剥離が認められる   |
| 第145図29<br>図版114-29 | 石皿         | 安山岩 | 145.2  | 54.0  | 45.7   | 355.9 | 扁平石皿/表裏面ほぼ全面に平坦な使用面   |
| 第145図30<br>図版114-30 | 石皿         | 玄武岩 | 66.0   | 71.3  | 43.4   | 111.1 | 表面の使用面の消耗が激しく、中央付近が薄くなっている  |

第63表 120号住居跡出土石器一覧



### (3) 埋甕

#### 2号埋甕

**遺 構** (第146図)

[位 置] (D-5) グリッド。

[検出状況] 切り合いなし。

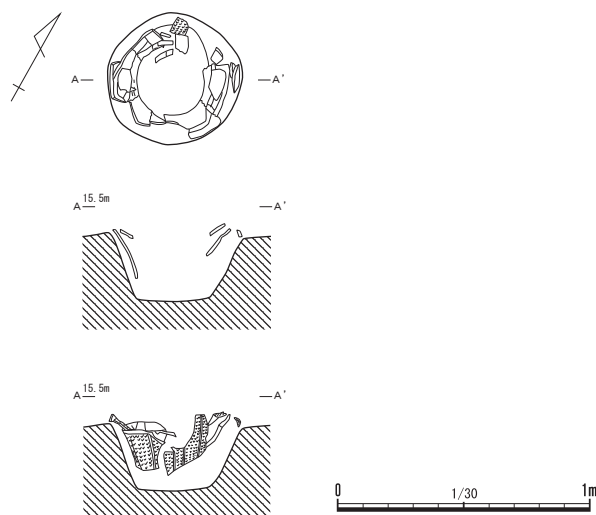
[構 造] 平面形：円形。規模：長軸 0.53 m / 短軸 0.52 m / 深さ 26cm。長軸方向：N-60°-E。

[時 期] 中期後葉期 (加曽利 E 3 b 式期)。

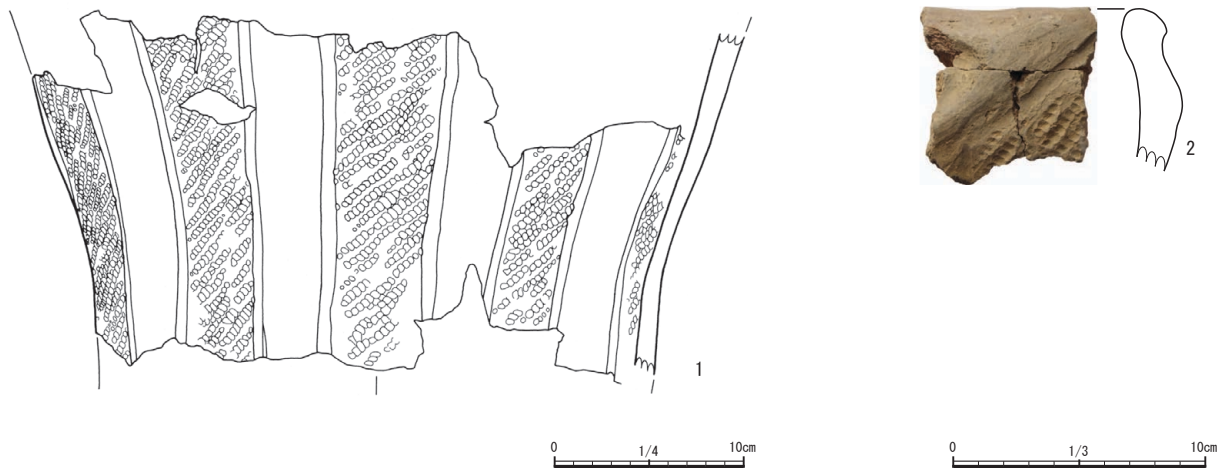
**遺 物** (第147・148図、図版115-1、第64表)

[土 器] (第147・148図、図版115-1、第64表)

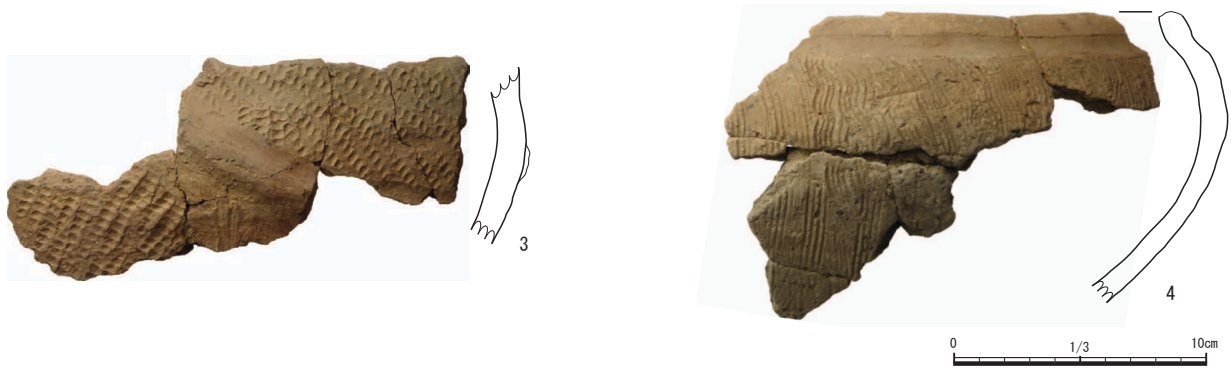
復元資料1点、破片資料3点を図示した。1は加曽利 E 3 b 式の深鉢形土器である。大型の土器である。2・3も加曽利 E 3 式の土器で、1～3は同一個体の可能性がある。4は加曽利 E 3 式の鉢形土器である。



第146図 2号埋甕 (1/30)



第147図 2号埋甕出土遺物1 (1/4・1/3)



第148図 2号埋甕出土遺物2 (1/3)

| 挿図番号<br>図版番号        | 出土<br>遺構 | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)        | 器形・形態          | 文様・特徴   | 胎土                | 時期<br>型式 |
|---------------------|----------|----------|--------------------|-------------------|----------------|---|-------------------|----------|
| 第147図1<br>図版115-1-1 | 2埋       | 深鉢       | 胴部<br>70%          | 高 [17.4]<br>厚 1.0 | 上位が外反する胴部      | 地文はRL縦位/2本1対の沈線が直状に垂下、沈線間は地文無し/一部沈線に縄文がのっている部分あり/沈線間の地文が無い部分に縄文を磨消した痕跡が僅かにあり/1~3は同一個体の可能性あり | 明褐色/砂粒少量、礫微量      | 加曾利E3b式  |
| 第147図2<br>図版115-1-2 | 2埋       | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 1.3             | 内湾する口縁部        | 地文は単節RL縦位/隆帯による口縁部区画/区画から沈線が直状に垂下、沈線左側は地文磨消/隆帯断面カマボコ状/1~3は同一個体の可能性あり                        | 明褐色/砂粒少量、礫微量      | 加曾利E3式   |
| 第148図3<br>図版115-1-3 | 2埋       | 深鉢       | 口縁部<br>付近~<br>胴部破片 | 厚 1.0             | 内湾する口縁部付近~胴部   | 地文は単節RL、口縁部区画内横位、胴部縦位/隆帯による口縁部区画/区画から沈線が直状に垂下、沈線右側は地文磨消隆帯断面カマボコ状/1~3は同一個体の可能性あり             | 明褐色/砂粒少量、礫微量      | 加曾利E3式   |
| 第148図4<br>図版115-1-4 | 2埋       | 鉢        | 口縁部~<br>胴部破片       | 厚 1.0             | 外傾する胴部/内湾する口縁部 | 地文は縦位波状・直状の条線文/口縁部に沿って1本の幅広い沈線施文/沈線上位無文   | 明褐色~にぶい黄褐色/砂粒・礫微量 | 加曾利E3式   |

第64表 2号埋甕出土土器一覧

#### (4) 土坑

##### 201号土坑

**遺構** (第149図)

[位置] (B-4) グリッド。

[検出状況] 切り合いなし。

[構造] 平面形:円形。規模:長軸 1.18 m/短軸 1.17 m/深さ 25cm。長軸方向:N-4°-E。壁:60~70°で立ち上がる。

[覆土] 焼土粒・炭化物を含む暗褐色土を基調とする。202 Dの覆土と類似している。

[遺物] 少量の遺物が出土した。

[時期] 中期中葉~後葉期 (阿玉台III~曾利I式期)。

**遺物** (第152図、図版115、第66表)

[土器] (第152図、図版115、第66表)

破片資料2点を図示した。1は阿玉台式、2は曾利式の深鉢形土器である。

##### 202号土坑

**遺構** (第149図)

[位置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 6方の主体部に切られる。

[構造] 平面形:円形。規模:長軸 1.03 m/短軸 1.00 m/深さ 28cm。長軸方向:N-3°-E。壁:

80°～90°で立ち上がる。

[覆 土] 焼土粒・炭化物を含む暗褐色土を基調とする。201 Dの覆土と類似している。

[遺 物] 覆土下層から少量の遺物が出土した。

[時 期] 中期後葉期（加曾利 E 式期）。

**遺 物** (第 152 図、図版 115、第 66 表)

[土 器] (第 152 図、図版 115、第 66 表)

破片資料 3 点を図示した。1 は加曾利 E 式、2 は加曾利 E 式と思われるもの、3 は中期後葉の深鉢形土器である。

## 203 号土坑

**遺 構** (第 149 図)

[位 置] (B-1) グリッド。

[検出状況] 切り合いなし。

[構 造] 平面形：楕円形か。規模：長軸 1.26 m／短軸 1.17 m／深さ 51cm。長軸方向：N-79°-E。壁：60°～70°で立ち上がる。

[覆 土] ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を多く含む暗褐色土を基調とする。

[遺 物] 206 D 出土の破片と遺構間接合する浅鉢形土器（第 153 図 1）が出土した。

[時 期] 中期中葉期（勝坂 2 b 式期）。

**遺 物** (第 153 図、図版 115-1・116、第 66 表)

[土 器] (第 153 図、図版 115-1・116、第 66 表)

復元資料 1 点、破片資料 1 点を図示した。1 は中期中葉～後葉の浅鉢形土器である。206 D 出土の破片が遺構間接合している。赤色顔料が口唇部、内面に多く残存するが、外面は僅かである。内面には赤色顔料による文様が施され、口縁部付近は波状文が見られる。2 は勝坂式の深鉢形土器である。

## 204 号土坑

**遺 構** (第 149 図)

[位 置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 13 M に切られる。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸 0.99 m／短軸 0.93 m／深さ 41cm。長軸方向：N-63°-E。壁：80°～90°で立ち上がる。

[覆 土] 土器中の覆土はローム粒子を僅かに含む黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 掘り込みと同規模の大型の深鉢形土器（第 154 図 1）が出土した。また、この土器内に遺物はほぼ確認できなかった。

[時 期] 中期中葉期（勝坂 3 b 古式期）。

[所 見] 深鉢形土器の出土状況から、墓坑の可能性がある。

**遺 物** (第 154 図、図版 117～119、第 66 表)

[土 器] (第 154 図、図版 117～119、第 66 表)

復元個体 1 点、破片資料 2 点を図示した。1 は大型の勝坂 3 b 古式の深鉢形土器である。口縁部、胴

部中位、胴部下位の3つの文様帯を持ち、それぞれの間には無文帯がある。口縁部の文様帯には突起が1単位残存する。突起の隣には、隆帯による渦巻状の文様を配す。三叉文、沈線による文様を施し、沈線間には押圧文を加える。胴部中位の文様帯には、隆帯による三角状の区画と渦巻状の文様の組み合わせを1単位とした区画が2単位残存し、元は3単位あったと思われる。隆帯による渦巻状の文様の中心は突起状になる。周囲には沈線による三角状の区画を設け、中心に三叉文を施文する。胴部下位の文様帯には、隆帯による渦巻状の文様が5単位連なる。周囲には三叉文を施す。口縁部の文様帯の隆帯上、胴部下位の一部の隆帯上には押圧文が見られるが、胴部中位の文様帯の隆帯上に押圧文は見られない。2は勝坂式、3は中期中葉～後葉の深鉢形土器である。

## 205号土坑

**遺 構** (第149図)

[位 置] (C・D-2) グリッド。

[検出状況] 13Mに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸 1.53 m / 短軸 1.29 m / 深さ 54cm。長軸方向：N-77°-W。壁：60°～70°で立ち上がる。

[覆 土] 上層(2層)はローム粒子を僅かに含む暗褐色土、中層(3・4層)はローム粒子を多く含み、焼土粒子～小ブロック、炭化物粒子を含む茶褐色～暗茶褐色土を基調とする。中層下位(5層)はローム粒子を多く含み、焼土粒子～小ブロックを多く含む。下層上位(6層)は炭化物粒子を多く含み、焼土粒子～小ブロック、ローム粒子を含む黒褐色土を基調とする。下層中央(7層)はロームブロックを含む黄褐色土で、熱を受けボロボロの状態であった。下層下位(8層)はローム粒子を多く、焼土粒子を僅かに含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺 物] 少量の遺物が出土した。

[時 期] 中期中葉期(勝坂3式期)。

[所 見] 坑底は明らかに焼けた状態であった。

**遺 物** (第155図、図版119、第66表)

[土 器] (第155図、図版119、第66表)

破片資料4点を図示した。1～4は勝坂式の深鉢形土器である。

## 206号土坑

**遺 構** (第149図)

[位 置] (B-1) グリッド。

[検出状況] 切り合いなし。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸 1.03 m / 短軸 1.01 m / 深さ 19cm。長軸方向：N-18°-E。壁：30°～40°で立ち上がる。

[覆 土] 不明。

[遺 物] 覆土上～中層から遺物が出土している。203 D出土の破片と遺構間接合する浅鉢形土器(第155図1)が出土した。

[時 期] 中期中葉期(勝坂3式期)。



**遺物** (第155・156図、図版119、第66表)

[土器] (第155図1・第156図2～6、図版119、第66表)

復元資料1点、破片資料4点を図示した。1は中期中葉～後葉の浅鉢形土器である。203 D出土の破片と遺構間接合している。赤色顔料が口唇部、内面に多く残存するが、外面は僅かである。内面には赤色顔料による文様が施され、口縁部付近は波状文が見られる。2～4は勝坂式、6は加曾利E式の深鉢形土器である。

## 207号土坑

**遺構** (第149図)

[位置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 103 Jを切る。

[構造] 平面形:円形。規模:長軸 1.05 m/短軸 0.97 m/深さ 66cm。長軸方向:N-71°-W。壁:約60°で立ち上がる。

[覆土] ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 破片の土器、土製品などが出土した。

[時期] 中期中葉～後葉期(勝坂3～加曾利E1式期)。

**遺物** (第156図、図版119、第66・67表)

[土器] (第156図1～10、図版119、第66表)

破片資料10点を図示した。1～4は勝坂式、5～8は加曾利E式、9は曾利式の深鉢形土器である。10は加曾利E式の鉢形土器である。

[土製品] (第156図11、図版119、第67表)

1点を図示した。11は土器片錘である。

## 208号土坑

**遺構** (第149図)

[位置] (C-2) グリッド。

[検出状況] 切り合いなし。

[構造] 平面形:楕円形。規模:長軸 0.79 m/短軸 0.66 m/深さ 5cm。長軸方向:N-23°-E。壁:40°～50°で立ち上がる。

[覆土] 上層(2層)はローム粒子を僅かに含む暗褐色土、中層(3・4層)はローム粒子を多く含み、焼土粒子～小ブロック、炭化物粒子を含む茶褐色～暗茶褐色土を基調とする。中層下位(5層)はローム粒子を多く含み、焼土粒子～小ブロックを多く含む。下層上位(6層)は炭化物粒子を多く含み、焼土粒子～小ブロック、ローム粒子を含む黒褐色土を基調とする。下層中央(7層)はロームブロックを含む黄褐色土で、熱を受けボロボロの状態であった。下層下位(8層)はローム粒子を多く、焼土粒子を僅かに含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺物] 北西側に土器がややまとまって出土した。

[時期] 中期中葉期(勝坂3式期)。

**遺物** (第156図、図版120、第66表)

[土 器] (第156図、図版120、第66表)

破片資料5点を図示した。1・2は阿玉台Ⅲ式にあたると思われるもの、3～5は勝坂式の深鉢形土器である。1・2と3・4はそれぞれ同一個体と思われる。

## 209号土坑

**遺 構** (第149図)

[位 置] (C-2・3) グリッド。

[検出状況] 104 Jを切る。

[構 造] 平面形:円形。規模:長軸0.66 m/短軸0.62 m/深さ28cm。長軸方向:N-68°-W。壁:約85°で立ち上がる。

[覆 土] 1層と3層はローム粒子を多く含む暗黄褐色土、2層はローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む黒褐色土である。

[遺 物] 主に中央部分の覆土中層からやや多量の土器、土製品、石器が出土した。

[時 期] 中期中葉～後葉期(勝坂3b～加曾利E1式期)。

**遺 物** (第157図・第158図8～10、図版120、第66～68表)

[土 器] (第157図・第158図8、図版120、第66表)

復元資料2点、破片資料6点を図示した。1は口縁部に突起を持つ勝坂3b古式の深鉢形土器である。突起が1単位残存するが、対面にもあったと思われる。口縁部と胴部下半は無文で、胴部上半に文様帯を施文する。文様体内は、平行沈線による三角状の区画を施し、中央に三叉文を付し周囲を押圧文で充填する。また、斜位の平行沈線を充填し、三角押文を横位、斜位に施す。その他、平行沈線による文様を充填する。2は中期中葉～後葉の深鉢形土器で、縦位撚糸Rを地文とする。3は阿玉台式、4～7は勝坂式、8は加曾利E式の深鉢形土器である。

[土 製品] (第158図9、図版120、第67表)

1点を図示した。9は土器片錘である。

[石 器] (第158図10、図版120、第68表)

1点を図示した。10は打製石斧である。

## 210号土坑

**遺 構** (第149図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 4方に切られる。

[構 造] 平面形:楕円形か。規模:長軸1.16 m/短軸不明/深さ12cm。長軸方向:N-52°-W。壁:約50°で立ち上がる。

[覆 土] 不明。

[遺 物] 土坑確認面より上層から大型の土器破片を含む遺物がまとまって出土した。

[時 期] 中期後葉期(加曾利E1b式期)。

**遺 物** (第158図、図版121、第66表)

[土 器] (第158図、図版121、第66表)

破片資料1点を図示した。1は加曽利E式の深鉢形土器である。

## 211号土坑

**遺 構** (第149図)

[位 置] (C-3) グリッド。

[検出状況] 6方に切られる。

[構 造] 平面形:円形か。規模:長軸不明/短軸1.23m/深さ23cm。長軸方向:N-56°-E。壁:約60°で立ち上がる。

[覆 土] 焼土粒・炭化物を含む暗褐色土を基調とする。201号土坑の覆土に似る。

[遺 物] 少量の遺物が出土した。

[時 期] 中期後葉期(加曽利E1~2式期)。

**遺 物** (第158図、図版121、第66表)

[土 器] (第158図、図版121、第66表)

破片資料2点を図示した。1・2は加曽利E式の深鉢形土器である。

## 212号土坑

**遺 構** (第150図)

[位 置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 105Jに切られる。

[構 造] 平面形:楕円形か。規模:長軸不明/短軸1.04m/深さ不明。長軸方向:N-22°-W。壁:不明。

[覆 土] ローム粒子を含む黒褐色土で、201号土坑・211号土坑の覆土と類似している

[遺 物] 少量の遺物が出土した。

[時 期] 中期中葉~後葉期(勝坂3~中期後葉期)

**遺 物** (第158図、図版121、第66表)

[土 器] (第158図、図版121、第66表)

破片資料2点を図示した。1は勝坂式、2は中期後葉の深鉢形土器である。

## 213号土坑

**遺 構** (第150図)

[位 置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 109J、5・6方に切られる。

[構 造] 平面形:楕円形か。規模:長軸不明/短軸1.07m/深さ33cm。長軸方向:N-35°-E。壁:約60°で立ち上がる。

[覆 土] ローム粒子を含む黒褐色土で、201号土坑・211号土坑の覆土と類似している。

[遺 物] 少量の遺物が出土した。

[時 期] 中期後葉期(加曽利E式期)。

**遺 物** (第158図、図版121、第66表)

[土 器] (第158図、図版121、第66表)

破片資料2点を図示した。1は加曽利E式、2は曽利式の深鉢形土器である。

## 214号土坑

**遺 構** (第150図)

[位 置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 109 J、6方に切られる。

[構 造] 平面形：円形か。規模：長軸1.57 m／短軸不明／深さ48cm。長軸方向：N-90°-E。壁：約40°で立ち上がる。

[覆 土] 上層(1・2層)はローム粒子を含み、焼土粒子・炭化物粒子を微量～中量含む黒褐色～暗褐色土を基調とする。下層(3～5層)はローム粒子～小ブロックを多く含み、明褐色～暗茶褐色土を基調とする。3層には焼土粒子・炭化物粒子が僅かに含まれる。

[遺 物] 復元資料2点を含む土器、土製品、石器が覆土上～中層から出土した。

[時 期] 中期中葉期(勝坂3b式期)。

**遺 物** (第159図、図版121・122、第66～68表)

[土 器] (第159図1～11、図版121・122、第66表)

復元資料2点、破片資料9点を図示した。1は勝坂3b新式の深鉢形土器である。押圧文を付した隆帯が1本口縁部に巡る。胴部には押圧文を付した隆帯による十字状の文様を施文する。2は勝坂3式の深鉢形土器である。上端に押圧文を付した隆帯が巡り、隆帯上位には沈線による文様が見られる。隆帯下位は無文である。3～9は勝坂式、10は加曽利E式と思われる、深鉢形土器である。7・8は同一個体の可能性がある。11は中期中葉と思われる深鉢形土器である。

[土 製 品] (第159図12、図版122、第67表)

1点を図示した。12は土製円盤である。赤色顔料が少量見られる。

[石 器] (第159図13・14、図版122、第68表)

2点を図示した。13・14ともに打製石斧である。

## 215号土坑

**遺 構** (第150図)

[位 置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 109 J、6方に切られる。

[構 造] 平面形：楕円形か。規模：長軸不明／短軸不明／深さ27～44cm。長軸方向：N-42°-W。壁：60～70°で立ち上がる。

[覆 土] ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 少量の土器、土製品などが出土した。

[時 期] 中期中葉期(勝坂3式期)。

**遺 物** (第160図、図版122、第66・67表)

[土 器] (第160図1・2、図版122、第66表)

破片資料2点を図示した。1・2は勝坂式の深鉢形土器である。



[土製品] (第160図3、図版122、第67表)

1点を図示した。3は土器片錘である。

## 216号土坑

**遺構** (第150図)

[位置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 219 Dを切り、13 Mに切られる。

[構造] 平面形:円形。規模:長軸 1.50 m/短軸 1.46 m/深さ 37cm。長軸方向:N-6°-E。壁:約40°~50°で立ち上がる。内部に3基のピットを持つ。

[覆土] 上層(3層)はローム粒子を多く含む暗茶褐色土、下層(4層)はローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺物] 少量の土器、石器などが出土した。

[時期] 中期中葉~後葉期(勝坂3式~連弧文2 b段階期)

[所見]

**遺物** (第160図、図版122、第66・68表)

[土器] (第160図1~4、図版122、第66表)

破片資料4点を図示した。1は阿玉台式、2は勝坂式、3・4は連弧文土器の深鉢形土器である。

[石器] (第160図5、図版122、第68表)

1点を図示した。5は打製石斧である。

## 217号土坑

**遺構** (第150図)

[位置] (F-5・6) グリッド。

[検出状況] 223 Dを切り、147 Y、13 Mに切られる。

[構造] 平面形:円形。規模:長軸 1.34 m/短軸 1.24 m/深さ 35cm。長軸方向:N-11°-W。壁:70°~80°で立ち上がる。

[覆土] 上層(2層)はローム粒子・炭化物粒子・炭化物片を含む黒褐色土を基調とし、下層(3層)はローム粒子を多く含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺物] 大型の土器破片を含む遺物が覆土上~中層から出土した。

[時期] 中期中葉~後葉期(勝坂3式~加曾利E 2式期)。

**遺物** (第160図、図版122、第66表)

[土器] (第160図、図版122、第66表)

破片資料4点を図示した。1は勝坂式、2・3は加曾利E式の深鉢形土器である。4は勝坂式の浅鉢形土器である。

## 218号土坑

**遺構** (第150図)

[位置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 13 Mに切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸 1.20 m／短軸 0.94 m／深さ 34cm。長軸方向：N－83°－E。壁：50°～60°で立ち上がる。

[覆土] 上層（1層）はローム粒子を多量、炭化物粒子を微量含む暗茶褐色土、下層（2層）はローム粒子を多量、ローム小ブロックを含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺物] 大型の土器破片を含む遺物が覆土上～中層から出土した。

[時期] 中期中葉～後葉期（勝坂3式～加曾利E1式期）。

**遺物**（第160図、図版122、第66表

**土器**（第160図、図版122、第66表

破片資料1点を図示した。1は勝坂3～加曾利E1式の深鉢形土器である。

## 219号土坑

**遺構**（第150図）

[位置]（D－3）グリッド。

[検出状況] 216 D、13 Mに切られる。

[構造] 平面形：楕円形か。規模：長軸不明／短軸 1.22 m／深さ 25cm。長軸方向：N－32°－W。壁：約25°で皿状に立ち上がる。

[覆土] 上層（2層）・下層（3層）ともローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む暗褐色土を基調とし、下層はローム粒子を多く含む。

[遺物] 少量の遺物が出土した。

[時期] 中期中葉期（勝坂3式期）。

**遺物**（第161図、図版122、第66表

**土器**（第161図、図版122、第66表

破片資料2点を図示した。1は勝坂式の深鉢形土器である。2は勝坂式の浅鉢形土器である。

## 220号土坑

**遺構**（第150図）

[位置]（D－3）グリッド。

[検出状況] 切り合いなし。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸 0.79 m／短軸 0.64 m／深さ 26cm。長軸方向：N－71°－W。壁：50°～60°で立ち上がる。

[覆土] ローム粒子を多く含む暗茶褐色土を基調とする。

[遺物] 図示できる遺物は出土しなかった。

[時期] 中期

## 221号土坑

**遺構**（第151図）

[位置]（D－3）グリッド。

[検出状況] 13 Mに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸 0.91 m／短軸 0.68 m／深さ 27cm。長軸方向：N－8°－E。  
壁：40°～50°で立ち上がる。

[覆 土] ローム粒子を多く含む明茶褐色土を基調とする。

[遺 物] 少量の遺物が出土した。

[時 期] 中期中葉期（勝坂2～3式期）。

**遺 物** (第161図、図版122、第66表)

[土 器] (第161図、図版122、第66表)

破片資料2点を図示した。1・2は勝坂式の深鉢形土器である。

## 222号土坑

**遺 構** (第151図)

[位 置] (F－5) グリッド。

[検出状況] 10 S、13 Mに切られる。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸 2.27 m／短軸 2.22 m／深さ 66cm。長軸方向：N－62°－W。壁：  
約60°で立ち上がる。

[覆 土] 上層（1・2層）はローム粒子を微量～多量含む暗褐色～暗茶褐色土で、2層には焼土粒子・炭化物を含む。中層（3～5層）はローム粒子を微量～中量、焼土粒子・炭化物粒子を中量～多量含む暗褐色～黒色土を基調とし、4層は小礫を多量含み、4・5層には遺物が多い。下層（6・7層）はローム粒子を多く含む暗茶褐色～暗黄褐色土を基調とし、6層には焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。

[遺 物] 復元資料2点を含む土器、土製品、石器などが覆土上～中層から出土した。

[時 期] 中期中葉～後葉期（勝坂3式～加曾利E1式期）。

**遺 物** (第161図1～7・第162図8～17、図版123・124、第66～68表)

[土 器] (第161図1～7・第162図8～13、図版123・124、第66表)

復元資料2点、破片資料11点を図示した。1は加曾利E1b式の深鉢形土器である。頸部は無文で、胴部は撚糸Lを地文とする。胴部には4本の隆帯が波状に垂下する。2は加曾利E1b式の深鉢形土器である。口縁部区画内には2本1対の隆帯による渦巻文を施す。胴部には隆帯による渦巻文を中心とする文様が見られ、裏面にも渦巻文の一部と思われる隆帯が見られることから、同様の文様が施されたと考えられる。3は阿玉台式、4～7は勝坂式、8～12は加曾利E式、13は曾利式の深鉢形土器である。8・9は同一個体の可能性がある。

[土 製 品] (第162図14・15、図版124、第67表)

2点を図示した。14・15は土器片錘である。

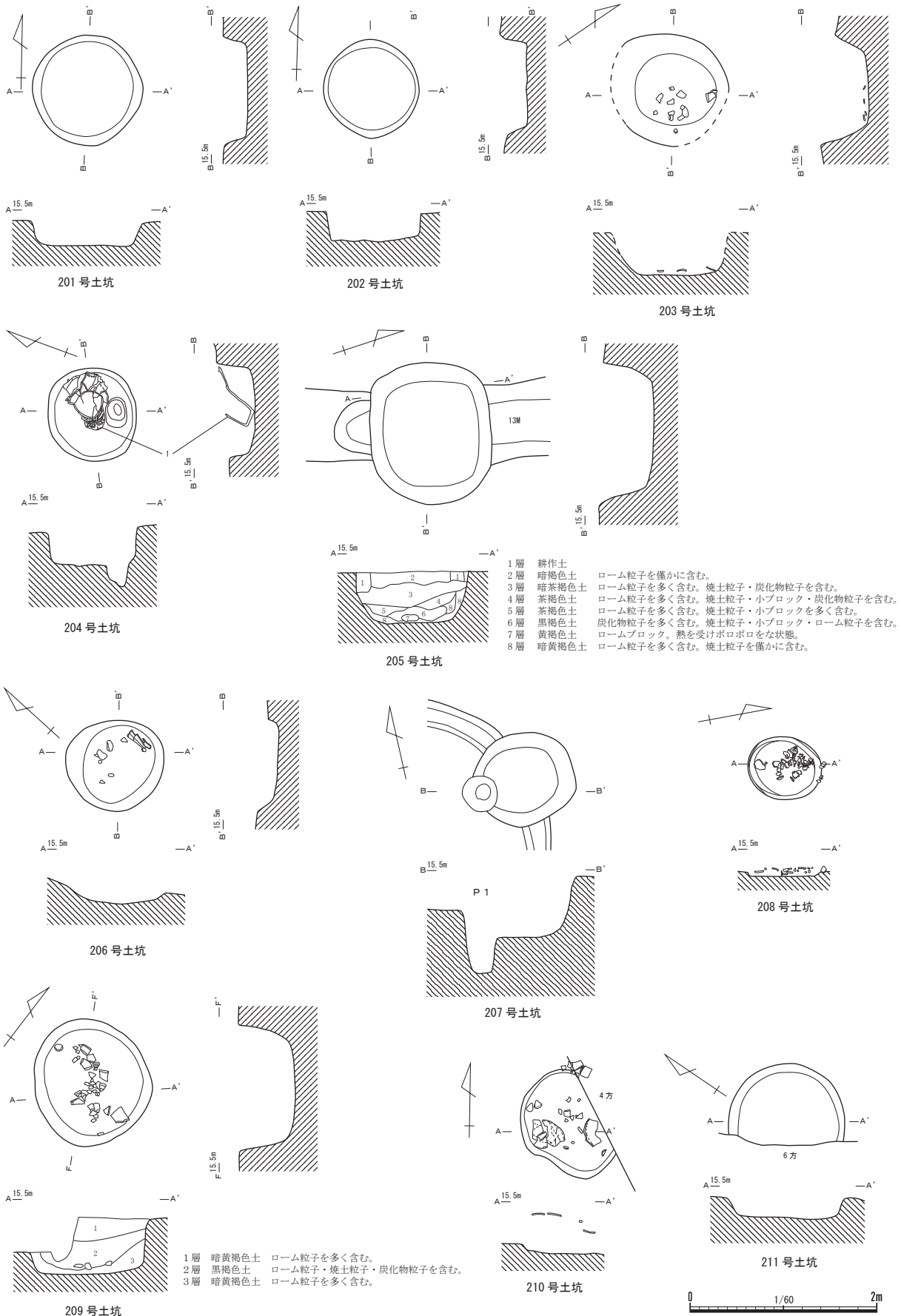
[石 器] (第162図16・17、図版124、第68表)

2点を図示した。16は打製石斧である。17は敲石である。

## 223号土坑

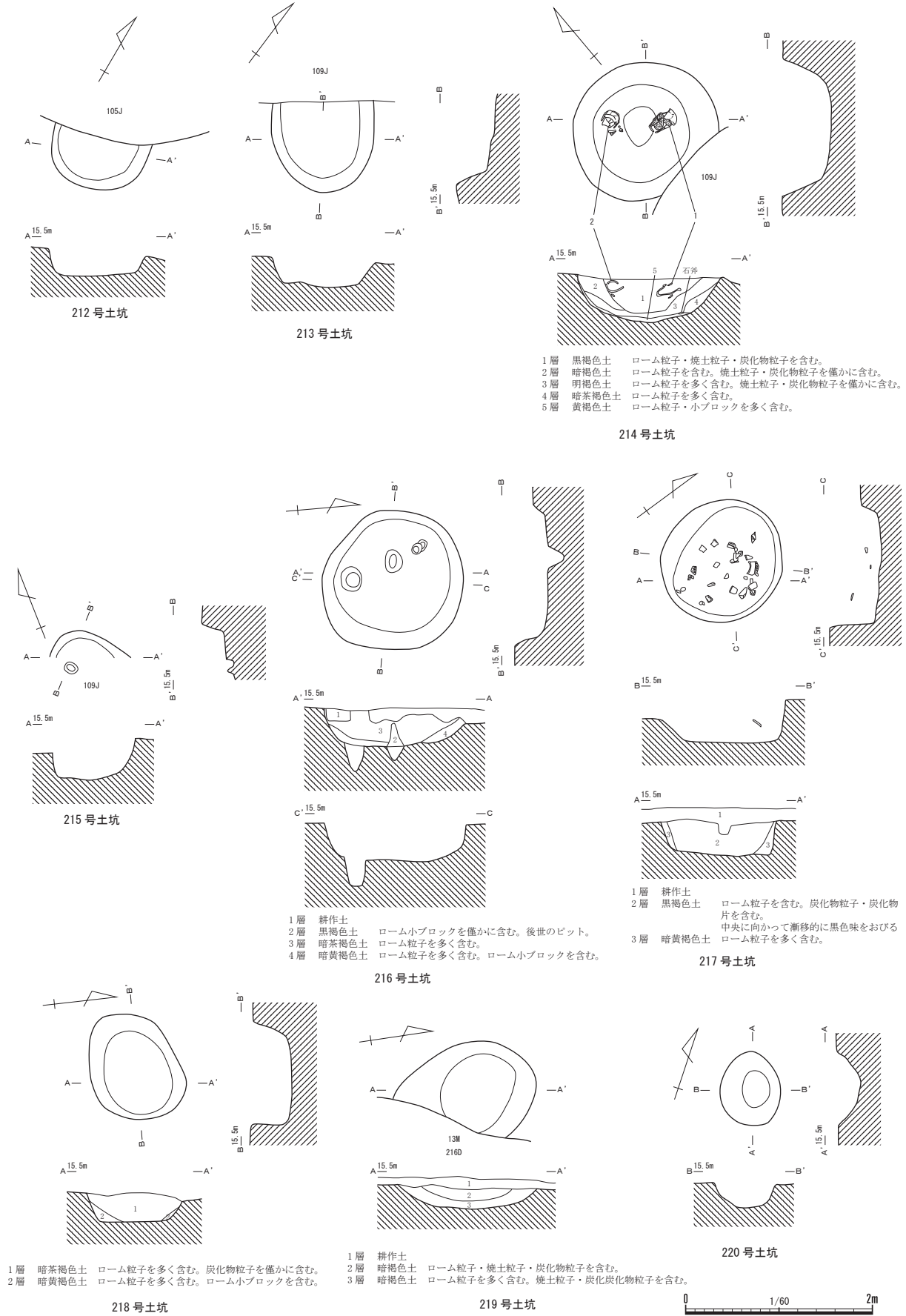
**遺 構** (第151図)

[位 置] (F－5・6) グリッド。

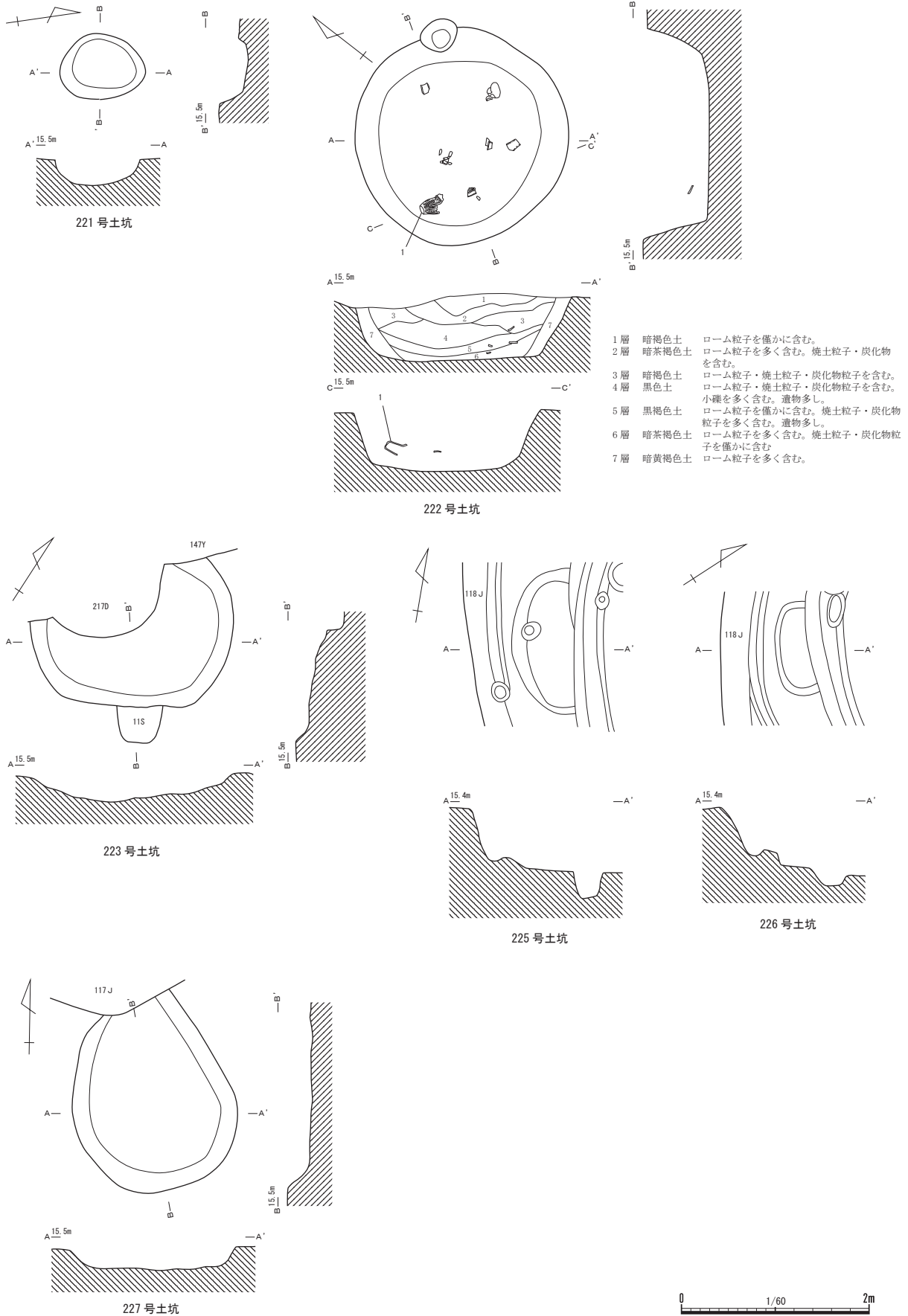


第149図 縄文時代土坑1 (1/60)





第150図 縄文時代土坑2 (1/60)



第151図 縄文時代土坑3 (1/60)

[検出状況] 217 D、11 S、13 Mに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸 2.15 m／短軸不明／深さ 29cm。長軸方向：N－57°－E。壁：約 20°で立ち上がる。

[覆 土] ローム粒子を多く含む暗茶褐色土を基調とする。

[遺 物] 少量の遺物が出土した。

[時 期] 中期中葉期（勝坂 3 式期）。

**遺 物** (第 162 図、図版 124、第 66 表)

[土 器] (第 162 図、図版 124、第 66 表)

破片資料 3 点を図示した。1 は阿玉台式、2・3 は勝坂式の深鉢形土器である。

## 225 号土坑

**遺 構** (第 151 図)

[位 置] (D－5) グリッド。

[検出状況] 118 J に切られる。

[構 造] 平面形：楕円形か。規模：長軸 1.56 m／短軸不明／深さ 66cm。長軸方向：N－12°－W。壁：約 30°で立ち上がる。

| 遺構名  | グリッド    | 平面形  | 規模 (m) |      |           | 長軸方位    | 壁                | 時期                          |
|------|---------|------|--------|------|-----------|---------|------------------|-----------------------------|
|      |         |      | 長軸     | 短軸   | 深さ        |         |                  |                             |
| 201D | B-4     | 円形   | 1.18   | 1.17 | 0.25      | N-4°-E  | 60～70°で立ち上がる     | 中期中葉～後葉期（阿玉台Ⅲ～曾利Ⅰ式期）        |
| 202D | C-4     | 円形   | 1.03   | 1.00 | 0.28      | N-3°-W  | 80～90°で立ち上がる     | 中期後葉期（加曾利Ⅰ式期）               |
| 203D | B-1     | 楕円形か | 1.26   | 1.17 | 0.51      | N-79°-E | 60～70°で立ち上がる     | 中期中葉期（勝坂 2b 式期）             |
| 204D | D-3     | 円形   | 0.99   | 0.93 | 0.41      | N-63°-E | 80～90°で立ち上がる     | 中期中葉期（勝坂 3b 新式期）            |
| 205D | C・D-2   | 楕円形  | 1.53   | 1.29 | 0.54      | N-77°-W | 60～70°で立ち上がる     | 中期中葉期（勝坂 3 式期）              |
| 206D | B-1     | 円形   | 1.03   | 1.01 | 0.19      | N-18°-W | 30°～40°で皿状に立ち上がる | 中期中葉期（勝坂 3 式期）              |
| 207D | B-3     | 円形   | 1.05   | 0.97 | 0.66      | N-71°-E | 約 60°で立ち上がる      | 中期中葉～後葉期（勝坂 3～加曾利Ⅰ式期）       |
| 208D | C-2     | 楕円形  | 0.79   | 0.66 | 0.05      | N-23°-E | 40°～50°で立ち上がる    | 中期中葉期（勝坂 3 式期）              |
| 209D | C-2・3   | 円形   | 0.66   | 0.62 | 0.28      | N-68°-W | 約 85°で立ち上がる      | 中期中葉～後葉期（勝坂 3b～加曾利Ⅰ式期）      |
| 210D | B-3     | 楕円形か | 1.16   | 不明   | 0.12      | N-52°-W | 約 50°で立ち上がる      | 中期後葉期（加曾利Ⅰb 式期）             |
| 211D | C-3     | 円形か  | 不明     | 1.23 | 0.23      | N-56°-E | 約 60°で立ち上がる      | 中期後葉期（加曾利Ⅰ～Ⅱ式期）             |
| 212D | C-4     | 楕円形か | 不明     | 1.04 | 不明        | N-22°-W | 不明               | 中期中葉～後葉期（勝坂 3～中期後葉期）        |
| 213D | C-4     | 楕円形か | 不明     | 1.07 | 0.33      | N-35°-W | 約 60°で立ち上がる      | 中期後葉期（加曾利Ⅰ式期）               |
| 214D | C-4     | 円形か  | 1.57   | 不明   | 0.48      | N-90°-E | 約 40°で立ち上がる      | 中期中葉期（勝坂 3b 式期）             |
| 215D | C-4     | 楕円形か | 不明     | 不明   | 0.27～0.44 | N-42°-W | 60～70°で立ち上がる     | 中期中葉期（勝坂 3 式期）              |
| 216D | D-3     | 円形   | 1.50   | 1.46 | 0.37      | N-6°-E  | 40～50°で立ち上がる     | 中期中葉～後葉期（勝坂 3 式～連弧文 2b 段階期） |
| 217D | F-5・6   | 円形   | 1.34   | 1.24 | 0.35      | N-11°-W | 70～80°で立ち上がる     | 中期中葉～後葉期（勝坂 3 式～加曾利Ⅱ式期）     |
| 218D | D-3     | 楕円形  | 1.20   | 0.94 | 0.34      | N-83°-E | 50～60°で立ち上がる     | 中期中葉～後葉期（勝坂 3 式～加曾利Ⅰ式期）     |
| 219D | D-3     | 楕円形か | 不明     | 1.22 | 0.25      | N-32°-W | 約 25°で皿状に立ち上がる   | 中期中葉期（勝坂 3 式期）              |
| 220D | D-3     | 楕円形  | 0.79   | 0.64 | 0.26      | N-71°-W | 50～60°で立ち上がる     | 中期                          |
| 221D | D-3     | 楕円形  | 0.91   | 0.68 | 0.27      | N-8°-E  | 40～50°で立ち上がる     | 中期中葉期（勝坂 2～3 式期）            |
| 222D | F-5     | 円形   | 2.27   | 2.22 | 0.66      | N-62°-W | 約 60°で立ち上がる      | 中期中葉～後葉期（勝坂 3～加曾利Ⅰ式期）       |
| 223D | F-5・6   | 楕円形  | 2.15   | 不明   | 0.29      | N-57°-E | 約 20°で立ち上がる      | 中期中葉期（勝坂 3 式期）              |
| 224D | 欠番      |      |        |      |           |         |                  |                             |
| 225D | D-5     | 楕円形か | 1.56   | 不明   | 0.66      | N-12°-W | 約 30°で立ち上がる      | 中期中葉期（勝坂 3 式期）              |
| 226D | D-5     | 楕円形か | 1      | 不明   | 0.62      | N-62°-W | 約 70°で立ち上がる      | 中期中葉～後葉期                    |
| 227D | D・E-5・6 | 楕円形  | 不明     | 1.69 | 0.24      | N-25°-W | 40～50°で立ち上がる     | 不明                          |

第 65 表 縄文時代土坑一覧

[覆土] ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物粒子を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 少量の土器、土製品などが出土した。

[時期] 中期中葉期（勝坂3式期）。

**遺物**（第163図、図版124、第66・67表）

[土器]（第163図1、図版124、第66表）

破片資料1点を図示した。1は勝坂式の深鉢形土器である。

[土製品]（第163図2、図版124、第67表）

1点を図示した。2は土器片錘である。

## 226号土坑

**遺構**（第151図）

[位置]（D-5）グリッド。

[検出状況] 118Jに切られる。

[構造] 平面形：楕円形か。規模：長軸1.00m／短軸不明／深さ62cm。長軸方向：N-62°-W。

壁：約70°で立ち上がる。

[覆土] ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物粒子を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 少量の土器、石器などが出土した。

[時期] 中期中葉～後葉期

**遺物**（第163図、図版124、第66・68表）

[土器]（第163図1、図版124、第66表）

破片資料1点を図示した。1は中期中葉～後葉の土器である。底面のみのため器種は不明である。

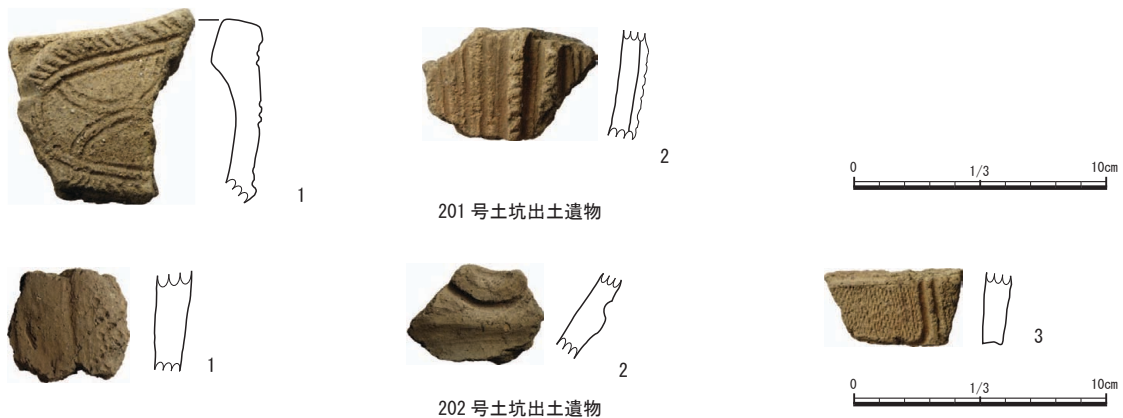
[石器]（第163図2・3、図版124、第68表）

2点を図示した。2は打製石斧である。3は石皿である。

## 227号土坑

**遺構**（第151図）

[位置]（D・E-5・6）グリッド。



第152図 縄文時代土坑出土遺物1（1／3）



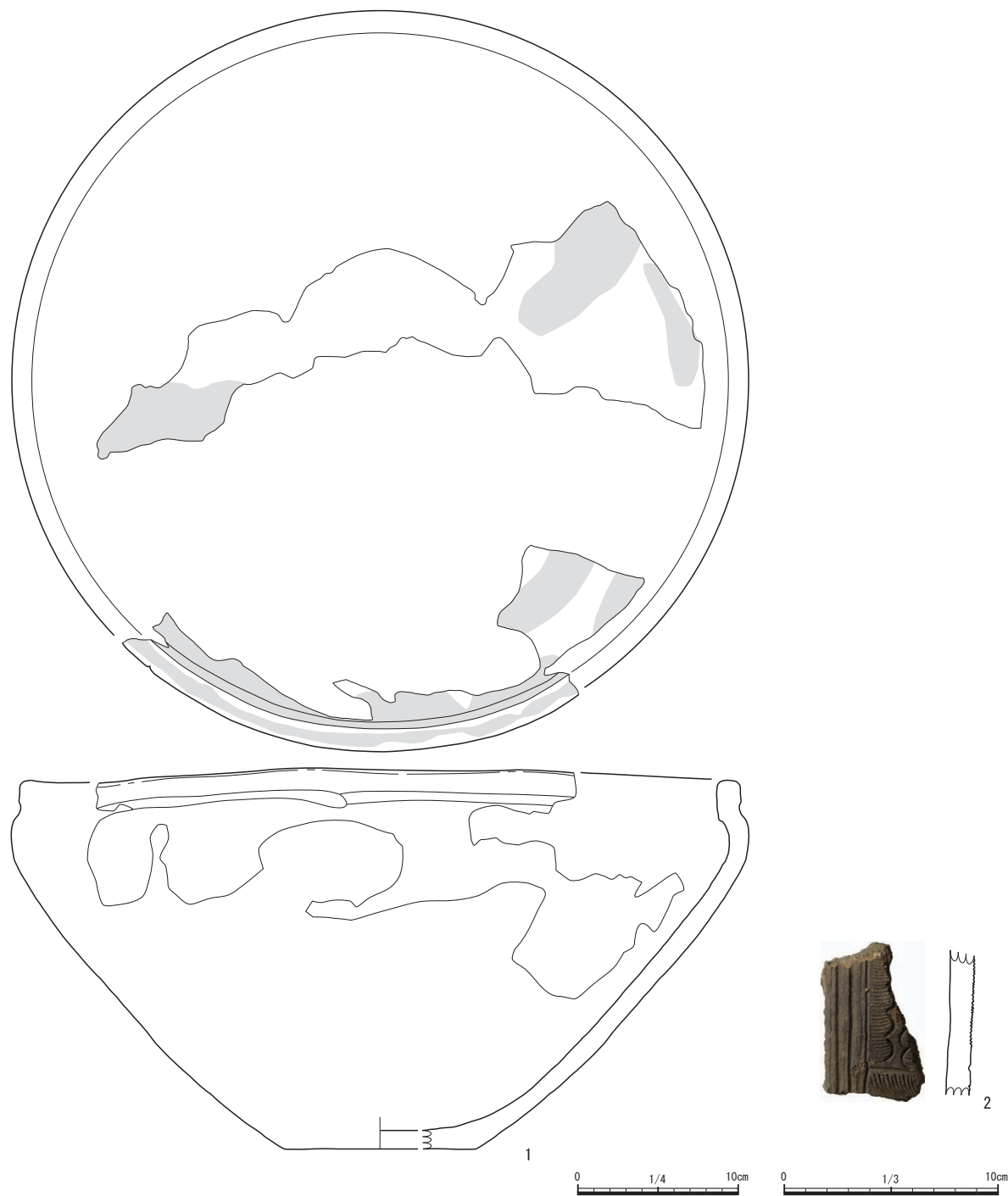
[検出状況] 117 J に切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸不明／短軸 1.69 m／深さ 24cm。長軸方向：N - 25° - W。壁：40°～50°で立ち上がる。

[覆土] ローム粒子を多量に含む暗茶褐色土を基調とする。

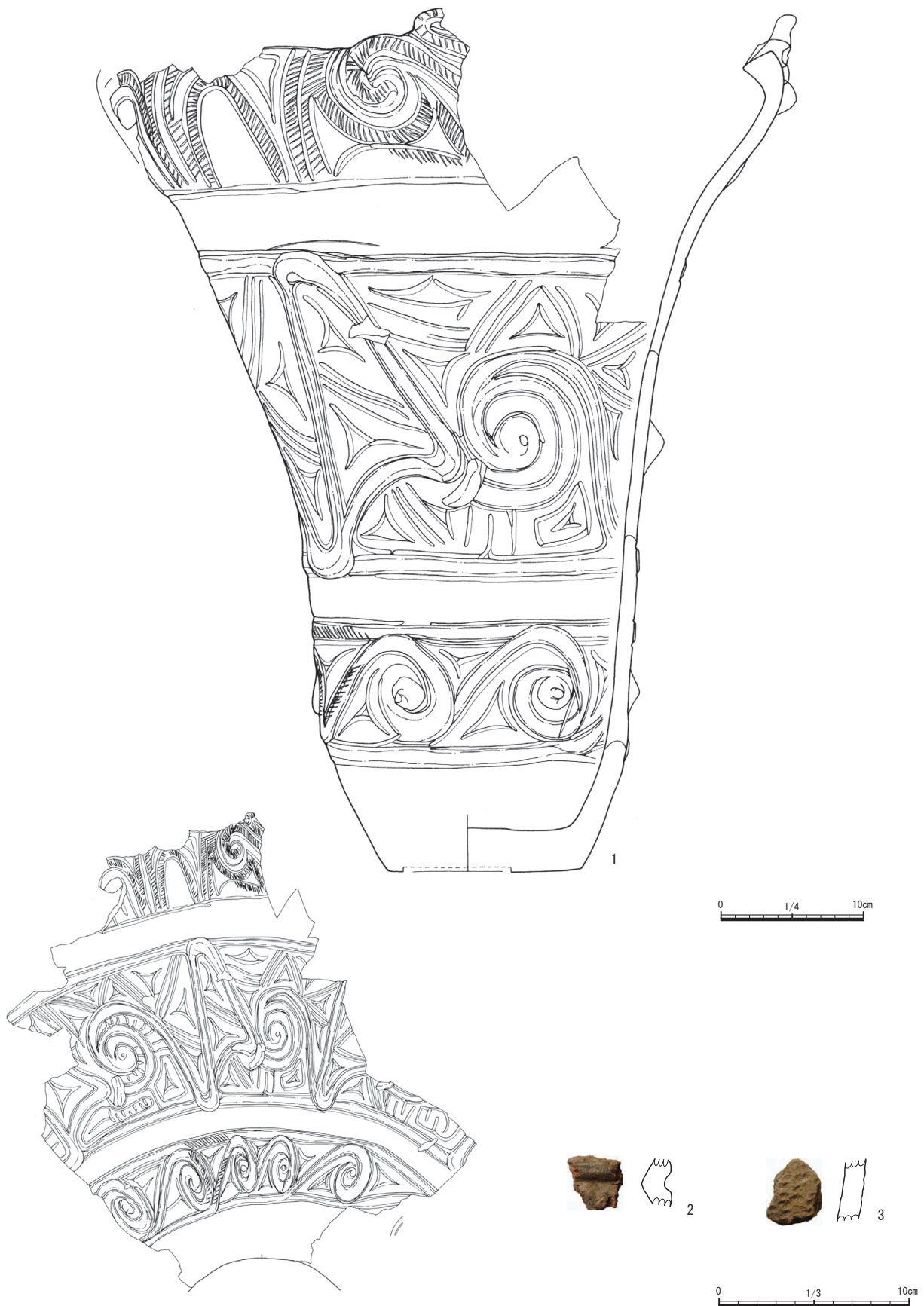
[時期] 不明

[遺物] 遺物は出土しなかった。



203号土坑出土遺物

第153図 縄文時代土坑出土遺物2 (1/4・1/3)



204号土坑出土遺物

第154図 縄文時代土坑出土遺物3 (1/4・1/3)



205号土坑出土遺物



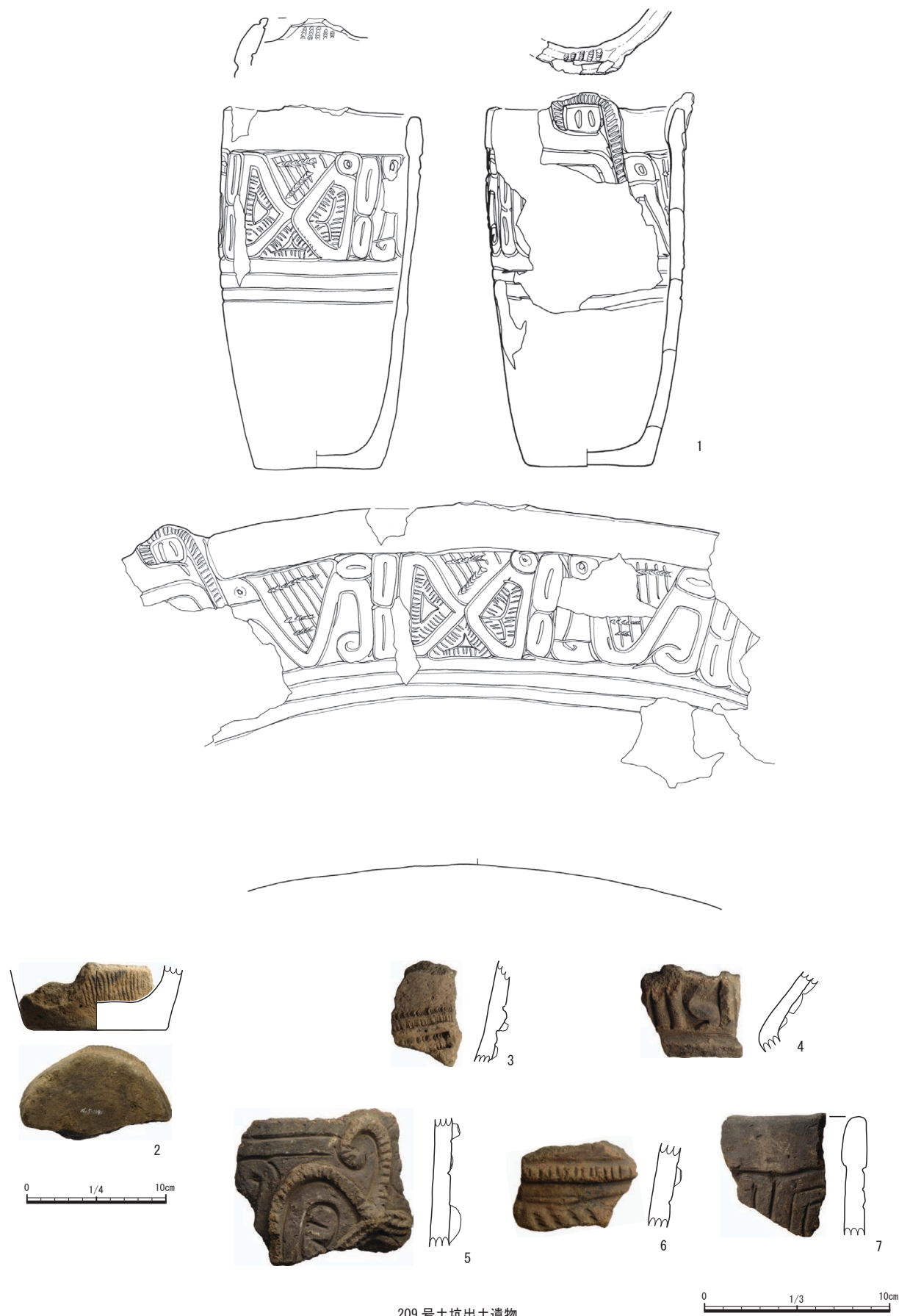
206号土坑出土遺物

第155図 縄文時代土坑出土遺物4 (1/4・1/3)



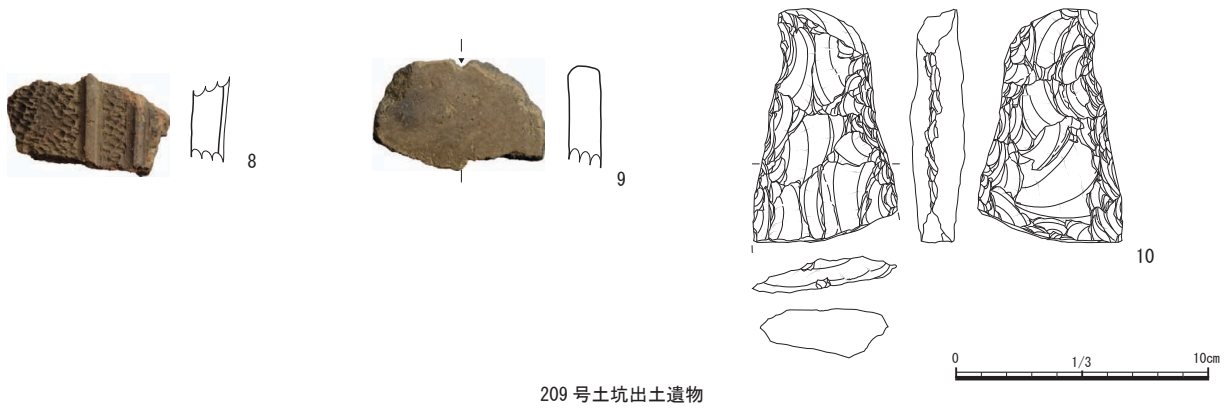
第156図 縄文時代土坑出土遺物5 (1/3)





209号土坑出土遺物

第157図 縄文時代土坑出土遺物6 (1/4・1/3)



209号土坑出土遺物

210号土坑出土遺物



211号土坑出土遺物

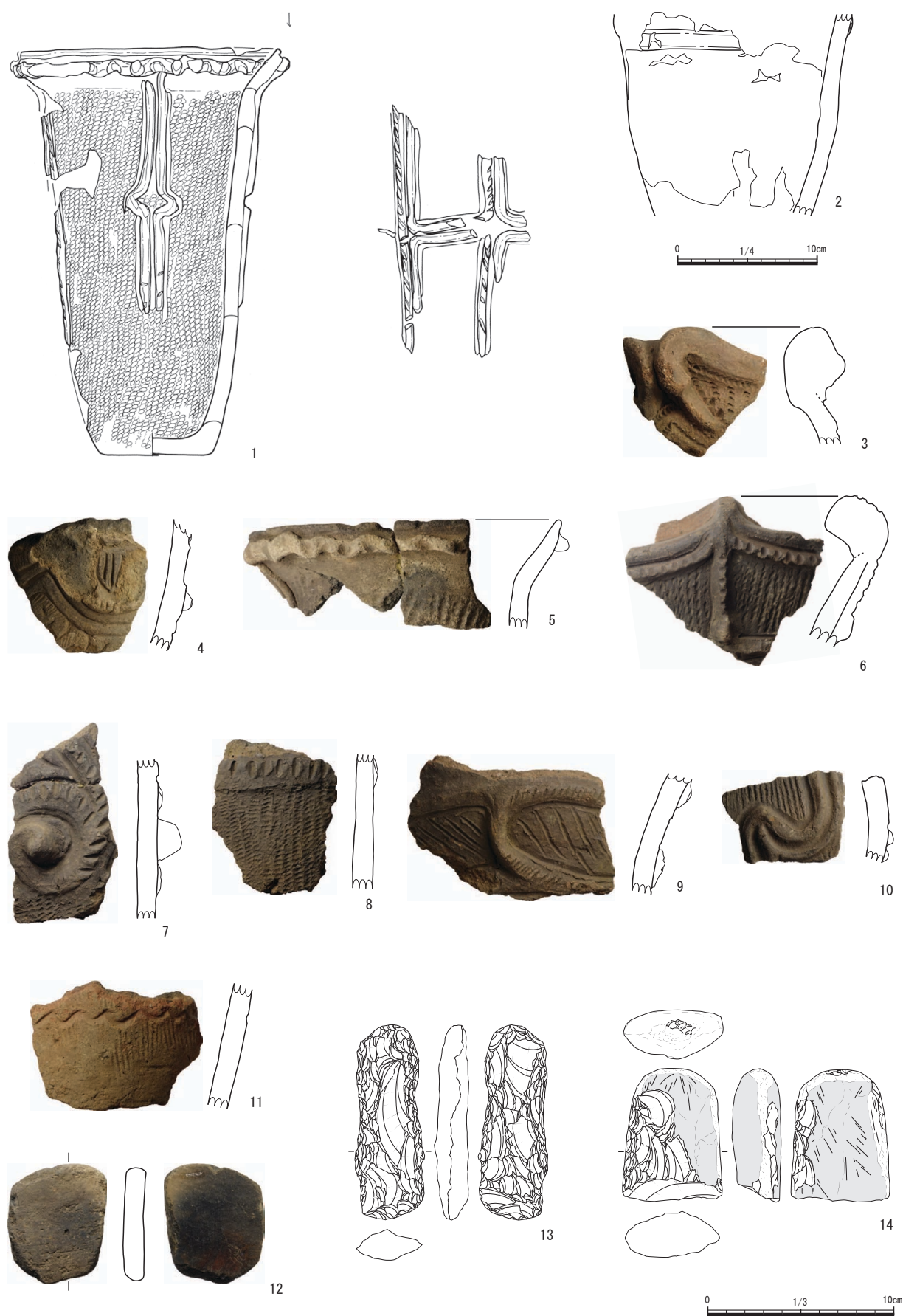


212号土坑出土遺物



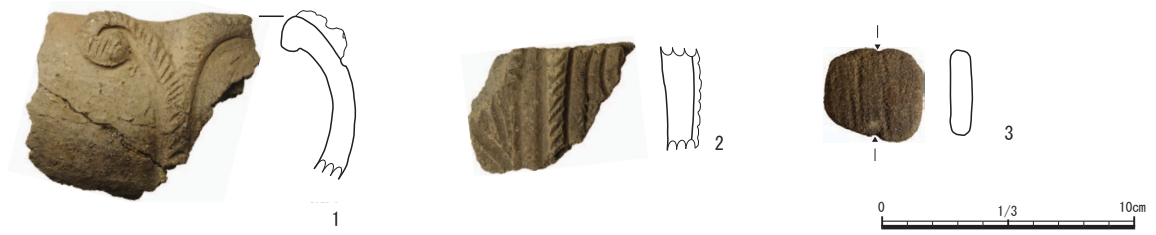
213号土坑出土遺物

第158図 縄文時代土坑出土遺物7 (1/3)

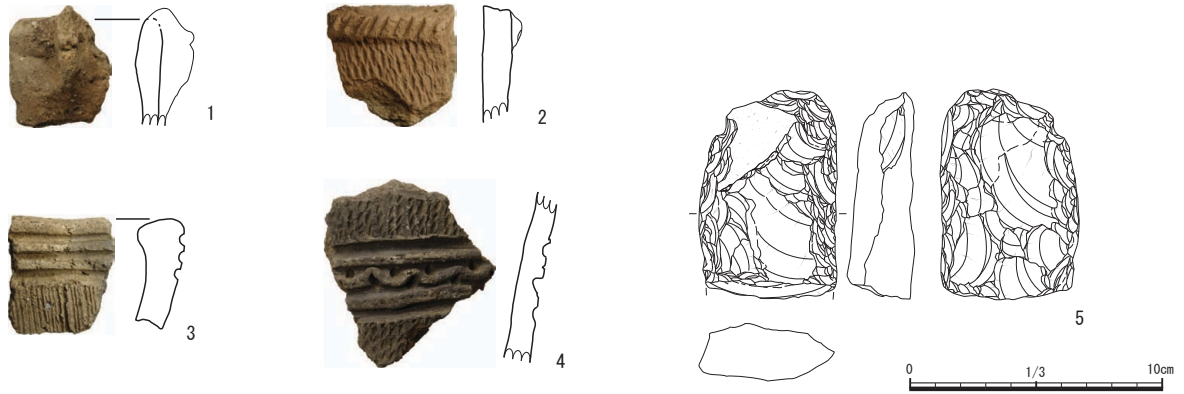


214号土坑出土遺物

第159図 縄文時代土坑出土遺物8 (1/4・1/3)



215号土坑出土遺物



216号土坑出土遺物



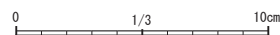
217号土坑出土遺物



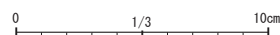
218号土坑出土遺物

第160図 縄文時代土坑出土遺物9 (1/3)

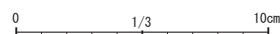
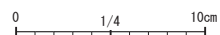
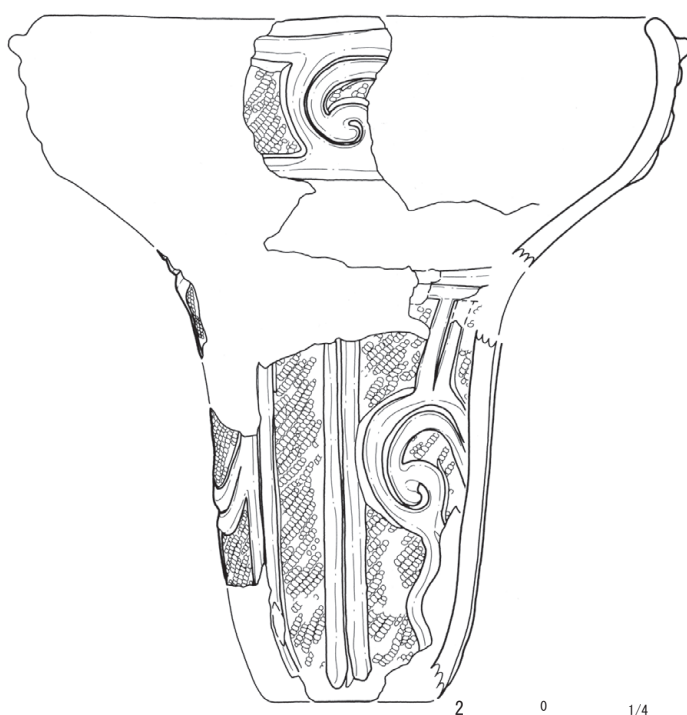
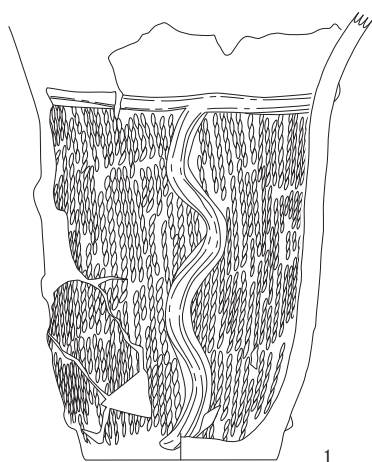




219号土坑出土遺物

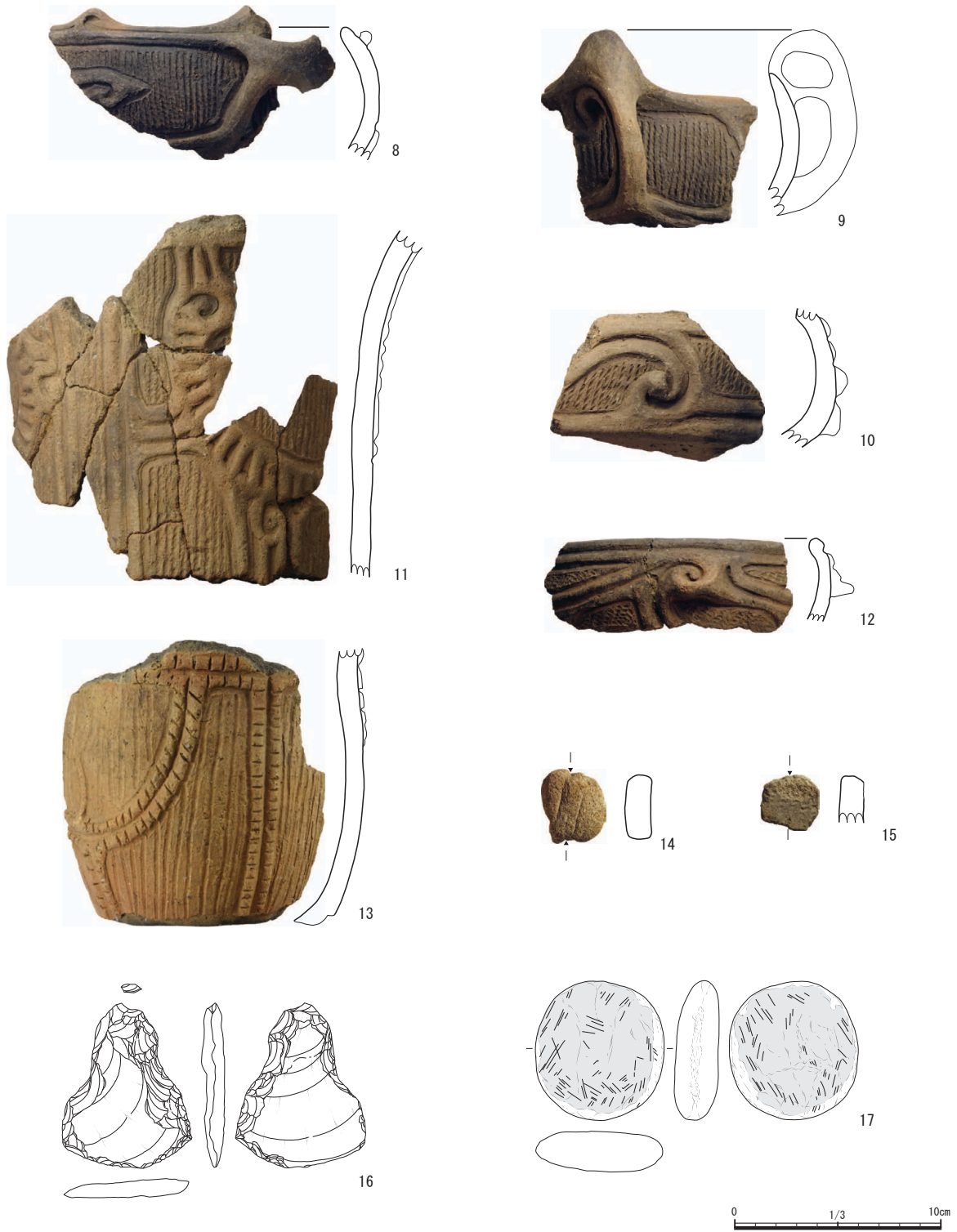


221号土坑出土遺物



222号土坑出土遺物

第161図 縄文時代土坑出土遺物 10 (1/4・1/3)

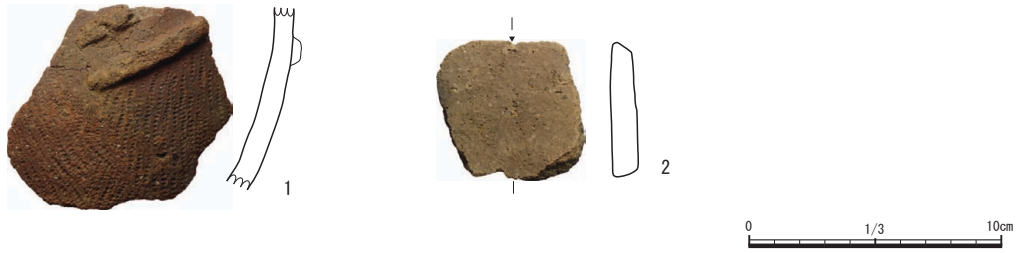


222号土坑出土遺物

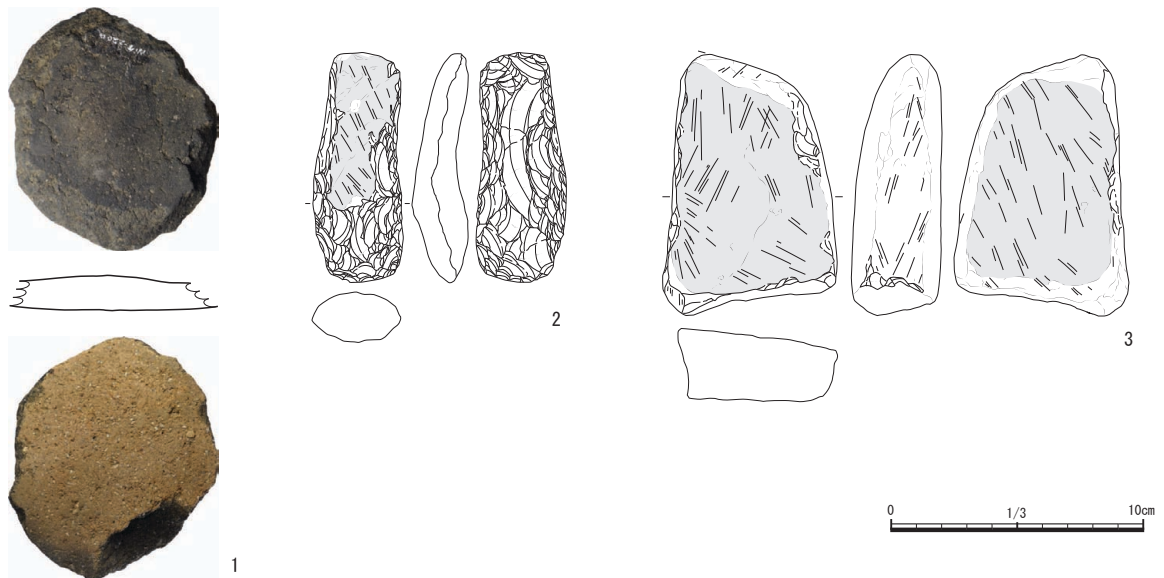


223号土坑出土遺物

第162図 縄文時代土坑出土遺物 11 (1/3)



225号土坑出土遺物



226号土坑出土遺物

第163図 縄文時代土坑出土遺物 12 (1/3)

| 挿図番号<br>図版番号      | 出土<br>遺構 | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態       | 法量<br>(cm)                                | 器形・形態  | 文様・特徴   | 胎土                                       | 時期<br>型式        |
|-------------------|----------|----------|------------------|---|--|---|--|-----------------|
| 第152図1<br>図版115-1 | 201D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片        | 厚 1.0                                     | 内湾し上位は直立<br>に立ち上がる口縁<br>部                            | 押圧文を付した隆帯による口縁部区画 / 隆帯内側に沿う 2<br>本 1 対の平行沈線 / 平行沈線による半円状の文様 | 明黄褐 / 砂<br>粒微量、礫<br>少量、雲母<br>多量          | 阿玉台<br>Ⅲ式       |
| 第152図2<br>図版115-2 | 201D     | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚 0.7                                     | やや外傾する胴部   | 地文は縦位沈線 / 押圧文を付した 2 本の隆帯が直状に垂下                              | 褐 / 砂粒・<br>礫微量                           | 曾利 I<br>式       |
| 第152図1<br>図版115-1 | 202D     | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚 1.2                                     | やや外傾する胴部   | 地文は単節 RL 縦位 / 2 本 1 対の直状の沈線が垂下 / 沈線間<br>磨消 / 磨消は沈線外側にもはみ出す  | にぶい褐 /<br>砂粒微量、<br>礫少量、赤<br>褐の粒を多<br>く含む | 加曾利<br>E3 式     |
| 第152図2<br>図版115-2 | 202D     | 深鉢       | 口縁部付<br>近<br>破片  | 厚 0.9                                     | 外傾する口縁部付<br>近  | 隆帯による渦巻文の一部か  | にぶい黄褐<br>/ 砂粒・礫<br>微量                    | 加曾利<br>E 式か     |
| 第152図2<br>図版115-3 | 202D     | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚 0.9                                     | ほぼ直立する胴部   | 地文は燃糸 L 縦位 / 2 本 1 対の沈線が直状に垂下 / 破片上<br>端下端にも横位沈線か           | にぶい黄橙<br>/ 砂粒少量、<br>礫微量                  | 中期後<br>葉        |
| 第153図1<br>図版116-1 | 203D     | 浅鉢       | 体部～底<br>部<br>10% | 高 (23.0)<br>口 (44.5)<br>底 (12.0)<br>厚 1.2 | 外傾して広がる<br>り、上位は内湾す<br>る体部 / 直立す<br>る口縁部 / 平坦な底<br>部 | 残存部外面無文 / 内側には赤色顔料による文様 / 底面網代<br>痕無し / 203D と 206D の遺構間接合  | 暗褐 / 砂粒<br>多量、礫微<br>量                    | 中期中<br>葉～後<br>葉 |
| 第153図2<br>図版115-2 | 203D     | 深鉢       | 胴部<br>破片         | 厚 1.1                                     | 直立する胴部   | 沈線による区画 (平行沈線か) / 区画内側に沿って爪形文施<br>文、内側に半円状刺突文施文             | 黒 / 砂粒・<br>礫少量                           | 勝坂 2b<br>式      |

第66表 縄文時代土坑出土土器一覧 1

| 挿図番号<br>図版番号            | 出土<br>遺構 | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)                                | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土                      | 時期<br>型式        |
|-------------------------|----------|----------|--------------------|---|--|--|-------------------------|-----------------|
| 第154図1<br>図版117・<br>118 | 204D     | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>60%  | 高 61.5<br>口 (48.2)<br>底 (13.4)<br>厚 1.2   | 胴部下位はやや外<br>傾斜、上位は強く<br>外反 / 口縁部は内<br>湾しながら外傾 /<br>口唇部は内側に肥<br>厚 / 底部は平坦 | 文様帯が口縁部・胴部中位・胴部下位にみられ、それぞれの間には無文帯あり / 口縁部に突起が1単位残存 / 口縁部文様帯には押圧文を付した隆帯による渦巻状の文様・沈線による逆U字状の文様・三叉文、沈線間には押圧文施文 / 胴部中位の文様帯は隆帯による三角状の区画と渦巻状の文様の組み合わせを1単位とした区画が2単位残存(元は3単位か)、渦巻状の文様の中心は突起状、周囲は沈線による区画を設け三叉文・交互沈線文・斜位沈線列で充填 / 胴部下位の文様帯は隆帯による渦巻状の文様が横位に連なる(渦巻状の文様は5単位)、周囲に三叉文を充填、一部隆帯上に押圧文施文 / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う(一部2本の沈線) | 橙 / 砂粒・<br>礫少量          | 勝坂 3b<br>古式     |
| 第154図2<br>図版119-2       | 204D     | 深鉢       | 頸部<br>破片           | 厚 1.1                                     | 括れる頸部  | 交互刺突文  | にぶい赤褐<br>/ 砂粒・礫<br>少量   | 勝坂 3<br>式       |
| 第154図3<br>図版119-3       | 204D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.1                                     | やや外傾する胴部   | 地文は単節 RL 縦位  | 明褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量   | 中期中<br>葉～後<br>葉 |
| 第155図1<br>図版119-1       | 205D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.0                                     | やや外傾する胴部   | 隆帯による区画か / 隆帯に沿って角押圧文施文  | 明褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量   | 勝坂 1<br>式       |
| 第155図2<br>図版119-2       | 205D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.2                                     | やや外傾する胴部   | 爪形文を付した隆帯 / 隆帯脇に爪形文が沿う / 隆帯断面カマボコ状   | 明褐 / 砂<br>粒・礫微量         | 勝坂 2<br>式       |
| 第155図3<br>図版119-3       | 205D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 0.9                                     | やや外傾する胴部   | 地文は単節 RL 縦位 / 押圧文を付した隆帯による区画、楕円状か / 隆帯断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒少<br>量、礫微量        | 勝坂 3<br>式       |
| 第155図4<br>図版119-4       | 205D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.2                                     | やや外反する胴部   | 押圧文を付した隆帯 / 隆帯の片側に沈線が沿う / 隆帯断面三角状  | 褐 / 砂粒・<br>礫少量          | 勝坂 3<br>式       |
| 第155図1<br>図版119-1       | 206D     | 浅鉢       | 体部～底<br>部<br>10%   | 高 (23.0)<br>口 (44.5)<br>底 (12.0)<br>厚 1.2 | 外傾して広がる<br>り、上位は内湾す<br>る体部 / 直立する<br>口縁部 / 平坦な底<br>部                     | 残存部外面無文 / 内側には赤色顔料による文様 / 底面網代痕無し / 203D と 206D の遺構間接合   | 暗褐 / 砂粒<br>多量、礫微<br>量   | 中期中<br>葉～後<br>葉 |
| 第156図2<br>図版119-2       | 206D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 0.9                                     | やや内湾する口縁部  | 口縁上部無文 / 幅広角押圧文を横位に施文  | 暗褐 / 砂粒<br>・礫微量         | 勝坂 1<br>式       |
| 第156図3<br>図版119-3       | 206D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.1                                     | ほぼ直立する胴部   | 2本1対の沈線によるV字状に文様、沈線間押圧文施文 / 中心に刺突文のある円形の文様   | 黒褐 / 砂粒<br>中央、礫微<br>量   | 勝坂 3<br>式       |
| 第156図4<br>図版119-4       | 206D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.1                                     | やや内湾する胴部   | 押圧文を付した隆帯で画す / 2本1対の沈線による文様、沈線間押圧文 / 隆帯断面カマボコ状   | 褐 / 砂粒・<br>礫微量          | 勝坂 3<br>式       |
| 第156図5<br>図版119-5       | 206D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.5                                     | ほぼ直立する胴部   | 押圧文を付した隆帯による区画 / 横位隆帯下端に押圧文施文 / 弧状の隆帯内側に沈線が沿う / 隆帯断面カマボコ状  | 黒褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量   | 勝坂 3<br>式       |
| 第156図6<br>図版119-6       | 206D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.0                                     | やや外傾する胴部   | 地文は単節 LR 縦位 / 沈線が1本直状に垂下   | 明赤褐 / 砂<br>粒中量、礫<br>微量  | 加曾利<br>E式       |
| 第156図1<br>図版119-1       | 207D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 1.1                                     | やや外傾する胴部   | 隆帯を横位に貼付、上端に弧状の隆帯、区画か / 隆帯に幅広角押圧文と角押圧文が沿う / 僅かに三角押圧文も見られる / 隆帯断面カマボコ状  | 明褐 / 砂<br>粒・礫微量         | 勝坂 1a<br>式      |
| 第156図2<br>図版119-2       | 207D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 0.7                                     | 上位はやや外反<br>し、下位は内湾す<br>る口縁部  | 口縁部上部に押圧文を付した半弧状の隆帯、突起の一部か / 口縁上部1cmは無文 / 押圧文を付した隆帯を弧状に貼付、周囲を沈線で充填 / 隆帯断面カマボコ状   | 橙 / 砂粒少<br>量、礫微量        | 勝坂 3<br>式       |
| 第156図3<br>図版119-3       | 207D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 0.7                                     | 内湾する口縁部、<br>突起部は外傾   | 口縁部に半円状の突起 / 突起部は隆帯による渦巻文 / 隆帯下位は沈線充填 / 隆帯断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒・<br>礫少量          | 勝坂 3<br>式       |
| 第156図4<br>図版119-4       | 207D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚 0.9                                     | ほぼ直立する胴部   | 沈線による区画か、内側に沈線による渦巻文   | 黒 / 砂粒少<br>量、礫微量        | 勝坂 3<br>式       |
| 第156図5<br>図版119-5       | 207D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚 1.0                                     | 内湾する口縁部  | 地文は擦糸 L 横位 / 口縁部上端は1本の隆帯で画す、下端は欠損 / 2本1対の隆帯を弧状に貼付 / 隆帯断面カマボコ状  | 黄褐 / 砂<br>粒・礫中量         | 加曾利<br>E1a式     |
| 第156図6<br>図版119-6       | 207D     | 深鉢       | 口縁部付<br>近～頸部<br>破片 | 厚 0.9                                     | 外反する頸部 / 内<br>湾する口縁部付近   | 地文は擦糸 L 縦位 / 口縁部は上端欠損、下端1本の隆帯で画す / 区画内2本1対の横位隆帯 / 縦位隆帯が複数口縁部区画下端隆帯に向かって直状に垂下 / 頸部無文 / 隆帯断面カマボコ状  | にぶい黄褐<br>/ 砂粒中量、<br>礫微量 | 加曾利<br>E1b式     |

第66表 縄文時代土坑出土土器一覧2



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号        | 出土<br>遺構 | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)                     | 器形・形態                                      | 文様・特徴   | 胎土               | 時期<br>型式 |
|---------------------|----------|----------|--------------------|--------------------------------|--|---|------------------|----------|
| 第156図7<br>図版119-7   | 207D     | 深鉢       | 底部付近<br>破片         | 厚0.8                           | やや外傾する胴部                                   | 地文は単節RL縦位/1本の隆帯が波状に垂下/隆帯断面カマボコ状/隆帯は上から押されたようにへこむ部分がある   | 明褐/砂粒・礫微量        | 加曾利E1c式  |
| 第156図8<br>図版119-8   | 207D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.8                           | やや外傾する胴部                                   | 地文は単節RL縦位/2本1対の隆帯が直状に垂下/断面カマボコ状   | にぶい黄橙/砂粒微量、礫少量   | 加曾利E1c式  |
| 第156図9<br>図版119-9   | 207D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.2                           | 外傾する口縁部                                    | 沈線による重弧文  | 黄褐/砂粒少量、礫微量      | 曾利Ⅲ式     |
| 第156図10<br>図版119-10 | 207D     | 鉢        | 口縁部付<br>近破片        | 厚1.3                           | 内湾する口縁部                                    | 地文は縦位条線文/幅広の横位沈線で区画、上位は無文   | 黒/砂粒・礫微量         | 加曾利E3式   |
| 第156図1<br>図版120-1   | 208D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.4                           | 上位が外傾する口縁部/口唇部は外面に肥厚                       | 口縁に1本の沈線と押圧文が沿う/縦位の複数の沈線と条線文/208D-1、2は同一個体  | 明褐/砂粒少量、礫多量、雲母多量 | 阿玉台Ⅲ式か   |
| 第156図2<br>図版120-2   | 208D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0                           | 外傾する胴部                                     | 沈線による渦巻文/渦巻文横に沈線を縦位に施文/渦巻文下位に条線文充填/208D-1、2は同一個体  | 明褐/砂粒少量、礫多量、雲母多量 | 阿玉台Ⅲ式か   |
| 第156図3<br>図版120-3   | 208D     | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚1.1                           | 内湾する口縁部/口唇部は内側に肥厚                          | 口縁部無文/頸部に押圧文を付した隆帯を1本横位に貼付/隆帯断面カマボコ状/隆帯下端1本の単沈線が沿う/208D-3、4は同一個体の可能性あり  | 明褐/砂粒少量、礫微量      | 勝坂3b古式   |
| 第156図4<br>図版120-4   | 208D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1                           | 外反する胴部                                     | 押圧文を付した隆帯による区画/沈線による渦巻文、周囲に押圧文充填/隆帯脇1本又は2本の沈線が沿う/沈線には押圧文が沿う/208D-3、4は同一個体の可能性あり   | 明褐/砂粒・礫微量        | 勝坂3b古式   |
| 第156図5<br>図版120-5   | 208D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1                           | 内湾する胴部                                     | 押圧文を付した弧状の隆帯/沈線による三角状の区画、区画内三叉文、周囲に押圧文充填/隆帯には1本の単沈線が沿う  | 明褐/砂粒・礫中量        | 勝坂3b古式   |
| 第157図1<br>図版120-1   | 209D     | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>90%  | 高27.0<br>口14.1<br>底9.0<br>厚1.0 | 円筒形/下位はやや外傾し、上位はほぼ直立する胴部/直立する口縁部/口唇部は内側に肥厚 | 口縁部に突起が1単位あり/突起外面には沈線による長方形区画の中心に2本の縦位沈線を施す、押圧文を付した隆帯が周囲を巡り先端は胴部に垂下/突起内面には三角押文列を施文/突起の対面にも突起があったか/口縁部無文/胴部上半に文様帯、下半の無文部分とは横位平行沈線で画す/文様体内は平行沈線による区画と文様、三角状の区画中央に三叉文を付し周囲に押圧文充填、三角状の区画内に平行沈線を斜位に充填後三角押文を横位に施文 | 暗赤褐/砂粒少量、礫微量     | 勝坂3b古式   |
| 第157図2<br>図版120-2   | 209D     | 深鉢       | 胴部下位～<br>底部<br>50% | 高[4.3]<br>底(10.0)<br>厚1.3      | やや外傾する胴部/平坦な底部                             | 地文は燃糸R縦位/底面に網代痕無し   | 明褐/砂粒中量、礫微量      | 中期中葉～後葉  |
| 第157図3<br>図版120-3   | 209D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.8                           | やや外傾する胴部                                   | 隆帯による楕円形又は長方形の区画/2列の角押文   | 褐/砂粒少量、礫微量       | 阿玉台Ⅱ式    |
| 第157図4<br>図版120-4   | 209D     | 深鉢       | 口縁部下<br>位～頸部<br>破片 | 厚0.7                           | 括れる頸部/外傾する口縁部下位                            | 1本の隆帯が波状に垂下/波状の隆帯に左右に直状の隆帯が垂下/隆帯断面カマボコ状(直状の隆帯)、カマボコ状～三角状(波状の隆帯)/左側直状の隆帯は半截竹管状工具で上から押さえて貼付   | 暗褐/砂粒中量、礫微量      | 勝坂3b新式   |
| 第157図5<br>図版120-5   | 209D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9                           | ほぼ直立する胴部                                   | 押圧文又は2列の三角押文を付した隆帯による文様/横位の平行沈線/平行沈線による9字状の文様/隆帯内側に沈線が沿い、中央に交互沈線文施文/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う  | 黒褐/砂粒少量、礫微量      | 勝坂3b式    |
| 第157図6<br>図版120-6   | 209D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0                           | やや外傾する胴部                                   | 押圧文を付した隆帯を横位に貼付/隆帯脇2本の沈線が沿う/沈線下位に三角押文を数列斜位に施文/隆帯断面カマボコ状   | 褐/砂粒中量、礫微量       | 勝坂3b式    |
| 第157図7<br>図版120-7   | 209D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.1                           | ほぼ直立する口縁部                                  | 口縁上位無文/平行沈線による文様・区画/区画内には区画に沿って沈線施文   | 黒褐/砂粒少量、礫微量      | 勝坂3式     |
| 第158図8<br>図版120-8   | 209D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.2                           | ほぼ直立する胴部                                   | 地文は単節RL縦位/2本1対の隆帯が直状に垂下/断面台形状   | 暗褐/砂粒中量、礫微量      | 加曾利E1c式  |
| 第158図1<br>図版121-1   | 210D     | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚1.1                           | 外反する頸部/内湾する口縁部                             | 地文は燃糸L縦位/口縁部に半円形の突起あり(1単位残存)/口縁部は隆帯によって画す、上端1本、下端1本/2本1対の隆帯による弧状文、先端に渦巻文/渦巻文下位から隆帯が左右に1本ずつ伸びる/頸部無文/破片下端に僅かに横位隆帯が見られる/隆帯断面カマボコ状/内面の調整は粗く、粘土帯の痕跡が見られる   | にぶい黄褐/砂粒少量、礫微量   | 加曾利E1b式  |
| 第158図1<br>図版121-1   | 211D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1                           | やや外反する胴部                                   | 地文は燃糸L縦位/1本の隆帯を横位に貼付/隆帯断面カマボコ状  | 橙/砂粒中量、礫微量       | 加曾利E1式   |

第66表 縄文時代土坑出土土器一覧3

| 挿図番号<br>図版番号            | 出土<br>遺構 | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)                       | 器形・形態                | 文様・特徴  | 胎土                    | 時期<br>型式   |
|-------------------------|----------|----------|--------------------|----------------------------------|----------------------|--|-----------------------|------------|
| 第158図2<br>図版121-2       | 211D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9                             | やや外傾する胴部             | 地文は単節RL縦位/1本の沈線が直状に垂下/1本の沈線が波状に垂下  | 橙/砂粒少量、礫微量            | 加曾利E2式     |
| 第158図1<br>図版121-1       | 212D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.2                             | 外反する胴部               | 押圧文を付した1本の横位隆帯、上位に弧状の隆帯/隆帯断面カマボコ状/隆帯脇に1本の単沈線が沿う  | 明褐/砂粒微量、礫中量           | 勝坂3式       |
| 第158図2<br>図版121-2       | 212D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9                             | 外傾する胴部               | 地文は燃糸L縦位/3本の沈線を横位に施文   | 明褐/砂粒・礫微量             | 中期後葉       |
| 第158図1<br>図版121-1       | 213D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.8                             | 内湾する口縁部              | 地文は燃糸L横位/口縁部に突起あり/突起下位から隆帯が2本垂下/隆帯断面カマボコ状  | 赤褐/砂粒・礫微量             | 加曾利E1b式    |
| 第158図2<br>図版121-2       | 213D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0                             | 外反する胴部               | 地文は縦位条線文/2本1対の隆帯が直状に垂下/隆帯断面カマボコ状   | 赤褐/砂粒少量、礫多量           | 曾利Ⅲ式       |
| 第159図1<br>図版121-1       | 214D     | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>80%  | 高29.4<br>口(18.8)<br>底8.5<br>厚0.9 | 外傾する胴部/外反する口縁部/平坦な底部 | 地文は単節RL斜位/口縁部に押圧文を付した隆帯が1本横走/押圧文を付した隆帯による十字状の文様2単位、十字が2つ繋がった文様1単位/底面に網代痕無し                         | 明褐～灰黄褐/砂粒中量、礫微量       | 勝坂3b<br>新式 |
| 第159図2<br>図版121-2       | 214D     | 深鉢       | 胴部<br>40%          | 高[14.3]<br>厚1.3                  | 内湾する胴部               | 上端に押圧文を付した1本の隆帯が横走/隆帯上位に僅かに沈線による文様が見られる/隆帯下位は無文/隆帯断面カマボコ状  | 暗赤褐/砂粒・礫微量、赤色の粒子を多く含む | 勝坂3式       |
| 第159図3<br>図版121-3       | 214D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.0                             | 上位はやや外反、下位は内湾する口縁部   | 口縁部に突起あり/突起下位から隆帯が伸び区画を形成/隆帯に沿って三角押圧文/区画内三角文列を斜位に充填/隆帯断面三角状  | 明褐/砂粒中量、礫微量、雲母中量      | 勝坂1b式      |
| 第159図4<br>図版121-4       | 214D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0                             | やや外傾する胴部             | 押圧文を付した隆帯による区画/区画内縦位沈線充填、沈線による渦巻文等の文様を施し沈線間押圧文充填/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇平行沈線が沿う                              | にぶい黄褐/砂粒中量、礫微量        | 勝坂3a式      |
| 第159図5<br>図版121-5       | 214D     | 深鉢       | 口縁部～<br>胴部上位<br>破片 | 厚0.9                             | やや外反する胴部上位/外傾する口縁部   | 地文は単節RL縦位/押圧文を付した1本の隆帯が口縁に沿う/隆帯下位2cm程無文/2本1対の隆帯が直状に垂下/隆帯断面カマボコ状                                    | 暗褐/砂粒中量、礫微量           | 勝坂3b<br>新式 |
| 第159図6<br>図版121-6       | 214D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.9                             | 外傾する口縁部/口唇部は内側に肥厚    | 口縁部に沈線と押圧文を付した隆帯が沿う/口縁波頂部から1本の押圧文を付した隆帯が直状に垂下、下端は突起状/破片下端に横位隆帯/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇などで付けて貼付、一部単沈線が沿う      | 黒褐/砂筒中量、礫微量           | 勝坂3b<br>新式 |
| 第159図7<br>図版121-7       | 214D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0                             | ほぼ直立する胴部             | 地文は0段多条RL斜位/一部に押圧文を付した隆帯による渦巻文、渦巻文の中心部は突起状/隆帯断面カマボコ状/214D-7、8は同一個体の可能性あり                           | 黒褐/砂粒中量、礫微量           | 勝坂3b式      |
| 第159図8<br>図版121-8       | 214D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0                             | ほぼ直立する胴部             | 地文は0段多条RL斜位/押圧文を付した隆帯を横位に貼付/隆帯断面扁平な角状/214D-7、8は同一個体の可能性あり  | 黒褐/砂粒中量、礫微量           | 勝坂3b式      |
| 第159図9<br>図版121-9       | 214D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1                             | 外傾する胴部               | 横位の隆帯を2本貼付し、隆帯間にC字状の隆帯を貼付し楕円状の区画を形成/楕円状区画の隆帯上には押圧文を付す/区画内には斜位沈線を充填/隆帯断面カマボコ状～三角状、隆帯脇1本の単沈線が沿う、沈線無し | 暗褐/砂粒中量、礫微量           | 勝坂3b式      |
| 第159図<br>10<br>図版122-10 | 214D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0                             | やや内湾する胴部             | 地文は燃糸R縦位/隆帯による文様   | 暗褐/砂粒少量、礫微量           | 加曾利E1式か    |
| 第159図<br>11<br>図版122-11 | 214D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1                             | やや外傾する胴部             | 地文は無節L斜位/1本の横位波状沈線施文   | 明褐/砂粒少量、礫微量           | 中期中葉       |
| 第160図1<br>図版122-1       | 215D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.9                             | 内湾する口縁部/内側に肥厚する口唇部   | 押圧文を付した隆帯をY字状に貼付/隆帯断面台形～カマボコ状、隆帯脇1本の単沈線が沿う   | にぶい黄橙/砂粒・礫少量          | 勝坂3式       |
| 第160図2<br>図版122-2       | 215D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1                             | ほぼ直立する胴部             | 押圧文を付した隆帯が1本直状に垂下/隆帯の左右には沈線による文様・区画施文か/隆帯断面カマボコ状、隆帯に2本の沈線が沿う                                       | 暗褐/砂粒・礫少量             | 勝坂3式       |
| 第160図1<br>図版122-1       | 216D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.7                             | ほぼ直立する口縁部            | 粘土帯を横位に貼付し成形した突起   | 褐/砂粒・礫少量、雲母多量         | 阿玉台1a～b式   |
| 第160図2<br>図版122-2       | 216D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9                             | ほぼ直立する胴部             | 地文は燃糸L縦位/押圧文を付した隆帯を1本横位に貼付/隆帯断面カマボコ状   | 赤褐/砂粒少量、礫微量           | 勝坂3b式      |
| 第160図3<br>図版122-3       | 216D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.2                             | 外傾する口縁部/口唇部は内側に肥厚    | 地文は縦位条線文/口縁に3本の沈線が沿う   | にぶい黄褐/砂粒多量、礫微量        | 連弧文2b段階    |
| 第160図4<br>図版122-4       | 216D     | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9                             | 外傾する胴部               | 地文は燃糸L縦位/沈線を横位に施文/沈線上に刺突文を交互に付し、蛇行文状に成形  | 黒褐/砂粒中量、礫少量           | 連弧文2段階     |

第66表 縄文時代土坑出土土器一覽4

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号            | 出土<br>遺構 | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態        | 法量<br>(cm)                             | 器形・形態  | 文様・特徴   | 胎土                   | 時期<br>型式           |
|-------------------------|----------|----------|-------------------|--|--|---|----------------------|--------------------|
| 第160図1<br>図版122-1       | 217D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚0.9                                   | ほぼ直立する口縁部  | 地文は燃糸L縦位/口縁部に沿って背の高い隆帯を貼付し中央に横位沈線を付す  | 褐/砂粒少量、礫微量           | 勝坂3b<br>新式         |
| 第160図2<br>図版122-2       | 217D     | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片  | 厚1.2                                   | 外反する頸部、内湾する口縁部   | 地文は単節RL縦位/口縁部は隆帯によって画す、上端1本、下端1本/区画内隆帯による渦巻文/頸部無文/破片下端に横位沈線   | 黒褐/砂粒中量、礫微量、1cm程の礫あり | 加曾利<br>E2a式        |
| 第160図3<br>図版122-3       | 217D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚1.0                                   | 内湾する口縁部  | 地文は縦位条線文/隆帯による口縁部区画、上端1本/隆帯を弧状に貼付/隆帯断面カマボコ状   | 黒褐/砂粒少量、礫微量          | 加曾利<br>E2式         |
| 第160図4<br>図版122-4       | 217D     | 浅鉢       | 体部<br>破片          | 厚0.9                                   | 内湾する体部   | 隆帯を環状に貼付、隆帯上三角押文充填/環状の隆帯右側には縦位沈線、左側には隆帯に沿って押圧文施文/隆帯断面台形状/破片下位は無文  | にぶい黄褐/砂粒少量、礫微量       | 勝坂3<br>式           |
| 第160図1<br>図版122-1       | 218D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚1.0                                   | ほぼ直立する口縁部  | 地文は単節RL縦位/口縁に沿って1本の沈線施文/沈線上位無文  | にぶい黄褐/砂粒中量、礫微量       | 勝坂3<br>～加曾利<br>E1式 |
| 第161図1<br>図版122-1       | 219D     | 深鉢       | 胴部<br>破片          | 厚1.2                                   | ほぼ直立する胴部   | 押圧文を付した1本の隆帯が直状に垂下/沈線による文様、沈線間に押圧文施文/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇平行沈線が沿う   | 赤褐/砂粒中量、礫微量          | 勝坂3<br>式           |
| 第161図2<br>図版122-2       | 219D     | 浅鉢       | 体部<br>破片          | 厚1.4                                   | 内湾する体部   | 沈線による文様施文/破片下端に爪形文施文  | 褐/砂粒中量、礫微量           | 勝坂3<br>式           |
| 第161図1<br>図版122-1       | 221D     | 深鉢       | 胴部<br>破片          | 厚1.1                                   | ほぼ直立する胴部   | 爪形文を付した半隆帯が直状に垂下/半隆帯に沿って押圧文施文、施文した押圧文の上に半円形の刺突文を付す/半隆帯には1本の単沈線が沿う   | 明褐/砂粒中量、礫微量          | 勝坂2b<br>式          |
| 第161図2<br>図版122-2       | 221D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚0.9                                   | 内湾する口縁部/<br>口唇部は内側に肥厚                                  | 口縁部上部に隆帯を円形に貼付、突起状/隆帯断面カマボコ状  | にぶい黄褐<br>～黒/砂粒中量、礫少量 | 勝坂3<br>式           |
| 第161図1<br>図版123-1       | 222D     | 深鉢       | 頸部～底<br>部<br>80%  | 高 [23.2]<br>底 10.2<br>厚 1.0            | キャリパー形か/<br>外反する頸部/<br>下位は内湾し上位は<br>ほぼ直立する胴部/<br>平坦な底面 | 地文は燃糸L縦位/頸部と胴部を1本の隆帯で画す/胴部に4本の隆帯が波状に垂下/隆帯断面カマボコ状  | にぶい黄褐<br>/砂粒中量、礫微量   | 加曾利<br>E1b式        |
| 第161図2<br>図版123-2       | 222D     | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>30% | 高 35.7<br>口 (31.4)<br>底 (9.0)<br>厚 1.0 | キャリパー形/<br>やや内湾する胴部/<br>括れる頸部/<br>内湾する口縁部              | 地文は単節RL縦位/口縁部は隆帯によって画す、上端1本、下端1本/口縁部区画内には2本1対の隆帯による渦巻文/頸部無文/頸部と胴部を2本1対の横走する隆帯で画す/左右に2本1対の隆帯が垂下、間に2本1対の隆帯による渦巻状の文様、渦巻状の文様に2本1対の隆帯が直状に垂下・1本の隆帯が波状に垂下・渦巻部分から1本の隆帯が波状に垂下/ほぼ欠損しているが渦巻状の文様は対面にも1単位あると思われる/隆帯断面カマボコ状 | 橙/砂粒中量、礫少量           | 加曾利<br>E1b式        |
| 第161図3<br>図版123-3       | 222D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚0.7                                   | 内湾する口縁部  | 口唇部に押引文を1列施文/口縁に沿って押圧文、角押文を付す/3列の角押文を波状に施文  | 明褐/砂粒・礫微量、雲母中量       | 阿玉台<br>I b式        |
| 第161図4<br>図版123-4       | 222D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚1.0                                   | ほぼ直立する口縁部  | 隆帯によるY字状の突起、突起右側には縦位沈線  | 黒褐/砂粒中量、礫微量          | 勝坂3b<br>式          |
| 第161図5<br>図版123-5       | 222D     | 深鉢       | 胴部<br>破片          | 厚1.1                                   | やや外反する胴部   | 押圧文を付した隆帯を横位に貼付、上位に弧状の隆帯を貼付、楕円状の区画か/区画内側に2本1対の沈線が沿う/区画内縦位沈線充填/隆帯断面カマボコ状、台形状   | 灰黄褐/砂粒少量、礫微量         | 勝坂3b<br>式          |
| 第161図6<br>図版123-6       | 222D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚0.9                                   | やや外傾する口縁部  | 波頂部に隆帯による渦巻文/内面波頂部には楕円形の窪み/浅鉢の可能性あり   | 明赤褐/砂粒・礫少量           | 勝坂3<br>式           |
| 第161図7<br>図版123-7       | 222D     | 深鉢       | 胴部<br>破片          | 厚1.3                                   | ほぼ直立する胴部   | 押圧文を付した隆帯を斜位に貼付/三叉文と思われる文様/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇2本の沈線が沿う  | 暗褐/砂粒中量、礫微量          | 勝坂3<br>式           |
| 第162図8<br>図版123-8       | 222D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚0.7                                   | 内湾する口縁部  | 地文は燃糸R縦位/橋状把手1単位残存/口縁部に三角状の小突起、沈線による渦巻文を付し沈線は横位に伸びる/隆帯による口縁部区画/区画内に2本1対の隆帯による文様、端部は三角状/隆帯断面カマボコ状/222D-8、9は同一個体の可能性あり  | 黒褐/砂粒少量、礫微量          | 加曾利<br>E1b式        |
| 第162図9<br>図版123-9       | 222D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚0.8                                   | 内湾する口縁部  | 地文は燃糸R縦位/橋状把手1単位残存、把手先端の突起状の部分は左右に孔があり貫通/隆帯による口縁部区画/222D-8、9は同一個体の可能性あり   | 黒褐/砂粒少量、礫微量          | 加曾利<br>E1b式        |
| 第162図<br>10<br>図版123-10 | 222D     | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片  | 厚0.9                                   | 内湾する口縁部  | 地文は燃糸L縦位/隆帯によって口縁部を画す、上端隆帯1本、下端隆帯1本/2本1対の隆帯による渦巻文/頸部無文/隆帯断面カマボコ状  | にぶい褐/<br>砂粒少量、礫微量    | 加曾利<br>E1b式        |
| 第162図<br>11<br>図版123-11 | 222D     | 深鉢       | 胴部<br>破片          | 厚0.8                                   | 上位は外反し下位はほぼ直立する胴部                                      | 地文は燃糸L縦位/2本の隆帯を弧状に貼付、先端は渦巻状、2本の隆帯間には短い隆帯を梯子状に貼付/直状に垂下する隆帯/隆帯断面カマボコ状/内面下端に黒色の付着物が帯状に残存   | 明褐/砂粒少量、礫微量          | 加曾利<br>E1b式        |

第66表 縄文時代土坑出土土器一覧5



| 挿図番号<br>図版番号            | 出土<br>遺構 | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態        | 法量<br>(cm) | 器形・形態                      | 文様・特徴  | 胎土  | 時期<br>型式          |
|-------------------------|----------|----------|-------------------|------------|----------------------------|--|---|-------------------|
| 第162図<br>12<br>図版123-12 | 222D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚0.6       | 内湾する口縁部                    | 地文は単節RL縦位/隆帯による口縁部区画/突起に渦巻<br>文施文/区画内2本1対の隆帯による文様/隆帯断面カマ<br>ボコ状、台形状  | 褐/砂粒・<br>礫微量                              | 加曾利<br>E1c～<br>2式 |
| 第162図<br>13<br>図版124-13 | 222D     | 深鉢       | 頸部～底<br>部付近<br>破片 | 厚1.0       | 内湾する胴部/外<br>反する頸部          | 地文は縦位沈線/頸部に押圧文を付した隆帯が巡る/頸部<br>隆帯から押圧文を付した2本の隆帯が直状に垂下/押圧文<br>を付した2本の隆帯を弧状に貼付し、下端の隆帯から2本<br>の隆帯が直状に垂下/頸部から1本の隆帯が弧状の隆帯に<br>向かって波状に垂下/隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本<br>の単沈線が沿う/隆帯貼付後に地文の沈線施文 | 橙/砂粒少<br>量、礫微量                            | 曾利I<br>式          |
| 第162図1<br>図版124-1       | 223D     | 深鉢       | 口縁部<br>破片         | 厚1.1       | 上位はほぼ直立し<br>下位は内湾する口<br>縁部 | 波状口縁又は突起のある口縁部/口縁部に沿って押圧文施<br>文/2列の結節沈線が口縁部に沿う/2列の結節沈線による<br>弧状の文様   | 黒褐/砂粒<br>少量、礫微<br>量、雲母多量                  | 阿玉台<br>II式        |
| 第162図2<br>図版124-2       | 223D     | 深鉢       | 胴部<br>破片          | 厚1.1       | やや外傾する胴部                   | 平行沈線による区画か/沈線に沿って爪形文施文、2列の<br>爪形文の間は三叉文か   | 灰黄褐/砂<br>粒・礫微量                            | 勝坂3<br>式          |
| 第162図3<br>図版124-3       | 223D     | 深鉢       | 胴部<br>破片          | 厚1.0       | ほぼ直立する胴部                   | 地文は単節LR横位施文後単節RL横位施文/爪形文を付した<br>隆帯を1本横位に貼付/隆帯上位無文、下位縄文施文/<br>隆帯断面カマボコ状   | 明赤褐/砂<br>粒中量、礫<br>微量                      | 勝坂3<br>式          |
| 第163図1<br>図版124-1       | 225D     | 深鉢       | 胴部<br>破片          | 厚0.9       | 内湾する胴部                     | 地文は単節RL斜位/押圧文を付した隆帯2本を斜位に貼<br>付/隆帯断面台形状  | 赤褐/砂粒<br>中量、礫微<br>量                       | 勝坂3<br>式          |
| 第163図1<br>図版124-1       | 226D     | 不明       | 底部<br>破片          | 厚1.3       | 平坦な底部                      | 網代痕無し  | 明褐(外面)<br>黒(内面)/<br>砂粒多量、<br>礫微量、雲<br>母多量 | 中期中<br>葉～後<br>葉   |

第66表 縄文時代土坑出土土器一覽6

| 挿図番号<br>図版番号        | 出土<br>位置 | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴                                     | 胎土                     | 時期<br>型式    |
|---------------------|----------|----------|----------|-----------------|-----------|--|------------------------|-------------|
| 第156図11<br>図版119-11 | 207D     | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.4/3.1/1.1     | 16.8      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/条<br>線文施文      | 赤褐/砂粒・礫<br>中量          | 中期後葉        |
| 第158図9<br>図版120-9   | 209D     | 土器<br>片錘 | 50%      | 4.3/[6.7]/1.2   | 45.1      | 円形か/挾部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利<br>用/無文      | 褐/砂粒少量、<br>礫微量         | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第159図12<br>図版122-12 | 214D     | 土製<br>円盤 | 90%      | 6.2/5.3/1.0     | 52.6      | 方形/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/内面に赤色顔料<br>残存        | にぶい黄褐/砂<br>粒中量、礫微<br>量 | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第160図3<br>図版122-3   | 215D     | 土器<br>片錘 | 完形       | 3.7/3.9/0.9     | 17.3      | 方形/挾部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/<br>地文は単節RL   | 暗褐/砂粒多量、<br>礫微量        | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第162図14<br>図版124-14 | 222D     | 土器<br>片錘 | 80%      | [3.4]/[3.3]/1.2 | 13.3      | 円形/挾部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/<br>平行沈線による文様 | 明黄褐/砂粒中<br>量、礫微量       | 勝坂式         |
| 第162図15<br>図版124-15 | 222D     | 土器<br>片錘 | 80%      | [2.6]/2.7/1.1   | 10.1      | 円形/挾部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/<br>単節RL     | にぶい黄橙/砂<br>粒少量、礫微<br>量 | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第163図2<br>図版124-2   | 225D     | 土器<br>片錘 | 80%      | [5.7]/5.4/0.9   | 42.7      | 方形/挾部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/<br>無文       | 褐/砂粒中量、<br>礫微量         | 中期中葉<br>～後葉 |

第67表 縄文時代土坑出土土製品一覽

| 挿図番号<br>図版番号        | 出土<br>遺構 | 器種   | 石材          | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴   |
|---------------------|----------|------|-------------|--------|-------|--------|-------|--|
| 第158図10<br>図版120-10 | 209D     | 打製石斧 | ホルン<br>フェルス | 92.2   | 58.6  | 22.3   | 127.5 | 撥形/基部と刃部は折れて欠損している/両側縁に敲打<br>剥離が認められる                                      |
| 第159図13<br>図版122-13 | 214D     | 打製石斧 | 砂岩          | 105.4  | 37.7  | 18.5   | 86.9  | 短冊形/両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の中央<br>部の稜上に潰れが認められる                                 |
| 第159図14<br>図版122-14 | 214D     | 打製石斧 | 砂岩          | 72.2   | 53.8  | 26.4   | 147.0 | 平面形状は不明/基部のみ残存/表裏面ともに原礫面が<br>広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる/両側縁の<br>ほぼ全面の稜上に潰れが認められる |
| 第160図5<br>図版122-5   | 216D     | 打製石斧 | 砂岩          | 82.4   | 56.4  | 26.5   | 159.7 | 平面形状は不明/基部のみ残存/両側縁に敲打剥離が認<br>められる  |
| 第162図16<br>図版124-16 | 222D     | 打製石斧 | ホルン<br>フェルス | 79.1   | 63.2  | 11.2   | 47.4  | 撥形   |
| 第162図17<br>図版124-17 | 222D     | 敲石   | 砂岩          | 68.1   | 62.5  | 20.9   | 120.8 | 敲打痕が両側縁にみられる   |
| 第163図2<br>図版124-2   | 226D     | 打製石斧 | 砂岩          | 137.0  | 56.1  | 34.2   | 279.0 | 短冊形/両側縁に敲打剥離が認められる/左側縁の上部<br>から中央部にかけての稜上に潰れが認められる                         |
| 第163図3<br>図版124-3   | 226D     | 石皿   | 閃緑岩         | 104.1  | 69.2  | 34.7   | 391.1 | 扁平石皿/表裏面ほぼ全面に平坦な使用面  |

第68表 縄文時代土坑出土石器一覽



## (5) 集石

### 1号集石

**遺 構** (第164図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 4方に切られる。

[構 造] 平面形：掘り込みは検出されなかった。断面形：掘り込みは検出されなかった。規模：長軸なし／短軸なし／深さなし。礫の分布：礫が楕円状に分布している。

[覆 土] 不明。

[遺 物] 土器が少量出土した。

[時 期] 中期中葉期（勝坂2～3式期）。

**遺 物** (第165図、図版125、第69表)

[土 器] (第165図、図版125、第69表)

破片資料2点を図示した。1は勝坂式、2は中期中葉～後葉の深鉢形土器である。

### 2号集石

**遺 構** (第164図)

[位 置] (C-3) グリッド。

[検出状況] 切り合いなし。

[構 造] 平面形：楕円形。断面形：たらい状。規模：長軸1.60m／短軸1.26m／深さ25cm。礫の分布：礫は西側にやや多いものの全面に広がり、上層に含まれる。

[覆 土] 不明。

[遺 物] 土器が少量出土した。

[時 期] 中期中葉～後葉期

**遺 物** (第165図、図版125、第69表)

[土 器] (第165図、図版125、第69表)

破片資料1点を図示した。1は中期中葉～後葉の深鉢形土器である。

### 3号集石

**遺 構** (第164図)

[位 置] (C-3) グリッド。

[検出状況] 104 Jに切られる。

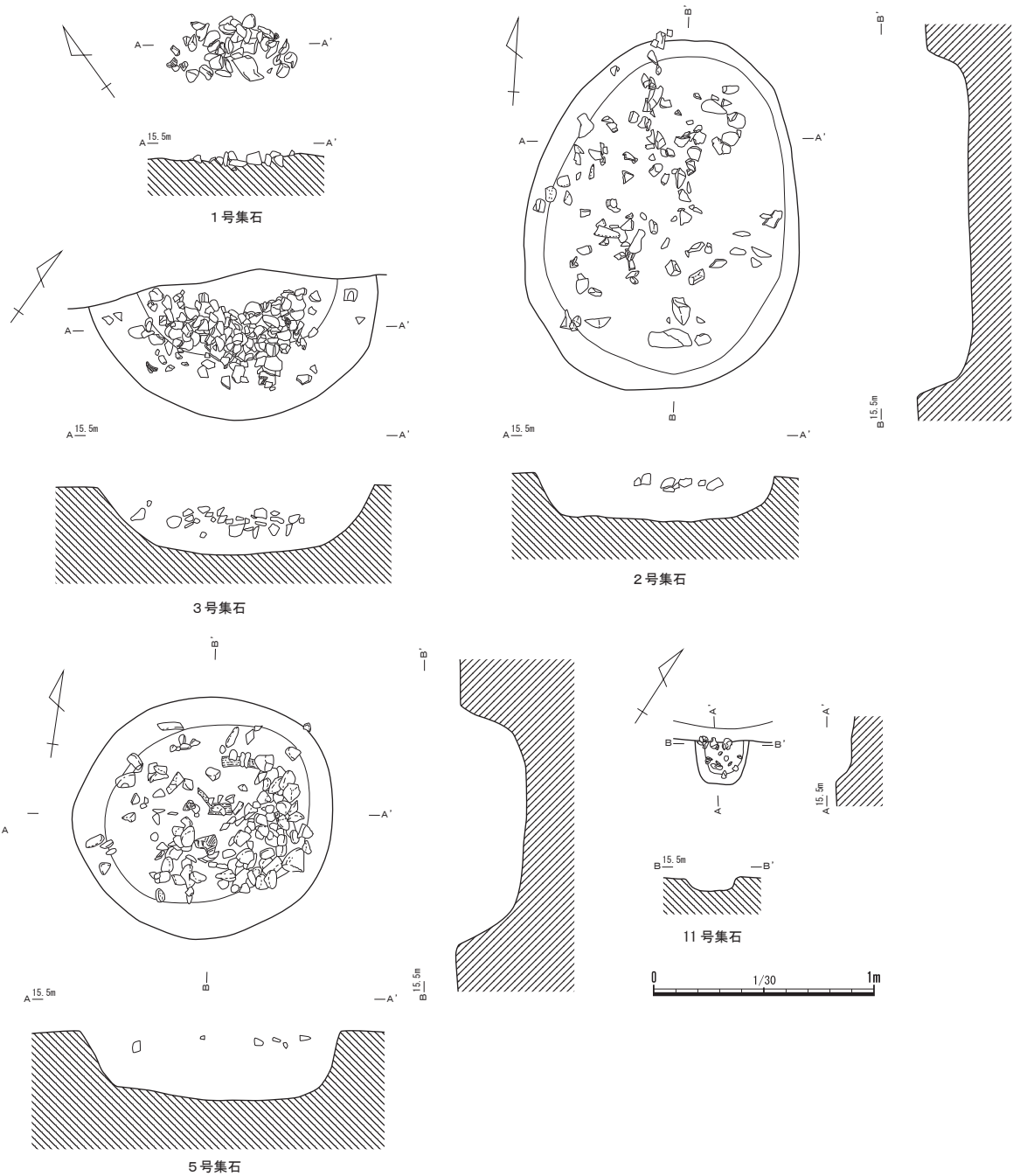
[構 造] 平面形：楕円形か。断面形：椀状か。規模：長軸不明／短軸不明／深さ31cm。礫の分布：104 Jに切られるため全体の分布は不明であるが、残存部ではやや南東側に礫が集中している。また、中層に分布している。

[覆 土] 小炭化材片を含む黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 土器が少量出土した。

[時 期] 中期中葉～後葉期（勝坂3式～加曾利E1式期）。

**遺 物** (第165図、図版125、第69表)



第 164 図 縄文時代集石 (1 / 30)

[土 器] (第 165 図、図版 125、第 69 表)

破片資料 2 点を図示した。1 は勝坂式の深鉢形土器である。2 は勝坂式の浅鉢形土器である。

### 5 号集石

**遺 構** (第 164 図)

[位 置] (D-3・4) グリッド。

[検出状況] 切り合いなし。

[構 造] 平面形：円形。断面形：椀状。規模：長軸 1.17 m / 短軸 1.09 m / 深さ 32cm。礫の分布：掘り込みの中央付近に分布するが、東側から南側にかけて集中する。上層から中層にかけて分布している。

[覆 土] 炭化物粒子を多く含む黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 土器、土製品が出土した。

[時 期] 中期中葉～後葉期（勝坂3式～加曾利E式期）。

**遺 物**（第165図、図版125、第69・70表）

[土 器]（第165図、図版125、第69表）

破片資料3点を図示した。1は勝坂式、2は加曾利E3式と思われるもの、3は中期後葉の深鉢形土器である。

[土 製 品]（第165図、図版125、第70表）

1点を図示した。4は土器片錘である。

### 11号集石

**遺 構**（第164 図）

[位 置]（F-4）グリッド。

[検出状況] 223 Dに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形か。断面形：皿状。規模：長軸不明／短軸 0.47 m／深さ 12cm。礫の分布：掘り込み中に広がって分布し、上層に集中している。

[覆 土] 不明。

[遺 物] 土器、石器が出土した。

[時 期] 中期中葉～後葉期



第165図 縄文時代集石出土遺物1（1／3）

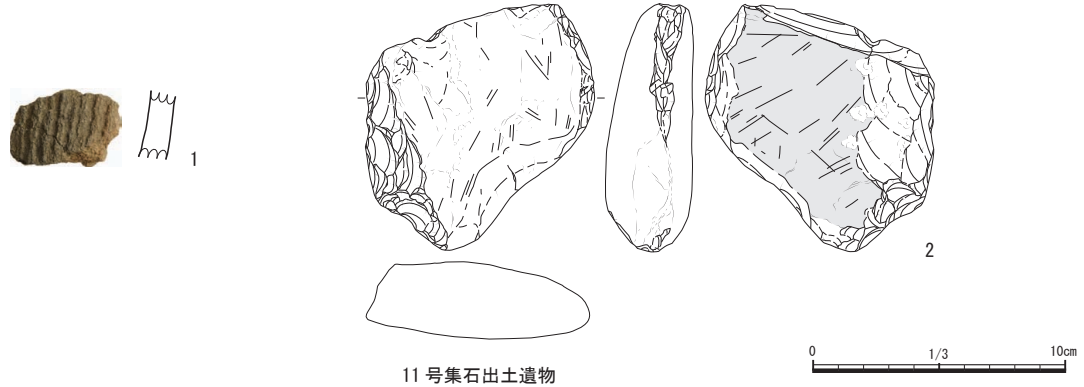
遺物 (第166図、図版125、第69・71表)

[土器] (第166図1、図版125、第69表)

破片資料1点を図示した。1は中期中葉～後葉の深鉢形土器である。

[石器] (第166図2、図版125、第71表)

1点を図示した。2は磨+敲石である。



第166図 縄文時代集石出土遺物2 (1/3)

| 挿図番号<br>図版番号      | 出土<br>遺構 | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態  | 法量<br>(cm) | 器形・形態         | 文様・特徴   | 胎土                   | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|----------|-------------|------------|---------------|---|----------------------|-------------|
| 第165図1<br>図版125-1 | 1S       | 深鉢       | 胴部<br>破片    | 厚0.5       | ほぼ直立する胴部      | 沈線による弧状の文様 / 押圧文施文  | 黒褐 / 砂粒中量、<br>礫微量    | 勝坂2<br>～3式  |
| 第165図2<br>図版125-2 | 1S       | 深鉢       | 胴部<br>破片    | 厚1.0       | ほぼ直立する胴部      | 地文は単節LR縦位   | 黒褐 / 砂粒・礫<br>微量      | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第165図1<br>図版125-1 | 2S       | 深鉢       | 底部付近<br>破片  | 厚1.1       | 外傾する底部付近      | 地文は単節RL横位   | 明褐 / 砂粒少量、<br>礫微量    | 中期中葉<br>～後葉 |
| 第165図1<br>図版125-1 | 3S       | 深鉢       | 胴部<br>破片    | 厚0.9       | ほぼ直立する胴部      | 押圧文を付した隆帯が1本直状に垂下、上端には<br>隆帯を環状に貼付、直状の隆帯から右側に1本隆<br>帯が伸びる / 隆帯周辺に沈線による文様施文 / 隆<br>帯断面台形状、隆帯脇1本の単沈線が沿う | 褐 / 砂粒・礫微<br>量       | 勝坂3式        |
| 第165図2<br>図版125-2 | 3S       | 浅鉢       | 口縁部<br>破片   | 厚1.2       | 内湾する口縁部       | 隆帯による方形の区画  | 暗褐 / 砂粒少量、<br>礫微量    | 勝坂3式        |
| 第165図1<br>図版125-1 | 5S       | 深鉢       | 胴部<br>破片    | 厚1.0       | やや外反する胴部      | 地文は0段多条RL斜位   | 赤褐 / 砂粒・礫<br>微量      | 勝坂3式        |
| 第165図2<br>図版125-2 | 5S       | 深鉢       | 口縁部付近<br>破片 | 厚0.8       | 内湾する口縁部付<br>近 | 地文は単節RL横位 / 隆帯による区画、文様か / 隆<br>帯断面カマボコ状   | 黒褐 / 砂粒少量、<br>礫微量    | 加曾利<br>E3式か |
| 第165図3<br>図版125-3 | 5S       | 深鉢       | 胴部<br>破片    | 厚1.0       | ほぼ直立する胴部      | 地文は撚糸R縦位 / 3本1対の沈線が横走   | 黒褐 / 砂粒中量、<br>礫微量    | 中期後葉        |
| 第166図1<br>図版125-1 | 11S      | 深鉢       | 胴部<br>破片    | 厚1.0       | やや外傾する胴部      | 地文は撚糸L縦位  | にぶい黄褐 / 砂<br>粒少量、礫微量 | 中期中葉<br>～後葉 |

第69表 縄文時代集石出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号      | 出土<br>位置 | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ / 幅 / 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴                                      | 胎土               | 時期<br>型式    |
|-------------------|----------|----------|----------|---------------------|-----------|---|------------------|-------------|
| 第165図4<br>図版125-4 | 5S       | 土器<br>片錘 | 完形       | 4.1/3.3/1.1         | 20.5      | 方形 / 挾部は2ヶ所 / 周縁は磨耗が未発達 / 胴部片利用 /<br>無文 | 橙 / 砂粒少量、<br>礫微量 | 中期中葉<br>～後葉 |

第70表 縄文時代集石出土土製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号      | 出土<br>遺構 | 器種   | 石材 | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 特徴                   |
|-------------------|----------|------|----|--------|-------|--------|-------|----------------------|
| 第166図2<br>図版125-2 | 11S      | 磨+敲石 | 砂岩 | 94.6   | 93.9  | 33.5   | 335.3 | 裏面に磨痕 / 敲打痕が右側縁にみられる |

第71表 縄文時代集石出土石器一覧





## (2) 住居跡

### 106号住居跡

#### 遺構 (第168図)

[位置] (F-1) グリッド。

[検出状況] 13 Mに切られる。南側は区画整理第13 I地点で調査済みであり、北東側は調査区外となる。

[構造] 平面形：隅丸方形か。規模：長軸不明／短軸 4.47 m／深さ 22～52cm。壁：70～80°で立ち上がる。主軸方位：N-55°-E。壁溝：検出されなかった。床面：壁際、中央付近、貯蔵穴の周囲に硬化面が点在する。炉：検出されなかった。貯蔵穴：南西隅付近に位置し、38×36cmの円形で、深さは28cm。北側に高さ1～6cmの凸堤を有する。柱穴：主柱穴はP1、P2と考えられる。P1は45×32cmの楕円形で、深さ50cm。P2は28×24cmの楕円形で、深さ51cm。赤色砂利層：貯蔵穴東側に検出された。入口施設：P3が入口施設と考えられる。21×21cmの円形。掘り方：検出されなかった。

[覆土] 3層(2層～4層)に分層される。ローム粒子を微量～多量含んだ暗黄褐色～黒褐色土を基調とする(2・3層)。4層は壁寄りに小石を多く含む。

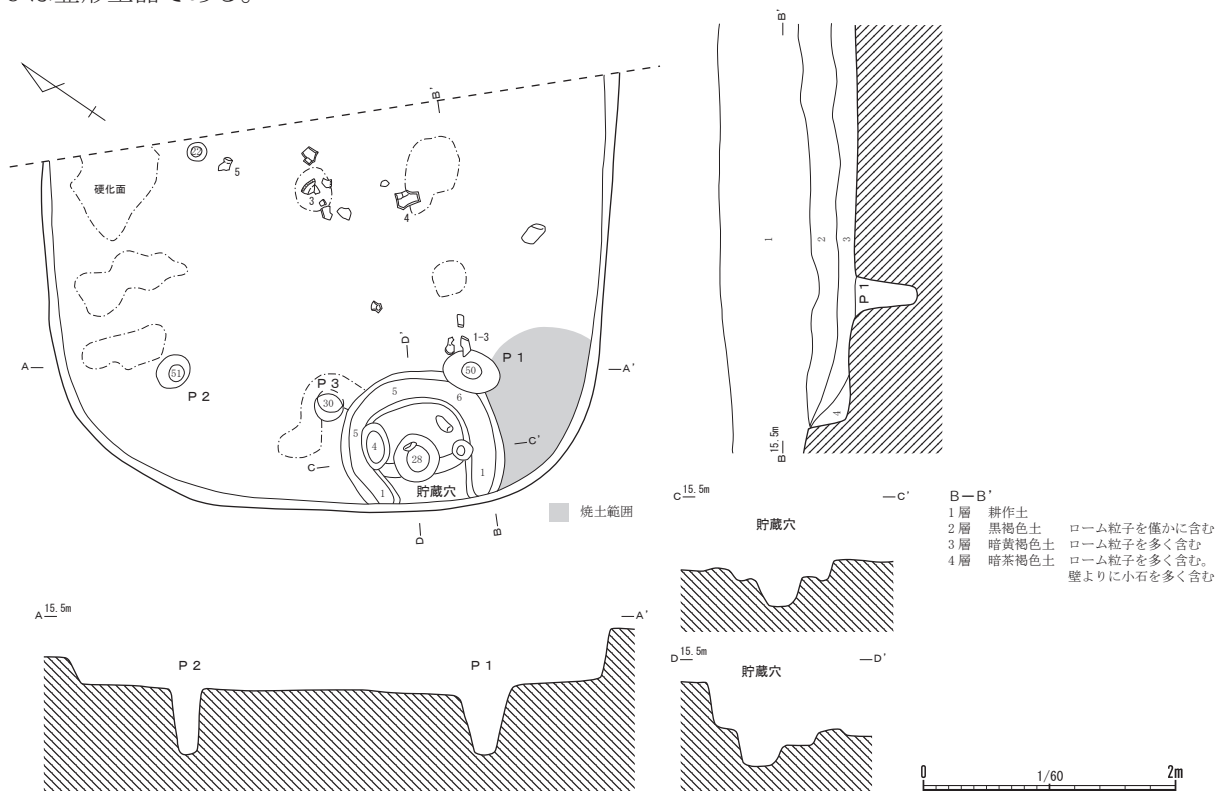
[遺物] 壺(無頸壺含む)・甕形土器が出土した。

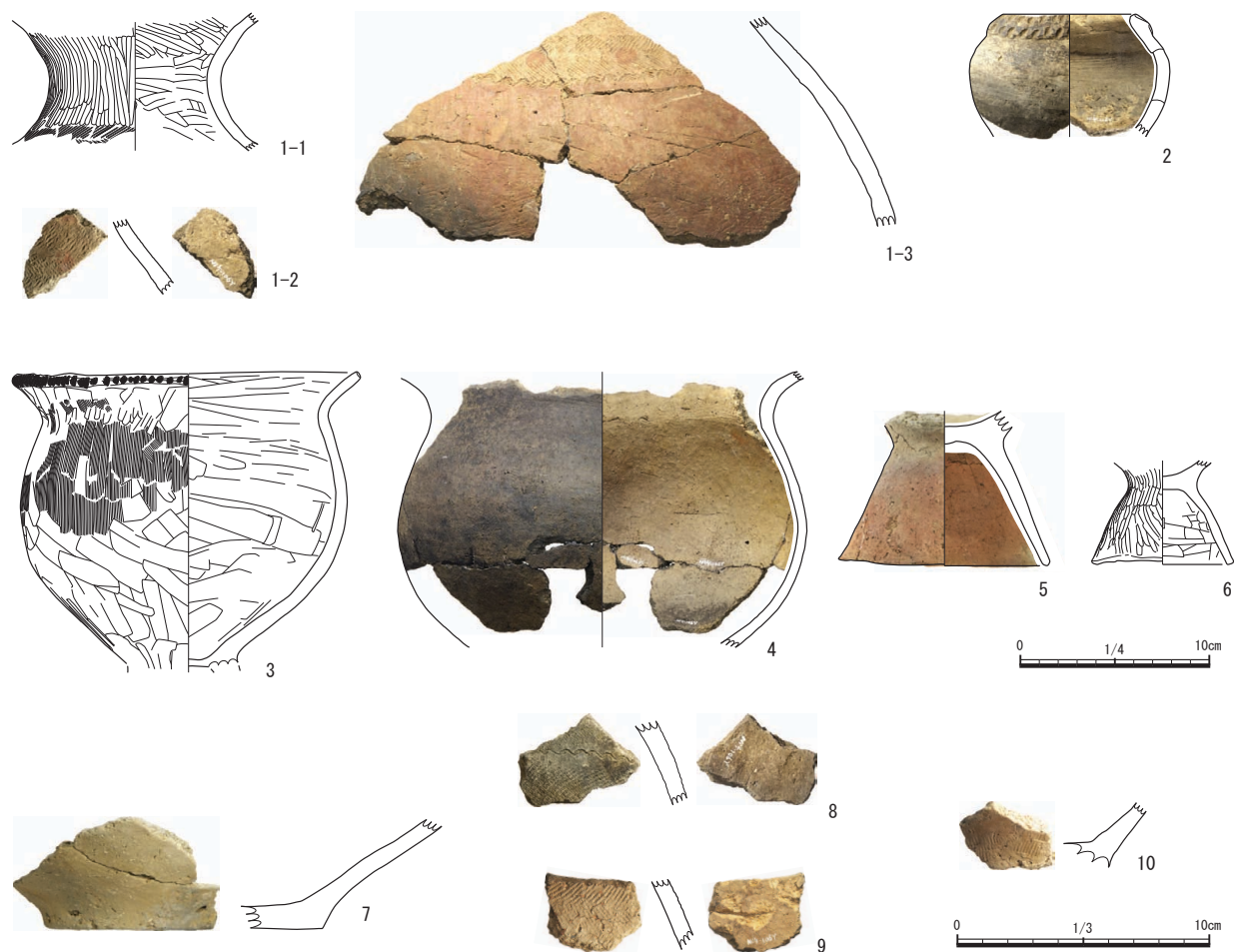
[時期] 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭。

#### 遺物 (第169図、図版126、第72表)

#### [土器] (第169図、図版126、第72表)

復元個体6点、破片資料4点を図示した。1は壺形土器で、同一個体と思われる3点を掲載した。2は小形の無頸壺形土器である。3～6・10は甕形土器で3・5・6・10は台付甕形土器である。7～9は壺形土器である。





第 169 図 106 号住居跡出土遺物（1 / 4 ・ 1 / 3）

| 挿図番号<br>図版番号          | 器種  | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)                       | 器形・形態  | 文様・特徴   | 胎土・色調  |
|-----------------------|-----|--------------------|----------------------------------|--|---|--|
| 第 169 図 1<br>図版 126-1 | 壺   | 頸部～<br>肩部<br>破片    | 高 [6.5]<br>(頸部破<br>片のみ)<br>厚 0.7 | 頸部は弓なりに外<br>反する  | 外面：頸部縦位篋磨き、上位に木口状工具による横位のナデ・<br>肩部無節縄文 L / 肩部無節縄文 L・R・L・R の羽状縄文・下位の L・<br>R の両方にかかるように円形朱彩文 2 個・端末結節の S 字状結<br>節文 S 無節 R1 段 / 胴部横位、左下がりの刷毛ののち縦位、右<br>下がりの篋磨き / 内面：頸部横位・右下がりの木口状工具による<br>ナデののち横位・右下がりの篋磨き / 肩部一部に縦位の木口<br>状工具によるナデ・横位のナデ / 胴部横位のナデ / 赤彩あり /<br>内面の一部に剥落が見られる | 外面：にぶい黄橙・<br>赤彩部分にぶい赤<br>褐・明赤褐 内面：<br>にぶい黄橙・赤彩部<br>分 明赤褐 / 白色粒子<br>多量、赤色粒子、砂<br>粒、小礫微量 |
| 第 169 図 2<br>図版 126-2 | 無頸壺 | 口縁部～<br>胴部<br>25%  | 高 [6.6]<br>口 (7.0)<br>厚 0.7      | 胴部は大きく内弯<br>し、口縁部との境<br>は内面に粘土帯に<br>よる段差が見られ<br>る 口縁部は直線<br>的に内傾する | 外面：折り返し口縁に 2 段の刻み / 横位のナデののち横位の篋<br>磨き / 内面：口縁部内面輪積み痕より上位は横位の篋磨き、輪<br>積み痕より下位は横位の木口状工具によるナデ   | 外面：浅黄・暗灰黄<br>内面：浅黄 / 黒色<br>粒子多量、白色粒子、<br>赤色粒子、砂粒、小<br>礫少量                              |
| 第 169 図 3<br>図版 126-3 | 台付甕 | 口縁部～<br>脚台部<br>80% | 高 [15.6]<br>口 18.2<br>厚 0.7      | 胴部はあまり張ら<br>ず、緩やかにくの<br>字に屈曲する頸部<br>から口縁部は直線<br>的に開き、最大径<br>を呈す    | 外面：口唇部に単節縄文 RL の押捺による刻み、口縁部に右下<br>がりの木口状工具によるナデ、頸部から胴部には縦位の細か<br>い刷毛と胴部中位には横位もしくは右下がりのナデ、接合部<br>付近には縦位の細かい刷毛 / 内面：口縁部から肩部の一部まで<br>横位の刷毛、胴部は主に横位のナデ、接合部付近に刷毛が一<br>部みられる / 胴部下端に煤状の付着物あり  | 外面：黄橙・黒褐<br>内面：浅黄橙・橙・<br>黒褐 / 白色粒子、<br>赤色粒子、砂粒、小<br>礫少量                                |
| 第 169 図 4<br>図版 126-4 | 甕   | 口縁部～<br>胴部<br>20%  | 高 [14.3]<br>厚 0.5                | 胴部はややつぶれ<br>た球胴状で、頸部<br>は弓なりに外反す<br>る                              | 外面：頸部に横位の刷毛 / 肩部縦位の刷毛ののち横位のナデ /<br>胴部横位と右下がりの刷毛と一部に横位のナデ / 胴部下位の<br>一部に縦位の刷毛 / 内面：口縁部から頸部横位の刷毛 / 肩部から<br>胴部に横位のナデ、胴部中位一部に右下がりとし左下がりの木<br>口状工具によるナデ / 胴部下位の一部に右下がりの刷毛  | 外面：褐灰 内面：<br>にぶい黄橙 / 白色粒<br>子多量、赤色粒子、<br>砂粒少量、小礫微量                                     |

第 72 表 106 号住居跡出土土器一覧 1

| 挿図番号<br>図版番号            | 器種  | 部位<br>遺存状態        | 法量<br>(cm)                  | 器形・形態               | 文様・特徴   | 胎土・色調   |
|-------------------------|-----|-------------------|-----------------------------|---------------------|---|---|
| 第169図5<br>図版126-5       | 台付甕 | 接合部～<br>脚台部<br>破片 | 高 [8.2]<br>脚 11.2<br>厚 0.8  | 脚台部は直線的に<br>ハの字形に開く | 外面：接合部と脚台部下端には横位のナデ、ほかの脚台部には縦位のナデ / 内面：木口状工具による横位のナデ                        | 外面：淡赤橙・灰白<br>内面：にぶい橙 /<br>白色粒子、赤色粒子、<br>砂粒、小礫少量   |
| 第169図6<br>図版126-6       | 台付甕 | 接合部～<br>脚台部<br>破片 | 高 [5.5]<br>脚 7.8<br>厚 0.4   | 脚台部は上部がわずかに内湾して開く   | 外面：接合部には丁寧な縦位の篋磨き、脚台部には横位のナデののち縦位の篋磨き / 内面：接合部は指頭によるナデ、脚台部には横位の細かい刷毛 / やや小型 | 外面：にぶい褐・黒<br>内面：橙・赤黒 /<br>白色粒子多量、砂粒、<br>小礫少量      |
| 第169図7<br>図版126-7       | 壺   | 胴部～<br>底部<br>破片   | 高 [4.1]<br>底 (8.0)<br>厚 0.7 | 底部から直線的に大きく開いて立ち上がる | 外面：縦位のナデ / 内面：横位のナデ / 粉圧痕あり   | 外面：灰黄 内面：<br>浅黄 / 白色粒子、砂粒、<br>小礫多量                |
| 第169図8<br>図版126-8       | 壺   | 肩部<br>破片          | 厚 0.7                       | 直線的に内傾する            | 外面：単節 LR・S 字状結節文 L・LR の3段の縄文 / 内面：横位のナデ / 赤彩あり                              | 外面：暗オリーブ<br>内面：暗灰黄 / 白色<br>粒子、砂粒、小礫少<br>量         |
| 第169図9<br>図版126-9       | 壺   | 肩部<br>破片          | 厚 0.6                       | 直線的に内傾する            | 外面：単節 LR・RL・LR の3段の羽状縄文 / 内面：横位のナデ  | 外面：にぶい橙 内面：<br>灰褐 / 赤色粒子<br>多量、砂粒、小礫少<br>量        |
| 第169図<br>10<br>図版126-10 | 壺   | 底部<br>破片          | 厚 0.6                       | 底部から直線的に開く          | 外面：縦位の刷毛ののち横位の篋磨き / 内面：横位のナデ  | 外面：にぶい橙 内面：<br>にぶい橙 / 白色<br>粒子、赤色粒子多量、<br>砂粒、小礫少量 |

第72表 106号住居跡出土土器一覧2

## 145号住居跡

## 遺構 (第170図)

[位置] (E-4) グリッド。

[検出状況] 114 J を切り、13 M に切られる。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 3.72 m / 短軸 3.53 m / 深さ 44 ~ 49 cm。壁：65 ~ 80° で立ち上がる。主軸方位：N - 35° - W。壁溝：住居西側に半周程確認された。上幅 14 ~ 23 cm・下幅 6 ~ 8 cm・床面からの深さ 4 ~ 7 cm。床面：壁際、炉の周辺を除き硬化している。炉：地床炉。住居中央のやや北寄りに位置する。長軸 66 cm × 短軸 50 cm の焼土範囲が確認された。貯蔵穴：住居南東側に位置し、36 × 25 cm の楕円形で、深さ 8 cm。凸堤は伴わない。柱穴：支柱穴は検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：P 1 が入口施設と考えられる。30 × 21 cm の楕円形で、深さ 25 cm。掘り方：検出されなかった。

[覆土] 4層 (2 ~ 5層) に分層される。上層 (2層) にはローム粒子を含む暗褐色土、中層 (3層) にはローム粒子を多く含む焼土粒子・炭化物粒子を含む暗茶褐色土、下層 (4層) はローム粒子を僅かに含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 壺 (無頸壺含む)・甕形土器が出土した。

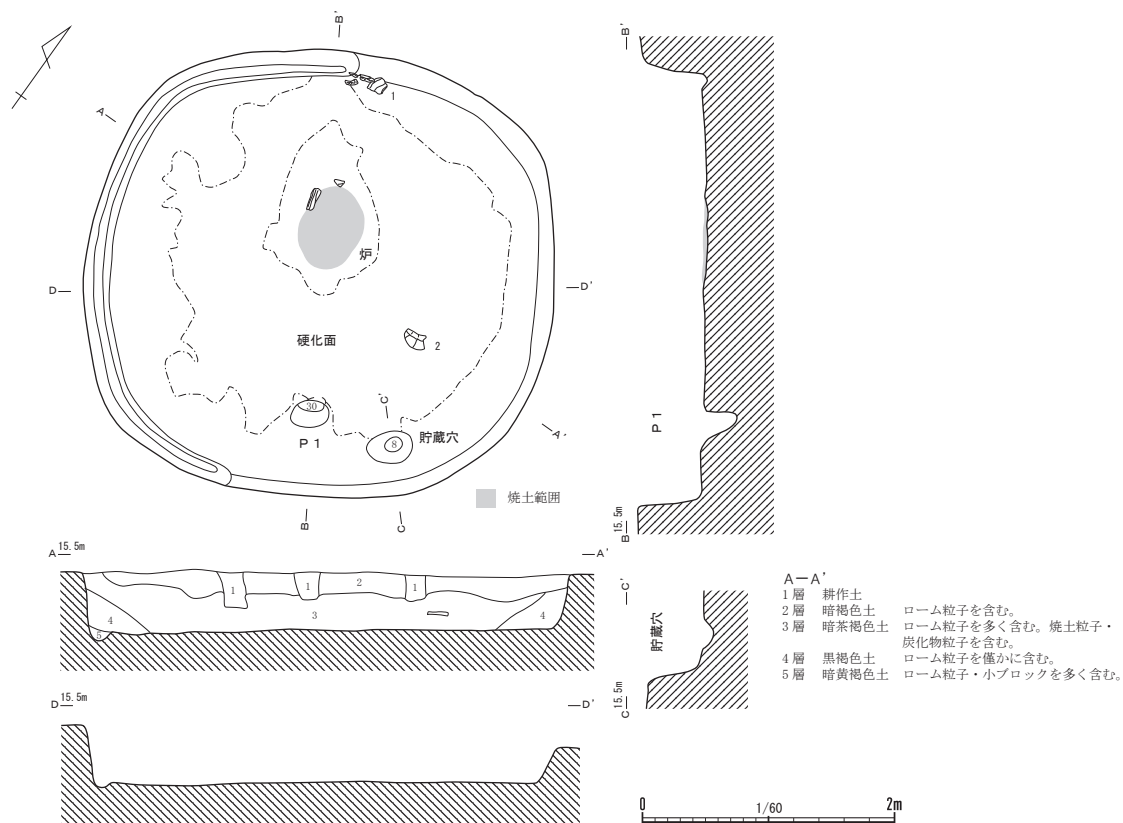
[時期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

## 遺物 (第171図、図版127-1、第73表)

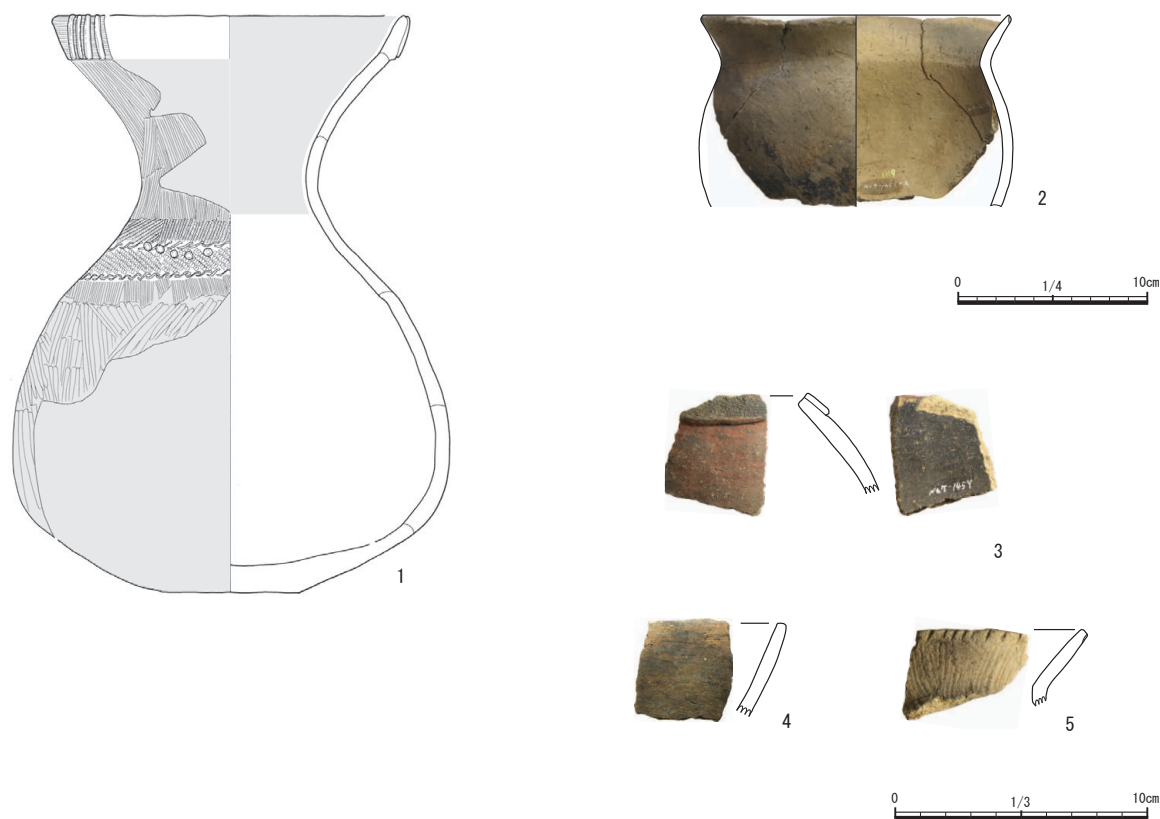
[土器] (第171図、図版127-1、第73表)

復元個体2点、破片資料3点を図示した。1は壺形土器、2はやや小形の甕形土器、3は無頸壺形土器である。4は壺形土器、5は甕形土器である。





第170図 145号住居跡 (1/60)



第171図 145号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

| 挿図番号<br>図版番号        | 器種  | 部位<br>遺存状態        | 法量<br>(cm)                               | 器形・形態   | 文様・特徴  | 胎土・色調                                    |
|---------------------|-----|-------------------|--|---|--|--|
| 第171図1<br>図版127-1-1 | 壺   | 口縁部～<br>底部<br>25% | 高 [30.5]<br>口 (18.6)<br>底 (7.2)<br>厚 0.7 | 胴部は中位よりやや下に最大径を持ち、頸部は緩やかな弓なりに外反する。口縁部は複合口縁を呈す | 外面：複合口縁の口縁帯に横位の刷毛ののち棒状貼付文が4本残存/頸部は縦位の刷毛/肩部には上から無節縄文Lが1段、原体LのS字状結節文が1段、単節縄文RLが1段、原体RのS字状結節文が1段いずれも横位に施文/上位のS字状結節文の付近に1単位5個(残存3個、痕跡2個)の円形貼付文あり、ほかに4個の円形貼付文が残存/胴部は施文部分の直下に縦位の刷毛、その下に横位の刷毛ののち縦位と左下がりの篋磨き/内面：木口状工具による横位のナデ/全体的に摩滅している | 外面：にぶい黄橙<br>内面：にぶい黄橙/砂粒・小礫多量             |
| 第171図2<br>図版127-1-2 | 甗   | 口縁部～<br>胴部<br>25% | 高 [10.2]<br>口 (16.4)<br>厚 0.6            | 胴部はあまり張らず頸部はくの字に屈曲し、直線的に開く。口径と胴部最大径はほぼ同じ      | 外面：口唇部に刷毛状工具による刻み、口縁部から頸部まで縦位の細かい刷毛、胴部は右下がりの細かい刷毛/内面：口縁部から頸部の屈曲部分のやや下まで横位の刷毛、胴部は木口状工具による横位のナデ/胴部下位に煤状の付着物あり  | 外面：にぶい黄橙<br>内面：浅黄橙/赤色粒子、砂粒、小礫少量          |
| 第171図3<br>図版127-1-3 | 無頸壺 | 口縁部～<br>胴部<br>破片  | 厚 0.7                                    | わずかに湾曲して内傾する                                  | 外面：口縁端面に横位のナデ、口縁帯に横位の刷毛ののち、無節Lの網目状燃糸文を横位に施文する。胴部は横位のナデののちに横位の篋磨き/内面：横位の木口状工具による横ナデ/口縁帯以外の外面と口縁端面、内面に赤彩あり   | 外面：口縁帯黒・赤彩部分赤<br>内面：黒褐/白色粒子多量、砂粒、赤色粒子少量  |
| 第171図4<br>図版127-1-4 | 壺   | 口縁部<br>破片         | 厚 0.6                                    | わずかに湾曲して開く                                    | 外面：口縁端面に単節縄文LR、横位のナデののち、横位の篋磨き/内面：横位のナデのち横位の篋磨き  | 外面：明赤褐・黒褐<br>内面：明赤褐/小礫・砂粒・白色粒子少量         |
| 第171図5<br>図版127-1-5 | 甗   | 口縁部<br>破片         | 厚 0.5                                    | 頸部は屈曲して直線的に開く                                 | 外面：口唇部に刻み、主に縦位のやや粗い刷毛/内面：横位の細かい刷毛  | 外面：にぶい黄<br>内面：にぶい黄橙・にぶい黄褐/砂粒・白色粒子・赤色粒子少量 |

第73表 145号住居跡出土土器一覧

### 146号住居跡

#### 遺構 (第172図)

[位置] (E-4・5) グリッド。

[検出状況] 112 J を切る。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 4.56 m / 短軸 4.43 m / 深さ 0.24 ~ 0.31 cm。壁：約 70° で立ち上がる。主軸方位：N - 62° - E。壁溝：全周する。上幅 16 ~ 27 cm ・ 下幅 3 ~ 9 cm ・ 床面からの深さ 3 ~ 11 cm。床面：壁際、炉の周辺を除き硬化している。炉：地床炉。住居中央のやや北寄りに位置する。長軸 79 cm × 短軸 65 cm の焼土範囲が確認された。貯蔵穴：住居南側で確認され、37 × 34 cm の円形で、深さ 19 cm。凸堤は伴わない。柱穴：不明である。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：P 1 が入口施設と考えられる。38 × 27 cm の円形で、深さ 14 cm。掘り方：検出されなかった。

[覆土] 6層 (6 ~ 11層) に分層される。上層から下層まで、ローム粒子を微量 ~ 多量に含む暗褐色 ~ 暗黄褐色土 (6、8 ~ 10層) が堆積する。7層 (ローム再堆積) に見られるように西側半分は埋め戻された状態がみてとれる。西側半分にロームの埋土は床面まで及ぶ。2 ~ 5層は後世のピットである。

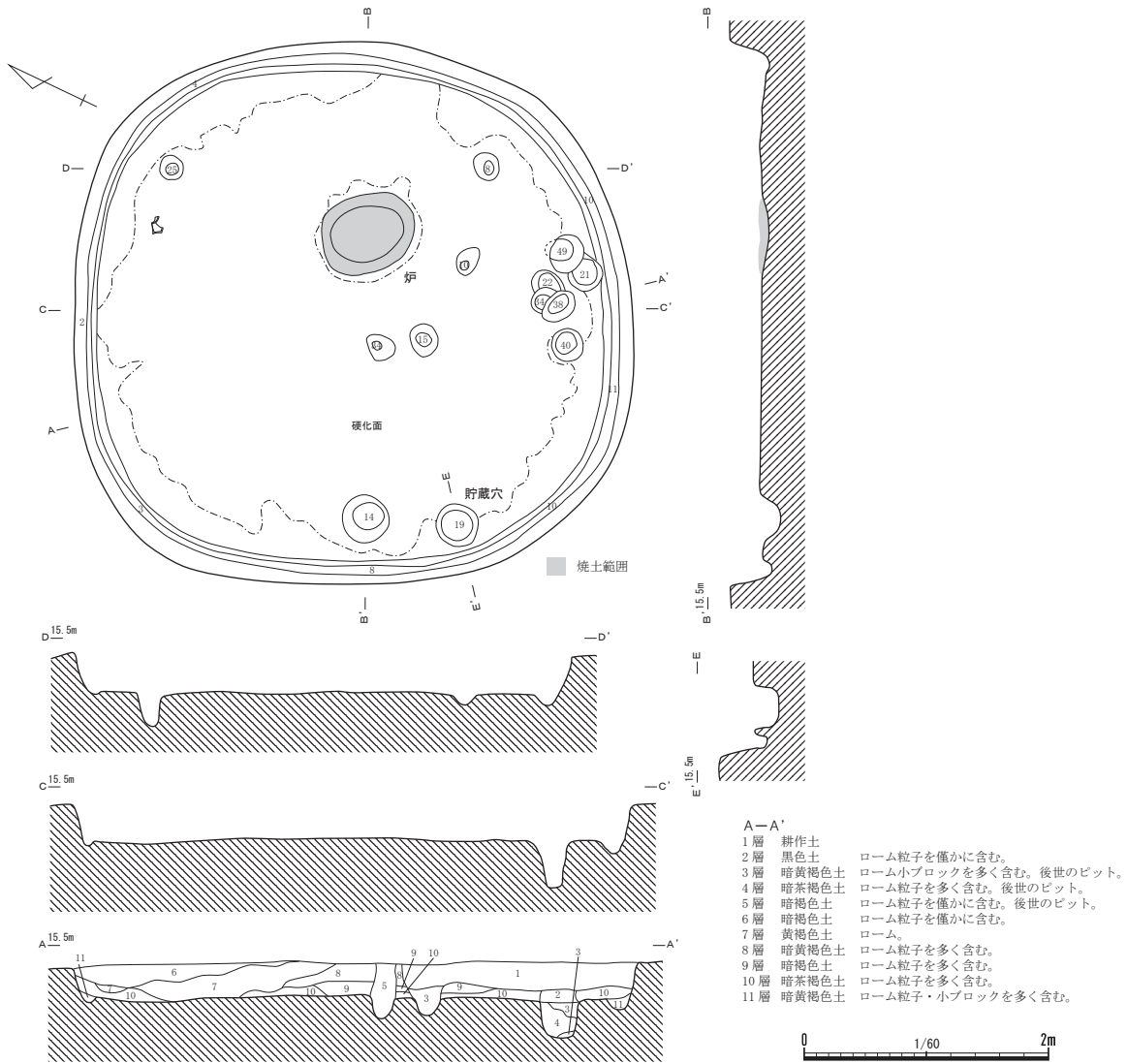
[遺物] 壺形土器が出土した。

[時期] 弥生時代後期末葉 ~ 古墳時代前期初頭。

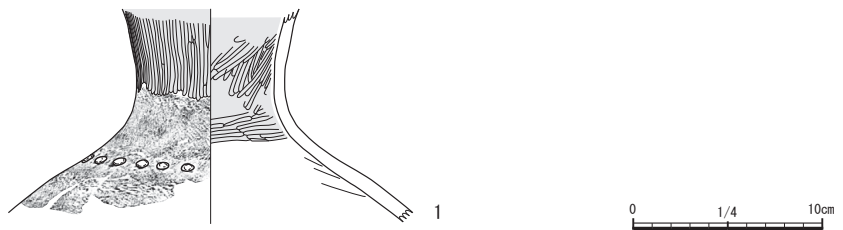
#### 遺物 (第173図、図版127-2、第74表)

[土器] (第173図、図版127-2、第74表)

復元個体1点を図示した。1は壺形土器である。



第 172 図 146 号住居跡 (1 / 60)



第 173 図 146 号住居跡出土遺物 (1 / 4)

| 挿図番号<br>図版番号                | 器種 | 部位<br>遺存状態      | 法量<br>(cm)        | 器形・形態                       | 文様・特徴   | 胎土・色調  |
|-----------------------------|----|-----------------|-------------------|-----------------------------|---|--|
| 第 171 図 1<br>図版 127-2-<br>1 | 壺  | 頸部～<br>肩部<br>破片 | 高 [10.7]<br>厚 0.8 | 直線的な肩部から<br>外反した頸部は直<br>立する | 外面：頸部縦位篋磨き・肩部S字状結節文S無節L3段・単節<br>縄文RL・LRの羽状縄文・LRの上に1単位6個以上の円形貼<br>付文・S字状結節文S無節L3段・単節縄文RL・LRの羽状縄<br>文 / 内面：頸部左下がり篋磨き・肩部横位篋磨き・横位・右下<br>がりナデ / 赤彩あり | 外面：浅黄橙・赤彩<br>部分にふい赤褐 内<br>面：淡黄・赤彩部分<br>にふい赤褐 / 白色粒<br>子、赤色粒子多量、<br>砂粒、小礫少量 |

第 74 表 146 号住居跡出土土器一覧

## 147号住居跡

## 遺構 (第174図)

[位置] (F-5・6) グリッド。

[検出状況] 217Dを切り、13Mに切られる。攪乱が著しい。

[構造] 平面形:円形か。規模:長軸不明/短軸 2.03 m/深さ 12～18cm。壁:約 50°で立ち上がる。主軸方位: N-35°-W。壁溝:住居北側に検出された。上幅 17～24cm・下幅 5～9cm・床面からの深さ 1～6cm。床面:硬化面は検出されなかった。炉:検出されなかった。貯蔵穴:検出されなかった。柱穴:支柱穴は P1、P2、P3と考えられる。P1は 38×32cmの楕円形で、深さ 15cm。P2は 27×25cmの円形で、深さ 22cm。P3は 36×24cmの楕円形で、深さ 13cm。赤色砂利層:検出されなかった。入口施設:検出されなかった。掘り方:検出されなかった。

[覆土] ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 図示できる遺物は検出されなかった。

[時期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期。

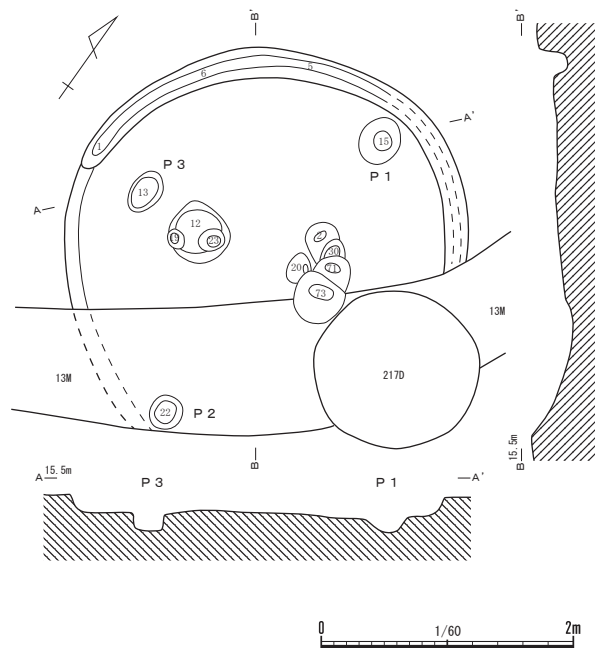
## 148号住居跡

## 遺構 (第175図)

[位置] (E・F-4・5) グリッド。

[検出状況] 13Mに切られる。

[構造] 平面形:隅丸方形。規模:長軸 6.52 m/短軸 5.61 m/深さ 32～37cm。壁:約 85°で立ち上がる。主軸方位: N-63°-E。壁溝:全周する。上幅 12～20cm・下幅 2～7cm・床面からの深さ 6～8cm。床面:床面は全面が非常に硬化している。炉:地床炉。住居中央のやや東寄りに位置し、礫1点が出土した。貯蔵穴:住居南西側の壁際に位置し、35×

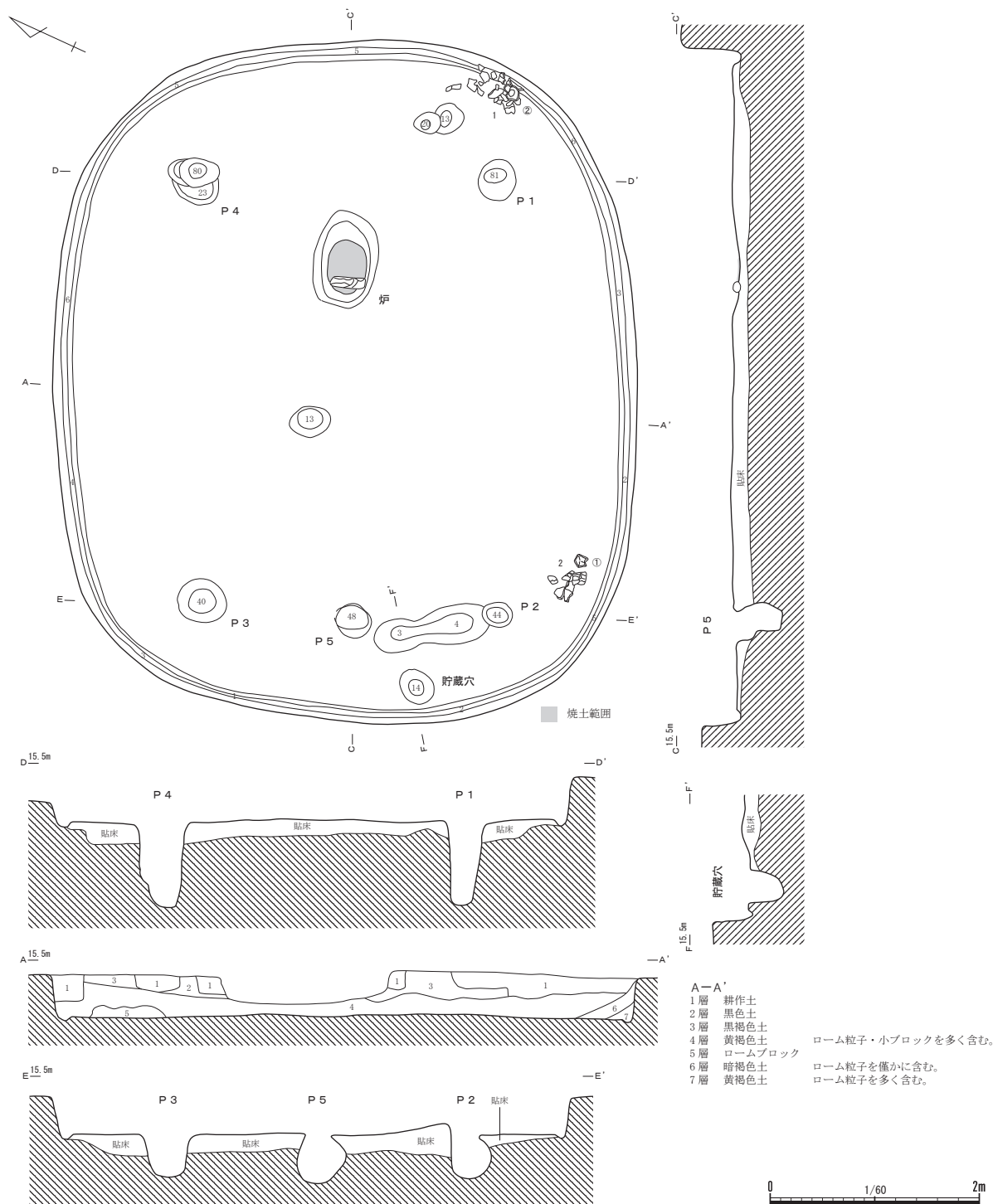


第174図 147号住居跡 (1/60)



27cmの楕円形で、深さ14cm。東側に高さ4cmの凸堤を有する。柱穴：主柱穴はP1、P2、P3、P4の4本と考えられる。P1は39×35cmの楕円形で、深さ81cm。P2は28×23cmの楕円形で、深さ44cm。P3は47×41cmの楕円形で、深さ40cm。P4は長軸不明×33cmの楕円形と思われ、深さ80cm。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：P5が入口施設と考えられる。34×29cmの楕円形で、深さ48cm。掘り方：住居全体に6～19cmの深さの掘り込みが確認できた。

[覆土] 6層に分層される。上層(2・3層)は黒～黒褐色土を基調とする。中層(4層)はローム粒子・小ブロックを多く含む黄褐色土を基調とする。下層(6・7層)はローム粒子を微量～多量含む黄褐色



第175図 148号住居跡 (1/60)

～暗黄褐色土を基調とする。住居下半に床面まで届くロームの堆積（5層）があり、埋め戻しが想定される。

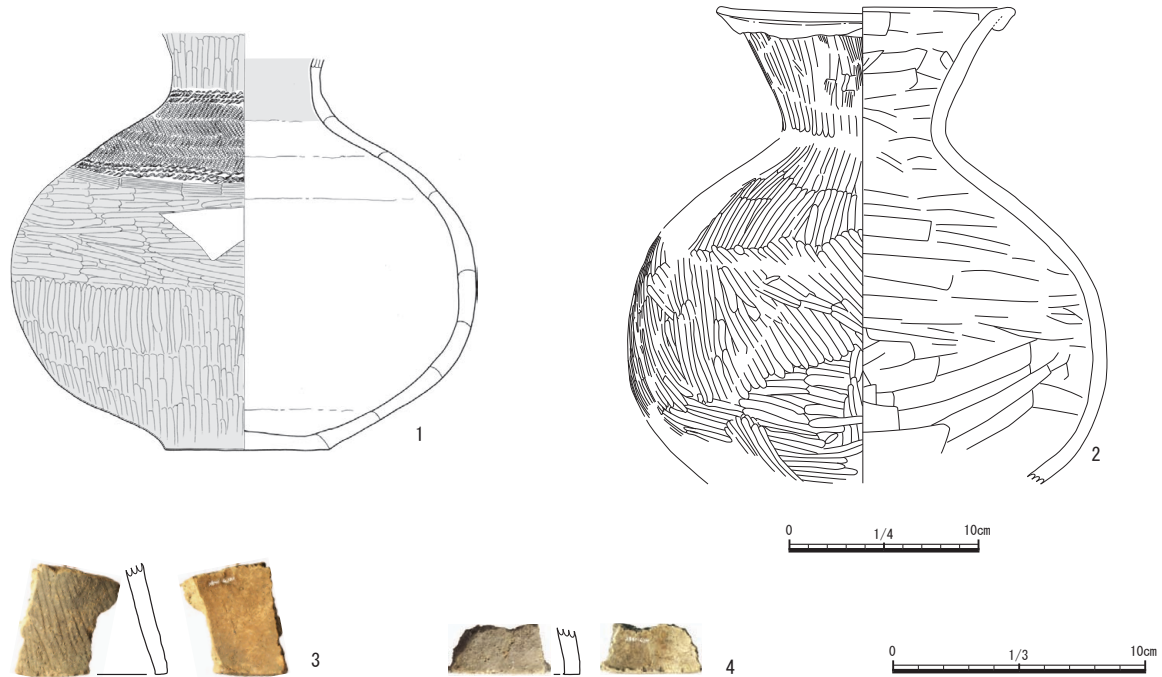
[遺物] 壺・甕形土器が出土した。

[時期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

[遺物] (第176図、図版127-3、第75表)

[土器] (第176図、図版127-3、第75表)

復元個体2点、破片資料2点を図示した。1・2は壺形土器、3・4は台付甕形土器である。



第176図 148号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

| 挿図番号<br>図版番号        | 器種  | 部位<br>遺存状態        | 法量<br>(cm)                  | 器形・形態   | 文様・特徴  | 胎土・色調  |
|---------------------|-----|-------------------|-----------------------------|---|--|--|
| 第176図1<br>図版127-3-1 | 壺   | 頸部～肩部<br>80%      | 高 [22.0]<br>底 8.7<br>厚 0.8  | つぶれた球胴型の<br>胴部から頸部はほ<br>ぼ直立する   | 外面：頸部横位のナデで赤彩される / 肩部に上から原体RのS<br>字状結節文3段、単節縄文LRの横位、縦位の繰り返しの羽<br>状縄文が5段、羽状縄文の3段目に円形朱彩文がほぼ等間隔<br>に11個残存、原体RのS字状結節文が3段施文され、直下に<br>横位の刷毛 / 胴部上位は横位、中位は縦位の篋磨き、下位は横<br>位のナデで下端に縦位の刷毛の痕跡を残し赤彩される / 内面：<br>横位のナデで頸部は赤彩される | 外面：にぶい黄橙・<br>赤彩部分赤褐 内<br>面：にぶい黄橙・赤<br>彩部分赤褐 / 赤色粒<br>子多量 |
| 第176図2<br>図版127-3-2 | 壺   | 口縁部～<br>胴部<br>40% | 高 [25.2]<br>口 15.9<br>厚 0.7 | 胴部はややつぶれた<br>球胴型で、緩やか<br>なくの字に屈曲<br>する頸部から直線<br>的に開く 口縁部<br>は折り返し口縁を<br>呈する | 外面：折り返し口縁の口縁帯は横位の刷毛のち横位のナデ / 口<br>縁部には縦位の刷毛 / 頸部・肩部とその付近は縦位の篋磨き /<br>胴部は右下がりの篋磨きで一部に横位、胴部下端付近に縦位<br>の篋磨き / 内面：口縁部は横位の刷毛ののち横位の篋磨き / 頸<br>部とその付近は横位の刷毛ののち横位のナデ / 肩部から胴部は<br>横位のナデ                                    | 外面：明黄褐 内面：<br>黄褐 / 白色粒子多量、<br>赤色粒子、砂粒、小<br>礫少量           |
| 第176図3<br>図版127-3-3 | 台付甕 | 脚台部<br>破片         | 厚 0.6                       | 直線的に開く  | 外面：右下がり刷毛のち一部にナデ / 内面：横位のナデ  | 外面：黄褐 内面：<br>明褐 / 小礫・砂粒中<br>量、白色粒子少量                     |
| 第176図4<br>図版127-3-4 | 台付甕 | 脚台部<br>破片         | 厚 0.6                       | わずかに内湾して、<br>やや直立して開く   | 外面：木口状工具による横位のナデ / 内面：木口状工具による<br>横位のナデ  | 外面：灰黄 内面：<br>灰白 / 小礫・砂粒中<br>量、白色粒子・赤色<br>粒子少量            |

第75表 148号住居跡出土土器一覧

### (3) 方形周溝墓

#### 5号方形周溝墓

**遺 構** (第177図)

[位 置] (B-4・5、C-4・5) グリッド。

[検出状況] 105 J、213 Dを切る。

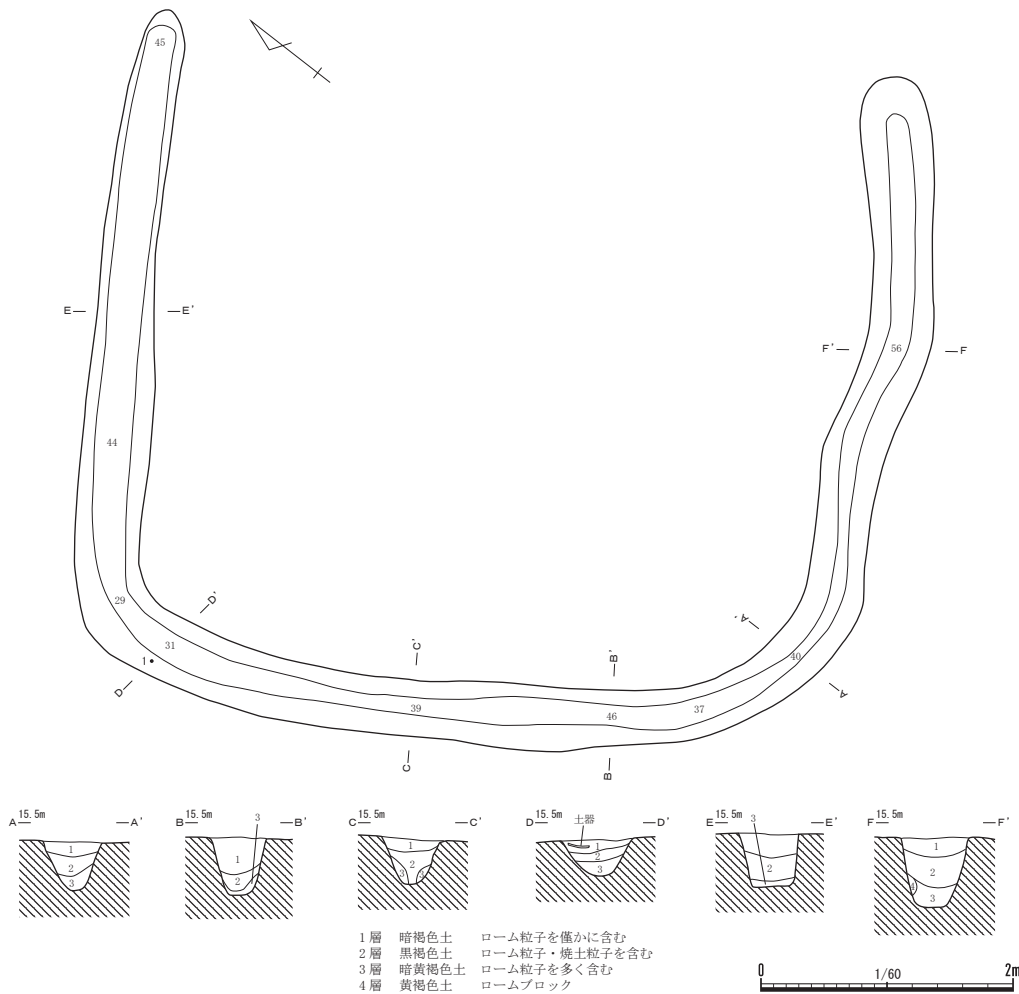
[構 造] 規模：長軸 6.63 m / 短軸 5.82 m。主体部規模：不明。溝：住居との重複のため西側の溝の確認は困難であった。コ字状の形態になろうか。上幅 34 ~ 54 cm、下幅 9 ~ 30 cm、深さ 28 ~ 53 cm。溝底はしっかりしている。南側の溝がやや蛇行する。

[覆 土] 4層に分層される。上層(1層)はローム粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とする。中層(2層)はローム粒子・炭化物粒子を含む黒褐色土を基調とする。下層(3・4層)は暗黄褐色~黄褐色土を基調とし、3層には多量のローム粒子、4層にはロームブロックを含む。

[遺 物] 壺形土器が出土し、三叉文の描かれた「記号土器」(第178図1)が溝内から出土した。

[時 期] 弥生時代後期末葉~古墳時代前期初頭。

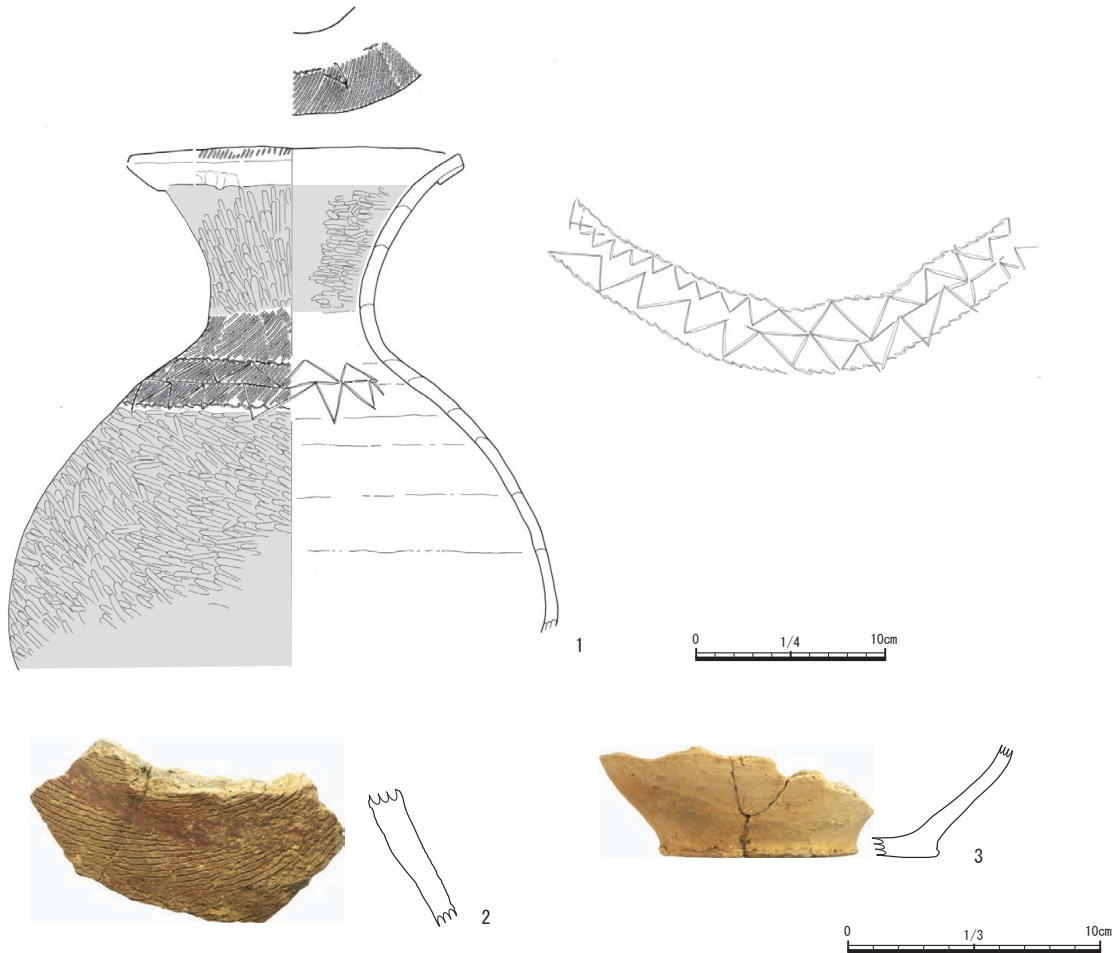
**遺 物** (第178図、図版128、第76表)



第177図 5号方形周溝墓 (1/60)

[土 器] (第178図、図版128、第76表)

復元個体1点、破片資料2点を図示した。1～3はいずれも壺形土器で、1は口縁部内面の縄文施文部分に三叉文の「記号」が描かれている。2は遺構外出土の破片(第204図103-1～3)と同一個体の可能性がある。



第178図 5号方形周溝墓出土遺物(1/4・1/3)

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種 | 部位<br>遺存状態        | 法量<br>(cm)                    | 器形・形態  | 文様・特徴  | 胎土・色調   |
|-------------------|----|-------------------|-------------------------------|--|--|---|
| 第178図1<br>図版128-1 | 壺  | 口縁部～<br>胴部<br>40% | 高 [29.0]<br>口 (17.3)<br>厚 0.8 | 胴部はやや下膨れ<br>気味を呈すと思わ<br>れ、ゆるやかに外<br>反する頸部から折<br>り返し口縁を呈す | 外面：口縁部は複合口縁で口縁端面に単節縄文LRが施文され、口縁部下側に粗い連続した押圧のち横位の刷毛が施される / 頸部は主に縦位の篋磨き / 肩部は単節縄文LRが1段と原体Rの端末結束のS字状結節文が1段の組み合わせが2組施文され、下段の単節縄文とS字状結節文の上に2段の鋸歯状文が先端が鋭い工具で施文される / 鋸歯状文の間に横位の沈線が半周くらい廻る / 胴部は主に右下がりの篋磨き / 内面：口縁部に単節縄文LRと原体RのS字状結節文が1段ずつ施文され、縄文の上から三叉文の「記号」が描かれている / 頸部は横位のナデで赤彩される / 胴部は横位のナデ | 外面：にぶい黄橙・<br>赤彩部分暗赤 内面：<br>にぶい黄橙～赤褐 /<br>赤色粒子・砂粒微量              |
| 第178図2<br>図版128-2 | 壺  | 肩部<br>破片          | 厚 1.1                         | 直線的に開く   | 外面：上から原体Rの擦糸文が1段、原体RのS字状結節文が1段、横位の篋磨き部分が赤彩され、原体Rの擦糸文が1段、原体RのS字状結節文が1段、原体Rの擦糸文が1段 / 内面：横位のナデ / 遺構外出土の破片(第204図103-1～3)と同一個体の可能性がある   | 外面：にぶい黄橙・<br>赤彩部分にぶい赤褐<br>内面：にぶい黄橙 /<br>白色粒子、小礫少量、<br>砂粒、赤色粒子微量 |
| 第178図3<br>図版128-3 | 壺  | 底部<br>破片          | 高 [3.9]<br>底 7.8<br>厚 0.6     | やや内湾して開く   | 外面：胴部には横位の篋磨き、底部に近づくとき縦位の刷毛のち横位のナデ / 底面は木口状工具によるナデ / 内面：横位のナデ  | 外面：浅黄橙 内面：<br>明褐灰 / 白色粒子多<br>量、小礫、砂粒少量                          |

第76表 5号方形周溝墓出土土器一覧



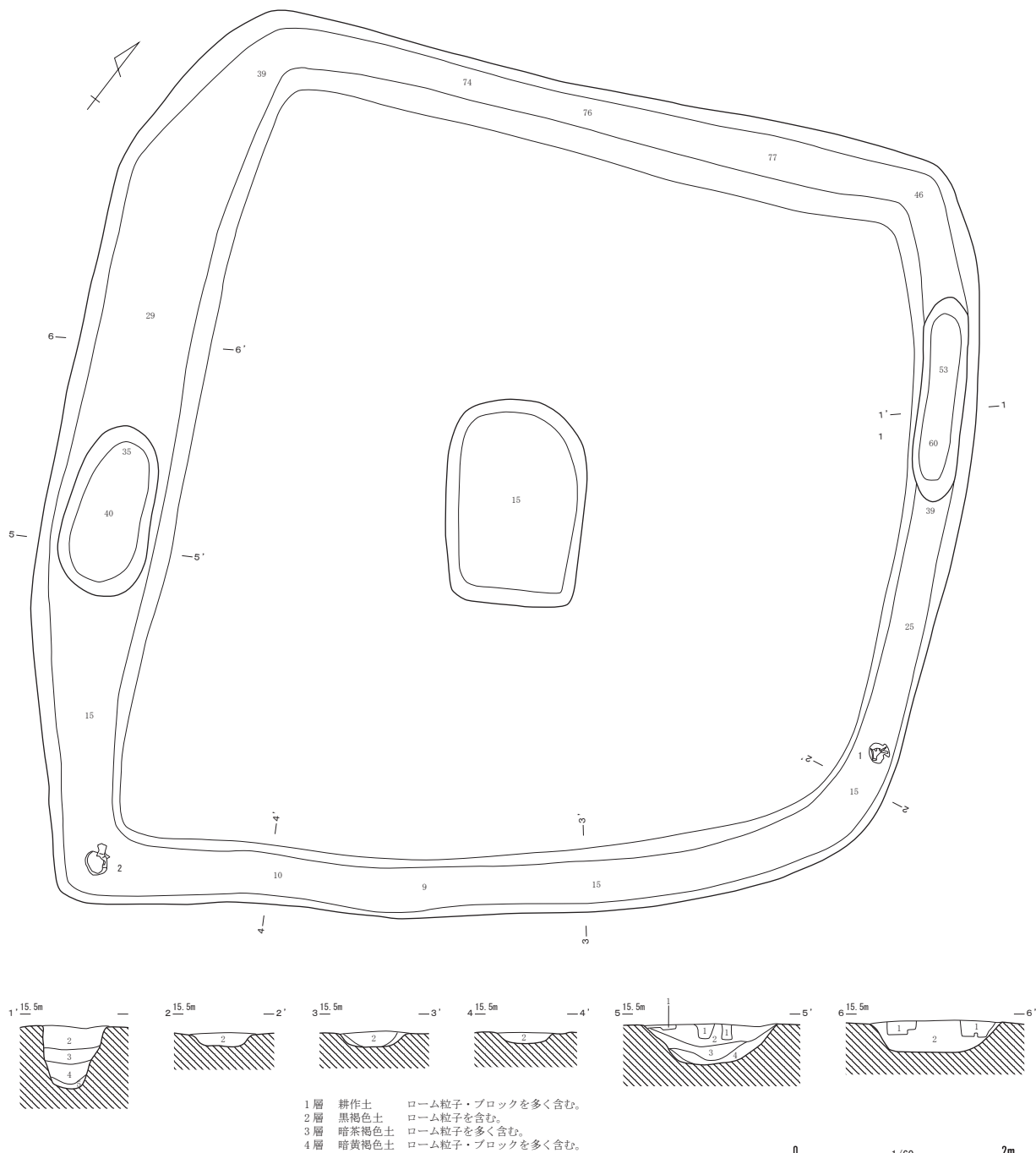
### 6号方形周溝墓

遺 構 (第 179・180 図)

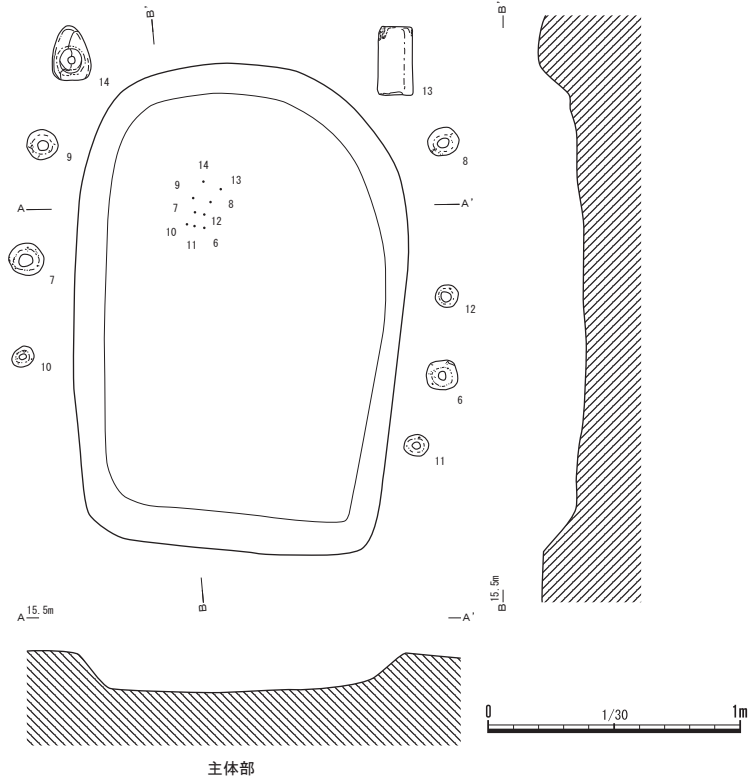
[位 置] (B-3・4、C-3・4) グリッド。

[検出状況] 105・108・109 J、202・213～215 Dを切る。

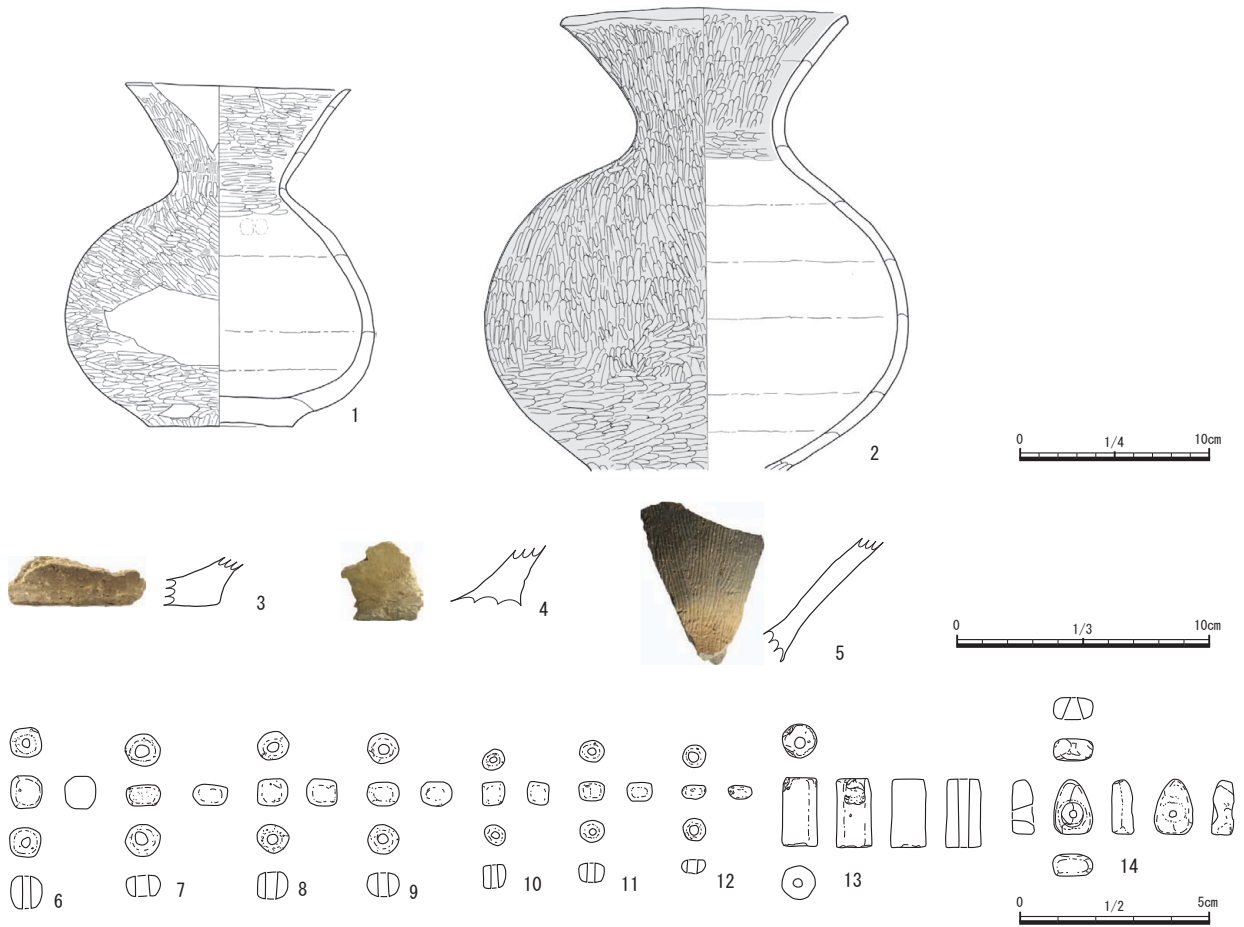
[構 造] 規模：長軸 8.47 m / 短軸 8.41 m。主体部規模：長軸 1.93 m / 短軸 1.31 m / 深さ 12～13cm。溝：上幅 46～124cm、下幅 33～92cm、深さ 9～27cm。溝は1周するものの、やや歪んでおり、西側の溝は他の溝と比べて幅が広がっている。東側、西側の溝内に一段深くなっている部分があり、深さはそれぞれ 57cm、38cm を測る。



第 179 図 6号方形周溝墓 (1 / 60)



第 180 図 6号方形周溝墓主体部 (1 / 30)



第 181 図 6号方形周溝墓出土遺物 (1 / 2 · 1 / 3 · 1 / 4)

[覆 土] 主体部の覆土はローム粒子を僅かに含む黒褐色土を基調とする。溝の覆土は3層に分層される。ローム粒子を含む黒褐色土(2層)を基調とする。東側、西側の深くなる部分では下層(3・4層)でローム粒子を多く含む暗茶褐色～暗黄褐色土を基調とする。

[遺 物] 壺形土器、台付甕形土器が溝内から出土し、主体部からガラス製小玉、碧玉製管玉、翡翠製小玉が出土した。溝内から出土した2は底部穿孔土器の可能性はある。

[時 期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

**遺 物** (第181図、図版129、第77・78表)

**[土 器]** (第181図1～5、図版129、第77表)

復元個体2点、破片資料3点を図示した。1～3は壺形土器、4・5は甕形土器である。

**[石製品・ガラス製品]** (第181図6～14、図版129、第78表)

9点を図示した。6～12はガラス製小玉、13は碧玉製管玉、14は翡翠製小玉である。

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種        | 部位<br>遺存状態        | 法 量<br>(cm)                    | 器形・形態                                   | 文様・特徴   | 胎土・色調                         |
|-------------------|-----------|-------------------|--------------------------------|---|---|-------------------------------|
| 第181図1<br>図版129-1 | (小型)<br>壺 | 口縁部～<br>底部<br>60% | 高18.2<br>口11.9<br>底7.6<br>厚0.7 | 胴部はややつぶれた球胴型で、くの字に屈曲する頸部から直線的に開く単口縁を呈する | 外面：口縁部上端が横位のナデ、その下に縦位の篋磨き/肩部から胴部は右下がりから横位の篋磨き/内面：口縁部から頸部は横位の篋磨き/ほかに横位のナデだが肩部に指頭痕が認められる    | 外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙/赤色粒子・小礫中量   |
| 第181図2<br>図版129-2 | 壺         | 口縁部～<br>胴部<br>60% | 高[24.2]<br>口15.1<br>厚0.6       | 胴部はややつぶれた球胴型で、緩やかに外反する頸部から直線的に開く単口縁を呈する | 外面：口縁部から胴部中位まで主に縦位の篋磨き/胴部下位は主に横位の篋磨き/内面：口縁部は主に縦位の篋磨き/頸部は横位の篋磨き/肩部から胴部は横位のナデ/底部穿孔土器の可能性はある | 外面：明赤褐 内面：明赤褐/赤色粒子・小礫少量       |
| 第181図3<br>図版129-3 | 壺         | 底部<br>破片          | 高[2.1]<br>底(6.8)<br>厚0.9       | やや外反して開く                                | 外面：木口状工具によるナデと縦位の篋磨き/内面：木口状工具によるナデ  | 外面：にぶい黄褐 内面：にぶい黄橙/白色粒子多量、砂粒少量 |
| 第181図4<br>図版129-4 | 壺         | 底部<br>破片          | 厚1.1                           | やや外反して開く                                | 外面：縦位の刷毛のち横位のナデ、一部に篋磨き/内面：ナデ/底面はほとんどなし  | 外面：にぶい黄橙 内面：灰黄/砂粒、白色粒子、赤色粒子少量 |
| 第181図5<br>図版129-5 | 台付甕       | 胴部～接<br>合部<br>破片  | 厚0.7                           | 直線的に開く                                  | 外面：縦位の刷毛/内面：木口状工具による主に横位のナデ   | 外面：にぶい褐・黒褐 内面：灰黄褐/白色粒子多量、砂粒少量 |

第77表 6号方形周溝墓出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号        | 種別         | 遺存状態  | 長さ/径(cm)<br>長軸/短軸/厚さ(cm) | 孔径(cm)<br>上孔径(cm)/<br>下孔径(cm) | 重量(g) | 色                    | 備考   | 出土<br>位置 |
|---------------------|------------|-------|--------------------------|-------------------------------|-------|----------------------|--|----------|
| 第181図6<br>図版129-6   | ガラス<br>製小玉 | 完形    | 0.85/0.8                 | 0.2                           | 0.8   | 濃紺色                  | 気泡あり   | 主体部      |
| 第181図7<br>図版129-7   | ガラス<br>製小玉 | 完形    | 0.6/0.85～0.9             | 0.4                           | 0.5   | 濃紺色                  | 気泡あり   | 主体部      |
| 第181図8<br>図版129-8   | ガラス<br>製小玉 | 完形    | 0.7/0.8                  | 0.3                           | 0.5   | 濃紺色                  | 気泡あり/上面、側面に1mm程の孔が1ヶ所ずつあり、貫通はしていない             | 主体部      |
| 第181図9<br>図版129-9   | ガラス<br>製小玉 | 完形    | 0.6/0.8～0.85             | 0.3                           | 0.5   | 濃紺色                  | 気泡あり   | 主体部      |
| 第181図10<br>図版129-10 | ガラス<br>製小玉 | 完形    | 0.65/0.55～0.6            | 0.2                           | 0.3   | 濃紺色                  | 気泡あり   | 主体部      |
| 第181図11<br>図版129-11 | ガラス<br>製小玉 | 完形    | 0.5/0.6～0.7              | 0.2                           | 0.3   | うすめの<br>紺色           | 気泡あり   | 主体部      |
| 第181図12<br>図版129-12 | ガラス<br>製小玉 | 完形    | 0.35/0.6                 | 0.3                           | 0.1   | うすめの<br>紺色           | 気泡あり/側面に1mm程の孔が1ヶ所あり、貫通はしていない/側面に僅かに欠けた部分が見られる | 主体部      |
| 第181図13<br>図版129-13 | 碧玉製<br>管玉  | 50%程か | [1.8]/0.9                | 0.3/0.25                      | 2.2   | 白っぽい<br>青緑色          | 5mm程の欠けが見られる                                   | 主体部      |
| 第181図14<br>図版129-14 | 翡翠製<br>小玉  | 完形    | 1.4/1.0/0.6              | 0.6～0.65/0.2                  | 1.4   | 緑白色<br>(白い部<br>分が多い) | 形状は隅丸三角状/斜めにひびが入っている                           | 主体部      |

第78表 6号方形周溝墓出土石製品・ガラス製品一覧





## (2) 住居跡

### 9号住居跡

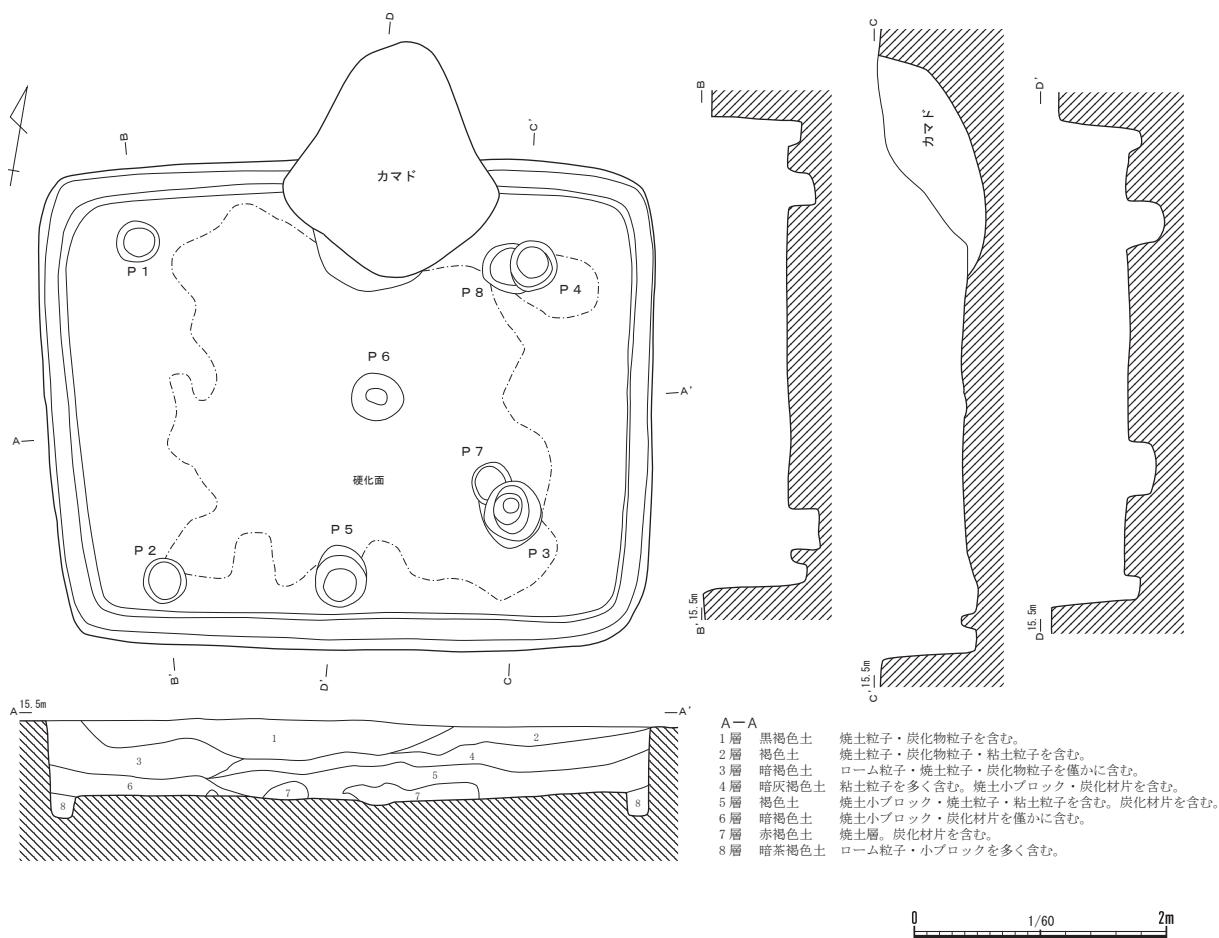
**遺 構** (第 183・184 図)

[位 置] (C-5・6) グリッド。

[検出状況] 116 J を切る。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 4.83 m / 短軸 3.84 m / 深さ 0.51 ~ 0.56 cm。壁：約 90° で立ち上がる。主軸方位：N-9°-W。壁溝：1 周するものが 1 条検出された。上幅 19 ~ 30 cm・下幅 9 ~ 16 cm・床面からの深さ 11 ~ 17 cm。床面：住居中央は硬化するが、壁際は軟弱である。カマド：北壁の中央よりやや東側に位置する。主軸方位は N-5°-E。長さ 186 cm / 幅 165 cm / 壁への掘り込み 100 cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：支柱穴は P 1、P 2、P 3、P 4 の 4 本と考えられる。P 1 は 34 × 33 cm の円形と思われ、深さ 20 cm。P 2 は 34 × 36 cm の円形で、深さ 26 cm。P 3 は 47 × 45 cm の円形で、深さ 27 cm。P 4 は 40 × 37 cm の円形で、深さ 28 cm。入口施設：P 5 が入口施設と考えられる。48 × 38 cm の楕円形。

[覆 土] 8 層に分層される。上層 (1・2 層) は焼土粒子・炭化物粒子を含む褐色～黒褐色土を基調とし、2 層には粘土粒子も含まれる。中層 (3・4 層) は暗褐色～暗灰黄褐色を基調とし、3 層にはローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量含み、4 層には粘土粒子を多量含み、焼土小ブロック、炭化材を含む。下



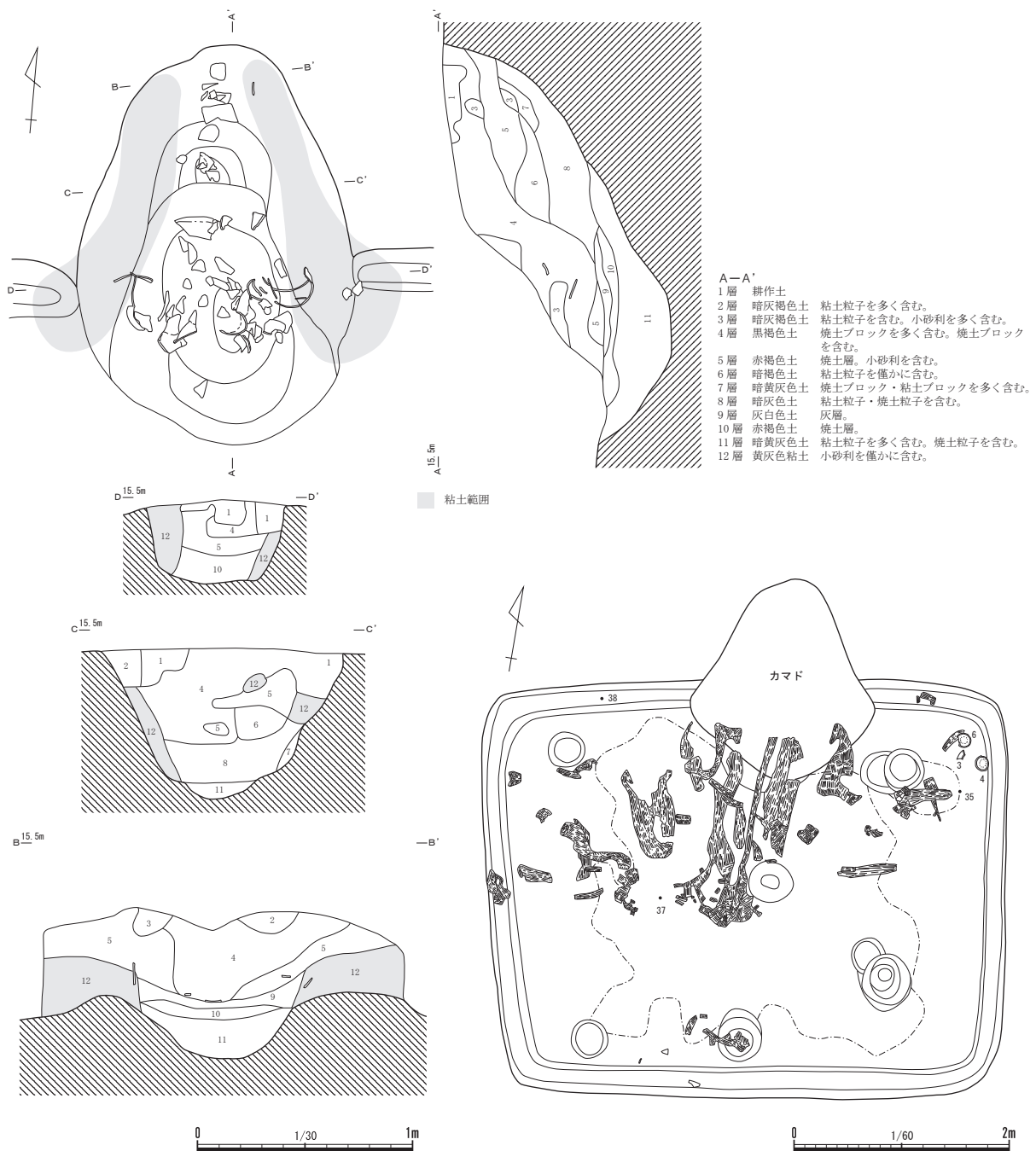
第 183 図 9号住居跡 (1 / 60)

層（5・6層）は焼土小ブロックを微量～中量含む褐色～暗褐色土を基調とし、5層には焼土粒子・粘土粒子、炭化材片を含み、6層には炭化材片を僅かに含む。床面直上の7層は赤褐色の焼土層で、炭化材を含む。8層は壁溝で、全体的に不整合な堆積状態で、埋め戻された可能性もある。

〔遺物〕 須恵器坏・蓋・甕形土器、須恵系土師質土器坏、土師器坏・甕形土器、鉄製刀子、石製紡錘車が出土した。カマド内から複数の長甕（23～31）と須恵器坏（1）、須恵器甕（16）が出土している。

〔時期〕 奈良時代（8世紀中葉）。

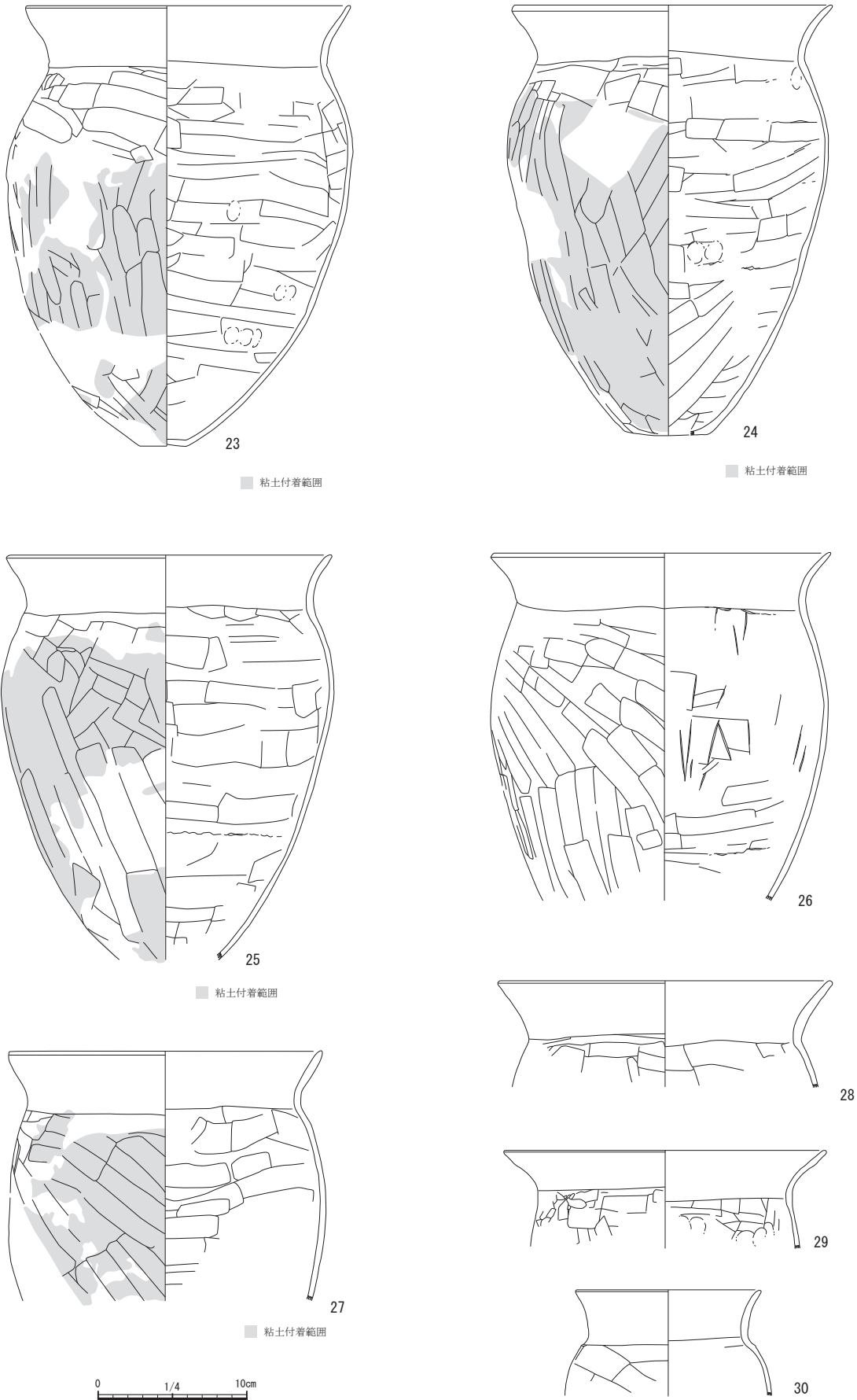
〔所見〕 焼失住居である。覆土には焼土が非常に多く含まれる。また、覆土は全体的に不整合な堆



第184図 9号住居跡カマド・遺物出土状態（1/30・1/60）



第185図 9号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)



第186図 9号住居跡出土遺物2 (1/4)



積をしており、埋め戻された可能性がある。炭化材の多くはブロック状で、散在している。カマド前面に北壁に直行する形で炭化材が並んだ状態で出土している。壁が倒れこんだような形ではあるが、壁体にそのような太い木材を使うのかどうかは不明である。カマド右には砕けた炭化材や焼土、灰を多く含む層があり貝殻を包含している。

**遺物** (第185～187図、図版130～132-1、第79～81表)

**[土器]** (第185・186図・第187図31・32、図版130～132-1、第79表)

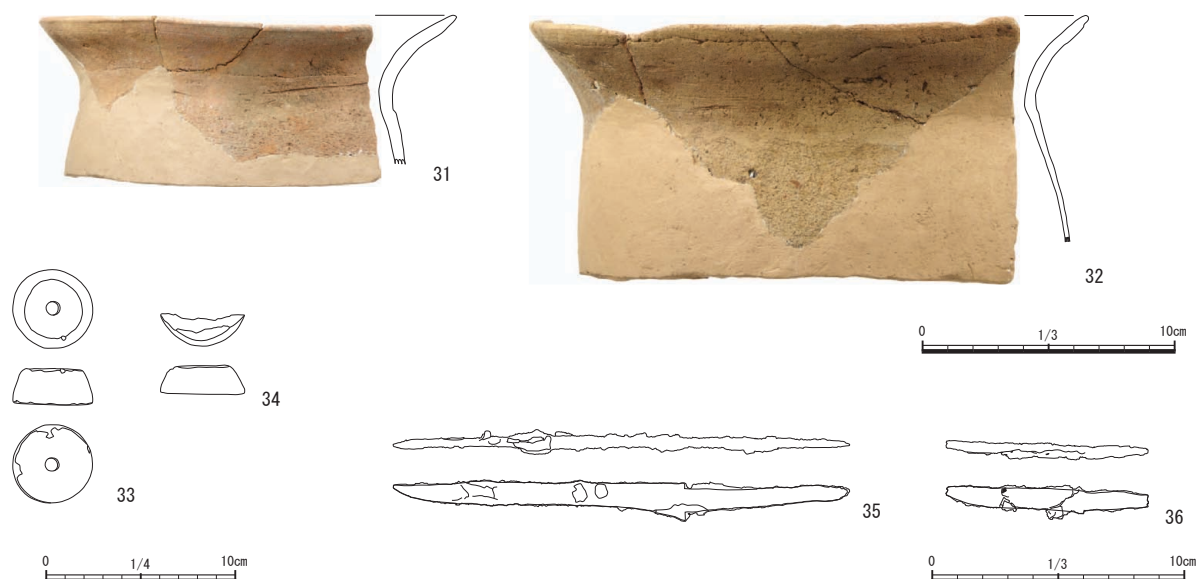
復元個体23点、破片資料9点を図示した。1～11・13～16は須恵器で、1～11は坏、13～15は蓋、16は甕である。12は須恵系土師質土器坏である。17～32は土師器で、17～22は坏、23～32は長甕である。

**[石製品]** (第187図33・34、図版132-1、第80表)

2点を図示した。33・34は紡錘車である。

**[鉄製品]** (第187図35・36、図版132-1、第81表)

2点を図示した。35・36は刀子である。



第187図 9号住居跡出土遺物3 (1/4・1/3)

| 挿図番号<br>図版番号      | 器種       | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)              | 色調                   | 胎土                              | 特徴  | 備考    |
|-------------------|----------|--------------------|-------------------------|----------------------|---------------------------------|---|-------|
| 第185図1<br>図版130-1 | 須恵器<br>坏 | 口縁部～<br>底部<br>ほぼ完形 | 高13.2<br>口3.9<br>底8.3   | 外面：青灰 / 内面：青灰        | 白色粒子・白色針<br>状物質・砂粒・小<br>礫少量     | 底部周縁部回転篋削り / 回転ナデ / 底面に<br>篋描き「×」印あり / カマド内より出土 | 南比企窯産 |
| 第185図2<br>図版130-2 | 須恵器<br>坏 | 口縁部～<br>底部<br>ほぼ完形 | 高13.5<br>口3.9<br>底8.0   | 外面：灰～黒褐 / 内面：灰<br>～褐 | 白色粒子・白色針<br>状物質・砂粒・小<br>礫少量     | 底部周縁部回転篋削り / 回転ナデ                               | 南比企窯産 |
| 第185図3<br>図版130-3 | 須恵器<br>坏 | 口縁部～<br>底部<br>80%  | 高(13.0)<br>口3.2<br>底7.4 | 外面：暗緑灰 / 内面：灰        | 白色粒子微量、白<br>色針状物質多量、<br>砂粒・小礫微量 | 底部回転糸切り離し後周縁部篋削り / 回転<br>ナデ                     | 南比企窯産 |
| 第185図4<br>図版130-4 | 須恵器<br>坏 | 口縁部～<br>底部<br>ほぼ完形 | 高13.4<br>口4.2<br>底7.6   | 外面：灰 / 内面：灰          | 白色粒子多量、砂<br>粒微量                 | 底部回転糸切り離し後周縁部篋削り / 回転<br>ナデ                     | 東金子窯産 |

第79表 9号住居跡出土土器一覧1

| 挿図番号<br>図版番号        | 器種                | 部位<br>遺存状態          | 法量<br>(cm)                | 色調  | 胎土                         | 特徴  | 備考    |
|---------------------|-------------------|---------------------|---------------------------|---|----------------------------|---|-------|
| 第185図5<br>図版130-5   | 須恵器<br>坏          | 口縁部～<br>底部<br>60%   | 高(12.8)<br>口3.5<br>底7.2   | 外面：灰/内面：オリーブ<br>灰                         | 白色粒子、砂粒微<br>量              | 底部回転糸切り離し後周縁部篋削り/回転<br>ナデ                               | 東金子窯産 |
| 第185図6<br>図版130-6   | 須恵器<br>坏          | 口縁部～<br>底部<br>90%   | 高13.2<br>口3.8<br>底7.4     | 外面：黄灰/内面：黄灰                               | 砂粒・小礫微量                    | 底部周縁部回転篋削り/回転ナデ   | 東金子窯産 |
| 第185図7<br>図版130-7   | 須恵器<br>坏          | 口縁部～<br>体部<br>10%   | 高(14.5)<br>口3.5<br>底(9.0) | 外面：灰/内面：灰                                 | 白色粒子中量、砂<br>粒少量            | 回転ナデ  | 東金子窯産 |
| 第185図8<br>図版130-8   | 須恵器<br>坏          | 口縁部～<br>底部<br>10%   | 高(14.3)<br>口5.1<br>底(6.5) | 外面：灰～黒/内面：灰                               | 黒色粒子・砂粒微<br>量              | 底部回転篋削り/回転ナデ  | 東金子窯産 |
| 第185図9<br>図版130-9   | 須恵器<br>坏          | 口縁部～<br>体部<br>10%   | 高(12.6)<br>口[6.4]         | 外面：灰/内面：暗灰                                | 白色粒子少量、砂<br>粒微量            | 回転ナデ  | 東金子窯産 |
| 第185図10<br>図版130-10 | 須恵器<br>坏          | 口縁部～<br>体部<br>10%   | 高(14.6)<br>口[4.3]         | 外面：灰/内面：灰                                 | 白色粒子・砂粒・<br>小礫少量           | 回転ナデ  | 東金子窯産 |
| 第185図11<br>図版130-11 | 須恵器<br>坏          | 口縁部～<br>体部<br>15%   | 高(16.4)<br>口[5.1]         | 外面：灰/内面：灰                                 | 白色粒子・砂粒少<br>量              | 回転ナデ/内面：口縁上端直下に沈線                                       | 東金子窯産 |
| 第185図12<br>図版130-12 | 須恵系<br>土師質<br>土器坏 | 口縁部～<br>体部<br>30%   | 高(13.5)<br>口[4.0]         | 外面：灰/内面：灰                                 | 白色粒子・黒色粒<br>子・砂粒少量         | 回転ナデ  | 東金子窯産 |
| 第185図13<br>図版130-13 | 須恵器<br>蓋          | 天井部～<br>かえし部<br>20% | 高(18.0)<br>口[2.0]         | 外面：灰/内面：灰                                 | 白色針状物質中<br>量、砂粒小礫・少<br>量   | 天井部上面回転篋削り/回転ナデ   | 南比企窯産 |
| 第185図14<br>図版130-14 | 須恵器<br>蓋          | 天井部～<br>かえし部<br>10% | 高(16.2)<br>口[1.3]         | 外面：黄灰/内面：黄灰                               | 白色針状物質・白<br>色粒子中量、小礫<br>少量 | 回転ナデ  | 南比企窯産 |
| 第185図15<br>図版130-15 | 須恵器<br>蓋          | つまみ部<br>10%         | 口[1.7]                    | 外面：灰/内面：灰                                 | 白色粒子・砂粒少<br>量、黒色粒子微量       | 回転ナデ  | 東金子窯産 |
| 第185図16<br>図版130-16 | 須恵器<br>甕          | 口縁部<br>5%           | 高(32.0)<br>口[10.0]        | 外面：にぶい黄橙/内面：<br>褐灰                        | 砂粒・小礫少量                    | 回転ナデ/カマド内左より出土  | 東金子窯産 |
| 第185図17<br>図版130-17 | 土師器<br>坏          | 口縁部～<br>体部<br>10%   | 高(12.0)<br>口[2.7]         | 外面：橙/内面：橙                                 | 角閃石・砂粒少量、<br>白色粒子微量        | 内面：口縁部横ナデ、体部篋ナデ/外面：<br>口縁部横ナデ、体部～底部篋削り                  | 北武蔵型坏 |
| 第185図18<br>図版130-18 | 土師器<br>坏          | 口縁部～<br>体部<br>10%   | 高(12.4)<br>口[2.6]         | 外面：橙/内面：橙                                 | 角閃石・小礫少量、<br>赤色粒子・砂粒微<br>量 | 内面：口縁部横ナデ、体部篋ナデ/外面：<br>口縁部横ナデ、体部～底部篋削り                  | 北武蔵型坏 |
| 第185図19<br>図版130-19 | 土師器<br>坏          | 口縁部<br>10%          | 厚0.7                      | 外面：にぶい褐・赤彩部分<br>明赤褐/内面：にぶい褐・<br>赤彩部分明赤褐   | 白色粒子少量、砂<br>粒微量            | 内面～外面口縁部赤彩/内面：口縁部横ナ<br>デ/外面：口縁部横ナデ、粘土帯の痕跡               | 落合型坏  |
| 第185図20<br>図版130-20 | 土師器<br>坏          | 口縁部<br>10%          | 厚0.5                      | 外面：橙・赤彩部分明赤褐<br>/内面：橙・赤彩部分明赤<br>褐         | 白色粒子少量、砂<br>粒微量            | 内面～外面口縁部赤彩/内面：口縁部横ナ<br>デ/外面：口縁部横ナデ、粘土帯の痕跡               | 落合型坏  |
| 第185図21<br>図版130-21 | 土師器<br>坏          | 口縁部<br>10%          | 厚0.6                      | 外面：にぶい黄橙・赤彩部<br>分明赤褐/内面：にぶい黄<br>橙・赤彩部分明赤褐 | 白色粒子少量、砂<br>粒微量            | 内面～外面口縁部赤彩/内面：口縁部横ナ<br>デ/外面：口縁部横ナデ、粘土帯の痕跡               | 落合型坏  |
| 第185図22<br>図版130-22 | 土師器<br>坏          | 体部<br>10%           | 厚0.6                      | 外面：にぶい黄橙/内面：<br>にぶい黄橙・積載部分にぶ<br>い赤褐       | 白色粒子・砂粒微<br>量              | 内面赤彩/内面：体部篋ナデ/外面：体部<br>～底部篋削り                           | 落合型坏  |
| 第186図23<br>図版131-23 | 土師器<br>甕          | 口縁部～<br>底部<br>60%   | 高21.2<br>口29.6<br>底2.8    | 外面：橙/内面：橙                                 | 砂粒少量                       | 外面粘土付着/内面：横ナデ/外面：口縁<br>部横ナデ、胴部篋削り/底部：篋削り/カ<br>マド前・右より出土 | 武蔵型甕  |
| 第186図24<br>図版131-24 | 土師器<br>甕          | 口縁部～<br>底部<br>60%   | 高21.9<br>口28.9<br>底4.3    | 外面：橙/内面：明赤褐                               | 雲母少量、砂粒微<br>量              | 外面粘土付着/内面：横ナデ/外面：口縁<br>部横ナデ、胴部篋削り/底部：篋削り/カ<br>マド内右より出土  | 武蔵型甕  |
| 第186図25<br>図版131-25 | 土師器<br>甕          | 口縁部～<br>胴部<br>40%   | 高22.2<br>口27.2            | 外面：橙/内面：橙                                 | 赤色粒子・雲母・<br>小礫少量、砂粒中<br>量  | 内面：横ナデ/外面：口縁部横ナデ、胴部<br>篋削り/カマド内右より出土                    | 武蔵型甕  |
| 第186図26<br>図版131-26 | 土師器<br>甕          | 口縁部～<br>胴部<br>60%   | 高22.4<br>口[23.4]          | 外面：橙/内面：明褐                                | 砂粒微量                       | 内面：横ナデ/外面：口縁部横ナデ、胴部<br>篋削り/カマド内右より出土                    | 武蔵型甕  |
| 第186図27<br>図版131-27 | 土師器<br>甕          | 口縁部～<br>胴部<br>40%   | 高21.0<br>口[16.8]          | 外面：明赤褐～にぶい褐/<br>内面：橙                      | 角閃石・砂粒微量                   | 外面粘土付着/内面：横ナデ/外面：口縁<br>部横ナデ、胴部篋削り/カマド内左より出<br>土         | 武蔵型甕  |
| 第186図28<br>図版131-28 | 土師器<br>甕          | 口縁部～<br>胴部<br>10%   | 高(22.4)<br>口[7.1]         | 外面：褐/内面：赤褐                                | 角閃石、砂粒少量                   | 内面：横ナデ/外面：口縁部横ナデ、胴部<br>篋削り/カマド内左より出土                    | 武蔵型甕  |

第79表 9号住居跡出土土器一覧2

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号           | 器種         | 部位<br>遺存状態        | 法量<br>(cm)        | 色調                  | 胎土             | 特徴                                       | 備考   |
|------------------------|------------|-------------------|-------------------|---------------------|----------------|--|------|
| 第186図29<br>図版132-1-29  | 土師器<br>甕   | 口縁部～<br>胴部<br>10% | 高(21.6)<br>口[6.6] | 外面：橙 / 内面：明赤褐       | 角閃石少量、砂粒<br>微量 | 内面：横ナデ / 外面：口縁部横ナデ、胴部<br>篋削り / カマド内左より出土 | 武蔵型甕 |
| 第186図30<br>図版132-1-30  | 土師器<br>小型甕 | 口縁部～<br>胴部<br>10% | 高(12.4)<br>口[7.0] | 外面：暗赤褐 / 内面：赤褐      | 砂粒少量           | 内面：横ナデ / 外面：口縁部横ナデ、胴部<br>篋削り / カマド内左より出土 | 武蔵型甕 |
| 第187図31<br>図版132-1-131 | 土師器<br>甕   | 口縁部～<br>胴部<br>10% | 高(23.4)<br>口[9.0] | 外面：明褐 / 内面：明褐       | 角閃石微量、砂粒<br>少量 | 内面：横ナデ / 外面：口縁部横ナデ、胴部<br>篋削り / カマド内左より出土 | 武蔵型甕 |
| 第187図32<br>図版132-1-32  | 土師器<br>甕   | 口縁部～<br>胴部<br>10% | 高(22.6)<br>口[5.9] | 外面：明赤褐 / 内面：明赤<br>褐 | 角閃石微量、砂粒<br>少量 | 内面：横ナデ / 外面：口縁部横ナデ、胴部<br>篋削り             | 武蔵型甕 |

第79表 9号住居跡出土土器一覧3

| 挿図番号<br>図版番号          | 種別    | 遺存状態 | 形状                 | 高さ (cm)<br>上面径 (cm)/<br>下面径 (cm) | 上孔径 (cm)/<br>下孔径 (cm) | 重量 (g) | 石材  | 出土<br>位置  |
|-----------------------|-------|------|--------------------|----------------------------------|-----------------------|--------|-----|-----------|
| 第187図33<br>図版132-1-33 | 石製紡錘車 | 完形   | 上面円形 / 下面円形 / 側面台形 | 1.9/3.2/4.2                      | 0.7<br>0.7            | 59.5   | 蛇紋岩 | 北東隅<br>付近 |
| 第187図34<br>図版132-1-34 | 石製紡錘車 | 20%  | 上面円形 / 下面円形 / 側面台形 | 1.5 / 不明 / 不明                    | 不明                    | 12.2   | 蛇紋岩 | 不明        |

第80表 9号住居跡出土石製品一覧

| 挿図番号<br>図版番号          | 種別   | 遺存状態  | 材質 | 現存長 / 幅 / 厚さ (cm)        | 重さ (g) | 備考 | 出土<br>位置 |
|-----------------------|------|-------|----|--------------------------|--------|----|----------|
| 第187図35<br>図版132-1-35 | 鉄製刀子 | 完形    | 鉄  | 18.4/0.5 ~ 1.6/0.2 ~ 0.8 | 22.9   | -  | 中央やや西寄り  |
| 第187図36<br>図版132-1-36 | 鉄製刀子 | 50%程か | 鉄  | 8.1/0.5 ~ 1.2/0.2 ~ 0.6  | 6.5    | -  | 北側周溝内    |

第81表 9号住居跡出土鉄製品一覧

10号住居跡

遺 構 (第188図)

[位 置] (D-6) グリッド。

[検出状況] 116 Jを切る。

[構 造] 平面形：方形。規模：長軸 2.79 m / 短軸 2.70 m / 深さ 0.43 ~ 0.52 cm。壁：約 85°で立ち上がる。主軸方位：N - 15° - W。壁溝：1条検出された。東側コーナー部分壁溝確認できないがほぼ全周すると思われる。上幅 10 ~ 22 cm・下幅 3 ~ 6 cm・床面からの深さ 5 ~ 9 cm。床面：全面が軟弱である。カマド：北壁の東側に位置する。主軸方位は N - 11° - E。長さ 134 cm / 幅 105 cm / 壁への掘り込み 81 cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

[覆 土] 3層に分層される。上層(4層)はローム粒子。焼土粒子を含む黒褐色土、下層上位(5層)はローム粒子を多く含み、焼土粒子・炭化物粒子を含む暗褐色土、下層下位(6層)はローム粒子・ロームブロックを多く含む暗茶褐色土である。

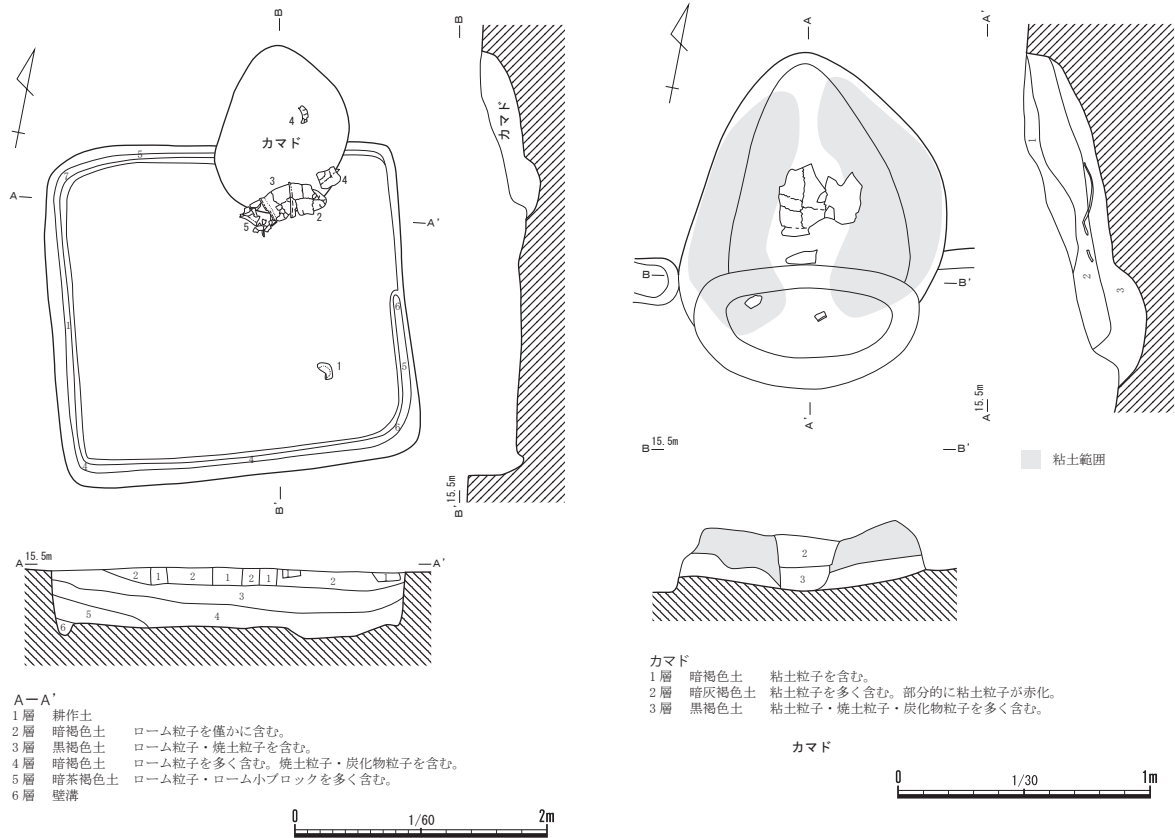
[遺 物] 須恵器椀、土師器長甕が出土した。図示した遺物はいずれもカマド内から出土している。

[時 期] 奈良時代(8世紀中葉)。

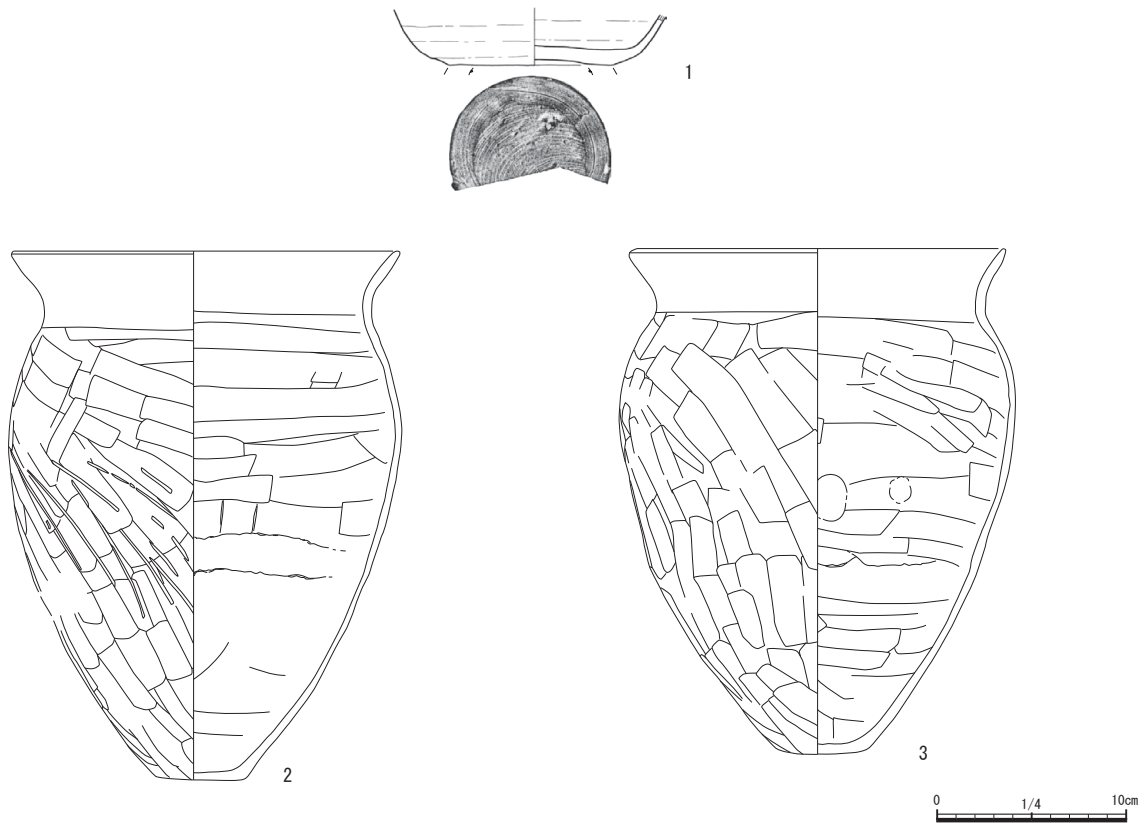
遺 物 (第189・190図、図版132-2・133-1、第82表)

[土 器] (第189・190図、図版132-2・133-1、第82表)

復元個体5点を図示した。1は須恵器椀、2~5は土師器で、長甕である。

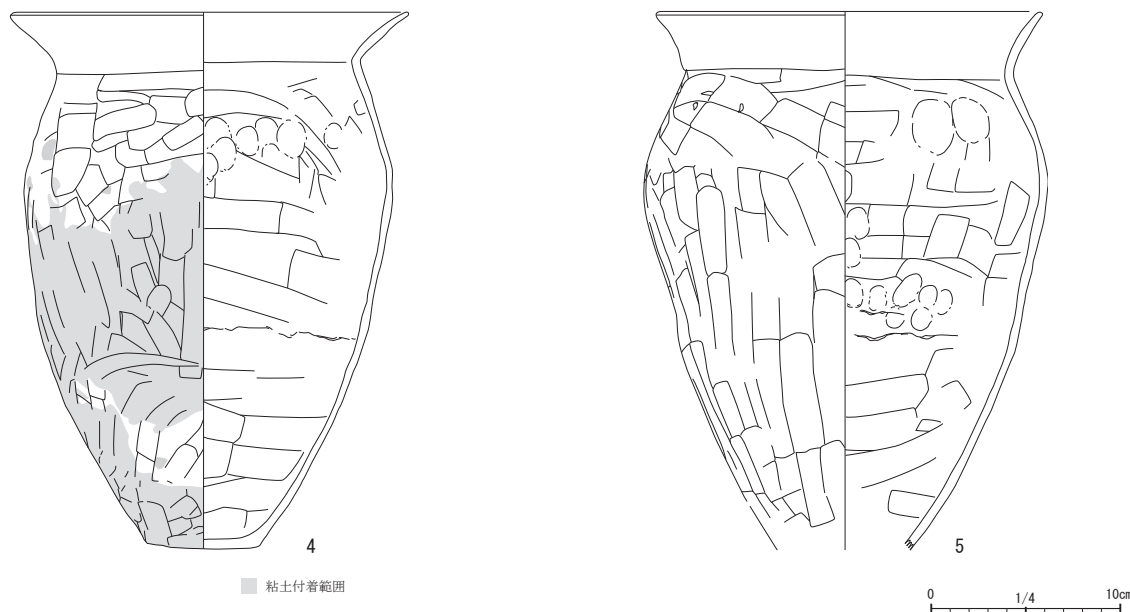


第 188 図 10 号住居跡・カマド (1/60・1/30)



第 189 図 10 号住居跡出土遺物 1 (1/4)





第190図 10号住居跡出土遺物2 (1/4)

| 挿図番号<br>図版番号        | 器種       | 部位<br>遺存状態        | 法量<br>(cm)                | 色調                            | 胎土                             | 特徴  | 備考        |
|---------------------|----------|-------------------|---------------------------|-------------------------------|--------------------------------|---|-----------|
| 第189図1<br>図版132-2-1 | 須恵器<br>坏 | 体部～<br>底部<br>60%  | 高 [2.9]<br>底 8.6          | 外面：灰 / 内面：灰                   | 砂粒・黒色粒子・小礫<br>少量               | 底部糸切り離し後周縁部篋削り / 回転ナデ   | 東金子窯<br>産 |
| 第189図2<br>図版132-2-2 | 土師器<br>甕 | 口縁部～<br>底部<br>90% | 高 21.2<br>口 28.0<br>底 5.0 | 外面：橙 / 内面：橙                   | 雲母・角閃石・赤色粒<br>子・砂粒少量           | 外面スス付着 / 内面：横ナデ / 外面：口縁部<br>横ナデ、胴部篋削り / 底部：篋削り / カマド<br>内前で出土 | 武蔵型甕      |
| 第189図3<br>図版132-2-3 | 土師器<br>甕 | 口縁部～<br>底部<br>90% | 高 19.8<br>口 26.5<br>底 5.0 | 外面：橙 / 内面：橙                   | 角閃石少量、赤色粒子<br>微量、砂粒中量、小礫<br>微量 | 内面：横ナデ / 外面：口縁部横ナデ、胴部篋<br>削り / 底部：篋削り / カマド内前で出土              | 武蔵型甕      |
| 第190図4<br>図版133-1-4 | 土師器<br>甕 | 口縁部～<br>底部<br>90% | 高 21.8<br>口 28.5<br>底 5.8 | 外面：橙 / 内面：橙                   | 角閃石・雲母少量、赤<br>色粒子微量、砂粒中量       | 外面粘土付着 / 内面：横ナデ / 外面：口縁部<br>横ナデ・指頭痕、胴部篋削り / カマド内で出<br>土       | 武蔵型甕      |
| 第190図5<br>図版133-1-5 | 土師器<br>甕 | 口縁部～<br>胴部<br>70% | 高 20.8<br>口 28.4          | 外面：明赤褐～にぶ<br>い黄橙 / 内面：明赤<br>褐 | 角閃石・砂粒中量、赤<br>色粒子・小礫少量         | 内面：横ナデ / 外面：口縁部横ナデ、胴部篋<br>削り / カマド内前で出土                       | 武蔵型甕      |

第82表 10号住居跡出土土器一覧

### (3) 溝跡

#### 12号溝跡

##### 遺 構 (第191図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[検出状況] 101・106 Jを切る。

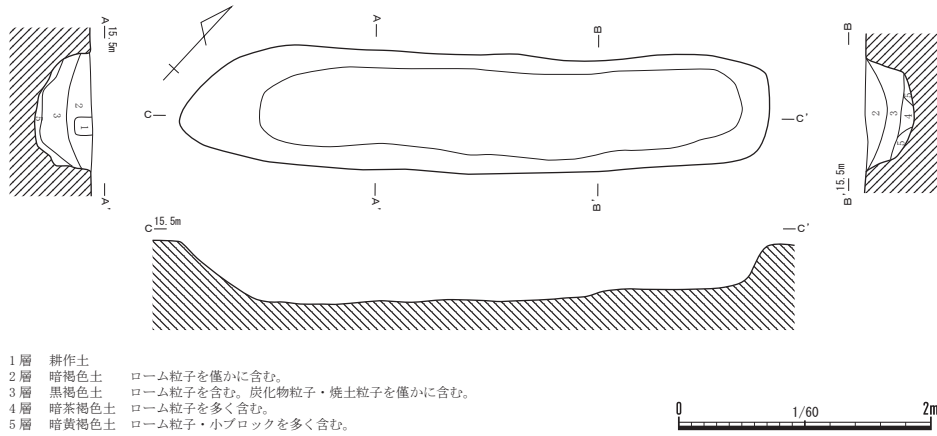
[構 造] 平面形：隅丸長方形。規模：長さ 4.65 m / 上幅 0.74 ~ 0.94 m / 下幅 0.57 ~ 0.67 m / 深  
さ 38 ~ 42cm。断面形：逆台形。

[覆 土] 上層 (2層) はローム粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とする。中層 (3層) はローム粒  
子を含み、炭化物粒子、焼土粒子を僅かに含む黒褐色土を基調とする。下層 (4・5層) はローム粒子  
を多く含む暗茶褐色～暗黄褐色土を基調とし、5層にはローム小ブロックも多く含む。

[遺 物] 当該期の遺物は検出されなかった。

[時 期] 奈良・平安時代。

[所 見] 方形周溝墓の溝の一部の可能性もある。



第191図 12号溝跡 (1/60)

### 13号溝跡

#### 遺 構 (第192図)

[位 置] (B-1~C-1・2~D-2・3~E-3・4・5~F-5・6) グリッド。

[検出状況] 北端、南端は調査区外となる。102・112 J、145・147・148 Y、204・205・216~219・221~223 Dを切る。

[構 造] 平面形：南北に伸びる溝で、南側は調査区境付近で南西方向に曲がる。北側にいくにつれて幅も広く、深くなる。規模：長さは調査区内で61.1 m。4.65 m/上幅0.68~1.11 m/下幅0.26~0.77 m/深さ9~65cm。断面形：皿状~逆台形。

[覆 土] 上層(2・5層)はローム粒子を微量~中量含む暗褐色~黒褐色土を基調とする。中層(3層)はローム粒子を多く含む暗茶褐色土を基調とする。下層(4・6層)はA-A'でローム粒子を含む暗褐色土、C-C'でローム粒子・小ブロックを多く含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺 物] 須恵器坏、甕形土器が出土した。

[時 期] 奈良・平安時代

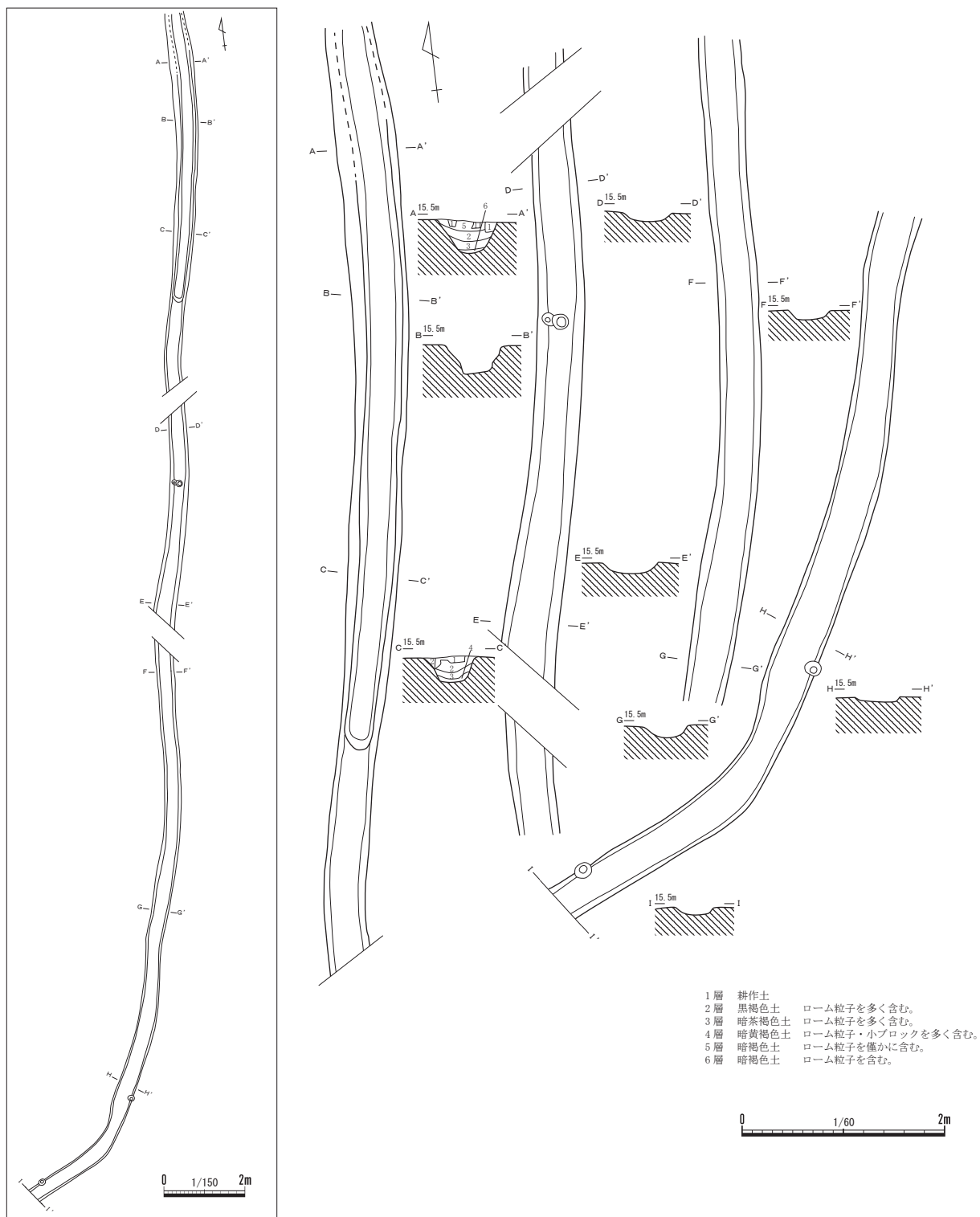
#### 遺 物 (第193図、図版133-2、第83表)

[土 器] (第193図、図版133-2、第83表)

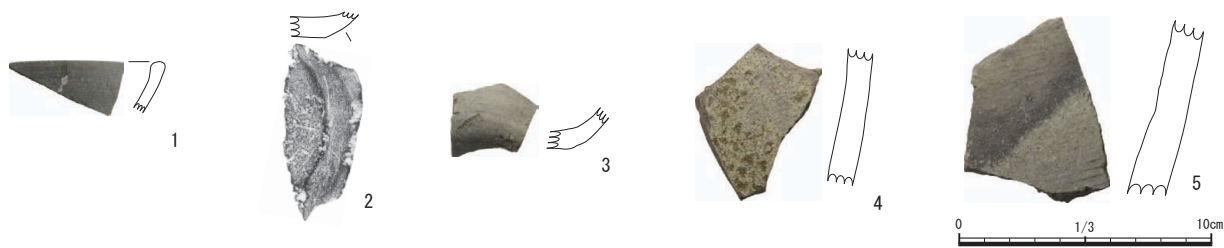
破片資料6点を図示した。1~5は須恵器で、1~3は坏、4・5は甕である。

| 挿図番号<br>図版番号        | 器 種      | 部 位<br>遺存状態 | 法 量<br>(cm) | 色 調              | 胎 土                     | 特 徴             | 備 考   |
|---------------------|----------|-------------|-------------|------------------|-------------------------|-----------------|-------|
| 第193図1<br>図版133-2-1 | 須恵器<br>坏 | 口縁部<br>5%   | 厚0.6        | 外面：灰/内面：<br>灰    | 白色粒子・白色針状物質少<br>量、砂粒微量  | 回転ナデ            | 南比企窯産 |
| 第193図2<br>図版133-2-2 | 須恵器<br>坏 | 坏部~底<br>部5% | 厚0.6        | 外面：灰/内面：<br>灰    | 白色粒子・白色針状物質少<br>量、砂粒微量  | 底部周縁部回転篋削り/回転ナデ | 南比企窯産 |
| 第193図3<br>図版133-2-3 | 須恵器<br>坏 | 坏部~底<br>部5% | 厚0.6        | 外面：灰/内面：<br>褐灰   | 白色粒子・白色針状物質・砂<br>粒・小礫微量 | 回転ナデ            | 南比企窯産 |
| 第193図4<br>図版133-2-4 | 須恵器<br>甕 | 胴部5%        | 厚0.6        | 外面：灰黄/内面：<br>黄灰  | 白色粒子少量、砂粒微量             | 自然釉/ナデ          | 東金子窯産 |
| 第193図5<br>図版133-2-5 | 須恵器<br>甕 | 胴部5%        | 厚0.6        | 外面：灰~暗灰/<br>内面：灰 | 白色粒子中量、砂粒・小礫少<br>量      | 内面：ナデ/外面：タタキ目   | 東金子窯産 |

第83表 13号溝跡出土土器一覧



第192図 13号溝跡 (1/60・1/150)



第193図 13号溝跡出土遺物 (1/3)

## 第4節 中世以降の遺構・遺物

### (1) 概要

中世以降の遺構は柵列1本(7柵)、集石5基(6~10 S)を検出した。集石と柵列は関連のある可能性が考えられる。

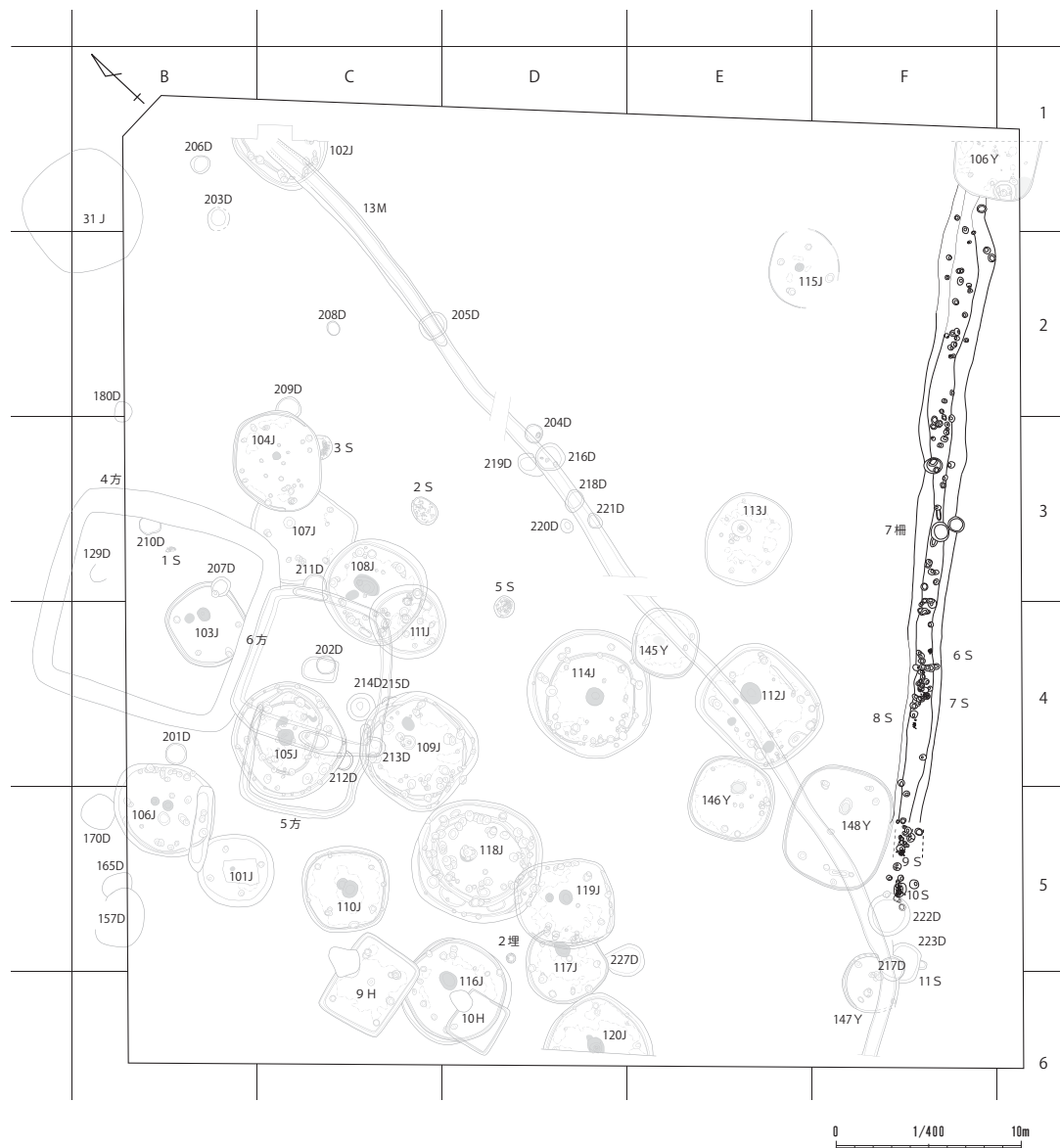
### (2) 柵列

#### 7号柵列

遺構(第195~197図)

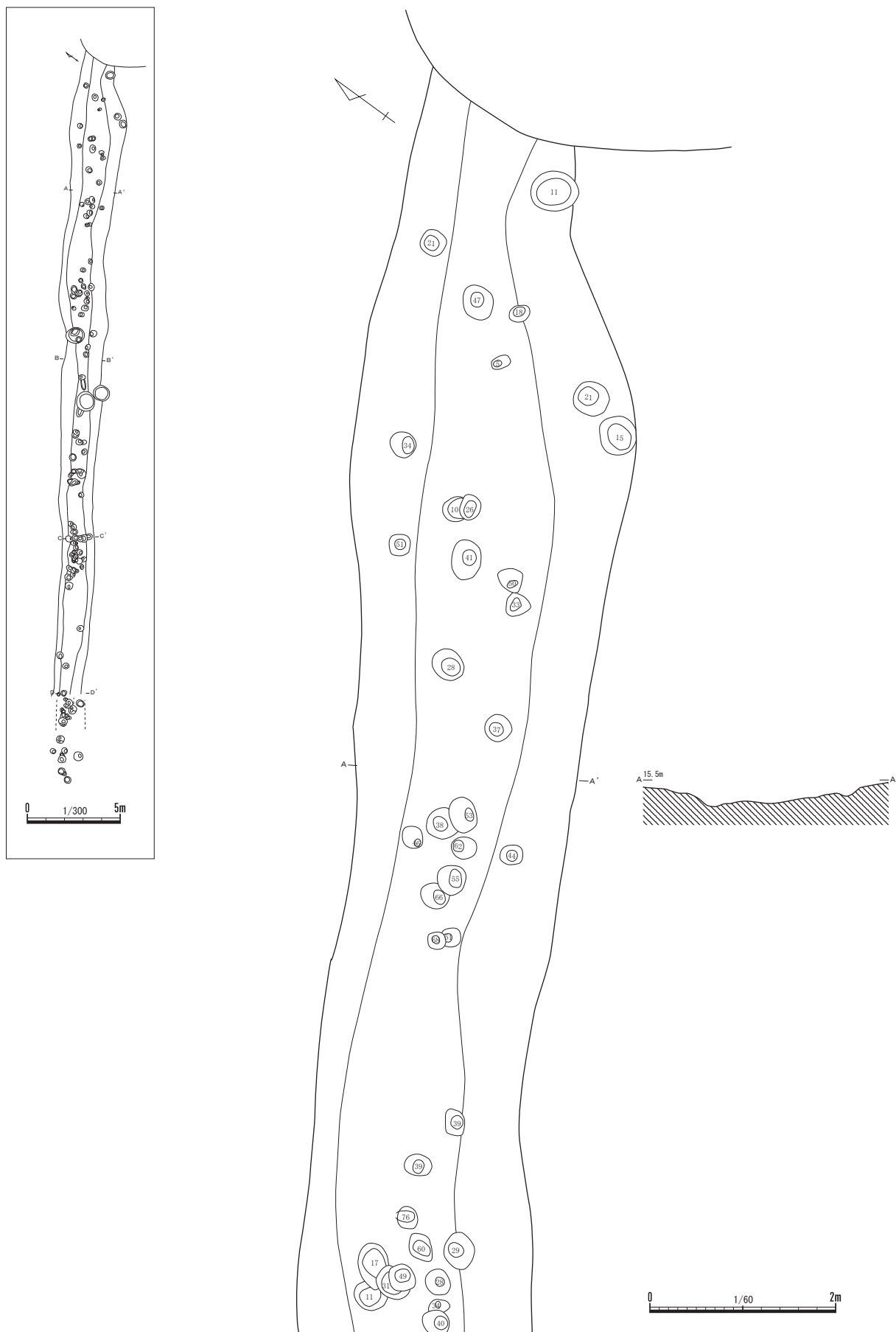
[位置] (F-1~6) グリッド。

[検出状況] 北端、南端は遺構と切り合い、106・148 Yを切る。13 Mと重複するが13 Mより新しい。6~10 Sとは重複し、関連があるものと考えられる。

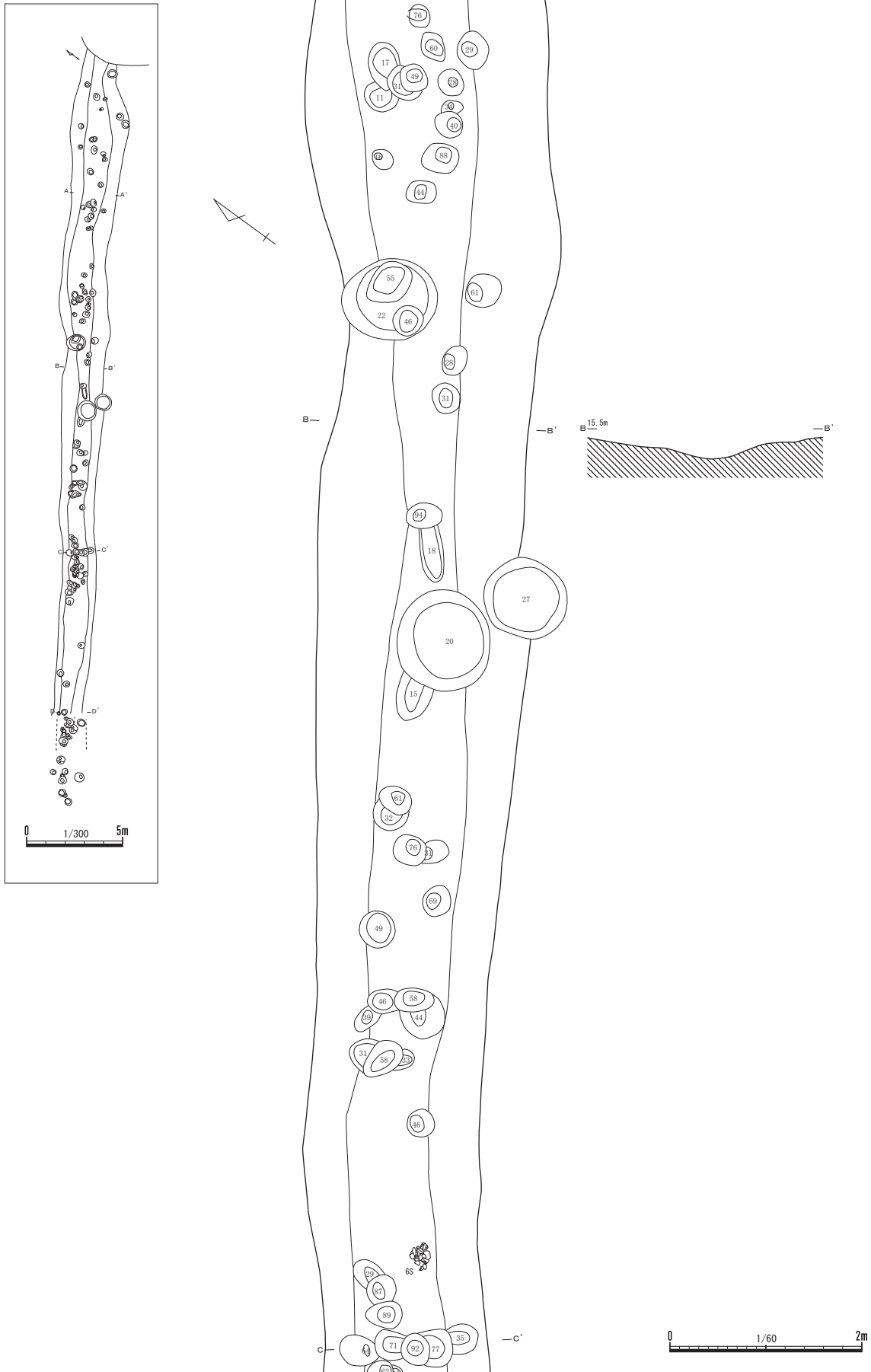


第194図 中世以降遺構全体図(1/400)

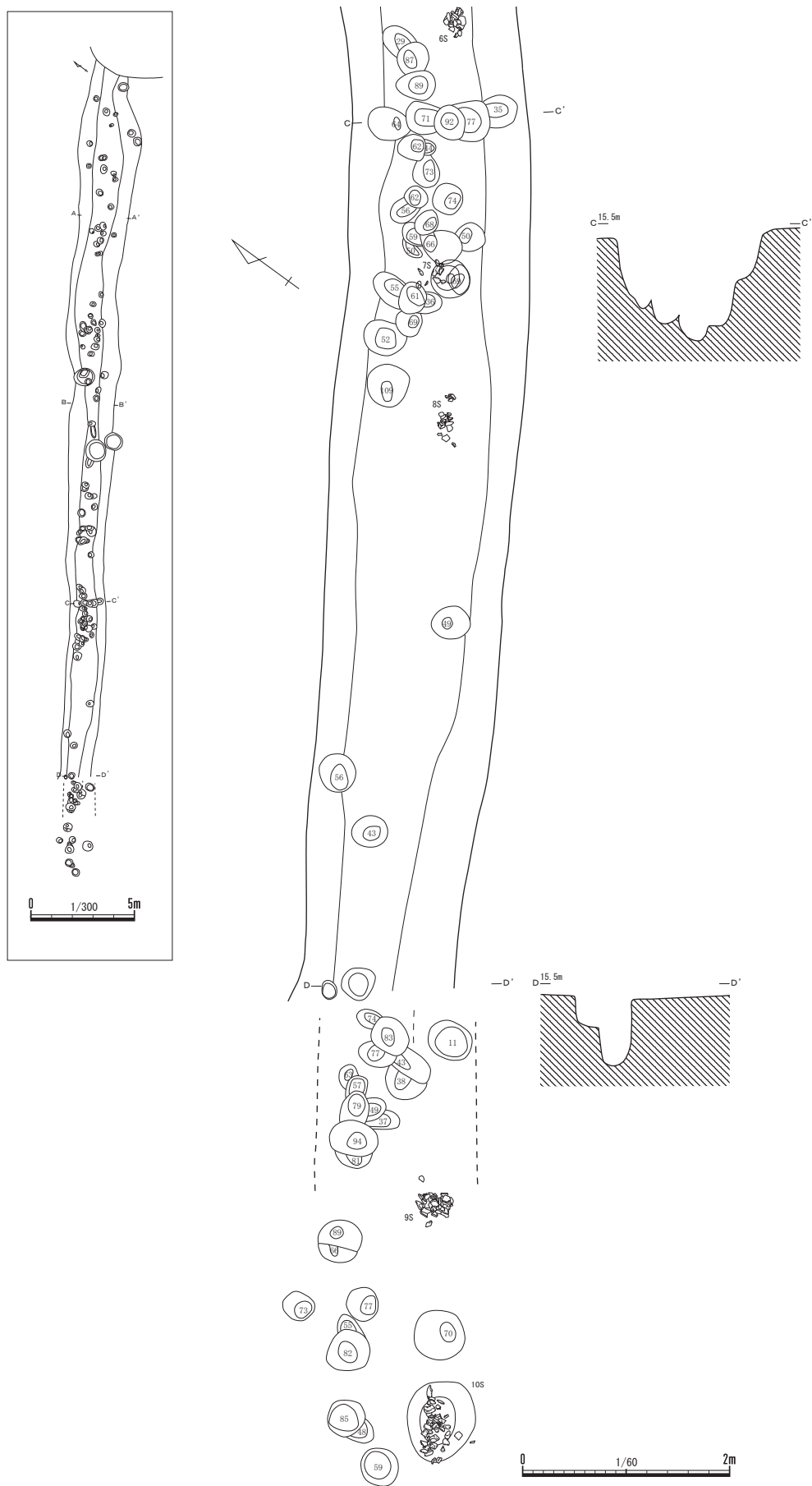




第195図 7号柵列1 (1/60・1/300)



第196図 7号柵列2 (1/60・1/300)



第197図 7号柵列3 (1/60・1/300)

[構造] 平面形：南北に伸びる掘り込みの浅い溝状。溝の内側にピットが並ぶ。一部ピットは土坑状。規模：長さは調査区内残存部で 37.9 m。／上幅 1.33 ～ 3.04 m／下幅 0.55 ～ 1.54 m／深さ 5 ～ 24cm。断面形：皿状。ピット：ピットは溝状の掘り込み全体に分布するが、密集している部分が見られる。また、多くは溝底部分に分布する。平面形は円形～楕円状で、径は 30 ～ 40cm 程のものが多い。

[覆土] ローム粒子を僅かに含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 陶器類、鉄滓などが出土した。

[時期] 中世以降。

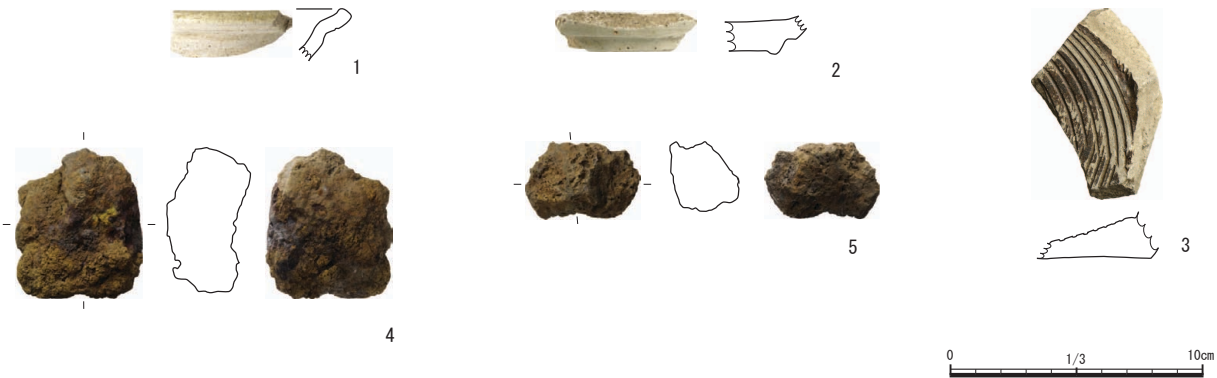
**遺物** (第 198 図、図版 133 - 3、第 84・85 表)

[土器] (第 198 図 1～3、図版 133 - 3、第 84 表)

破片資料 3 点を図示した。1～3 は陶器で、1 は折縁中皿、2 は小皿、3 は播鉢である。

[鉄製品] (第 198 図 4・5、図版 133 - 3、第 85 表)

2 点を図示した。4・5 は鉄滓である。



第 198 図 7号柵列出土遺物 (1 / 3)

| 挿図番号<br>図版番号            | 器種         | 部位<br>遺存状態  | 法量<br>(cm) | 色調                      | 胎土      | 特徴                               | 備考                           |
|-------------------------|------------|-------------|------------|-------------------------|---------|----------------------------------|------------------------------|
| 第 198 図 1<br>図版 133-3-1 | 陶器折縁<br>中皿 | 口縁部<br>破片   | -          | 外面：灰白 / 内面：<br>灰白～オリーブ黄 | 砂粒・長石微量 | 内面の釉は口縁部のみ、外面の釉は<br>口縁端面のみ / 灰釉  | 瀬戸・美濃系 / 15 世<br>紀後葉の輪禿皿     |
| 第 198 図 2<br>図版 133-3-2 | 陶器小皿       | 底部<br>破片    | -          | 外面：灰白～浅黄<br>/ 内面：浅黄     | 砂粒・長石微量 | 底部：削り出し高台 / 高台内露胎 /<br>円錐ピン / 灰釉 | 瀬戸・美濃系 / 近世<br>(17 世紀)       |
| 第 198 図 3<br>図版 133-3-3 | 播鉢         | 胴部～底部<br>破片 | -          | 外面：暗褐 / 内面：<br>暗褐       | 砂粒微量    | 内面：櫛目 / 外面轆轤目 / 鉄釉               | 瀬戸・美濃系 / 16 世<br>紀末～ 17 世紀初頭 |

第 84 表 7号柵列出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号            | 種別 | 遺存状態 | 材質 | 現存長 / 幅 / 厚さ (cm) | 重さ (g) | 備考 |
|-------------------------|----|------|----|-------------------|--------|----|
| 第 198 図 4<br>図版 133-3-4 | 鉄滓 | -    | 鉄  | 6.0/5.1/3.2       | 140.6  | -  |
| 第 198 図 5<br>図版 133-3-5 | 鉄滓 | -    | 鉄  | 4.6/3.1/3.1       | 45.3   | -  |

第 85 表 7号柵列出土鉄製品一覧



### (3) 集石

#### 6号集石

遺 構 (第199図)

[位 置] (F-4) グリッド。

[検出状況] 7号柵列中に検出された。

[構 造] 平面形: 検出されなかった。断面形: 検出されなかった。規模: 長軸なし/短軸なし/深さなし。

礫の分布: 中央に集中して分布している。

[遺 物] 当該期の遺物は検出されなかった。

[時 期] 中世以降。

#### 7号集石

遺 構 (第199図)

[位 置] (F-4) グリッド。

[検出状況] 7号柵列中に検出された。

[構 造] 平面形: 検出されなかった。断面形: 検出されなかった。規模: 長軸なし/短軸なし/深さなし。

礫の分布: 北側にやや広がって分布している。ピットに沿ってやや落ち込んでいる礫が見られる。

[遺 物] 当該期の遺物は検出されなかった。

[時 期] 中世以降。

#### 8号集石

遺 構 (第199図)

[位 置] (F-4) グリッド。

[検出状況] 7号柵列中に検出された。

[構 造] 平面形: 検出されなかった。断面形: 検出されなかった。規模: 長軸なし/短軸なし/深さなし。

礫の分布: 西側に集中して分布している。

[遺 物] 当該期の遺物は検出されなかった。

[時 期] 中世以降。

#### 9号集石

遺 構 (第199図)

[位 置] (F-5) グリッド。

[検出状況] 7号柵列中に検出された。

[構 造] 平面形: 検出されなかった。断面形: 検出されなかった。規模: 長軸なし/短軸なし/深さなし。

礫の分布: 中央に集中して分布している。

[遺 物] 当該期の遺物は検出されなかった。

[時 期] 中世以降。

10号集石

遺 構 (第199図)

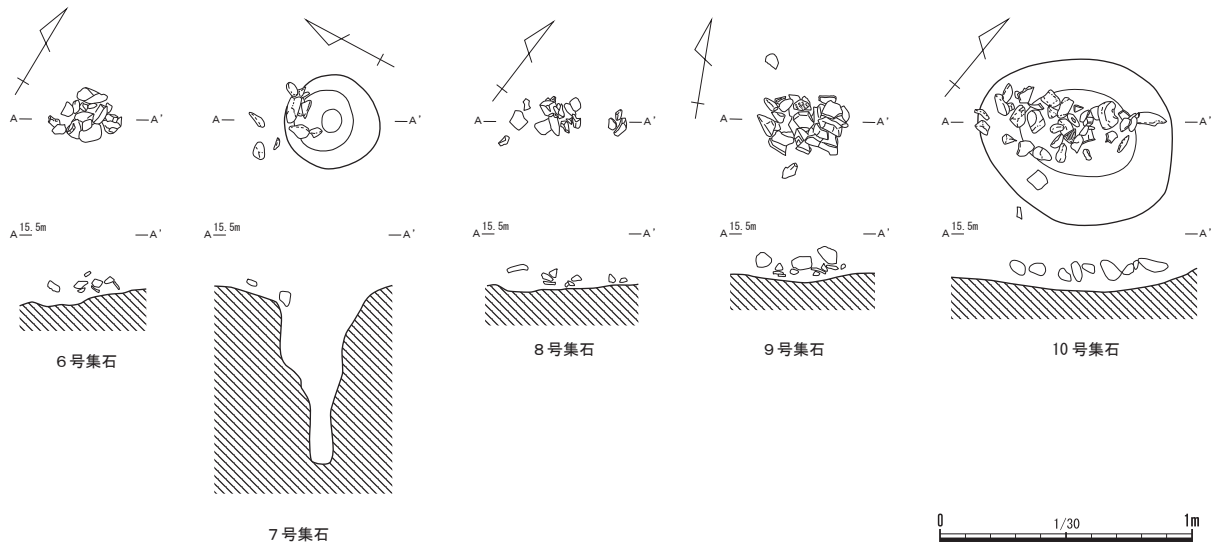
[位 置] (F-4) グリッド。

[検出状況] 7号柵列中に検出された。

[構 造] 平面形：楕円形。断面形：皿状。規模：長軸 1.59 m / 短軸 1.33 m。礫の分布：中央付近から左右に広がって分布している。

[遺 物] 当該期の遺物は検出されなかった。

[時 期] 中世以降。



第199図 6～10号集石 (1 / 30)

## 第5節 遺構外出土遺物

### (1) 概要

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、遺物包含層出土以外の遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの核時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

### (2) 縄文時代の土器 (第200～202図・第203図68～75、図版134～136、第86表)

復元資料5点、破片資料70点を図示した。1は勝坂3b新式の深鉢形土器である。口縁部に2つの突起を持ち、突起から伸びる隆帯は胴部文様帯まで垂下する。胴部上半に文様帯があり、沈線による渦巻文、U字状の文様を施文する。一部の沈線には押圧文を付す。2は加曾利E1b式の深鉢形土器である。2本1対の直状の隆帯と、1本の波状の隆帯が垂下する。3は中期中葉～後葉の深鉢形土器である。残存部は無文である。4は小形の深鉢形土器底部である。残存部は無文である。5はミニチュア土器の底部である。残存部は無文である。6は条痕文系、7、8は黒浜式、9～11は阿玉台式、12～34は勝坂式、35～57は加曾利E式、58～64は曾利式、65～70は連弧文、71は堀之内式、72、73は加曾利B式、74は後期安行の深鉢形土器である。75は加曾利E1式の浅鉢形土器である。

### (3) 縄文時代の土製品 (第203図76～101、図版136、第87表)

26点を図示した。76～95は土器片錘、96～101は土製円盤である。

### (4) 弥生時代後期～古墳時代前期の遺物 (第204図、図版137-1、第88表)

復元資料1点、破片資料1点を図示した。102、103とも壺形土器である。103は同一個体と思われる3点で、5方出土の破片(第178図2)と同一個体の可能性がある。

### (5) 奈良・平安時代の遺物 (第205図、図版137-2、第89表)

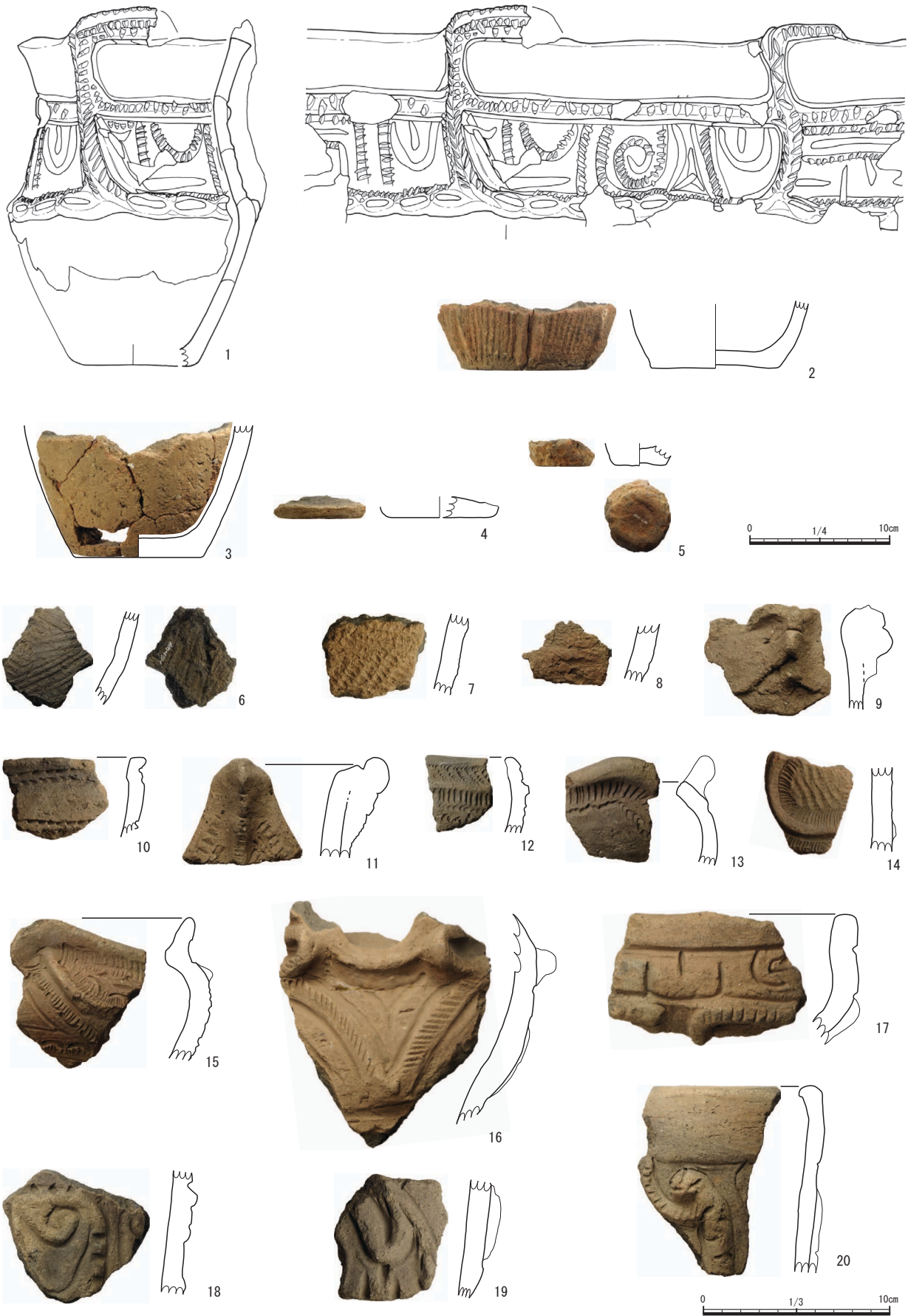
復元資料2点を図示した。104、105とも須恵器で、104は椀、105は坏である。

### (6) 中世以降の遺物 (第206図、図版137-3、第90表)

破片資料3点を図示した。106、107は陶器で、106は直縁大皿、107は播鉢、108はほうろくである。

### (7) 石器 (第207～209図、図版138・139、第91表)

35点を図示した。109・110は石鏃である。111・112は楔形石器である。113～134は打製石斧である。135は横刃形石器である。136～139は二次加工剥片である。140は石核である。141は磨+敲石である。142・143は敲石である。



第200図 縄文時代遺構外出土遺物1 (1/4・1/3)





第 201 図 縄文時代遺構外出土遺物 2 (1/3)

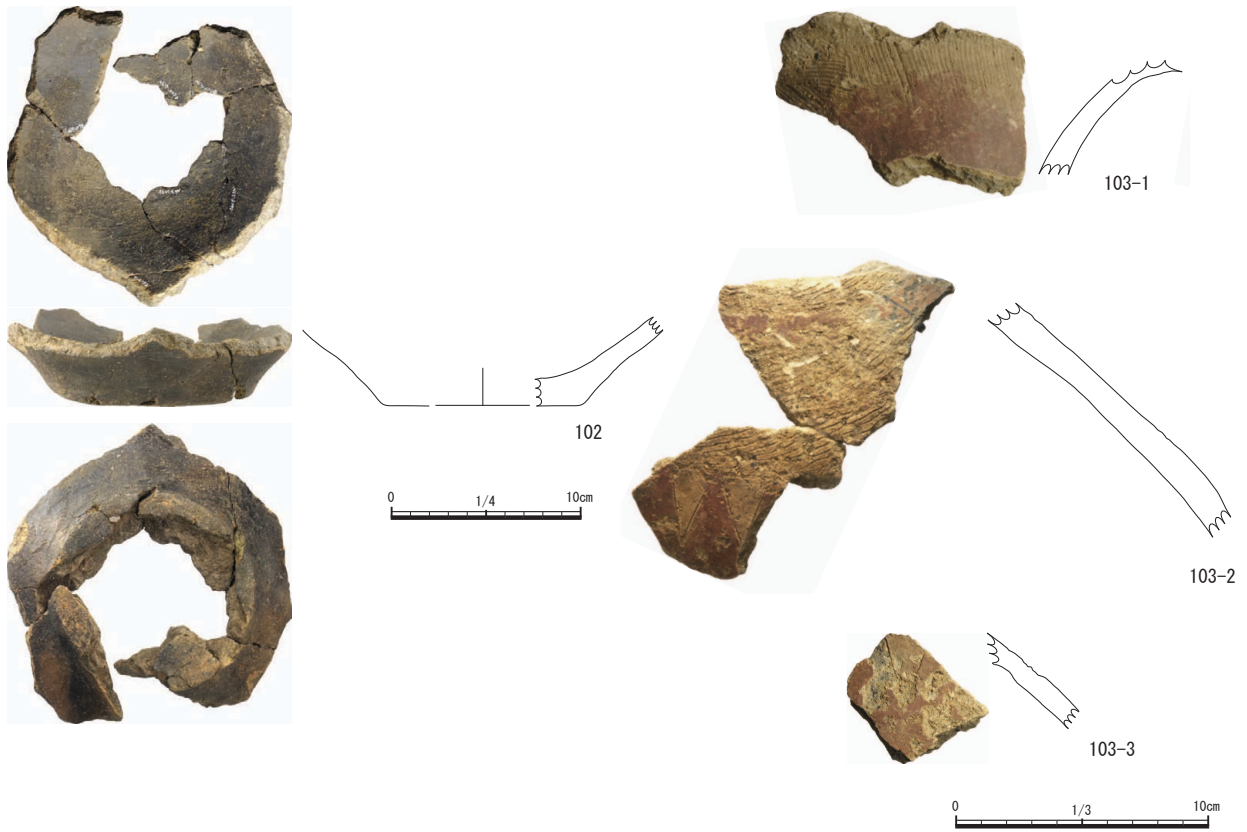


第 202 図 縄文時代遺構外出土遺物 3 (1 / 3)

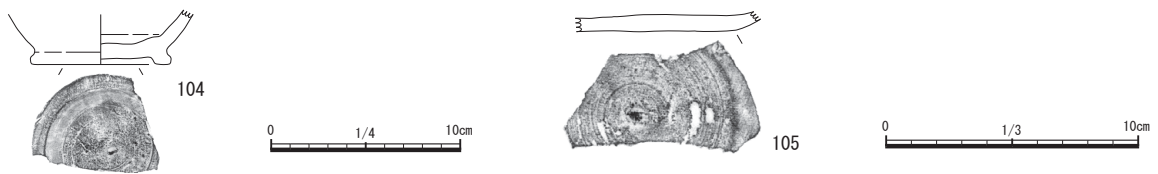




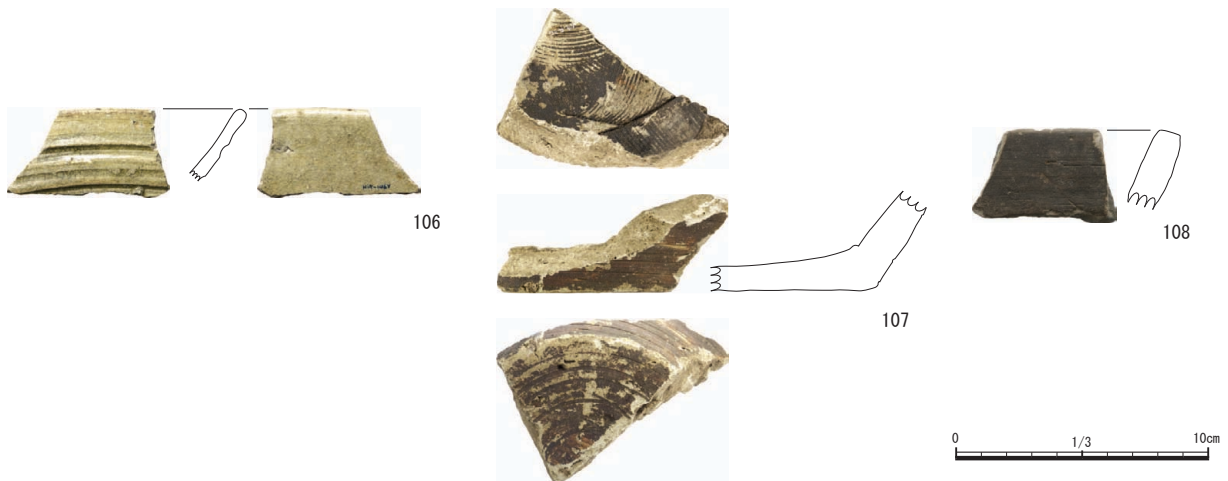
第 203 図 縄文時代遺構外出土遺物 4 (1 / 3)



第 204 図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土遺物（1 / 4 ・ 1 / 3）

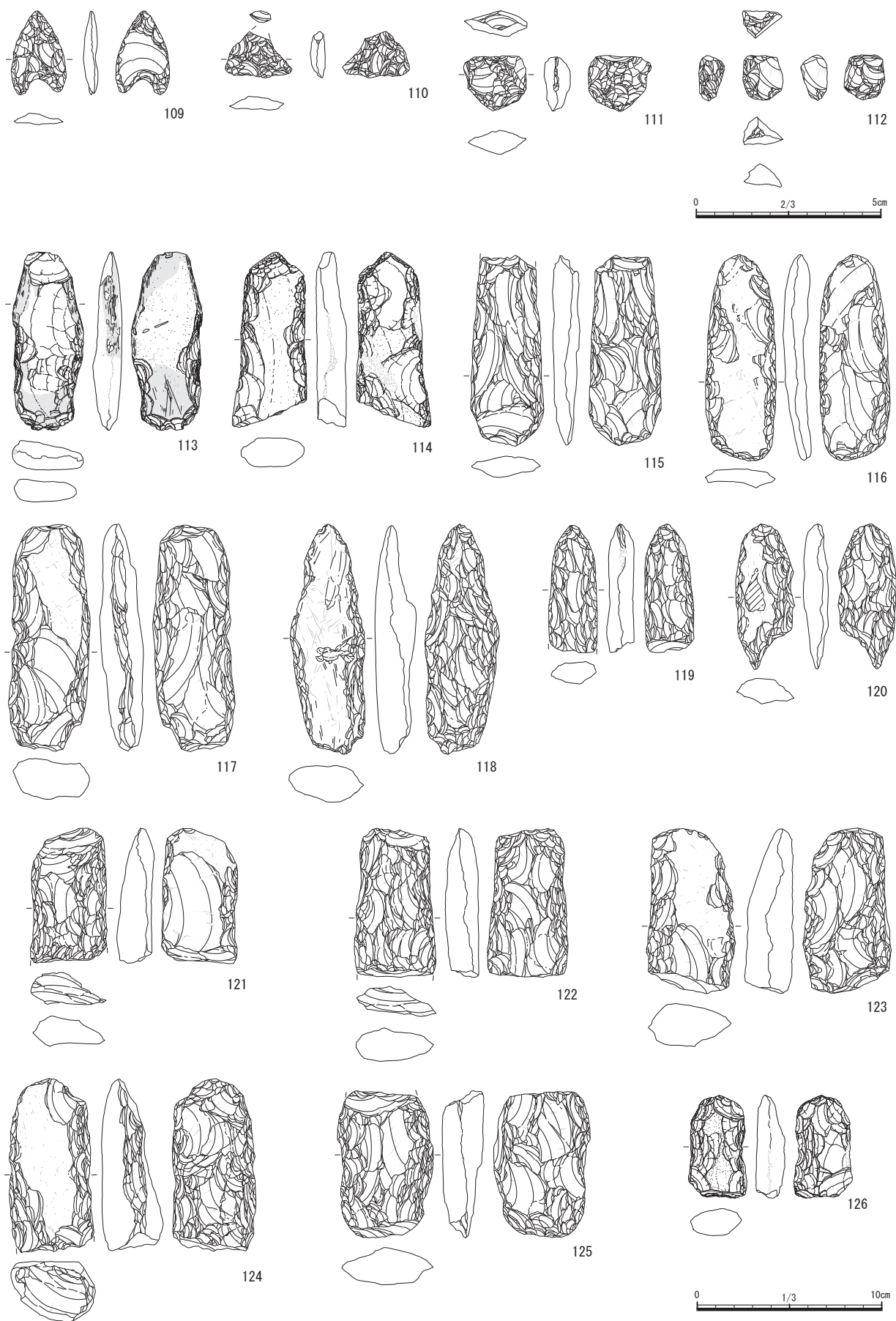


第 205 図 奈良・平安時代遺構外出土遺物（1 / 4 ・ 1 / 3）



第 206 図 中世以降遺構外出土遺物（1 / 3）

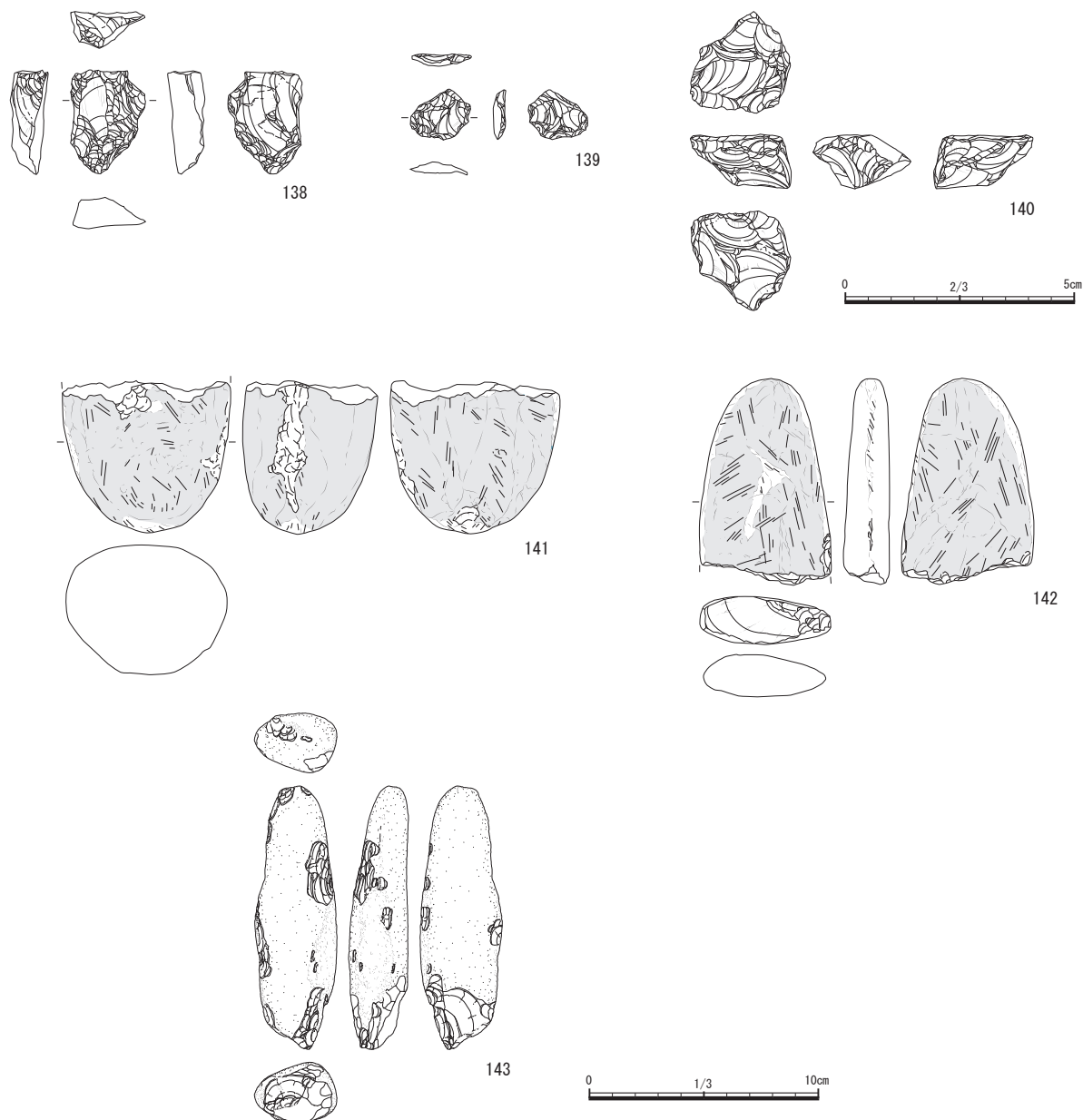




第 207 図 遺構外出土石器 1 (1/3・2/3)



第208圖 遺構外出土石器2 (1/3)



第 209 図 遺構外出土石器 3 (1/3・2/3)

| 挿図番号<br>図版番号          | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態        | 法量<br>(cm)                           | 器形・形態  | 文様・特徴   | 胎土                     | 時期<br>型式        | 出土<br>位置 |
|-----------------------|----------|-------------------|--------------------------------------|--|---|------------------------|-----------------|----------|
| 第 200 図 1<br>図版 134-1 | 深鉢       | 口縁部～<br>底部<br>80% | 高 24.7<br>底 16.6<br>底 (7.3)<br>厚 0.9 | 下位は外傾し中位<br>で内側に屈折する<br>胴部 / 外傾する口<br>縁部 / 平坦な底部 | 口縁部無文 / 対面に 1 単位ずつ逆 L 字状の隆帯による突起<br>で隆帯は胴部文様帯に垂下、隆帯に押圧文・矢羽根状刺突<br>文を付すもの 1 単位、押圧文・鋸歯状に付した押圧文・矢<br>羽根状刺突文を付すもの 1 単位 / 胴部上半に文様帯、口縁<br>部との境に押圧文を付した隆帯が 1 本横走、胴部下半との<br>境に連鎖状隆帯が 1 本横走し隆帯上端に押圧文が沿う / 文<br>様帯内には三叉文・沈線による U 字状の文様・渦巻文等や<br>や幅広の沈線による文様施文、一部沈線内に押圧文施文 | にぶい橙 /<br>砂粒少量、<br>礫中量 | 勝坂 3b<br>新式     | (B-3)    |
| 第 200 図 2<br>図版 134-2 | 深鉢       | 底部<br>70%         | 高 [4.6]<br>底 9.0<br>厚 1.1            | 外傾する胴部 / 平<br>坦な底部                               | 地文は撚糸 L 縦位か / 2 本 1 対の隆帯が直状に垂下したも<br>のが 2 単位続き、1 本の波状隆帯が 1 単位垂下 / 隆帯断面<br>カマボコ状 / 底面網代痕無し   | 明褐色 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量 | 加曾利<br>E1b 式    | (B-3)    |
| 第 200 図 3<br>図版 134-3 | 深鉢       | 胴部～底<br>部<br>50%  | 高 [9.4]<br>底 9.2<br>厚 1.3            | 外傾する胴部 / 平<br>坦な底部                               | 残存部無文 / 底面に網代痕無し  | 明褐色 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量 | 中期中<br>葉～後<br>葉 | 13M      |

第 86 表 縄文時代遺構外出土土器一覽 1

| 挿図番号<br>図版番号            | 種別<br>器種            | 部位<br>遺存状態       | 法量<br>(cm)              | 器形・形態                        | 文様・特徴   | 胎土                             | 時期<br>型式            | 出土<br>位置 |
|-------------------------|---------------------|------------------|-------------------------|------------------------------|---|--------------------------------|---------------------|----------|
| 第200図4<br>図版134-4       | 小形<br>深鉢            | 底部<br>40%        | 高 [1.5]<br>底 (7.0)      | 平坦な底部                        | 残存部無文 / 底面に網代痕無し  | 橙 / 砂粒・<br>礫微量                 | 中期中<br>葉～後<br>葉     | (C-4)    |
| 第200図5<br>図版134-5       | ミニ<br>チュ<br>ア土<br>器 | 底部<br>100%       | 高 1.7<br>底 3.6<br>厚 1.1 | 平坦な底部                        | 残存部無文 / 底面に網代痕無し  | 橙 / 砂粒・<br>礫微量                 | 中期中<br>葉～後<br>葉     | 148Y     |
| 第200図6<br>図版134-6       | 深鉢                  | 胴部<br>破片         | 厚 0.8                   | 外傾する胴部                       | 内外面条痕文施文  | 灰黄褐 / 砂<br>粒・礫微量、<br>繊維多量      | 条痕文<br>系            | 13M      |
| 第200図7<br>図版134-7       | 深鉢                  | 胴部<br>破片         | 厚 1.2                   | 外傾する胴部                       | 地文は単節 RL 縦位・横位の羽状縄文   | 明褐 / 砂<br>粒・礫微量、<br>繊維         | 黒浜式                 | 7 柵      |
| 第200図8<br>図版134-8       | 深鉢                  | 胴部<br>破片         | 厚 1.1                   | 外傾する胴部                       | 地文は単節 LR の羽状縄文か   | 明赤褐 / 砂<br>粒・礫微量、<br>繊維        | 黒浜式                 | 145Y     |
| 第200図9<br>図版134-9       | 深鉢                  | 口縁部<br>破片        | 厚 0.8                   | やや内湾する口縁<br>部 / 口唇部付近は<br>外傾 | 1本の粘土を芯とし粘土帯で覆った突起  | 明褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量、雲母多<br>量 | 阿玉台<br>I a ~<br>b 式 | (C-5)    |
| 第200図<br>10<br>図版134-10 | 深鉢                  | 口縁部<br>破片        | 厚 0.9                   | 内湾する口縁部                      | 口縁に沿って2列の結節沈線文施文、破片下端にも見られる   | 褐 / 砂粒・<br>礫微量、雲<br>母多量        | 阿玉台<br>I b 式        | 12M      |
| 第200図<br>11<br>図版134-11 | 深鉢                  | 口縁部<br>破片        | 厚 1.1                   | 直立する口縁部                      | 波状口縁の先端 / 波頂部から隆帯が垂下 / 波状口縁側面に<br>押圧文施文 / 口縁部に沿って押圧文・半截竹管状工具による<br>平行沈線・結節沈線文施文   | 明褐 / 砂粒<br>中量、礫少<br>量、雲母多<br>量 | 阿玉台<br>II 式         | (B-3)    |
| 第200図<br>12<br>図版134-12 | 深鉢                  | 口縁部<br>破片        | 厚 0.8                   | 内湾する口縁部                      | 1本の隆帯を横位に貼付 / 隆帯上端と口縁に先端が丸みを<br>帯びた押引文が沿う、間を斜位の押引文が充填 / 横位隆帯<br>下端に幅広角押文、横位直状の押引文、横位波状の押引文<br>が沿う / 隆帯断面台形状                                   | 灰黄褐 / 砂<br>粒少量、礫<br>微量         | 勝坂 1a<br>式          | 9H       |
| 第200図<br>13<br>図版134-13 | 深鉢                  | 口縁部<br>破片        | 厚 0.8                   | 内湾する口縁部 /<br>口唇部は外傾          | 口縁に沿って幅広角押文と三角押文施文 / 三角押文はやや<br>蛇行して施文される   | 暗褐 / 砂<br>粒・礫微量                | 勝坂 1a<br>式          | (C-3)    |
| 第200図<br>14<br>図版134-14 | 深鉢                  | 胴部<br>破片         | 厚 1.1                   | ほぼ直立する胴部                     | 単節 LR 縦位 / 隆帯による楕円状の区画 / 隆帯脇に爪形文<br>施文 / 区画中央に縄文施文 / 隆帯断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒少<br>量、礫微量               | 勝坂 2a<br>式          | (B-3)    |
| 第200図<br>15<br>図版134-15 | 深鉢                  | 口縁部<br>破片        | 厚 1.1                   | 内湾する口縁部                      | 口縁部に半円形の突起あり / 弧状の隆帯による口縁部区画<br>/ 口縁と隆帯に押圧文・半円形刺突文・沈線が沿う / 隆帯<br>断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒少<br>量、礫微量               | 勝坂 2b<br>式          | (B-3)    |
| 第200図<br>16<br>図版134-16 | 深鉢                  | 口縁部付<br>近<br>破片  | 厚 1.4                   | 内湾する口縁部付<br>近                | 上端に把手の痕跡あり / 押圧文を付した隆帯をV字状に貼<br>付、中央に三叉文施文 / 隆帯断面台形状、隆帯脇1本の単<br>沈線が沿う   | 橙 / 砂粒少<br>量、礫微量               | 勝坂 3b<br>新式         | 13M      |
| 第200図<br>17<br>図版134-17 | 深鉢                  | 口縁部<br>破片        | 厚 1.4                   | 上位は直立し下位<br>は内湾する口縁部         | U字状の沈線と縦位沈線を組み合わせた蛇行文状の文様 /<br>右端に2本の沈線による楕円状の文様 / 押圧文を付した隆<br>帯による方形の文様か / 隆帯断面カマボコ状   | 橙 / 砂粒少<br>量、礫微量               | 勝坂 3b<br>新式         | (B-2)    |
| 第200図<br>18<br>図版134-18 | 深鉢                  | 胴部<br>破片         | 厚 1.3                   | ほぼ直立する胴部                     | 楕円状の粘土板を貼付、沈線による渦巻文・三叉文施文 /<br>粘土板の縁に押圧文施文  | にぶい黄褐<br>/ 砂粒中量、<br>礫微量        | 勝坂 3b<br>新式         | (B-3)    |
| 第200図<br>19<br>図版134-19 | 深鉢                  | 胴部<br>破片         | 厚 1.2                   | ほぼ直立する胴部                     | 隆帯による文様、一部隆帯上押圧文施文 / 文様下位に押圧<br>文 / 隆帯断面カマボコ状   | にぶい黄褐<br>/ 砂粒少量、<br>礫微量        | 勝坂 3b<br>新式         | (D-5)    |
| 第200図<br>20<br>図版134-20 | 深鉢                  | 口縁部～<br>胴部<br>破片 | 厚 0.8                   | 直立する口縁部～<br>胴部               | 口縁部無文 / 押圧文を付した隆帯による文様、一部円形の<br>突起状になる部分あり / 隆帯断面カマボコ状、隆帯脇1本<br>の単沈線が沿う   | 橙 / 砂粒少<br>量、礫微量               | 勝坂 3b<br>式          | (B-2)    |
| 第201図<br>21<br>図版134-21 | 深鉢                  | 口縁部<br>破片        | 厚 1.1                   | 直立する口縁部 /<br>口唇部は内側に肥<br>厚   | 沈線が直状に垂下 / 破片右端に交互刺突文 / 破片左側に沈<br>線による弧状の文様と押圧文   | 黒褐 / 砂<br>粒・礫微量                | 勝坂 3b<br>式          | 145Y     |
| 第201図<br>22<br>図版134-22 | 深鉢                  | 口縁部<br>破片        | 厚 0.9                   | 内湾する口縁部 /<br>口唇部付近は外傾        | 口縁上位は無文 / 押圧文を付した隆帯を弧状に貼付 / 沈<br>線による三叉文 / 隆帯断面台形状 / 隆帯脇1本の単沈線が<br>沿う   | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量          | 勝坂 3b<br>式          | (B-1)    |
| 第201図<br>23<br>図版134-23 | 深鉢                  | 口縁部付<br>近<br>破片  | 厚 0.9                   | 内湾する口縁部付<br>近                | 押圧文を付した隆帯による区画 / 左側の楕円状区画内側には<br>2列の押引文と沈線が沿う / 右側の区画内は縦位沈線を<br>充填 / 隆帯断面三角状・台形状  | 赤褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量          | 勝坂 3b<br>式          | 5 方      |
| 第201図<br>24<br>図版134-24 | 深鉢                  | 胴部<br>破片         | 厚 1.1                   | やや外傾する胴部                     | 押圧文を付した隆帯が直状に垂下、右側から弧状に2本隆<br>帯が伸びる / 弧状の隆帯間に交互刺突文 / 右下の弧状の隆<br>帯内側に沈線による渦巻文 / 直状の隆帯左側には2つの押<br>圧文、1本の沈線が波状に垂下 / 隆帯断面台形状、隆帯に<br>1本又は2本の単沈線が沿う | 褐 / 砂粒少<br>量、礫微量               | 勝坂 3b<br>式          | 13M      |

第86表 縄文時代遺構外出土土器一覽2



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号            | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm)   | 器形・形態                     | 文様・特徴   | 胎土                      | 時期<br>型式            | 出土<br>位置 |
|-------------------------|----------|--------------------|--------------|---------------------------|---|-------------------------|---------------------|----------|
| 第201図<br>25<br>図版134-25 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1         | やや外傾する胴部                  | 押圧文を付した隆帯による楕円状の区画 / 区画内縦位沈線<br>充填 / 隆帯断面三角状・カマボコ状  | 褐 / 砂粒少量、礫微量            | 勝坂3b<br>式           | 146Y     |
| 第201図<br>26<br>図版134-26 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.3         | ほぼ直立する胴部                  | 2列の三角押圧文を付した隆帯による渦巻文、隆帯側面には<br>押圧文施文 / 隆帯内側には沈線による渦巻文 / 渦巻文外側<br>には縦位・横位沈線施文 / 隆帯断面台形状                  | 灰黄褐 / 砂<br>粒中量、礫<br>微量  | 勝坂3b<br>式           | (B-2)    |
| 第201図<br>27<br>図版134-27 | 深鉢       | 頸部<br>破片           | 厚0.9         | 外反する頸部                    | 地文は単節の縄文か / 交互刺突文を付した1本の隆帯が横<br>位に巡る / 円形の窪みのある突起、突起から上位に隆帯が<br>直状に伸びる / 隆帯上位無文、下位は地文施文 / 隆帯断面<br>カマボコ状 | 明赤褐 / 砂<br>粒中量、礫<br>微量  | 勝坂3b<br>式           | 146Y     |
| 第201図<br>28<br>図版135-28 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9         | やや内湾する胴部                  | 地文は0段多条RL斜位 / 上端に交互刺突文を付した隆帯<br>を横位に貼付 / 隆帯断面カマボコ状  | 黒褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量   | 勝坂3b<br>式           | (E-5)    |
| 第201図<br>29<br>図版135-29 | 深鉢       | 把手<br>破片           | 厚1.2～<br>2.9 | ほぼ直立する把手                  | 破片下端に窪みがあり、窪みの上位に弧状の沈線を複数施<br>文   | にぶい黄橙<br>/ 砂粒中量、<br>礫微量 | 勝坂3<br>式            | (E-5)    |
| 第201図<br>30<br>図版135-30 | 深鉢       | 口縁部か<br>破片         | 厚0.8         | 直立する口縁部か                  | 横位の蛇行状の文様 / 上下に2列の三角押圧文 / 内面左側縁<br>に沿って爪形文が沿う   | にぶい赤褐<br>/ 砂粒少量、<br>礫微量 | 勝坂3<br>式            | 145Y     |
| 第201図<br>31<br>図版135-31 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.8         | 直立する口縁部                   | 口縁部に突起あり / 口縁部無文部に断面三角状の隆帯を反<br>転したC字状に貼付 / 沈線による文様、縦位沈線、U字状<br>の沈線                                     | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量   | 勝坂3<br>式            | (B2)     |
| 第201図<br>32<br>図版135-32 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.3         | 外反する口縁部                   | 口縁に沿って押圧文施文 / 沈線による楕円状の区画、内側<br>に縦位沈線充填 / 楕円状区画の右側に2列の三角押圧文を縦<br>位に施文、三角押圧文の右側に押圧文を縦位に施文                | 黒褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量   | 勝坂3<br>式            | 7柵       |
| 第201図<br>33<br>図版135-33 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0         | 内湾する胴部                    | 平行沈線による区画 / 区画内は半截竹管状工具の腹面を用<br>いた縦位平行沈線を充填 / 区画に沿って三角押圧文施文   | 黒褐 / 砂粒<br>・礫微量         | 勝坂3<br>式            | 7柵       |
| 第201図<br>34<br>図版135-34 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.7         | 外傾する胴部                    | 平行沈線状の沈線による文様 / 沈線間押圧文充填 / 沈線に<br>よる渦巻文 / 交互刺突文   | 暗褐 / 砂粒<br>・礫微量         | 勝坂3<br>式            | (C-3)    |
| 第201図<br>35<br>図版135-35 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.9         | 内湾する口縁部                   | 地文は燃糸L横位 / 口縁部上位無文 / 無文部を燃糸施文部<br>の境に押圧文を付した1本の隆帯を横位に貼付 / 隆帯を弧<br>状に貼付、隆帯に沿って隆帯上1本の沈線を付す                | 明黄褐 / 砂<br>粒・礫中量        | 加曾利<br>E1a式         | (C-3)    |
| 第201図<br>36<br>図版135-36 | 深鉢       | 口縁部付<br>近～頸部<br>破片 | 厚1.0         | 内湾する口縁部付<br>近 / 外反する頸部    | 地文は燃糸L横位 / 隆帯による口縁部区画、下端1本の隆<br>帯 / 隆帯による横位S字状の文様か、隆帯に沿って隆帯上<br>1本の沈線を付す                                | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量   | 加曾利<br>E1a式         | (C-4)    |
| 第201図<br>37<br>図版135-37 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.0         | 内湾する口縁部                   | 地文は燃糸L縦位 / 隆帯による口縁部区画 / 沈線による渦<br>巻文、渦巻文部分は突起状 / 破片左下に沈線による小さい<br>渦巻文 / 隆帯断面カマボコ状                       | 褐 / 砂粒・<br>礫微量          | 加曾利<br>E1b式         | (C-4)    |
| 第201図<br>38<br>図版135-38 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.4         | やや外反する胴部                  | 地文は燃糸L縦位 / 破片上端に2本の隆帯が巡る、横位隆<br>帯から2本の隆帯が直状に垂下し下端の弧状の隆帯に接す<br>る / 隆帯断面カマボコ状                             | 明赤褐 / 砂<br>粒・礫少量        | 加曾利<br>E1b式         | 5方       |
| 第201図<br>39<br>図版135-39 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0         | 外反する胴部                    | 地文は燃糸L縦位 / 上端に1本の隆帯が横走 / 横位隆帯か<br>ら1本の隆帯が直状に垂下 / 隆帯断面カマボコ状  | 黒褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量   | 加曾利<br>E1b式         | (B-3)    |
| 第201図<br>40<br>図版135-40 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1         | ほぼ直立する胴部                  | 地文は燃糸L縦位 / 2本1対の隆帯が直状に垂下 / 1本の隆<br>帯が波状に垂下 / 隆帯断面カマボコ状  | 褐 / 砂粒中<br>量、礫微量        | 加曾利<br>E1b式         | (E-4)    |
| 第201図<br>41<br>図版135-41 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.0         | 内湾する口縁部                   | 地文は単節RL縦位 / 口縁部は隆帯によって画す、上端1<br>本 / 口縁部区画内にr2本1対の隆帯による渦巻文 / 隆帯<br>断面カマボコ状                               | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量   | 加曾利<br>E1c式         | 146Y     |
| 第201図<br>42<br>図版135-42 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.1         | 内湾する口縁部                   | 地文は単節RL縦位 / 隆帯による口縁部区画 / 沈線による<br>渦巻文 / 渦巻文下位に隆帯が4本直状に垂下 / 隆帯断面カ<br>マボコ状                                | 暗褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量   | 加曾利<br>E1c式         | (B-3)    |
| 第201図<br>43<br>図版135-43 | 深鉢       | 口縁部～<br>頸部<br>破片   | 厚0.9         | 外傾する頸部 / 内<br>湾する口縁部      | 地文は単節RL横位・斜位 / 口縁部は上端1本、下端1本<br>の隆帯で画す / 区画内に1本の隆帯を弧状に貼付 / 頸部無<br>文 / 隆帯断面カマボコ状                         | 灰黄褐 / 砂<br>粒中量、礫<br>微量  | 加曾利<br>E1c～<br>E2a式 | (D-5)    |
| 第201図<br>44<br>図版135-44 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0         | 外傾する胴部                    | 地文は縦位条線文 / 2本1対の沈線が波状に垂下  | 明褐 / 砂粒<br>少量、礫微<br>量   | 加曾利<br>E2c式         | 146Y     |
| 第201図<br>45<br>図版135-45 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.8         | 内湾する口縁部、<br>口唇部は内側に肥<br>厚 | 楕円状の区画、区画内側に縦位沈線充填  | 黒褐 / 砂粒<br>中量、礫微<br>量   | 加曾利<br>E2式          | 7柵       |
| 第201図<br>46<br>図版135-46 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9         | 外反する胴部                    | 地文は単節RL縦位 / 3本1対の沈線が直状に垂下 / 直状の<br>沈線間に1本の沈線が波状に垂下  | にぶい黄褐<br>/ 砂粒少量、<br>礫微量 | 加曾利<br>E2式          | 13M      |
| 第202図<br>47<br>図版135-47 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9         | 外反する胴部                    | 地文は単節RL縦位 / 1本の沈線が波状に垂下 / 1本の沈線<br>が波状に垂下   | にぶい黄褐<br>/ 砂粒少量、<br>礫微量 | 加曾利<br>E2式          | (B-5)    |

第86表 縄文時代遺構外出土土器一覧3

| 挿図番号<br>図版番号            | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態         | 法量<br>(cm) | 器形・形態                | 文様・特徴  | 胎土                                    | 時期<br>型式          | 出土<br>位置       |
|-------------------------|----------|--------------------|------------|----------------------|--|---------------------------------------|-------------------|----------------|
| 第202図<br>48<br>図版135-48 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.1       | 内湾する口縁部              | 地文は複節RLR横位/隆帯による口縁部区画/左側の区画内には弧状の隆帯/隆帯断面台形状  | にぶい褐<br>/7.5YR5/4                     | 加曾利<br>E2~3<br>式  | 6方<br>式        |
| 第202図<br>49<br>図版135-49 | 深鉢       | 口縁部~<br>胴部<br>破片   | 厚1.1       | 外傾する胴部/や<br>や内湾する口縁部 | 地文は単節LR縦位/口縁部は上端1本、下端1本の隆帯<br>で画す/口縁部区画内には隆帯を横位S字状に貼付、片側<br>の先端には渦巻文/胴部に逆U字状の沈線、沈線内側の地<br>文磨消し/隆帯断面台形状 | にぶい黄橙<br>/砂粒・礫<br>中量                  | 加曾利<br>E3a式       | 12M            |
| 第202図<br>50<br>図版135-50 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.0       | 内湾する口縁部              | 地文は単節LR縦位/口縁に隆帯を弧状に貼付、口縁部区<br>画か/隆帯断面カマボコ状   | 灰黄褐/砂<br>粒少量、礫<br>微量                  | 加曾利<br>E3b~<br>c式 | 5方<br>式        |
| 第202図<br>51<br>図版135-51 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9       | 外傾する胴部               | 地文は単節RL縦位/幅広の沈線による弧状の文様  | にぶい褐/<br>砂粒・礫微<br>量                   | 加曾利<br>E3式        | (B-2)          |
| 第202図<br>52<br>図版135-52 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.9       | 外傾する胴部               | 地文は波状の条線文/沈線が直状に垂下し右側は地文を磨<br>消す   | にぶい黄橙<br>/砂粒少量、<br>礫中量                | 加曾利<br>E3式        | (C-4)          |
| 第202図<br>53<br>図版135-53 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.9       | やや外傾する口縁<br>部        | 口縁に沿って1本の隆帯が横走/縦位隆帯が僅かに残存/<br>斜位沈線を充填/隆帯断面カマボコ状  | にぶい褐/<br>砂粒少量、<br>礫微量                 | 加曾利<br>E3並行       | (D-6)          |
| 第202図<br>54<br>図版135-54 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.8       | 外傾する口縁部              | 地文は単節RL横位/口縁に沿う1本の沈線、沈線上位無<br>文/沈線による逆U字状の文様、沈線内側地文磨消し   | 褐/砂粒少<br>量、礫微量                        | 加曾利<br>E4式        | 6方             |
| 第202図<br>55<br>図版135-55 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.6       | 内湾する口縁部              | 地文は単節LR縦位・横位の羽状縄文/口縁に1本の沈線<br>に沿う/沈線による逆U字状の文様、内側は地文なし   | にぶい黄橙<br>/砂粒・礫<br>微量                  | 加曾利<br>E4式        | 7柵             |
| 第202図<br>56<br>図版135-56 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚0.6       | 外傾する胴部               | 地文は単節RL縦位・横位/沈線をU字状・逆U字状に施<br>文/沈線内側に縄文充填  | 褐/砂粒・<br>礫微量                          | 加曾利<br>E4式        | (C-4)          |
| 第202図<br>57<br>図版135-57 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.0       | 外傾する胴部               | 地文は単節LR縦位/微隆起帯をやや弧状に貼付、微隆起<br>帯内側は地文無し/微隆起帯断面三角状   | にぶい黄橙<br>/砂粒少量、<br>礫微量                | 加曾利<br>E4式        | 9H             |
| 第202図<br>58<br>図版136-58 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚0.7       | 外傾する口縁部              | 沈線を斜位に施文、上に紐状の隆帯を斜位に貼付   | 暗褐/砂粒<br>少量、礫微<br>量                   | 曾利Ⅱ<br>式          | 9H<br>カマド<br>前 |
| 第202図<br>59<br>図版136-59 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.7       | 外傾する口縁部              | 半截竹管状工具の腹面による重弧文/僅かに紐状の縦位隆<br>帯が残存/口縁内面に沈線による渦巻文施文   | にぶい黄褐<br>/砂粒中量、<br>礫微量                | 曾利Ⅱ<br>式          | (B-5)          |
| 第202図<br>60<br>図版136-60 | 深鉢       | 頸部<br>破片           | 厚1.1       | やや外反する頸部             | 地文は単節RL縦位/紐状の隆帯を格子状に貼付、一部剥<br>落  | にぶい黄橙<br>/砂粒少量、<br>礫微量                | 曾利Ⅱ<br>式          | 6方             |
| 第202図<br>61<br>図版136-61 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.1       | 外傾する口縁部              | 波状口縁の波頂部/地文は縦位条線文施文後に縦位沈線を<br>施文/波頂部に隆帯による渦巻文、隆帯は下位に伸びる/<br>隆帯断面カマボコ状                                  | にぶい黄褐<br>/砂粒少量、<br>礫微量                | 曾利Ⅱ<br>~Ⅲ式        | (B-2)          |
| 第202図<br>62<br>図版136-62 | 深鉢       | 頸部<br>破片           | 厚1.0       | 括れる頸部                | 地文は縦位条線文/頸部に1本の波状隆帯が横位に貼付/<br>隆帯上位は無文  | 黒褐~明黄<br>褐/砂粒・<br>礫微量                 | 曾利Ⅲ<br>式          | (B-3)          |
| 第202図<br>63<br>図版136-63 | 深鉢       | 頸部<br>破片           | 厚1.4       | 括れる頸部                | 上位は弧状の沈線、下位は横位沈線/破片の右端に隆帯の<br>様な痕跡   | 明褐/砂粒<br>少量、礫微<br>量                   | 曾利Ⅲ<br>式          | 9H             |
| 第202図<br>64<br>図版136-64 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.3       | 外傾する胴部               | 地文は縦位条線文/2本1対の隆帯が直状に垂下/隆帯断<br>面カマボコ状   | 褐/砂粒中<br>量、礫微量                        | 曾利Ⅲ<br>式          | 遺構<br>外        |
| 第202図<br>65<br>図版136-65 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.4       | 外傾する口縁部              | 地文は縦位条線文/口縁部に沿って沈線施文、沈線間に交<br>互刺突文施文/3本1対の沈線による連弧文   | 橙/砂粒少<br>量、礫微量                        | 連弧文<br>2b段階       | (E-4)          |
| 第202図<br>66<br>図版136-66 | 深鉢       | 口縁部付<br>近~胴部<br>破片 | 厚0.9       | 外傾する口縁部付<br>近/括れる胴部  | 地文は縦位条線文/3本1対の沈線による連弧文/括れ部<br>には沈線を横位に施文、沈線間に交互刺突を施し蛇行文状<br>に成形  | 黒褐/砂粒<br>中量、礫少<br>量、赤褐の<br>粒を多量含<br>む | 連弧文<br>2b段階       | 6方             |
| 第202図<br>67<br>図版136-67 | 深鉢       | 胴部<br>破片           | 厚1.1       | 内湾する胴部               | 地文は縦位条線文/破片上端に2本の沈線が横走/2本の<br>沈線が波状に垂下   | 黒~橙/砂<br>粒中量、礫<br>少量                  | 連弧文<br>2b段階       | 6方<br>か        |
| 第203図<br>68<br>図版136-68 | 深鉢       | 口縁部~<br>胴部<br>破片   | 厚1.2       | 外傾する口縁部~<br>胴部       | 地文は撚糸L縦位/口縁に2本1対の沈線に沿う/2本1<br>対の沈線による波状文/断面の一部に黒色の付着物あり  | にぶい黄橙<br>/砂粒・礫<br>微量                  | 連弧文<br>2段階        | 148Y           |
| 第203図<br>69<br>図版136-69 | 深鉢       | 口縁部<br>破片          | 厚1.2       | 下位は外傾し上位<br>は内湾する口縁部 | 地文は撚糸L縦位/口縁部に3本の沈線が横走、沈線上に<br>円形刺突文施文  | にぶい黄橙<br>/砂粒少量、<br>礫微量                | 連弧文<br>2~3<br>段階  | 遺構<br>外        |

第86表 縄文時代遺構外出土土器一覧4

第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号            | 種別<br>器種 | 部位<br>遺存状態 | 法量<br>(cm) | 器形・形態     | 文様・特徴   | 胎土                     | 時期<br>型式   | 出土<br>位置 |
|-------------------------|----------|------------|------------|-----------|---|------------------------|------------|----------|
| 第203図<br>70<br>図版136-70 | 深鉢       | 頸部<br>破片   | 厚0.8       | 外反する胴部    | 地文は燃糸L縦位、原体を引きずったためか線状となる部分が多い/3本1対の沈線を弧状に施文/4本1対の沈線が横走/沈線間の地文は磨消し          | にぶい黄褐<br>/砂粒少量、<br>礫微量 | 連弧文<br>3段階 | 6方       |
| 第203図<br>71<br>図版136-71 | 深鉢       | 胴部<br>破片   | 厚0.6       | やや外傾する胴部  | 地文は0段多条LR横位/沈線による文様   | 橙/砂粒・<br>礫微量           | 堀之内<br>式   | 7柵       |
| 第203図<br>72<br>図版136-72 | 深鉢       | 口縁部<br>破片  | 厚0.5       | 外傾する口縁部   | 口唇部に押圧/外面口縁部に沿う押圧文/内面口縁部に沿って円形刺突文、沈線施文                                      | 黒/砂粒、<br>礫微量           | 加曾利<br>B式  | 7柵       |
| 第203図<br>73<br>図版136-73 | 深鉢       | 胴部<br>破片   | 厚0.9       | 外傾する胴部    | 沈線による斜格子文   | 褐/砂粒・<br>礫微量           | 加曾利<br>B式  | 9H       |
| 第203図<br>74<br>図版136-74 | 深鉢       | 口縁部<br>破片  | 厚0.6       | やや内湾する口縁部 | 地文は単節LR横位/2本1対の沈線を口縁に沿って施文、部分的に沈線間の中央に1本の沈線が見られる/沈線間はほぼ地文は見られないが、一部に地文が見られる | にぶい黄褐<br>/砂粒少量、<br>礫微量 | 後期安<br>行   | 7柵       |
| 第203図<br>75<br>図版136-75 | 浅鉢       | 体部<br>破片   | 厚0.9       | 内湾する体部    | 2本1対の隆帯を弧状に貼付/隆帯上側に沈線による渦巻文、周囲に弧状の沈線を充填/隆帯下側に縦位沈線充填/隆帯断面カマボコ状               | 明赤褐/砂<br>粒中量、礫<br>微量   | 加曾利<br>E1式 | 遺構<br>外  |

第86表 縄文時代遺構外出土土器一覧5

| 挿図番号<br>図版番号        | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土                       | 時期<br>型式    | 出土<br>位置 |
|---------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|--------------------------|-------------|----------|
| 第203図76<br>図版136-76 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.3/3.3/0.6     | 13.5      | 楕円形/抉部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/角押文による文様   | 黒褐/砂粒少量、<br>礫微量、雲母多<br>量 | 阿玉台1<br>a式  | 9H       |
| 第203図77<br>図版136-77 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 5.8/6.0/1.3     | 84.1      | 方形/抉部は2ヶ所残存/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/横位隆帯にC字状の隆帯を貼付し楕円状の区画を成形/隆帯脇に三角押文が沿う/区画内僅かに横位の三角押文が見られる/隆帯断面台形状、カマボコ状 | 暗褐/砂粒少量、<br>礫微量          | 勝坂1b<br>式   | 遺構<br>外  |
| 第203図78<br>図版136-78 | 土器<br>片鉢 | 40%      | [5.1]/[3.5]/1.2 | 29        | 楕円形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/地文は単節LR/押圧文を付した隆帯を貼付、隆帯片側に三角押文、片側に角押文が沿う/角押文横に僅かに三角押文が見られる           | 明褐/砂粒少量、<br>礫微量          | 勝坂1式        | 9H       |
| 第203図79<br>図版136-79 | 土器<br>片鉢 | 80%      | 4.0/3.3/1.1     | 17.4      | 方形/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/中央に窪みのある円形の文様、横に押圧文   | 明褐/砂粒中量、<br>礫微量          | 勝坂2<br>~3式  | (C4)     |
| 第203図80<br>図版136-80 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.3/3.2/1.2     | 22.8      | 楕円形/抉部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/平行沈線による区画、区画内側に押圧文が沿い中央に沈線による文様か/区画外側にも押圧文が沿う                          | にぶい黄橙/砂<br>粒多量、礫微<br>量   | 勝坂3式        | (B-2)    |
| 第203図81<br>図版136-81 | 土器<br>片鉢 | 20%      | [3.0]/[3.9]/0.8 | 11.1      | 形状不明/抉部は1ヶ所残存/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/押圧文を付した直状の隆帯/隆帯の左側には三角押文列、右側には沈線列/隆帯断面カマボコ状                         | 明褐/砂粒少量、<br>礫微量          | 勝坂3式        | (D-4)    |
| 第203図82<br>図版136-82 | 土器<br>片鉢 | 20%      | [3.3]/[5.2]/1.9 | 26.3      | 形状不明/抉部は1ヶ所残存、有孔鏝付土器の孔を利用、内面が線状に深く削られる/周縁の磨耗は未発達/鏝部を利用   | 赤褐/砂粒中量、<br>礫微量、雲母中<br>量 | 勝坂式         | (F-5)    |
| 第203図83<br>図版136-83 | 土器<br>片鉢 | 40%      | [3.5]/5.3/1.0   | 25.3      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/地文は燃糸L/半截竹管状工具の腹面による平行沈線   | 褐/砂粒少量、<br>礫微量           | 加曾利<br>E1a式 | (D-3)    |
| 第203図84<br>図版136-84 | 土器<br>片鉢 | 60%      | [4.2]/[4.2]/1.1 | 20.9      | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/地文は単節RL/1本の直状の沈線  | にぶい黄橙/砂<br>粒・礫微量         | 加曾利E<br>式   | 148Y     |
| 第203図85<br>図版136-85 | 土器<br>片鉢 | 60%      | [4.8]/[3.2]/1.1 | 21.6      | 形状不明/抉部は1ヶ所残存/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/地文は縦位条線か/沈線を2本施文   | にぶい黄橙/砂<br>粒少量、礫微<br>量   | 中期後葉        | B5G      |
| 第203図86<br>図版136-86 | 土器<br>片鉢 | 90%      | 3.3/[2.5]/0.8   | 9.6       | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/燃糸R  | にぶい褐/砂粒<br>少量、礫微量        | 中期中葉<br>~後葉 | (C-6)    |
| 第203図87<br>図版136-87 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 3.7/3.3/0.7     | 12        | 楕円形/抉部は2ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/地文は単節RL  | 褐/砂粒・礫微<br>量             | 中期中葉<br>~後葉 | 7柵       |
| 第203図88<br>図版136-88 | 土器<br>片鉢 | 40%      | [2.0]/3.1/0.9   | 7.5       | 方形か/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/胴部片利用/地文は無節Rか   | 橙/砂粒少量・<br>礫微量           | 中期中葉<br>~後葉 | 7柵       |
| 第203図89<br>図版136-89 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 4.7/3.2/0.8     | 16.9      | 楕円形/抉部は4ヶ所/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/無文   | 黒褐/砂粒少量、<br>礫微量          | 中期中葉<br>~後葉 | 7柵       |
| 第203図90<br>図版136-90 | 土器<br>片鉢 | 完形       | 6.4/5.1/1.5     | 64.3      | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/胴部片利用/残存部無文  | にぶい黄橙/砂<br>粒少量、礫微<br>量   | 中期中葉<br>~後葉 | 145Y     |
| 第203図91<br>図版136-91 | 土器<br>片鉢 | 90%      | [4.8]/3.8/1.4   | 34        | 方形/抉部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/無文  | にぶい黄橙/砂<br>粒中量、礫微<br>量   | 中期中葉<br>~後葉 | 5方       |
| 第203図92<br>図版136-92 | 土器<br>片鉢 | 80%      | [7.0]/3.4/1.8   | 62.9      | 方形/抉部は1ヶ所残存/周縁は一部磨耗/口縁部片利用/無文  | 暗灰黄/砂粒少<br>量、礫微量         | 中期中葉<br>~後葉 | (D-3)    |
| 第203図93<br>図版136-93 | 土器<br>片鉢 | 70%      | [7.0]/5.3/1.3   | 70.6      | 楕円形/抉部は1ヶ所残存/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/無文   | 暗褐/砂粒少量、<br>礫微量          | 中期中葉<br>~後葉 | (B-1)    |

第87表 縄文時代遺構外出土土器製品一覧1



| 挿図番号<br>図版番号          | 種別       | 遺存<br>状態 | 長さ/幅/厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 特徴   | 胎土                 | 時期<br>型式    | 出土<br>位置 |
|-----------------------|----------|----------|-----------------|-----------|--|--------------------|-------------|----------|
| 第203図94<br>図版136-94   | 土器<br>片鉢 | 60%      | [5.9]/[6.6]/1.6 | 63.9      | 形状不明/扶部は2ヶ所/周縁は一部磨耗/底部片利用/残存部無文/網代痕無し                                | 赤褐/砂粒・礫少量          | 中期中葉<br>～後葉 | 146Y     |
| 第203図95<br>図版136-95   | 土器<br>片鉢 | 40%      | [2.2]/[3.1]/0.9 | 6.7       | 楕円形か/扶部は1ヶ所残存/周縁の磨耗は未発達/胴部片利用/残存部無文                                  | 黒褐砂粒中量、<br>礫微量     | 中期中葉<br>～後葉 | 145Y     |
| 第203図96<br>図版136-96   | 土製<br>円盤 | 完形       | 4.1/3.7/0.9     | 19.3      | 方形/周縁は顕著に磨耗/胴部片利用/角押文による文様/外面から内面に向けて1ヶ所(貫通)、内面から外面に向けて1ヶ所(未貫通)の穿孔あり | にぶい黄橙/砂粒・礫微量       | 勝坂1a<br>式   | 7柵       |
| 第203図97<br>図版136-97   | 土製<br>円盤 | 50%      | [5.2]/[5.7]/1.0 | 46.2      | 楕円形/周縁は一部磨耗/胴部片利用/押圧文に波状沈線が沿う  | 暗褐/砂粒少量、<br>礫微量    | 勝坂2b<br>式   | 145Y     |
| 第203図98<br>図版136-98   | 土製<br>円盤 | 完形       | 3.1/2.8/0.9     | 10.5      | 楕円形/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文   | 明褐/砂粒少量、<br>礫微量    | 中期中葉<br>～後葉 | 9H       |
| 第203図99<br>図版136-99   | 土製<br>円盤 | 完形       | 4.3/3.9/1.3     | 24.8      | 楕円形/周縁はごく一部磨耗/胴部片利用/残存部無文  | にぶい黄褐/砂粒中量、<br>礫微量 | 中期中葉<br>～後葉 | 148Y     |
| 第203図100<br>図版136-100 | 土製<br>円盤 | 90%      | 5.0/[4.5]/0.9   | 26        | 楕円形/周縁は磨耗が未発達/胴部片利用/残存部無文  | 褐/砂粒少量、<br>礫微量     | 中期中葉<br>～後葉 | (C-3)    |
| 第203図101<br>図版136-101 | 土製<br>円盤 | 80%      | 3.8/3.3/1.2     | 19.3      | 楕円形/周縁は一部磨耗/胴部片利用/無文   | 灰黄褐/砂粒・<br>礫微量     | 中期中葉<br>～後葉 | (E-5)    |

第87表 縄文時代遺構外出土土製品一覧2

| 挿図番号<br>図版番号                | 器種 | 部位<br>遺存<br>状態  | 法量<br>(cm)              | 器形・形<br>態               | 文様・特徴   | 胎土  | 出土<br>位置 |
|-----------------------------|----|-----------------|-------------------------|-------------------------|---|---|----------|
| 第204図102<br>図版137-1-<br>102 | 壺  | 底部<br>破片        | 高[4.0]<br>底10.2<br>厚1.1 | 胴部はやや外反してゆるやかに立ち上がる     | 外面：胴部には横位または縦位のナデで一部は磨き状になっている/底面はナデ/内面：横位のナデで一部は磨き状になっている  | 外面：黒 内面：<br>黒褐/白色粒子、<br>砂粒、小礫少量   | 209D     |
| 第204図103<br>図版137-1-<br>103 | 壺  | 頸部<br>～胴<br>部破片 | 厚1.1                    | 頸部は大きく弓なりに外反し、肩部は直線的である | 外面：頸部屈曲付近上位に縦位と右下がりの刷毛、下位の縦位の磨き部分が赤彩される/肩部は上から原体Rの擦糸文が1段、原体RのS字状結節文が1段、横位の磨き部分が赤彩され、原体Rの擦糸文が1段、原体RのS字状結節文が1段、原体Rの擦糸文が1段、原体RのS字状結節文が1段、鋸歯文の上側が横位のナデ、鋸歯文の下側が赤彩され、縦位の磨きさが認められる/内面：頸部は赤彩され、横位の磨き/肩部は横位のナデ/5方出土の破片(第178図2)と同一個体の可能性がある/頸部内外面、胴部外面に赤彩あり/内外面とも剥落が著しい | 外面：にぶい黄<br>褐・赤彩部分に<br>ぶい赤褐/内面：<br>にぶい黄橙/白<br>色粒子、小礫少<br>量、砂粒、赤色<br>粒子微量 | 201D     |

第88表 弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号            | 器種          | 部位<br>遺存<br>状態 | 法量<br>(cm)       | 色調              | 胎土                      | 特徴           | 備考    | 出土<br>位置 |
|-------------------------|-------------|----------------|------------------|-----------------|-------------------------|--------------|-------|----------|
| 第205図104<br>図版137-2-104 | 須恵器<br>椀形土器 | 体部～高<br>台部20%  | 口[2.7]<br>底(7.4) | 外面：青灰/<br>内面：青灰 | 白色粒子少量、小礫微量             | 高台内回転削り/回転ナデ | 東金子窯産 | (C-6)    |
| 第205図105<br>図版137-2-105 | 須恵器<br>環    | 底部<br>破片       | 厚0.6             | 外面：青灰/<br>内面：青灰 | 白色針状物質・砂粒少量、<br>長石・石英微量 | 底部回転削り/回転ナデ  | 鳩山窯跡産 | 116J     |

第89表 奈良・平安時代遺構外出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号            | 器種         | 部位<br>遺存<br>状態 | 法量<br>(cm)     | 色調                    | 胎土      | 特徴              | 備考                | 出土<br>位置 |
|-------------------------|------------|----------------|----------------|-----------------------|---------|-----------------|-------------------|----------|
| 第206図106<br>図版137-3-106 | 陶器直縁<br>大皿 | 口縁部<br>破片      | 厚0.5           | 外面：オリーブ灰/<br>内面：オリーブ灰 | 砂粒・長石微量 | 内外面とも灰釉         | 古瀬戸後期/<br>15世紀前葉  | 146Y     |
| 第206図107<br>図版137-3-107 | 播鉢         | 胴部～底部<br>破片    | 高[4.0]<br>厚1.5 | 外面：黒褐/内面：<br>黒褐       | 砂粒微量    | 内面：櫛目/外面：轆轤目/鉄釉 | 瀬戸・美濃系/<br>17世紀以降 | (F-3)    |
| 第206図108<br>図版137-3-108 | ほうろく       | 口縁部5%          | 厚0.6           | 外面：オリーブ黒/<br>内面：灰白    | 白色粒子少量  | 外面：スス付着/横ナデ     |                   | 7柵       |

第90表 中世以降遺構外出土土器一覧

| 挿図番号<br>図版番号          | 器種 | 石材   | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ<br>(mm) | 重量(g) | 特徴                            | 出土<br>位置 |
|-----------------------|----|------|--------|-------|------------|-------|-------------------------------|----------|
| 第207図109<br>図版138-109 | 石鏃 | チャート | 22.6   | 14.9  | 4.2        | 1.2   | 凹基無茎/側縁は緩やかな弧状を呈する/扱いは深く弧状    | (D-3)    |
| 第207図110<br>図版138-110 | 石鏃 | 黒曜石  | 16.5   | 15.3  | 4.1        | 0.8   | 凹基無茎/側縁は直線状で鋸歯縁/扱いは浅く弧状/片脚部欠損 | (C-4)    |

第91表 縄文時代遺構外出土土器一覧1



第3章 検出された遺構と遺物

| 挿図番号<br>図版番号          | 器種     | 石材      | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ<br>(mm) | 重量(g) | 特徴  | 出土<br>位置 |
|-----------------------|--------|---------|--------|-------|------------|-------|---|----------|
| 第207図111<br>図版138-111 | 楔形石器   | 黒曜石     | 15.0   | 17.0  | 7.1        | 1.6   | 敲打痕が下端にみられる   | (B-6)    |
| 第207図112<br>図版138-112 | 楔形石器   | 黒曜石     | 12.2   | 10.8  | 7.6        | 0.8   | 上下に両極剥離が認められる   | 6方       |
| 第207図113<br>図版138-113 | 打製石斧   | 頁岩      | 96.6   | 38.7  | 14.7       | 70.2  | 短冊形 / 裏面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる                                 | 7柵       |
| 第207図114<br>図版138-114 | 打製石斧   | 砂岩      | 94.6   | 40.5  | 16.2       | 82.4  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の中央部の稜上に潰れが認められ、面状になっている | 13M      |
| 第207図115<br>図版138-115 | 打製石斧   | 黒色片岩    | 103.1  | 39.4  | 14.8       | 79.5  | 短冊形 / 基部は折れて欠損している / 裏面が赤色化しており、被熱の可能性ある                          | 6方       |
| 第207図116<br>図版138-116 | 打製石斧   | 砂岩      | 120.1  | 41.7  | 14.7       | 88.0  | 短冊形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる                                 | 遺構外      |
| 第207図117<br>図版138-117 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 121.7  | 43.0  | 23.2       | 175.0 | 短冊形 / 刃部は一部折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる                             | 遺構外      |
| 第207図118<br>図版138-118 | 打製石斧   | 緑色凝灰岩   | 124.4  | 40.5  | 22.5       | 129.8 | 短冊形 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 磨製石斧の転用                                    | (F-3)    |
| 第207図119<br>図版138-119 | 打製石斧   | 砂岩      | 69.4   | 27.1  | 15.2       | 39.5  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる / 両側縁の上部の稜上に潰れが認められる          | (C-5)    |
| 第207図120<br>図版138-120 | 打製石斧   | 緑色凝灰岩   | 78.7   | 33.5  | 14.5       | 39.0  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる                               | 5方       |
| 第207図121<br>図版138-121 | 打製石斧   | 緑色凝灰岩   | 72.3   | 43.1  | 19.5       | 78.4  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 裏面に一部原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる                  | (C-5)    |
| 第207図122<br>図版138-122 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 82.1   | 44.5  | 18.1       | 89.9  | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる                               | (F-3)    |
| 第207図123<br>図版138-123 | 打製石斧   | 砂岩      | 87.7   | 48.2  | 25.5       | 135.8 | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる                               | 遺構外      |
| 第207図124<br>図版138-124 | 打製石斧   | 砂岩      | 93.4   | 48.6  | 33.3       | 168.8 | 短冊形 / 刃部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる                               | (B-3)    |
| 第207図125<br>図版138-125 | 打製石斧   | 砂岩      | 79.8   | 52.3  | 23.0       | 108.5 | 短冊形 / 刃部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる                                     | (B-3)    |
| 第207図126<br>図版138-126 | 打製石斧   | 砂岩      | 56.4   | 32.5  | 16.0       | 37.4  | 短冊形 / 基部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる / 左側縁の稜上に潰れが認められ、面状になっている           | 13M      |
| 第208図127<br>図版138-127 | 打製石斧   | 砂岩      | 102.5  | 42.4  | 13.5       | 58.8  | 撥形 / 基部は折れて欠損している / 表面に一部原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる                   | (B-5)    |
| 第208図128<br>図版138-128 | 打製石斧   | 砂岩      | 99.2   | 53.2  | 19.4       | 110.2 | 撥形 / 両側縁に敲打剥離が認められる   | 7柵       |
| 第208図129<br>図版138-129 | 打製石斧   | 頁岩      | 67.4   | 30.0  | 12.6       | 28.7  | 撥形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる                                  | 遺構外      |
| 第208図130<br>図版139-130 | 打製石斧   | 砂岩      | 77.4   | 51.7  | 12.4       | 57.4  | 撥形 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる                                  | 9H       |
| 第208図131<br>図版139-131 | 打製石斧   | ホルンフェルス | 102.5  | 62.5  | 16.5       | 98.9  | 撥形 / 刃部の一部は折れて欠損している / 両側縁に敲打剥離が認められる                             | 7柵       |
| 第208図132<br>図版139-132 | 打製石斧   | 頁岩      | 77.0   | 68.4  | 23.5       | 146.7 | 撥形 / 刃部のみ残存   | 12M      |
| 第208図133<br>図版139-133 | 打製石斧   | 砂岩      | 60.0   | 71.2  | 17.8       | 86.0  | 撥形 / 刃部のみ残存 / 表面は原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる                         | 9H       |
| 第208図134<br>図版139-134 | 打製石斧   | 結晶片岩    | 53.2   | 32.5  | 6.6        | 14.0  | 平面形状は不明 / 基部のみ残存 / 両側縁に敲打剥離が認められる                                 | 147Y     |
| 第208図135<br>図版139-135 | 横刃形石器  | 砂岩      | 65.3   | 79.5  | 14.0       | 82.0  | 両面側末端に不連続な二次的剥離が認められる   | 148Y     |
| 第208図136<br>図版139-136 | 二次加工剥片 | 砂岩      | 107.1  | 66.8  | 18.2       | 203.7 | 裏面側末端に連続的な二次的剥離が認められる   | 145Y     |
| 第208図137<br>図版139-137 | 二次加工剥片 | 緑泥片岩    | 190.6  | 55.5  | 25.8       | 401.4 | 表面側右側縁に不連続な二次的剥離が認められる  | 遺構外      |
| 第209図138<br>図版139-138 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 23.1   | 16.5  | 7.3        | 2.7   | 表面側両側縁に不連続な二次的剥離が認められる  | 6方       |
| 第209図139<br>図版139-139 | 二次加工剥片 | 黒曜石     | 11.5   | 12.7  | 2.9        | 0.4   | 裏面側末端に不連続な二次的剥離が認められる   | 6方       |
| 第209図140<br>図版139-140 | 石核     | 黒曜石     | 12.3   | 22.5  | 11.9       | 4.8   | 正面側において、上面を打面として剥片が行われている   | (E-4)    |
| 第209図141<br>図版139-141 | 磨+敲打   | 安山岩     | 71.2   | 76.0  | 59.0       | 386.1 | 表裏面に磨痕 / 敲打痕が両側縁にみられる / 被熱の可能性ある / 被熱の可能性ある                       | (B-2)    |
| 第209図142<br>図版139-142 | 敲打石    | 閃緑岩     | 90.8   | 57.0  | 20.5       | 149.3 | 敲打痕が左側縁にみられる  | (D-5)    |
| 第209図143<br>図版139-143 | 敲打石    | 緑色凝灰岩   | 115.6  | 34.7  | 26.1       | 146.4 | 敲打痕が両側縁にみられる  | 12M      |

第91表 縄文時代遺構外出土石器一覧2

## 第4章 調査のまとめ

今回の調査では、縄文時代中期の住居跡 20 軒・土坑 26 基・埋甕 1 基・集石 5 基、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡 5 軒・方形周溝墓 2 基・奈良・平安時代の住居跡 2 軒、溝跡 2 本、中世以降の柵列 1 本・集石 5 基を検出した。

ここでは、本地点から検出された主な遺構・遺物について、順次時代順に述べることとする。

### 第1節 西原大塚遺跡第35地点出土の縄文時代中期の土器について

#### (1) 編年の枠組み

ここでは、本地点から出土した縄文時代中期に帰属する復元個体について、既存の土器型式編年を参照しながら、その編年的位置付けを行うこととする。

中期土器編年の枠組と呼称については黒尾和久の研究成果（黒尾 1995）に基づきつつ、その細別時期・型式の特徴や内容等については、新地平編年（小林・中山・黒尾 2004、黒尾 2016、中山 2016）や、新地平編年との対比が明らかな編年研究（中山・宇佐美・武川・黒尾 2004、大網 2016、櫛原 2016）を参照した。

以上のような編年の枠組を用いながら、今回出土した土器を個体レベルで編年的な位置づけを検討した結果、下記の1～9期を設定することとなった。以下、各期の土器様相について述べる。

#### (2) 各期の土器様相

##### 1期：勝坂3b古式期

本期の特徴は、区画文を形成する隆帯上に押圧文を付すこと、区画文内に単沈線や並行沈線による縦位沈線文列や角押文列を密に充填することなどである。

1・2はキャリパー形深鉢である。1は無文の口縁部を持ち、やや外反する胴部には断面台形の隆帯による区画文を配し、区画文内には沈線文列の充填が目立つ。2は口縁部、胴部上半、胴部下半が無文部によって画され、3段の文様帯を持つ。口縁部の区画文を形成する隆帯上の押圧文が密に付されるが、胴部上半及び下半の区画文を形成する隆帯上には一部を除き押圧文は付されない。胴部上半・下半の区画文内には、沈線による三角文ないし三叉文が充填され、空白部が目立たない。

3は樽型の深鉢で、無文の口縁部にイノシシを模したと思われる把手が付くことに加え、胴部上半の文様帯内には、へびを模したと思われる区画文が配されており、特徴的な資料と言える。

4は円筒形深鉢と思われ、幅広の隆帯による人体意匠文が配し、区画文間には沈線文列が充填される。

5は円筒形深鉢で、胴部上半にはパネル文が配され、胴部下半は無文となる。

##### 2期：勝坂3b新式期

本期の特徴は、区画文を形成する隆帯や隆帯上加飾である角押文・交互刺突文等が粗大化または矮小化すること、隆帯上加飾に沈線が用いられること、区画文内の副文様が低調になること、文様帯内にも地文が施されることなどである。

本期は勝坂式の終末期であると同時に、加曽利E式成立直前期であることから、勝坂式・阿玉台式・

加曾利E式・大木式といった各型式の要素が複雑に絡まりながら多様な土器様相を示しており、上記の特徴を備えていない土器も多く認められている。ここでは各個体を本期に比定させた根拠の一つとして、これまで認識されてきた類型名（中山・宇佐美・武川・黒尾 2004）を適宜付して説明する。

6は幅広の背割隆帯による横位のS字ないし波状文が配され、区画文内の一部に沈線文列や渦巻文が配されるほかは空白部が目立ち、地文は施されない。「勝坂タイプ（口縁部一体型）」と呼称される。

7～9は「加納里タイプ」と呼称される一群で、6は5単位、7・8は4単位の波状口縁を持つ。いずれも沈線や押圧文で加飾された粗大な隆帯により、十字文等の区画文が配されている。

10は「多喜窪タイプ」と呼称される土器で、口縁部には人面把手、へび状把手、へび状貼付文などが施されており、特徴的な資料である。当該資料の位置づけについては、付編Iを参照されたい。

11は「キャリパー形縄文・燃糸文系」と呼称される土器で、大形の把手が配されていたと思われる。

12～15は「パネル文崩れ」と呼称される一群で、12は無文の口縁部が省略され、13は長胴で、14は区画文を持たない。

16は無文の直立する波状口縁（4単位）を持ち、口縁部に文様帯を配する土器である。口縁部文様帯が比較的狭いこと、区画文内に交互刺突文を多用すること、頸部以下の地文が単節RL横位施文を主体としていることを東関東系の特徴と捉え、「下総（中峠）系」に比定する。

17～29は「小型円筒形深鉢」と呼称される一群である。胴部上半に隆帯による区画文を配し、下半に地文を施す資料（16～24）を典型例とし、胴部下半を無文とするもの（25・26）、縦位沈線のみ施文するもの（27）がある。28は、やや樽形を呈しており、東関東ないし北関東の特徴といえようか。

30は口縁部に交互刺突を付した隆帯が巡り、胴部には隆帯による十字文が配される土器である。「パネル文崩れ」もしくは「大木系」に比定されよう。

31～36は「中带文系」と呼称される一群で、樽形の器形と胴部上半に文様帯を配することが特徴である。32～35は、口縁部に筒状ないしへび状の把手が付いていることが特徴的である。

37～39は浅鉢形土器である。39は、2本1対の細い隆帯による波状文や十字状文が配されており、大木8a式に比定される。本資料のような典型的な大木8a式は、志木市を含む武蔵野台地北東部においては希少例である。

口縁部に文様帯を持つキャリパー形深鉢と、胴部上半に文様帯を持つ円筒形深鉢を主体にした土器様相は、本遺跡や周辺地域を対象とした分析例（新藤2009、高橋2003、徳留2022）と共通している。

### 3期：加曾利E 1 a 式期

本期の特徴は、武蔵野台地型 先述の加曾利E式成立の「要件」（黒尾 2004・2016・2017）全てを満たしている個体とその伴出資料を本期に比定した。黒尾の示した要件は「①燃糸（L燃）の全面施文（頸部は素文になるものもある）、②隆起帯によって口縁部文様帯の上下区画をする、③口縁部には横位のL燃地文の施文、④文様要素として、2本の並行粘土紐を使用、⑤屈折底の痕跡化（キャリパー器形の成立）、⑥口縁部文様帯内の「横S字モチーフ」の連結・連続化」（黒尾 2017）である。しかし③について筆者は、口縁部から胴部まで燃糸Lを縦位に施文する資料も加曾利E式に含めるべきと考えており（徳留 2019）、今回も45を本期に含めている。

40～45はキャリパー形深鉢で「武蔵野台地型加曾利E式」（谷井 1987）とされる土器である。いずれも燃糸Lを地文として施文した後、隆帯や半截竹管状工具による並行沈線で口縁部と胴部を画し、口縁部には2本1対の隆帯によるS字状文を配する土器である。

46は地文に単節RLを採用し、やや幅狭の口縁部文様帯には、断面が角状を呈した細めの隆帯によりS字状ないし蕨手状文が配され、胴部には3本1対の直状沈線や1本の波状沈線が垂下しており、大木式の影響を強く受けていると思われる資料である。

47は「小型円筒形深鉢」と呼称される土器であるが、胴部上半の区画文は隆帯ではなく沈線のみで描出され、下半は無文となる。48は撚糸R縦位施文に、抑えの甘い隆帯よる十字状文等を配する土器で、「パネル文崩れ」に比定される。47・48ともに勝坂式系の土器であるが、隆帯による区画文と副文様を特徴とする伝統的な勝坂式ではなく、「変異した勝坂式」（徳留2019）として位置づける。

49～53は「大木系（武蔵野台地型）」と呼称される一群である。いずれも口縁部が小波状を呈し、口縁部上端に加飾された隆帯が巡る。49は胴部が地文のみ、50～52は並行沈線による横位沈線や波状沈線が巡る。53は胴部に単節RL縦位施文後、3本1対の単沈線による直状文やクランク状文、単沈線による波状文が垂下しており、大木式の強い影響が看取される。

54～57は浅鉢で、54・55は有文、55・56は無文である。

#### 4期：加曾利E 1 b式期

本期の特徴は、撚糸を地文とし、口縁部には2本1対の隆帯によるS字状文・弧状文が配され、その端部には沈線で小さめの渦巻文が付されること、橋状・逆C字状の大型中空把手が顕著に認められることである。また、胴部に1本ないし2本1対の直状・波状隆帯が垂下することなども本期の特徴である。文様構成では、口縁部文様帯・頸部無文帯・胴部文様帯の3帯構成をとるもので占められる。

地文は撚糸L縦位施文を主体とするが、61・62のように単節縄文がされるもの、69・71の口縁部のように縦位沈線文が充填されるものもある。

口縁部の単位文様に着目すると、58～62のようにS字状文の端部が大きいもの、63～68のようにS字状文が波状文ないし半楕円区画文化するとともに端部が渦巻文化するもの、69～72のように逆C字状や箱状の中空把手を有するものがある。

胴部文様では、2本1対ないし1本の隆帯による直上・波状隆帯が垂下するものを主体に、2・69・73・74のように渦巻状文を配するものも目立つ。

75は沈線による多重の渦巻状文を胴部に施す土器で、「複弧文系」に比定される。

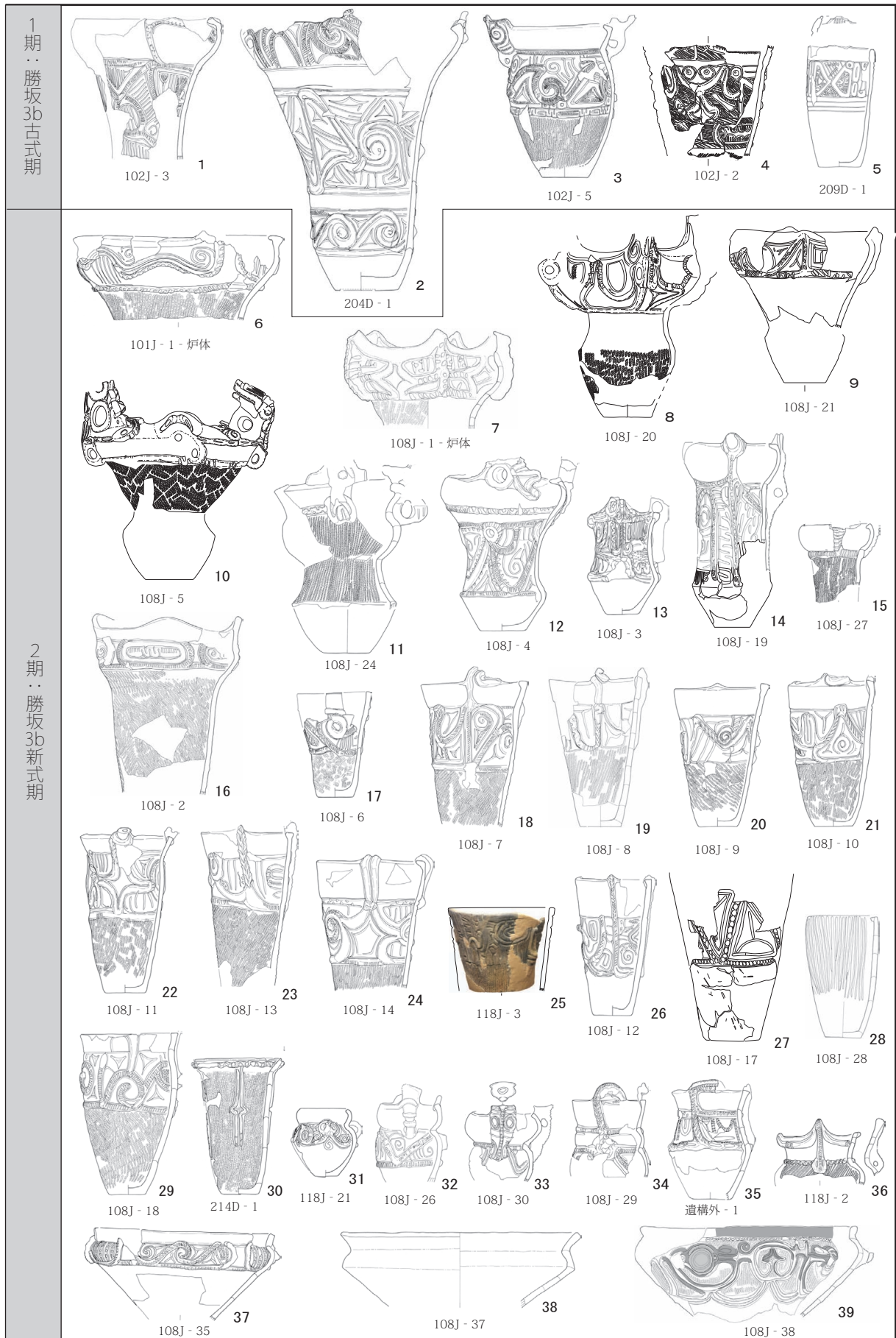
以上、本期はほぼ全ての資料がキャリパー形の「武蔵野台地型加曾利E式」で占められ、土器群の斉一性が進行している様相が看取できる一方、口縁部文様帯におけるS字状文や区画文のあり方、地文の種類、中空把手の有無などに、小さくない変異幅が認められることが特徴といえる。

#### 5期：加曾利E 1 c式期／曾利II a式期

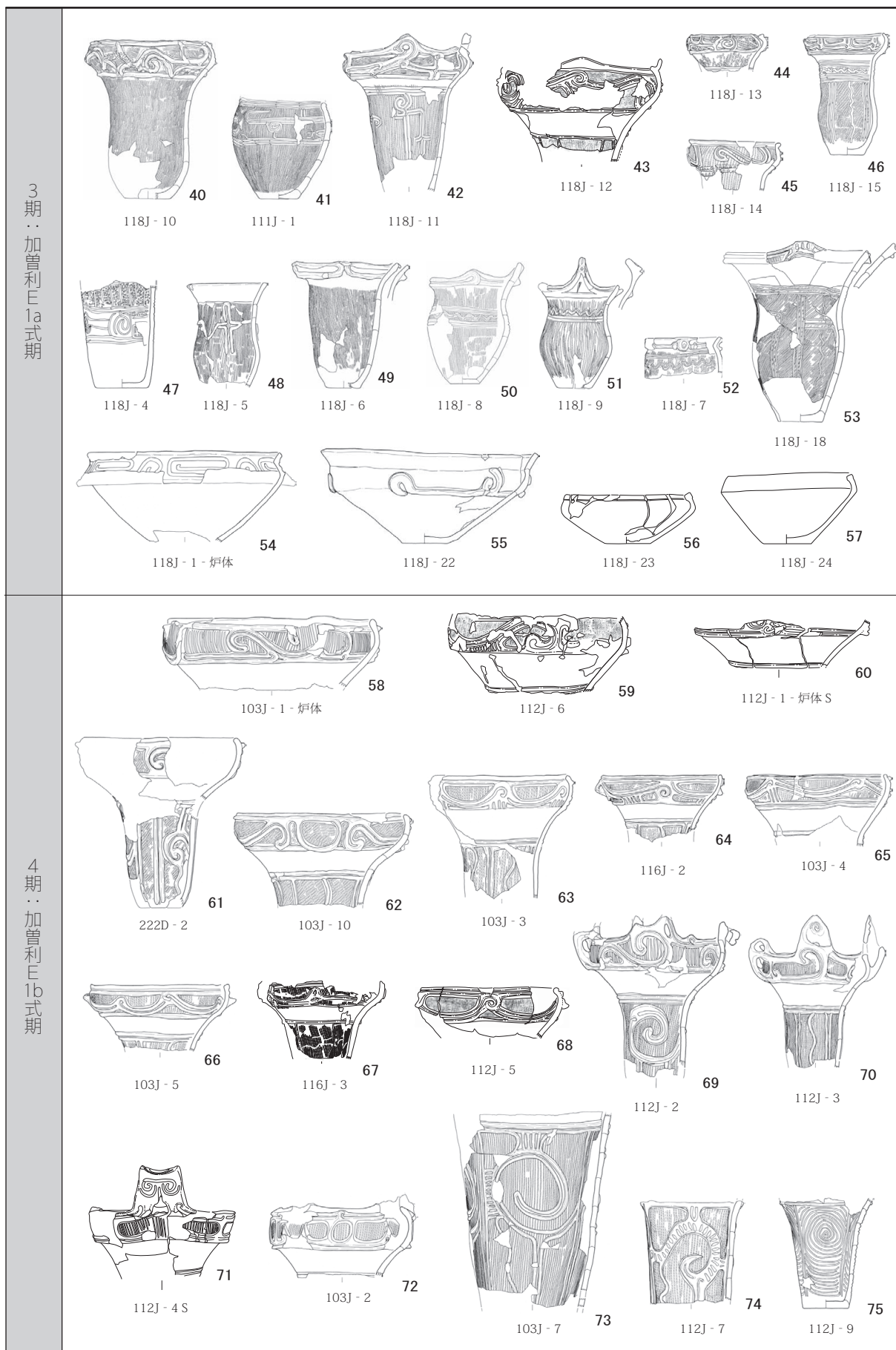
本期の特徴は、大形把手の衰退、縄文地文の増加、口縁部の平縁化、口縁部S字状文の端部渦巻状文の大形化などが挙げられる。

76～79はいずれも平縁のキャリパー形深鉢である。76・77は、口縁部に単位文化した半肉彫状の渦巻状文と楕円区画文を配する。78は、口縁部に細い断面角状の隆帯による渦巻状文等を配し、胴部には3本1対の沈線による「几」字状の垂下文が施される。79は比較的狭い口縁部文様帯内に不定形の区画文が配され、胴部には3本1対の垂下文が配される。78・79ともに、大木式の要素が看取できる。胴部文様に沈線による垂下文を配することは、次期の加曾利E 2式の特徴であるが、口縁部の単位文様がやや古相であることや、同時期の大木8 b式の胴部文様に3本1対の沈線が採用されていることを踏まえ、本期に比定した。

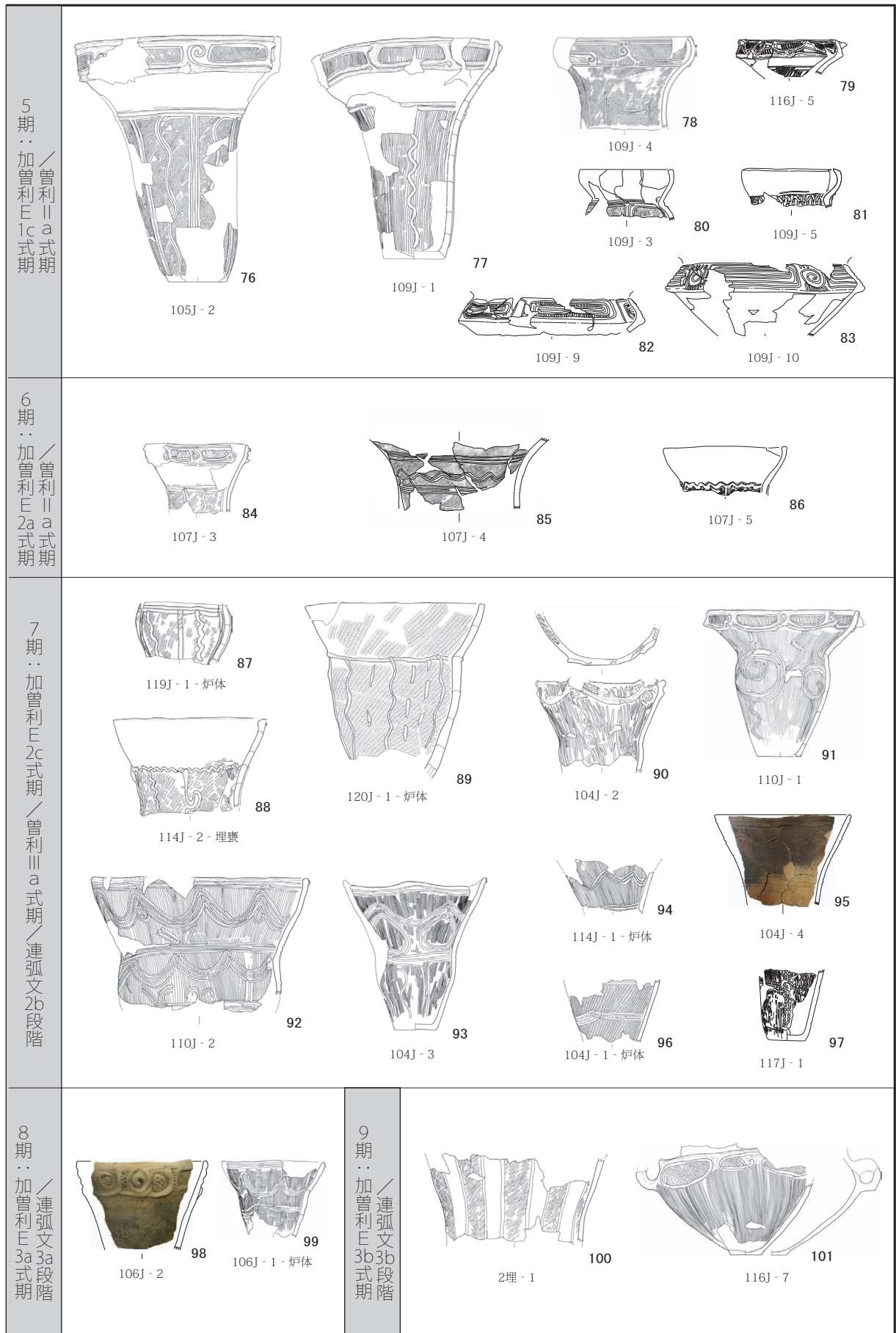




第210図 西原大塚遺跡第35地点出土土器編年図① (1/12)



第211図 西原大塚遺跡第35地点出土土器編年図② (1/12)



第212図 西原大塚遺跡第35地点出土土器編年図③(1/12)



80・81は、いずれも無文の内湾する口縁部を持つ曽利式系の土器である。ただし、80は撚糸L縦位施文を地文とし、また沈線で抑えられた2本1対の隆帯が頸部区画文や胴部垂下文に用いられる点、さらに、81の頸部に巡る抑えの甘い短い隆帯による斜格子目文の下に撚糸L縦位施文が施されている点などは、加曽利E式の特徴であり、曽利式・加曽利E式の特徴が混在していることが指摘できる。

82・83は浅鉢で、いずれも沈線による同心円状の方形区画や渦巻文等が配されている。

#### 6期：加曽利E 2 a 式期／曽利II a 式期

本期の特徴としては、加曽利E式では、口縁部は平縁、地文は単節縄文、胴部文様には1・2本1対の沈線が直状・波状に垂下するものにほぼ統一されることである。また、曽利系の個体が伴うこと、加曽利E式土器に曽利系の要素が伴うことも特徴的である。

84・85は加曽利E式である。84は口縁部に渦巻状文を配するが、区画文内に短沈線による綾杉状文が施されており、曽利系の要素を看取できる。85は胴部に単節縄文を採用するものの、2～3本1対の横位波状沈線が巡り、やや古手の印象を受ける。

86は曽利式である。依存度が悪く、時期比定が困難であるが、頸部に抑えの甘い波状隆帯が1本巡ることや、地文に単節縄文が施されること、伴出資料などから本期に帰属させた。

#### 7期：加曽利E 2 c 式期／曽利III a 式期／連弧文 2 b 段階

本期の特徴としては、曽利式や連弧文系土器が主体を占めることである。

87～89は、いずれも時期比定が困難であるが、頸部に巡る区画線が沈線や1本の隆帯のみであることに加え、地文が口縁部にも及んでおり、口縁部と胴部の区画が比較的曖昧であること、胴部に垂下する隆帯が1本のみであることなどから、本期に比定する。

90・91は「つなぎ弧文類型」と呼称される一群である。口縁部に1本ないし2本1対の隆帯による半楕円区画文を配し、区画文内には縦位沈線文列を充填する。区画文の連結部分には渦巻状文を伴う。胴部には1～3本の沈線による垂下文や渦巻状文が配される。90の口唇部に確認できる斜行沈線は、斜行沈線文土器の影響であろうか。

92～97は連弧文土器である。92・93のように主文様である連弧状文の他に副文様を配するものが特徴的である。94・95のように波状文化したものや、96のように横位の区画線のみのものである。

#### 8期：加曽利E 3 a 式期／連弧文 3 a 段階

本期の特徴としては、加曽利E式で胴部文様に磨消縄文が採用されることである。

98は口縁部文様帯に太い隆帯による区画文が配され、区画文内に円形刺突文が充填される。胴部にはやや幅広の磨消部を伴う。

99は連弧文土器で、口縁部と胴部の屈曲は比較的明瞭であるものの、口縁部の弧状文は沈線間に一部磨消を伴うことから、本期に比定した。

#### 9期：加曽利E 3 b 式期／連弧文 3 b 段階

本期の特徴は、加曽利E式では胴部の磨消部が幅広になることや、口縁部と胴部の区画が曖昧化することである。

100は口縁部を欠損しているものの、縄文部と磨消部が概ね同一幅である。

101は両耳壺で、口縁部文様帯と体部は太い沈線でのみ画され、体部には条線地文となる。

以上、本地点で出土した縄文土器について、時期を追って述べてきた。最後に、全体を通観した初見を述べることにする。



まず、1・2期とした勝坂式終末期の資料が豊富に得られた点が上げられる。中でも108 Jから出土した復元個体は38点を数えるとともに、周辺でも類例の少ない人面・蛇状把手付土器(10)が含まれている。特徴的な文様を有する資料としては、他にも、イノシシ状把手(3)や、人体意匠文(4)を有する土器が注目されるだろう。

次に、勝坂式終末期から加曾利E式初頭期における大木式関連資料が得られたことである。加曾利E式の成立にあたっては大木式の強い影響が指摘される一方、当該地域においては大木式そのものの出土が僅少である。その中で、大木8a式の復元個体としては市内初の事例である39、そして大木式の影響を強く受けたと思われる46や53は、加曾利E式の成立を検討する上で重要な資料となるだろう。

また、曾利式や連弧文土器の動態も注目される。本地点では、5期で80・81といった曾利式系土器が出現し、6・7期にいたっては加曾利E式系の土器は殆ど確認されず、ほぼ曾利式や連弧文土器のみで占められる。次節で述べるように、8・9期では本遺跡全体で遺構数が減少していることと関連し、資料数は少なく判然としないが、概ね8期では僅かに連弧文土器が含まれ、9期では再び加曾利E式のみで構成されるようになると言えよう。

今後、本地点で得られた所見を踏まえつつ、本遺跡全体における編年を構築した上で、周辺地域を含めた土器様相の把握に努めたい。

#### [引用・参考文献]

- 大網信良 2016 「武蔵野・多摩地域周辺の土器系統：連弧文系」『シンポジウム縄文研究の地平2016—新地平編年の再構築—発表要旨』 縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会
- 黒尾和久 1995 「縄文中期集落遺跡の基礎的検討(1)」『論集 宇津木台』第1集 宇津木台地区考古学研究会
- 黒尾和久 2016 「基調報告3：加曾利E式」『シンポジウム縄文研究の地平2016—新地平編年の再構築—発表要旨』 縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会
- 黒尾和久 2017 「加曾利E1式の多様な系統と勝坂3式の「間」～武蔵野台地型加曾利E式の成立(勝坂式から加曾利Eへ～について)』『研究集会縄文研究の地平2017—土器から探る勝坂式と加曾利E式の間—発表要旨・資料集』 縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会
- 小林謙一・中山真治・黒尾和久 2004 「1. 多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定(補)」『シンポジウム縄文研究の新地平3—勝坂式から曾利へ—発表要旨』 縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 谷井 彪 1987 「加曾利E式土器における口縁部文様と形態の系譜」『柳田敏司先生還暦記念論文集 埼玉の考古学』 新人物往来社
- 徳留彰紀 2019 「武蔵野台地北東部および大宮台地における勝坂式終末期から加曾利E式初頭期の土器様相」『考古学の地平II—縄文時代中期の土器論と生業研究の新視点—』 山本典幸・考古学の地平グループ編
- 永瀬史人 2008 「連弧文土器」『総覧縄文土器』 アム・プロモーション
- 中山真治・宇佐美哲也・武川夏樹・黒尾和久 2004 「東京編年表(「東京①・②」とその解説)』『シンポジウム縄文研究の新地平3—勝坂式から曾利へ—発表要旨』 縄文集落研究グループ・セツルメント研究会

## 第2節 西原大塚遺跡の縄文時代中期集落の変遷について

### (1) はじめに

西原大塚遺跡では、昭和48年度から令和5年度までの約50年間で、245地点にも及ぶ確認調査・発掘調査の結果、縄文時代中期に帰属すると思われる住居跡約200軒、土坑約560基と、数多くの遺構が検出されている(第213図)。これらの遺構群に対し、これまでいくつかの発掘調査報告書等において、集落の規模や分布傾向などが示されてきた(坂上2010、佐々木2010、徳留2015a・2015b、大久保2020)。しかしながら、本地点を含む未報告地点が残されていたこともあり、縄文集落研究においては基礎的な内容となる、集落の時期的推移については、提示されてこなかった。

ここでは、本報告により、本発掘調査が実施された地点の報告が概ね出揃ったことを受け、今後の調査・研究の検討材料とするべく、西原大塚遺跡における縄文時代中期集落の変遷について、暫定的に提示することとする(図版140・第92表)。なお、対象は出土遺物から時期比定が可能な住居跡のみとし、時期の呼称や編年の枠組みについては、前節と同様、既存の土器型式編年を参照した(註1)。

### (2) 遺構の分布傾向について

集落の変遷を述べる前に、遺跡全体の遺構分布状況について、概要を整理しておく(註2)。

集落全体で見ると、住居跡は北限を76J(区36地点)、南限を157J(第108地点)、西限を11J(8地点)、東限を97J(区41Ⅱ地点)とし、規模はおよそ南北290m×東西260mである。

集落の中央には土坑群が分布し、その土坑群を取り巻くように、住居跡が円環状に分布している様相が看取され、所謂「環状集落」を形成しているといえる。遺跡西部域を中心に、未調査部分を多く残しており、不明瞭ではあるものの、概ね区25Ⅳ地点周辺が集落の中心部分として捉えられようか。

### (3) 中期集落の変遷

#### 勝坂2式期／阿玉台Ⅱ式新～Ⅲ式期

住居跡9軒が該当する。疎らではあるものの、概ね円環状に分布している状況が看取できる。また、143J・153J、180J・184J、130J・137Jは、それぞれ近接しており、「分節構造」(谷口2005)を想起させる。本期が集落の開始期に位置づけられる。なお、83J・181Jが本期よりも古い阿玉台Ⅰb～Ⅱ式古期に位置づけられる可能性があるが、出土遺物が僅少であり、時期の特定が困難であったため、今回は割愛した。

#### 勝坂3式期／阿玉台Ⅳ式期

住居跡41軒が該当し、直前の勝坂2式期に比して急増する。集落東部の第174地点・区17地点付近で特に凝集的に分布する一方、集落北部の区25Ⅶ地点・第35地点東部・34地点・228地点東部、集落南部の区67南東部など、集落外縁部においても、一定の分布が認められ、全時期を通じて最も広範囲に分布している。

#### 加曾利E1式期／曾利Ⅰ～Ⅱ(古)式期

住居跡39軒が該当する。凝集性も高く、特に第35地点西部や第174地点では濃密に分布している。また、集落北西部の第222地点・区71地点、集落南西部の第172地点・区25Ⅰ地点・区4Ⅰ地点



第2節 西原大塚遺跡の縄文時代中期集落の変遷について

| 住居番号 | 調査区           | 時期           | 第2表報告書No<br>及び備考 |
|------|---------------|--------------|------------------|
| 1    | 1(A)          | 加曾利E3b       | No1              |
| 2    | 1(A)          | 加曾利E3c       | No1              |
| 3    | 1(A)          | 加曾利E3        | No1              |
| 4    | 1(A)          | 勝坂3b新        | No1              |
| 5    | 1(A)          | 加曾利E3        | No1              |
| 6    | 3(C)          | 加曾利E3        | No3              |
| 7    | 3(C)          | 加曾利E3b/連弧文3b | No3              |
| 8    | 3(C)          | 加曾利E3a~b     | No3              |
| 9    | 3(C)          | 加曾利E3a~b     | No3              |
| 10   | 3(C)          | 加曾利E3b       | No3              |
| 11   | 8             | 加曾利E2c       | No6              |
| 12   | 区4 I          | 加曾利E1a       | No38             |
| 13   | 区8 I          | 加曾利E1        | No38             |
| 14   | 区11           | 黒浜           | No38             |
| 15   | 区13 I         | 勝坂3b古        | No38             |
| 16   | 34            | 勝坂3b新        | No19             |
| 17   | 34            | 勝坂3          | No19             |
| 18   | 34/区13 II     | 加曾利E1a       | No38             |
| 19   | 区17           | 勝坂3b新        | No38             |
| 20   | 区17/区39 I     | 勝坂3b新        | No38             |
| 21   | 区17           | 勝坂3b新        | No38             |
| 22   | 区17/区24 II    | 加曾利E2c       | No38             |
| 23   | 区17           | 勝坂3a         | No38             |
| 24   | 区17           | 加曾利E1a       | No38             |
| 25   | 区17           | 勝坂3b新        | No38             |
| 26   | 区22/区130      | 加曾利E3        | No38             |
| 27   | 区22           | 加曾利E2c/曾利Ⅲa  | No38             |
| 28   | 区24 I/43      | 加曾利E3a       | No38/No25        |
| 29   | 区24 I         | 中期           | No38             |
| 30   | 区22           | 勝坂3b         | No38             |
| 31   | 区22           | 勝坂3b新        | No38             |
| 32   | 区22           | 加曾利E         | No38             |
| 33   | 区22           | 不明           | No38/詳細不明        |
| 34   | 区23 I         | 加曾利E1b       | No38             |
| 35   | 67/区38 I      | 加曾利E2c       | No22/No38        |
| 36   | 区38 I         | 加曾利E1b       | No38             |
| 37   | 区38 I/174②~④  | 勝坂3b新        | No38             |
| 38   | 区38 I         | 勝坂3b新        | No38             |
| 39   | 区38 I/174②~④  | 勝坂3b古        | No38             |
| 40   | 区38 I         | 中期           | No38             |
| 41   | 区38 I/174②~④  | 勝坂           | No38/No90        |
| 42   | 区38 I         | 勝坂           | No38             |
| 43   | 区10 II        | 黒浜           | No38             |
| 44   | 区25 I         | 加曾利E1b       | No38             |
| 45   | 区24 I         | 中期           | No38/詳細不明        |
| 46   | 区25 I         | 加曾利E3        | No38             |
| 47   | 区25 I         | 中期           | No38/詳細不明        |
| 48   | 区25 II        | 加曾利E1b       | No38             |
| 49   | 区25 II        | 加曾利E3a       | No38             |
| 50   | 区25 II        | 勝坂3b新        | No38             |
| 51   | 区25 II        | 加曾利E3        | No38             |
| 52   | 区25 V         | 阿玉台Ⅱ         | No38             |
| 53   | 区25 V         | 加曾利E2c       | No38             |
| 54   | 区26           | 加曾利E4        | No38             |
| 55   | 区26           | 加曾利E2c       | No38             |
| 56   | 区26           | 加曾利E2c       | No38             |
| 57   | 区29 I         | 勝坂3          | No38             |
| 58   | 区30           | 加曾利E2~3      | No38             |
| 59   | 区30           | 加曾利E3a       | No38             |
| 60   | 区30           | 加曾利E2c/連弧文2b | No38             |
| 61   | 39            | 加曾利E3b       | No22             |
| 62   | 39            | 加曾利E         | No22             |
| 63   | 39            | 加曾利E3b~c     | No22             |
| 64   | 区30           | 中期           | No38/詳細不明        |
| 65   | 43            | 加曾利E3a/連弧文3a | No25             |
| 66   | 43/区13IV      | 加曾利E1a/曾利Ⅰa  | No38             |
| 67   | 区33 I         | 堀之内Ⅰ         | No38             |
| 68   | 43            | 加曾利E2        | No25             |
| 69   | 43            | 加曾利E2c/連弧文2a | No25             |
| 70   | 43            | 加曾利E2c/連弧文2a | No25             |
| 71   | 43            | 加曾利E2        | No25             |
| 72   | 43            | 加曾利E3        | No25             |
| 73   | 43            | 加曾利E3        | No25             |
| 74   | 43/区13IV      | 加曾利E1b       | No25             |
| 75   | 区36           | 勝坂3          | No38             |
| 76   | 区36           | 勝坂2          | No38             |
| 77   | 区36           | 中期           | No38             |
| 78   | 区13 II        | 中期           | No38             |
| 79   | 区24 II        | 加曾利E1a       | No38             |
| 80   | 区24 II        | 勝坂3b古        | No38             |
| 81   | 区24 II        | 加曾利E1b       | No38             |
| 82   | 区24 II        | 加曾利E1b       | No38             |
| 83   | 区24 II/区67 II | 阿玉台Ⅰb~Ⅱ      | No38             |
| 84   | 区24 II        | 加曾利E2        | No38             |
| 85   | 区13 III       | 加曾利E2b       | No38             |
| 86   | 区13IV         | 勝坂3b新        | No38             |
| 87   | 区13IV/228     | 加曾利E2c/連弧文2b | No38/No84        |
| 88   | 67/区13 III    | 加曾利E2c/連弧文2b | No22/No38        |
| 89   | 区13 III/228   | 加曾利E2b       | No38/No84        |
| 90   | 区13IV/174①    | 加曾利E1b       | No38             |
| 91   | 区13IV         | 中期           | No38             |
| 92   | 区13IV         | 勝坂3b新        | No38             |
| 93   | 区13IV         | 勝坂3a         | No38             |
| 94   | 区13IV         | 中期           | No38             |
| 95   | 区40 III       | 加曾利E2        | No38             |
| 96   | 区40 III       | 加曾利E3        | No38             |
| 97   | 区41 II        | 加曾利E3        | No38             |
| 98   | 区40 V         | 加曾利E         | No38             |
| 99   | 区34 II        | 加曾利B         | No38             |
| 100  | 70            | 勝坂3          | No100            |
| 101  | 35            | 勝坂3b新        | 本報告              |
| 102  | 35            | 勝坂3b古        | 本報告              |

| 住居番号 | 調査区          | 時期              | 第2表報告書No<br>及び備考 |
|------|--------------|-----------------|------------------|
| 103  | 35           | 加曾利E1b          | 本報告              |
| 104  | 35           | 加曾利E2c/連弧文2b    | 本報告              |
| 105  | 35           | 加曾利E1c          | 本報告              |
| 106  | 35           | 加曾利E3a/連弧文3a段階  | 本報告              |
| 107  | 35           | 加曾利E2a          | 本報告              |
| 108  | 35           | 勝坂3b新           | 本報告              |
| 109  | 35           | 加曾利E1c          | 本報告              |
| 110  | 35           | 加曾利E2c/連弧文2b    | 本報告              |
| 111  | 35           | 加曾利E1a          | 本報告              |
| 112  | 35           | 加曾利E1b          | 本報告              |
| 113  | 35           | 阿玉台Ⅲ~加曾利E1      | 本報告              |
| 114  | 35           | 加曾利E2c/連弧文2b    | 本報告              |
| 115  | 35           | 勝坂3b古           | 本報告              |
| 116  | 35           | 加曾利E1b          | 本報告              |
| 117  | 35           | 加曾利E2c/連弧文2b    | 本報告              |
| 118  | 35           | 加曾利E1a          | 本報告              |
| 119  | 35           | 加曾利E2c          | 本報告              |
| 120  | 区130/35      | 加曾利E2c/曾利Ⅲa     | No38/本報告         |
| 121  | 70           | 加曾利E3           | No100            |
| 122  | 区25 VII・区7 I | 加曾利E2           | No38             |
| 123  | 区25 VII      | 加曾利E1b          | No38             |
| 124  | 区25 VII      | 勝坂3             | No38             |
| 125  | 区7 I         | 加曾利E1b          | No38             |
| 126  | 区25 VII      | 勝坂3b新           | No38             |
| 127  | 区67 II       | 勝坂3             | No38             |
| 128  | 区38 II       | 加曾利E3           | No38             |
| 129  | 区67 II       | 勝坂3b            | No38             |
| 130  | 区67 II       | 勝坂2             | No38             |
| 131  | 67           | 加曾利E2c/連弧文2a    | No35             |
| 132  | 67           | 加曾利E2a/曾利Ⅱa     | No35             |
| 133  | 67           | 加曾利E2a/曾利Ⅱa     | No35             |
| 134  | 67           | 加曾利E3a/連弧文3a    | No35             |
| 135  | 67           | 加曾利E1b~c        | No35             |
| 136  | 67           | 加曾利E2a          | No35             |
| 137  | 区67 II       | 勝坂2a            | No38             |
| 138  | 区7 I         | 加曾利E1b          | No38             |
| 139  | 区7 I         | 加曾利E1b          | No38             |
| 140  | 120          | 加曾利E2b          | No41             |
| 141  | 区130         | 加曾利E2b          | No38             |
| 142  | 区130         | 加曾利E2c          | No38             |
| 143  | 区130         | 勝坂2             | No38             |
| 144  | 区130         | 加曾利E1c          | No38             |
| 145  | 区130         | 勝坂3             | No38             |
| 146  | 区130         | 勝坂3             | No38             |
| 147  | 区130         | 加曾利E1b          | No38             |
| 148  | 区130         | 加曾利E2a~b/曾利Ⅱa~b | No38             |
| 149  | 区130         | 加曾利E3b          | No38             |
| 150  | 区130         | 加曾利E3a          | No38             |
| 151  | 区130         | 加曾利E3a          | No38             |
| 152  | 区130         | 加曾利E2c          | No38             |
| 153  | 区130         | 勝坂2a            | No38             |
| 154  | 区130         | 加曾利E2c          | No38             |
| 155  | 区130         | 加曾利E2c/連弧文2b    | No38             |
| 156  | 区130         | 加曾利E3b          | No38             |
| 157  | 108          | 阿玉台Ⅱ式           | No47             |
| 158  | 172①~④       | 勝坂3b新           | No69             |
| 159  | 172①~④       | 加曾利E3           | No69             |
| 160  | 172①~④       | 加曾利E1c          | No69             |
| 161  | 172①~④       | 加曾利E3a          | No69             |
| 162  | 172①~④       | 勝坂2~3           | No69             |
| 163  | 174②~⑤       | 勝坂3b新           | No90             |
| 164  | 174②~⑤       | 勝坂3a            | No90             |
| 165  | 174②~⑤       | 加曾利E1b          | No90             |
| 166  | 174②~⑤       | 加曾利E4           | No90             |
| 167  | 174②~⑤       | 勝坂              | No90             |
| 168  | 174②~⑤       | 加曾利E1a          | No90             |
| 169  | 174②~⑤       | 加曾利E1a          | No90             |
| 170  | 174②~⑤       | 勝坂              | No90             |
| 171  | 174②~⑤       | 勝坂3b新           | No90             |
| 172  | 174②~⑤       | 勝坂3b新/阿玉台Ⅳ      | No90             |
| 173  | 174②~⑤       | 加曾利E2c/連弧文2b    | No90             |
| 174  | 174①         | 加曾利E1c/加曾利E2c   | No30             |
| 175  | 174①         | 中期              | No30             |
| 176  | 174①         | 勝坂              | No30             |
| 177  | 174①         | 加曾利E2c~3b       | No30             |
| 178  | 174①         | 加曾利E1b          | No30             |
| 179  | 174①         | 加曾利E1b          | No30             |
| 180  | 174①         | 勝坂2             | No30             |
| 181  | 174①         | 阿玉台Ⅰb~Ⅱ         | No30             |
| 182  | 174①         | 中期              | No30             |
| 183  | 180          | 黒浜              | No75             |
| 184  | 174②~⑤       | 勝坂2a            | No90             |
| 185  | 174②~⑤       | 勝坂3b古           | No90             |
| 186  | 216          | 堀之内Ⅰ            | No81             |
| 187  | 222          | 加曾利E1b          | No80             |
| 188  | 222          | 加曾利E1b          | No80             |
| 189  | 222          | 中期              | No80             |
| 190  | 222          | 勝坂              | No80             |
| 191  | 222          | 加曾利E1c          | No80             |
| 192  | 222          | 勝坂              | No80             |
| 193  | 222          | 縄文              | No80             |
| 194  | 225②         | 縄文              | 未報告              |
| 195  | 228          | 加曾利E2c/連弧文2b    | No84             |
| 196  | 228          | 加曾利E            | No84             |
| 197  | 228          | 加曾利E2           | No84             |
| 198  | 228          | 加曾利E2c/連弧文2     | No84             |
| 199  | 228          | 中期              | No84             |
| 200  | 228          | 勝坂3b古           | No84             |
| 201  | 228          | 加曾利E2           | No84             |
| 202  | 228          | 中期              | No84             |
| 203  | 228          | 阿玉台Ⅲ            | No84             |
| 204  | 228          | 勝坂3b新           | No84             |

第92表 西原大塚遺跡縄文時代住居跡一覧



でも検出されており、最も円環状を呈している時期といえる。一方で、直前の勝坂3式期に比べ、やや分布域が狭まっている様相が看取される。

#### 加曽利E 2式期／曾利Ⅱ（新）～Ⅲ（古）式期／連弧文1～2段階

住居跡45軒が該当する。直前の加曽利E 1式期から増加し、全時期を通じて最も多くの住居跡が該当する。住居軒数も多く、集落北東部の第35地点西部・区130地点・第67地点・第43地点では凝集的に分布している。集落中央西端に位置する区26地点の55J・56Jは、未調査部分の多い西部にあって、環状集落の形態を示す貴重な事例である。また、集落南西端に位置する11Jを除けば、直前の加曽利E 1式期に比べ、特に遺跡南側の分布域が狭まっていることが指摘できる。一方、集落東端に位置する195J・197J・201Jについても、集落外縁部に所在する住居跡として注意しておく必要がある。なお、遺物では、曾利式系や連弧文系といった、異系統土器が多く出土する傾向にある。

#### 加曽利E 3式期／曾利Ⅲ（新）～Ⅴ（古）式期／連弧文3段階

住居跡31軒が該当する。直前の加曽利E 2式期から激減するものの、環状集落を維持している。第1(A)地点や第3(C)地点で顕著なように、集落中央に住居跡の分布が進行する。また、区130地点と第1(A)地点、第3(C)地点と第43地点、区25I・II地点と第39地点の概ね3か所に凝集的に分布している。一方で、集落の東端に位置する96Jや97Jの存在についても、直前の加曽利E 2式期に続き、注目される。

#### 加曽利E 4式期／曾利Ⅴ（新）式期

住居跡1軒が該当する。数が激減し、環状形態は看取できない。

以上、本遺跡における縄文時代中期集落の変遷について、住居跡の軒数と分布に着目して概観した。全体を通観すると、勝坂2式期に集落の形成が始まり、勝坂3式期に急増して広範囲・高密度に展開して盛期を迎え、続く加曽利E 1式期も安定して集落が形成され、加曽利E 2式期で増加に転じて最盛期を迎えつつ分布範囲をやや縮小させ、加曽利E 3式期では減少と縮小が進行し、加曽利E 4式期には1軒のみの検出となることが判明した。また、所謂「環状集落」としては、集落開始期の勝坂2式期から加曽利E 3式期まで継続して形成されていたと思われる。

今回は、大まかな変遷を捉えることを目的としたため、土器型式編年上の時間幅を大きくとったが、今後は、遺物・遺構の検討を進め、より細かな時期設定により、集落遺跡の形成過程の機微を捉える必要がある。また、中期中葉期では勝坂式系と阿玉台式系、中期後葉期では加曽利E式系と曾利式系や連弧文系といった、土器系統を踏まえた検討も必要となるだろう。

#### [註]

- 註1 本来であれば、住居跡のみならず、土坑や柱穴、埋甕、集石、包含層、遺構外出土土器を含め、すべての遺構を対象とした上で、遺物の出土状況や各遺構の切合関係、遺構間接合の結果等を踏まえて時期比定を行うべきであるが、今回は、それらの検討が不十分であることから、暫定的かつ大枠の提示であることを断っておく。また、今回は図版140の時期別分布図上で大まかな変遷を視覚的に捉えることを目的としたため、時期の標記(色分け)は、勝坂1・2・3期、加曽利E 1・2・3・4期とした上で、並行する土器型式を併記することとした。
- 註2 西原大塚遺跡における発掘調査は、区画整理事業に伴う調査と、それ以外の事業に伴う調査の2つに分けられる。両者を区別するため、便宜的に前者の地点面に「区画整理」と付し、略号についても先頭に「区」を表記する。なお、各調査地点の調査成果概要については第2・3表を参照されたい。

## [引用・参考文献]

- 尾形則敏 2007「第3章第2節 縄文時代中期後葉の土器について」『志木市遺跡群 15 西原大塚遺跡第 67 地点』志木市の文化財 第 37 集 埼玉県志木市教育委員会
- 谷口康浩 2005『環状集落と縄文社会構造』学生社
- 徳留彰紀 2013「第4章第1節 縄文時代中期の住居跡について」『西原大塚遺跡第 174 ①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財 第 55 集 埼玉県志木市教育委員会
- 2015a「第4章第1節 縄文時代」『志木市遺跡群 22 西原大塚遺跡第 172 ①～④地点』志木市の文化財 第 67 集 埼玉県志木市教育委員会
- 2015b「埼玉県志木市西原大塚遺跡における縄文中期集落研究の基礎的資料」『あらかわ』第 16 号 あらかわ考古談話会
- 2022「第4章第1節 縄文時代の土器について」『志木市遺跡群 25 西原大塚遺跡第 174 ②～⑤地点』志木市の文化財 第 67 集 埼玉県志木市教育委員会
- 大久保聡 2020「第5章第2節 西原大塚遺跡第 222 地点の調査成果」『西原大塚遺跡第 220 地点 西原大塚遺跡第 222 地点 西原大塚遺跡第 227 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財 第 75 集 埼玉県志木市教育委員会

---

### 第3節 西原大塚遺跡出土の記号土器について

---

今回の調査では弥生時代後期後葉～古墳時代初頭の遺構として住居跡 5 軒と方形周溝墓が 2 基検出された。6 号方形周溝墓からは主体部が検出され、その覆土からはガラス小玉 7 点と碧玉製の管玉、ヒスイ製の小玉が各 1 点出土している。周溝内からは壺形土器が 2 個体検出されている。その 2 個体とも周溝のコーナー部分から出土しており典型的な出土パターンの範疇として捉えられる。一方、5 号方形周溝墓からもほぼ完形の壺形土器がコーナー付近から検出されている。その壺形土器の口縁部内面文様帯に三つ又の矢印状の線刻が認められ、所謂、『記号土器』と呼ばれる一群のものである。

#### 5 号方形周溝墓出土の記号土器について

今回の調査で 5 号方形周溝墓から三又状の記号が記された弥生時代後期の壺形土器が検出された。土器は方形周溝墓の溝部西側コーナー付近から検出されている。

土器に記された記号は沈線で三又状に描いたものが口縁部内面の LR の単節縄文と R の S 字状結節文が施文されている部分に 1 ケ所認められた。

三又状の沈線は中央の線を最初に引き、次に左線、そして最後に右線を引いていると思われる。

記号土器は梅原末治、森本六爾両氏によって注目され、小林行雄氏の唐古遺跡の報告書（小林 1943）で研究を推進させた。その後、佐原真氏の研究（佐原 1980）や藤田三郎氏の分析により体系的な分類が行われた（藤田 1982）。その後、橋本裕行氏が藤田氏の分類を一部改変して提示し、東日本に分布する絵画・記号土器をまとめている（橋本 1988）。

今回の資料に関しては橋本裕行氏の 1988 年の「東日本弥生土器絵画・記号総論」の中で用いられた分類に準拠した（第 214 図）。それによると「分類上、絵画は Drawing の頭文字をとって D、記号は Mark の頭文字をとって M」としている。その分類と分類表を見てゆくと本資料の記号は MB-IB”2 型に分類される（第 178 図 1）。この記号は橋本氏の上記論文では「MBIB”2 が全体の 60% を占める。しかも、それが I 期～IV 期のすべての時期に認められる点が注目される」とし「長期にわたって使用されていることと使用頻度の高さから見て、弥生人にとって特殊な意味をもつ記号であった可能

性が強い。」と指摘している。関東地方の記号土器についても「②記号はIV期に盛行し、とくにMB-IB”2型が記される場合が多い。③記号は細頸か広口の壺形土器に描かれるのが一般的である。」としている。

今回の調査で検出された記号土器の記号はMB-IB”2型にあたる。壺形土器の口縁部内面文に描かれているが東日本で最も多く見られる記号の一群であると確認された。

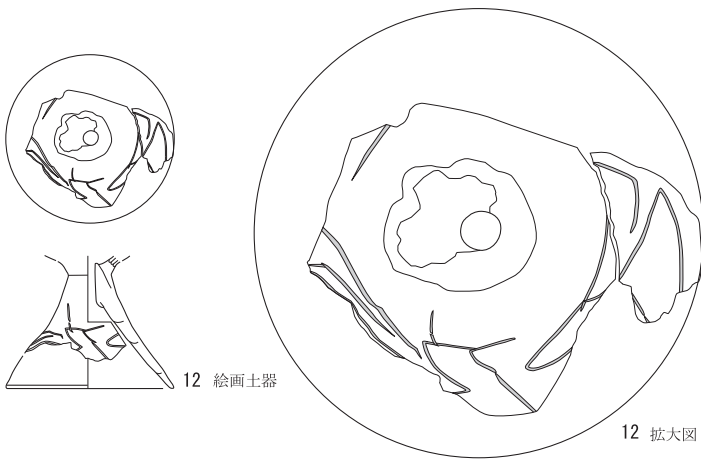
周辺地域を概観すると志木市内では同じ西原大塚遺跡の第72地点405号住居跡(405Y)から絵画土器が検出されている(尾形2024)。絵画土器は高坏の脚台部をめぐる様に描かれており、「龍」か「鹿」を思わせるような線画である。その他、格子目状のものが2点と2本の直線が描かれているものが1点検出されており、格子目状のものは切妻の屋根を表していると想定している。断片資料であり、明確ではないがこの2点は記号土器のMIA”n型とも考えられる。隣接する朝霞市では向山遺跡第3地点C-3区第6号住居跡から三叉状のMB-IB”2型の記号が記された土器が検出されている。土器は弥生時代中期宮ノ台式土器で、頸部に少なくとも3箇所認められる。その他、中道・岡台遺跡第6地点第3号住居跡からは船を描いたと思われる絵画土器が検出されている。土器は弥生時代後期の壺形土器で鋸

|       |                      |   |  |  |
|-------|----------------------|---|--|--|
| A 櫛 描 | I<br>(直<br>線)        | A   | A <sub>1</sub>   A <sub>2</sub>    A <sub>3</sub>     A <sub>4</sub>      A <sub>5</sub>       A <sub>n</sub>        |  |
|       |                      |   | A' <sub>1</sub> — A' <sub>2</sub> = A' <sub>3</sub> ≡ A' <sub>4</sub> ≡≡ A' <sub>5</sub> ≡≡≡ A' <sub>n</sub> ≡≡≡     |  |
|       |                      |   | A'' <sub>1</sub> T A'' <sub>2</sub> TT A'' <sub>3</sub> TTT A'' <sub>4</sub> TTTT A'' <sub>n</sub> TTTT              |  |
|       |                      |   | A''' <sub>1</sub> + A''' <sub>n</sub> ■  |  |
|       | B                    | B <sub>1</sub> / B <sub>2</sub> // B <sub>3</sub> /// B <sub>4</sub> ////       |  |  |
|       |                      | B' <sub>1</sub> X B' <sub>2</sub> XX B' <sub>3</sub> XXX B' <sub>n</sub> <<<<   |  |  |
|       |                      | B'' <sub>1</sub> Λ B'' <sub>2</sub> ↑ ㄱ ㄴ B'' <sub>3</sub> ㄷ B'' <sub>n</sub> ㄹ |  |  |
|       | B 籠 描                | C   | C <sub>1</sub> ∪ C <sub>2</sub> ∩ ∪ C <sub>n</sub> ∩ ∪ ∩ ∪   |  |
|       |                      |   | C' <sub>1</sub> ∩ C' <sub>n</sub> ∩ ∪  |  |
|       |                      |   | C'' <sub>1</sub> ○ C'' <sub>n</sub> ○  |  |
| C 竹 管 | II<br>(曲<br>線)       | D   | D <sub>1</sub> ) D <sub>2</sub> )) D <sub>3</sub> ))) D <sub>4</sub> )))) D <sub>5</sub> ))))) D <sub>n</sub> )))))) |  |
|       |                      |   | D' <sub>1</sub> ^  |  |
|       |                      |   | D'' <sub>1</sub> ㄷ   |  |
|       |                      |   | D''' <sub>1</sub> 八  |  |
|       |                      |   | D'''' <sub>1</sub> )(  |  |
| D 貼 付 | E                    | E <sub>1</sub> ) E <sub>2</sub> ))  |  |  |
|       |                      | E' <sub>1</sub> ○   |  |  |
| E 塗 彩 | G                    | F   | F <sub>1</sub> / F <sub>3</sub> ㄷ  |  |
|       |                      | G   | G <sub>1</sub> ○ G <sub>2</sub> ○○ G <sub>3</sub> ○○○ G <sub>4</sub> ○○○○ G <sub>5</sub> ○○○○○ G <sub>6</sub> ○○○○○○ |  |
|       |                      |   | G' <sub>2</sub> ○ G' <sub>5</sub> ○○ G' <sub>4</sub> ○○○ G' <sub>8</sub> ○○○○○○                                      |  |
|       |                      |   | G'' <sub>5</sub> ○○ G'' <sub>4</sub> ○○○ G'' <sub>6</sub> ○○○○   |  |
|       |                      |   | G''' <sub>3</sub> ○○ G''' <sub>4</sub> ○○○ G''' <sub>n</sub> ○○○○  |  |
|       |                      | H   | H <sub>1</sub> ㄱ ㄴ H <sub>2</sub> ㄷ ㄹ H <sub>n</sub> ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ   |  |
|       |                      | III<br>(点)  | I  | I <sub>n</sub>   |
|       |                      |   | J  | J <sub>3</sub> ●●● J <sub>4</sub> ●●●● J <sub>5</sub> ●●●●● J <sub>6</sub> ●●●●●● J <sub>n</sub> ●●●●●●● |
| IV    | 直線と曲線が不規則に組み合わせられたもの |   |  |  |

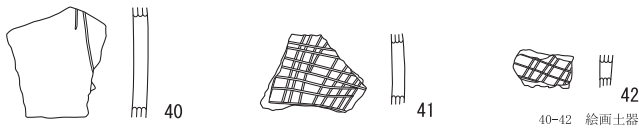
第214図 弥生土器記号形式分類図(橋本1988より転載)



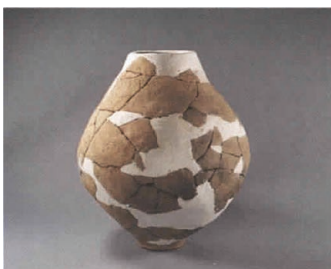
5号方形周溝墓出土記号土器 (第178図1 図版128-1)



朝霞市中道・岡台遺跡第6地点3号住居跡出土  
船が描かれた壺形土器胴部破片 (下)



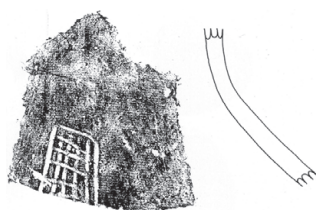
西原大塚遺跡第72地点405号住居跡出土絵画土器



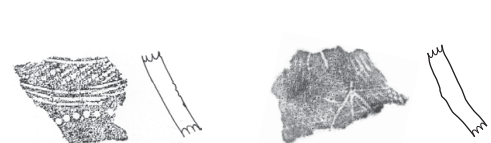
朝霞市向山遺跡C-3区6号住居跡出土記号土器



板橋区四葉遺跡 (西部台地北側  
環濠内集落16号環濠) 出土記号土器



板橋区赤塚氷川神社北方遺跡出土記号土器



板橋区西上台遺跡  
S15 出土記号土器

第215図 遺跡内及び周辺遺跡出土の絵画土器・記号土器



歯文と縄文で構成される文様帯よりも下位の胴部に描かれている。

さらにもう少し広い範囲で見てゆくと、荒川をさらに少し下った板橋区内では四葉遺跡群から1例と赤塚氷川神社北方遺跡から2例、西台上台遺跡で2例検出されている。四葉遺跡群では沖山遺跡対象区域の16号環濠から宮ノ台式の小型台付甕の胴部に9条の沈線と方向を違えた4条の沈線が交差する形の記号が認められる。橋本氏の分類ではMB-IB4+IB9型とされている。赤塚氷川神社北方遺跡では住居跡の覆土からMB-IA6+1A'n型とMC-II G6?型の2点が確認されている。西台上台遺跡ではMB-IB"1型とMB-IB"2型が一破片上で各1例検出されており、いずれも弥生時代中期後半の宮ノ台式土器の壺形土器頸部付近に記されている(第215図)。

このように、今回の調査で検出されたMB-IB"2型は市内で初めての事例となった。記号は最もポピュラーなタイプではあるものの絶対数としては少なく、周辺では弥生時代中期後半の宮ノ台式土器に認められるものが多いMB-IB"2型が後期の土器に認められる貴重な資料の追加となった。今後も更なる追加資料が本遺跡で認められるかも知れない。

#### [引用・参考文献]

- 橋本裕行 1988 「東日本弥生土器絵画・記号総論」『橿原考古学研究所論集 第八 創立五十周年記念』橿原考古学研究所編 吉川弘文館
- 春成秀爾 1991 「絵画から記号へー弥生時代における農耕儀礼の盛衰ー」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集
- 田原本町教育委員会 2006 『田原本の遺跡4 弥生の絵画 ～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～』
- 坂下 実 2009 「滋賀県出土の土器記号文について ー弥生時代～古墳時代前期を中心としてー」『紀要 第22号』財団法人滋賀県文化財保護協会
- 朝霞市博物館 2009 『第24回企画展「邪馬台国時代の朝霞 ～土器が語る交流の時代～」』
- 朝霞市博物館 2017 『第32回企画展「装飾壺からみた弥生時代の朝霞」』
- 共和開発株式会社 2021 『東京都板橋区西台上台遺跡発掘調査報告書 ー西台二丁目5番10号地点ー』
- 朝霞市博物館 2022 『第36回企画展 台の城山遺跡と向山遺跡～弥生の斧を手に入れたムラ～』

# 付 編



# I. 勝坂式土器の複雑化と 西原大塚遺跡出土の顔面把手・蛇体把手付土器

国立歴史民俗博物館 准教授 中村耕作

## (1) 西原大塚例の特徴

今回報告される西原大塚遺跡 108 号住居跡出土の顔面把手・蛇体把手<sup>1</sup>を伴う深鉢(以下、西原大塚例)は、顔面把手と蛇体把手が向き合う点、口縁部に比べて小さい底部が強く屈曲する器形である点、2つの把手の間に小さな突起があり、その間にも複数の動物・身体装飾を伴う点で、他の顔面把手付深鉢とは大きく異なる特徴を持っている。

本稿では、これらの特徴に注目し、勝坂式最終末期における土器群の器形・装飾の多様化・複雑化、特に動物・顔面表現の複雑な状況下における産物としての西原大塚例の位置付けを図る。

## (2) 勝坂式の諸系統と顔面把手との関係

勝坂式<sup>2</sup>には、他の様式と比べても多様なバリエーションが知られ、文様・器形による諸系統に整理されてきた。例えば、『縄文土器大観』(安孫子 1988・谷口 1988)では、顔面把手付深鉢を第VI群とし、このうち「胴の張った樽形の器形」を第22系統、「胴のくびれたキャリパー形の器形」を第23系統とした。また、今福利恵(2011)は、22系統に相当するものを「第9類 いわゆる出産文土器」とした(23系統に相当するものは14類)。顔面把手付深鉢が一定の系統として認知されてきたわけである。

顔面把手付深鉢は古くから集成が続けられてきたが(中村 1970～1981、上川名 1983、吉本・渡辺 1994・1999・2004)、編年・系統整理は中山真治(2000)の研究にほぼ限られる。キャリパー形をA器形、円筒形(樽形)をB器形とし、それぞれ、口縁部無文帯の有無でA1・A2、B1・B2に細分し、口縁部に文様を有するものA3とした。A2器形は西関東を中心に分布し、輪郭が蛇行する顔面把手が付されることが多いこと、B器形には中部高地に分布し、輪郭が丸みを帯びた顔面把手が付されることが多いことを指摘している。

これらの先行研究をふまえ、西原大塚例の器形の特徴を確認するため、器形が判明する顔面把手付深鉢を、改めて時期・器形ごとに整理した(第216図)。顔面把手は350個以上が知られるが(小松 2008)、器形が判明するのは約50個にすぎない。近年新たに報告された例を含めても、安孫子・谷口や中山の指摘と同様、樽形とキャリパー形に大別され、前者が多くを占める。

これ以外の器形を見てみよう。村上例(第216図52)は、口縁部に縦位の細長い蛇行隆帯が巡るもので、中山は褶曲文土器(「狐塚タイプ」)との関係を指摘している。一の沢西例①(第216図45)は、4単位と考えられる大形突起と屈曲する底部をもつ「多喜窪重文タイプ」であり、2つ遺存しているうちの1つの突起の内側に通常とは異なる表情の顔面を付すものである。一の沢西②(第216図46)例は、4単位の大形突起を有し、その突起付け根部の外側に顔面(目鼻口を表現しないもの：吉本・渡辺 2004)を付すものである。器形全体は不明だが、後呂例・九鬼Ⅱ例・三口神平①例・野呂原例・田名花ヶ谷戸例(第216図47～51)もその類例と考えられている。一の沢西②例は対向する2つ、後呂例は4単位のうち隣り合う2つに顔が付く(他の2つには渦巻文)。これらは、そもそも顔面把手付深鉢の

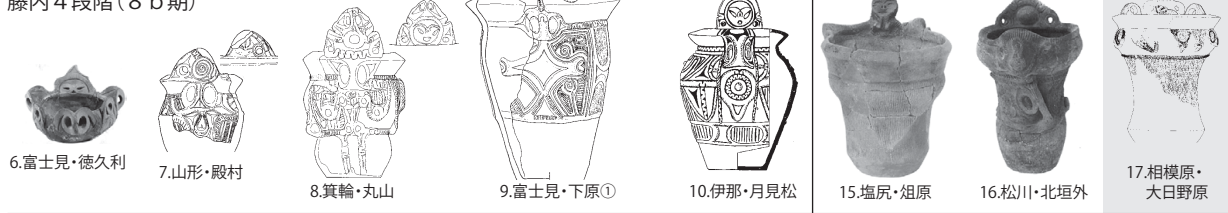


I. 勝坂式土器の複雑化と西原大塚遺跡出土の顔面把手・蛇体把手付土器

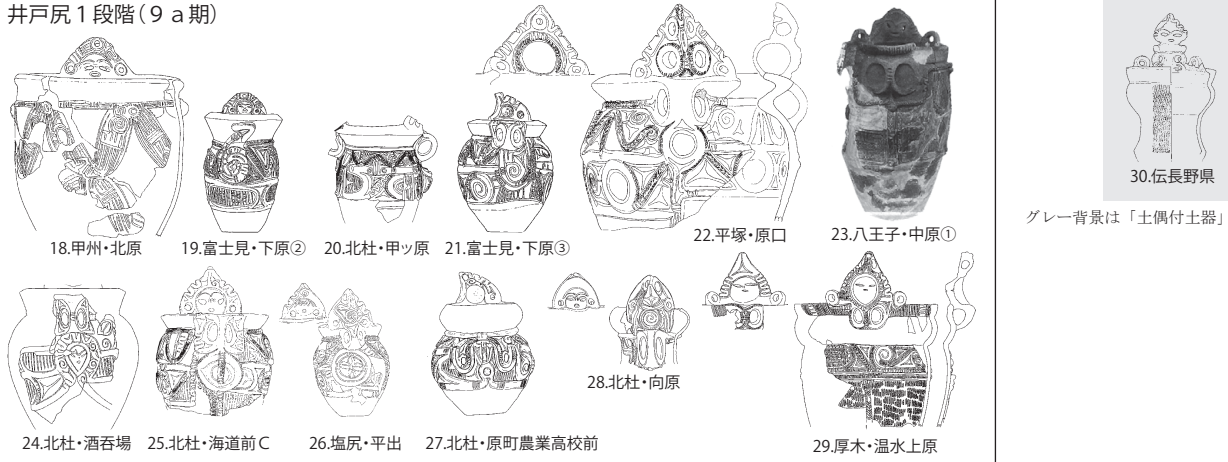
藤内3段階(8a期)



藤内4段階(8b期)



井戸尻1段階(9a期)



井戸尻2段階(9b期)



井戸尻3段階(9c期)



第 216 図 顔面把手付深鉢・関連土器の器形 (S=1:20) 時期は中山 (2000・2015) を参考に作成

範疇と言えるかも知れないが、筆者は典型的な顔面付土器が消滅していく際の変容形の1パターンと理解しているが(中村 2022)、西原大塚例を理解するうえでは重要な一群である。つまり、西原大塚例は、これら変容した顔面表現をもった土器と同じ「多喜窪重文タイプ」の器形を持っているのである。両者の類似は器形に留まらない。詳細は後述するが、対向する2つの大形把手の間に複数の動物・身体装飾を伴うという点でも類似している。

「多喜窪重文タイプ」(鈴木 1981:「多喜窪タイプ」「多喜窪型」などの呼称もある)について改めて確認すると、勝坂式の最終末期(新地平編年 9b~9c 期:中山 1995・2017、井戸尻 2~3 段階:今福 2008)に出現する、底部が強く屈曲し、口縁部に主に4単位の大きな突起(把手)が配される一群で、多喜窪例(第 218 図 10)を指標とする。谷口康浩(1994)は、勝坂式の「型式(タイプ)」に、型式の分布が異なる局地型・漸移型・広域型の違いを指摘したが、武蔵野台地から上伊那までの広範囲に「規則性の高い瓜二つの土器群」が広がる広域型の代表として取り上げられたのがこのタイプと、後述する蛇体把手付土器のタイプであり、その社会的重要性を伺うことができる。この種の土器についても中山(2022)が詳しく検討している。中山は、4単位の突起をもつ「広義の多喜窪タイプ」(本稿の「多喜窪重文タイプ」)を、突起形態からⅠ類:多喜窪1住型深鉢(環状把手+胴部縄文:狭義の多喜窪タイプ)、Ⅱ類:一の沢56土坑型深鉢(環状把手+胴部沈線文)、Ⅲ類:井戸尻4住型深鉢(箱状把手)、Ⅳ類:西上1住型深鉢(山形突起:西上タイプ)、Ⅴ類:Ⅰ~Ⅳ類の折衷の5つに細別し、分布の特徴を検討した<sup>3</sup>。なお、中山(2017)は、類似した器形で、2つの大形突起を伴うものを「駒木野タイプ」として類型化している。近年、細田勝(2023)は、変動期の状況の1つとして、屈曲した口縁部上の文様の系譜を東北・北関東の大木式に求める見解を示している。

このように、西原大塚例は、顔面把手付深鉢として一般的な樽形・キャリパー形ではなく、伝統的な顔面把手を持ちながらも、勝坂式最終末期に出現した「多喜窪重文タイプ」の器形をもつ点で特異な存在と言える。

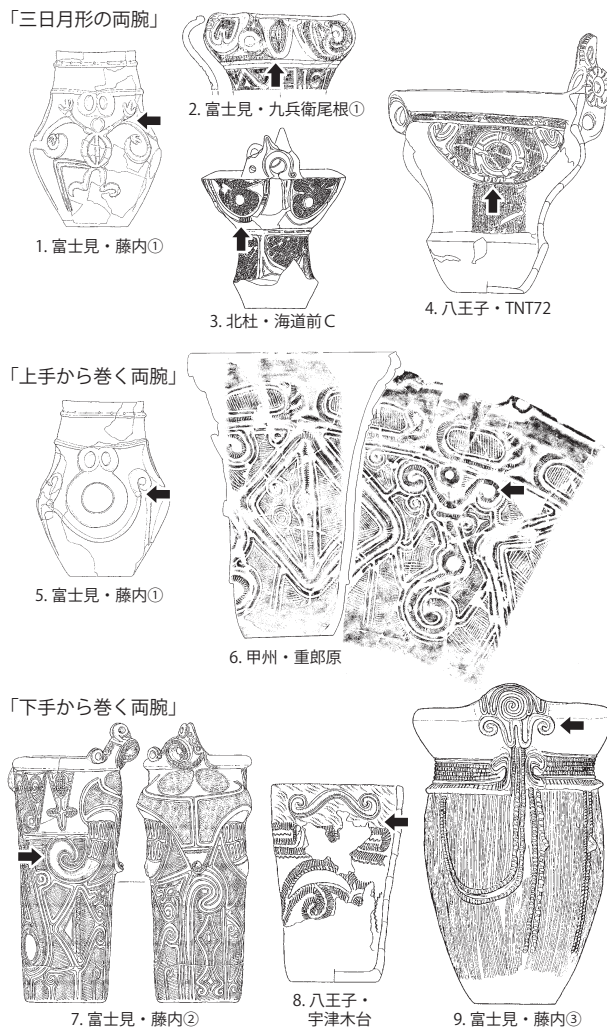
### (3) 勝坂式土器における動物装飾・顔面装飾の関係

#### 1. 先行研究

西原大塚例や「多喜窪重文タイプ」に見られる複数の顔面・身体・動物表現を理解するには、研究史を遡って、それらを他の文様から区別する視点を確認しておく必要がある。

勝坂式に具象的な文様が目立つことは戦前より知られており、谷川磐雄(1922~23)は、当時の欧州の宗教学を援用して石器時代の宗教思想(トーテミズム)を論じる中で、諸磯式の獣面把手、黒駒土偶、顔面把手その他の土偶・土製品・土器把手などを取り上げてそれらが動物を表したものと説いた。一方、同年、鳥居龍蔵(1922)は土偶・土版と共に顔面把手をとりあげ、「明らかに女性」とし、さらには「土器が破損せず完全でありますと、其の土器の胴部は衣服になって居って、即ち土器其物が一種の女性の立体を明らかに示して居ります」とし、「宗教上の儀式の際に使用したのではあるまいか」と指摘する。つまりこの段階では、顔面把手の造形上のモデルは動物と人間の女性の2説があったが、やがて後者が通説化していく(藤森 1968 など)<sup>4</sup>。その後、口縁部上に土偶装飾を持つ一群は「土偶付土器」(小野 1989a、新津 2019)、口縁部上から胴部にかけて張りつくように全身表現を持つ一群については「土偶装飾付土器」として独立した系統性が認められ(櫛原 2000、和田 2022)、それぞれ検討が進められている。

I. 勝坂式土器の複雑化と西原大塚遺跡出土の顔面把手・蛇体把手付土器



第 217 図 各種の「腕」(S=1:15)

小林 2011 をもとに作成

これらは細部や、背景となる思考<sup>7</sup>、農耕や神話的世界の関わりなどの解釈は別として、文様素レベルでは概ね共通認識が得られており、今福利恵(2019)はこの成果を集大成している。

このほか、西原大塚例を解釈するうえでは、手・腕の文様も重要である。小林公明(2011)は、腕の文様を3種に分けて詳しく検討している。1つ目は「半人半蛙文有孔罎付土器」のうち半人半蛙文の上に挙げた腕＝「三日月形の両腕」、2つ目は同じ土器の反対側に配される円輪の下の文様＝「上手から巻く両腕」、3つ目は「神像筒形土器」の腕＝「下手から巻く両腕」で、これらに起源をもつ各種の腕の文様を抽出した(第217図)。小野正文(2005・2015)は外向きの顔面把手である九兵衛尾根②例(第219図11)の左手の先がへびの頭となっていることに注目し、蛇頭を伴わないものを含めて「九兵衛尾根型文」と呼んだ。すでに西原大塚例についても、「円面と蛇頭の蛇と腕手が分離されて、4つの突起の間に施文される。熟語を単語に戻して、施文している」と説明している(小野2015)。多喜窪タイプや蛇体把手付土器にみられるほか、梨ノ木遺跡の顔面把手付深鉢の胴部文様(第216図37)にも付されていること、顔面把手後頭部(第219図12)にもみられることを指摘している。三上徹也(2018)は、顔面把手裏面(小野のいう後頭部と同じ)および「蛇体装飾付アーチ状把手」を持つ土器の口縁部に「円+手のひら文」が付されることを指摘し、両者の結びつきを主張している。小野はへびの

これに対し、勝坂式の動物装飾については、江上波夫(1963)がへびを取り上げるとともに、それらが先行する土器文様に誘導されて出現したことを指摘している。小林達雄(1986)はこの時期の文様を「物語性文様」と呼び、「装飾性文様」との現象面での際立った違いを指摘している。小林は具体的な文様の意味は不明としたが、個々の文様の同定は可能であるという立場(小野1989b)や、さらに神話的意味まで読み取るという立場もあり、へび文(小野1989b、小林2005、藤森2006、永瀬2006・2007・2008、富士見市立水子貝塚考古資料館2010・2012)・カエル文(小林1984)・イノシシ文(小野1984・1989b、新津2003・2007a・2007b、和田2011・2012)・抽象へび文<sup>5</sup>(櫛原2001、末木2010、小野2010、今福2020)などの同定・変化の過程の研究が進められた(ほかに小林1991、春成1997、小野2002・2008、野代2006、末木2009など)。また、顔面把手を含めて異種同士が対峙・融合・互換(置換)する例が具体的に指摘された(渡辺1992、小野1992・2002、新津2003、小林2003、小杉2007・2013:(第219図8～15)<sup>6</sup>。こ



文様としての性格を重視しているが、ここでは総称として手腕文と仮称しておく。

## 2. 「多喜窪重文タイプ」・獣面把手付土器の動物装飾

以上の先行研究をふまえて、西原大塚例および関連資料の動物装飾をみていきたい。まず、西原大塚例であるが、顔面把手に対向する位置の大形把手は内側を向いたへび文である（以下、蛇体把手）。今福（2019）の集成から類例を挙げると、西上例（第219図2）が最も近い。また、顔面把手と蛇体把手の軸に直交する位置にも小さな突起がある。左右と内側に向けて円孔が穿たれているが、リアルな北原例と抽象化した宮の前例・一の沢例という釣手土器頂部装飾の比較（小野1989b、今福2019）（第219図5～7）からイノシシ文と判断される。器形が似たものとしては野塩前原例（おそらく土偶付土器の土偶部と対向する：第219図10）がある。さらに、これらの把手の間に、右巻きのへび文（第218図1-b・d）と、三本指文（第218図1-a）が交互に配置されている（前述の小野が指摘した部分）。

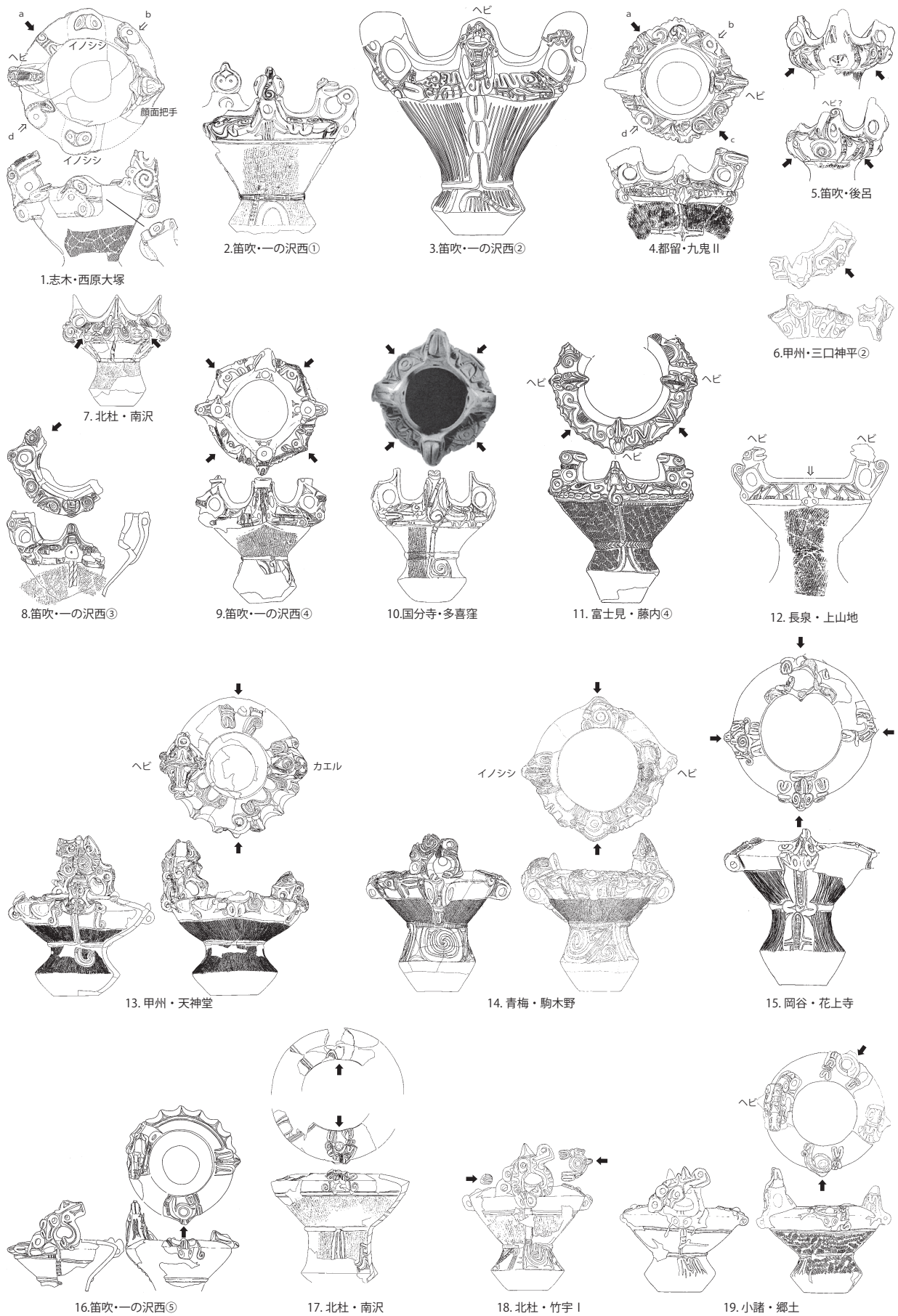
次に、「多喜窪重文タイプ」・駒木野タイプの器形をもった諸例と比較する。顔面装飾を伴う例のうち、一の沢①例（第218図2）、横並びに2個の把手しか残存していないが本来は4単位把手であり、顔面装飾を取り囲む把手部はイノシシ文、それに直交する把手はへび文と考えられ、今福はイノシシ把手に「人面」が融合したものと解釈している。把手間には、「ひ」字状の文様が見られるが、これは手腕文（「上手から巻く両腕」）であろう。一の沢②（第218図3）例は顔面装飾を伴う把手の上部は欠損しているが、これらに直交する2つの把手には外向きのへび文がみられる。九鬼Ⅱ例（第218図4）は、へび文（第218図4-b・d）と「上手から巻く両腕」（第218図4-a・c）が交互に配されている。後呂例（第218図5）は、4単位の把手のうち全形が遺存しているのは1つのみだが、へび文の可能性はある。各突起の間には、同心円とその下から左右にW字状に伸びる2本指文（「上手から巻く両腕」）が配される。三口神平②例（第218図6）は、把手間に先端が外側に渦を巻くY字状の文様（「下手から巻く両腕」）がみられる。

続いて、前述の通り小野・小林・三上らが言及しているものを含め、これらと同様の器形をもった諸例のうち、動物把手や、把手間に手腕文を持つものを集めた<sup>8</sup>。但し、花上寺例（第218図15）は把手間ではなく、把手付け根部から手腕文が伸びている。このうち第218図7～12は「多喜窪重文タイプ」だが、中山分類のⅠ・Ⅱ類のみで、Ⅲ・Ⅳ類には明瞭な例は見られない。他方、第218図13～19は駒木野タイプであり、大形の蛇体把手（ないし「鶏冠状把手」）を特徴とする。天神堂例・駒木野例・一の沢西⑤例・郷土例（第218図13・14・16・18）は藤森英二（2006・2012）による蛇体装飾把手付土器の3段階に位置づけられ、藤森は未報告資料だが4段階として富士見町下原例も紹介している。櫛原功一（2008）は天神堂例の報告にあたり、駒木野例・郷土例・一の沢西④例・下原例を挙げて、藤森の指摘以外に口縁部無文帯の「人体文」（本稿の手腕文）の共通性を指摘している。藤森の研究に従い大形の突起を蛇体把手とした場合、対向する小形把手については、カエル文（天神堂例：櫛原2008）、イノシシ文（駒木野例：富士見市立水子貝塚資料館2010）とする見解もあるが、今福（2019）は竹宇例（第218図18）の蛇体装飾の先端がイノシシ文（口吻）となったものとしており、多様な組み合わせが存在したことが想定できる。

以上のように、「多喜窪重文タイプ」に類似した器形においては、把手にへび文・イノシシ文・カエル文、その間に手腕文を持つものが一定数知られる。また、上山地例（第218図12）のように大形把手に直交する軸に小さいへび文を配するものもある。西原大塚例もまた、こうした諸類例の中に位置づけられるものである。但し、こうした中で顔面把手を伴う点は異例と言える。



I. 勝坂式土器の複雑化と西原大塚遺跡出土の顔面把手・蛇体把手付土器



第 218 図 「多喜窪重文タイプ」関連資料 (S=1:15)



第 219 図 関連資料 (S=1:12)

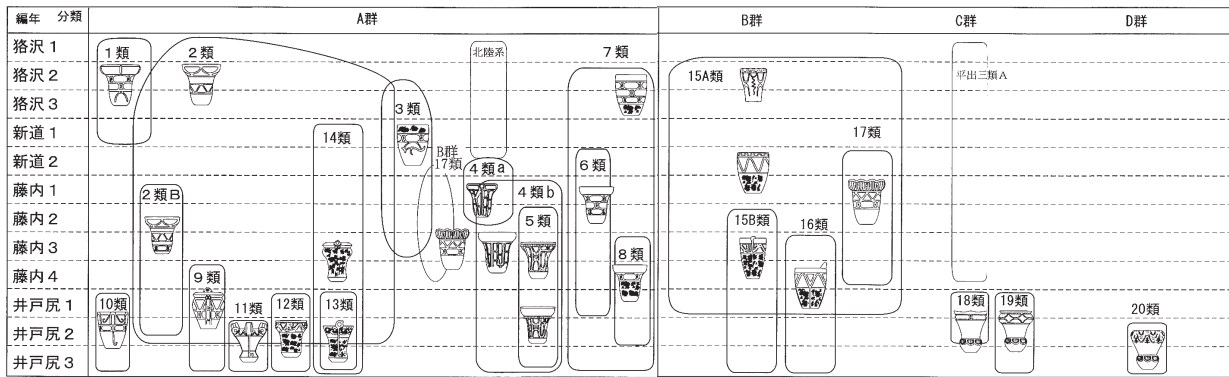
#### (4) 勝坂式諸系統の多様化と顔面・動物表現の多様化・融合

では、こうした多様な動物・身体装飾の共存・融合、あるいは「多喜窪重文タイプ」の出現は歴史的にはどのように位置づけられるのであろうか。土器様式全体をみると勝坂式以後は、山梨を中心として広がる勝坂式直系の曾利式のほか、東関東と共通する東側の加曾利 E 式や、長野県の中南信を中心とした唐草文土器に大きく分化する。「多喜窪重文タイプ」の出現はこの大きな変化の直前にあたる。

第 220 図は今福利恵 (2011) が勝坂式の諸系統を整理したもので、勝坂式のうち、藤内 1 段階 (新地平編年 7a 期) 前後と井戸尻 1 段階 (9a 期) 前後に系統分岐の画期がみられる<sup>9</sup>。「多喜窪重文タイプ」に相当する第 11 類は若干遅れて井戸尻 2 段階 (9b 期) に登場し、次の 3 段階 (9c 期) で消滅する短い系統である。この消長は、西南関東の各器形・施文域を網羅的に検討した高橋大地 (2003) の集計でも明らかであり、9a 期から 9c 期にかけて、A 器形中心→C 器形中心+B 器形・→A 器形中心という変化をたどる (高橋の B4・B5 タイプが「多喜窪重文タイプ」)。

次に、顔面や動物表現をもった土器の変化を確認しておく。各氏の分析をふまえた結論として、ヒト形や動物の対峙、類型の分化・変容・交代、最終的な融合というプロセスを描くことができる。

小杉康 (2007・2013) は、中期初頭から中葉にかけての動物装飾をもった一群とあわせて「人獣土器」と総称し、全体的な変化を論じた。それによると、五領ヶ台式期～藤内式期に人面と半巻突起が交互に 4 単位配されるもの (「同種対向 2 対 4 単位」) →向かい合う人体文 (「同種対向 1 対 2 単位」) →向かい合う人体文と獣身文 (「異種対向 1 対 2 単位」) と変化して「人獣土器 A」が成立し、さらに藤内式期に算盤玉状の無文口縁部が採用されることで、頭と胴が切り離され、人面・人体 (下半身 = 「首無し人体文」)・獣体がそれぞれ置換可能な状態になり、口縁部に頭部をもつ一群は、人と獣が同一個体に共存するもの = 合体式人獣土器 A、人面のみのも = 人体文系人獣土器 A (第 216 図 37)、獣身のみのも = 獣身文系人獣土器 A (= 蛇体把手付土器: 第 219 図 1)、複合系人獣土器 A (2 対 4 単位構成: 第 218 図 2) に



第 220 図 今福利恵による「勝坂式土器の型式分岐」概念図（今福 2011）

分化すること、それ以前の段階で、土器胴部に人体文をもつもの（人獣土器 B）、土器胴部に獣身文をもつもの（人獣土器 C = 抽象文土器）が分化すると説明した。これらは、レヴィ = ストロースによる神話の構造分析で示された神話素の変換による異本（ヴァリエント）と同様のものと説明された。歴史性を重視する小杉は、〈人体のメタファーとしての土器造形〉というのは普遍的なものではなく、口縁部無文帯によって頭部が独立した人体文系人獣土器 A の出現によって初めて達成されたものと位置づける。

寺内隆夫（2014）は、五領ケ台式から勝坂式への「立体装飾」化の過程を整理する中で、「人面状装飾・土偶装飾」を取り上げ、顔のせり上がり、顔だけから身体付へ、身体の強調と器自身からの分離という変化を指摘した。これらは、五領ケ台式期に口頸部と体部という土器の上下の空間構造が確立し、勝坂式期に入って後者の文様・装飾が複雑化する中で、主文様を目立たせる工夫として立体化が進行するという一連の変化（寺内 1987）の中に位置づけられている。

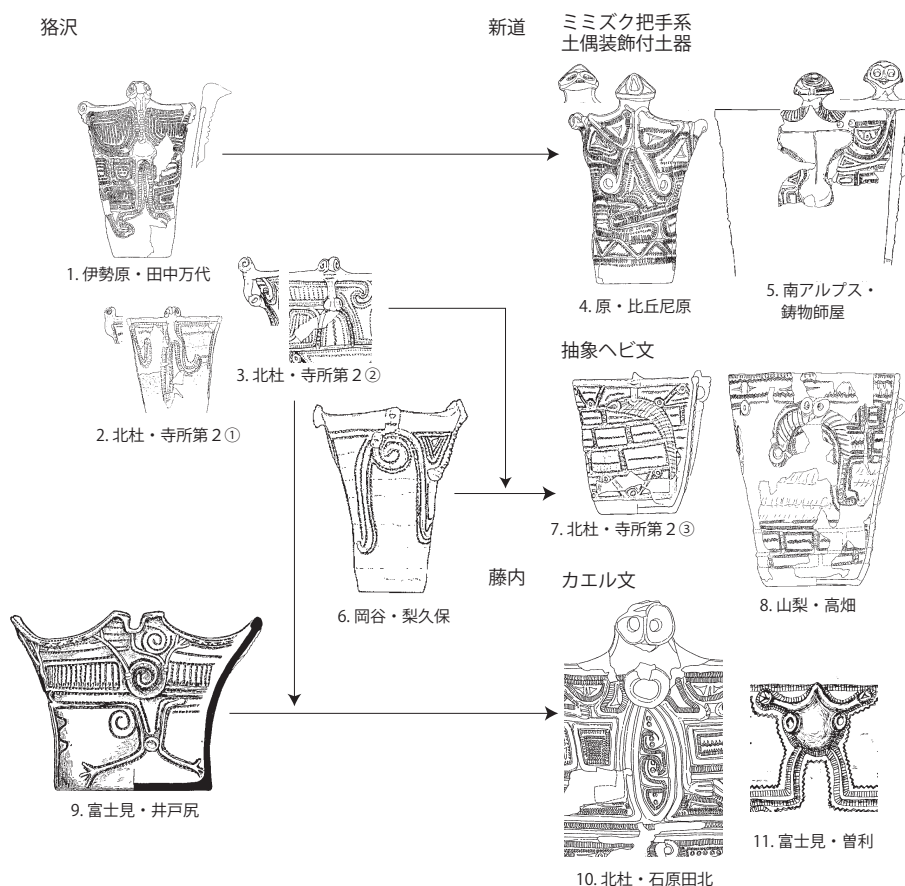
三上（2018）は、勝坂式期の顔面表現を、「顔面把手」（柿の実状の目）、「三角状突起」（目鼻口を表現しない）、「ミズク把手」（双環状の目）、「蛇体装飾付アーチ状把手」（顔面表現は無いが密接に係るもの）の 4 種に分けて、それぞれが背面文様の共有など密接な関係を持ちながら変遷し、最終的には「箱状把手」（≡多喜窪重文タイプ）を経て、曾利 I 式の水煙把手へと変化すると説明した。

今福（2019）は、動物装飾を類型化して時期的な変化を整理するとともに、その対峙・融合についても指摘している。第 222 図によると、狹沢 3 段階に抽象ヘビ文（第 221 図 7・8）とカエル文（第 221 図 9）が出現し、これらはその後、交互に配置されたり（第 219 図 13）、ヘビを抽象ヘビ文が啜る構図（第 219 図 14）などから「対峙」関係にあるものとされた。次の画期が井戸尻式期である。新たにイノシシ文（第 219 図 5～7）が登場するとともに、抽象ヘビ文に代わって多様なヘビ文（第 219 図 1～4）が出現する。今福は、カエル・イノシシ・ヘビの 3 種が、生態や土器造形上の特徴として 1 : 2 の関係になることを指摘し、「このような 3 種の動物の形態や生態による 1 : 2 の対立項が縄文人の思考を表しているのであって、動物そのものの特徴からだけで多産だの生命力だのを語るのには意味をなさない」という構造主義的な見方を示している。そして、これらは顔面把手を含めて、複数個体が対峙したり、融合したりするのである。顔面把手との融合は「擬人化・逆擬人化」という概念で説明している。これは、この勝坂式の動物装飾の変遷における最終段階の、動物表現の多様化・対峙の複合化と表裏一体の現象なのである。なお、これ以前に小林公明（1984）は、カエル文の変化において、藤内式期の「半人半蛙文」に対して、井戸尻式期の林王子例（第 219 図 15）を「神人」と表現して変化を指摘している。「人」や「神人」の解釈が問題となるが、現象的には今福の「擬人化」と小林の用語を



用いた「神人化」は同じことを指している。

これらの研究に加え、「土偶装飾付土器」に関する櫛原功一（2000）や和田晋治（2022）の研究、「土偶付土器」に関する新津健（2019）の研究などをふまえて、筆者（中村 2022）は、五領ケ台式期～新道式期に獣面把手由来のミミズク把手<sup>11</sup>の顔面（小林 2014 の「円い眼」・和田の「丸目」）と土偶と同じハート形の顔面（小林的「雫形の眼」・和田の「つり目」）の2系統を認



第 221 図 土偶装飾付土器・抽象へび文・カエル文の関係性試案 (S=1:12)

め、前者の系統は藤内式期以降、脚表現さらには胴表現が土器文様化していくのに対し、この時期に登場する土偶付土器は当初は尻までだったのが、最終的には脚まで表現するようになること、藤内式期にはハート形顔面由来の顔面把手付深鉢が盛行すること、その顔面を打ち欠いた頭部をモデルに鈎手土器が出現することを整理した。つまり、藤内式期には終焉をむかえつつあるミミズク把手系土偶装飾付土器を含めて4つの系統が並存していた。

なお、そこでも若干触れたが、カエル文（第 221 図 10・11）の祖型の1つとして寺所第2①・②例（第 221 図 2・3）などの獣面把手まで遡る可能性がある。今福利恵（2020）は抽象へび文が先行する懸垂文（第 221 図 6）から発生したとして、初期の例として寺所第2③例（第 221 図 7）などを挙げるが、縦位の橋状把手の下から逆U字形に膨らんだ文様が垂れ下がる状況は、寺所第2①・②例とも共通している（小野 2010）。懸垂文と共にこうした動物造形の脚部が抽象へび文に変化していった可能性も考えておきたい。つまり、獣面把手をもつ獣身文からは、ミミズク把手系土偶装飾付土器（第 221 図 4・5）のほか、カエル文・抽象へび文をも生み出したという仮説である。勝坂式前半期にこれらは少しずつ分化していったことになる。

### （5）儀礼具多様化の中の西原大塚例

このように、勝坂式土器様式は系統・器形が次々に分化し、最後の井戸尻式段階は土器群全体で最も多様化が進んだ時期であった。顔面・動物表現も主流の系統が交代しながら、分化を遂げており井戸尻式期はそれらの融合も進んだ複雑化の極致といえる。



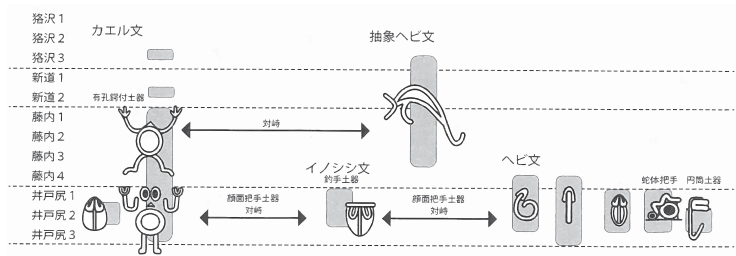
I. 勝坂式土器の複雑化と西原大塚遺跡出土の顔面把手・蛇体把手付土器

他と比べて多数の事例が知られる顔面把手であるが、井戸尻2段階にはほぼ終焉を迎え、顔面表現の主流は釣手土器に移る。深鉢では「多喜窪重文タイプ」や加曾利E1式・曾利I式に変容した顔面表現（第216図58・59）が若干残る程度である<sup>12</sup>。西原大塚例は井戸尻2段階に出現した口縁部に様々な動物や手腕文を対峙させる「多喜窪重文タイプ」をベースとした新たな動きの中で、昔ながらの顔面把手を組み込んで作られたのである。

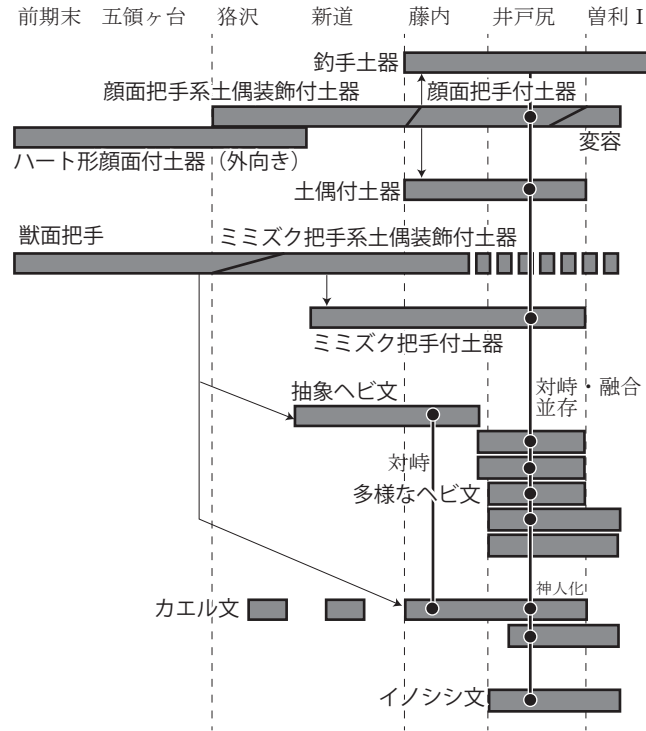
なお、こうした一連の儀礼用土器の変化の最終段階に複雑な顔・身体表現が出現することは、後期中葉～後葉にもみられる（中村2021）（第224図）。簡単に紹介すると、堀之内2式後半～加曾利B1式期には、石神類型文様という特殊文様をもった椎塚類型→西富類型というそれ自身が特別な存在である注口土器が広範囲に分布していたのに対し、加曾利B2～3式期には、別系統ではあるが、深鉢と異なる特別な文様をもった注口土器自体は存在するもの

の（宝ヶ峯類型）、これ以外に異形台付土器・釣手土器・下部単孔土器という新たな儀礼用土器が出現する。さらに、瘤付土器第I～II段階には舞台を東北に移し、注口土器の中にも、特別な文様（微隆線文）、特別な形（横型環状・縦型環状・巻貝形）、そして顔面付の例が出現する。同時に新たな儀礼用土器として香炉形土器も出現するのである。こうした経緯を経て、最終段階の瘤付土器第III～IV段階は、4つの顔面を持つ注口土器や顔面を持つ香炉形土器（顔面と動物の顔が表裏に表現されるものもある）が出現するのである。

このような儀礼用土器の交代と複雑化がエスカレートしていく動向は、本稿で見た中期前半期の動向とも共通する部分があり、いずれも最終段階にヒトをモデルとした造形の複合が目立っている。中期の深鉢、後期の注口土器は共に飲食具であり、共食の重要性を示している。これに対し、釣手土器・異形台付土器・香炉形土器の用途は不明だが、光や煙・香りなどに訴えるものであり、一時的なものである。他方、大きな違いも存在する。中期の深鉢は、注口土器に比べて大形であり、儀礼参加者の数に違いが想定できる。高橋龍三郎（2017）は後期中葉～後葉の千葉県の大形建物内部の細い柱穴を間仕切りと考え、少人数の「秘儀」を推定しているが、中期の場合はこれよりはオープンな儀礼の姿を伺うことができる。西原大塚例は、土器群全体の転換期において、本稿冒頭に示したような特徴を備えた中期前半的な儀礼用土器の特徴を体現する存在として重要な意義をもっている。

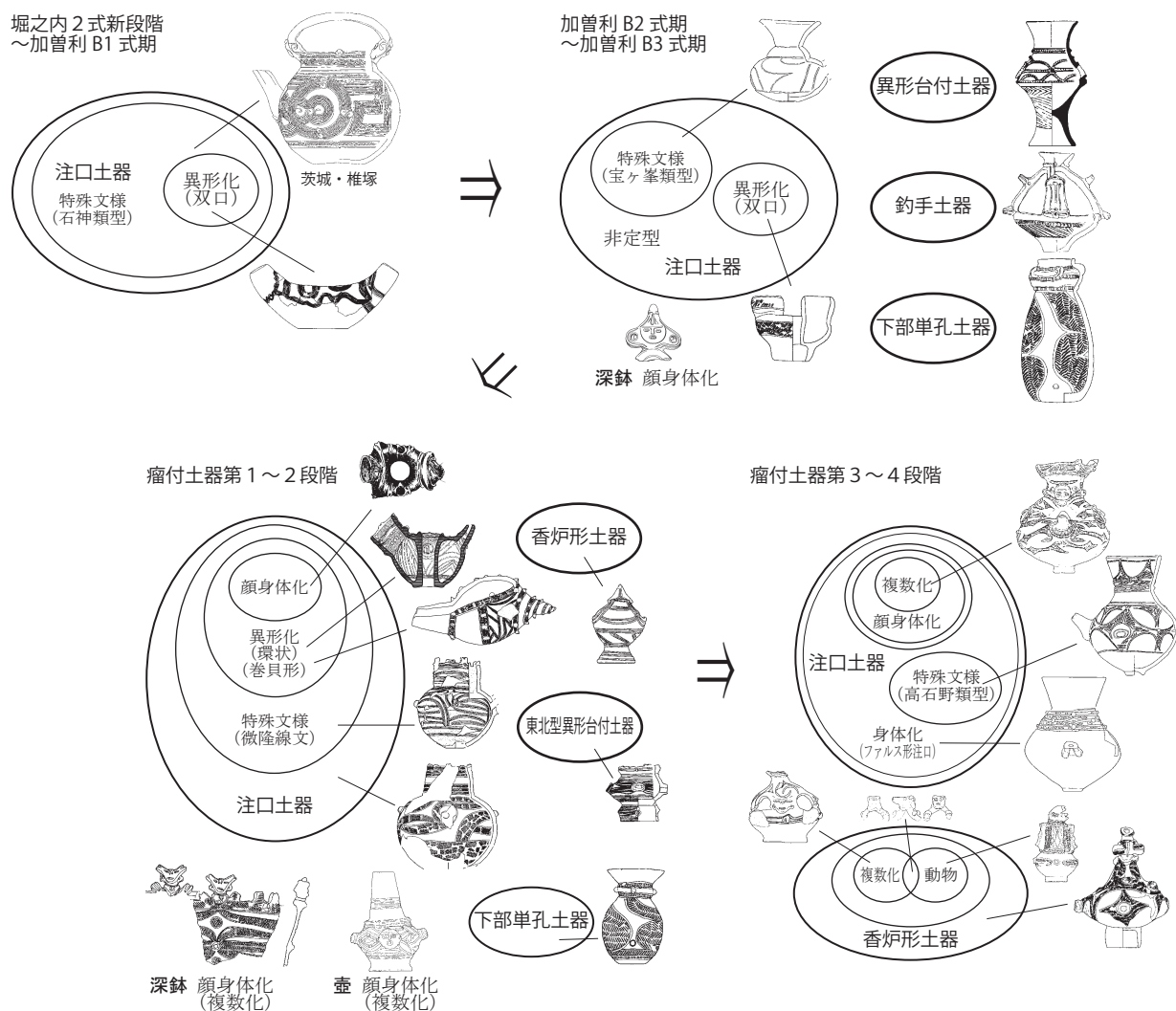


第222図 今福利恵による動物表現変遷図（今福2021）



第223図 顔面・動物表現の消長

今福2021・中村2022を参考に作成



第 224 図 後期中葉～後葉の儀礼用土器の複雑化 (S=1:12)

註

- 1 「顔面把手」・「蛇体把手」および後述する「ミミズク把手」は本来「突起」であるが、慣例に従い「把手」の語を使用する。
- 2 本稿では土器様式の総称として勝坂式、時期細分名称として猪沢式→新道式→藤内式→井戸尻式を用い、さらに細分する場合は新地平編年(中山 1995・2017)を用いる。また、顔面把手付深鉢の時期は中山真治(2000・2015)に準拠して判断した。西原大塚例は本書第4章第1節では新地平編年9c期に相当する勝坂3b新期に位置づけられているが、中山は9b期としており、本稿では他の資料との統一をはかるため後者を採用している。
- 3 I類は谷口の指摘通り広域に分布し、II類は甲府盆地～西南関東、III類は八ヶ岳西南麓～甲府盆地、IV類は多摩川中流域～相模川流域を中心に八ヶ岳西南麓まで広域に分布する。
- 4 この間、八幡一郎(1956)は顔面把手について、「人面というより、獣面と見られるものがあるが、多くの例が人面であるから、その異化したものとする方が穏当であろう」としている。また、近年永瀬史人(2009)は谷川の獣面説を再評価している。
- 5 抽象文・サンショウウオ文などと呼ばれてきた文様については、近年山梨県の研究者を中心にヘビとする見解が有力視されている(小野 2010、末木 2010、今福 2019)。カエルを啜る造形(第219図14)や、初期の例の形状(第221図7)などを根拠としており、今福(2019)は抽象ヘビ文と呼称した。本稿でもこれを支持する。
- 6 顔面把手頭頂部などの円文をイノシシ、三角文をカエル、後頭部の双環把手・菱形文をカエルとみるような抽象度の高い見解もあるが、論者によって見解の相違もあり、本稿では保留しておく。本稿では小野正文(1989b)による解釈レベル1～2程度に限定し、縄文文化では珍しいリアルな造形(物語性文様)が出現することに注目する。これは共通性を見出す志向とは異なる、「違い」を見出す志向である。また、造形のモデルとその造形の正体・意味は別の可能性もあり、本稿では前

## I. 勝坂式土器の複雑化と西原大塚遺跡出土の顔面把手・蛇体把手付土器

者に限定して話を進める。

- 7 例えば、渡辺（1992）はイノシシとヘビの「対」（笛吹市一の沢西例）を、他時期の顔面・土偶装飾付土器の女と男の関係と同義とし、縄文文化全体の中で（普遍性を重視して）解釈している。一方、小杉（2013）は、人体文と獣身文の対峙から「対照性」を、両者の造形が類似してくることから「対称性」を読み取ったうえで「コントラスト（対称性）からシンメトリー（対称性）へと転換する〈主題〉」を当該コンテキストの中で（歴史性を重視して）主張している。但し、そもそもこうした議論の前提となる認識については異論もある。小野（1992）は、富士見市羽沢例のイノシシ把手と対峙する双環装飾（本稿のミミズク把手）の上の装飾をヘビと解釈したが、和田晋治（2012）はこれをヘビとは解釈せず、むしろ双環装飾との対峙関係を重視している。同様に新津（2003）がイノシシとヘビの対峙とみる甲府市上の平例（第219図8）についても、ヘビが小さいことからその下部の双環装飾を重視している。和田も双環装飾を顔面表現と解釈しており、渡辺の見解に従うならば女同士の対峙関係と解釈されることになることから、議論全体の再考を促している。
- 8 ほかに手腕文の一部である指の文様をもつものは、町田市忠生遺跡、駒ヶ根市高見原遺跡、三島市押出シ遺跡の多喜窪重文タイプや、裾野市尾畑遺跡の土偶付土器など広範囲に広がっている。
- 9 この分化には、中部高地と西南関東の地域差の顕在化とも関わっている（三上1986、中山2005）。
- 10 小林による「半人半蛙」や、小杉や永瀬史人（2009）の「半人半獣」の指摘通り、藤内式期には融合現象がみられるが、井戸尻式期によりリアルな人体表現に近づくという点が重要である。
- 11 ミミズク把手は目を強調した顔面表現とされ、双眼（小林2001）、双環状突起（小杉2007）、環状把手（永瀬2009）などの呼称もあるが、ひとまず旧来の名称を使用しておく（三上2018）。
- 12 動物装飾も若干例が曾利I式の前半期に残る程度で、以後は潜在化する（長野県立歴史館2021）。

## 引用参考文献

- 安孫子昭二 1988 「勝坂式土器様式」『縄文土器大観2』小学館
- 今福利恵 2008 「勝坂式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 今福利恵 2011 『縄文土器の文様生成構造の研究』アム・プロモーション
- 今福利恵 2019 「勝坂式土器における動物文様と人体表現」『山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要』35
- 今福利恵 2020 「勝坂式土器における抽象文」『山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要』36
- 江上波夫 1963 「勝坂式系土器の動物意匠について」『国華』855
- 小野正文 1984 「縄文時代における猪飼養問題」『甲府盆地 その歴史と地域性』雄山閣出版
- 小野正文 1989a 「土偶付土器について」『下総考古学』11
- 小野正文 1989b 「土器文様解読の一研究方法」『甲斐の成立と地方的展開』角川書店
- 小野正文 1992 「イノヘビー猪蛇装飾のある土器について」『月刊考古学ジャーナル』No.346
- 小野正文 2002 「物語性文様について」『土器から探る縄文社会』山梨県考古学協会
- 小野正文 2005 「蛇頭の腕をもつ人面装飾付土器について」『長沢宏昌氏退職記念考古論叢集』長沢宏昌氏退職記念考古論叢集刊行会
- 小野正文 2008 「物語性文様－勝坂式土器様式を中心として－」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 小野正文 2010 「物語性文様について2」『山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要』26
- 小野正文 2015 「縄文土器文様の物語性」『シンポジウム 土器から読む縄文世界』山梨県埋蔵文化財センター [https://www.pref.yamanashi.jp/documents/34469/kichoukouen-ono\\_1.pdf](https://www.pref.yamanashi.jp/documents/34469/kichoukouen-ono_1.pdf)
- 上川名昭 1983 『中期縄文文化論』奈良明新社
- 櫛原功一 2000 「土偶装飾付土器」について『土偶研究の地平4』勉強社
- 櫛原功一 2001 「抽象文（山椒魚文）土器の分布と消長」『石原田北遺跡J マート地点発掘調査報告書』
- 櫛原功一 2008 「蛇体突起付深鉢について」『天神堂遺跡』甲州市教育委員会
- 小杉 康 2007 「物語性文様－縄文中期の人獣土器論－」『縄文時代の考古学11 心と信仰』同成社
- 小杉 康 2013 「縄文土器造形に見る‘ヒト－動物関係’の始まり」『生物という文化－人と生物の多様な関わり－』北海道大学出版会
- 小林公明 1984 「月神話の発掘」『山麓考古』16
- 小林公明 1991 「新石器時代中期の民俗と文化」『富士見町史 上』富士見町
- 小林公明 2001 「眼を戴く土器」『山麓考古』19
- 小林公明 2011 「土器図像の研究」『藤内』富士見町教育委員会
- 小林公明 2014 「藤内遺跡の土器図像の研究 続篇」『山麓考古』21

- 小林達雄 1986 「文様が語る縄文人の世界観」『日本古代史3 宇宙への祈り』集英社
- 小林広和 2003 「蛇身捻装飾について」『山梨考古学ノート』田代孝氏退職記念誌刊行会
- 小林広和 2005 「U字蛇頭を冠する突起の類系」『長沢宏昌氏退職記念考古論叢集』長沢宏昌氏退職記念考古論叢集刊行会
- 小松 学 2008 「顔面把手」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 末木 健 2009 「縄文時代の動物・人体文様を解く」『山梨考古学論集IV』山梨県考古学協会
- 末木 健 2010 「縄文中期の抽象文土器」『山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要』26
- 鈴木保彦 1981 「勝坂式土器」『縄文土器大成2 中期』講談社
- 高橋大地 2003 「西南関東地域における勝坂式終末期の土器にみられる地域性—勝坂式から加曾利E・曾利式へ—」『セツルメント研究』4号
- 谷川磐雄 1922～1923 「石器時代宗教思想の一端（一～三）『考古学雑誌』第13巻第4号・5号・8号
- 谷口康浩 1988 「系統解説」『縄文土器大観2』小学館
- 谷口康浩 1994 「勝坂式土器の地域性—土器型式の広域型・漸移型・局地型—」『季刊考古学』第48号
- 寺内隆夫 1987 「五領ヶ台式土器から勝坂式土器へ—型式変遷における一規点—」『長野県埋蔵文化財センター紀要』1
- 寺内隆夫 2014 「立体的な土器装飾への道—縄紋時代中期、勝坂式土器の成立過程—」『長野県立歴史館研究紀要』第20号
- 永瀬史人 2006 「山梨県上野原遺跡出土の人面付土器と蛇体装飾—青山学院大学所蔵の縄紋時代未報告資料—」『青山考古』第23号
- 永瀬史人 2007 「勝坂式土器終末期の蛇体表現」『青山史学』第25号
- 永瀬史人 2008 「動物装飾とS字文」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 長野県立歴史館（水沢教子）2021 『全盛期の縄文土器—圧倒する褶曲文—』
- 中村耕作 2021 「注口土器・香炉形土器の異形化・顔身体化と社会背景」『季刊考古学』第155号
- 中村耕作 2022 「顔身体土器群の展開過程と身体部位表現」『モノ・構造・社会の考古学—今福利恵博士追悼論文集—』今福利恵博士追悼論文集刊行委員会
- 中村日出男 1970～1981 「顔面把手 1～6」『郵政考古』1～4・6・7
- 中山真治 2000 「顔面把手付土器小考」『東京考古』18
- 中山真治 2015 「顔面把手付土器小考2」『東京考古』35
- 中山真治 2005 「勝坂式土器の型式と地域—西関東・中部地方の縄文時代中期中葉を例に」『地域と文化の考古学』六一書房
- 中山真治 2017 「9c～10期の武蔵野・多摩地域の土器類型再考」『研究集会 縄文研究の地平 2017—土器から探る勝坂式と加曾利E式の間』縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会
- 中山真治 2022 「「多喜窪タイプ」の系譜—南関東・中部地方縄文中期中葉の大型4単位把手付土器—」『東京考古』40
- 新津 健 2003 「上の平遺跡出土の動物装飾付土器とその周辺」『山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要』19
- 新津 健 2007a 「土器を飾る猪—山梨を中心とした猪造形の展開—」『山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要』23
- 新津 健 2007b 『猪の文化史 考古編』雄山閣
- 新津 健 2019 「土偶付土器の実態と出現の背景」『縄文時代』第30号
- 野代幸和 2006 「中部高地に分布する縄文土器文様とその意味について—既成概念と民俗事例から—」『考古学の諸相II 坂詰秀一先生古稀記念論文集』匠出版
- 高橋龍三郎 2017 「縄文時代の結社組織」『二十一世紀への考古学』六一書房
- 細田 勝 2023 「多喜窪タイプとその系譜関係」『煙草と縄紋と考古学』土肥孝追悼論集刊行会
- 富士見市立水子貝塚資料館（和田晋治）2010 『縄文土器と動物装飾』
- 富士見市立水子貝塚資料館（和田晋治）2012 『縄文土器と動物装飾2 蛇』
- 藤森栄一 1968 「顔面把手付土器論—縄文農耕肯定論の資料として—」『月刊文化財』16号
- 藤森英二 2006 「縄文時代中期中葉後半における、ある土器の系譜—尖石遺跡蛇体把手土器の子孫達—」『長野県考古学会誌』118号
- 藤森英二 2012 「鉱物分析を利用した縄文時代中期中葉における同一系統土器の伝播経路—尖石蛇体把手土器の子孫達その2—」『長野県考古学会誌』140号
- 三上徹也 1986 「中部・西関東地方における縄文時代中期中葉土器の変遷と後葉土器への移行」『長野県考古学会誌』51
- 三上徹也 2018 「縄文時代中期・顔面様装飾把手の変遷から水煙把手への変質と背景」『日本考古学』45
- 八幡一郎 1956 「縄文式土器の人物意匠について」『考古学雑誌』第41巻第4号
- 吉本洋子・渡辺誠 1994 「人面・土偶装飾付土器の基礎的研究」『日本考古学』第1号



## I. 勝坂式土器の複雑化と西原大塚遺跡出土の顔面把手・蛇体把手付土器

- 吉本洋子・渡辺誠 1999 「人面・土偶装飾付深鉢形土器の基礎的研究（追補）」『日本考古学』第8号  
吉本洋子・渡辺誠 2004 「目鼻口を欠く人面装飾付深鉢形土器」『山梨考古学論集V』山梨県考古学協会  
吉本洋子・渡辺誠 2005 「人面・土偶装飾付深鉢形土器の基礎的研究（追補2）」『日本考古学』第19号  
和田晋治 2011 「縄文中期勝坂式土器の猪装飾」『あらかわ』第13号  
和田晋治 2012 「縄文中期勝坂式土器の猪装飾（追補）」『あらかわ』第14号  
和田晋治 2022 「縄文中期勝坂式期の土偶装飾付土器」『富士見市立資料館調査研究報告』第1号  
渡辺 誠 1992 「縄文土器の形と心」『月刊考古学ジャーナル』No.346

## 図版出典

- 第216図 1：塩尻市教委1979『小段遺跡』（掲載図を合成） 2：長野県教委1975『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 昭和49年度（諏訪市その3）』 3：同1974『同 昭和48年度（上伊那郡辰野町その2）』 4：箕輪町1986『箕輪町誌 歴史編』 5：岡谷市教委2005『目切・清水田遺跡』 6：尖石考古館1976『尖石考古館図録』 7：山形村教委1987『殿村遺跡』 8：箕輪町教委1990『丸山遺跡』 9・19・21：井戸尻考古館2019『井戸尻の縄文土器7』 10：伊那市教委1969『月見松遺跡緊急発掘調査報告書』 11：岡谷市教委1991『榎垣外・広畑・新井南遺跡発掘調査報告書（概報）』 12：佐野隆1997「平林遺跡」『八ヶ岳考古一平成8年度年報一』 13：千葉県文化財センター2002『茂原市川代遺跡』 14：東京都建設局府中市遺跡調査会1985『清水が丘遺跡』 15：塩尻市教委1986『俎原遺跡』 16・23・41：吉本・渡辺1994 17：相模原市立博物館2019『大日野原遺跡資料調査報告書』 18：塩山市1996『塩山市史 史料編』第1巻 20：山梨県埋文1998『甲ヶ原遺跡IV』 22：かながわ考古学財団2002『原口遺跡III』 24：山梨県埋文2005『酒呑場遺跡 第1-3次遺物編』 25：同2000『古堰遺跡・大林上遺跡・宮の前遺跡・海道前C遺跡・大林遺跡』 26：塩尻市教委2015『史跡平出遺跡』 27：山梨県埋文2005『原町農業高校前遺跡第2次』 28：北杜市教委2009『向原遺跡』 29：武相文化財研究所2016『神奈川県厚木市温水上原遺跡 第2地点』 30：川合剛1998「名古屋博物館所蔵の土偶関係資料」『名古屋市立博物館研究紀要』21 31・39：北杜市教委2020『南沢遺跡』 32：須玉町教委1987『津金御所前遺跡』 33：北杜市教委2016『竹宇1遺跡』 34：長野県埋文1999『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書20』 35：長野県埋文2024『沢尻東原遺跡』 36：横浜市埋文2000『大熊仲町遺跡』 37：茅野市教委2003『梨ノ木遺跡』 38：渡辺忠胤1963「八王子市中原遺跡調査報告」『多摩考古』5 40：八王子市柗田遺跡調査会1976『柗田遺跡群 1975年度調査概要』 42：甲野勇1961「顔面土器について」『多摩考古』2 43：松本市教委2018『エリ穴遺跡（第2分冊）』 44：本書 45・46・52：山梨県教委1986『一の沢西遺跡・村上遺跡・後呂遺跡・浜井場遺跡』 47：中道町教委2000『供養寺遺跡・後呂遺跡』 48：山梨県埋文1996『九鬼II遺跡』 49・56：同1987『釈迦堂II』 50：同1987『釈迦堂III』 51：相武考古学研究所1993『田名塩田原地区遺跡群 田名花ヶ谷戸遺跡（資料編）』 53：財団法人山梨文化財研究所2008『天神堂遺跡』 54：鳥居龍蔵1926『先史及び原史時代の上伊那』 55：長野県考古学会1967『海戸・安源寺』 57：裾野市1992『裾野市史』第1巻（掲載図を合成） 58：和光市教委2015『吹上原遺跡（第2次A区から第6次）』 59：山梨県埋文2019『上コブケ遺跡E区』  
第217図 1・5・7・9：富士見町教委2011『藤内』 2：井戸尻考古館2017『井戸尻の縄文土器6』 3：前掲 第216図 25 4：東京都埋文1998『多摩ニュータウン遺跡 No.72・795・796遺跡（17）』 6：山梨県教委1972『重郎原遺跡』 8：八王子市宇津木台地区遺跡調査会1989『宇津木台遺跡群XIII（上）』  
第218図 1～9・11・16～18 前掲 10：国分寺市1986『国分寺市史 上』、山内清男編1964『日本原始美術1』 12：長泉町教委1990『上山地遺跡』 13：山梨文化財研究所2008『天神堂遺跡』 14：青梅市遺跡調査会1998『東京都青梅市駒木野遺跡発掘調査報告書』 15：岡谷市教委1996『花上寺遺跡』 19：長野県埋文2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書19』  
第219図 1：茅野市教委2022『国特別史跡尖石石器時代遺跡総括報告書』 2：昭島市教委1986『西上遺跡II（第4次～6次調査）』 3：志木市遺跡調査会2009『西原大塚遺跡』 4：山梨県教委1978『安道寺遺跡調査報告書』 5：上川名昭1971『甲斐北原・柳田遺跡の研究』 6：西桂町教委1993『宮の前遺跡』 7：山梨県埋文1989『一の沢遺跡調査報告書』 8：小林2003 9：山梨県埋文1987『上の平遺跡第4次・第5次』 10：清瀬市教委1982『野塩前原』 11：井戸尻考古館・田枝幹宏1988『八ヶ岳縄文世界再現』新潮社 12：前掲 第216図 25 13：富士見町教委1978『曾利』 14：駒ヶ根市教委1977『丸山南遺跡』・国立歴史民俗博物館1996『動物とのつきあい』 15：厚木市1985『厚木市史 地形地質編・原始編』  
第221図 1：かながわ考古学財団2001『田中・万代遺跡』 2・3・7：伊藤公明2011「寺所第2遺跡出土の人獣意匠装飾土器」『山梨県考古学協会誌』20 4：原村教委2005『比丘尼原遺跡（第2次発掘調査）』 5：櫛形町教委1994『鋳物師屋遺跡』 6：岡谷市教委2009『梨久保遺跡』 8：山梨文化財研究所2005『高畑遺跡』 9：藤森栄一編1965『井戸尻』 10：前掲 第219図 13

## Ⅱ. ガラス小玉蛍光 X 線分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

分析に供された試料は、埼玉県志木市西原大塚遺跡第 35 地点の方形周溝墓の主体部から出土したガラス製小玉である。本報告は、この試料に関して情報を得ることを目的として、ガラス製小玉に蛍光 X 線分析を実施する。

### 1. 試料

試料は、ガラス小玉 7 点である (第 181 図 6 ~ 12)。

### 2. 分析方法

#### (1) 蛍光 X 線分析

日本電子 (株) 製エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (JSX-1000S) を利用し、Rh 管球、管電圧：50kV、管電流：自動、測定時間：300 秒 (live time)、コリメーター：2mm  $\phi$ 、真空雰囲気の中で元素分析を実施した。なお、本装置は下面照射型の装置であるため、分析にあたっては試料を薄膜 (プロレンフィルム, 4  $\mu$  m (chemplex CatNo.426)) を底部に張った試料カップで保持して測定を実施した。取得した特性 X 線スペクトルは元素定性を実施した後、成分形態を酸化物とした条件で FP 法 (ファンダメンタルパラメーター法) を用いたスタンダードレス分析によって相対含有率 (質量%) を求めたが、算出された結果はあくまでも半定量的なものであることに留意されたい。

### 3. 結果

#### 蛍光 X 線分析

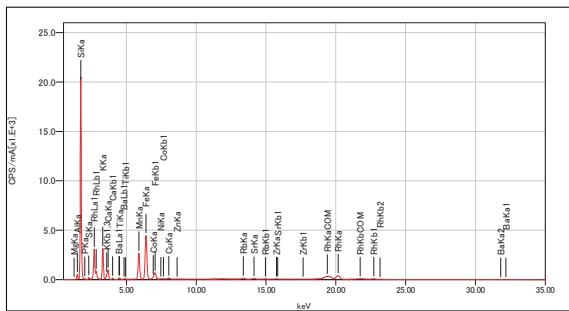
蛍光 X 線スペクトルを第 225 図に掲げ、FP 法による定量結果を第 93 表に示す。

各試料から検出された元素は、Mg (マグネシウム)、Al (アルミニウム)、Si (ケイ素)、P (リン)、S (硫黄)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Mn (マンガン)、Fe (鉄)、Co (コバルト)、Ni (ニッケル)、Cu (銅)、Zn (亜鉛)、Rb (ルビジウム)、Sr (ストロンチウム)、Zr (ジルコニウム)、Ba (バリウム) の 18 元素である。酸化物換算した場合の質量百分率 (質量%) によれば、およそ SiO<sub>2</sub> が 80%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 3 ~ 5% 程度、K<sub>2</sub>O が 6 ~ 10% を占める。また、MnO と Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 2% 前後含まれるほか、CoO が 0.05 ~ 0.11% 検出されている点にも特徴が見られる。

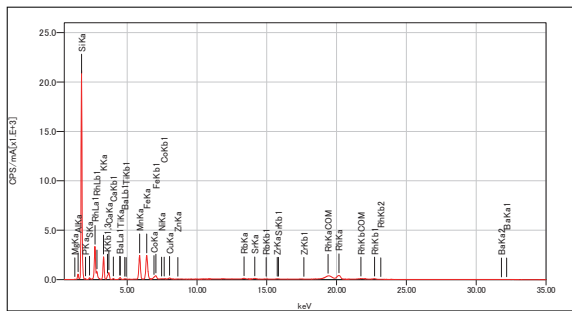
なお、本調査では網目形成酸化物である SiO<sub>2</sub> や、修飾酸化物となり得る K<sub>2</sub>O、CaO、また中間酸化物となり得る Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 等について一応の定量は行ってはいるものの、基本的に表面風化層の除去を行っていないため本来の材質を反映した結果とは成り得ていないことに留意しておく必要がある。

### 4. 考察

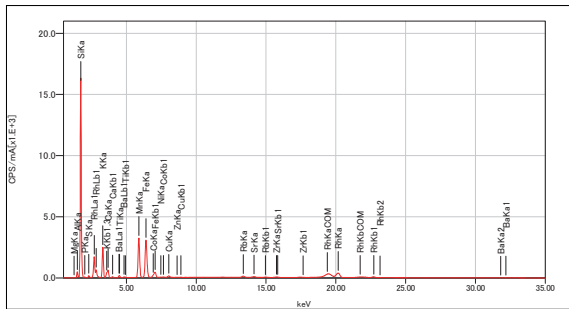
ガラスは珪酸原料に融剤および着色剤を調合し、熔融・冷却という過程を経て製品となるが、肥塚 (1995,1999,2001) によれば融剤の種類によってアルカリ珪酸塩ガラス、鉛珪酸塩ガラス、アルカリ鉛珪酸塩ガラスのグループに分類され、さらに構成酸化物の種類と量から、アルカリ珪酸塩ガラスは  $K_2O-SiO_2$  系・ $Na_2O-CaO-SiO_2$  系・ $K_2O-CaO-SiO_2$  系・ $Na_2O-Al_2O_3-CaO-SiO_2$  系・ $(Na_2O/K_2O)-CaO-SiO_2$  系に、鉛珪酸塩ガラスは  $PbO-SiO_2$  系・ $PbO-BaO-SiO_2$  系に、アルカリ鉛珪酸塩ガラスは  $K_2O-PbO-SiO_2$  系に分類される。また、肥塚 (1999) はガラスの風化表面と内部新鮮面を調査し、風化による成分変動を検討し、 $K_2O-SiO_2$  系や  $K_2O-PbO-SiO_2$  系では風化表面で  $K_2O$  が減少し、 $SiO_2$  および  $Al_2O_3$  の増加 ( $K_2O-SiO_2$



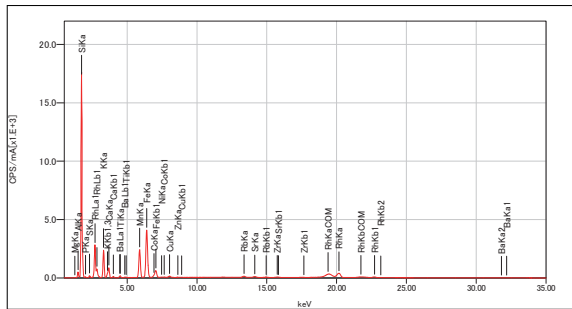
ガラス製小玉 6



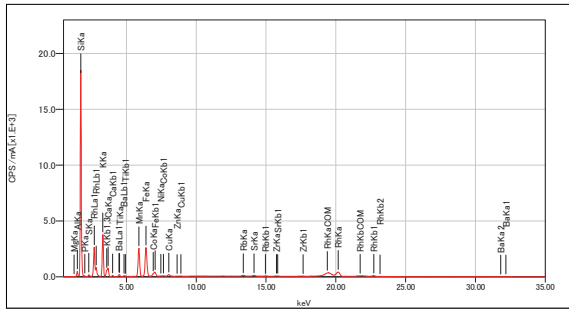
ガラス製小玉 7



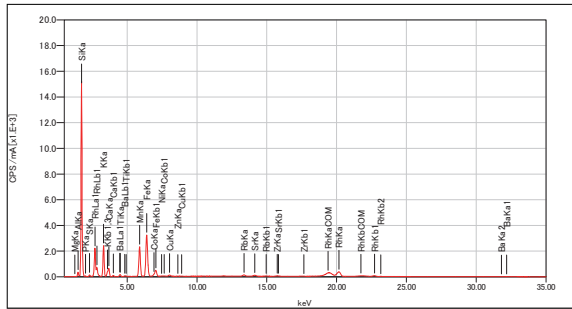
ガラス製小玉 8



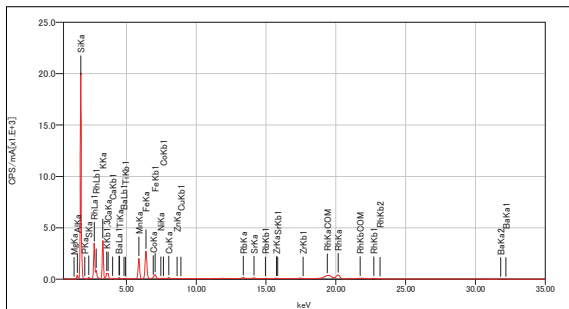
ガラス製小玉 9



ガラス製小玉 10



ガラス製小玉 11



ガラス製小玉 12

第 225 図 蛍光 X 線スペクトル

| 試料名              | 6                              | 7      | 8      | 9      | 10     | 11     | 12     |        |
|------------------|--------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 色                | 紺色                             | 紺色     | 紺色     | 紺色     | 紺色     | 紺色     | 紺色     |        |
| 透明度              | 透明                             | 透明     | 透明     | 透明     | 透明     | 透明     | 透明     |        |
| FP 定量結果 (質量%)    | MgO                            | 0.486  | 0.458  | 0.471  | 0.533  | 0.407  | 0.451  | 0.388  |
|                  | Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | 4.162  | 4.323  | 4.862  | 4.501  | 4.091  | 3.629  | 2.911  |
|                  | SiO <sub>2</sub>               | 79.880 | 83.700 | 79.230 | 80.160 | 78.520 | 80.000 | 81.450 |
|                  | P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>  | 0.378  | 0.363  | 0.347  | 0.414  | 0.342  | 0.302  | 0.201  |
|                  | SO <sub>3</sub>                | 0.510  | 0.410  | 0.427  | 0.520  | 0.452  | 0.433  | 0.419  |
|                  | K <sub>2</sub> O               | 7.680  | 5.819  | 7.545  | 6.683  | 10.080 | 7.995  | 9.783  |
|                  | CaO                            | 2.001  | 1.471  | 1.588  | 2.041  | 1.771  | 1.829  | 1.195  |
|                  | TiO <sub>2</sub>               | 0.186  | 0.174  | 0.213  | 0.207  | 0.178  | 0.208  | 0.152  |
|                  | MnO                            | 1.763  | 1.576  | 2.676  | 1.847  | 1.951  | 2.127  | 1.452  |
|                  | Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | 2.574  | 1.323  | 2.139  | 2.706  | 1.668  | 2.548  | 1.690  |
|                  | CoO                            | 0.070  | 0.075  | 0.089  | 0.075  | 0.108  | 0.075  | 0.054  |
|                  | NiO                            | 0.010  | 0.011  | 0.011  | 0.010  | 0.012  | 0.010  | 0.010  |
|                  | CuO                            | 0.042  | 0.038  | 0.055  | 0.044  | 0.059  | 0.047  | 0.036  |
|                  | ZnO                            | 0.006  | 0.004  | 0.005  | 0.007  | 0.006  | 0.006  | 0.004  |
|                  | Rb <sub>2</sub> O              | 0.019  | 0.012  | 0.022  | 0.020  | 0.017  | 0.025  | 0.017  |
|                  | SrO                            | 0.015  | 0.012  | 0.016  | 0.016  | 0.018  | 0.020  | 0.014  |
| ZrO <sub>2</sub> | 0.007                          | 0.005  | 0.010  | 0.007  | 0.006  | 0.008  | 0.008  |        |
| BaO              | 0.212                          | 0.226  | 0.298  | 0.207  | 0.312  | 0.289  | 0.222  |        |

第93表 ガラス製小玉のFP 定量結果

系) ないし PbO の増加 (K<sub>2</sub>O-PbO-SiO<sub>2</sub> 系) する傾向が、Na<sub>2</sub>O-CaO-SiO<sub>2</sub> 系や Na<sub>2</sub>O-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-CaO-SiO<sub>2</sub> 系では風化表面で Na<sub>2</sub>O が減少し、SiO<sub>2</sub>、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が増加する傾向があることを指摘している。

調査試料は、いずれもアルカリ珪酸塩ガラスに区分される材質で、修飾酸化物である K<sub>2</sub>O が多く、CaO は 1～2% で、Na<sub>2</sub>O は検出されていない点からカリガラス (K<sub>2</sub>O-SiO<sub>2</sub> 系) と判断される。なお、カリガラスは K<sub>2</sub>O と SiO<sub>2</sub> を主成分とした二成分系のガラスであり、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> を数% 含有し、Na<sub>2</sub>O および CaO を 1～2% 前後以下しか含有しない特徴を持つガラスで、K<sub>2</sub>O は平均で約 17% である(肥塚, 2001)。調査試料における K<sub>2</sub>O は 6～10% と少ない傾向にあるが、カリガラスでは風化表面で K<sub>2</sub>O が減少し、SiO<sub>2</sub> や Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が増加する傾向があるため(肥塚 1999)、元々の K<sub>2</sub>O はより多く、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> はより少ない可能性がある。

一方、これらガラス製小玉は紺色を呈したガラスで、微量の CoO が認められている。コバルトイオンによって着色されたカリガラスには、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> と MnO が 1% 以上含有される特徴があることも含めると、これら試料の発色にはコバルトの寄与が指摘されよう。

#### 引用文献

- 肥塚隆保 1995 「古代ガラスの材質」『古代に挑戦する自然科学』クバプロ 94-108.
- 肥塚隆保 1999 「出土遺物の材質調査 - 日本で出土した古代ガラスの研究 -」『理学電気ジャーナル』30,1 理学電気工業 33-40.
- 肥塚隆保 2001 「古代ガラスの材質と鉛同位体比, 同位体・質量分析法を用いた歴史資料の研究」『国立歴史民族博物館研究報告』第 86 集 財団法人歴史民族博物館振興会 233-268.



